

授業概要

syllabus

■ 2024 年度

奥羽大学

歯学部

授業概要

syllabus

2024年度

歯学部の学生諸君へ

歯学部長 瀬川 洋

1) はじめに

奥羽大学は「高度な専門知識と技術を備えた人間性豊かな人材を育成する」を理念とし、教育基本法並びに学校教育法に基づき、広く知識を養うと共に、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を育成し、国民の福祉と文化の発展に寄与することとしています。

歯学部は「高度な専門知識と技術を備えた人間性豊かな歯科医師を養成する」ことを目的として、以下の点を教育目標にあげています。

- ・医療人に求められる幅広い教養、社会性及び倫理観を涵養する。
- ・歯科医療に求められる高度な専門知識及び技能を習得する。
- ・医療の場において自ら問題を発見し解決していく能力を身に付ける。
- ・生涯にわたり歯科医師としての自己開発に努める習慣を身に付ける。
- ・医療、保健、福祉において他の医療人と協調・連携する能力を研鑽する。

2) 2024年度奥羽大学歯学部教育カリキュラムの概要

奥羽大学歯学部は「歯科医学教授要綱」及び「歯学教育モデル・コア・カリキュラム」並びに「歯科医師国家試験出題基準」に則った、6年一貫とした教育カリキュラムを組んでいます。さらに自らが課題を発見し、自らあるいは他者と協同してその解決に取り組み、課題発見解決能力を有する歯科医師を育成します。

歯学部の目的を実践する「歯科医療人間学」において基本的なコミュニケーションや日常習慣の重要性を認識する態度、知識及び技能を修得するための教育を行います。また、各科目の到達目標に対して学生間に差が生じないよう、目標達成度の低い学生を対象に少人数で強化的に学修する「科目選択ゼミナール」や生涯にわたり歯科医師として自己開発に努める習慣を身に付けるために学生が主体的に興味を持つ分野を自ら選択し、当該分野に出向して学修できる「エレクティブ・スタディ」を取り入れています。さらに東日本大震災を経験・被災した大学として、災害時の医療体制・歯科的個人識別など災害発生時の歯科医師の役割を学び、大規模災害などに際して、社会貢献できる歯科医師を育成することを目標に「災害歯科医学」を設けています。

第1学年では、初年度教育の充実を図り、「理数系科目」と「日本語学」及び「歯科医学教育」を教育します。また「総合演習1D」を設け、多職種連携・多職種協働の意識を芽生えさせます。

第2学年では、教養系科目から専門系科目への移行教育の充実を図り、「情報リテラシー」と「基礎歯学概論」を充実すると共に、「総合演習2D」を設け、教養科目と基礎科目の再度教育を行います。

第3学年では、基礎系科目から臨床系科目への移行教育の充実を図り、「口腔内科学」を設けると共に「総合演習3D」を設け、基礎科目と臨床科目の再度教育を行います。

第4学年では、共用試験のための準備教育の充実を図り、「高齢者歯科学」と「障害者歯科学」を設けると共に、「総合演習4D」を設け、基礎科目と臨床科目の再度教育を行います。

第5学年では、臨床実習教育の充実を図り、診療参加型臨床実習で「歯学教育モデル・コア・カリキュラム」の必須項目を明確にします。また、臨床実習期間は4月から翌年の3月までの1年間とし、「Evidence research 研修」と「Medical Team 研修」の充実および介護老人保健施設、特別養護老人ホーム、障がい者支援施設での「学外研修」を実施します。

第6学年では、歯学総合教育と歯科医師国家試験準備教育の充実を図ります。歯科医師国家試験の合格を目指して「臨床総合講義」を設けると共に、各々の学生が自分の到達目標を段階的かつ具体的に自覚できるように、学修計画表を作成します。毎月「実力確認」と「確認試験」を実施し、全員が卒業試験及び歯科医師国家試験の合格圏内を目指すことを毎月の到達目標とします。また、「フィードバック学修」と「個別指導」を行います。

学生諸君は、本学の理念・目標を理解し、この授業概要を熟読して頂きたいと思います。そして、歯科医療を通じて地域の発展と向上に貢献できる人間性豊かな歯科医師になるという強い自覚を持って日々の学業に励み、有意義で充実した大学生活を送ることを願っています。

目 次

◆ディプロマポリシー	1
◆アドミッションポリシー	2
◆カリキュラムポリシー	3
◆カリキュラムマップ	4
◆歯学部教務日程	5
◆カレンダー	6
◆時間割表	11
◆カリキュラム表	14
◆科目ナンバリング（ユニバ No.）	16
◆アセスメントポリシー	17
◆オフィスアワーについて	18
◆歯科口腔治療学実習・臨床総合演習・臨床実習担当教員	20

I. 規程

1. 学則（抜粋）	21
2. 奥羽大学試験規程	27
3. 奥羽大学歯学部卒業試験規程	28
4. 奥羽大学GPA制度に関する規定	28
5. 不正行為者の懲戒処分に関する内規	29
6. 奥羽大学歯学部臨床実習規程	29
7. 奥羽大学歯学部臨床実習に関する不正行為に対する処罰内規	30
8. 歯学部特待生について	31

II. 遵守事項

1. 学籍について	32
1) 修業年限及び在学年限	32
2) 休学	32
3) 復学	32
4) 退学	32
5) 除籍	32
6) 再入学	32
7) 卒業証書及び学位の授与	32
2. 履修の概要	33
1) 授業科目の区分	33
2) 授業時間	33
3) 掲示	33
4) 休講	33
5) 補講	33
6) 出席日数	33
7) 講義・演習・実習などに対する準備	33
8) 講義・演習・実習などが終了した後の復習	33
3. 試験と成績評価	34
1) 定期試験	34
2) 総合試験	34
3) 追試験	34
4) 再試験	34
5) 受験上の注意事項	34
6) レポートの提出	35
7) 成績評価	35
4. 各試験の受験資格、評価の要件、進級および卒業判定	36
1) 第1～4学年の定期試験の受験資格と実習評価の要件	36
2) 第5学年臨床実習の各期の終了試験の受験資格と実習評価の要件	36
3) 総合試験、共用試験、卒業試験の受験資格	36
4) 進級および卒業条件	36

III. 授業概要

学年別授業計画

◆歯学教育モデル・コア・カリキュラム
◆歯科医師国家試験出題基準

IV. 構内案内図

【理 念】

高度な専門知識と技術を備えた人間性豊かな人材を育成する。

【目 的】

奥羽大学は、教育基本法（平成18年12月22日法律第120号）並びに学校教育法（昭和22年3月31日法律第26号）に基づき、広く知識を養うと共に、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を育成し、国民の福祉と文化の発展に寄与することとし、各学部のその目的は、次の各号のとおりとする。

- (1) 歯学部は、高度な専門知識と技術を備えた人間性豊かな歯科医師を養成することを目的とする。
- (2) 薬学部は、高度な専門知識と技術を備えた人間性豊かな薬剤師を養成することを目的とする。

(教育目標)

歯学部

- ・医療人に求められる幅広い教養、社会性及び倫理観を涵養する。
- ・歯科医師に求められる高度な専門知識及び技能を習得する。
- ・医療の場において自ら問題を発見し解決していく能力を身につける。
- ・生涯にわたり歯科医師としての自己開発に努める習慣を身につける。
- ・医療、保健、福祉において他の医療人と強調・連携する能力を研鑽する。

奥羽大学歯学部3ポリシー

ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与に関する基本的な方針）

歯学部は、本学の目的と教育目標とに基づく教育課程を通じて、以下のような能力を身に付け、かつ所定の単位を修得し、卒業試験に合格した者に対し卒業証書を授与し、卒業した者に対し学士（歯学）の学位を授与します。

1. 倫理とコミュニケーション

- ・患者の立場や背景を理解し、思いやりを持った言動ができる。
- ・患者との良好な関係を構築し、自己決定の権利の尊重と個人情報の厳守ができる。

2. 探求力と解決力

- ・医療に対して社会や環境が求めるニーズや問題を探求し、迅速かつ的確に解決できる。

3. 病態解析と治療概念

- ・病態を解析し、治療の要素を把握できる。

4. 知識と診断

- ・歯科口腔疾患を診断し、適切な治療計画を立案できる。

5. 技能と治療

- ・歯科医療技術を身に付け、先進的で高度な歯科医療を実施できる。

6. 奥羽プロフェッショナリズム

- ・超高齢社会の問題と課題を分析し、ニーズを抽出して解決策を立案できる。
- ・地域特性を踏まえた医療連携を構築し、他職種とともに包括医療を実践できる。
- ・生涯にわたり歯科医師としての自己研鑽に努めることができる。

アドミッションポリシー（入学者受入れの方針）

本学の建学の理念は「高度な専門知識と技術を備えた人間性豊かな人材を育成する」です。医療従事者は医学的知識や医療技術の修得にとどまらず、人間性と道徳観や倫理観を持って他者とのコミュニケーション能力を高め良好な人間関係を築くことが大切です。また、社会環境の変化やニーズに対応するために、自ら課題を探求して解決する能力や多職種連携に関わる知識と応用力も必要になります。さらに、人として他者を尊重し思いやる心と生涯にわたり歯科医師を貫く強い志を持ち、社会に貢献できる歯科医師を目指すことが必要となります。

歯学部では、次のような資質を備えた入学者を求めています。

求める人物像

1. 国民の健康の保持・増進に役立ちたいという志を持っている。
2. 生命を尊重し他者を思いやる心を持っている。
3. 地域医療を支える意識を持っている。
4. 歯科医師という職業に魅力を感じ、その仕事に携わりたいという強い希望と意欲を持っている。
5. 歯科医師として、生涯にわたって自己研鑽を続けるための強い意志を持っている。

入学前に身に付けていることが望まれる知識など

1. 入学後の学修に必要な基礎学力（国語、英語、数学、理科）を有している。
2. 基本的なコミュニケーション能力を発揮するための基礎的な知識・態度を有している。

入試区分別アドミッションポリシー

・総合型選抜入学試験

歯学部のアドミッションポリシーに加えて、下記の資質を有する入学者を求めます。

1. 歯科医療を通して社会に貢献したいという強い意欲がある。
2. 将来、自らが目指す歯科医師像が明確である。

・同窓特別入学試験

歯学部のアドミッションポリシーに加えて、下記の資質を有する入学者を求めます。

1. 本学歯学部の教育環境を十分に理解している。
2. 将来、自らが目指す歯科医師像が明確である。

・学校推薦型選抜入学試験

歯学部のアドミッションポリシーに加えて、下記の資質を有する入学者を求めます。

1. 本学で歯科医学を学ぶことを強く希望している。
2. 歯科医療を通して社会に貢献したいという強い意欲がある。

・特待生選抜入学試験

歯学部のアドミッションポリシーに加えて、下記の資質を有する入学者を求めます。

1. 特に理数系科目と英語において、優れた学力水準にある。
2. 指導的立場に立って歯科医学・歯科医療を支える意識を強く持っている。

・一般選抜入学試験

歯学部のアドミッションポリシーに合致する入学者を求めます。

・社会人特別入学試験（1年次）

歯学部のアドミッションポリシーに加えて、下記の資質を有する入学者を求めます。

1. 歯科医療を通して社会に貢献したいという強い意欲がある。
2. 将来、自らが目指す歯科医師像が明確である。

・編入学試験（2・3・4年次編入）

歯学部のアドミッションポリシーに加えて、下記の資質を有する入学者を求めます。

1. 歯科医師になりたいという強い希望を持っている。
2. 本学で歯科医学を学ぶことを強く希望している。
3. 歯科医療を通して社会に貢献したいという強い意欲がある。

カリキュラムポリシー（教育課程の編成・実施の方針）

ディプロマポリシーに掲げる知識・技能・態度などの能力を修得するために、歯学部では6年一貫とした以下の方針でカリキュラムを編成しています。

1. 人間性豊かで優れた歯科医師を育成するために、大学で学ぶ目的を明確化し、医療人としてのコミュニケーションに必要な基本的態度・知識・技能を修得する必要があり、第1学年～第3学年では、この一貫した共通目標を持たせた「歯科医療人間学」を設けています。また患者の立場と背景を理解し道徳観や倫理観を涵養するために、第1学年と第2学年で「リベラルアーツ」を履修します。さらに医療に対するニーズや問題を探求し、それを解決する力を身に付けるために、第1学年～第3学年では、アーリーエクスポージャーを踏まえた「医学概論」を取り入れています。
2. 生涯にわたり歯科医師として自己開発に努める習慣を身に付けるために、第1学年～4学年では、学年や基礎、臨床を問わず学生自身が興味を持つ分野を選択し出向して学修できる「エレクティブ・スタディ」を取り入れています。
3. 各学年における総合的な知識を確認するために、第1学年では総合試験1D、第2学年では総合試験2D、第3学年では総合試験3D、第4学年ではCBT、OSCE、第5学年では第I・II・III・IV期終了試験、総合試験5Dを行います。また、第1学年～第3学年の履修科目では、各科目の到達目標に対して学生間に差が生じないよう、目標達成度の低い学生を対象に少人数で強化的に学修する「科目選択ゼミナール」を取り入れています。
4. 歯科口腔疾患の病態の解析と治療概念を把握し、診断と適切な治療計画を立案するために、第1学年と第2学年では「理科」、第2学年と第3学年では基礎系科目による「歯科基礎医学」と「歯科基礎病態学」、第3学年と第4学年では臨床系科目による「歯科口腔病態学」と「歯科口腔治療学」、第4学年では「歯科口腔診断学」を履修するように編成しています。これにより第1学年～第4学年で履修する理科、基礎系科目、臨床系科目が順に取り組めます。
5. 先進的で高度な歯科医療技術を身に付け、さらに超高齢社会のニーズに対応し、地域特性を踏まえた包括医療を実践するプロフェッショナルになるために、第5学年では臨床実習（診療参加型）と基礎系科目を再度履修するためのEvidence research研修、他職種連携を学ぶためのMedical Team研修や介護老人保健施設、特別養護老人ホームおよび障がい者支援施設での学外研修を取り入れています。
6. 歯科医師になるために必要な知識と技能を再確認するために、第6学年では歯科医師国家試験出題基準に則った授業時間を各科目に割り当て、臨床総合講義を行います。

カリキュラムマップ

デイブローマ		1.倫理とコミュニケーション	2.探求力と解決力	3.病態解析と治療概念	4.知識と診断	5.技能と治療					
		<ul style="list-style-type: none"> 患者の立場や背景を理解し、思いやりを持った言動ができる。 患者の自己決定権を尊重し、個人情報を厳守できる。 		<ul style="list-style-type: none"> 医療に対して社会や環境が求められるニーズや問題を探求し、迅速かつ的確に解決できる。 		<ul style="list-style-type: none"> 病態を解析し、治療の要素を把握できる。 		<ul style="list-style-type: none"> 歯科口腔疾患を診断し、適切な治療計画を立案できる。 		<ul style="list-style-type: none"> 歯科医療技術を身につけ、先進的で高度な歯科医療を実施できる。 	
第1学年		リベラルアーツ 美術・英語基礎・日本語学Ⅰ・心理学	英語Ⅰ 経営学 統計数理学 情報リテラシーⅠ	医学概論 臨床心理学・医療倫理学 臨床歯学概論・歯科医療概論・歯科医学演習	基礎歯学概論Ⅰ	理 科 基礎物理学・物理学実験 基礎化学・化学実験 基礎生物学・生物学実験					
		朝礼・H.R				ES (エレクティブスタディー)					
第2学年		リベラルアーツ 英語Ⅱ・情報リテラシーⅡ・社会学・日本語学Ⅱ	歯科医療人間学Ⅱ 朝礼	解剖学実習・口腔解剖学実習・口腔組織学実習・口腔生理学実習	医学概論 基礎歯学概論Ⅱ	理 科 物理学・化学・生物学 歯科基礎医学 解剖学・口腔解剖学 口腔組織学・口腔生理学Ⅰ 口腔生化学Ⅰ・公衆衛生学					
					歯科基礎病態学 口腔感染免疫学Ⅰ・歯科薬理学Ⅰ・生体材料／歯科材料学Ⅰ	総合演習2D／科目選択セミナー					
第3学年		医学概論 社会歯科学・歯科医療管理学	歯科医療人間学Ⅲ 朝礼	総合臨床医学・保存修復学Ⅰ・冠橋義歯補綴学Ⅰ 有床義歯補綴学Ⅰ・災害歯科医学・高齢者歯科学 口腔内科学・口腔外科学Ⅰ・歯科放射線学Ⅰ	歯科基礎医学 口腔生理学Ⅱ 口腔生化学Ⅱ・口腔生化学実習 口腔衛生学・口腔衛生学実習	歯科基礎病態学 口腔病理学・口腔病理学実習					
				総合臨床医学・保存修復学Ⅱ・冠橋義歯補綴学Ⅱ 有床義歯補綴学Ⅱ・口腔内科学Ⅱ・口腔外科学Ⅱ 歯科矯正学・小児歯科学・歯科放射線学Ⅱ	歯科基礎治療学 口腔感染免疫学Ⅱ・口腔感染免疫学実習 歯科薬理学Ⅱ・歯科薬理学実習 生体材料／歯科材料学Ⅱ・生体材料／歯科材料学実習	歯科基礎病態学 口腔病理学・口腔病理学実習					
第4学年		朝礼		臨床総合演習	歯科口腔病態学 有病者歯科学・歯科麻醉学	歯科口腔治療学 保存修復学実習・歯内療法実習・歯周病学実習 冠橋義歯補綴学実習・有床義歯補綴学実習・口腔インプラント学 高齢者歯科学Ⅱ・口腔外科学Ⅱ・口腔外科学Ⅲ 歯科矯正学・小児歯科学・歯科放射線学Ⅱ					
				総合演習4D		歯科口腔治療学 保存修復学実習・歯内療法実習・歯周病学実習 冠橋義歯補綴学実習・有床義歯補綴学実習・口腔インプラント学実習 歯科矯正学実習・小児歯科学実習					
第5学年		朝礼		臨床実習	総合試験5D	6. 奥羽プロフェッショナリズム ・超高齢社会の問題と課題を分析し、ニーズを抽出して解決策を立案できる。 ・地域特性を踏まえた医療連携を構築し、他職種とともに包括医療を実践できる。 ・生涯にわたり歯科医師としての自己研鑽に努めることができる。					
第6学年		朝礼		臨床総合講義	卒業試験						
					歯科臨床研修						

2024年度 歯学部教務日程

学期	月 日	1年	2年	3年	4年	5年	6年		
前期	4月 4日(木) 5日(金) 8日(月) 9日(火) 10日(木) 29日(月)～5月5日(日)	入学式(編入学生含む)・オリエンテーション オリエンテーション 在学生ガイダンス・登院式(5年)	前期講義開始			臨床実習開始	ガイダンス 第1回実力試験 前期講義開始		
	10日(金) 30日(木)(予定)	慰靈式(2年)		特別休業		第2回実力試験			
	8日(土)・9日(日)(予定)	奥羽祭							
	6月 14日(金) 24日(月) 27日(木)					I期終了試験	第3回実力試験 模擬試験0 第4回実力試験		
	18日(木) 26日(金) 27日(土)～8月18日(日)	前期講義終了 夏季休業				夏季休業			
	9日(金)～18日(日) 10日(土)～18日(日) 19日(月)～27日(火)	夏季定期試験				夏季休業			
	23日(金) 26日(月) 28日(水)(予定)					CPX			
	30日(金)	在学生ガイダンス(1～4年)／前期追・再試験該当者発表							
後期	9月 2日(月) 3日(火) 9日(月) 10日(火)・11日(水) 17日(火)・18日(水) 26日(木) 30日(月)～12月23日(月)	後期講義開始 前期追・再試験受験手続日				II期終了試験	第5回実力試験 模擬試験1 模擬試験2 国試願書作成説明会		
	10月 15日(火) 22日(火)・23日(水)					第6回実力試験 模擬試験3			
	11月 7日(木)・8日(金) 14日(木)・15日(金) 18日(月)					III期終了試験	模擬試験4 第1回卒業試験		
	12月 日() (未定) 13日(金) 14日(土)～1月7日(火)	前期追・再試験 後期講義終了 冬季休業				CBT 模試			
	17日(火)・18日(水) 19日(木)・20日(金) 24日(火)・25日(水) 26日(木)～1月7日(火) 28日(土)～1月7日(火)					第2回卒業試験 模擬試験5 模擬試験6 冬季休業			
	1月 8日(水)・9日(木) 10日(金) 14日(火)～21日(火)	冬季休業 後期定期試験				冬季休業			
	17日(金) 24日(金) 27日(月)					第3回卒業試験 卒業予定者発表			
	29日(水)～2月5日(木)	後期追・再試験該当者発表／追・再試験受験手続日 後期追・再試験							
	2月 1日(土)・2日(日)(未定) 7日(金) 10日(月) 12日(水)					CBT 再試 IV期終了試験			
	14日(金) 18日(火) 19日(木)	総合試験1～5D 総合試験1～5D追・再試験該当者発表／追・再試験受験手続日				OSCE CSX			
	27日(木)					OSCE課題別再試 CSX再試			
	28日(金)	総合試験1～5D追・再試験							
	3月 10日(月) 18日(火) 19日(木)	卒業証書・学位記授与式 臨床実習終了式				進級予定者発表			

※健康診断は4月中の土曜日に実施予定。受診日時は学部・学年・性別によって指定されます。

※CBT模試の実施について 第1回目は、希望者(主に進級してきた者)のみ自宅PCにて期間限定で受験する。

第2回目は、全員を対象に12/21(木)に薬学部棟で実施する。

1年

CALENDAR
2024～2025

4 APRIL

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

5 MAY

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

6 JUNE

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

7 JULY

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

8 AUGUST

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

9 SEPTEMBER

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

授業コマ数（1年～4年）

	月	火	水	木	金
前期	13+2	15	15	15	15
後期	11+4	15	15	15	15
計	30	30	30	30	30

10 OCTOBER

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

11 NOVEMBER

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

12 DECEMBER

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

1 JANUARY

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

2 FEBRUARY

日	月	火	水	木	金	土
					1	
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	

3 MARCH

日	月	火	水	木	金	土
					1	
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

講 義

進級発表

オリエンテーション
ガイダンス

重複講義日

試 験

4/29～5/5 特別休暇

2年・3年

CALENDAR
2024～2025

4 APRIL

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

5 MAY

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

6 JUNE

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

7 JULY

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

8 AUGUST

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

9 SEPTEMBER

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

授業コマ数（1年～4年）

	月	火	水	木	金
前期	13+2	15	15	15	15
後期	11+4	15	15	15	15
計	30	30	30	30	30

10 OCTOBER

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

11 NOVEMBER

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

12 DECEMBER

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

1 JANUARY

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

2 FEBRUARY

日	月	火	水	木	金	土
					1	
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	

3 MARCH

日	月	火	水	木	金	土
					1	
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

講 義

進級発表

オリエンテーション
ガイダンス

重複講義日

試 験

4/29～5/5 特別休暇

4年

CALENDAR
2024～2025

4 APRIL

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

5 MAY

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

6 JUNE

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

7 JULY

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

8 AUGUST

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

9 SEPTEMBER

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

授業コマ数（1年～4年）

	月	火	水	木	金
前期	13+2	15	15	15	15
後期	11+4	15	15	15	15
計	30	30	30	30	30

10 OCTOBER

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

11 NOVEMBER

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

12 DECEMBER

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

1 JANUARY

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

2 FEBRUARY

日	月	火	水	木	金	土
					1	
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	

3 MARCH

日	月	火	水	木	金	土
					1	
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

講 義

進級発表

オリエンテーション
ガイダンス

重複講義日

試 験

4/29～5/5 特別休暇

5年

CALENDAR
2024～2025

4 APRIL

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

10 OCTOBER

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

5 MAY

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

6 JUNE

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

7 JULY

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

8 AUGUST

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

9 SEPTEMBER

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

11 NOVEMBER

日	月	火	水	木	金	土
						1
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

12 DECEMBER

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

1 JANUARY

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

2 FEBRUARY

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29

3 MARCH

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

臨床実習

試験

進級発表

ガイダンス
登院式

4/29～5/5 特別休暇

6年

CALENDAR
2024～2025

4 APRIL

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

10 OCTOBER

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

5 MAY

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

6 JUNE

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

7 JULY

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

8 AUGUST

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

9 SEPTEMBER

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

11 NOVEMBER

日	月	火	水	木	金	土
						1
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

12 DECEMBER

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

1 JANUARY

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

2 FEBRUARY

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	

3 MARCH

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

講 義

強化講義

卒業発表

試 験

ガイダンス

4/29～5/5 特別休暇

2024年度 歯学部授業時間割 〈第1学年〉 311教室

学期	時限	8:40	1	2	3	4	5	6	7
		8:50	8:50~9:50	10:00~11:00	11:10~12:10	13:00~14:00	14:10~15:10	15:20~16:20	16:30~17:30
前期	月 7/8 7/22	通常 試験枠 8:40~9:40	朝礼 9:50 10:00	HR	HR	総合演習 1D (シラバス44頁)			
				HR	HR	総合演習 1D (シラバス44頁)			
後期	火	心理学 情報リテラシー I 基礎生物学 基礎歯学概論 I	基礎化学 日本語学 I 基礎生物学 美術	基礎化学	基礎化学	生物学実験 (基礎棟 1 階実習室)			
	水			日本語学 I	日本語学 I	英語基礎	英語 I	科目選択 ゼミナール	
	木			基礎生物学	統計数理学	歯科医療概論	基礎物理学	基礎物理学	
	金			基礎歯学概論 I	美術	臨床歯学概論	歯科医学演習		
後期	月 9/2 9/30 10/7 10/21	通常 試験枠 8:40~9:40	朝礼 9:50 10:00	歯科医療人間学 I	歯科医療人間学 I	総合演習 1D (シラバス44頁) ※ 9月9日(月)は定期試験追・再試験手続日			HR
				歯科医療人間学 I	歯科医療人間学 I	歯科医療人間学 I	歯科医療人間学 I	総合演習 1D (シラバス44頁)	
	火	情報リテラシー I 医療倫理学 基礎生物学 日本語学 I	英語基礎 臨床心理学 基礎生物学 日本語学 I	英語 I	英語 I	基礎化学	基礎化学	科目選択 ゼミナール	エレクティブ スタディ
	水			臨床心理学	経営学	基礎物理学	基礎物理学	科目選択 ゼミナール	
	木			基礎生物学	統計数理学	物理学実験 (基礎棟 2 階実習室)			エレクティブ スタディ
	金			日本語学 I	基礎歯学概論 I	化学実験 (基礎棟 2 階実習室)			

2024年度 歯学部授業時間割 〈第2学年〉 312教室

学期	時限	8:40	1		2	3	4	5	6	7	
		8:50	8:50~9:50		10:00~11:00	11:10~12:10	13:00~14:00	14:10~15:10	15:20~16:20	16:30~17:30	
前期	月 7/8 7/22	通常 試験枠 8:40~9:40	朝礼 9:50 10:00	生物学	生物学	総合演習2D(シラバス47頁)					
				生物学	生物学	生物学	生物学	総合演習2D(シラバス47頁)			
後期	月 9/30 10/28 11/25 12/9	火 水 木 金	朝礼	口腔組織学	口腔組織学	解剖学	歯科医療人間学Ⅱ	物理学	物理学		
				化学	化学	社会学	口腔生理学Ⅰ	日本語学Ⅱ	科目選択ゼミナール		
				口腔解剖学	口腔解剖学	口腔解剖学実習 (解剖棟実習室)					
				情報リテラシーⅡ	英語Ⅱ	口腔感染免疫学Ⅰ	基礎歯学概論Ⅱ	基礎歯学概論Ⅱ	科目選択ゼミナール		
後期	月 9/30 10/28 11/25 12/9	火 水 木 金	朝礼	試験枠 8:40~9:40	朝礼 9:50 10:00	口腔解剖学	公衆衛生学	口腔感染免疫学Ⅰ	総合演習2D(シラバス47頁) ※9月9日(月)は定期試験追・再試験手続日		
				口腔解剖学	口腔解剖学	口腔解剖学	口腔感染免疫学Ⅰ	口腔感染免疫学Ⅰ	公衆衛生学	公衆衛生学	
				口腔組織学	口腔組織学	口腔組織学実習 (基礎棟1階実習室)				エレクティブ スタディ	
				口腔生理学Ⅰ	口腔生理学Ⅰ	口腔生化学Ⅰ	口腔生理学実習 (基礎棟1階実習室)				
後期	月 9/30 10/28 11/25 12/9	火 水 木 金	朝礼	解剖学	解剖学	解剖学実習 (解剖棟実習室)				エレクティブ スタディ	
				情報リテラシーⅡ	英語Ⅱ	歯科薬理学Ⅰ	生体材料・歯科材料学Ⅰ	生体材料・歯科材料学Ⅰ	科目選択ゼミナール		

2024年度 齒学部授業時間割〈第3学年〉313教室

学期	時限	8:40	1	2	3	4	5	6	7
		8:50	8:50~9:50	10:00~11:00	11:10~12:10	13:00~14:00	14:10~15:10	15:20~16:20	16:30~17:30
前期	月 通常 7/8 7/22	試験枠 8:40~9:40	朝礼 9:50 10:00	歯科薬理学Ⅱ	歯科薬理学Ⅱ	口腔病理学	総合演習3D (シラバス50頁)		
				歯科薬理学Ⅱ	歯科薬理学Ⅱ	口腔病理学	口腔病理学	歯科薬理学Ⅱ	歯科薬理学Ⅱ
	火	社会歯科学	朝	生体材料・歯科材料学Ⅱ	生体材料・歯科材料学Ⅱ	生体材料・歯科材料学実習 (基礎棟2階実習室)			補講枠
	水			有床義歯補綴学Ⅰ	有床義歯補綴学Ⅰ	有床義歯補綴学Ⅰ	有床義歯補綴学Ⅰ実習 (中央棟5階実習室)		
	木			歯科医療人間学Ⅲ	口腔感染免疫学Ⅱ	口腔感染免疫学Ⅱ	口腔感染免疫学実習 (基礎棟1階実習室)		
	金			口腔生理学Ⅱ	口腔生化学Ⅱ	口腔生化学Ⅱ	歯科薬理学実習 (基礎棟2階実習室)		
後期	月 通常 9/30 10/28 11/25 12/9	試験枠 8:40~9:40	朝礼 9:50 10:00	保存修復学Ⅰ	保存修復学Ⅰ	歯科医療管理学	総合演習3D (シラバス50頁) ※9月9日㈪は定期試験追・再試験手続日		
				保存修復学Ⅰ	保存修復学Ⅰ	保存修復学Ⅰ	保存修復学Ⅰ	歯科医療管理学	歯科医療管理学
	火	口腔内科学	朝	口腔内科学	災害歯科医学	口腔病理学	口腔病理学	臨床総合医学	エレクティブ スタディ
	水			冠橋義歯補綴学Ⅰ	口腔衛生学	口腔衛生学	口腔衛生学実習 (基礎棟2階実習室)		
	木			歯科放射線学Ⅰ	歯科放射線学Ⅰ	口腔病理学	口腔病理学実習 (基礎棟1階実習室)		
	金			高齢者歯科学Ⅰ	口腔外科学Ⅰ	口腔外科学Ⅰ	口腔生化学実習 (基礎棟1階実習室)		

2024年度 齢学部授業時間割〈第4学年〉332教室

学期	時限	8:40	1	2	3	4	5	6	7
		8:50	8:50~9:50	10:00~11:00	11:10~12:10	13:00~14:00	14:10~15:10	15:20~16:20	16:30~17:30
前期	月 通常 7/8 7/22	試験枠 8:40~9:40	朝礼 9:50 10:00	小児歯科学	小児歯科学	小児歯科学	総合演習4D (シラバス52頁)		
				小児歯科学	小児歯科学	小児歯科学	小児歯科学	小児歯科学	小児歯科学
	火	朝	有床義歯補綴学Ⅱ	有床義歯補綴学Ⅱ	有床義歯補綴学Ⅱ	有床義歯補綴学Ⅱ実習 (中央棟5階実習室)			
	水			小児歯科学実習 (中央棟5階実習室)			保存修復学Ⅱ	歯内療法学	歯内療法学
	木			保存修復学実習 (中央棟5階実習室)			冠橋義歯補綴学実習 (中央棟5階実習室)		
	金			歯内療法学実習 (中央棟5階実習室)			冠橋義歯補綴学Ⅱ	冠橋義歯補綴学Ⅱ	臨床総合演習(OSCE) (中央棟4階・5階)
後期	月 通常 9/30 10/28 11/25 12/9	試験枠 8:40~9:40	朝礼 9:50 10:00	口腔外科学Ⅱ	口腔外科学Ⅱ	障害者歯科学	総合演習4D (シラバス52頁) ※9月9日㈪は定期試験追・再試験手続日		
				口腔外科学Ⅱ	口腔外科学Ⅱ	障害者歯科学	口腔外科学Ⅱ	口腔外科学Ⅱ	障害者歯科学
	火	朝	総合演習4D	高齢者歯科学Ⅱ	口腔外科学Ⅲ	歯科放射線学Ⅱ	歯科麻酔学	歯科麻酔学	エレクティブ スタディ
	水			歯周病学実習 (基礎棟2階実習室)			歯周病学	歯周病学	歯周病学
	木			歯科矯正学実習 (基礎棟2階実習室)			歯科矯正学	歯科矯正学	歯科矯正学
	金			口腔インプラント学/実習 (基礎棟2階実習室)			歯科麻酔学	歯科麻酔学	臨床総合演習(OSCE) (病院棟)

2024年度 齢学部授業時間割 〈第6学年〉

学期	時限	8 4 0 5	1	2	3	4	5	6	7
		8:50~9:50	10:00~11:00	11:10~12:10	13:00~14:00	14:10~15:10	15:20~16:20	16:30~17:30	
通年	月火水木金	有床義歯補綴学 56コマ28回	医療管理学 14コマ14回	歯科麻酔学 42コマ14回					フィードバック
			医療倫理学 14コマ14回						
			歯科放射線学 28コマ14回	歯科薬理学 14コマ14回	保存修復学 42コマ14回				フィードバック
			口腔病理学 28コマ14回	災害歯科医学 7コマ7回 歯学史/歯科英語 7コマ7回					
			口腔解剖学 28コマ14回	口腔インプラント学 14コマ14回	小児歯科学 42コマ14回				
			口腔感染免疫学 28コマ14回	障害者歯科学 14コマ14回		冠橋義歯補綴学 42コマ14回			フィードバック
			生体材料・歯科材料学 28コマ14回	総合臨床医学 14コマ14回	口腔外科学 63コマ21回				フィードバック
			口腔組織学 28コマ14回	口腔生化学 14コマ14回		口腔内科学 21コマ7回			フィードバック
			公衆衛生学 / 口腔衛生学 56コマ28回	社会歯科学 14コマ14回	高齢者歯科学 42コマ14回				フィードバック
				口腔生理学 14コマ14回		歯科矯正学 42コマ14回			

※講義：第1講義室（第2講義棟） ※斜線のコマは隔週で講義を実施する

2024年度カリキュラム表

単位区分 a : 講義, b : 演習, c : 実験・実習・実技

授業				単位		授業時間数												
区分	分類	科目	番号	区分	数	1年		2年		3年		4年		5年		6年		計
						前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	通年	通年	
A 教養系教育・基礎科学教育	1 リベラルアーツ	美術	01	b	1	30												30
		社会学	02	a	1			15										15
		統計数理学	03	a	2	15	15											30
		情報リテラシーI	04	b	1	15	15											30
		情報リテラシーII	05	b	1			15	15									30
		英語基礎	06	b	1	15	15											30
		英語I	07	b	1	15	15											30
		英語II	08	b	1			15	15									30
		心理学	09	a	1	15												15
		経営学	10	a	1		15											15
		日本語学I	11	a	4	30	30											60
		日本語学II	12	a	1			15										15
A 教養系教育・基礎科学教育	2 医学概論	臨床心理学	01	a	1		15											15
		医療倫理学	02	a	1		15											15
		歯科医学演習	03	b	1	30												30
		歯科医療概論	04	a	1	15												15
		基礎歯学概論I	05	a	2	15	15											30
		基礎歯学概論II	06	a	2			30										30
		臨床歯学概論	07	a	1	15												15
		社会歯科学	08	a	1					15								15
		歯科医療管理学	09	a	1						15							15
		基礎物理学	01	a	4	30	30											60
		物理学	02	a	2			30										30
A 教養系教育・基礎科学教育	3 理科	物理学実験	03	c	1		45											45
		基礎化学	04	a	4	30	30											60
		化学	05	a	2			30										30
		化学実験	06	c	1		45											45
		基礎生物学	07	a	4	30	30											60
		生物学	08	a	2			30										30
		生物学実験	09	c	1	45												45
		4 歯科医療人間学	I	01	a	2		30										30
			II	02	a	1			15									15
			III	03	a	1					15							15
B 生命科学教育	小計				52	345	360	195	30	30	15	0	0	0	0	0	975	
	5 歯科基礎医学	解剖学	01	a	3			15	30									45
		解剖学実習	02	c	1				60									60
		口腔解剖学	03	a	3			30	15									45
		口腔解剖学実習	04	c	1			60										60
		口腔組織学	05	a	4			30	30									60
		口腔組織学実習	06	c	1				60									60
		口腔生理学I	07	a	3			15	30									45
		口腔生理学II	08	a	1					15								15
		口腔生理学実習	09	c	1				45									45
		口腔生化学I	10	a	1				15									15
		口腔生化学II	11	a	2					30								30
		口腔生化学実習	12	c	1						45							45
		口腔衛生学	13	a	2						30							30
		口腔衛生学実習	14	c	1						45							45
		公衆衛生学	15	a	1				15									15

授業				単位		授業時間数												
区分	分類	科目	番号	区分	数	1年		2年		3年		4年		5年		6年		
						前	後	前	後	前	後	前	後	通年	通年			
B 生命科学教育	6 歯科基礎病態学	口腔感染免疫学 I	01	a	2			15	15									30
		歯科薬理学 I	02	a	1				15									15
		生体材料・歯科材料学 I	03	a	2				30									30
		口腔病理学	04	a	4					30	30							60
		口腔病理学実習	05	c	1						45							45
	7 歯科基礎治療学	口腔感染免疫学 II	01	a	2				30									30
		口腔感染免疫学実習	02	c	1				45									45
		歯科薬理学 II	03	a	2				30									30
		歯科薬理学実習	04	c	1				45									45
		生体材料・歯科材料学 II	05	a	2				30									30
		生体材料・歯科材料学実習	06	c	1				45									45
小計				45		0	0	165	360	300	195	0	0	0	0	1,020		
C 口腔科学教育	8 歯科口腔病態学	総合臨床医学	01	a	1						15							15
		保存修復学 I	02	a	2						30							30
		冠橋義歯補綴学 I	03	a	1						15							15
		有床義歯補綴学 I	04	a	3					45								45
		災害歯科医学	05	a	1						15							15
		高齢者歯科学 I	06	a	1						15							15
		障害者歯科学	07	a	1									15				15
		口腔内科学	08	a	2						30							30
		口腔外科学 I	09	a	2						30							30
		歯科麻酔学	10	a	4									60				60
		歯科放射線学 I	11	a	2						30							30
	9 歯科口腔診断学	歯内療法学	01	a	3							45						45
		歯周病学	02	a	3								45					45
		保存修復学 II	03	a	1							15						15
		冠橋義歯補綴学 II	04	a	2							30						30
		有床義歯補綴学 II	05	a	3							45						45
		口腔インプラント学	06	a	1									15				15
		高齢者歯科学 II	07	a	1							15						15
		口腔外科学 II	08	a	2							30						30
	10 歯科口腔治療学	口腔外科学 III	09	a	1								15					15
		歯科矯正学	10	a	3								45					45
		小児歯科学	11	a	3								45					45
		歯科放射線学 II	12	a	1									15				15
		保存修復学実習	01	c	1							45						45
		歯内療法学実習	02	c	1								45					45
		歯周病学実習	03	c	1									45				45
		冠橋義歯補綴学実習	04	c	1								60					60
		有床義歯補綴学 I 実習	05	c	1								60					60
		有床義歯補綴学 II 実習	06	c	1								60					60
		口腔インプラント学実習	07	c	1									30				30
		歯科矯正学実習	08	c	1									45				45
		小児歯科学実習	09	c	1									45				45
11	臨床総合演習	01	b	2										60				60
12	臨床実習	01	c	30											1,428			1,428
13	臨床総合講義	01	b	10												426		426
小計				95		0	0	0	0	105	180	450	420	1,428	426	426	3,009	
合計				192		345	360	360	390	435	390	450	420	1,428	426	426	5,004	

科目ナンバリング（ユニバ^پ No.）

D ③④ C-a2-3808 (D3808)

歯学部/DP^{*}/授業区分－単位区分/単位数－学年/授業分類/科目

* DP = ディプロマポリシー (P1 参照)

アセスメントポリシー

歯学部では6つのディプロマポリシーを身に付けるため、カリキュラム表に記載された授業科目をカリキュラムマップに沿った流れで6年間をかけて履修します。各授業は、その特性に応じて講義（1単位15時間）、演習（1単位30時間）、実験・実習・実技（1単位30～45時間）に区分し、以下の方針に則り、科目ごと、あるいは学年ごとに評価し、進級および卒業判定します。

1. 歯科医学は常に新しくなり、進化する学問であるため、教育の順次性が重要であることを踏まえ、単位は必修とし、進級しなければ、当該学年の単位はすべて失います。
2. 知識と技能の取りこぼしや遅れを生じさせることなく、体調管理や健康への意識と授業に出席する大切さや責任感を重んじて、履修科目に加え、時間割に記載したすべての枠毎に80%以上の出席を必須とします。
3. 各学年では少人数（5～10人程度）に分けたクラスに担任を置き、隨時、授業の到達度や進捗状況を面談・指導しながら、到達目標に至る道程を明らかにします。
4. 講義や演習の科目では、知識とその応用力を多肢選択問題や記述試験、口頭試問により達成度を評価します。科目によってはレポートや小テスト、各科目で適宜行われる試験などを評価の資料にします。
5. 実験や実習、実技の科目では技能、態度、コミュニケーション能力を筆記試験や口頭試問、実技試験、リクワイアメント、製作物、レポート、スケッチ、ポートフォリオなどを用いて評価します。
6. 授業の評価は、各科目の評価方法に記載された基準に則り、達成度を数値化し100点満点で最終評価します。この最終評価において各学年の全科目で合格と判定されていることに加え、年度末に実施される総合試験に合格していることを進級要件とします。
7. 第4学年では、次年度に臨床実習を行うことができる知識・技能・態度が備わっているかを共用試験（CBTとOSCE）で判定し、これに合格していることが第5学年（臨床実習）への進級要件に加わります。
8. 第5学年の臨床実習では知識や技能に加え、プロフェッショナリズム（身だしなみ、協調的ふるまい、自己主導学習、コミュニケーション能力、および医療倫理）を態度の評価対象にします。また、共用試験（CPXとCSX）に合格していることが臨床実習終了の用件となります。
9. 第6学年では歯科医師国家試験に準じた形式による卒業試験を行い卒業判定します。

このアセスメントポリシーは、年度当初および後期開始時に歯学部教育職につく全教員と全学生を対象に説明会を実施し、ポリシーを共有します。

各科目(略称)とオフィスアワーについて

オフィスアワー (Office Hour) は、各教員に対して学生が学業や学校生活全般に関する質問をしたり、相談あるいは個人的な指導等を受けるために設定された、広く学生に対して開かれた時間です。

下記の時間帯以外でも、在室時は質問・相談を受け付けますので、学生の皆さんは、有効にオフィスアワーを利用してください。

ただし、オフィスアワーに設定されている時間であっても、会議や出張等で在室できない場合がありますので掲載されているメールアドレスを使用して事前に連絡することをお勧めします。また、メールを使用して質問・相談等も受け付けますので、有効に活用してください。

科目分野(略称)	職名	氏名	メールアドレス	曜日	時間	場所
口腔解剖学(解剖)	教授	宇佐美晶信	a-usami@den.ohu-u.ac.jp	木	16:30~17:30	解剖学棟
	講師	芹川 雅光	m-serikawa@den.ohu-u.ac.jp	木	16:30~17:30	解剖学棟
	講師	櫻井 裕子	y-sakurai@den.ohu-u.ac.jp	木	16:30~17:30	解剖学棟
口腔組織学(組織)	教授	安部 仁晴	k-ambe@den.ohu-u.ac.jp	月~金	16:30~17:45	基礎棟4階 教授室
	准教授	中川 敏浩	t-nakagawa@den.ohu-u.ac.jp	水	12:20~13:15	基礎棟4階 口腔組織学研究室
	講師	荒木 啓吾	k-araki@den.ohu-u.ac.jp	水	17:00~17:45	基礎棟4階 口腔組織学研究室
	講師	森山 光	h-moriyama@den.ohu-u.ac.jp	木	16:30~17:30	基礎棟4階 口腔組織学研究室
口腔感染免疫学(感染)	教授	清浦 有祐	y-kiyoura@den.ohu-u.ac.jp	木	16:30~17:30	基礎棟5階 口腔感染免疫学研究室
	教授	玉井利代子	r-tamai@den.ohu-u.ac.jp	木	16:30~17:30	基礎棟5階 口腔感染免疫学研究室
	講師	眞島いづみ	i-mashima@den.ohu-u.ac.jp	木	16:30~17:30	基礎棟5階 口腔感染免疫学研究室
口腔病理学(病理)	准教授	遊佐 淳子	j-yusa@den.ohu-u.ac.jp	水	16:30~17:30	基礎棟4階 口腔病理学第2研究室
	講師	山崎 幹子	mi-suzuki@den.ohu-u.ac.jp	水	16:30~17:30	基礎棟4階 口腔病理学第2研究室
歯科薬理学(薬理)	准教授	鈴木 礼子	r-suzuki@den.ohu-u.ac.jp	月	16:30~17:30	基礎棟3階 歯科薬理学研究室
	准教授	柴田 達也	t-shibata@den.ohu-u.ac.jp	月	17:00~17:45	基礎棟3階 歯科薬理学研究室
	講師	長岡 正博	m-nagaoka@den.ohu-u.ac.jp	月	16:30~17:30	基礎棟3階 歯科薬理学研究室
口腔生理学(生理)	教授	川合 宏仁	h-kawai@den.ohu-u.ac.jp	木	16:40~17:30	基礎棟3階 教授室
	講師	大須賀謙二	k-osuga@den.ohu-u.ac.jp	火	16:40~17:30	基礎棟3階 口腔生理学研究室
	講師	古山 昭	a-furuyama@den.ohu-u.ac.jp	月	16:40~17:30	基礎棟3階 口腔生理学研究室
口腔生化学(生化)	教授	加藤 靖正	y-katou@den.ohu-u.ac.jp	月	16:30~17:30	基礎棟5階 教授室
	教授	前田 豊信	t-maeda@den.ohu-u.ac.jp	木	16:30~17:30	基礎棟5階 口腔生化学研究室
	講師	神林 直大	n-kamibayashi@den.ohu-u.ac.jp	木	16:30~17:30	病院棟5階 口腔外科研究室
生体材料学(材料)	准教授	石田 喜紀	y-ishida@den.ohu-u.ac.jp	水	17:15~17:45	基礎棟3階 歯科理工学研究室
	講師	大木 達也	t-ohki@den.ohu-u.ac.jp	水	17:15~17:45	基礎棟3階 歯科理工学研究室
	講師	斎藤 龍一	r-saito@den.ohu-u.ac.jp	水	17:15~17:45	基礎棟3階 歯科理工学研究室
口腔衛生学(衛生)	教授	廣瀬 公治	k-hirose@den.ohu-u.ac.jp	月水	17:00~17:30	基礎棟5階 教授室
	教授	瀬川 洋	h-segawa@den.ohu-u.ac.jp	木	16:30~17:30	病院棟2階 歯学部長室
	講師	南 健太郎	k-minami@den.ohu-u.ac.jp	月~金	17:00~17:30	基礎棟5階 口腔衛生学第1研究室
	講師	小林美智代	m-kobayashi@den.ohu-u.ac.jp	月~金	17:00~17:30	基礎棟5階 口腔衛生学第1研究室
保存修復学(修復)	教授	山田 嘉重	y-yamada@den.ohu-u.ac.jp	月~木	17:00~17:30	病院棟5階 教授室
	准教授	菊井 徹哉	t-kikui@den.ohu-u.ac.jp	月~木	17:00~17:30	病院棟2階 歯科保存学研究室 No.4
歯内療法学(歯内)	教授	木村 裕一	y-kimura@den.ohu-u.ac.jp	木	17:00~17:30	病院棟5階 教授室
	講師	佐藤 穏子	ya-sato@den.ohu-u.ac.jp	木	17:00~17:30	病院棟3階 歯科保存学講座研究室 8
	講師	長崎 慶太	k-nagasaki@den.ohu-u.ac.jp	水	17:00~17:30	病院棟3階 歯科保存学講座研究室 7
	講師	金澤 明昭	t-kanazawa@den.ohu-u.ac.jp	水	17:00~17:30	病院棟3階 歯科保存学講座研究室 7
歯周病学(歯周)	教授	高橋 廉壯	ke-takahashi@den.ohu-u.ac.jp	水	16:30~17:30	病院棟5階 教授室
	講師	山崎 厚作	k-yamazaki@den.ohu-u.ac.jp	水	17:00~17:30	病院棟2階 歯科保存学研究室 1
冠橋義歯学(冠橋)	教授	羽鳥 弘毅	k-hatori@den.ohu-u.ac.jp	金	16:30~17:30	病院棟5階 教授室
	講師	内田 光洋	m-uchida@den.ohu-u.ac.jp	月水	17:00~17:30	病院棟3階 歯科補綴学講座研究室

科目分野(略称)	職名	氏名	メールアドレス	曜日	時間	場所
有床義歯学(有床)	教授	高津 匠樹	m-takatsu@den.ohu-u.ac.jp			
	講師	松本 知生	c-matsumoto@den.ohu-u.ac.jp	金	17:00~17:45	病院棟3階 歯科補綴学講座研究室
	講師	内山 梨夏	r-uchiyama@den.ohu-u.ac.jp	金	17:00~17:45	病院棟3階 歯科補綴学講座研究室
口腔インプラント学(イン)	講師	高橋 昌宏	m-takahashi@den.ohu-u.ac.jp	水	17:00~17:30	病院棟3階 口腔インプラント学研究室
	講師	保田 穂	y-ysuda@den.ohu-u.ac.jp	水	17:00~17:30	病院棟3階 口腔インプラント学研究室
高齢者歯科学(高齢)	教授	鈴木 史彦	f-suzuki@den.ohu-u.ac.jp	木	16:30~17:30	病院棟5階 教授室
	講師	北條健太郎	k-hojo@den.ohu-u.ac.jp	木	16:30~17:30	病院棟5階 地域医療支援歯科
	講師	山家 尚仁	n-yanbe@den.ohu-u.ac.jp	木	16:30~17:30	病院棟5階 地域医療支援歯科
	講師	鈴木 海路	ka-suzuki@den.ohu-u.ac.jp	木	16:30~17:30	病院棟5階 地域医療支援歯科
	講師	渡部 議之	n-watanabe@den.ohu-u.ac.jp	木	16:30~17:30	病院棟5階 地域医療支援歯科
口腔外科学(口外)	教授	高田 訓	s-takada@den.ohu-u.ac.jp	木	16:30~17:30	病院棟5階 教授室
	教授	金 秀樹	h-kon@den.ohu-u.ac.jp	木	16:30~17:30	病院棟5階 教授室
	教授	川原 一郎	i-kawahara@den.ohu-u.ac.jp	木	16:30~17:30	病院棟5階 口腔外科研究室
	講師	御代田 駿	s-miyota@den.ohu-u.ac.jp	木	16:30~17:30	病院棟5階 口腔外科研究室
	講師	小嶋 忠之	t-kojima@den.ohu-u.ac.jp	木	16:30~17:30	病院棟5階 口腔外科研究室
	講師	高橋文太郎	f-takahashi@den.ohu-u.ac.jp	木	16:30~17:30	病院棟5階 口腔外科研究室
	講師	西 祐也	y-nishi@den.ohu-u.ac.jp	木	16:30~17:30	病院棟6階 口腔外科研究室
歯科麻酔学(麻酔)	教授	山崎 信也	s-yamazaki@den.ohu-u.ac.jp	木	16:30~17:30	病院棟5階 歯科麻酔学研究室
	講師	安部 将太	s-abe@den.ohu-u.ac.jp	木	16:30~17:30	病院棟5階 歯科麻酔学研究室
	講師	佐藤 光	h-satou@den.ohu-u.ac.jp	木	16:30~17:30	病院棟5階 歯科麻酔学研究室
障害者歯科学(障害)	講師	吉田 健司	ke-yoshida@den.ohu-u.ac.jp	木	16:30~17:30	病院棟5階 歯科麻酔学研究室
	講師	加川千鶴世	c-kagawa@den.ohu-u.ac.jp	木	16:30~17:30	病院棟5階 歯科麻酔学研究室
	講師	赤穂 麗子	r-akaho@den.ohu-u.ac.jp	木	16:30~17:30	病院棟5階 歯科麻酔学研究室
歯科矯正学(矯正)	教授	福井 和徳	k-fukui@den.ohu-u.ac.jp	木	16:30~17:30	病院棟3階 成長発育歯学3
	教授	川鍋 仁	h-kawanabe@den.ohu-u.ac.jp	木	16:30~17:30	病院棟3階 成長発育歯学3
	准教授	板橋 仁	j-itabashi@den.ohu-u.ac.jp	木	16:30~17:30	病院棟3階 成長発育歯学3
	講師	山野辺晋也	s-yamanobe@den.ohu-u.ac.jp	木	16:30~17:30	病院棟3階 成長発育歯学3
	講師	岡崎 智世	t-okazaki@den.ohu-u.ac.jp	木	16:30~17:30	病院棟3階 成長発育歯学3
小児歯科学(小児)	教授	島村 和宏	k-shimamura@den.ohu-u.ac.jp	木	16:30~17:30	病院棟5階 教授室
歯科放射線学(放射)	教授	原田 卓哉	t-harada@den.ohu-u.ac.jp	金	16:30~17:30	病院棟1階 放射線診断学講座研究室
	講師	茂呂祐利子	y-moro@den.ohu-u.ac.jp	月	16:30~17:30	病院棟1階 放射線診断学講座研究室
	講師	臼田 真浩	m-usuda@den.ohu-u.ac.jp	木	16:30~17:30	病院棟5階 口腔外科研究室
	講師	矢口 剛士	t-yaguchi@den.ohu-u.ac.jp	火	16:30~17:30	病院棟1階 放射線診断学講座研究室
総合臨床医学(医学)	教授	風間 咲美	s-kazama@den.ohu-u.ac.jp	木金	15:30~17:45	病院棟5階 教授室
病院	教授	山森 徹雄	t-yamamori@den.ohu-u.ac.jp	金	17:00~17:45	病院棟5階 教授室
生物学(生物)	准教授	今井 元	ha-imai@den.ohu-u.ac.jp	木	16:30~17:30	薬学実習棟3階 研究室
物理学(物理)	教授	菊地 尚志	hi-kikuchi@den.ohu-u.ac.jp	月	16:30~17:30	基礎棟4階 研究室
	講師	荒木 威	t-araki@den.ohu-u.ac.jp	月~金	16:30~17:30	薬学実習棟3階 研究室
化学	講師	阿部 匠聰	m-abu@den.ohu-u.ac.jp	月	16:45~17:45	基礎棟3階 理工学第1研究室
	講師	斎藤昇太郎	s-saito@den.ohu-u.ac.jp	木	16:40~17:40	薬学実習棟3階 研究室
日本語学(日本語)	講師	本多 真史	m-honta@den.ohu-u.ac.jp	木	12:10~13:00	薬学実習棟3階 研究室
心理学(心理)	講師	佐藤 歩	ay-sato@den.ohu-u.ac.jp	火	12:10~13:00	第2講義棟2階 カウンセリング室
英語	講師	長峯 英樹	h-nagamine@den.ohu-u.ac.jp	水	16:30~17:30	薬学実習棟3階 研究室
美術	非常勤講師	渡部 恵生	n-watanabe@educ.fukushima-u.ac.jp	金	12:10~13:00	第3講義棟2階 非常勤講師控室
社会学	非常勤講師	高橋 嘉代	workscre22s@hotmail.com	水	12:10~13:00	第3講義棟2階 非常勤講師控室

歯科口腔治療学実習・臨床総合演習・臨床実習担当教員

	職名	氏名
保存修復学	教授	山田 嘉重
	准教授	菊井 徹哉
	助教	大木 英俊
	助教	橋本 昌典
	助教	野口 太照
	助教	影山 直
	助教	永井 春菜
歯内療法学	教授	木村 裕一
	講師	佐藤 穏子
	講師	長崎 慶太
	講師	金澤 朋昭
	助教	神庭 一郎
	助教	橋本 有加
歯周病学	教授	高橋 慶壯
	講師	山崎 厚作
	助教	吉沢 大樹
冠橋義歯学	教授	羽鳥 弘毅
	講師	内田 光洋
	助教	雨宮 幹樹
	助教	伊藤 歩
	助教	大友 悠資
	助教	山口 雄大
有床義歯学	教授	高津 匠樹
	講師	松本 知生
	講師	池田 敏和
	講師	内山 梨夏
	助教	飯島 康基
	助教	佐々木 慎一
	助教	橋原 楓
	助教	嶋田 伊吹
	助教	高橋 泰我
口腔インプラント学	講師	高橋 昌宏
	講師	保田 穂
	助教	奈田 憲二
	助教	河村 享英
	助教	神山 巧
高齢者歯科学	教授	鈴木 史彦
	講師	北條 健太郎
	講師	山家 尚仁
	講師	鈴木 海路
	講師	渡部 議之
	助教	今井 彩乃

	職名	氏名
口腔外科学	教授	高田 訓
	教授	金 秀樹
	教授	川原 一郎
	講師	御代田 駿
	講師	小嶋 忠之
	講師	臼田 真浩
	講師	高橋 文太郎
	講師	神林 直大
歯科麻酔学	講師	西 祐也
	助教	澤 弘平
	教授	山崎 信也
障害者歯科学	講師	安部 将太
	講師	佐藤 光
	助教	木村 樂
	助教	鈴木 香名美
	助教	高橋 晃司
歯科矯正学	助教	若松 慶一郎
	講師	吉田 健司
	講師	加川 千鶴世
	講師	赤穂 麗子
	教授	福井 和徳
	教授	川鍋 仁
	准教授	板橋 仁
	講師	山野辺 晋也
	講師	岡崎 智世
	助教	笛谷 哲郎
小児歯科学	助教	根本 奈央子
	助教	松村 賢史
	助教	荻野 早紀
	助教	小須田 一剛
	助教	淺倉 卓弥
	助教	北村 裕紀
	助教	宗像 恭史
	教授	島村 和宏
歯科放射線学	助教	神庭 優衣
	助教	舟山 敦雄
	助教	角田 望
	教授	原田 卓哉
	講師	茂呂 祐利子
病院	講師	矢口 剛士
	助手	渡部 剛史
教授	教授	山森 徹雄

I. 規 定

1. 学 則 (抜粋)

第1章 総 則

(目的)

第1条 奥羽大学（以下「本学」という。）は、教育基本法並びに学校教育法に基づき、広く知識を養うと共に、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を育成し、国民の福祉と文化の発展に寄与することとし各学部のその目的は、次の各号のとおりとする。

- (1) 歯学部は、高度な専門知識と技術を備えた人間性豊かな歯科医師を養成することを目的とする。
 - (2) 薬学部は、高度な専門知識と技術を備えた人間性豊かな薬剤師を養成することを目的とする。
- 2 本学は、前項の目的を達成するために、教育研究等の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表するものとする。なお、点検及び評価については「奥羽大学自己点検・自己評価規程」として別に定める。

第2章 学部構成

(学部学科)

第2条 本学に次の学部及び学科を置く。

歯学部 歯学科
薬学部 薬学科

第3章 修業年限及び入学定員

(修業年限)

第3条 本学の修業年限は、歯学部及び薬学部は6年とする。

- 2 歯学部においては、修業年限の2倍を超えて在学することはできない。
ただし、在学期間は同一学年において3年を超えることはできない。

3 薬学部においては、修業年限の2倍を超えて在学することはできない。

(入学定員及び収容定員)

第4条 本学の入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

- (1) 歯学部 歯学科 入学定員 80名 収容定員 480名
- (2) 薬学部 薬学科 入学定員 100名 収容定員 600名

第4章 学年、学期及び休業日

(学年)

第5条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(学期)

第6条 学年を次の2期に分ける。

- 前期 4月1日から9月30日まで
後期 10月1日から翌年3月31日まで

(休業日)

第7条 省略

第5章 授業科目、履修方法及び講座

(授業科目の区分)

第8条 各学部において開設する授業科目は、次の区分とする。

- (1) 歯学部 教養系教育、基礎科学教育科目、生命科学教育科目、口腔科学教育科目
- (2) 薬学部 基礎教育科目、専門教育科目

第9条 省略

(開設授業科目及び履修方法)

第10条 歯学部においては、その教育研究上の目的を達成するため、講座制をとる。

2 次の講座をおく。

基礎講座	臨床講座
生体構造学講座	歯科保存学講座
口腔病態解析制御学講座	歯科補綴学講座
口腔機能分子生物学講座	口腔外科学講座
生体材料学講座	成長発育歯学講座
口腔衛生学講座	放射線診断学講座

(単位の算定)

第11条 各授業科目に対する単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算するものとする。

- (1) 講義については、15時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 演習については、30時間の授業をもって1単位とする。
- (3) 実験、実習及び実技については、30時間から45時間までの範囲で本学が各授業科目について定める時間の授業をもって1単位とする。

2 前項の規定にかかわらず、薬学部における特別実習に対する単位数は6単位とする。

(選択科目の申請)

第12条 選択履修する授業科目は、毎学年所定の期間に申請しなければならない。

第6章 職 員 (省略)

第7章 教 授 会 (省略)

第8章 入学、編入学、転学、休学、復学、退学及び再入学

(入学の時期)

第19条 入学時期は、学年の始めとする。

(入学資格及び入学者の選考)

第20条 本学に入学することのできる者は、次の各号の一に該当する者とする。

- (1) 高等学校又は中等教育学校を卒業した者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者
- (3) 通常の課程以外の課程によって、前号に相当する学校教育を修了した者
- (4) 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの
- (5) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- (6) 文部科学大臣の指定した者

(7) 高等学校卒業程度認定試験規則により文部科学大臣の行う高等学校卒業程度認定試験に合格した者

2 本学への入学志願者については、能力、資質、人物、健康等を考慮して選考する。

(編入学)

第21条 次の各号の一に該当する者で、本学の各学部に編入学を志願する者があるときは、欠員のある場合に限り、選考のうえ相当年次に入学を許可することができる。

(1) 大学を卒業した者又は大学に1年以上在学した者

(2) 短期大学又は高等専門学校を卒業した者

(転学)

第22条 学長は、他の大学に転学を願い出る者があるときは、当該学部教授会の議を経て、これを許可することができる。

2 学長は、本学の学部の一から他の学部に転学を願い出る者があるときは、当該学部教授会の議を経て、これを許可することができる。

3 他の大学に転学したものは、除籍する。

(入学試験等)

第23条 入学試験期日、試験科目及び出願期間は、毎年度これを定める。

(入学願書等)

第24条 入学を志願する者は、指定の期間中に、入学検定料その他別に定める書類等を提出又は納入しなければならない。

(入学書類等)

第25条 入学を許可された者は、指定の期日までに、次の各号に掲げる書類等を提出又は納入しなければならない。

(1) 住民票

(2) 所定の誓約書

(3) 在学保証書

(4) 出身校の卒業又は修了証明書

(5) 入学金及び授業料その他の納付金

(在学保証書)

第26条 入学（編入学及び再入学を含む。）を許可された者は、その者の身上及び本学に対する債務に関し、独立の生計を営む成年者で、入学時の在学保証書に定めてある負担債務内容及び損害・賠償金の極度額を責任を負うことのできる保証人2名が連署した在学保証書を提出しなければならない。

2 前項の保証人が欠け、又は変更の必要がある場合は、新たに保証人を定め、直ちに在学保証書を提出しなければならない。

(休学)

第27条 病気その他やむを得ない理由によって、引き続き3か月以上修学することができないと認められる者は、その事実を証明する書類を添え、保証人連署のうえ学長に願い出て、その許可を得て休学することができる。

2 学長は、必要により休学を命ずことがある。

3 休学期間は、当該年度限りとする。特別の事由があるときは、引き続き休学期間を延長することができる。ただし、通算して3年を超えることはできない。

4 休学期間は、第3条の在学期間に算入しない。

(復学)

第28条 休学の理由の止んだ者は、学長の許可を得て原学年に復学することができる。

2 復学願いには、保証人の連署を必要とし、疾病によって休学した者は、本学附属病院又は本学が指定する医療機関の診断書を添付しなければならない。

(退学)

第29条 病気その他やむを得ない理由により退学しようとする者は、その理由を証明する書類を添え、保証人連署のうえ、学長に退学願を提出して許可を受けなければならない。

(再入学)

第30条 学長は、退学した者又は除籍された者が2年以内に再入学を願い出たときは、選考のうえ、当該学部教授会の議を経て許可することができる。この場合には、既修授業科目の全部又は一部について再履修を命ずることがある。

第9章 入学検定料、入学金、授業料その他納付金

(入学検定料)

第31条 本学に入学を志願する者は、入学検定料（歯学部40,000円、薬学部30,000円）を入学願書に添えて納入するものとする。

(入学金等及び再入学金)

第32条 入学を許可された者は、所定の期日までに次表の入学金、授業料等を納付しなければならない。ただし、第30条の規定により再入学を許可された者は、入学金の2分の1を納入するものとする。なお、歯学部3年次及び4年次編入学を許可された者は、所定の期日までに入学金、授業料、歯学教育充実費を納付しなければならない。

	歯学部	薬学部
入学金	500,000円	200,000円
授業料	3,500,000円	1,500,000円

	歯学部
歯学教育充実費	3,500,000円

(授業料の納入、退学及び休学の授業料)

第33条 学籍にある者は、次表の授業料を納めなければならない。

	歯学部	薬学部
授業料	3,500,000円	1,500,000円

2 授業料その他定められたものは年額とし、次の2期に分けて2分の1額ずつ分納することができる。

前期 4月30日まで

後期 10月31日まで

3 休学者に係わる第1項に定める授業料の納付金は、学期毎に1期分の3分の1を休学費として納入しなければならない。

4 学長は、授業料の納付を怠り、督促を受けてもなお納入しない者については、当該学部教授会の議を経て除籍することができる。

(実験実習費)

第34条 学生の実験実習に要する費用は、別にこれを徴収することがある。

(学費の変更)

第35条 在学中において授業料及びその他の納付金に変更があったときは、新たに定められた金額に基づいて納入しなければならない。

(返還)

第36条 既に納入した入学検定料、入学金、授業料及びその他の納付金は、いかなる事情があっても返還しない。

2 入学時所定の期日までに入学許可の取り消し又は入学を辞退した者にあっては、その者の請求により授業料及びその他の納付金を返還することがある。

第10章 学修の評価、進級及び卒業

(学修の評価)

第37条 履修した授業科目については、別に定める試験規程により、その成績を判定する。

2 科目の成績は、100点をもって満点とし、秀（100～90点）、優（89～80点）、良（79～70点）、可（69～65点）、不可（64点以下）の5種とする。秀、優、良、可は合格とし、不可は不合格とする。

(進級)

第38条 各学年所定の授業科目の試験に合格した者は進級とする。

2 ただし、歯学部においては各学年の総合試験に合格しなければならない。

(卒業の認定)

第39条 所定の授業科目を履修し、その単位を修得した者に対し卒業証書を授与する。ただし、歯学部においては卒業試験に合格しなければならない。

2 卒業試験に関する事項は、別に定める。

第11章 学位の授与

(学位の授与)

第40条 本学を卒業した者に対し、次の区分に従い学位を授与する。

歯学部 学士（歯学）

薬学部 学士（薬学）

第12章 賞 罰

(表彰)

第41条 学業の優秀な者又は善行のあった者は、当該学部教授会の議を経て学長がこれを表彰することがある。

(懲戒)

第42条 学長は、学生がその本分に反する行為をし、又は本学の諸規程等に違反する行為があった場合は、当該学部教授会の議を経てこれを懲戒する。

2 懲戒を分けて訓告、停学及び退学とする。

3 前項の退学は、次の各号の一に該当する者について行う。

- (1) 性行不良で改善の見込みがないと認められる者
- (2) 学力劣等で成業の見込みがないと認められる者
- (3) 正当の理由がなくて出席が常でない者
- (4) 本学の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者

第13章 研究生、聴講生並びに委託生

(研究生、聴講生、委託生)

第43条 本学に研究生、聴講生並びに委託生の制度を設けることができる。

2 研究生、聴講生並びに委託生に関する事項は別に定める。

第14章 公開講座

(公開講座)

第44条 本学に公開講座を設ける。

2 公開講座に関する事項は、別に定める。

第15章 大 学 院

(大学院)

第45条 本学に大学院歯学研究科を置く。

2 大学院歯学研究科の学則等については、別に定める。

第16章 附 属 施 設

(附属病院)

第46条 一般患者の診療及び学生の臨床実習に資するため、本学歯学部に附属病院を置く。

2 附属病院において開設する科目は、次のとおりとする。

- (1) 歯科（予診科、総合歯科、口腔インプラント科、地域医療支援歯科、歯科麻酔科、放射線科）
- (2) 矯正歯科
- (3) 小児歯科
- (4) 歯科口腔外科
- (5) 内科
- (6) その他必要な診療科

3 附属病院の組織、管理及び運営その他の必要な事項は、別に定める。

(附属薬用植物園)

第46条の2 本学薬学部に附属薬用植物園を置く。

2 附属薬用植物園の管理及び運営その他の必要な事項は、別に定める。

第17章 図 書 館

(図書館)

第47条 職員及び学生の研究、学修に資するため本学に図書館を置く。

2 図書館の管理運営その他の必要な事項は、別に定める。

第18章 特待生制度

(特待生制度)

第48条 本学建学の主旨により、人物、成績、健康共に優秀な者には、これを特待生として授業料の全部又は一部を免除する制度を置く。

2 特待生制度に関する事項は、別に定める。

第19章 雜 條

第49条 本学則のほかに教育、研究又は学生に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

本学則は、平成18年4月1日から施行する。ただし、第3条及び第11条の薬学部については、平成18年度入学生から適用し、平成18年3月31日に在籍する者については、従前の学則とする。

2 大学入学資格検定規程（昭和26年文部省令第13号）が廃止され、高等学校卒業程度認定試験規則が創設されたことにより、第22条についての経過措置として大学入学試験検定を受験し合格した者については、新規則（認定試験合格者）と読み替えるものとする。

附 則

本学則は、令和3年4月1日から施行する。

2. 奥羽大学試験規程

第1章 総 則

第1条 この規程は、学則第37条及び第38条に基づき、本学で実施する試験について定める。

第2章 試 験

第2条 試験は、定期試験及び追・再試験とする。ただし、授業科目により適宜に行う試験及び学年別総合試験等もある。

第3条 定期試験は、科目毎に学期末又は学年末に行う。なお、試験の方法については、科目筆記試験及び口頭による試験、並びに実技試験のほか、小論文等による。

第4条 追試験は、定期試験を受けることが出来なかった者に対し、願い出により行うことがある。

第5条 再試験は、定期試験で65点未満であった者に対し、願い出により行うことがある。

第6条 追・再試験の受験に際しては、所定の願書を提出し、1科目につき4,000円の受験料を定められた日までに納入しなければならない。

2 学年別総合試験等の合格基準及び追・再試験等に関わる事項は教授会で定める。

第3章 受 験 資 格

第7条 歯学部にあっては、各学年で履修するいずれの科目においても、各期授業時間数の80%以上の出席がない場合には、当該科目の受験資格を失う。薬学部にあっては、各学年で履修するいずれの科目においても、授業時間数の3分の2以上の出席がない場合には、当該科目の受験資格を失う。ただし、学年別総合試験等の受験資格に関わる事項は教授会で定める。

第8条 試験は、授業料その他の納入金を完納しなければ受験させることができない。

第4章 試験の欠席

第9条 疾病その他やむを得ない理由により試験を欠席した者は、医師の診断書、又はその理由を付した欠席届を速やかに提出しなければならない。

2 前項の届出が行われない場合は、追試験の受験資格は与えられない。

第5章 不 正 行 為

第10条 試験において不正行為を行った者は、その学期における全科目的成績を0点とし、かつ懲戒処分を行う。

2 懲戒処分については、別に定める。

第6章 試験の成績

第11条 試験の成績は100点をもって満点とする。

第7章 受 験 心 得

第12条 受験に際しては、次の事項を守らなければならない。

- (1) 受験中、学生証を必ず机上に提示しておくこと。ただし、忘れた場合は、学事部に申し出て証明書を受け、これを学生証に代えることができる。
- (2) 試験場には、試験開始5分前に入っていること。
- (3) 25分以上の遅刻、及び試験開始後30分以内の退出はしないこと。
- (4) 試験場では、筆記に必要な用具のほかは机から離して置くこと（下敷は不可）。ただし、特に許可されたものはこの限りではない。
- (5) 受験中は、用具の貸借をしたり監督者以外への話しかけや、答案等を見せたりしてはいけない。

- (6) 受験に際しては、不正な方法によって答案を作成したり、それを帮助したりしてはならない。
(7) その他、監督者の指示に従うこと。
2 受験心得に違反した者は、退場を命ずる。

第8章 雜 則

第13条 本規程の改廃は、教授会の議決を経なければならない。

附 則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和4年4月1日から施行する。

3. 奥羽大学歯学部卒業試験規程

第1章 総 則

第1条 この規程は、学則第39条第2項に基づき本学歯学部で実施する卒業試験（以下「本試験」という。）について定める。

第2条 本試験の実施に際し、本規程に定められていない事項については、別に定める試験規程を適用する。

第2章 試 験

第3条 本試験は、既に履修した基礎並びに臨床科目の修業の程度を総合的に判定するために行う。

第4条 本試験は、第6学年において、実施する。

第5条 合格者は、教授会において決定する。

第3章 試験の施行（省略）

第4章 雜 則（省略）

附 則

この規程は、平成29年9月1日から施行する。

4. 奥羽大学GPA制度に関する規定

（趣旨）

第1条 この規定は、奥羽大学（以下「本学」という。）の学士課程におけるGrade Point Average（履修科目成績平均値。以下「GPA」という。）制度に関し必要な事項を定めることにより、学生の能動的学習活動と教員のきめ細やかな履修指導を推進するとともに、成績評価の透明性を高め、教育の質向上させることを目的とする。

（評価等）

第2条 学生が履修した授業科目の成績評価に与えられるGrade Point（以下「GP」という。）は次表のとおりとする。

成績の評価		GP
5段階評価	成 績	
秀	100 ~ 90	4.0
優	89 ~ 80	3.0
良	79 ~ 70	2.0
可	69 ~ 65	1.0
不可	64 ~ 0	0.0

(GPAの算出)

第3条 GPAは、学期の学修状況及び成果を示す指標としてのGPA（以下「学期GPA」という。）並びに在学中における全期間の学修状況及び成果を示す指標としてのGPA（以下「累積GPA」という。）の二種類とする。

2 GPAは、次の式により計算するものとし、その数に小数点以下第二位未満の端数があるときは、小数点以下第三位の値を四捨五入するものとする。

$$\text{学期 GPA} = \frac{(\text{当該学期に評価を受けた授業科目の GP} \times \text{当該授業科目の単位数}) \text{ の総和}}{\text{当該学期に評価を受けた授業科目の単位数の総和}}$$

$$\text{累積 GPA} = \frac{(\text{在学全期間に評価を受けた授業科目の GP} \times \text{当該授業科目の単位数}) \text{ の総和}}{\text{在学全期間に評価を受けた授業科目の単位数の総和}}$$

(GPA対象授業科目)

第4条 本学学士課程において、5段階評価によって成績認定される授業科目であって、卒業要件に算入できる授業科目とする。

2 GPA対象授業科目は、各学部におけるGPA利用の目的に照らし、適切な方法をもって選択し、または除外することができる。

3 学部長が指定した授業科目はGPA対象科目から除くことができる。

(成績証明書への記載)

第5条 GPAは、原則として成績証明書に記載しない。ただし、成績証明書提出先からGPA記載を求められたときは、累積GPA、本学の評価区分及びGPA算出方法を併せて記載するものとする。

(雑則)

第6条 この規定に定めるもののほか、GPAの取扱いに関し必要な事項は本学の学部長会において別に定めるものとする。

附 則

この規定は、平成31年4月1日から施行する。

この規定の施行前に行った成績評価及び単位の認定については、従前のとおりとする。

5. 不正行為者の懲戒処分に関する内規

- 1 この内規は、奥羽大学試験規程第10条第2項に基づき定める。
- 2 不正行為とは、受験に際し不正な方法をもって解答を作成するか又はそれを帮助する行為をいう。
- 3 試験を監督する者は、不正行為と認めた場合、本人にその旨を認知させた後直ちに退場させ、証拠品等を添え、状況報告書を学生部長に届け出る。
- 4 教授会の委嘱を受けた調査委員会は、事実の確認を行い、処分案を作成する。
- 5 教授会は停学処分を行う。
停学の期間は、2週間以上とする。
- 6 本内規の改廃は、教授会の議によるものとする。

附 則

この内規は、平成17年4月1日から施行する。

6. 奥羽大学歯学部臨床実習規程

(目的)

第1条 臨床実習は、臨床実習を行う学生（以下「臨床実習生」という。）が、診療に関する知識及び技能を修得するとともに、医療における人間関係、特に患者との関係についての理解に努め、併せて医の倫理を体得することによって資質の向上を図ることを目的とする。

(臨床実習委員会)

第2条 臨床実習に関する重要事項を調査、審議するために臨床実習委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(委員の構成)

第3条 委員は次の者をもって構成する。

- (1) 診療科長及び科目担当教授
- (2) 委員会が必要と認める者

2 委員長は病院長の職にあたる者をもってこれに当てる。

(委員会の招集)

第4条 委員会は毎月1回、委員長が招集することを原則とする。

2 会議の議長は委員長とする。

(臨床実習計画)

第5条 臨床実習計画は附属病院の診療日程に準じて委員会が策定する。

2 各科の実習計画は当該科で作成し、委員会の承認を得るものとする。

(臨床実習成績の評価及び判定)

第6条 各科の実習成績の評価及び判定は当該科の診療科長又は科目担当教授が行い、その結果を委員会に提出するものとする。

(臨床実習成績の総合判定)

第7条 臨床実習成績の総合判定は、前条の規定により提出された各科の実習成績の評価及び判定に基づき教授会が行うものとする。

(補充実習)

第8条 所定の臨床実習を終了しない者には補充実習を行わせことがある。

2 前項の規定に基づく補充実習は委員会で決定する。

(改廃)

第9条 この規程の改廃は委員会が発議して教授会の議決を経なければならない。

(制裁)

第10条 臨床実習生としての本分に悖り、又は病院の規律に違背した行為があると認められた者に対し、委員長は別に定めるところにより制裁を科すことがある。

附 則

この規程は、平成29年4月1日から施行する。

7. 奥羽大学歯学部臨床実習に関する不正行為に対する処罰内規

第1条 処罰は、学則第42条に該当する懲戒と、臨床実習規程第10条の制裁とする。

第2条 懲戒に該当する行為があると認められた者は、臨床実習委員会（「以下委員会」という。）で調査し、歯学部長へ報告する。

第3条 制裁に該当する行為があると認められた者は、委員会で協議し、歯学部長へ報告する。

第4条 制裁は、2週間未満の実習停止とする。

第5条 前条に該当する者は、委員会の議を経て、委員長がこれを命ずる。

2 ただし、1週間未満の実習停止に該当する者については、前項の規程にかかわらず、当該診療科長又は、科目担当教授がこれを命じ、委員長へ遅滞なく報告するものとする。

第6条 本内規に定める処罰の基準は次のとおりとする。

- (1) 懲戒（退学又は停学）に付される行為
 - a 病院外で診療行為を行ったとき
 - b 指導医を設定せず独自に診療行為を行ったとき
 - c 診療録、処方箋又は、それに準ずる指示書あるいは、報告書などを改変したとき

- (2) 懲戒（停学または戒告）
 - a 指導医の指示によらず実習したとき
 - b 検印等を偽造行使したとき
 - c しばしば出欠を偽証したとき
- (3) 2週間未満の実習停止に付される行為
 - a 出欠を偽証したとき
 - b 検印等に不正のあったとき
 - c 交付を受けた機械、材料等の取り扱いに不正のあったとき
 - d 指導医の指導にしばしば違背したとき
- (4) 1週間未満の実習停止に付される行為
 - a 各自所持すべき機械器具等の補充を命ぜられたにもかかわらず、その義務を履行しなかったとき
 - b 各自の責任として、弁償を命ぜられたにもかかわらず、その義務を履行しなかったとき
 - c 所定の服装をしなかったとき
 - d 許可なく指定の時間外に実習したとき
 - e 無断で欠席、早退又は、実習時間中に外出したとき
 - f 所定の機械、器具を持たず実習を行ったとき
 - g 患者に迷惑をかけたとき
 - h 指導医の指導に違背したとき

2 前項の定めるものの他は、委員会で前項に準じて決定するものとする。

第7条 この内規の改廃は、委員会において決する。

附 則

この内規は、平成29年4月1日から施行する。

8. 歯学部特待生について

(特待生の資格)

特待生の資格は、人物、成績、健康共に優秀で他の学生の模範と認められた者とする。

(特待生の種類)

- (1) 授業料の全額を免除する者
- (2) 授業料の半額を免除する者

(特待生の継続)

特待生の継続は進級試験の成績により合否を判定する。

- (1) 上記(1)の特待生は取得点数が80点以上の成績優等者
- (2) 上記(2)の特待生は取得点数が75点以上の成績良好者

(特待生の資格失効)

- (1) 休学期間が1年を超えるとき
- (2) 退学又は除籍となったとき
- (3) 学則による懲戒処分を受けたとき
- (4) 学業成績が不良のとき
- (5) その他特待生として適当でないと認められたとき

II. 遵守事項

1. 学籍について

1) 修業年限及び在学年限

- (1) 本学歯学部の修業年限は6年である。
- (2) 歯学部においては修業年限の2倍を超えて在学することはできない。
- (3) 在学期間は同一学年において3年を超えることはできない。

2) 休 学

- (1) 病気その他やむを得ない理由によって、引き続き3か月以上修学することができないと認められる者は、その事実を証明する書類を添え、保証人連署のうえ学長に願い出て、その許可を得て休学することができる。
- (2) 学長は、必要により休学を命ずることがある。
- (3) 休学期間は、当該年度限りとする。特別の事由があるときは、引き続き休学期間を延長することができる。ただし、通算して3年を超えることはできない。
- (4) 休学期間は、学則第3条の在学期間に算入しない。

3) 復 学

- (1) 休学の理由の止んだ者は、学長の許可を得て原学年に復学することができる。
- (2) 復学願には保証人の連署を必要とし、疾病によって休学した者は、本学附属病院又は本学が指定する医療機関の診断書を添付しなければならない。

4) 退 学

病気その他やむを得ない理由により退学しようとする者は、その理由を証明する書類を添え、保証人連署のうえ学長に退学願を提出して許可を受けなければならない。

- (1) 退学を願い出る場合は、退学願のほか、必ず学生証を添付しなければならない。
- (2) 病気により退学する場合は、必ず医師の診断書を添付しなければならない。

5) 除 稽

- (1) 次の各事項のいずれかに該当するときは、これを除籍とする。
 - ① 在学年数が12年を超えたとき、又は同一学年において3年を超えたとき。
 - ② 授業料の納付を怠り、督促を受けてもなお納入しないとき。
 - ③ 休学期間が通算して3年を超えたとき。

6) 再 入 学

退学した者又は除籍された者が2年以内に再入学を願い出たときは、選考のうえ、当該学部教授会の議を経て許可することができる。この場合には、既修授業科目の全部又は一部について再履修を命ずることがある。

7) 卒業証書及び学位の授与

大学に6か年以上在学し、所定の授業科目を履修し、かつ卒業試験に合格した者に対し卒業証書及び学士（歯学）の学位を授与する。

2. 履修の概要

1) 授業科目的区分

教育課程において開設する科目を授業科目といい、その内容によって教養系教育科目、基礎科学教育科目、口腔科学教育科目にこれを分けている。

2) 授業時間

「授業時間割」として、別に印刷配布される。授業の時間区分は次のとおりである。

第1時限	第2時限	第3時限	第4時限	第5時限	第6時限	第7時限
8:50~9:50	10:00~11:00	11:10~12:10	13:00~14:00	14:10~15:10	15:20~16:20	16:30~17:30

3) 掲示示

学生に対する公示、告示及び授業に関する事項は、Universal Passport RX 内「掲示板」に掲示する。

なお、掲示板には授業実施上周知を要する一切の事項のほか、学事部から個人に伝達する事項も掲示するので、最低1日1回以上確認することを習慣化し、各種連絡を見落とさぬよう十分に留意すること。
(掲示板閲覧方法：Universal Passport RX にログイン>「共通」を選択>「掲示板」を選択)

4) 休講

下記の場合、休講となるが、いずれも予め掲示によって連絡する。

- (1) 各授業科目の担当者において、やむを得ない事情が生じた場合。
- (2) 授業を休講としなければならない特別な大学行事を行う場合。
- (3) 休校の指示がなく、また特別な指示がない場合で、授業開始時間より30分を経過しても講義が開始されない場合。(この場合は、教務課で授業の有無を必ず確認すること。)

5) 補講

- (1) 休講があった場合、原則としてこれを補うための補講を行う。
- (2) 日程については、予め掲示によって連絡する。

6) 出席日数

各学年で履修するいずれの科目においても、各期授業時間数の80%に達しない者は、定期試験の受験資格を失うので注意すること。

7) 講義・演習・実習などに対する準備

事前にシラバスを確認し、次回行う内容を把握しておく。その上で、履修部分について教科書や実習書の内容を予習する習慣をつける(毎日30分以上)。

8) 講義・演習・実習などが終了した後の復習

講義・演習・実習が終了した直後は、履修した内容がまだしっかりと頭に残っている時間である。そのため、講義・演習・実習が終了したその日のうちに内容を復習する習慣をつける(毎日1時間以上)。

3. 試験と成績評価

1) 定期試験

- (1) 定期試験は、科目毎に学期末又は学年末に行う。
- (2) 定期試験は、講義を行った科目について行う。
- (3) 時間割については、試験開始の約1週間前までに掲示・配布によって発表する。
試験時間は、1科目を60分とする。

2) 総合試験

- (1) 年度末に総合試験を実施する。

3) 追試験

- (1) 追試験は、定期試験及び総合試験を欠席した者に対して願い出により行うことがある。
- (2) 試験を欠席し、追試験を希望する場合は、「欠席届」に証明書を添えて速やかに教務課へ提出しなければならない。なおかつ定められた期日に教務課で「追・再試験受験願」の手続きをしなければならない。
- (3) 追試験は、各期定期試験及び総合試験終了後に各々行う。
- (4) 追試験料は1科目4,000円とする。

4) 再試験

- (1) 再試験は、定期試験及び総合試験を受験して不合格となった者に対して、願い出により行うことがある。なお、試験結果（合否）については、試験終了後随時掲示により発表する。
- (2) 定期試験及び総合試験を受験せずに不合格となった科目については、再試験は行わない。
- (3) 再試験を希望する場合は、定められた期日に教務課で「追・再試験受験願」の手続きをしなければならない。
- (4) 再試験料は1科目4,000円とする。

5) 受験上の注意事項

- (1) 次の事項に該当する場合は、定期試験を受験することができない。
 - ① 授業料、その他諸納付金が未納の場合
 - ② 授業への出席日数が、各期授業時間数の80%に達しない者
 - ③ 学生証を所持していない場合
 - ④ 休学中の場合
 - ⑤ 受験科目の試験開始時刻に25分以上遅刻した場合
- (2) 試験場においては、次の事項を守らなければならない。
 - ① 受験中は、学生証を机上に提示しておくこと
 - ② 学生証を忘れた場合は、教務課において「仮学生証」の交付を受け、これを机上に提示すること（「仮学生証」の交付料は1日1,000円で、当日限り有効とする。）
 - ③ 試験開始後30分以上経過しなければ、答案を提出して退出することはできない
 - ④ 試験場における行動は、すべて監督者の指示に従わなければならない。監督者の指示に従わない場合は、受験を停止し、退場を命ずる
- (3) 次の場合は、その答案は無効とする。
 - ① 無記名の場合
 - ② 指定された試験会場で受験しなかった場合
 - ③ 他人の答案の「学籍番号」・「氏名」を書き直した場合

(4) 不正行為

- ① 受験中に不正行為を行った者に対しては、即時退場を命じ、その学期における評価を行わない。なお、学則による懲戒処分については、教授会の議を経て別に行う。
- ② 次の事項に該当する行為をなした場合は、これを不正行為と見なす。
 - ・私語、態度不良について注意を与えて改めない場合
 - ・カンニングペーパーの使用、又は机・辞書等への書き込み
 - ・他人の答案の書き直し、又は書き写した場合
 - ・許可されていない教科書等の参照
 - ・物品の貸借
 - ・他人が受験、又は他人に受験を依頼した場合
 - ・学籍番号・氏名等を故意に偽って記入した場合
 - ・問題用紙、及び答案を無断で試験会場外へ持ち出した場合
 - ・監督者の指示に従わない場合
 - ・その他不正行為と判断される行為を行った場合

6) レポートの提出

- (1) レポートは、授業担当教員及び掲示による指示に従って提出すること。
- (2) 提出期限を経過したレポートは受理しない。

7) 成績評価

(1) 成績評価

試験の成績は次の区分により評価する。

評定	合 格				不 合 格
評価	100 ~ 90点	89 ~ 80点	79 ~ 70点	69 ~ 65点	64点以下
	秀	優	良	可	不可
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0.0

(2) 成績発表

成績発表（最終評価）は年度末に行う。

(3) その他

- ・留年した場合は当該年度の科目を全て再履修し、成績評価を受けなければならない。
- ・累積GPAは、進級年度の学期GPAを計算する。

4. 各試験の受験資格, 評価の要件, 進級および卒業判定

1) 第1～4学年の定期試験の受験資格と実習評価の要件

当該科目における前期, 後期の出席率がいずれも80%以上であること。

2) 第5学年臨床実習の各期の終了試験の受験資格と実習評価の要件

各期における臨床実習出席率がいずれも80%以上であること。

3) 総合試験, 共用試験, 卒業試験の受験資格

- (1) 第1学年の総合試験1Dの受験資格: 朝礼, 総合演習1D, 科目選択ゼミナール, ES, HRの各出席率が全て80%以上であること。
- (2) 第2学年の総合試験2Dの受験資格: 朝礼, 総合演習2D, 科目選択ゼミナール, ESの各出席率が全て80%以上であること。
- (3) 第3学年の総合試験3Dの受験資格: 朝礼, 総合演習3D, 科目選択ゼミナール, ESの各出席率が全て80%以上であること。
- (4) 第4学年の共用試験(OSCE, CBT) および総合試験4Dの受験資格: 朝礼, 総合演習4D, ES, フィードバックの各出席率が全て80%以上であること。
- (5) 第5学年の総合試験5Dの受験資格: 朝礼, 総合演習5D, フィードバックの各出席率が全て80%以上であること。
- (6) 第6学年の卒業試験の受験資格: 各期朝礼, 各科目の講義, 各種フィードバック, 各試験(実力試験, 模擬試験), 各強化講義の出席率が全て80%以上であること。

※注意1 上記(1)～(6)に記載されている出席率は, 試験直前までの出席率とする。

※注意2 科目責任者の判断により出席が免除された場合は, その時間は出席として扱う。

4) 進級および卒業条件

- (1) 第1～4学年は, 各科目および各実習の最終評価で全て65点以上を取得し, かつ総合試験1～4Dで72.00%以上を取得した者を合格とする。
- (2) 第4学年は, CBT および OSCE に合格しなければ進級できない。
- (3) 第5学年は, 知識点と臨床実習最終評価でいずれも平均65点以上を取得し, なおかつ総合試験5Dで72.00%以上を取得した者を合格とする。また臨床実地試験(CPX), 一斉技能試験(CSX)の両方に合格することを臨床実習終了の要件とする。
- (4) 第6学年は, 3回の卒業試験で平均72.00%以上を取得した者を合格とする。

※受験資格の補足

- 注) 1 各期とは：第1学年から第4学年にあっては前期および後期、第5、6学年にあっては各期を別に定める。
- 注) 2 欠席扱いをしない事項（欠席届、忌引き届が必要）
 - ① 忌引き 本人の父母、子および配偶者；7日間
それ以外（祖父母、兄弟姉妹、配偶者の父母および兄弟姉妹）：3日間
 - ② 学校感染症による出停期間（医師からの診断書必要）
 - ③ 緊急に対処すべき危機が発生又は危機発生が予想される事態に、大学から自宅待機等の指示が発令された場合（連絡網やホームページ等で確認すること）
 - ④ 本学または公的機関から要請があった場合
 - ⑤ その他学生部委員会が別に定めることがある。
- 注) 3 欠席扱いをしない事項において、それぞれ届出書類（欠席届、忌引届、診断書など）が必要な場合は、欠席の後に出席した日から1週間以内に提出すること。1週間以内に提出がない場合は欠席とする。

III. 授業概要

エレクティブスタディ (ES) (第1～4学年 通年)

科目責任者：玉井利代子（感染・教授）

科目担当者：芹川 雅光（解剖）、中川 敏浩（組織）、
安部 仁晴（組織）、清浦 有祐（感染）、
玉井利代子（感染）、眞島いづみ（感染）、
遊佐 淳子（病理）、山崎 幹子（病理）、
鈴木 礼子（薬理）、柴田 達也（薬理）、
長岡 正博（薬理）、古山 昭（生理）、
加藤 靖正（生化）、前田 豊信（生化）、
石田 喜紀（材料）、大木 達也（材料）、
齋藤 龍一（材料）、廣瀬 公治（衛生）、
南 健太郎（衛生）、小林美智代（衛生）、
菊井 徹哉（修復）、山田 義重（修復）、
金澤 明昭（歯内）、高橋 慶壯（歯周）、
山崎 厚作（歯周）、羽鳥 弘毅（冠橋）、
雨宮 幹樹（冠橋）、伊藤 歩（冠橋）、
大友 悠資（冠橋）、内田 光洋（冠橋）、
高津 匠樹（有床）、松本 知生（有床）、
池田 敏和（有床）、内山 梨夏（有床）、
高橋 昌宏（イン）、奈田 憲二（イン）、
河村 享英（イン）、保田 穂（イン）、
御代田 駿（口外）、高橋文太郎（口外）、
山崎 信也（麻酔）、鈴木 史彦（高齢）、
安部 将太（麻酔）、北條健太郎（高齢）、
福井 和徳（矯正）、川鍋 仁（矯正）、
山野辺晋也（矯正）、島村 和宏（小児）、
舟山 敦雄（小児）、原田 卓哉（放射）、
茂呂祐利子（放射）

第1～4学年 学年主任およびクラス担任

1. 科目の概要

学年を問わず、主体性をもって、興味・関心を持つ分野・科目を選択し、当該分野・科目に出向して学修・研鑽する。それにより、将来の医療人として、主体的に考え、行動する姿勢を涵養する。

2. 一般目標

リサーチマインドをもって生涯学修・研修を続け、潜在能力を開発して飛躍できるよう、主体的に以下のアクションプランの中から興味あるものを選択し、自己研鑽する。

- 1) 頭頸部の構造の理解から臨床への応用を目指す（口腔解剖学）
- 2) 研究を通じて、組織学的実験結果から論理的思考を身につける（口腔組織学）
- 3) 微生物感染とそれに対する感染防御システムに関する専門知識の習得を目指す（口腔感染免疫学）
- 4) 病理診断に必要な知識を学生が自主的に修得することを目指す（口腔病理学）
- 5) 歯科医療現場で必要な薬理学の専門知識の修得を目指す（歯科薬理学）
- 6) 研究活動に触れ必要な知識を探索し学習する（口腔生理学）
- 7) 口腔生化学の専門知識の修得と応用を目指す（口腔生化学）
- 8) 歯科材料の特性、操作を修得し、その応用について検討する（生体材料・歯科材料学）
- 9) 口腔衛生学に関する図上演習を通じて専門知識の修得と応用を目指す（口腔衛生学）
- 10) 保存修復治療で使用する機材、薬剤などに対する専門知識の習得と応用に関する知識を追求する（保存修復学）
- 11) 歯内療法学の専門的知識の確認と修得を目指す（歯内療法学）

- 12) 歯周病と歯周治療の専門知識の習得を目指す（歯周病学）
- 13) 冠橋義歯補綴学の専門知識の修得と応用を目指す（冠橋義歯補綴学）
- 14) 有床義歯補綴と歯科医療における意義を説明する（有床義歯補綴学）
- 15) 口腔インプラント学が多領域連携包括的学問であることを認識する（口腔インプラント学）
- 16) 将来の歯科医学の発展のために、口腔外科・口腔内科の臨床症例に携わり、現在より優れた治療概念を探求し、新知見を発見する（口腔外科・口腔内科学）
- 17) 歯科麻酔学の臨床／研究／教育を早期に体験する（歯科麻酔学）
- 18) 不正咬合の診断に必要な歯科矯正学の習得を目指す（歯科矯正学）
- 19) 小児の心身の特徴を知り、治療と指導に必要な基本的知識の習得と応用を目指す（小児歯科学）
- 20) 歯科放射線学に関する専門知識の修得と応用を目指す（放射線診断学）
- 21) 摂食嚥下リハビリテーションの体験と基本的な歯科医療の知識の習得を目指す（地域医療支援歯科）

3. 到達目標

- 1) 主体性をもって、興味・関心を持つ分野・科目を選択できる。
- 2) 主体性をもって、テーマ・目標を決めることができる。
- 3) 主体性をもって、テーマ・目標に対する方針を検討し、実行できる。
- 4) 成果・結果をまとめ、発表することができる。

4. 履修の進め方

出向した分野・科目において、テーマ・目標を考えながら、生涯学修を継続できるよう個人または少人数グループ指導体制の形態で履修する。各分野・科目ごとの特色やルールがあるので、担当教員とよく相談しながら進める。

5. 準備学修

分野・科目紹介冊子（配布方法は別途指示）を参考に、興味を持った分野や科目の詳細な情報を収集しておく（15分）。

6. 評価方法

毎回出席を確認する。80%以上の出席がなければ総合試験の受験資格を失う。

【出席確認方法】

基本的に、出向した分野・科目の教員が出席を確認する。分野・科目に出向しない回（自習）は、出席扱いとする。また、ESの前時限が実習の場合、その日のESは出席扱いとする。

【注意点】

- ① ESの前時限の実習が延長した場合は、延長実習が終了次第、出向先の分野・科目のESに合流すること。
- ② 出向先の分野・科目の教員の予定により、分野・科目ごとに休講する場合があるので、担当教員の予定を確認して行動すること。
- ③ その他、不明な点は、出向先の分野・科目の担当教員とよく相談すること。

7. 教本

なし

8. 参考書

出向した分野・科目において、必要に応じて、紹介する。

9. 授業内容と日程

回	月日	タイトル	授業内容	備考	担当
1	9／3(火)	分野・科目選択アンケート	1～4年生(科目変更希望者)はアンケートに記入。	ユニバーサルパスポートを使用予定。	各分野
2	9／5(木)	分野・科目配属調整期間	自習		各分野
3	9／10(火)	分野・科目配属調整期間	自習		各分野
4	9／12(木)	分野・科目配属調整期間	自習		各分野
5	9／17(火)	分野・科目配属調整期間	自習		各分野
6	9／19(木)	分野・科目配属調整期間	自習		各分野
7	9／24(火)	分野・科目配属調整期間	自習		各分野
8	9／26(木)	分野・科目配属調整期間	自習		各分野
9	10／1(火)	ES-1	各分野・科目毎のオリエンテーション	各分野・科目に出向	各分野
10	10／3(木)	ES-2	各分野・科目毎のテーマ	各分野・科目に出向	各分野
11	10／8(火)	ES-3	各分野・科目毎のテーマ	各分野・科目に出向	各分野
12	10／10(木)	ES-4	各分野・科目毎のテーマ	各分野・科目に出向	各分野
13	10／15(火)	ES-5	各分野・科目毎のテーマ	各分野・科目に出向	各分野
14	10／17(木)	ES-6	各分野・科目毎のテーマ	各分野・科目に出向	各分野
15	10／22(火)	ES-7	各分野・科目毎のテーマ	各分野・科目に出向	各分野
16	10／24(木)	ES-8	各分野・科目毎のテーマ	各分野・科目に出向	各分野
17	10／29(火)	ES-9	各分野・科目毎のテーマ	各分野・科目に出向	各分野
18	10／31(木)	ES-10	各分野・科目毎のテーマ	各分野・科目に出向	各分野
19	11／5(火)	ES-11	各分野・科目毎のテーマ	各分野・科目に出向	各分野
20	11／7(木)	ES-12	各分野・科目毎のテーマ	各分野・科目に出向	各分野
21	11／12(火)	ES-13	各分野・科目毎のテーマ	各分野・科目に出向	各分野
22	11／14(木)	ES-14	各分野・科目毎のテーマ	各分野・科目に出向	各分野
23	11／19(木)	ES-15	各分野・科目毎のテーマ	各分野・科目に出向	各分野
24	11／21(木)	ES-16	各分野・科目毎のテーマ	各分野・科目に出向	各分野

回	月日	タイトル	授業内容	備考	担当
25	11／26(火)	ES-17	各分野・科目毎のテーマ	各分野・科目に出向	各分野
26	11／28(木)	ES-18	各分野・科目毎の発表会	本年度出向最終日	各分野
27	12／3(火)	後期の振り返り1	自習		各分野
28	12／5(木)	後期の振り返り2	自習		各分野
29	12／10(火)	後期の振り返り3	自習		各分野
30	12／12(木)	後期の振り返り4	自習		各分野

科目選択ゼミナール（第1～3学年 通年）

科目責任者：石田 喜紀（材料・准教授）

科目担当者：①石田 喜紀（材料）、②斎藤昇太郎（化学）、
③今井 元（生物）、④菊地 尚志（物理）、
⑤本多 真史（日本語）、⑥佐藤 歩（心理）、
⑦長峯 英樹（英語）、⑧荒木 威（物理）、
⑨阿部 匠聰（化学）、⑩前田 豊信（生化）、
⑪神林 直大（生化）、⑫安部 仁晴（組織）、
⑬芹川 雅光（解剖）、⑭大須賀謙二（生理）、
⑮古山 昭（生理）、⑯玉井利代子（感染）、
⑰眞島いづみ（感染）、⑱加藤 靖正（生化）、
⑲柴田 達也（薬理）、⑳鈴木 礼子（薬理）、
㉑長岡 正博（薬理）、㉒南 健太郎（衛生）、
㉓廣瀬 公治（衛生）、㉔小林美智代（衛生）、
㉕遊佐 淳子（病理）、㉖山崎 幹子（病理）、
㉗金 秀樹（口外）、㉘川原 一郎（口外）、
㉙御代田 駿（口外）、㉚小嶋 忠之（口外）、
㉛高橋文太郎（口外）

1. 科目の概要

不得意、あるいは苦手な科目を少人数体制で指導する。

2. 一般目標

- 基礎化学：歯学における化学の重要性を理解した上で、基本的な元素や化合物、生体関連物質の名称・構造・性質・反応を説明できるようにする。
- 基礎生物学：人体の体制（解剖と生理）の全体像と発生過程を系統的に説明できるようにする。
- 基礎物理学：物理学に基づいた歯科医師としての客観的、合理的な判断力を養うために物理学の普遍性とその応用の広範さを理解する。
- 統計数理学：統計学の方法を理解して、歯科医師としての客観的、合理的な判断力を養う。
- 日本語学：歯科医療人に必要な、「読む、聞く、話す、書く、考える」の基礎力を修得する。
- 心理学：先ず、心理学の代表的な理論や人間理解の方法について説明するために、心の探究の歴史を理解する。続いて、病む人の心理ならびにその援助法にあたり、医療従事者として配慮すべきことを考えるために、臨床心理学を習得する。
- 医療倫理学：医療行為の特殊性を鑑み、歯科医師はその職に特有かつ道徳的な規範と自律倫理が求められることを理解し、全ての医療従事者の職業上の義務と社会における医療のあり方について検討し、問題解決のための具体的指針を習得する。
- 臨床心理学：臨床心理学の基礎を学び、人間が人間を心理的に支援することの意味を理解する。臨床心理学の症例を学び、医療者として患者を尊敬することの重要性を理解する。臨床心理学から学んだ知識を生かし、自己のパーソナリティ特性を理解する。
- 英 語：歯科医療の専門家として、最新かつ広範囲な情報を日常的に吸収し続けていく必要があることを理解し、英語のインプット（読む・聞く）力の基礎を習得する。
- 生物学：歯科基礎科目的知識を理解・習得するために、必要な生物学の知識を身につける。
- 物理学：物質の物理的、電磁的な性質に対する基礎的な知識を習得する。
- 化 学：物質量や濃度の計算ができ、化学反応式を記述し、化学変化の量的関係を説明できる。
- 解剖学・口腔解剖学：正常な人体の形態と構造について理解する。

- 口腔組織学：細胞、組織、人体諸器官の正常構造と微細構造を機能と結び付け、理解する。
- 口腔生理学：口腔生理学の基礎的事項を確認して身につける。
- 口腔感染免疫学 I：微生物の基本的性状、病原性と感染によって生じる病態を理解する。
- 生体材料・歯科材料学：生体材料、歯科材料の分類、組成および特性を学びその正しい使用法を理解する。
- 口腔生化学：生体を構成する成分と機能、代謝について理解を深める。
- 歯科薬理学：薬物の体内動態、薬理作用と作用機序、副作用についての知識を修得する。
- 公衆衛生学：集団・社会の視点から健康と疾病を理解することができる。
- 口腔感染免疫学 II：免疫系を理解し、生体防御機構としての免疫反応を理解する。
- 口腔衛生学：口腔の健康を保持・増進するために必要な基本的内容を理解する。
- 社会歯科学：歯科医療に関連する法令の基本的内容を習得する。
- 口腔病理学：歯科疾患・口腔疾患を病理診断できるようになるため、病理学総論と口腔病理学を学ぶ。
- 口腔外科学 I：頸・口腔領域の疾患に罹患した患者の健康維持・増進を図るための基礎的および臨床的な知識を習得する。
- 口腔内科学：全身疾患を把握し、口腔疾患を診断できるようになるために、口腔内科学の履修範囲で理解が乏しかった部分を重点的に習得する。
- 歯科医療管理学：安心・安全な歯科医療を提供するために必要な歯科医療管理の基礎的事項を理解する。

3. 到達目標

- 自ら問題点を挙げ、改善することができる。
- 苦手な分野・教科を克服することができる。
- 各科目で設定された基準をクリアすることができる。

4. 履修の進め方

設定された基準に到達していない科目を少人数体制で集中的に指導する。

- 各学年（第1学年～第3学年）の科目のうち、不得意あるいは苦手な科目を選択する。
 - プレテストを行い、学力を客観的に評価し、科目を選択する。もしくは科目担当者が受講者を指名する。
 - 授業中の小試験や授業の理解度から科目を選択、または科目担当者が受講者を指名してもよい。
 - 後期は前期の定期試験の結果から科目を選択、または科目担当者が受講者を指名してもよい。
 - 第2学年と第3学年では前年度の定期試験の結果から科目を選択、または科目担当者が受講者を指名してもよい。
- 上記の①～⑤に該当した学生はその科目の科目選択ゼミナールを受講する。

5. 準備学修

選択科目の授業内容を確認し、その内容を復習する。

事前学習：当該科目の教科書、ノートを確認する（10分）

事後学習：授業内容のノートや資料の重要項目を確認する（15分）。

6. 評価方法

プレテスト、各科の小試験および定期試験の結果などから各科目担当者が受講者を指名する。指名された受講者は、該当する科目のゼミに出席する。すべての科目で設定学力以上の場合は受講する必要はなく、出席に相当する。出席率が

80%未満であった場合、別途記載の規定に従って 1 D, 2 D, 3 D 総合試験の受験資格を喪失する。

7. 教本

選択した科目で使用している教科書を用いる。

8. 参考書

必要な場合は各科目で指定される。

9. 授業内容と日程

1) 第1学年

回	月日	タイトル	担当者
1	4/17	オリエンテーション	①
2	5/15	基礎化学	②
3	5/22	基礎物理学	③
4	5/29	日本語学	⑤
5	6/5	基礎生物学	③
6	6/12	統計数理学	④
7	6/19	基礎化学	②
8	6/26	心理学	⑥
9	7/3	英語	⑦
10	7/10	基礎物理学	⑧
11	7/17	日本語学	⑤
12	7/24	基礎生物学	③
13	9/3	基礎生物学	③
14	9/4	日本語学	⑤
15	9/10	統計数理学	④
16	9/11	基礎化学	②
17	9/17	基礎物理学	⑧
18	9/18	英語	⑦
19	9/24	基礎生物学	③
20	9/25	基礎化学	②
21	10/1	基礎物理学	⑧
22	10/2	心理学	⑥
23	10/8	日本語学	⑤
24	10/9	基礎化学	②
25	10/15	基礎物理学	③
26	10/16	基礎生物学	⑧
27	10/22	臨床心理学	⑥
28	10/23	基礎化学	②
29	10/29	基礎物理学	⑧
30	10/30	基礎生物学	③
31	11/5	日本語学	⑤
32	11/6	英語	⑦
33	11/12	基礎生物学	③
34	11/13	医療倫理学	⑪
35	11/19	基礎物理学	⑧
36	11/20	基礎化学	②
37	11/26	日本語学	⑤
38	11/27	統計数理学	④
39	12/3	基礎生物学	③
40	12/4	基礎化学	②
41	12/10	基礎物理学	⑧
42	12/11	日本語学	⑤

2) 第2学年

回	月日	タイトル	担当者
1	4/10	オリエンテーション	①
2	4/12	化学	⑨
3	4/17	基礎生物学	③
4	4/19	物理学	④
5	4/24	基礎生物学	③
6	4/26	化学	⑨
7	5/8	基礎生物学	③
8	5/10	物理学	④
9	5/15	基礎生物学	③
10	5/22	プレテスト	①
11	5/29	プレテスト	①

12	6/5	口腔組織学	⑫
13	6/7	口腔解剖学	⑬
14	6/12	口腔生理学	⑭⑮
15	6/14	生物学	⑩⑪
16	6/19	解剖学	⑬
17	6/21	口腔感染免疫学 I	⑯⑰
18	6/26	口腔組織学	⑫
19	6/28	口腔解剖学	⑬
20	7/3	化学	⑨
21	7/5	物理学	④
22	7/10	解剖学	⑬
23	7/12	生物学	⑪
24	7/17	口腔生理学	⑭⑮
25	7/19	口腔感染免疫学 I	⑯⑰
26	7/24	口腔組織学	⑫
27	7/26	口腔解剖学	⑬
28	9/6	口腔解剖学	⑬
29	9/13	口腔感染免疫学 I	⑯⑰
30	9/20	口腔生理学	⑭⑮
31	9/27	口腔組織学	⑫
32	10/4	解剖学	⑬
33	10/11	プレテスト	①
34	10/18	生体材料・歯科材料学	①
35	10/25	歯科薬理学	⑯
36	11/1	口腔生理学	⑭⑮
37	11/8	口腔感染免疫学 I	⑯⑰
38	11/15	口腔解剖学	⑬
39	11/22	口腔組織学	⑫
40	11/29	口腔生化学	⑯
41	12/6	公衆衛生学	⑯
42	12/13	解剖学	⑬

3) 第3学年

回	月日	タイトル	担当者
1	4/12	生体材料・歯科材料学	①
2	4/19	口腔感染免疫学 II	⑯⑰
3	4/26	口腔生化学	⑯
4	5/10	歯科薬理学	⑯⑰⑲
5	5/17	口腔生理学	⑭⑮
6	5/24	プレテスト	①
7	5/31	プレテスト	①
8	6/7	社会歯科学	⑯
9	6/14	口腔生理学	⑭⑮
10	6/21	口腔感染免疫学 II	⑯⑰
11	6/28	口腔衛生学	⑯⑰⑲
12	7/5	歯科薬理学	⑯⑰⑲
13	7/12	口腔病理学	⑯⑰
14	7/19	口腔生化学	⑯
15	7/26	生体材料・歯科材料学	①
16	9/4	生体材料・歯科材料学	①
17	9/11	口腔感染免疫学 II	⑯⑰
18	9/18	口腔生化学	⑯
19	9/25	口腔病理学	⑯⑰
20	10/2	口腔衛生学	⑯⑰⑲
21	10/9	口腔生理学	⑯⑰
22	10/16	社会歯科学	⑯
23	10/23	歯科薬理学	⑯⑰⑲
24	10/30	口腔生化学	⑯
25	11/6	口腔病理学	⑯⑰
26	11/13	口腔衛生学	⑯⑰⑲
27	11/20	口腔外科学 I	⑯⑰⑲⑳
28	11/27	口腔内科学	⑯
29	12/4	歯科医療管理学	⑯
30	12/11	口腔病理学	⑯⑰

総合演習1D（通年）

科目責任者：今井 元（生物・准教授）

科目担当者：①今井 元（生物）、②斎藤昇太郎（化学）、
③本多 真史（日本語）、④廣瀬 公治（衛生）、
⑤阿部 匡聰（化学）、⑥荒木 威（物理）、
⑦長峯 英樹（英語）、⑧小林美智代（衛生）、
⑨前田 豊信（生化）、⑩清浦 有祐（感染）、
⑪鈴木 札子（薬理）、⑫菊地 尚志（物理）、
⑬佐藤 歩（心理）、⑭山野辺晋也（矯正）、
⑮山崎 信也（麻酔）、⑯鈴木 史彦（高齢）、
⑰福井 和徳（矯正）、⑱高橋文太郎（口外）、
⑲長岡 正博（薬理）、⑳臨床各科担当教員、
㉑小板橋 勉（非常勤）、㉒押尾 茂（薬学部）、
㉓木皿 重樹（薬学部）、㉔伊藤 順位（薬学部）、
㉕大原 宏司（薬学部）

※この科目は、主に診療経験のある歯科医師及び一般企業勤務経験のある教員が担当する

1. 科目の概要

高度な専門知識と技術を備えた人間性豊かな歯科医師になるためには、チーム医療を実践できる教養と能力が必要である。チーム医療を実践するためには、他の医療スタッフと互いの専門性を尊重できる確かな教養、コミュニケーション能力とプロフェッショナリズムの修得が必要である。奥羽大学は、歯学と薬学の医療人を養成する全国でも数少ない大学であるため、これを活用し、2学部連携した『チーム医療学演習』を行い、チーム医療の基礎となる医療人として教養、心構えと態度を修得する。さらに、学期末の『効果的な学修法』において、医療人として身につけるべき、高度な専門知識の学修方法を修得する。また、学年末の総合試験に合格できる総合力を身につける。

2. 一般目標

医療人として確かな教養、必要な心構えと態度（道徳観・倫理観・創造力・探求心・研究志向・問題解決力・コミュニケーション・プロフェッショナリズム）を理解した上で、チーム医療を実践できる豊かな人間性を修得する。また、学年末の総合試験に合格できる総合力を身につける。

3. 到達目標

- 1) 医療人としての社会的立場を理解できる。（倫理観）
- 2) 医療人としての良心と尊厳や、人道的な配慮を理解できる。（道徳観）
- 3) 歯科医師に対する現代社会のニーズを理解できる。（創造力）
- 4) 社会の新しいニーズに対応できる姿勢を身につける。（探求心）
- 5) 自ら問題点を抽出し、解決する研究姿勢を身につける。（研究志向・解決力）
- 6) 医療人として好ましい態度で他者と接することができる。（態度）
- 7) 医療人として適切な発言・行動を身につける。（コミュニケーション能力）
- 8) 他医療職を尊重した円滑なチーム医療を行う。（プロフェッショナリズム）
- 9) 薬害の原因、健康被害、社会的影響を考察する。（患者中心の医療・至誠）
- 10) 医療人として身につけるべき高度な専門知識の学修方法を修得する。（医療人としての教養）
- 11) 学年末の総合試験に合格できる総合力を身につける。

4. 履修の進め方

【チーム医療学演習】と【効果的学修法】に分けて、以下のように履修を進める。

（1）【チーム医療学演習】

- 1) 講演+スマートグループ・ディスカッション（SGD）形式の場合
①学内や学外の特別講師をお招きし、講演を聴講する。
②講演後、SGDで要点を抽出し、プロフレムマップ／メモリーツリーを作成する。
③項目にまとめて提出し、SGDに対するレポートを作成する。
- 2) 演習形式（病院見学・MT研修・ワールドカフェ・問題解決型演習）の場合
①体験した事や議論内容の要点を抽出し、レポートを作成する。

（2）【効果的学修法の修得】

チーム医療学演習が早く終わった場合、補講や演習で行う場合がある。
補講の科目的課題に解答し、問題解決型の演習を行い【1D総合試験】の準備を行う。
日程時間割は、再掲示される。

5. 準備学修

- 1) 【チーム医療学演習】の事前学修：シラバスやユニバーサルデザインを確認し、必要な準備を行う。
①講演や演習の場所と集合時間は掲示で確認しておく。
【注意：講演によっては、4限のHRの時間から開始となる】
中央棟6階教3／第2講義棟第1講義室／中央棟5階模型実習室／講義棟第2講義室／病院棟5階臨床講義室など（30分）
- 2) SGDの方法（KJ法、ワールドカフェ、PBL、TBL）などについて調べる。
チーム医療学の事後学修：実験観察で得られたスケッチやデータをもとに、レポートを期日までに作成し提出する。この際、結果を下記の教本（配布資料）等で得た情報をもとに解釈し、与えられた課題の意義を理解する。（120分）
- 2) 【効果的学修法】の事前学修：各教養科目的シラバスに掲載された方法に準ずる。

6. 評価方法

チーム医療学については、一定基準以上を満たしたレポートの提出をもって出席したとみなし、80%以上の出席で、1D総合試験の受験資格を取得できる。年度末に行う、1D総合試験の本試験または、追・再試験において、72.00%以上を合格とする。

7. 教本

チーム医療学演習：指定しない。スライドや配布資料などにより進める。

効果的学修法：各教養科目で指定された教科書に準ずる。

8. 参考書

各科目的教本に準ずる。

9. 授業内容と日程

(コ:コアカリ記号, 国:国家試験出題基準, 担:担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1 2	4／8 4, 5限	第1回チーム 医療学演習： 特別講演(1) ／演習	『効果的な学 習法・学習態 度・体験談』 演習：レポー ト作成	講演： 研修歯科医・ 社会人大学院 生・附属病院 助教 演習： 今井 元 (生物)	(1) (6) (8) (22)
3	4／8 6限	第2回チーム 医療学演習： 特別講演(2) ／演習	『コミュニ ケーションで 大切にしてほ しいこと』 演習：レポー ト作成	講演： 佐藤 歩 (心理) 演習： 佐藤 歩 (心理) D-2-1)／ 総VII-コ	(13) (21)
4 5 6	4／15 4, 5, 6限	第3回チーム 医療学演習： 特別講演(3) ／演習	『歯科医師の 未来像』 演習：SGD ／レポート／ 補講	講演： 鈴木史彦 (高齢) 演習： 今井 元 (生物)	(1) (14) (16)
7 8 9	4／22 4, 5, 6限	第4回チーム 医療学演習： 特別講演(4) ／演習	『C B T ・ OSCE・卒業 試験につい て』 演習：SGD ／レポート作 成	講演： 山崎信也 (麻酔) 演習： 山崎信也 (麻酔) レポート： 今井 元 (生物)	(1) (6) (15)
10 11 12	5／13 4, 5, 6限	第5回チーム 医療学演習： 特別講演(5) ／演習	人間性豊かな 医療人(問題 解決型演習) 演習：SGD ／レポート／ 補講	講演： 廣瀬公治 (衛生) 演習： 今井 元 (生物) PR-01～06	(1) (4)
13 14 15	5／20 4, 5, 6限	第6回チーム 医療学演習： 特別講演(6) ／SGD	『ワールドカ フェ』 演習：SGD ／レポート作 成	講演： 山崎信也 (麻酔) 演習： 山崎信也 (麻酔) レポート： 今井 元 (生物)	(1) (6) (8) (15)
16 17 18	5／27 4, 5, 6限	第7回チーム 医療学演習： 特別講演(7) ／演習	『方言の魔術 と歯科医療』 演習：レポー ト作成／補講	講演： 本多真史 (日本語) 演習： 本多真史 (日本語) PR-01～06, LL-01～05, RE-01～06, CM-01～05, D-2-1-1-1／ 必-8-ウ-abcde	(1) (3)

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
19 20	6／3 4, 5限	第8回チーム 医療学演習： 特別講演(8) ／演習	『健康と「化 学物質」の考 え方』 演習：SGD ／レポート／ 補講	講演： 斎藤昇太郎 (化学) 演習： 斎藤昇太郎 (化学) A-1-1), 必12-イ	(2) (7)
21	6／3 6限	第9回チーム 医療学演習： 特別講演(9) ／演習	『歯科医療に おける英語の 重要性』 演習：SGD ／レポート／ 補講	講演： 長峯英樹 (英語) 演習： 長峯英樹 (英語) C-7-1／ 必12-ウ	(2) (7)
22 23 24	6／10 4, 5, 6限	第10回チーム 医療学演習： 特別講演(10) ／演習	『歯って何だ ろう?』 演習：SGD ／レポート／ 補講	講演： 鈴木礼子 (薬理) 演習： 今井 元 (生物) RE, 総II-5-ア, イ	(1) (11)
25 26 30	6／17 4, 5, 6限	第11回チーム 医療学演習： 特別講演(11) ／演習	『歯はどこ からくるの か?』 演習：SGD ／レポート／ 補講	講演： 今井 元 (生物) 演習： 今井 元 (生物) RE, A-2-1, -4／ 必5-ア, 総II-8-ア	(1) (6)
31 32 33	6／24 4, 5, 6限	第12回チーム 医療学演習： 特別講演(12) ／演習	『B型肝炎に 対する正しい 知識とその予 防』 演習：SGD ／レポート／ 補講	講演： 廣瀬公治 (衛生) 演習： 今井 元 (生物) C-3-2-5	(1) (4)
34 35 36	7／1 4, 5, 6限	第13回チーム 医療学演習： 特別講演(13) ／演習	『病院見学の 意義、医療事 故、院内感 染』 演習：SGD ／レポート／ 補講	講演： 福井和徳 (矯正) 演習： 今井 元 (生物) C-3／ 必2-ウ, カ, キ	(1) (4) (17)
37 38 39 40	7／8 4, 5, 6, 7限	第14回チーム 医療学演習： 特別講演(14) ／演習	『地域包括ケ ア』 演習：SGD ／レポート／ 補講 『要介護高齢 者への歯科医 療について』	講演： 清野晃孝 (病院) 演習： 今井 元 (生物) C-4-3／ 必2-イ-f	(1) (9) (14) (18) (19) (22)
41 42 43 44	7／22 4, 5, 6, 7限	第15回チーム 医療学演習： 特別講演(15) ／演習	『多職種協働 の重要性：奥 羽大学附属病 院における地 域医療研修に ついて』 演習：SGD ／レポート／ 補講 『多職種協働 の重要性』	講演： 鈴木史彦 (高齢) 演習： 今井 元 (生物) C-1-3／ 必2-ウ	(1) (9) (14) (18) (19) (22)

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
45	9/2 6限	第16回チーム 医療学演習-1 : 特別講演 (16-1) / 演 習	『大学教員を を目指す諸君に 伝えたいこ と』 演習: レポー ト作成	講演: 清浦有祐 (感染)	① ⑩
46	9/2 7限	第16回チーム 医療学演習-2 : 特別講演 (16-2) / 演 習	『1D 総合試 験の学修法 : 出題科目・出 題数・合格基 準について』 演習: レポー ト提出 / 補講	演習: 今井 元 (生物)	① ⑩
47	9/30 6, 7限	第17回チーム 医療学演習 : 特別講演(17) / 演習	『データ解析 入門』 演習: データ 解析	講演: 荒木 威 (物理)	⑥ ⑫
48				演習: 荒木 威 (物理) IT-04 / 必12-イ	
49	10/7 6, 7限	第18回チーム 医療学演習 : 特別講演(18) / 演習	『初めての歯 科の化学』 演習: 問題演 習	講演: 斎藤昇太郎 (化学)	② ⑤
50				A-4-1-3, 4, 8, 9, C-4-2, C-5-4, / 必2-キ, 総I-7-ア	
51	10/21 6, 7限	第19回チーム 医療学演習 (19) : 特別講 演(19) / 演習	『微生物と共 に生きる : 我々の古い友 人たち』 演習: レポー ト / 補講	講演: 小林美智代 (衛生)	① ⑧
52				A-4-1-3, 4, 8, 9, C-4-2, C-5-4, / 必2-キ, 総I-7-ア	
53	10/28 4限	第20回チーム 医療学演習 - 1 : 特別講演 (20-1) / 演 習	『薬害とは何 か : 薬害と薬 物の副作用の 違い』 演習: レポー ト作成	講演: 鈴木礼子 (薬理)	① ⑪
				演習: 今井 元 (生物)	
				A-6-1-2, A-6-4-1 / 必2-キ, 必6-イ	
54	10/28 5, 6限	第20回チーム 医療学演習 - 2 : 特別講演 (20-2) / 演 習	『サリドマイ ド薬害と手や 足の発生の関 係』 演習: 課題 (手や足の発 生)	講演: 今井 元 (生物)	① ⑪
55				演習: 鈴木礼子 (薬理)	
				A-6-1-2, A-6-4-1 / 必2-キ, 必6-イ	

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
56	11/11 4, 5, 6限	第21回チーム 医療学演習 : 特別講演(21) / 薬害合同演 習(1)	演題: 『薬害 (サリドマイ ド)と社会』 演習: SGD / レポート作 成「薬害を防 ぐために臨床 現場に求めら れることは」 「認知症を近 親者に伝える 場合の注意点 は」	講演: 増山ゆかり先生 (財)いしづえ サリドマイド 福祉センター 常任理事 演習: 伊藤頼位 (薬学部) / 今井 元 (生物) A-6-1-2, A-6-4-1 / 必2-ケ, 必6-イ	① ⑨ ② ⑤ ②5
57					
58					
59	11/18 4, 5, 6限	第22回チーム 医療学演習 (22) : 特別講 演 / 薬害合同 演習(2)	『認知症サ ポーター養成 講習』 演習: SGD / レポート / 補講「認知症患者 さんに対応す る際に必要な こと」「認知症を近 親者に伝える 場合の注意点」	講演: 押尾 茂 (薬学部) 演習: 伊藤頼位 (薬学部) / 今井 元 (生物) C-1-3 / 必2-ウ	① ⑨ ② ⑤ ②5
60					
61					
62	11/25 4, 5, 6限	第23回チーム 医療学演習 (23) : 特別講 演 / 薬害合同 演習(3)	『B型肝炎の 正しい知識と 患者の現状に について』 演習: SGD / レポート / 補講「B型肝炎患 者の心の痛みを 緩和するた めに、医療 チームが考 えるべきこと は何か」	講演: 小淵真理子先生, B型肝炎患者様 演習: 伊藤頼位 (薬学部) / 今井 元 (生物) C-3-2-5, 必2-カ, キ	① ⑨ ② ⑤ ②5
63					
64					
65	12/2 4, 5, 6限	第24回チーム 医療学演習 (24) : 特別講 演(24) / 演習	『総合病院に おける歯科の 役割とは』 演習: レポー ト / 補講「総合病院に おける歯科の 役割」	講師: 小板橋勉 (非常勤) 高橋太郎 (口外) 演習: 今井 元 (生物) 「顔面裂・口蓋 裂の発生機 序」 C-1-3 / 必2-ウ	① ⑧ ②1
66					
67					
68	12/9 4, 5, 6限	第25回チーム 医療学演習 : 特別講演(25) / 演習	『歯科医師会 と歯科医師の 将来のため に』 『奥羽大学歯 学部同窓会の 役割と活動』	講師: 小板橋勉 (非常勤) 高橋文太郎 (口外) 演習: 今井 元 (生物) 「神経系の発 生機序: 先天 性疾患」 C-1-3 / 必2-ウ	① ⑧ ②1
69					
70					

総合演習2D (通年)

科目責任者：玉井 利代子（感染・教授）

科目担当者：①玉井利代子（感染）、②菊地 尚志（物理）、
 ③阿部 匡聰（化学）、④今井 元（生物）、
 ⑤宇佐美晶信（解剖）、⑥安部 仁晴（組織）、
 ⑦川合 宏仁（生理）、⑧加藤 靖正（生化）、
 ⑨鈴木 礼子（薬理）、⑩石田 喜紀（材料）、
 ⑪荒木 威（物理）、⑫斎藤昇太郎（化学）、
 ⑬前田 豊信（生化）、⑭大須賀謙二（生理）、
 ⑮古山 昭（生理）、⑯芹川 雅光（解剖）、
 ⑰小林美智代（衛生）

※この科目は、主に診療経験のある歯科医師が担当する。

1. 科目の概要

臨床実習開始前までに習得すべき歯科医学的知識を総合的に理解することを目的として、2学年までに履修する科目を中心に、知識の確認を行う。また、学年末の総合試験に合格できる総合力を身につける。

2. 一般目標

歯学部における専門科目を十分理解するために、その基礎となる知識の習得を目指す。また、学年末の総合試験に合格できる総合力を身につける。

3. 到達目標

- 物質の物理的、電磁的な性質に関する基礎的な原理・法則を説明できる。
- 基本的な元素や化合物、生体関連物質の名称・構造・性質・反応を説明できる。
- 人体の正常な形態と構造を説明できる。
- 細胞、組織、口腔諸器官の正常微細構造と発生過程を説明できる。
- 生体機能、生命現象の機序を説明できる。
- 生体を構成している主な物質の分子構造と機能について説明できる。
- 病原微生物、生体防御のメカニズムおよび感染防御手段（滅菌、消毒、化学療法）について説明できる。
- 薬理作用、薬物の投与方法と体内動態に関する基礎的事項を説明できる。
- 生体材料・歯科材料の組成、特性および正しい使用法を説明できる。
- 集団レベルでの健康の増進と疾病的予防を説明できる。
- 学年末の総合試験に合格できる総合力を身につける。

4. 履修の進め方

問題演習を主体として、適宜、プリントやスライドを用いた視覚的素材を活用しながら進めていく。

5. 準備学修

各科目に準ずる。

6. 評価方法

年度末に行う総合試験2Dの本試験または追・再試験で評価する。72.00%以上を合格とする。

7. 教本

各科目指定の教本に準ずる。

8. 参考書

各科目指定の参考書に準ずる。

9. 授業内容と日程

(コ：コアカリ記号、国：国家試験出題基準、担：担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4／8 4限	総合演習	生物学	A-1-2／ 必5-ア	⑬
2	4／8 5限	総合演習	口腔生理学 I	A-3-1-3, 5／ 必4-ア-e	⑮
3	4／8 6限	総合演習	基礎物理学	B-1-1／ 必12-イ	⑪
4	4／15 4限	総合演習	解剖学・口腔 解剖学	A-3-1～4／ 必4-ア, 総Ⅱ1-ア～ケ, 総Ⅱ4-ア～キ, Ⅱ5-ア	⑯
5	4／15 5限	総合演習	口腔感染免疫 学 I	A-4-1／ 必4-イ, 総Ⅲ-1-キ	①
6	4／15 6限	総合演習	基礎化学	A-1-1), A-1-2), B-1-2), 必4-ア, 必12-イ	⑫
7	4／22 4限	総合演習	口腔組織学	A-1-4／ 必4-ア	⑥
8	4／22 5限	総合演習	口腔感染免疫 学 I	A-4-1／ 必4-イ, 総Ⅲ-1-キ	①
9	4／22 6限	総合演習	基礎生物学	A-1-1～5／ 必4-ア	④
10	5／13 4限	総合演習	解剖学・口腔 解剖学	A-3-1～4／ 必4-ア, 総Ⅱ1-ア～ケ, 総Ⅱ4-ア～キ, Ⅱ5-ア	⑯
11	5／13 5限	総合演習	口腔組織学	A-1-4, -3-1／ 必4-ア, 総Ⅱ-1-ア, -6-オ	⑥
12	5／13 6限	総合演習	基礎物理学	B-1-1／ 必12-イ	⑪
13	5／20 4限	総合演習	解剖学・口腔 解剖学	A-3-1～4／ 必4-ア, 総Ⅱ1-ア～ケ, 総Ⅱ4-ア～キ, Ⅱ5-ア	⑯
14	5／20 5限	総合演習	口腔組織学	A-3-1／ 必4-ア, 総Ⅱ-1-ア	⑥
15	5／20 6限	総合演習	基礎化学	A-1-1), A-1-2), B-1-2), 必4-ア, 必12-イ	⑫
16	5／27 4限	総合演習	物理学	B-1-1, D-2-5, A-1-1／ 必12-イ	②
17	5／27 5限	総合演習	口腔感染免疫 学 I	A-4-1／ 必4-イ, 総Ⅲ-1-キ	①

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
18	5/27 6限	総合演習	基礎生物学	A-3-1~11/ 必4-ア, 総II-1-ア~コ	④
19	6/3 4限	総合演習	解剖学・口腔 解剖学	A-3-1~4/ 必4-ア, 総II1-ア~ケ, 総II4-ア~キ, II5-ア	⑯
20	6/3 5限	総合演習	口腔生理学 I	A-3-1/ 必4-ア	⑯
21	6/3 6限	総合演習	基礎物理学	B-1-1/ 必12-イ	⑪
22	6/10 4限	総合演習	基礎生物学	A-3-2,-3/ 必4-ア, 総II-4-ア~カ	④
23	6/10 5限	総合演習	口腔組織学	A-3-1/ 必4-ア, 総II-1-イ, カ,-8-ウ	⑥
24	6/10 6限	総合演習	基礎化学	A-1-1), A-1-2), B-1-2), 必4-ア, 必12-イ	⑫
25	6/17 4限	総合演習	化学	A-1-1/ 必12-イ	③
26	6/17 5限	総合演習	口腔生理学 I	A-3-1/ 総II-6	⑯
27	6/17 6限	総合演習	統計数理学	C-6-2/ 必12-イ	②
28	6/24 4限	第1回実力試 験A	第2学年前期 全科目(教養 科目を含む)	本年度(2024 年6月24日(月) 3限まで) 行った授業内 容について	
29	6/24 5限	第1回実力試 験B	〃	〃	
30	7/1 4限	総合演習	口腔生理学 I /口腔感染免 疫学 I	A-3-2/ 総II-6, A-4-1/ 必4-イ, 総III-1-キ	⑯ ①
31	7/1 5限	総合演習	基礎化学/化 学	A-1-1), A-1-2), B-1-2), 必4-ア, 必12-イ	③ ⑫
32	7/1 6限	総合演習	基礎生物学/基 礎生物学	A-1-2, A-3-2,-3/ 必4-ア, 必5-ア, 総II-4-ア~カ	④ ⑬
33	7/8 6限	総合演習	口腔組織学/解 剖学・口腔 解剖学	A-3-1,-2/ 必4-ア, 総II-1-ア~ウ	⑥ ⑯
34	7/22 6限	総合演習	物理・統計数 理学/基礎物 理学	A-1-1, B-1-1, C-6-2, D-2-5/ 必12-イ	② ⑪

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
35	9/2 5限	総合演習	物理学	B-1-1, D-2-5, A-1-1/ 必12-イ	②
36	9/2 6限	総合演習	解剖学・口腔 解剖学	A-3-1~4/ 必4-ア, 総II1-ア~ケ, 総II4-ア~キ, II5-ア	⑤
37	9/2 7限	総合演習	口腔生理学 I	A-3-1/ 必4-ア, 総II-1-ウ	⑯
38	10/7 5限	総合演習	生物学	A-1-3/ 総II-1-カ	⑬
39	10/7 6限	総合演習	化学	A-1-1/ 必12-イ	③
40	10/7 7限	総合演習	解剖学・口腔 解剖学	A-3-1~4/ 必4-ア, 総II1-ア~ケ, 総II4-ア~キ, II5-ア	⑤
41	10/21 5限	総合演習	口腔感染免疫 学 I	A-4-1/ 必4-イ, 総III-1-キ	①
42	10/21 6限	総合演習	口腔生理学 I	A-3-1/ 必4-ア, 総II-1-ウ	⑦
43	10/21 7限	総合演習	口腔組織学	A-3-1/ 必4-ア 総II-1-ア~ク	⑥
44	11/11 5限	総合演習	口腔感染免疫 学 I	A-4-1/ 必4-イ, 総III-1-キ	①
45	11/11 6限	総合演習	口腔組織学	A-2-1,-4, A-3-4/ 必4-ア,5-ア, 総II-5-イ, -8-ア	⑥
46	11/11 7限	総合演習	生体材料・歯 科材料学 I	B-1,2,3/ 総VIII-1~11	⑩
47	11/18 5限	総合演習	口腔生化学 I	A-1-2/ 必4-ア	⑧
48	11/18 6限	総合演習	歯科薬理学 I	A-6-1~3, A-6-4-3/ 必11-コ	⑨
49	11/18 7限	総合演習	公衆衛生学	C-4-5, C-6-2/ 総I-6-ウ, 総I-9-ア	⑯
50	12/2 5限	第2回実力試 験A	第2学年後期 全科目(教養 科目を含む)	本年度(2024 年12月2日(月) 4限まで) 行った授業内 容について	
51	12/2 6限	第2回実力試 験B	〃	〃	
52	12/2 7限	第2回実力試 験C	〃	〃	

総合演習3D（通年）

科目責任者：金 秀樹（口外・教授）

科目担当者：①金 秀樹（口外）、②安部 仁晴（組織）、
 ③大須賀謙二（生理）、④小林美智代（衛生）、
 ⑤宇佐美晶信（解剖）、⑥眞島いずみ（感染）、
 ⑦玉井利代子（感染）、⑧鈴木 礼子（薬理）、
 ⑨石田 喜紀（材料）、⑩南 健太郎（衛生）、
 ⑪古山 昭（生理）、⑫山崎 幹子（病理）、
 ⑬金 秀樹（口外）、⑭高橋文太郎（口外）、
 ⑮遊佐 淳子（病理）、⑯加藤 靖正（生化）、
 ⑰柴田 達也（薬理）、⑱高津 匠樹（有床）、
 ⑲松本 知生（有床）、⑳山田 嘉重（修復）、
 ㉑原田 卓哉（放射）、㉒風間 咲美（医学）、
 ㉓山野辺晋也（矯正）、㉔鈴木 史彦（高齢）、
 ㉕羽鳥 弘毅（冠橋）、㉖廣瀬 公治（衛生）

※この科目は、主に診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

臨床実習開始前までに習得すべき歯科医学的知識を理解することを目的として、三学年に履修する科目を中心に、演習と解説講義を行う。また、学年末の総合試験に合格できる総合力を身につける。

2. 一般目標

歯学部における専門科目を十分理解するために、その基礎となる知識の習得を目指す。また、学年末の総合試験に合格できる総合力を身につける。

3. 到達目標

- 1) 人体の正常な形態とその機能を説明できる。
- 2) 感染と生体防御のメカニズムについて説明できる。
- 3) 病変の特徴と成因および治療法について説明できる。
- 4) 全身疾患と口腔病変について説明が出来る。
- 5) 薬物の体内動態と特徴について説明できる。
- 6) 歯科材料とその特徴について説明できる。
- 7) 健康増進、疾病予防と保健活動について説明が出来る。
- 8) クラウンブリッジ補綴と全部床義歯補綴について説明が出来る。
- 9) 保存修復について概略が説明できる。
- 10) 歯科医療における放射線の取り扱いに必要な知識が説明できる。
- 11) 高齢者の特徴と治療上の留意点が説明できる。
- 12) 学年末の総合試験に合格できる総合力を身につける。

4. 履修の進め方

問題演習を主体として、適宜、プリントやスライドを用いた視覚的素材を活用しながら進めていく。

5. 準備学修

各科目に準ずる。

6. 評価方法

総合試験3Dで評価する。72.0%以上を合格とする。72.00%に満たない者は、願出により、再試験を受験させる。再試験も本試験と同様に72.00%以上を合格とする。

7. 教本

各科目指定の教本に準じる。

8. 参考書

各科目指定の参考書に準じる。

9. 授業内容と日程

(コ：コアカリ記号、国：国家試験出題基準、担：担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4／8 5限	総合演習3D	口腔組織学	A-1-4, A-3-1/ 必4-ア 総II1-ア～ケ	②
2	4／8 6限	総合演習3D	口腔組織学	A-2-1, A-3-4/ 必4-ア, 5-ア, 総II4-オ, 5-イ, 8-ア, イ	②
3	4／8 7限	総合演習3D	ガイダンス	A～C	①
4	4／15 5限	総合演習3D	口腔生理学 I	A-3-1, 2, 3/ 必4-ア, 総II1ア～ケ, 6-ア-カ	③
5	4／15 6限	総合演習3D	口腔生理学 I	A-3-1, 2, 3/ 必4-ア, 総II1ア～ケ, 6-ア-カ	③
6	4／15 7限	総合演習3D	公衆衛生学	C-4-1, C-4-5, C-5-1～5, / 総I1-ア, オ	④
7	4／22 5限	総合演習3D	解剖学	A-3-1/ 必4-ア, 総II1-ア～ケ	⑤
8	4／22 6限	総合演習3D	口腔解剖学	A-3-2, 3, 4/ 総II4-ア～ キ, II5-ア	⑤
9	4／22 7限	総合演習3D	口腔感染免疫 学 I	A-4-1-1/ 総III1-キ-a, b	⑥ ⑦
10	5／13 5限	総合演習3D	歯科薬理学 I	A-6-1～3, A-6-4-3/ 必11-コ	⑧
11	5／13 6限	総合演習3D	生体材料・歯 科材料学 I	B-1, 2, 3/ 総VIII-1～11	⑨
12	5／13 7限	総合演習3D	口腔生化学 II	A-1-5/ 必4-ア, 総II-1-イ～ カ・ク	①
13	5／20 5限	総合演習3D	第2学年で習 得した知識の 確認	A～C	① ②
14	5／20 6限	総合演習3D	第2学年で習 得した知識の 確認	A～C	① ②
15	5／20 7限	総合演習3D	第2学年で習 得した知識の 確認	A～C	① ②
16	5／27 5限	総合演習3D	生体材料・歯 科材料学 II	B-1, 2, 3/ 総VIII-1～11	⑨
17	5／27 6限	総合演習3D	有床義歯補綴 学 I	E-5-3-2/ 各IV-5	⑯ ⑯
18	5／27 7限	総合演習3D	口腔感染免疫 学 II	A-4-2-1, 2, 3/ 総II-3-ウ, 工, オ	⑥ ⑦

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
19	6/3 5限	総合演習3D	生体材料・歯科材料学II	B-1, 2, 3/ 総VII-1~11	⑨
20	6/3 6限	総合演習3D	歯科薬理学II	A-6-2, 3, 4/ 必11コ, 総VII-8-ア, イ, ウ	⑯
21	6/3 7限	総合演習3D	口腔生化学II	A-1-3-5, A-3-1/ 必4-ア, 総II-1-ア~ク, 総II-8-ウ	⑯
22	6/10 5限	総合演習3D	口腔生理学II	A-3-1, 2, 3/ 必4-ア, 総II-1ア-ケ, 6-ア-カ	⑪
23	6/10 6限	総合演習3D	口腔生化学II	A-1-3, A-3-1/ 必4-ア, 総II-1-ア~ク, 総II-8-ウ	⑯
24	6/10 7限	総合演習3D	有床義歯補綴学I	E-5-3-2/ 各IV-5	⑯
25	6/17 5限	総合演習3D	口腔感染免疫学II	A-4-2-1, 2, 3/ 総II-3-ウ, 工, 才	⑥ ⑦
26	6/17 6限	総合演習3D	生体材料・歯科材料学II	B-1, 2, 3/ 総VII-1~11	⑨
27	6/17 7限	総合演習3D	歯科薬理学II	A-6-2, 3, 4/ 必11コ, 総VII-8-ア, イ, ウ	⑯
28	6/24 5限	総合演習3D	口腔病理学	A-5-4/ 総III-1-オ	⑫
29	6/24 6限	総合演習3D	口腔生理学II	A-3-1, 2, 3/ 必4-ア, 総II-1ア-ケ, 6-ア-カ	⑯
30	6/24 7限	総合演習3D	社会歯科学	C-4-2/ 必2-イ	⑩
31	7/1 5限	総合演習3D	口腔病理学	A-5-5/ 総III-1-カ	⑫
32	7/1 6限	総合演習3D	有床義歯補綴学I	E-5-3-2/ 各IV-5	⑯
33	7/1 7限	総合演習3D	社会歯科学	C-4-2/ 必2-イ	⑩
34	9/2 5限	総合演習3D	第3学年前期 で習得した知識の確認	A~C	① ②
35	9/2 6限	総合演習3D	第3学年前期 で習得した知識の確認	A~C	① ②
36	9/2 7限	総合演習3D	第3学年前期 で習得した知識の確認	A~C	① ②
37	9/9 5限	総合演習3D	口腔内科学	E-2/ 必, 総IV, VI, VII, IX, X	⑯

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
38	9/9 6限	総合演習3D	口腔外科学I	E-2-4/ 各IV-16	⑯
39	9/9 7限	総合演習3D	補講	A~C	①
40	10/7 5限	総合演習3D	口腔衛生学	C-6-1, 2/ 総I-6-ア, イ	⑯
41	10/7 6限	総合演習3D	保存修復学I	D-3-2-1, E-5-3-1/ 各II-1, 必-8, 総VII-5, 9	⑯
42	10/7 7限	総合演習3D	歯科放射線学I	E-1-2/ 必修9-カ, 総III-1-コ-b, VI-2, VII-7	⑯
43	10/21 5限	総合演習3D	口腔衛生学	C-6-1, 2/ 総I-6-ア, イ	⑯
44	10/21 6限	総合演習3D	口腔内科学	E-2/ 必, 総IV, VI, VII, IX, X	⑯
45	10/21 7限	総合演習3D	口腔外科学I	E-2/ 必, 総IV, VI, VII, IX, X	⑯
46	11/11 5限	総合演習3D	口腔病理学	D-3-1-5, 6/ 各III-1-工, 才, 各III-2-才, カ	⑯
47	11/11 6限	総合演習3D	冠橋義歯補綴学I	E-5-3/ 各IV-3-ア, イ, ウ	⑯
48	11/11 7限	総合演習3D	総合臨床医学	D-6-1)/ 総VII-1-工	⑯
49	11/18 5限	総合演習3D	災害歯科学	A-7-1), B-2-2)/ 総I-1-工 総I-3-ア	⑯
50	11/18 6限	総合演習3D	歯科医療管理学	C-4-3-2/ 総I-1-ウ	⑯
51	11/18 7限	総合演習3D	高齢者歯科学I	D-5-7/ 各V-2-ア-c	⑯
52	12/2 5限	総合演習3D	口腔病理学	D-3-1-4/ 各III-1-ク, 各III-4-才	⑯
53	12/2 6限	総合演習3D	保存修復学I	B-2-4, E-5-3-1/ 各II-1, 必-8, 総VII-5, 9	⑯
54	12/2 7限	総合演習3D	歯科放射線学I	E-1-2/ 必修9-カ, 総III-1-コ-b, VI-2, VII-7	⑯

総合演習4D (通年)

科目責任者：板橋 仁（矯正・准教授）

科目担当者：①板橋 仁（矯正）、②宇佐美晶信（解剖）、
 ③安部 仁晴（組織）、④古山 昭（生理）、
 ⑤大須賀謙二（生理）、⑥加藤 靖正（生化）、
 ⑦玉井利代子（感染）、⑧齋藤 龍一（材料）、
 ⑨長岡 正博（薬理）、⑩山崎 幹子（病理）、
 ⑪廣瀬 公治（衛生）、⑫遊佐 淳子（病理）、
 ⑬小林美智代（衛生）、⑭前田 豊信（生化）

※この科目は、主に診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

臨床実習開始前までに必要不可欠な総合的知識を身につけるために、生命科学教育科目を中心に歯科医学的知識の理解を深める。また、学年末の CBT に合格できる総合力を身につける。

2. 一般目標

生命科学教育科目を中心とした歯科医学的知識を復習して理解を深める。

3. 到達目標

- 1) 生命科学教育科目について理解する。
- 2) 学年末の CBT に合格できる総合力を身につける。

4. 履修の進め方

講義形式でスライドと資料を使用して履修する。

5. 準備学修

各科目に準ずる。

6. 評価方法

年度末に行う総合試験 4 D の本試験または追・再試験(100%)により評価し、72.00%以上を合格とする。

7. 教本

各科目指定の教本に準ずる。

8. 参考書

各科目指定の参考書に準ずる。

9. 授業内容と日程

(コ：コアカリ記号、国：国家試験出題基準、担：担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4/8	総合演習／解剖学・口腔解剖学(1)	解剖学総論・骨学	A-3-1/必4-ア、 総II-4-ア, イ	②
2	4/8	総合演習／解剖学・口腔解剖学(2)	筋学	A-3-1/必4-ア、 総II-4-ウ	②
3	4/15	総合演習／口腔組織学(1)	細胞と組織	A-1-4、 A-3-1/必4-ア	③
4	4/15	総合演習／口腔組織学(2)	各組織の特徴	A-3-1/必4-ア、 総II-1ア, イ	③
5	4/22	総合演習／口腔生理学(1)	神経・筋・シナプス伝達	A-3-1-3, 5/必4-ア 総II-1-イ, ク	④
6	4/22	総合演習／口腔生理学(2)	自律神経・内分泌	A-3-1-5, 9/必4-ア 総II-1-ク, ケ	⑤
7	5/13	総合演習／口腔生化学(1)	細胞外マトリックス I (コラーゲン、接着性糖蛋白質)	A-1-5/必4-ア	⑥

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
8	5/13	総合演習／口腔生化学(2)	細胞外マトリックス I II (グリコサミノグリカン、プロテオグリカン)	A-1-5/必4-ア	⑥
9	5/20	総合演習／口腔感染免疫学(1)	病原微生物の種類とその性状	A-4-1-1, / 総III-1-キ-a	⑦
10	5/20	総合演習／口腔感染免疫学(2)	微生物に対する感染防御	A-4-2-1, 2/必4-ア-g	⑦
11	5/27	総合演習／生体材料・歯科材料学(1)	歯科材料の基本事項	B-1/総VIII-1	⑧
12	5/27	総合演習／生体材料・歯科材料学(2)	成形修復材料	B-2, 3/総VIII-5, 8	⑧
13	6/3	総合演習／歯科薬理学(1)	薬理作用と作用機序	A-6/必11-コ、 総VII-8	⑨
14	6/3	総合演習／歯科薬理学(2)	薬物動態と相互作用	A-6/必11-コ、 総VII-8	⑨
15	6/10	総合演習／口腔病理学(1)	問題演習(1)	A-5/総III-1	⑩
16	6/10	総合演習／口腔病理学(2)	病因論と先天異常、細胞傷害、組織障害及び萎縮	A-5-1, 2, 3/必3ア、 総III-1-イ、ウ, エ	⑩
17	6/17	総合演習／口腔衛生学・公衆衛生学(1)	健康の概念・環境と健康、予防と健康管理	C-4-1, C-4-5, C-5/必3ア、 総I-6-アイウ、 総I-9-ア	⑪
18	6/17	総合演習／口腔衛生学・公衆衛生学(2)	疫学・保健医療統計	C-6-1, C-6-2/総I-6-アイウ	⑪
19	6/24	総合演習／解剖学・口腔解剖学(3)	内臓学 1	A-3-1/必4-ア、 総II-1-ア～コ	②
20	6/24	総合演習／解剖学・口腔解剖学(4)	内臓学 2	A-3-1/必4-ア、 総II-1-ア～コ	②
21	7/1	総合演習／口腔組織学(3)	各器官の組織学的特徴	A-3-1/必4-ア、 総II-1-ア～ケ	③
22	7/1	総合演習／口腔組織学(4)	口腔周囲器官	A-3-2, -3/必4-ア、 総II-4-オ	③
23	9/2	総合演習／口腔生理学(3)	口腔感覺・味覚と中枢神経系の機能	A-3-1-5, 6/必4-ア 総II-1-ク、 6-ア	④
24	9/2	総合演習／口腔生理学(4)	唾液・排泄	A-3-1-10, 3-3-6, 7/必4-ア 総II-1-キ、 6-カ	⑤

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
25	9/3	総合演習／口腔生化学(3)	石灰化, 骨吸収, 軟骨内骨化	A-1-5, C-2-2/必4-ア, 総II8-ウ	⑯
26	9/4	総合演習／口腔感染免疫学(3)	常在微生物叢の意義と役割	A-4-1-1/必4-イ-b	⑦
27	9/9	総合演習／口腔生化学(4)	血清カルシウム濃度の調節機構, 慢性腎不全	A-3-1/必4-ア, 総II-1-キ・ケ	⑥
28	9/9	総合演習／口腔感染免疫学(4)	感染症の種類	A-4-1-3/総III-1-キ-b	⑦
29	9/10	総合演習／生体材料・歯科材料学(3)	印象用材料, 模型用材料	B-2/総VIII-3, 4	⑧
30	9/11	総合演習／生体材料・歯科材料学(4)	金属材料	B-2, 3/総VIII-4, 6, 7	⑧
31	9/17	総合演習／歯科薬理学(3)	総括と問題演習	A-6/必11-コ, 総VII-8	⑨
32	9/18	総合演習／歯科薬理学(4)	総括と問題演習	A-6/必11-コ, 総VII-8	⑨
33	9/24	総合演習／口腔病理学(3)	炎症, 腫瘍	A-5-5, 6/総III-1-カ, コ	⑫
34	9/25	総合演習／口腔病理学(4)	問題演習(2)	A-5/総III-1	⑫
35	10/1	総合演習／口腔衛生学・公衆衛生学(3)	健康と社会-2 社会保障	C-4-3-1~6/必2-イ, 総I-ウ	⑪
36	10/2	総合演習／口腔衛生学・公衆衛生学(4)	健康と社会-2 医療関係法令	C-4-2-1~7/必2-イ, 総I-エ	⑪
37	10/7	総合演習／口腔生理学(5)	頸運動・頸反射	C-2-3), E-2-1/総IV-1, 3	④
38	10/7	総合演習／口腔組織学(5)	歯と歯周組織	A-3-4/必4-ア, 総II5-イ	③
39	10/8	総合演習／解剖学・口腔解剖学(5)	脈管学	A-3-1/必4-ア, 総II4-エ	②
40	10/9	総合演習／口腔生化学(5)	核酸, DNA複製, 転写, スプライシング	A-1-3/必4-ア	⑯
41	10/15	総合演習／口腔感染免疫学(5)	抗体と補体	A-4-2-2/総II3-オ	⑦
42	10/16	総合演習／生体材料・歯科材料学(5)	義歯床用材料	B-2, 3/総VIII-6, 7	⑧
43	10/21	総合演習／歯科薬理学(5)	総括と問題演習	A-6/必11-コ, 総VII-8	⑨

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
44	10/21	総合演習／口腔病理学(5)	問題演習(3)	A-5/総III-1	⑫
45	10/22	総合演習／口腔衛生学・公衆衛生学(5)	母子保健と母子歯科保健	C-4-2, C-4-3, D-5-1/総I-2-ア	⑯
46	10/23	総合演習／解剖学・口腔解剖学(6)	神経学	A-3-1/必4-ア, 総II-4-カ	②
47	10/29	総合演習／口腔生理学(6)	発声・構音	A-3-2/総II-6-オ	⑤
48	10/30	総合演習／口腔衛生学・公衆衛生学(6)	学校保健と学校歯科保健	C-4-2, C-4-3, D-5-1/総I-2-イ	⑯
49	11/5	総合演習／口腔生化学(6)	テロメラーゼ, アボトーシス, 癌遺伝子, 癌抑制遺伝子	A-1-3/必4-ア	⑥
50	11/11	総合演習／口腔感染免疫学(6)	アレルギー	A-4-2-6/総III-1-ク-c	⑦
51	11/11	総合演習／生体材料・歯科材料学(6)	歯冠色材料	B-2, 3/総VIII-6, 7	⑧
52	11/12	総合演習／歯科薬理学(6)	総括と問題演習	A-6/必11-コ, 総VII-8	⑨
53	11/18	総合演習／口腔組織学(6)	初期発生と顎顔面の発生	A-2-1, -4/必5-ア, 総II8-ア, イ	③
54	11/18	総合演習／口腔生理学(7)	摂食・嚥下	A-3-2/総II-6-ウ, エ	④
55	11/19	総合演習／解剖学・口腔解剖学(7)	人体の構造まとめ	A-3-2, 3, 4/必4-ア, 総II-4-オ, カ, キ	②
56	11/26	総合演習／口腔生化学(7)	唾液蛋白質の機能, 菌体外多糖, プラック, 糖代謝	A-3-3/必4-ア, 総II-6-カ・7-ウ	⑥
57	12/2	総合演習／口腔感染免疫学(7)	ワクチン	A-4-2-7/総II-3-オ-a, b	⑦
58	12/2	総合演習／生体材料・歯科材料学(7)	歯科用機器, 歯科用セメント	B-2, 3/総VIII-2, 5~9	⑧
59	12/3	総合演習／口腔衛生学・公衆衛生学(7)	フッ素の基礎とフッ化物の応用	D-5-1/必3ウ, 各II-1-イ	⑯
60	12/10	総合演習／歯科薬理学(7)	総括と問題演習	A-6/必11-コ, 総VII-8	⑨

第1学年

教養系教育・基礎科学教育科目

美術	57
統計数理学	58
情報リテラシーI	59
英語基礎	61
英語I	62
心理	63
経営学	64
日本語学I	65
医療倫理学	68
基礎物理学	69
物理学実験	71
基礎化学	72
化学実験	74
基礎生物学	76
生物学実験	79
歯科医学演習	81
歯科医療概論	82
基礎歯学概論I	83
臨床歯学概論	84
臨床心理学	85
歯科医療人間学I	86

美術（前期・1単位）

D①②A-b1-1101(D1101)

科目責任者：渡部 憲生（非常勤）

科目担当者：①渡部 憲生（非常勤）

1. 科目の概要

「美術」は過去から未来への文化の伝承を担う営みであり、造形的な表現と鑑賞を通したビジュアルコミュニケーションを展開する世界である。私たちの身の回りに存在している「美術」は、意識・無意識にかかわらず、私たちの生活に大きな影響を与えている。たとえば衣服の選択や日用品の購入、住居の環境構成など、それぞれの趣味やセンスとして認識され、顕在化される。「美術」の授業では、そんな私たちの生活に大きな影響を与える重要な文化の一つである“美術”について、よく知られる美術作品の鑑賞や基本的な表現体験を通して、認識を新たにするとともに、造形的な表現活動の楽しさを味わい、文化に対する広い見識と造形表現に関する理解の深まりをねらいとして学習活動を行う。

2. 一般目標

造形表現の意味や価値について学び、美術への興味・関心・理解を深めるとともに、文化的・精神的な豊かさについて考察する。

3. 到達目標

- 1) 造形表現に関心をもち、それらを通した学びの意味を考え、意義深い学習活動を構築することができる。
- 2) 造形的要素を用いた表現を体験し、日常生活や生涯学習に活用できる文化価値を理解することができる。
- 3) 学習活動から得られた認識力、表現技術により、知性的・感性的人格の実現を目指すことができる。
- 4) ものやことに触れ、描画センスや配色の調和感覚、手の巧緻性を高めることができる。
- 5) 授業準備、計画実施、学習意欲等について、多面的に自らの姿勢を振り返り、自己改善することができる。
- 6) 情報や資料の収集に努め、主体的に授業に参加することができる。
- 7) 文化の伝承や民族性について理解し、人々の営みと文化の多様性、芸術活動について理解することができる。
- 8) 美術史学習から造形的な文化について洞察を深め、「美」を求めてきた意義について考察することができる。
- 9) 表現活動を通して、条件や状況に合わせて発想したり企画したりすることができる。

4. 履修の進め方

映像やプリント、板書等による講義、紙材や粘土などを用いた表現実習を行う。表現活動では、主題を具体的に表すための発想力や構想力が求められる。授業進度に合わせた学習ペースを考え、主体的に授業に参加することが求められる。

【準備物】スケッチブック、鉛筆（H～4Bを3本程度）、色鉛筆（12色～24色）、ハサミ、カッターナイフ、ステイック糊、木工用接着剤、定規

5. 準備学修

予 習：授業計画を基に表現内容について理解し、主題を明確にした構想を練り上げるとともに、表現の進め方や材料・用具を確認し、表現計画を構想する。（60分）

復 習：スケッチブックの描画や作品を自己評価し、自分なりの表現のよさを味わったり修正を加えたりして進度の調整をする。（60分）

その他：手の巧緻性や集中力、人間関係力などの自己評価に基づき、学習姿勢や自己管理について考える。

6. 評価方法

提出された作品（スケッチブック）〈50%〉、毎時の授業感想（出席カード記録）及び授業総括レポート〈30%〉、出席状況〈20%〉により評価する。

提出作品については、主題の捉え方、表現技術（作品の質）の他、資料収集力、表現の丁寧さなど、授業への積極性・関心意欲等も加味した評価を行う。作品評価のため、スケッチブックを定められた方法・内容、期日で提出する。

筆記による試験は行わないが、出席確認を兼ねた授業感想カードの提出を毎時ごとに求める。また、授業最終日に授業全体を振り返る総括レポート（1500字程度）の提出を求める。なお、提出されたスケッチブックは評価後返却する。

7. 教本

テキスト等については特に指定しない。実習材料として、スケッチブック、色紙（トーナルカラー65色）を各自購入する。授業に使用する資料等は、必要に応じて各題材ごとにプリント資料の配付、データ提示を行う。

8. 参考書

なし

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号、国：国家試験出題基準、担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1 2	4／12	オリエンテーション 表現体験 I 造形美の発見	本授業のねらい・学習計画等の確認 身辺の造形美の発見（筆記用具・スケッチブック）		①
3 4	4／19	表現体験 I 「線で表す」①	線による表現 ①「立体感・遠近感」（　ク　）		ク
5 6	4／26	表現体験 I 「線で表す」②	線による表現 ②「一コマまんが」①（　ク　）		ク
7 8	5／10	表現体験 I 「線で表す」③	線による表現 ③「一コマまんが」②（　ク　）		ク
9 10	5／17	表現体験 I 「線で表す」④	線による表現 ④「四コマまんが」①（　ク　）		ク
11 12	5／24	表現体験 I 「線で表す」⑤	線による表現 ⑤「四コマまんが」②、作品鑑賞（　ク　）		ク
13 14	5／31	表現体験 II 「色で表す」①	色の性質とデザインの要素 色の性質を生かした色紙による「四季」の平面構成① [構想] (スケッチブック・色鉛筆・色紙)		ク

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
15	6/7	表現体験Ⅱ 「色で表す」②	色の性質を生かした色紙による「四季」の平面構成② [表現] (シュ)		①
16					
17	6/14	表現体験Ⅱ 「色で表す」③	色の性質を生かした色紙による「四季」の平面構成③ [表現] (シュ)	シ	
18					
19	6/21	表現体験Ⅱ 「色で表す」④	色の性質を生かした色紙による「四季」の平面構成④ [表現・完成] 作品鑑賞 (シュ)	シ	
20					
21	6/28	表現体験Ⅱ 「色で表す」⑤	色の性質を生かした色紙による「四季」の平面構成⑤ [表現・完成] 作品鑑賞 (シュ)	シ	
22					
23	7/5	表現体験Ⅲ 「紙で表す」①	紙による建物の立体表現① [構想] (カッターナイフ・木工用接着剤)	シ	
24					
25	7/12	表現体験Ⅲ 「紙で表す」②	紙による建物の立体表現② [成形] (シュ)	シ	
26					
27	7/19	表現体験Ⅲ 「紙で表す」③	紙による建物の立体表現③ [成形] (シュ)	シ	
28					
29	7/26	表現体験Ⅲ 「紙で表す」④	紙による建物の立体表現④ 「完成」作品鑑賞授業総括 レポート作成 (シュ)	シ	
30					

統計数理学（通年・2単位）

D②A-a2-1103(D1103)

科目責任者：菊地 尚志（物理・教授）

科目担当者：①菊地 尚志（物理）

1. 科目の概要

ある病気の発症の頻度に地域差がありそうだとか、あの病気には今回開発したこの新薬が有効だろう、と言った推測は医療の現場で頻繁に生じそうだ。経験や感覚に基づく判断が十分な場合もあるだろうが、より客観的な根拠に基づくやり方が統計学を用いた判断だ。統計学が教えてくれる「推定」や「検定」という技術がそれに当たる。授業ではこの技術の基本的な考え方を理解して初步的でも現実に応用できることを目指す。その為に前期は、母集団と標本を結びつける確率分布について理解する。具体的には、一様分布、ベルヌイ分布、二項分布、正規分布を区別して理解する。後期に推定と検定の具体的な応用を習う。前期に学習した分布に加えてt分布、 χ^2 分布を覚え、平均値や分散についての推定と検定ができる様にする。

2. 一般目標

統計学の方法を理解して、歯科医師としての客観的、合理的な判断力を養う。

3. 到達目標

- 1) 統計資料を整理する。
- 2) 統計量を計算する。
- 3) 様々な確率分布を説明する。
- 4) 統計的推定ができる。
- 5) 統計的検定ができる。

4. 履修の進め方

板書を中心に授業を行います。授業をよく聞きノートをきちんと取って、さらに自分で主体的に「手を動かす」ことで理解を深めて行きましょう。

5. 準備学修

予習（30分）と復習（60分）をしっかり行ってください。

6. 評価方法

試験は記述と計算を合わせたものになる。前期定期試験と後期定期試験の結果を総合して65点以上を合格とする。不合格者には65点までの再試験を行う。必要に応じて前期の後に中間試験を行う。

7. 教本

統計解析がわかる 津井良幸、津井貞美著 技術評論社

8. 参考書

なし

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号、国：国家試験出題基準、担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4/11		授業への導入	C-6-2/ 必12-イ	①
2	4/18	記述統計学	度数分布ヒストグラム	C-6-2/ 必12-イ	シ
3	4/25		平均値と分散	C-6-2/ 必12-イ	シ
4	5/9		分散の性質	C-6-2/ 必12-イ	シ
5	5/16		標本の抽出	C-6-2/ 必12-イ	シ
6	5/23		母集団と標本	C-6-2/ 必12-イ	シ

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
7	5／30	確率論	標本空間	C-6-2／ 必12-イ	①
8	6／6		独立な試行	C-6-2／ 必12-イ	〃
9	6／13		確率変数の期 待値と分散	C-6-2／ 必12-イ	〃
10	6／20		ベルヌイ分布 と二項分布	C-6-2／ 必12-イ	〃
11	6／27		二項分布の計 算	C-6-2／ 必12-イ	〃
12	7／4		二項分布と正 規分布	C-6-2／ 必12-イ	〃
13	7／11		感染率	C-6-2／ 必12-イ	〃
14	7／18		問題演習	C-6-2／ 必12-イ	〃
15	7／25		問題演習の振 り返り	C-6-2／ 必12-イ	〃
16	9／5	推測統計学	母集団と標本	C-6-2／ 必12-イ	〃
17	9／12	推定	平均値の区間 推定	C-6-2／ 必12-イ	〃
18	9／19		母平均の推定 (分散既知)	C-6-2／ 必12-イ	〃
19	9／26		演習	C-6-2／ 必12-イ	〃
20	10／3		母平均の推定 (母分散未知)	C-6-2／ 必12-イ	〃
21	10／10		一般の母平均 の推定	C-6-2／ 必12-イ	〃
22	10／17		母比率の推定	C-6-2／ 必12-イ	〃
23	10／24		母分散の推定	C-6-2／ 必12-イ	〃
24	10／31	検定	統計学的検定 の考え方	C-6-2／ 必12-イ	〃
25	11／7		母平均の検定	C-6-2／ 必12-イ	〃
26	11／14		母比率の検定	C-6-2／ 必12-イ	〃
27	11／21		母平均の差の 検定	C-6-2／ 必12-イ	〃
28	11／28		臨床試験での 検定	C-6-2／ 必12-イ	〃
29	12／5		問題演習	C-6-2／ 必12-イ	〃
30	12／12		問題演習の振 り返り	C-6-2／ 必12-イ	〃

情報リテラシーI (通年・1単位)

D②A-b1-1104(D1104)

科目責任者：古山 昭 (生理・講師)

科目担当者：①古山 昭 (生理), ②芹川 雅光 (解剖),
③齋藤 龍一 (材料)

※この科目は、診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

情報化社会また、歯科医療においてもコンピュータを操作できる基礎能力は必須である。情報リテラシーIではネット社会における適切な情報の取り扱い方法、ワードプロセッサによる文章の作成、表計算ソフトによる表とグラフの作成、プレゼンテーションソフトによるスライド作成、画像処理ソフトによる画像加工を習得する。

また、演習においては学生自ら作問を行う。将来、試験の様々な出題形式についての理解が深まり、コンピュータを使つた試験形式にも早期から対応できる。

2. 一般目標

医療に対して探求力、解決力、発信力を獲得するために、コンピュータやインターネットの操作に習熟することを目的とする。

3. 到達目標

- 1) インターネットで適切な情報の取り扱いができる。
- 2) コンピュータを操作できる。
- 3) Word を用いて文書を作成できる。
- 4) Excel を用いて表およびグラフを作成できる。
- 5) PowerPoint を用いてプレゼンテーション用のスライドを作成できる。
- 6) GIMP を用いて画像加工ができる。
- 7) 課題に対しての問題作成とプレゼンテーションを行うことができる。

4. 履修の進め方

コンピュータの基本操作、ネット接続、ソフトウェアの操作を実際にコンピュータを使用して学習する。一学年主要科目の重要な事項について問題作成を行う。

5. 準備学修

講義の最後に、次回の講義に必要な学習項目および、目を通してすべき資料を提示し、簡単な宿題を課す。学習内容は10～30分で遂行可能なものとする。宿題は講義の前日までにメール等で提出させ、教員がチェックして学生の習熟度を把握した上で講義を行う。

6. 評価方法

前期後期1回ずつの試験（課題の作成、 $20\% \times 2 = 40\%$ ）、単元別まとめ課題提出（ $8\% \times 5$ 回、計40%）、宿題（予習課題）提出（ $20\% \times$ 提出率）により評価を行う。再試験は希望者を対象に前期後期1回ずつ行う（最大26%）。課題提出は、提出期限に遅れた場合、点数を減点する。

7. 教本

定平 誠著「例題50+演習問題100でしっかり学ぶWord/Excel/PowerPoint 標準テキスト Windows11/Office2021対応版」技術評論社

Noa 出版編集部 編「情報倫理ハンドブック」noa 出版
できるシリーズ編集部著「できるクリエイターGIMP2.10
独習ナビ改訂版 Windows&macOS 対応」インプレスジャパン

8. 参考書

なし

9. 授業内容と日程

(コ:コアカリ記号, 国:国家試験出題基準, 担:担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4/10	オリエンテーション	授業の概要説明, 個人情報保護, 著作権の保護	① ↓ ③	
2	4/17	情報倫理	コンピュータの基本操作, ウィルス対策, ネット接続など	〃	〃
3	4/24	ワードプロセッサ①	Word の基本操作, 文書作成	〃	〃
4	5/8	ワードプロセッサ②	文書デザインとレイアウト, 書式設定	〃	〃
5	5/15	ワードプロセッサ③	オブジェクトの設定, 図の応用	〃	〃
6	5/22	ワードプロセッサ④	ラベルの作成	〃	〃
7	5/29	表計算①	Excel の基本操作, 表の作成	〃	〃
8	6/5	表計算②	計算式の入力, 関数の応用	〃	〃
9	6/12	表計算③	グラフの作成	〃	〃
10	6/19	表計算④	データの整理と検索	〃	〃
11	6/26	表計算⑤	表計算弱点補強	〃	〃
12	7/3	プレゼンテーション①	PowerPoint の基本操作スライドの作成	〃	〃
13	7/10	プレゼンテーション②	スライドのデザイン, スライドの編集	〃	〃
14	7/17	試験	前期試験	〃	〃
15	7/24	プレゼンテーション③	自分の趣味をプレゼンテーション	〃	〃
16	9/3	プレゼンテーション④	自分の趣味をプレゼンテーション	〃	〃
17	9/10	プレゼンテーション⑤	自分の趣味をプレゼンテーション	〃	〃
18	9/17	プレゼンテーション⑥	自分の趣味をプレゼンテーション	〃	〃
19	9/24	プレゼンテーション⑦	自分の趣味をプレゼンテーション	〃	〃
20	10/1	プレゼンテーション⑧	自分の趣味をプレゼンテーション	〃	〃
21	10/8	画像処理①	画像加工(1)	〃	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
22	10/15	画像処理②	画像加工(2)	① ↓ ③	〃
23	10/22	画像処理③	画像加工(3)	〃	〃
24	10/29	画像処理④	画像加工(4)	〃	〃
25	11/5	画像処理⑤	画像加工(5)	〃	〃
26	11/12	画像処理⑥	画像処理弱点補強	〃	〃
27	11/19	試験	後期試験	〃	〃
28	11/26	問題作成①	問題作成	〃	〃
29	12/3	問題作成②	問題のブラッシュアップ	〃	〃
30	12/10	問題作成③	問題のプレゼンテーション	〃	〃

英語基礎（通年・1単位）

D①②A-b1-1106(D1106)

科目責任者：長峯 英樹（英語・講師）

科目担当者：①長峯 英樹（英語）

※この科目は、一般企業勤務経験のある教員が担当する

1. 科目の概要

当講義は、異なる文化や価値観の多様性を理解できる歯科医師となるために、英語の基礎力向上を第一の目的としている。

2. 一般目標

英語の理解スピードと精度を向上させるために基礎的な語彙と文法を復習する。自分の意見を述べるときに役立つ表現を数多く覚える。

3. 到達目標

- 1) 基礎的な文法を復習し、表現方法の細かなニュアンスを理解できるようにする。
- 2) 国内外の社会問題の背景を英語で学び、語彙・構文、時事表現を覚える。
- 3) 論争テーマに関する賛成・反対の争点を英語で理解できるようにする。
- 4) 英語で発信するための基礎スキルを身につける。

4. 履修の進め方

英文の音読とサイトトランスレーションを丁寧に行うことにより、頻出語彙や時事表現、基礎文法を学ぶ。次に、テーマに対する賛否とその根拠を整理・理解するとともに頻出の表現パターンを覚える。

5. 準備学修

<予習>

- ①各 Unit の英文の音声を聞いて、発音やリズムを確認（20分）
- ②英文を読み、語彙の意味を確認（30分）
- ③講義で質問すべき点をリストアップ（10分）

<復習>

講義で学んだ英文の音声を、発音やリズム、意味などを確認しながらリスニング（30分）

<その他>

日常的に、映画や雑誌・新聞など、できるだけ多く英語に触れるよう心がけること。

6. 評価方法

筆記試験（100%）により評価し、100点満点中65点以上を合格とする。

なお、筆記試験は①前期定期試験、②後期定期試験、③Review Test（全8回）の合計を平均した点数で評価される。筆記試験のフィードバックは基本的に次回講義時に解説する。

7. 教本

植田一三, Pros and Cons-Discussing Today's Controversial Issues, Cengage Learning

8. 参考書

なし

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号、国：国家試験出題基準、担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4/10	Unit 1	Internet Safety or Freedom of Expression?	C-7-1/ 必12-ウ	①
2	4/17	Unit 2	Honor or Burden?	C-7-1/ 必12-ウ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
3	4/24		Review (1-2)	C-7-1/ 必12-ウ	①
4	5/8		Review Test (1-2)	C-7-1/ 必12-ウ	〃
5	5/15	Unit 3	Clean Energy or Potential Threat?	C-7-1/ 必12-ウ	〃
6	5/22	Unit 4	Real Risk or Great Technology?	C-7-1/ 必12-ウ	〃
7	5/29		Review (3-4)	C-7-1/ 必12-ウ	〃
8	6/5		Review Test (3-4)	C-7-1/ 必12-ウ	〃
9	6/12	Unit 5	Legalization or Outlawing of Gay Marriage?	C-7-1/ 必12-ウ	〃
10	6/19	Unit 6	Separate Smoking Area or Total Ban?	C-7-1/ 必12-ウ	〃
11	6/26		Review (5-6)	C-7-1/ 必12-ウ	〃
12	7/3		Review Test (5-6)	C-7-1/ 必12-ウ	〃
13	7/10	Unit 7	Right to Die or Responsibility to Live?	C-7-1/ 必12-ウ	〃
14	7/17		Review (7)	C-7-1/ 必12-ウ	〃
15	7/24		Review (1-7)	C-7-1/ 必12-ウ	〃
16	9/3	Unit 8	Punishment or Discipline?	C-7-1/ 必12-ウ	〃
17	9/10	Unit 9	To Skip or Not to Skip?	C-7-1/ 必12-ウ	〃
18	9/17		Review (8-9)	C-7-1/ 必12-ウ	〃
19	9/24		Review Test (8-9)	C-7-1/ 必12-ウ	〃
20	10/1	Unit 10	Performance or Seniority?	C-7-1/ 必12-ウ	〃
21	10/8	Unit 11	Free Trade or Protection?	C-7-1/ 必12-ウ	〃
22	10/15		Review (10-11)	C-7-1/ 必12-ウ	〃
23	10/22		Review Test (10-11)	C-7-1/ 必12-ウ	〃
24	10/29	Unit 12	Animal Rights or Human Profits?	C-7-1/ 必12-ウ	〃
25	11/5	Unit 13	Peace Constitution or Revision?	C-7-1/ 必12-ウ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
26	11／12		Review (12-13)	C-7-1／ 必12-ウ	①
27	11／19		Review Test (12-13)	C-7-1／ 必12-ウ	〃
28	11／26	Unit 14	Death Penalty or Human Rights?	C-7-1／ 必12-ウ	〃
29	12／3		Review (14)	C-7-1／ 必12-ウ	〃
30	12／10		Review (8-14)	C-7-1／ 必12-ウ	〃

英語 I (通年・1単位)

D②A-b1-1107(D1107)

科目責任者：長峯 英樹（英語・講師）

科目担当者：①長峯 英樹（英語）

※この科目は、一般企業勤務経験のある教員が担当する

1. 科目の概要

本講義は、「英語基礎」の科目で学んだ内容の応用編である。グループワークを中心に、課題テーマについてグループで調査し、英語での発表を経験する。

2. 一般目標

国内外で論争となっている様々な社会問題の背景知識について英語で学び、論理的に自分の意見を述べる基礎的なライティング力とスピーチング力を身につける。

3. 到達目標

- 1) 「英語基礎」科目で学んだテーマについて、テキスト以外の資料を読むことで理解を深める。
- 2) 大手メディアで報道される海外の時事ニュースに慣れる。
- 3) 関心テーマについてグループで調査し、英語で発表する経験を積む。

4. 履修の進め方

「英語基礎」で学んだ知識をもとに、プレゼンテーションスキルの向上を目的とした講義内容となる。グループワークが中心となる。

5. 準備学修

予習については基本的に「英語基礎」と同じであるため、下記の復習に力を入れること。

＜復習＞

「英語基礎」の復習（リスニング）に加え、講義で指摘された重要語句・表現を含む英文を何度も音読したり、書いたりしながら覚える（約30分）

＜その他＞

「英語基礎」で使用するテキストの英文を習熟すること。また、映画や雑誌・新聞など、日常的にできるだけ多く英語に触れるよう心がけること。

6. 評価方法

筆記試験（100%）により評価し、100点満点中65点以上を合格とする。

なお、筆記試験は①前期定期試験、②後期定期試験の平均点で評価される。筆記試験のフィードバックは基本的に次回講義時に解説する。

7. 教本

「英語基礎」と同じ（植田一三, Pros and Cons-Discussing Today's Controversial Issues, Cengage Learning）

8. 参考書

特になし。

必要に応じて、新聞や雑誌などの特集記事のコピーを配布。

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号、国：国家試験出題基準、担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／10	Unit 1	Controlling Internet content	C-7-1／ 必12-ウ	①
2	4／17	Unit 2	Hosting the Olympics	C-7-1／ 必12-ウ	〃
3	4／24		Review (1-2)	C-7-1／ 必12-ウ	〃
4	5／8		Review Test (1-2)	C-7-1／ 必12-ウ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
5	5/15	Unit 3	Restoring nuclear power generation	C-7-1/ 必12-ウ	①
6	5/22	Unit 4	GM foods	C-7-1/ 必12-ウ	〃
7	5/29		Review (3-4)	C-7-1/ 必12-ウ	〃
8	6/5		Review Test (3-4)	C-7-1/ 必12-ウ	〃
9	6/12	Unit 5	Legalizing gay marriage	C-7-1/ 必12-ウ	〃
10	6/19	Unit 6	Banning smoking in public places	C-7-1/ 必12-ウ	〃
11	6/26		Review (5-6)	C-7-1/ 必12-ウ	〃
12	7/3		Review Test (5-6)	C-7-1/ 必12-ウ	〃
13	7/10	Unit 7	Euthanasia	C-7-1/ 必12-ウ	〃
14	7/17		Review(7)	C-7-1/ 必12-ウ	〃
15	7/24		Review (1-7)	C-7-1/ 必12-ウ	〃
16	9/3	Unit 8	Corporal punishment	C-7-1/ 必12-ウ	〃
17	9/10	Unit 9	Grade-skipping	C-7-1/ 必12-ウ	〃
18	9/17		Review (8-9)	C-7-1/ 必12-ウ	〃
19	9/24		Review Test (8-9)	C-7-1/ 必12-ウ	〃
20	10/1	Unit 10	The performance-based pay system	C-7-1/ 必12-ウ	〃
21	10/8	Unit 11	The TPP	C-7-1/ 必12-ウ	〃
22	10/15		Review (10-11)	C-7-1/ 必12-ウ	〃
23	10/22		Review Test (10-11)	C-7-1/ 必12-ウ	〃
24	10/29	Unit 12	Animal Testing	C-7-1/ 必12-ウ	〃
25	11/5	Unit 13	Revising Article 9	C-7-1/ 必12-ウ	〃
26	11/12		Review (12-13)	C-7-1/ 必12-ウ	〃
27	11/19		Review Test (12-13)	C-7-1/ 必12-ウ	〃
28	11/26	Unit 14	Capital punishment	C-7-1/ 必12-ウ	〃
29	12/3		Review(14)	C-7-1/ 必12-ウ	〃
30	12/10		Review (8-14)	C-7-1/ 必12-ウ	〃

心理学 (前期・1単位)

D①②A-a1-1109 (D1109)

科目責任者：佐藤 歩 (心理・講師)

科目担当者：①佐藤 歩 (心理)

※この科目は、公認心理師である教員が担当する

1. 科目の概要

心理学はその対象となる人間存在の複雑さや曖昧さ、多様性をそのまま引き受けざるを得ず、一義的・一般的知見を抽出しにくいという学問でもある。本講義では心理学の基本的な立場を通して、人間理解の特性を学習する。また歯科医療との摺り合わせを鑑み、臨床家として他者を理解・援助するにあたっての心理学的な手がかりや方法を探る。そして心理テスト等を通して、自己理解が他者理解・援助と相即することを学ぶ。

2. 一般目標

先ず、心理学の代表的な理論や人間理解の方法について説明するために、心の探究の歴史を理解する。続いて、悩みを抱える人の心理ならびにその援助法にあたり、医療従事者として配慮すべきことを考えるために、心理学を習得する。

3. 到達目標

- 1) 現代における心の問題を述べられる。
- 2) 心理学の基本的な立場を説明できる。
- 3) 性格を分類できる。
- 4) 心身症、歯科心身症を説明できる。
- 5) 心の援助 (事例読解) を実施できる。

4. 履修の進め方

講義形式でスライドとプリントを使用して履修する。

5. 準備学修

予習：シラバスにて次回講義内容箇所を確認し、予め関連する内容について参考書を熟読しておくこと (30分)。

復習：重要箇所をプリントで確認し、質問等があれば、積極的にオフィスアワーを利用すること (30分)。

6. 評価方法

定期試験 (本試験・追試験・再試験) で65点以上の者を合格とする。全授業範囲を記述、選択式で実施する。

7. 教本

なし。下記参考書と、毎回科目担当者がプリントを配布する。

8. 参考書

ベーシック心理学 第2版 二宮克美編著 医歯薬出版

9. 授業内容と日程

(コ：コアカリ記号、国：国家試験出題基準、担：担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4/9	オリエンテーション	講義の主題と進行について		①
2	4/16	心の声を聴く	カウンセリングの技法	D-2-1)/ 総VII-9-C	〃
3	4/23	現代における心の問題①	虐待の分類と対応	D-5-6), D-5-7)/ 総I-2-アg	〃
4	5/7	現代における心の問題②	依存症	D-5-9)/ 必6-アj	〃
5	5/14	現代における心の問題③	アダルトチルドレン	A-2-2)/ 必6-アj	〃
6	5/21	心理学の基本的な立場①	行動療法および認知療法 (認知行動療法)	D-5-9)/ 総VII-9-C	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
7	5/28	心理学の基本的な立場②	行動療法および認知療法(認知行動療法)	D-5-9)/ 総VII-9コ	①
8	6/4	臨床心理学入門①	精神医学と主な精神疾患	D-5-9)/ 各III-シef	〃
9	6/11	臨床心理学入門②	心身症と歯科心身症	D-5-9)/ 各III-ソb	〃
10	6/18	心の発達①	発達課題と危機(幼年期)	A-2-2)/ 必5-イab	〃
11	6/25	心の発達②	発達課題と危機(青年期)	A-2-2)/ 必5-イab	〃
12	7/2	心の発達③	発達課題と危機(成人期および高齢期)	A-2-2)/ 必5-イab	〃
13	7/9	性格とその把握①	性格の分類と測定法	D-5-9)/ 総II-7イc	〃
14	7/16	性格とその把握②	エゴグラムの活用	D-5-9)/ 総II-7イc	〃
15	7/23	心の援助の実際	事例読解	D-5-9)/ 総VII-9コ	〃

経営学（後期・1単位）

D②A-al-1110(D1110)

科目責任者：長峯 英樹（英語・講師）

科目担当者：①長峯 英樹（英語）

※この科目は、一般企業勤務経験のある教員が担当する

1. 科目の概要

本講義では、将来、経営や組織運営に関する課題に直面した時に、個人的な経験や直感のみに頼るのではなく、様々な企業の事例や経営学的な思考をもとに論理的に分析・考察できる基礎スキルを身につけることを目的としている。

2. 一般目標

多様な業界における注目企業の事例を学ぶことにより、企業経営に興味をもつことが第一の目標である。

3. 到達目標

- 1) 基礎的なフレームワークおよびビジネスモデルの概要が理解できる。
- 2) 固定観念や思い込みにとらわれない独自の視点を示すことができる。
- 3) 将来的な経営イメージ構築のために、日常的に経営関連の書籍や文献を読み、新たな視点を発見し続けることができる。

4. 履修の進め方

いくつかの企業事例を取り上げ、理論やフレームワークを通して考察・分析する。単なる講義形式に終始することなく、各設定テーマに関する分析と議論をグループワークや発表を通じて深めていく。当科目では学生の積極的な発言や議論を歓迎する。

5. 準備学修

＜予習＞

シラバスで次回講義内容を確認し、論点や質問事項などを整理しておく（60分）

＜復習＞

講義で学んだフレームワークや企業戦略が歯科業界に応用できないか考察してみる（30分）

＜その他＞

講義で取り上げた企業の商品やサービスを実際に体験したり、新聞や雑誌、経営書を読んだり、日常的に経営に関する知識と考察を深めてほしい。

6. 評価方法

後期定期試験（80%）、課題提出（10%）、グループによる事例研究発表（10%）の合計により評価し、100点満点中65点以上を合格とする。

7. 教本

なし。毎回の講義で関連テーマの資料や記事・レポートなどを配布する。

8. 参考書

なし

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号、国：国家試験出題基準、担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	9/4	イントロダクション	経営学で学ぶこと		①
2	9/11	事業アイディア1	事業構想		〃
3	9/18	事業アイディア2	事業構想の検証－採算性の観点から		〃
4	9/25	イノベーション1	イノベーションとは		〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
5	10/2	イノベーション2	イノベーションのジレンマ		①
6	10/9	分析視点1	成長企業の収益モデル		〃
7	10/16	分析視点2	市場環境分析		〃
8	10/23	分析視点3	想定顧客と課題仮説		〃
9	10/30	分析視点4	独自の価値提案とソリューション		〃
10	11/6	分析視点5	利益の創出と事業拡大に向けた再投資		〃
11	11/13	グループワーク1	事例研究1		〃
12	11/20	グループワーク2	事例研究2		〃
13	11/27	グループワーク3	事例研究発表1		〃
14	12/4	グループワーク4	事例研究発表2		〃
15	12/11	考察	経営理論をいかに歯科医療分野に活用するか		〃

日本語学Ⅰ（通年・4単位）

D②A-a4-1111(D1111)

科目責任者：本多 真史（日本語・講師）

科目担当者：①本多 真史（日本語）

1. 科目の概要

「高度な専門知識と技術を備えた人間性豊かな歯科医師になる」ため、「大学で何を学ぶべきなのか」を理解し、歯学の学びに欠かせない知識・姿勢の他、倫理観をも養成しつつ、他者とのコミュニケーションが円滑にいくような技能を修得する。また、文章を正確に読み・書き、他者の意見をきちんと理解し、自らの考えを整理し、それを正しく・わかりやすく伝えることができるようになる。様々な角度から「日本語について」学び、歯学の専門学習の基礎となる日本語運用能力を養う。

2. 一般目標

「大学で学ぶ」ことに必要な、「読む、聞く、話す、書く、考える」の基本姿勢、知識、技能を身につける。また、図書館利用術や書籍・論文・資料の読解法といったリサーチ、プレゼンテーション技法、さらには論理的な文章・レポートの書き方の技能も身につける。加えて、日本語コミュニケーション能力、文章表現能力などを高め、上記の基本姿勢の他、まとめる力、伝える力をも向上させる。

3. 到達目標

- 1) 歯科医療人となるための「読む、聞く、話す、書く、考える」の基礎力を身につける。
- 2) 正確、かつ、わかりやすい日本語を用いて、説得力のある文章を作ることができる。
- 3) 論理構造を理解しつつ、書籍・論文を正確に読むことができる。
- 4) 講義及び他者の発表をきちんと聞くことができる。
- 5) 敬語を正しく使い、コミュニケーション力及びマナー力を向上させる。
- 6) 手紙、メールの正式な書き方、電話のかけ方・対応の仕方がきちんとできる。
- 7) 図書館を効果的に利用でき、情報収集能力を高める。
- 8) 歯学の専門学習に必要な「学習法」を理解できる。

4. 履修の進め方

- 1) 教本及び講義資料をもとに、参加型・実践形式で展開していく。
- 2) 演習形式により、各回の内容に関連した読解力の育成を随所で行う。
- 3) 各自ノートを作り、板書を適宜書き込むことを基本とする。
- 4) 口頭での重要な点は、プリントや教科書への書き込みやマーキングを行う。

5. 準備学修

講義受講前に、シラバスで内容を確認し、それに関する事柄を理解しておくことが望ましい（所要時間10分前後）。日本語分野で培われる読解力、ならびに聞く力・読む力、考える力・思う力、話す力・書く力は、国家試験を解く際はもちろん、医療関係の仕事では必ず必要になる。そのため、講義受講後は、その内容を復習（所要時間30分前後）し、日頃から自然に実践できるように心がける。

6. 評価方法

定期試験（70%）、ワークシート等（30回）の提出状況及びその内容（30%）で評価し、65点以上を合格とする。試験問題は、多肢選択方式と記述式が含まれる。定期試験のフィードバックは、講義内で行う。また、ワークシート等については、点検して個人へ返却する。

7. 教本

『大学生のための日本語表現トレーニング・スキルアップ編』、『読解現代文必携 キーワードの卵』、『1日10分の言語力ドリル 聞く・話す』、『1日10分の言語力ドリル 読む』

8. 参考書

『質問力』、『質問力』の教科書』、『大学生のための社会人入門トレーニング』、『文章力の基本』、『あたりまえだけなかなかできない敬語のルール』、『コミュニケーションの教科書』

9. 授業内容と日程

(コ:コアカリ記号、国:国家試験出題基準、担:担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4/10	オリエンテーション	大学で日本語を学ぶ意義を理解しよう	PR-01~06, LL-01~05, RE-01~06, CM-01~05, C-2-1, C-2-3~C-2-6, D-2-1-1~1/必-8-ウ-abede	①
2	4/10	〃	〃	〃	〃
3	4/17	読解力向上演習(1)	「読解力」とは何かを理解しよう	PR-04, LL-01, LL-03~05, RE-01, RE-05, PS-12, CM-02, C-2-1, C-2-3~C-2-6	〃
4	4/17	自己紹介	具体的に話そう	〃	〃
5	4/24	読解力向上演習(2)	「論理的思考力」とは何かを理解しよう	〃	〃
6	4/24	大学でのノートの取り方	授業を再現できるノートを作ろう	〃	〃
7	5/8	図書館利用術	図書館の利用の仕方〈基礎・実践〉	〃	〃
8	5/8	〃	〃	〃	〃
9	5/15	読解力向上演習(3)	「言い換える力(同等関係整理力)」とは何かを理解しよう	PR-04, LL-01, LL-03~05, RE-01, RE-05, PS-12, CM-02, C-2-1, C-2-3~C-2-6	〃
10	5/15	読解の仕方	論文の読み方を学ぼう	〃	〃
11	5/22	読解力向上演習(4)	文章読解問題の、読み解くべき対象について理解しよう	〃	〃
12	5/22	様々な文章の読み取り方	論理的に考える力を身につけよう	〃	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
13	5/29	グループ議論1	〈実践演習〉議論してまとめる力を養おう	PR-01~06, LL-01~05, RE-01~06, PS-12, CM-01~05, C-1-3-1・1-3-2, C-2-1, C-2-3~C-2-7	①
14	5/29	〃	〃	〃	〃
15	6/5	読解力向上演習(5)	「読解問題における主要な設問」について理解しよう	PR-04, LL-01, LL-03~05, RE-01, RE-05, PS-12, CM-02, C-2-1, C-2-3~C-2-6	〃
16	6/5	説明のコツ	「全体⇒部分(部分⇒全体)」で説明しよう	〃	〃
17	6/12	読解力向上演習(6)	「比べる力(対比関係整理力)」とはどのようなものなのかを理解しよう	〃	〃
18	6/12	アンケートの取り方	アンケート用紙の3大要素をおさえよう	〃	〃
19	6/19	読解力向上演習(7)	生きていく上で読解力は必要であることを理解しよう	〃	〃
20	6/19	確実なメモ	5W1Hでチェックしよう	〃	〃
21	6/26	読解力向上演習(8)	「分かる」とは「分ける」ことであることを知ろう	〃	〃
22	6/26	伝えるコミュニケーション	その重要性・必要性を理解しよう	〃	〃
23	7/3	読解力向上演習(9)	文章中の対比の関係を読み取ろう	〃	〃
24	7/3	資料の読み取り	表・図・グラフから情報を抽出しよう	〃	〃
25	7/10	読解力向上演習(10)	讓歩構文とは何かを理解しよう	〃	〃
26	7/10	堅実なレポートの書き方	具体的な手順体裁を身につけよう	〃	〃
27	7/17	読解力向上演習(11)	「たどる力(因果関係整理力)」とはどのようなもののかを理解しよう	〃	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
28	7/17	大学生になる ということ	読む力・書く 力・聞く力・ 議論する力を 身につけよう (まとめ1)	PR-04, LL-01, LL-03~05, RE-01, RE-05, PS-12, CM-02, C-2-1, C-2-3~C-2-6	①
29	7/24	グループ議論 2	〈実践演習〉 議論してまと める力を養お う	PR-01~06, LL-01~05, RE-01~06, PS-12, CM-01~05, C-1-3-1· 1-3-2, C-2-1, C-2-3~C-2-7	〃
30	7/24	〃	〃	〃	〃
31	9/6	読解力向上演 習(12)	主張・具体例 を見分けられ るようになら う	PR-04, LL-01, LL-03~05, RE-01, RE-05, PS-12, CM-02, C-2-1, C-2-3~C-2-6	〃
32	9/6	メールの書き 方	依頼メールの 基本を学ぼう	〃	〃
33	9/13	読解力向上演 習(13)	理由説明につ いて学ぼう	〃	〃
34	9/13	敬語基礎	基本ルールを マスターしよ う	〃	〃
35	9/20	読解力向上演 習(14)	指示語につい ての理解を深 めよう	〃	〃
36	9/20	履歴書の書き 方	しっかりとし た履歴書を書 こう	〃	〃
37	9/27	読解力向上演 習(15)	「要点把握の 仕方」につい て学ぼう	〃	〃
38	9/27	面接の受け方	質問内容を予 想して準備し よう	〃	〃
39	10/4	読解力向上演 習(16)	複数の該当箇 所のまとめ方 について学ぼ う	〃	〃
40	10/4	手紙の書き方	書式とマナー の基本を身に つけよう	〃	〃
41	10/11	読解力向上演 習(17)	要点の抜き取 り方について 学ぼう	〃	〃
42	10/11	電話の応対	電話のかけ 方・受け方・ アポのとり方 を身につけよ う	〃	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
43	10/18	グループ討論 3	〈実践演習〉 議論してまと める力を養お う	PR-01~06, LL-01~05, RE-01~06, PS-12, CM-01~05, C-1-3-1· 1-3-2, C-2-1, C-2-3~C-2-7	①
44	10/18	〃	〃	〃	〃
45	10/25	読解力向上演 習(18)	段落区分につ いて学ぼう	PR-04, LL-01, LL-03~05, RE-01, RE-05, PS-12, CM-02, C-2-1, C-2-3~C-2-6	〃
46	10/25	要約の仕方	文章の構成を 考えよう	〃	〃
47	11/1	読解力向上演 習(19)	要旨の整理と まとめ方につ いて学ぼう	〃	〃
48	11/1	相手を納得さ せるコツ	説得力のある 文章の書き方 を身につけよ う	〃	〃
49	11/8	読解力向上演 習(20)	主張・理由・ 具体例のつか み方について 学ぼう	〃	〃
50	11/8	効果的なプレ ゼンテーション	レジュメ・視 覚資料を作成 しよう	〃	〃
51	11/15	読解力向上演 習(21)	要旨を読み取 ろう	〃	〃
52	11/15	ディベートの 仕方	総合的な力を 身につけよう	〃	〃
53	11/22	読解力向上演 習(22)	主張・理由・ 具体例が区別 しにくい文章 に触れよう	〃	〃
54	11/22	(小)論文の書 き方	予め型を決め ておこう(卒 業論文を含 む)	〃	〃
55	11/29	歯科医療人に なるというこ と	歯科医師に必 要な能力を理 解しよう (まとめ2)	〃	〃
56	11/29	〃	〃	〃	〃
57	12/6	グループ討論 4	〈実践演習〉 討論して総合 的な力を養お う	PR-01~06, LL-01~05, RE-01~06, PS-12, CM-01~05, C-1-3-1· 1-3-2, C-2-1, C-2-3~C-2-7	〃
58	12/6	〃	〃	〃	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
59	12／13	グループ討論5	〈実践演習〉 討論して総合的な力を養おう	PR-01～06, LL-01～05, RE-01～06, PS-12, CM-01～05, C-1-3-1・ 1-3-2, C-2-1, C-2-3～C-2-7	①
60	12／13	〃	〃	〃	〃

医療倫理学（後期・1単位）

D①②③A-a1-1202(D1202)

科目責任者：長岡 正博（薬理・講師）

科目担当者：①長岡 正博（薬理）

※この科目は、診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

医療倫理学は、医師・歯科医師など、医療の扱い手と医療の受け手である患者との関係の在り方とその関係を良好に保つためのルールを学ぶ学問であり、またその基盤となる人間の道徳的・倫理的・法的規範についての問題意識を養うことを目的とした学問である。医療はそもそも始まりから「倫理」すなわち「人間同士がお互い相手のことを考えて自分を律するルール」と一体となり行われてきたため、倫理と切り離しては成立しない。講義の各単元は相互に密接に関連しており、独立したものではないため、単なる暗記物ではあってはならず、しっかり理解した上で問題意識を持ちながら臨み学ぶことが必要である。

2. 一般目標

医療行為の特殊性から、歯科医師はその職業固有かつ道徳的な規範と自律倫理が求められることを理解し、全ての医療従事者の職業上の義務と社会における医療のあり方について検討し、問題解決のための具体的指針を習得する。

3. 到達目標

- 1) 倫理学について概説できる。
- 2) 医療倫理とは何かについて説明できる。
- 3) 医療倫理に関する規範とバイオエシックスについて説明できる。
- 4) 現代医療の倫理問題について説明できる。

4. 履修の進め方

講義形式で板書およびスライドと資料を使用して履修する。

5. 準備学修

予習：新聞等から医療に関わる社会情勢や社会問題について考えること。(30分)

復習：講義内容の資料を復習しておくこと。(30分)

6. 評価方法

定期試験（本試験）で65点以上を合格とする。再試験は希望者を対象に、必要に応じ実施する。全授業範囲を記述式で実施する。

7. 教本

なし

8. 参考書

関東医学哲学倫理学会 編 医療倫理 Q & A (新版) 太陽出版

9. 授業内容と日程

(コ：コアカリ記号、国：国家試験出題基準、担：担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	9／4	なぜ医療倫理学を学ぶか	医療倫理概論 歯科医師に求められる医療倫理	PR-1, 2／ 必1-ア-a	①
2	9／11	倫理学とは何か①	倫理とは何か、 倫理の原理、 倫理的行為の原則	GE-1／ 必1-ア-a	〃
3	9／18	倫理学とは何か②	法と倫理の成り立ち、法と倫理・倫理と道徳の関係	GE-2／ 必1-ア-a	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
4	9/25	生命・医療倫理①	バイオエシックスの誕生、生命・医療倫理の相違	C-1-1-1/ 必1-ア-a, b	①
5	10/2	生命・医療倫理②	医の倫理の変遷、パートナーリズム	C-1-2-1/ 必1-ア-a, b	〃
6	10/9	生命・医療倫理③	人を対象とする医学研究の倫理規範・死に関する声明	C-1-1-5/ 必2-エ-a, b	〃
7	10/16	患者中心の医療①	患者の権利	C-1-1-1/ 必1-ア-a	〃
8	10/23	患者中心の医療②	インフォームド・コンセント①	C-1-1-4/ 必1-イ-a	〃
9	10/30	患者中心の医療③	インフォームド・コンセント②	C-1-1-4/ 必1-イ-a	〃
10	11/6	医療面接①	医療面接の目的・基本	D-2-1/ 必8-ウ-a	〃
11	11/13	医療面接②	医療面接の技法	D-2-1/ 必8-ウ-a	〃
12	11/20	現代医療の倫理問題①	人の権利はいつから生じるか、脳死と臓器移植	C-1-1-2/ 総Ⅲ-3-ア, イ	〃
13	11/27	現代医療の倫理問題②	告知するための条件、末期患者の苦痛と心理	C-1-1-2/ 総Ⅶ-5-ア, イ	〃
14	12/4	現代医療の倫理問題③	ターミナルケアとランディング	C-1-3-6/ 総Ⅶ-5-ア, イ	〃
15	12/11	現代医療の倫理問題④	ケーススタディ	GE-4/ 必2-カ-a, b	〃

基礎物理学 (通年・4単位)

D③A-a4-1301(D1301)

科目責任者：荒木 威（物理・講師）

科目担当者：①荒木 威（物理）

1. 科目の概要

基礎物理学では歯学部学生にとって物理学が身近に感じられるように授業を進めていきます。一般教養としての物理学だけでなく、歯科医師を目指す学生にとって必要な内容を多く含みます。例えば、身体動作の力学的な理解、材料の熱的性質、X線のエネルギー、放射性崩壊現象の基本性質などについて学びます。また演習問題を通じて、暗記だけに頼らず論理的な思考に基づき問題解決を図る習慣を養います。

2. 一般目標

的確な病態解析と適切な治療計画の立案を行うための基礎づくりとして以下を目標とする。

- ・物理学の基本的な知識を身に付ける。
- ・医学や歯学に関連する物理学の知識を身に付ける。
- ・論理的思考に基づいた問題解決能力を養う。

3. 到達目標

- ・力の性質が理解できる。
- ・運動とエネルギーの関係が理解できる。
- ・エネルギーと熱の関係が理解できる。
- ・X線と放射線の基本的な性質が理解できる。
- ・初等関数を含んだ基本的な計算ができる。

4. 履修の進め方

前半にプロジェクターを用いて解説を行い、後半に演習問題を通じて理解を深める。解説用に用いるスライドと演習問題・解答はすべてユニバーサル・パスポート上で公開する。

5. 準備学修

- ・前回行った演習の自己採点を行う（30分）。
- ・前回の講義スライドを読んで内容を復習する（30分）。
- ・次回の講義スライドを読んで内容を予習する（30分）。

6. 評価方法

課題提出（20点）、中間試験（40点）、定期試験（40点）に基づき、前期と後期それぞれ100点満点で評価し、前期と後期の平均点を最終評価とする。最終評価が65点以上を合格とする。課題には提出期限を設け、提出期限を過ぎた課題は0点とする。

最終評価において65点未満の者に対して、願い出に応じて学年末に再試験を行う。再試験において正解率65%以上を合格とする。ただし再試験対象外の者との公平性を期すため、再試験合格者の最終評価は65点とする。

疾病その他やむを得ない理由により中間試験または定期試験を欠席した者に対して、願い出に応じて追試験を行う。やむを得ない理由であったことを鑑み、追試験は中間試験・定期試験と同じく40点満点で評価する。

試験は全て筆記試験であり、選択問題、計算問題、記述問題で構成される。中間試験は月曜日1限に行い、前期は6月下旬～7月上旬、後期は10月下旬～11月上旬に実施する。正確な日にちは追って連絡する。

講義や試験に関する連絡事項、およびフィードバックはすべてユニバーサル・パスポート上で行う。

7. 教本

なし。必要な資料は毎回配布する。

8. 参考書

- ・高校で使用していた物理学の教科書
- ・医療系のための物理学入門、木下順二、講談社
- ・医歯系の物理学、赤野松太郎・鮎川武二・藤城敏幸・村田治、東京教学社

9. 授業内容と日程

(コ:コアカリ記号, 国:国家試験出題基準, 担:担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4/11	ガイダンス	授業の進め方と目標		①
2	4/11		物理学の意義		〃
3	4/18	物理数学1	ベクトルと三角比①	RE-02/必12-イ	〃
4	4/18		ベクトルと三角比②	PS-12, C-2-4/必12-イ	〃
5	4/25	力学	身の回りの力①	B-1-1/必12-イ	〃
6	4/25		身の回りの力②	PS-12, C-2-4/必12-イ	〃
7	5/9		力の合成と釣り合い①	B-1-1/必12-イ	〃
8	5/9		力の合成と釣り合い②	PS-12, C-2-4/必12-イ	〃
9	5/16		力のベクトル表示①	B-1-1/必12-イ	〃
10	5/16		力のベクトル表示②	PS-12, C-2-4/必12-イ	〃
11	5/23		骨格筋の釣り合い①	B-1-1/必12-イ	〃
12	5/23		骨格筋の釣り合い②	PS-12, C-2-4/必12-イ	〃
13	5/30		力のモーメントと回転①	B-1-1/必12-イ	〃
14	5/30		力のモーメントと回転②	PS-12, C-2-4/必12-イ	〃
15	6/6		人体におけるテコ①	B-1-1/必12-イ	〃
16	6/6		人体におけるテコ②	PS-12, C-2-4/必12-イ	〃
17	6/13		重心と人体の安定性①	B-1-1/必12-イ	〃
18	6/13		重心と人体の安定性②	PS-12, C-2-4/必12-イ	〃
19	6/20		1次元の運動①	B-1-1/必12-イ	〃
20	6/20		1次元の運動②	PS-12, C-2-4/必12-イ	〃
21	6/27		運動方程式①	B-1-1/必12-イ	〃
22	6/27		運動方程式②	PS-12, C-2-4/必12-イ	〃
23	7/4		2次元の運動①	B-1-1/必12-イ	〃
24	7/4		2次元の運動②	PS-12, C-2-4/必12-イ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
25	7/11		仕事と運動エネルギー①	B-1-1/必12-イ	①
26	7/11		仕事と運動エネルギー②	PS-12, C-2-4/必12-イ	〃
27	7/18		位置エネルギーと力学的エネルギー保存則①	B-1-1/必12-イ	〃
28	7/18		位置エネルギーと力学的エネルギー保存則②	PS-12, C-2-4/必12-イ	〃
29	7/25		非保存力の仕事と全エネルギー保存則①	B-1-1/必12-イ	〃
30	7/25		非保存力の仕事と全エネルギー保存則②	PS-12, C-2-4/必12-イ	〃
31	9/4	流体力学	液体と気体の性質①	B-1-1/必12-イ	〃
32	9/4		液体と気体の性質②	PS-12, C-2-4/必12-イ	〃
33	9/11	熱力学	熱と温度①	B-1-1/必12-イ	〃
34	9/11		熱と温度②	PS-12, C-2-4/必12-イ	〃
35	9/18		熱力学第1法則①	B-1-1/必12-イ	〃
36	9/18		熱力学第1法則②	PS-12, C-2-4/必12-イ	〃
37	9/25		理想気体の状態方程式と状態変化①	B-1-1/必12-イ	〃
38	9/25		理想気体の状態方程式と状態変化②	PS-12, C-2-4/必12-イ	〃
39	10/2		サイクルと熱機関①	B-1-1/必12-イ	〃
40	10/2		サイクルと熱機関②	PS-12, C-2-4/必12-イ	〃
41	10/9		熱力学第2法則とエントロピー①	B-1-1/必12-イ	〃
42	10/9		熱力学第2法則とエントロピー②	PS-12, C-2-4/必12-イ	〃
43	10/16	物理数学2	指数関数と対数関数①	RE-02/必12-イ	〃
44	10/16		指数関数と対数関数②	PS-12, C-2-4/必12-イ	〃
45	10/23	振動・波動	単振動①	B-1-1/必12-イ	〃
46	10/23		単振動②	PS-12, C-2-4/必12-イ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
47	10／30		波①	B-1-1／ 必12-イ	①
48	10／30		波②	PS-12, C-2-4／ 必12-イ	〃
49	11／6		電磁波①	B-1-1／ 必12-イ	〃
50	11／6		電磁波②	PS-12, C-2-4／ 必12-イ	〃
51	11／13		X線①	D-2-5／ 必12-イ	〃
52	11／13		X線②	PS-12, C-2-4／ 必12-イ	〃
53	11／20	原子核物理学	物質の構造①	A-1-1／ 必12-イ	〃
54	11／20		物質の構造②	PS-12, C-2-4／ 必12-イ	〃
55	11／27		原子核の崩壊 と放射線①	D-2-5／ 必12-イ	〃
56	11／27		前期の復習	PS-12, C-2-4／ 必12-イ	〃
57	12／4		核分裂と核融合①	D-2-5／ 必12-イ	〃
58	12／4		核分裂と核融合②	PS-12, C-2-4／ 必12-イ	〃
59	12／11	宇宙物理学	初期宇宙論	RE-02／ 必12-イ	〃
60	12／11		後期の復習	PS-12, C-2-4／ 必12-イ	〃

物理学実験（後期・1単位）

D③A-cl-1303(D1303)

科目責任者：菊地 尚志（物理・教授）

科目担当者：①菊地 尚志（物理）、②荒木 威（物理）

1. 科目の概要

物理学が対象とするのは自然そのものです。そこで起こる様々な現象を人間の理性に則して、例えば、法則と言う形に焼き直して理解するのが物理学です。しかし、現象から法則を引き出す事は、目の前で起こる現象そのままからでは多くの二次的な要素が含まれていて困難です。そこでガリレオ以来、理性が問いかける問題点を端的に表す実験を企画しそれを通して自然を眺める事で、我々は物理学を発展させてきました。実験実習の第一の目的は、物理学のそのような性格を実感する事です。さらに、歯科医師となった時に有用な物理実験を積極的に取り入れます。

2. 一般目標

物理学が記述している事柄が現実の自然現象を表現していることを理解するために、様々な実験を実施する。その経験を通し、将来直面する問題を理性的に判断するために、合理的に解決できる能力を養う。自分の判断、解決を理路整然と文章にまとめ、他者へ説明する能力も養う。

3. 到達目標

- 1) 自然現象を説明する。
- 2) 機器を正しく取り扱う。
- 3) 誤差を含む数値を処理する。
- 4) 報告書を分かり易く書く。

4. 履修の進め方

実験を実施する前に担当する実験について教科書で予習し安全に実験を進める。実験での測定値が妥当なものであるか確認しながら慎重に実験を進める。実験結果を、他者に分かり易く伝えることを意識して報告書にまとめる。

5. 準備学修

実験の割り当ては毎回変わります。終了時に次の実験の割り当てをしっかり確認して、予習をしましょう（40分）。

6. 評価方法

毎回の実験を、出席し実験を行なったとき45%，提出された報告書をその内容によって最大55%，全体で100%の評価をする。半期分全体の成績の総和で合否を決める。

7. 教本

奥羽大学歯学部物理学教室編『物理学実験』

8. 参考書

なし

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号、国：国家試験出題基準、担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	9／5	重力加速度	ボルダ振り子で重力加速度を測る。	A-1-1, B-1-1, D-2-5／ 必12-イ	① ②
2					
3					
4	9／12	ヤング率	ユーイングの装置で金属のヤング率を測る。	A-1-1, B-1-1, D-2-5／ 必12-イ	〃
5					
6					
7	9／19	ヤング率	サールの装置で金属のヤング率を測る。	A-1-1, B-1-1, D-2-5／ 必12-イ	〃
8					
9					

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
10	9/26	液体の密度	ヘアーの装置で液体の密度を測る。	A-1-1, B-1-1, D-2-5/ 必12-イ	① ②
11					
12					
13	10/3	剛性率	ねじれ振り子で金属の剛性率を測る。	A-1-1, B-1-1, D-2-5/ 必12-イ	〃
14					
15					
16	10/10	周波数と位相差	シンクロスコープで正弦波の位相を測る。	A-1-1, B-1-1, D-2-5/ 必12-イ	〃
17					
18					
19	10/17	屈折率	透明な物質の屈折率を測る。	A-1-1, B-1-1, D-2-5/ 必12-イ	〃
20					
21					
22	10/24	半導体素子	トランジスタとダイオードの電気特性を測る。	A-1-1, B-1-1, D-2-5/ 必12-イ	〃
23					
24					
25	10/31	弾性率	弾性率について合同で講義する。	A-1-1, B-1-1, D-2-5/ 必12-イ	〃
26					
27					
28	11/7	旋光性	検糖計でショ糖の旋光性を測る。	A-1-1, B-1-1, D-2-5/ 必12-イ	〃
29					
30					
31	11/14	光のスペクトラム	分光器で様々な光源のスペクトラムを測る。	A-1-1, B-1-1, D-2-5/ 必12-イ	〃
32					
33					
34	11/21	電位	電位の空間分布を測る。	A-1-1, B-1-1, D-2-5/ 必12-イ	〃
35					
36					
37	11/28	電気抵抗	金属の電気抵抗を測る。	A-1-1, B-1-1, D-2-5/ 必12-イ	〃
38					
39					
40	12/5	電気抵抗	溶液の電気抵抗を測る。	A-1-1, B-1-1, D-2-5/ 必12-イ	〃
41					
42					
43	12/12	熱の仕事等量	ニクロム線の電力のジュル熱への変換を測る。	A-1-1, B-1-1, D-2-5/ 必12-イ	〃
44					
45					

基礎化学（通年・4単位）

D③A-a4-1304(D1304)

科目責任者：斎藤昇太郎（化学・講師）

科目担当者：①斎藤昇太郎（化学）

1. 科目の概要

化学は生活や産業・医療と密接な関連があり、歯学においても基本的な知識として身につけることが求められます。化学を学修していない方にも理解しやすいように、身の回りの現象や物質などの例をあげながら、大学の化学として入門・基礎的な事項を中心に講義を行います。

2. 一般目標

自然科学の基本である化学を学修することで、科学への興味・理解を深める。教養としてだけでなく、生命科学分野の知識を得ることで、基礎系科目・臨床系科目の理解・修得のために必要な知識・計算技術、および物質の構造や名称・性質を理解し説明できるようにする。

3. 到達目標

- 1) 原子構造を理解し、元素名、元素記号、原子番号を記述できる。
- 2) 重要な化合物の構造式と名称、性質を理解し記述・説明できる。
- 3) 基本的な化学反応を記述・説明できる。
- 4) 例題・演習を通して計算問題を解くことができる。
- 5) IUPAC 命名法を理解し、構造式から有機化合物名を、有機化合物名から構造式を記述できる。
- 6) 生体関連物質の構造や名称を示すことができる。

4. 履修の進め方

講義の内容は概ね教科書に沿って進めますが、教科書に記載されていない重要な内容も解説しますので復習は重要です。講義中の演習あるいは課題により、学習が不足している要素の把握、および総合的な理解を促します。

5. 準備学修

講義前に教科書を読み、用語や概要を確認し、「自分が知らないこと」を把握しておくこと。(20分)

講義後は配布される課題等を活用し、講義内容を充分に復習の上、「予習時に自分が知らなかったこと」を理解できたか確認すること。(60分)

6. 評価方法

定期試験(80%、いずれも筆記)および提出物(20%)で評価し、65点以上で合格とする。フィードバックとして、提出物は採点して返却する。

7. 教本

前期：Molly M.Bloomfield 著 伊藤俊洋 他訳「生命科学のための基礎化学－無機物理化学編」丸善出版

後期：Molly M.Bloomfield 著 伊藤俊洋 他訳「生命科学のための基礎化学－有機・生化学編」丸善出版

8. 参考書

＜初学者向け＞

青野貴行 著 「大学生のための やさしい化学入門」化学同人

小島一光 著 「基礎固め 化学」 化学同人

野島高彦 著 「医療・看護系のための やさしく学べる化学」 裳華房

斎藤勝裕 他 著 「メディカル化学」 裳華房

岡崎三代、奈良雅之 著 「臨床検査学講座 化学」 医歯薬出版

＜既学者向け＞

原田義也 著 「生命科学のための基礎化学」・「生命科学のための有機化学 I・II」 東京大学出版会

9. 授業内容と日程

(コ:コアカリ記号, 国:国家試験出題基準, 担:担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4/9	ガイダンス	講義の内容と進め方について、化学の概説	A-1-1)/ 必12-イ	①
2	4/9	物質の分類と性質	組成と種類、定義	A-1-1)/ 必12-イ	〃
3	4/16	測定(1)	精確さと誤差 有効数字	A-1-1)/ 必12-イ	〃
4	4/16	測定(2)	換算とSI単位系	A-1-1)/ 必12-イ	〃
5	4/23	エネルギー(1)	定義と種類	A-1-1)/ 必12-イ	〃
6	4/23	エネルギー(2)	保存則、エントロピー	A-1-1)/ 必12-イ	〃
7	5/7	原子の構造	原子の構成要素と原子番号	A-1-1)/ 必12-イ	〃
8	5/7	電子配置	化学的性質との関連	A-1-1)/ 必12-イ	〃
9	5/14	周期表	周期表の見方と重要性	A-1-1)/ 必12-イ	〃
10	5/14	生命元素	生命活動と微量元素	A-1-1)/ 必12-イ	〃
11	5/21	化学結合	イオン結合、共有結合	A-1-1)/ 必12-イ	〃
12	5/21	電気陰性度	極性と非極性 水素結合	A-1-1)/ 必12-イ	〃
13	5/28	化学反応式	基本的な化合物と反応	A-1-1)/ 必12-イ	〃
14	5/28	酸化と還元	酸化還元反応とイオン化	A-1-1)/ 必12-イ	〃
15	6/4	モル	アボガドロ数とモルの概念	A-1-1)/ 必12-イ	〃
16	6/4	モル計算	モル計算の演習	A-1-1)/ 必12-イ	〃
17	6/11	物質の状態と変化	物質の三態と運動量	A-1-1)/ 必12-イ	〃
18	6/11	気体	圧力と理想気体の法則	A-1-1)/ 必12-イ	〃
19	6/18	放射能(1)	放射線と半減期	A-1-1), D-2-5)/ 必9-カ, 必12-イ, 総VI-2-ア	〃
20	6/18	放射能(2)	身近な放射能と生物への影響	A-1-1), D-2-5)/ 必9-カ, 必12-イ, 総VI-2-ア	〃
21	6/25	反応速度	エネルギーと反応速度の変化	A-1-1)/ 必12-イ	〃
22	6/25	化学平衡	ルシャトリエの原理	A-1-1)/ 必12-イ	〃
23	7/2	コロイド	界面活性剤と性質	A-1-1)/ 必12-イ	〃
24	7/2	溶質・溶媒・溶液	電解質と非電解質	A-1-1)/ 必12-イ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
25	7/9	濃度(1)	%、モル濃度 当量	A-1-1)/ 必12-イ	①
26	7/9	濃度(2)	濃度計算の演習	A-1-1)/ 必12-イ	〃
27	7/16	酸と塩基(1)	定義とpH	A-1-1)/ 必12-イ	〃
28	7/16	酸と塩基(2)	pHの計算、 脱灰と再石灰化	A-1-1)/ 必12-イ, 各II-1-ア	〃
29	7/23	酸と塩基(3)	中和反応と滴定、緩衝溶液	A-1-1)/ 必12-イ	〃
30	7/23	前期の復習	演習	A-1-1), D-2-5)/ 必9-カ, 必12-イ, 総VI-2-ア	〃
31	9/3	前期試験の講評	解説と要点の確認	A-1-1), D-2-5)/ 必9-カ, 必12-イ, 総VI-2-ア	〃
32	9/3	有機化合物	炭素原子の特異性と構造式の示し方	A-1-1)/ 必12-イ	〃
33	9/10	飽和炭化水素(1)	アルカン	A-1-1)/ 必12-イ	〃
34	9/10	飽和炭化水素(2)	炭素骨格、構造異性体	A-1-1)/ 必12-イ	〃
35	9/17	不飽和炭化水素(1)	アルケン・アルキン	A-1-1)/ 必12-イ	〃
36	9/17	不飽和炭化水素(2)	シス・トランス異性体	A-1-1)/ 必12-イ	〃
37	9/24	環式炭化水素(1)	シクロ化合物	A-1-1)/ 必12-イ	〃
38	9/24	環式炭化水素(2)	立体異性体と表記	A-1-1)/ 必12-イ	〃
39	10/1	芳香族炭化水素	ベンゼン置換体	A-1-1)/ 必12-イ	〃
40	10/1	有機演習(1)	炭化水素の命名・構造と性質の確認	A-1-1)/ 必12-イ	〃
41	10/8	含酸素有機化合物(1)	アルコール	A-1-1)/ 必12-イ	〃
42	10/8	含酸素有機化合物(2)	エーテル	A-1-1)/ 必12-イ	〃
43	10/15	含酸素有機化合物(3)	アルデヒドとケトン	A-1-1)/ 必12-イ	〃
44	10/15	含酸素有機化合物(4)	カルボン酸	A-1-1)/ 必12-イ	〃
45	10/22	含酸素有機化合物(5)	エステル	A-1-1)/ 必12-イ	〃
46	10/22	有機演習(2)	含酸素有機化合物の命名・構造と性質の確認	A-1-1)/ 必12-イ	〃
47	10/29	含窒素有機化合物(1)	アミンとイミン	A-1-1)/ 必12-イ	〃
48	10/29	含窒素有機化合物(2)	アミドとイミド	A-1-1)/ 必12-イ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
49	11/5	含窒素有機化合物(3)	複素環式化合物	A-1-1)/ 必12-イ	①
50	11/5	有機演習(3)	含窒素有機化合物の命名・構造と性質の確認	A-1-1)/ 必12-イ	〃
51	11/12	炭水化物(1)	単糖類の種類と構造	A-1-1), A-1-2)/ 必4-ア, 必12-イ	〃
52	11/12	炭水化物(2)	不斉炭素と生理活性	A-1-1), A-1-2)/ 必4-ア, 必12-イ	〃
53	11/19	炭水化物(3)	グリコシド結合と二糖類	A-1-1), A-1-2)/ 必4-ア, 必12-イ	〃
54	11/19	炭水化物(4)	多糖類	A-1-1), A-1-2)/ 必4-ア, 必12-イ	〃
55	11/26	脂質(1)	脂質と脂肪酸および単純脂質	A-1-1), A-1-2)/ 必4-ア, 必12-イ	〃
56	11/26	脂質(2)	複合脂質と誘導脂質	A-1-1), A-1-2)/ 必4-ア, 必12-イ	〃
57	12/3	タンパク質(1)	アミノ酸	A-1-1), A-1-2)/ 必4-ア, 必12-イ	〃
58	12/3	タンパク質(2)	構造と変性	A-1-1), A-1-2)/ 必4-ア, 必12-イ	〃
59	12/10	核酸	塩基とDNAの構造	A-1-1), A-1-3)/ 必4-ア, 必12-イ	〃
60	12/10	後期の復習	演習	A-1-1), A-1-2), A-1-3)/ 必4-ア, 必12-イ	〃

化学実験（後期・1単位）

D③A-cl-1306(D1306)

科目責任者：阿部 匡聰（化学・講師）

科目担当者：①阿部 匡聰（化学）、②斎藤昇太郎（化学）

1. 科目の概要

歯科医学を学んでいくうえで、生命現象や物質の変化を分子機械的に捉えていく素養を身に着けることは重要である。化学実験は、基本的な化合物について、構造・性質・反応を理解するとともに、物質の濃度を測定するしくみを理解する目的で、定量分析と有機定性分析で構成されている。定量分析では、化学反応や測定機器を利用し、試料中の目的成分の定量を行う。有機定性分析では、定性反応による化合物中の特定の官能基の検出や、生成した化合物の性質・機能の解析を行う。

2. 一般目標

ディプロマポリシー③病態解析と治療概念のため、

- 1) 学修者は、教本を読んで実験操作・手順を理解する。
- 2) 学修者は、定量分析・有機定性分析についての基本的知識、基本的技能を習得する。

3. 到達目標

- 1) 学修者は、教本に示された手順通りに、実験を行う。
- 2) 学修者は、実験器具を正しく取り扱う。
- 3) 学修者は、精密測容器具の目盛りを、正確に読み取る。
- 4) 学修者は、行った実験の過程で進行した反応を説明する。
- 5) 学修者は、得られた測定データや観察結果を、正確に記録する。
- 6) 学修者は、記録に基づいて、正確なレポートを作成する。

4. 履修の進め方

実験実習により進める。無機定量分析では、3～4人のグループ単位で行い、得られた数値データを整理し、各人が計算やグラフ作成を行い、結論を導き出し、レポートとして記述し、提出する。有機定性分析では、個人単位で行い、得られた観察結果について、試料として用いた化合物の構造・性質に基づいた考察を行い、レポートとして記述し、提出する。

5. 準備学修

基礎化学の内容を修得しておくことが望ましい。本科目の内容は、2年次で履修する化学に接続する。さらに、歯科基礎医学に関連し、特に、口腔生化学Ⅰ、Ⅱ、生体材料・歯科材料学Ⅰ、Ⅱ、歯科薬理学Ⅰ、Ⅱの履修に役立つ。

事前学習（15分）：教本の、当該項目のページを読み、実験操作の流れを把握し、記録すべき事柄チェックしておく。

事後学習（45分）：実験ノートに書いたデータ、観察結果を用いて、レポートを作成する。

6. 評価方法

提出物（レポート、実験ノートおよび演習課題）の評価（90%）、実習態度（集合時間厳守、共同実験参加、携行品、着装品）（10%）で評価し、65点以上で合格とする。

7. 教本

奥羽大学歯学部生体材料学講座化学分野編「化学実験テキスト」および配布プリント

8. 参考書

基礎化学の講義で使用する教科書

化学同人編集部編「実験を安全に行うために」化学同人

9. 授業内容と日程

(コ:コアカリ記号, 国:国家試験出題基準, 担:担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	9/6	ガイダンス	化学実験の概要; 化学実験での注意事項	A-1-1/ 必12-イ	① ②
2					
3					
4	9/13	実験準備-1: 有機定性分析	有機定性分析の概要; 器具の確認, 取り扱いの練習	A-1-1/ 必12-イ	〃
5					
6					
7	9/20	炭化水素の反応	アルケンの臭素化; バイヤー試験; ベンゼンのニトロ化, スルホン化	A-1-1/ 必12-イ	〃
8					
9					
10	9/27	アルコールの反応	アルコールの酸化, 脱水, エステル化; ルーカス試験; ヨードホルム反応	A-1-1/ 必12-イ	〃
11					
12					
13	10/4	フェノール類の反応	フェノールのアルカリに対する溶解性; フェノール類の臭素化, エステル化, 塩化鉄(III)反応; フェノールフタレインの生成と性質	A-1-1/ 必12-イ	〃
14					
15					
16	10/11	アルデヒドおよびケトンの反応	アルデヒド・ケトンのフェーリング反応, 銀鏡反応, 2,4-ジニトロフェニルヒドラジンとの反応; ベンズアルデヒドの酸化	A-1-1/ 必12-イ	〃
17					
18					
19	10/18	アミンの反応	アミンの塩基性; アミン塩酸塩の溶解性; カルボン酸アミドの生成; アリザリニイエロー-Rの生成と性質; パラレッドの生成と染色	A-1-1/ 必12-イ	〃
20					
21					
22	10/25	糖質の反応	モーリッシュ反応; バーフォード反応; セリワノフ反応; フェーリング反応; ヨウ素・デンプン反応	A-1-1, A-1-2/ 必4-ア, 必12-イ	〃
23					
24					

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
25	11/1	実験準備-2: 定量分析	定量分析の概要; 実験器具取り扱い練習(1)	A-1-1/ 必12-イ	① ②
26					
27					
28	11/8	実験準備-2: 定量分析	定量分析の概要; 実験器具取り扱い練習(2)	A-1-1/ 必12-イ	〃
29					
30					
31	11/15	中和滴定	水酸化ナトリウム水溶液の標定; 塩酸の標定(1)	A-1-1/ 必12-イ	〃
32					
33					
34	11/22	中和滴定	水酸化ナトリウム水溶液の標定; 塩酸の標定(2)	A-1-1/ 必12-イ	〃
35					
36					
37	11/29	キレート滴定	Ca ²⁺ , Mg ²⁺ 混合溶液の分別定量(1)	A-1-1/ 必12-イ	〃
38					
39					
40	12/6	キレート滴定	Ca ²⁺ , Mg ²⁺ 混合溶液の分別定量(2)	A-1-1/ 必12-イ	〃
41					
42					
43	12/13	演習	化学実験の内容全般についての演習	A-1-1, A-1-2/ 必4-ア, 必12-イ	〃
44					
45					

基礎生物学（通年・4単位）

D③A-a4-1307 (D1307)

科目責任者：今井 元（生物・准教授）

科目担当者：① 今井 元（生物）

※この科目は、診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

歯科医師を目指す学生は、物質の科学を基礎として、生体の構成要素である細胞、細胞によって構成された個体の機能を理解し、生物がどのように地球上で進化適応してきたか、現在どのような相互関係にあるかを修得する必要がある。本科目では、生命体の基本となる個体の階層性「細胞→組織→器官→器官系→個体」及び「その構造と機能」を歯学教育で行う系統的な体系（解剖生理学的体系）の中で理解し、さらに、「発生過程」「進化過程」などを学ぶことにより、長期記憶を形成する。履修方法は、学習効果ピラミッドに準じて行う。具体的には、「細胞の構造」・「脊椎動物の組織」・「刺激の受容と反応」・「体内環境の維持」・「生物の個体発生と系統発生」・「生態と行動」についての講義を聴講・理解し、各講義に対する課題（問題形式）について討議した後、課題の解答をサブノートにまとめ、教え合うことによって長期記憶を形成する。

2. 一般目標

「人間性豊かな歯科医師」を目指すために、初期段階として生命科学の基礎及び生物学的なものの見方・考え方を通じて、科学的にものを観察・理解をする姿勢を修得する。また、専門課程で学習する高度で専門的な知識をいれる「頭の中の引き出し（脳内コンテンツ：目次）」を確立するために、脊椎動物の「体制」と「発生」を系統的に説明できるようにする。

3. 到達目標

- 1) 生命体の基本となる階層性「細胞→組織→器官→器官系→個体」を説明できる。
- 2) 生物（原核生物・真核生物など）における「細胞の構造と機能」を説明できる。
- 3) 脊椎動物における「四大組織の基本構造と機能」を分類し、系統的に説明できる。
- 4) 人体の「器官・器官系の構造と機能」を分類し、その全体像を包括的に説明できる。
- 5) 「刺激の受容と反応」における、各器官の役割の全体像を説明できる。
- 6) 「体内環境の調節と恒常性の維持」における、各器官の役割の全体像を説明できる。
- 7) 脊椎動物と人体の「生殖と初期発生」について説明できる。
- 8) 脊椎動物と人体の「各器官の発生過程」について説明できる。
- 9) 脊椎動物の「進化と多様性」「生態と行動」について説明できる。

4. 履修の進め方

履修方法は、学習効果ピラミッドに準じて行う。講義では、講義プリントを使用して履修する。項目ごとに問題形式の課題（サブノート）を用いて形成的評価をしながら進み、サブノートを作成することで履修する。また、サブノートの問題を学生自身が討議し、教え合うことで完成し、能動的に修得する。

5. 準備学修

事前学習：配布プリント、および、実習で用いる教科書（得意になる解剖生理学）を復習・熟読し、高校生物学との違いを理解しておく（30分）。

事後学習：講義後にサブノートを完成し、講義内容のポイントを確認する。それによって、医療系大学における脊椎動物の体（人体と構造と機能）の全体像を理解し、2～3年次の高度で専門的な歯科基礎医学の科目（解剖学・組織学・生理学など）に備える（120分）。

6. 評価方法

総括的評価は、前期と後期の中間試験および定期試験（計4区分）にて行う。試験の実施は、中間試験は、6月～7月（前期）、11月～12月（後期）の月曜日1限の試験枠で行い、定期試験は、学期末の試験期間（前期：8月／後期：1月）に行う。各試験の範囲は、以下の通りとする（前期中間試験：基礎生物学1～16 | 前期定期試験：基礎生物学14～30 | 後期中間試験：基礎生物学27～45 | 後期定期試験：基礎生物学46～60）。追・再試験は、各区分毎に行う。各追・再試験の評価は、追試験は、100点満点とし、65点以上を合格とし、再試験は、65点以上を基本的に65点とする（ただし、本試験と再試験の平均点が65点以上になる場合、その平均点を評価点とする）。したがって、最終評価（100%）は、前期中間試験（25%）・前期定期試験（25%）・後期中間試験（25%）・後期定期試験（25%）の得点を合算して評価し、65点以上を合格とする。年度末の追・再試験は、上記4区分の総合評価が、65点未満の学生や公欠にて後期定期試験を受験できなかった学生に対して行い、65点以上を合格とする。

尚、やむを得ない理由があり（コロナ感染予防対策や生活指導委員会が認めた学生など）、試験の最終評価において、基準点を下回る学生については、試験の評価（80%）と各試験毎に提出する課題の点数（20%）を用いて、式【最終評価（点） = 試験の総合評価 × 0.8 + 課題点 × 0.2】で算出し、最終評価とする場合がある。この場合も、65点以上を合格とする（ただし、課題の提出が、提出期限（各試験の実施日）より遅れた場合は、25%／日の減点となる）。

7. 教本

下記の教科書と参考書を基に作成した配布プリントに沿って進める。

- 1) 得意になる解剖生理学：美田誠二（著） 照林社…生物学実験で購入済
- 2) ラングマン人体発生学 第11版：T.W.Sadler（著）、安田峯生（翻訳） MEDSi 社

8. 参考書

- 1) 人体の正常構造と機能 改訂2版：坂井建雄、河合克雅 総編集 日本医事新報社
- 2) カラー図解 アメリカ版大学生物学の教科書 第1巻～第3巻：デイヴィッド・サダヴァ（著） 講談社
- 3) 生物学（歯科衛生士教本）第1版：河合進次郎、高畠悟朗（著） 医歯薬出版株式会社

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号、国：国家試験出題基準、担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／11	細胞の構造と機能①	原核細胞・真核細胞	A-1-1, -4／必4-ア-a	①
2	4／11	細胞の構造と機能②	細胞膜・核・細胞内小器官	A-1-2, -4／必4-ア-b	ヶ
3	4／18	細胞の構造と機能③	細胞骨格・細胞外基質(1)	A-1-3, -4／必4-ア-c	ヶ
4	4／18	細胞の構造と機能④	細胞骨格・細胞外基質(2)	A-1-4, -5／必4-ア-c	ヶ
5	4／25	細胞の構造と機能⑤	細胞分裂（体細胞分裂／減数分裂）	A-1-4, -5／必4-ア-a～c	ヶ

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
6	4/25	細胞の構造と機能⑥	細胞周期(分裂期/分裂間期)	A-1-4, -5, A-2-3/必5-ア-a	①
7	5/9	脊椎動物の組織1:～上皮組織	上皮と腺の全体像と役割	A-3-1-1/必4-ア-d, 総II-1-ア	〃
8	5/9	脊椎動物の組織2:～結合組織1	結合(支持)組織の全体像と役割	A-3-1-2/必4-ア-d, g, 総II-1-ウ	〃
9	5/16	脊椎動物の組織3:～結合組織2	軟骨の全体像と役割	A-3-1-2/必4-ア-d, e, 総II-1-イ	〃
10	5/16	脊椎動物の組織4:～結合組織3	骨の全体像と役割	A-3-1-2/必4-ア-d, e, 総II-1-イ, 総II-8-ウ	〃
11	5/23	脊椎動物の組織5:～筋組織	筋の全体像と役割	A-3-1-3/必4-ア-d, e, 総II-1-イ	〃
12	5/23	脊椎動物の組織6:～神経組織1	神経組織と神経系の全体像と役割	A-3-1-5/必4-ア-d, e, 総II-1-ク	〃
13	5/30	脊椎動物の組織7:～神経組織2	末梢神経と中枢神経の構造と機能の違い	A-3-1-5/必4-ア-d, e, 総II-1-ク	〃
14	5/30	刺激の受容と反応1:～神経系1	神経の伝導と伝達1:静止膜電位・活動電位	A-3-1-5/必4-ア-d, e, 総II-1-ク	〃
15	6/6	刺激の受容と反応2:～神経系2	神経の伝導と伝達2:神経の伝導と伝達	A-3-1-5/必4-ア-d, e, 総II-1-ク	〃
16	6/6	刺激の受容と反応3:～神経系3	神経の伝導と伝達3:神経の興奮から効果器の作動までの流れ	A-3-1-5/必4-ア-d, e, 総II-1-ク	〃
17	6/13	刺激の受容と反応4:～感覚器1	感覚と感覚受容器の全体像	A-3-1-6/必4-ア-d, e, 総II-1-ク, 総II-6-ア	〃
18	6/13	刺激の受容と反応5:～感覚器2	体性感覚:皮膚感覚・深部感/頭頸部の感覚	A-3-1-6/必4-ア-d, e, 総II-1-ク, 総II-4-カ, 総II-5-ア, イ	〃
19	6/20	刺激の受容と反応6:～感覚器3	特殊感覚1:視覚1・視覚器の構造と機能の全体像	A-3-1-6/必4-ア-d, e, 総II-1-ク	〃
20	6/20	刺激の受容と反応7:～感覚器4	特殊感覚1:視覚2・焦点調節, 眼の保護, 眼球の動きの調節	A-3-1-6/必4-ア-d, e, 総II-1-ク	〃
21	6/27	刺激の受容と反応8:～感覚器5	特殊感覚2:平衡聴覚1・平衡聴覚器の構造と機能の全体像	A-3-1-6/必4-ア-d, e, 総II-1-ク	〃
22	6/27	刺激の受容と反応9:～感覚器6	特殊感覚2:平衡聴覚2・コルチ器, 平衡斑, 膨大部移の構造と機能	A-3-1-6/必4-ア-d, e, 総II-1-ク	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
23	7/4	刺激の受容と反応10:～感覚器7	特殊感覚3:嗅覚・嗅覚器の構造と機能の全体像	A-3-1-6/必4-ア-d, e, 総II-1-ク, 総II-6-ア	①
24	7/4	刺激の受容と反応11:～感覚器8	特殊感覚4:味覚・味覚器の構造と機能の全体像	A-3-1-6/必4-ア-d, e, 総II-1-ク, 総II-6-ア	〃
25	7/11	体内環境の維持1:～内分泌系1	内分泌器官の全体像と役割及び発生過程	A-3-1-9/必4-ア-e, 総II-1-ケ, 各III-4-ア	〃
26	7/11	体内環境の維持2:～内分泌系2	体温・血糖の調節	A-3-1-9/必4-ア-e, 総II-1-ケ	〃
27	7/18	体内環境の維持3:～消化器系1	消化器系の全体像と役割	A-3-1-7/必4-ア-e, f, 総II-1-オ, コ	〃
28	7/18	体内環境の維持4:～消化器系2	口腔・咽頭と機械的消化の概要:咀嚼・嚥下・蠕動	A-3-1-7, A-3-2-4/必4-ア-e, f, 総II-4-ア-カ, 総II-6-ア, カ, カ	〃
29	7/25	体内環境の維持5:～消化器系3	消化管による消化と吸収の概要:管腔内消化と膜消化	A-3-1-7/必4-ア-e, f, 総II-1-オ, コ	〃
30	7/25	体内環境の維持6:～消化器系4	外分泌腺:胃・肝臓・胆嚢・脾臓による消化	A-3-1-7/必4-ア-e, f, 総II-1-オ, コ	〃
31	9/5	体内環境の維持7:～呼吸器系1	呼吸器系の全体像と役割	A-3-1-8/必4-ア-e, 総II-1-エ	〃
32	9/5	体内環境の維持8:～呼吸器系2	呼吸のしくみの調節	A-3-1-8/必4-ア-e, 総II-1-エ	〃
33	9/12	体内環境の維持9:～泌尿器系1	泌尿器系の全体像と役割及び発生過程	A-3-1-10/必4-ア-e, II-1-キ	〃
34	9/12	体内環境の維持10:～泌尿器系2	濾過・再吸収・浸透圧の調節(1)	A-3-1-10/必4-ア-e, 総II-1-キ	〃
35	9/19	体内環境の維持11:～泌尿器系3	濾過・再吸収・浸透圧の調節(2)	A-3-1-10/必4-ア-e, 総II-1-キ	〃
36	9/19	体内環境の維持12:～生殖器系1	生殖器の全体像と役割及び発生過程	A-3-1-11/必4-ア-e, 必5-ア-a, 総II-1-キ	〃
37	9/26	体内環境の維持13:～生殖器系2	生殖器のホルモン調節機構	A-3-1-11/必4-ア-e, 必5-ア-a, 総II-1-キ	〃
38	9/26	体内環境の維持14:～循環器系1	循環器系の全体像と役割及び発生過程	A-3-1-4/必4-ア-e, 総II-1-ウ	〃
39	10/3	体内環境の維持15:～循環器系2	心臓と血管の役割	A-3-1-4/必4-ア-e, 総II-1-ウ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
40	10/ 3	体内環境の維持16：～循環器系 3	心拍数の調節(刺激伝導系と心周期・心音)	A-3-1-4／必4-ア-e, 総 II-1-ウ	①
41	10/10	体内環境の維持17：～循環器系 4	血圧の調節(神経性調節・液性調節)	A-3-1-4／必4-ア-e, 総 II-1-ウ	〃
42	10/10	体内環境の維持18：～血液 1	血球の全体像及び造血	A-3-1-4／必4-ア-e, II-1-カ, 総 II-3-ア	〃
43	10/17	体内環境の維持19：～生体防御系 1	赤血球・白血球・血小板の役割の概要	A-3-1-4／必4-ア-d, g, 総 II-1-カ, 総 II-3-ア～オ	〃
44	10/17	体内環境の維持20：～生体防御系 2	生体防御系の全体像自然免疫と獲得免疫	A-3-1, -4, A-4-2／必4-ア-g, 総 II-3-ア～オ	〃
45	10/24	体内環境の維持21：～生体防御系 3	一次リンパ性器官・二次リンパ性器官	A-3-1-4, A-4-2／必4-ア-e, g, 総 II-3-ア～オ, 総 III-1-ク	〃
46	10/24	生殖と初期発生(1)：～発生学 - 総論①	生殖子形成：体細胞分裂・減数分裂	A-2-1-1～7, A-3-1-11, A-5-1／必5-ア-a, 必6-ア-b, 必6-イ-h, p, 各 III-4-ア	〃
47	10/31	生殖と初期発生(2) - 1 : ～発生学 - 総論② - 1	生殖器系の調節機構：視床下部-下垂体-性腺系の役割	A-2-1-1, A-3-1-11／必4-ア-e, 必5-ア-a	〃
48	10/31	生殖と初期発生(3) - 2 : ～人体発生学 - 総論② - 2	排卵～着床の過程：排卵・受精・卵割・着床と性ホルモン	A-2-1-1, A-3-1-11／必4-ア-e, 必5-ア-a	〃
49	11/ 7	生殖と初期発生(3)：～人体発生学 - 総論③	2層性胚盤の形成：内(部)細胞塊の分化(胚盤葉の形成)・外(部)細胞塊の分化(胎盤の形成)	A-2-1-1, A-3-1-11／必4-ア-e, 必5-ア-a	〃
50	11/ 7	生殖と初期発生(4)：～人体発生学 - 総論④	3胚葉の形成：2層性胚盤から3層性胚盤へ	A-2-1-1, A-3-1-11／必5-ア-a	〃
51	11/14	生殖と初期発生(5) - 1 : ～人体発生学 - 総論⑤ - 1	3胚葉の分化運命-1：内胚葉・中胚葉・外胚葉の分化の法則	A-2-1-1／必5-ア-a	〃
52	11/14	生殖と初期発生(5) - 2 : ～人体発生学 - 総論⑤ - 2	3胚葉の分化運命-2：器官原基の形成と初期発生に関する遺伝子	A-2-1-1／必5-ア-a, 総 II-8-イ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
53	11/21	器官発生と進化(1)：～人体発生学 - 各論①	頭頸部の発生：頭頸部と内分泌腺の器官発生の概要(鰓弓・鰓溝・咽頭囊の形成と分化の全体像)	A-2-1-2／総 II-8-ア, 各 III-4-ア	①
54	11/21	器官発生と進化(2)：～人体発生学 - 各論②	頭頸部の発生：口腔と顔面の器官発生と先天異常の概要(第1～3鰓弓領域と前頭鼻隆起の分化)	A-2-1-2／総 II-8-ア, 各 III-1-ア	〃
55	11/28	器官発生と進化(3)：～人体発生学 - 各論③	呼吸器系の発生：喉頭・気管・気管支・肺の器官発生の概要(第4～6鰓弓領域の分化)	A-2-1-4／必4-ア, 必5-ア, 総 II-1-エ	〃
56	11/28	器官発生と進化(4)：～人体発生学 - 各論④	消化器系の発生：消化管と付属器官の器官発生の概要(原始腸管と側板中胚葉の分化)	A-2-1-4／必4-ア, 必5-ア, 総 II-1-オ, コ	〃
57	12/ 5	器官発生と進化(5)：～人体発生学 - 各論⑤	泌尿器系の発生：腎臓・尿管・膀胱・尿道の器官発生の概要(中間中胚葉と排泄腔の分化)	A-2-1-4／必4-ア, 必5-ア, 総 II-1-キ	〃
58	12/ 5	器官発生と進化(6)：～人体発生学 - 各論⑥	生殖器系の発生：生殖器系の器官発生の概要(男性と女性の構造的性分化のしくみ)	A-2-1-4／必4-ア, 必5-ア, 総 II-1-キ	〃
59	12/12	器官発生と進化(7)-1: ～人体発生学 - 各論⑦-1	神経系の発生-1：中枢神経系の器官発生の概要(神経管の分化)	A-2-1-4／必4-ア, 必5-ア-a, 総 II-1-キ	〃
60	12/12	器官発生と進化(7)-2: ～人体発生学 - 各論⑦-2	神経系の発生-2：末梢神経系の器官発生の概要(神経堤と外胚葉性プラコードの分化)	A-2-1-4／必4-ア, 必5-ア, 総 II-1-ク	〃

生物学実験（前期・1単位）

D③A-c1-1309 (D1309)

科目責任者：今井 元（生物・准教授）

科目担当者：①今井 元（生物）、②前田 豊信（生化）、
③古山 昭（生理）

※この科目は、主に診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

生命体の基本単位である細胞は、それぞれ様々な細胞小器官（オルガネラ）から構成されている。さらに、細胞が機能的な集団をなし組織系となり、その組織系の複合体が、器官となる。本科目においては、まず、動物愛護の精神（3R）を学んだ上で、植物、動物、微生物を材料とした顕微鏡観察から細胞の基本構造を把握する。また、カエルを材料とした肉眼解剖により、個体（脊椎動物）における各器官の構造と配列、さらには、基本的体制を把握する。また、これらの実験を通して、実験での心構えやルール、レポートの作成法等を学び、さらに、人体の正常構造と機能における学修項目について議論する。

2. 一般目標

生命科学教育を受け、得た知識をさらに深めるため、実際に生命体の基本構造を視覚的に理解するとともに、今後も必要になる対象の観察方法を、顕微鏡操作や解剖により修得する。

3. 到達目標

- 1) 動物愛護の精神（3つのR）を理解し、実践できる。
- 2) 顕微鏡・解剖器具が適切に使用できる。
- 3) 観察のための試料を適切に準備できる。
- 4) 構造の概要を説明できる。
- 5) 細胞分裂における染色体の動態を説明できる。
- 6) セントラルドグマについて説明できる。
- 7) DNAの構造と半保存的複製について説明できる。
- 8) 胚の発生過程を説明できる。
- 9) 各器官系を適切に分類できる。
- 10) 実験結果を正確、かつ、適切にまとめることができる。

4. 履修の進め方

- ①実習用と輪読用のプリントを班毎に輪読し予習する。
- ②ガイドンス（映像やスライド）において、実験を行う前に取り扱う生命体についての基礎知識及び実習手順を理解する（60分）。
- ③顕微鏡を適正に用いて、様々な細胞あるいはオルガネラ構造などを詳細に観察し、正しくスケッチする。また、器具を適正に用いて解剖を行い、各器官の構成や体内での配列などを詳細に観察し、スケッチする（180分）。
- ④実習で学ぶべき学習項目について、グループディスカッション（SGD）により議論し、グループワーク（GW）プロダクトを提出する。
- ⑤各自、実習内容をレポートやスケッチ課題にまとめ、提出期限日（原則、次の実習日）の朝8:30までに基礎医学研究棟4階の所定の提出場所に提出する。

5. 準備学修

- 事前学修：実習用と輪読用のプリントを班毎に輪読し、実習に関連する項目を調べ予習する。
予習課題やグループワークがある場合は、自習し生物学の試験の際に提出する。（30分）
- 事後学修：実験観察で得られたスケッチやデータをもとに、レポート課題やスケッチ課題を期日までに作成し提出する。この際、結果を下記の教本1)～3)等で得た情報をもとに解釈し、与えられた課題の意義を理解する。（120分）

6. 評価方法

リクワイアメント【=レポート課題（100点×10回分）+スケッチ課題（100点×2回分）=総点（1200点）】を基に算定する。最終評価点は、12回の課題の総点から、課題点が悪い2回分の点数を除き、10回分の課題の総和の平均点、すなわち、式【最終評価（点）=（課題12回の総点数-点が悪い課題2回分の点数）÷10】で算定し、65点以上を合格とする。各課題は、原則、実習日の1週間後の朝8:15までに提出する。期限に遅れた場合は、課題点が遅延1日毎に25%減ぜられる。

尚、無断欠席の場合や未提出課題がある場合、総点から悪い方の課題点2回分を除いて10で割る。したがって、1回の無断欠席や未提出で90点満点（9回分）、2回で80点満点（8回分）、3回で70点満点（7回分）となる。したがって、4回分の課題未提出や無断欠席があると、60点満点（6回分）となり不合格となる。但し、やむを得ない理由がある欠席の場合（新型コロナ感染予防対策や学生生活委員会が認める疾病や傷による公欠など）は、その欠席分の課題点は考慮し（総点から引く課題点や割る数を調整し）、100点満点になるように換算する。また、レポートを全て提出した学生に限り、GW／形成的試験（15回全て）の課題の提出や実習再試験などにより、最終評価に65点まで加点されることがある。

7. 教本

下記の教科書と参考書を基に作成したプリント（第1～15回生物学実験ガイドンス）で進める。

- 1) 得意になる解剖生理学：美田誠二（著）照林社
- 2) ラングマン人体発生学第11版：T.W.Sadler（著）、安田峯生（翻訳）MEDSi社

8. 参考書

- 1) 基礎から学ぶ 生物学・細胞生物学 第2版：和田勝（著）羊土社
- 2) 人体の正常構造と機能 改訂2版：坂井建雄、河合克雅 総編集 日本医事新報社
- 3) 生物学（歯科衛生士教本）第1版：河合進次郎、高畠悟朗（著）医歯薬出版株式会社
- 4) アメリカ版大学生物学の教科書第1巻～第3巻：ディヴィッド・サダヴァ（著）
- 5) 高校の生物学の教科書、または、参考書

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号、国：国家試験出題基準、担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4/9	第1回オリエンテーション：動物愛護の精神	実験目的・実験上の注意・動物愛護の精神（3R）／SGD・GW・3Rの確認試験	A-1-1, 4/必4-アa	① ③
2					
3					
4	4/16	第2回生物学実験：顕微鏡の操作法／SGD・GW・スケッチ・レポートの書き方の練習	光学顕微鏡の操作法／SGD・GW・スケッチ・レポートの書き方の練習	A-1-2, 4/必4-ア-a～c	ク
5					
6					
7	4/23	第3回生物学実験：細胞と細胞小器官の観察Ⅰ	タマネギ鱗茎葉の表皮細胞の観察／SGD・GW・レポート（1）の作成	A-1-3, 4/必4-ア-a～c	ク
8					
9					

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
10	5/7	第4回生物学実験：細胞と細胞小器官の観察Ⅱ	ユスリカの唾腺染色体の観察／SGD・GW・レポート(2)の作成	A-1-4, 5/必4-ア-a～c	① ③
11					
12					
13	5/14	第5回生物学実験：細胞と細胞小器官の観察Ⅲ	ラットの血球細胞の観察／SGD・GW・レポート(3)の作成	A-1-4, A-3-1-4, A-4-2/必4-ア-d, g	〃
14					
15					
16	5/21	第6回生物学実験：細胞分裂①-体細胞分裂	タマネギ根端細胞の体細胞分裂の観察／SGD・GW・レポート(4)の作成	A-1-4/必5-ア	〃
17					
18					
19	5/28	第7回生物学実験：細胞分裂②-減数分裂	バラフィン切片とH-E染色法：精巣または卵巣の染色／SGD・GW・レポート(5)-1の作成	A-2-1, A-3-1-11/必5-ア-a, 総II-1-キ	〃
20					
21					
22	6/4	第8回生物学実験：細胞分裂③-生殖子形成	生殖子形成減数分裂（精細管と卵胞）の観察／SGD・GW・レポート(5)-2の作成	A-2-1, A-3-1-11/必5-ア-a, 総II-1-キ	〃
23					
24					
25	6/11	第9回生物学実験：細胞分裂④-卵割と初期発生	カエルの卵割と初期発生の観察／SGD・GW・レポート(6)の作成	A-2-1, A-3-1-11/必5-ア-a, 総II-1-キ	〃
26					
27					
28	6/18	第10回生物学実験：動物の組織	動物の組織：四大組織のスケッチの練習／SGD・GW・スケッチ課題Ⅰの作成	A-3-1-1～6/必4-ア-d	〃
29					
30					
31	6/25	第11回生物学実験：器官系の分類Ⅰ(カエルの解剖1)	外形と消化器官系・呼吸器系の観察／SGD・GW・レポート(9)の作成	A-3-1-7, -8, A-3-3, 4/必4-ア-e, f, 総II-1-ア, エ	〃
32					
33					
34	7/2	第12回生物学実験：器官系の分類Ⅱ(カエルの解剖2)	心臓と泌尿生殖器系・脈管系の観察／SGD・GW・レポート(8)の作成	A-3-1-4, 10, 11/必4-ア-e, 総II-1-ウ, キ	〃
35					
36					
37	7/9	第13回生物学実験：器官系の分類Ⅲ(カエルの解剖3)	筋肉系と神経系の観察と神経筋標本の作成／SGD・GW・レポート(9)の作成	A-3-1-3, 5/必4-ア-e, 総II-1-イ, ク	〃
38					
39					

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
40	7/16	第14回生物学実験：器官系の分類Ⅳ(カエルの解剖4)	頭骨と神経孔の観察／SGD・GW・レポート(10)の作成	A-3-2/必4-ア-e, 総II-1-イ, ク, 総II-4-イ, カ	① ③
41					
42					
43	7/23	第15回生物学実験：歯の機能の違い	さまざまな動物の頭骨と歯の観察／SGD・GW・スケッチ課題Ⅱの作成	A-3-2, 4/必4-ア-e, 総II-5-ア	〃
44					
45					

歯科医学演習（前期・1単位）

D①②③A-b1-1203(D1203)

科目責任者：鈴木 史彦（高齢・教授）

科目担当者：①鈴木 史彦（高齢）、②菊井 徹哉（修復）、
③木村 裕一（歯内）、④高橋 慶壮（歯周）、
⑤羽鳥 弘毅（冠橋）、⑥高橋文太郎（口外）、
⑦高津 匠樹（有床）、⑧山崎 信也（麻酔）、
⑨山野辺晋也（矯正）、⑩島村 和宏（小児）、
⑪原田 卓哉（放射）、⑫高橋 昌宏（イン）、
⑬山森 徹雄（病院）、⑭風間 咲美（医学）

※この科目は、主に診療経験のある歯科医師と医師が担当する

1. 科目の概要

歯科医学および歯科医療を学ぶ者にとって、歯科医学と歯科医療における知識、歯科医療の技術および歯科医師としての態度を習得することは必須の要件である。歯科医学と歯科医療の知識は一般教養科目、基礎歯科医学、社会歯科学及び臨床歯科医学の各科目を通して修得し、歯科医療の技術と歯科医師としての態度は、臨床歯科医学の模型実習と臨床実習や社会歯科学と倫理学等を通して学習する。このなかで、技術の学習は歯科医療にとって重要であり、歯科医学で学んだ理論を実践するうえで不可欠である。

歯科医学演習は、歯科医療の技術を学ぶために必要な基礎技術の訓練とともに、これから6年間にわたって歯科医学を学習する動機付けとして位置づけられる科目である。学習方法には、手指の動作を訓練するために日常生活のなかから選ばれた身近なテーマや、臨床歯科医学の教育内容と密接な「道具と手」に係わる演習が主体となる。

教育スタッフは、本学の臨床系科目を担当する講座から選出された教員によって組織されている。楽しみながら手指の動作や歯科医療に使用する器具とその使い方等を学び、歯科学生としての自覚を芽生えさせて欲しい。

2. 一般目標

専門課程における各科実習を行うために、基礎的な技術訓練に係る知識、技能および態度を習得する。

3. 到達目標

- 1) 学生同士で口腔内の状態を記録する。
- 2) 齢の硬組織治療を模倣して、歯冠修復における造形的治療を理解する。
- 3) 歯内治療で用いる器具の操作を模倣する。
- 4) プラークコントロール、とりわけ歯周病患者のブラッシング方法を習得する。
- 5) 彫刻刀を利用して、石膏を実際に彫刻する。
- 6) 外科手術の縫合を想定した糸結びを実践する。
- 7) クラスプワイヤーの屈曲を体験する。
- 8) マネキンで一次救命処置を実践する。
- 9) 顔の形態を評価する。
- 10) 小児の治療を想定した器具の使用法を実践する。
- 11) エックス線検査および超音波検査を実践する。
- 12) インプラント治療の特徴と意義を説明する。
- 13) 口腔内状態を正確に診療録に記載する。
- 14) 手洗いを実践する。
- 15) バイタルサインの測定を習得する。

4. 履修の進め方

スライドと資料を使用し、各分野の特徴的な技術を演習形式で履修する。

5. 事前学習：科目の概要、一般目標、到達目標および授業内容を認識しておく。(15分)

事後学習：授業内容を確認し十分に理解する。(30分)

6. 評価方法

各担当教員から100点満点として提出された点数を合計し、担当教員数で割った点数を評価点として65点以上の者を合格とする。

7. 教本

なし

8. 参考書

なし

9. 授業内容と日程

(コ：コアカリ記号、国：国家試験出題基準、担：担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／12	口腔診断	口腔内検査を体験する	E-2-2)／ 必9-ア～エ、 10-イ	① ⑨
2					
3	4／19	保存修復学	歯の治療における窩洞とその形態を知る	E-3-3)-(1)／ 各Ⅲ-5-イ、ウ	②
4					
5	4／26	歯内療法学	根管治療器具の基本操作を実践する	D-5-2-2 各Ⅱ-2-ア、イ	③
6					
7	5／10	歯周病学	プラークコントロール、とりわけ歯周病患者のブラッシング方法の習得	E-5-3-3-1)／ 各Ⅱ-3-イ	④
8					
9	5／17	冠橋義歯学	彫刻刀を用いて石膏棒を削る	E-5-3-4-1)／ 各Ⅳ-3-アイウ	⑤
10					
11	5／24	口腔外科学	手術器材を知り、縫合を体験する	D-5-4)／ 総Ⅶ-4-ア	⑥
12					
13	5／31	有床義歯学	クラスプワイヤーの屈曲を体験する	D-5-3-2)／ 総Ⅶ-2-ア	⑦
14					
15	6／7	歯科麻酔学	マネキンで一次救命処置(BLS)を実践する	D-1-1)／ 必10、 総Ⅶ-3、 各Ⅲ-4-ソ	⑧
16					
17	6／14	歯科矯正学	自己顔の形態を評価する	E-5-4)／ 各Ⅰ-5, 6	⑨
18					
19	6／21	小児歯科学	小児の治療を想定した器具を理解する	D-5-6)／ 総Ⅴ-2	⑩
20					
21	6／28	歯科放射線学	エックス線の撮影・画像処理をする	D-2-5、 E-2-5)／ 必修-9-カ、 総Ⅵ-2-ア～コ	⑪
22					
23	7／5	口腔インプラント学	インプラント治療の意義と特徴を理解する	D-5-3-3)／ 各Ⅳ-6	⑫
24					
25	7／12	臨床総合演習 ①	口腔内状態の記録	E-4-1 必修-8-キ-a	⑬
26					
27	7／19	臨床総合演習 ②	手指の消毒を実践する	E-1-1)／ 必-11	⑯
28					
29	7／26	総合臨床医学	バイタルサインを実践する	D-6-1)／ 総Ⅶ-1-エ	⑮ ⑯
30					

歯科医療概論（通年・1単位）

D①②③A-al-1204 (D1204)

科目責任者：瀬川 洋（衛生・教授）

科目担当者：①瀬川 洋（衛生）、②南 健太郎（衛生）

※この科目は、診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

歯科医師を目指して歯学部に入学した学生にとって、歯科医学を学び、歯科医療ならびに保健指導を行う上で必要な心構えと6年間の学習の目標を設定することは重要である。また、患者中心の歯科医療を提供するために、プロフェッショナリズムを身に付けることが必要である。

2. 一般目標

歯学部学生としての心構えと目標を設定するために歯科医学と歯科医療の概要を理解する。

3. 到達目標

- 1) 歯科医師の使命、魅力について説明する。
- 2) 歯科医学教育について説明する。
- 3) 歯科学生に必要な学修態度、学修方法を説明する。
- 4) 歯科医師として求められる基本的な資質について説明する。
- 5) 歯科医療と社会との関わりについて説明する。

4. 履修の進め方

文書視覚媒体と投影視覚媒体および配布資料を用いて履修する。

5. 準備学修

事前学習：配布資料を熟読しておくこと。(10分)

事後学習：受講後に、その内容を復習すること。(15分)

6. 評価方法

講義時間内に講義内容に関連した課題について筆記試験を行い、100点満点中、65点以上を合格とする。

7. 教本

なし

8. 参考書

日本歯科医学教育学会編「よき歯科医療人になるための倫理・プロフェッショナリズム教育 プロフェッショナルワークブック」医歯薬出版 2019年

9. 授業内容と日程

(コ：コアカリ記号、国：国家試験出題基準、担：担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4/11	序説	奥羽大学の理念と歴史	-	①
2	4/18	教育目標	奥羽大学歯学部の歯学教育と教育システム	-	〃
3	4/25	基本事項1	医の倫理と歯科医療の意義	C-1-1/必1-ア	〃
4	5/9	基本事項2	歯科医師の責務	C-1-2/必1-イ	〃
5	5/16	基本事項3	インフォームドコンセント	C-1-1/必1-イ	〃
6	5/23	歯学史	世界、日本の歯学史①	C-4-3/必-12-ア	〃
7	5/30	歯学史	世界、日本の歯学史②	A-2-2)/必-12-ア	〃
8	6/6	地域保健活動	日本の歯科保健活動の変遷	C-4-3/総I-1-オ	〃
9	6/13	医療安全1	安全な医療の確保	C-3-1/必2-カ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
10	6/20	医療安全2	医療上の事故等への対処と予防	C-3-2/必2-カ	①
11	6/27	医療安全3	医療事故と医事過誤	C-3-2/必2-ク	〃
12	7/4	チーム歯科医療	医療連携・チーム医療①	C-1-3/必2-ウ	〃
13	7/11	チーム歯科医療	医療連携・チーム医療②	C-1-3/必2-ウ	〃
14	7/18	超高齢社会への歯科医学的対応	フレイルとオーラルフレイル	D-5-7/総2-オ	〃
15	7/25	歯科医師のプロフェッショナリズム	事例に学ぶプロフェッショナリズム	C-2-3,4/必12-イ	〃

基礎歯学概論 I (通年・2単位)

D②A-a2-1205 (D1205)

科目責任者：安部 仁晴（組織・教授）

科目担当者：①安部 仁晴（組織）、②森山 光（組織）、
③宇佐美晶信（解剖）、④芹川 雅光（解剖）、
⑤川合 宏仁（生理）、⑥大須賀謙二（生理）、
⑦古山 昭（生理）、⑧玉井利代子（感染）

※この科目は、主に診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

歯科医師として身につけなければならない知識を習得する上で、専門基礎科目は特に重要となる。その中で、2年時の履修科目となる専門基礎科目を中心に、履修前に予備知識として知っておくべき概論や要点について早期に学習する。

2. 一般目標

ディプロマ・ポリシー（3）の病態を解析するための基礎となる第2学年時の履修科目である専門基礎科目を中心に、その知識を習得する。

3. 到達目標

- 1) 歯と歯周組織の種類とそれらの微細構造を説明する。
- 2) 口腔顎顔面の形態の概要について説明する。
- 3) からだの基本的なはたらきを説明できる。
- 4) 微生物の構造とその病原性を説明する。
- 5) 歯の発生と加齢変化について説明する。
- 6) 微生物感染に対するヒトの免疫応答を説明する。

4. 履修の進め方

講義主体でスライド、プリント、板書で適宜進める。ノートをとり、プリントに追記する。

5. 準備学修

講義担当者から配布される資料や、図書館の資料を用いる。また、事前に次回プリントを配布される場合は、講義前にプリントを熟読しておくこと（事前学習：15分）。加えて、講義受講後に、その内容を復習すること（事後学習：30分）。

6. 評価方法

MCQによる定期試験（100%）で評価する。前期、後期定期試験の平均が65点以上を合格とする。追・再試験は前期、後期の全範囲で行い、結果は65点を上限とする。

7. 教本

講義担当者から配布される資料を用いる。

8. 参考書

なし

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号、国：国家試験出題基準、担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4/12	口腔組織学概論①	歯の構造 (エナメル質)	A-3-4/ 必4-ア 総II5-イ	①
2	4/19	口腔組織学概論②	歯の構造 (象牙質)	A-3-4/ 必4-ア 総II5-イ	②
3	4/26	口腔組織学概論③	歯の構造 (歯髄)	A-3-4/ 必4-ア 総II5-イ	①
4	5/10	口腔組織学概論④	歯周組織の構造(1)	A-3-4/ 必4-ア 総II5-イ	ヶ
5	5/17	口腔解剖学概論①	歯の解剖 (総論)	A-3-4/ 必4-ア 総II5-ア	③

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
6	5/24	口腔解剖学概論②	歯の解剖 (各論)	A-3-4/ 必4-ア 総II5-ア	③
7	5/31	口腔解剖学概論③	骨 学	A-3-4/ 必4-ア	④
8	6/7	口腔解剖学概論④	脈管学	A-3-4/ 必4-ア	ヶ
9	6/14	口腔生理学概論①	体 液	A-3-1/ 必4-ア 総II1-カ	⑤
10	6/21	口腔生理学概論②	循環と呼吸	A-3-1/ 必4-ア 総II1-ウ, エ	⑥
11	6/28	口腔生理学概論③	口腔感覺	A-3-1/ 必4-ア 総II1-ク	⑦
12	7/5	口腔生理学概論④	神経線維の種類と機能	A-3-1/ 必4-ア 総II1-ク	ヶ
13	7/12	口腔感染免疫学概論①	微生物の種類	A-4-1-1/ 必4-イ	⑧
14	7/19	口腔感染免疫学概論②	細菌の病原性について	A-4-1-2/ 総III1-キ	ヶ
15	7/26	口腔感染免疫学概論③	減菌の種類とその特徴	A-4-1-8/ 必11-エ	ヶ
16	9/6	口腔組織学概論⑤	歯周組織の構造(2)	A-3-4/ 必4-ア 総II5-イ	①
17	9/13	口腔組織学概論⑥	歯の発生	A-3-4/ 必5-ウ 総II8-イ	②
18	9/20	口腔組織学概論⑦	歯と歯周組織の加齢変化	A-2-4/ 必5-エ 総II7-エ 各V3-イ	①
19	9/27	口腔解剖学概論⑤	神経学	A-3-1/ 必4-ア	④
20	10/4	口腔解剖学概論⑥	筋 学	A-3-1/ 必4-ア	③
21	10/11	口腔解剖学概論⑦	機能解剖学	A-3-2/ 総II6-エ	ヶ
22	10/18	口腔生理学概論⑤	自律機能	A-3-1/ 必4-ア 総II1-ク	⑥
23	10/25	口腔生理学概論⑥	内分泌	A-3-1/ 必4-ア 総II1-ケ	ヶ
24	11/1	口腔生理学概論⑦	排 � 泌	A-3-1/ 必4-ア 総II1-キ	ヶ
25	11/8	口腔感染免疫学概論④	消毒薬の種類とその特徴	A-4-1-8/ 必11-エ	⑧
26	11/15	口腔感染免疫学概論⑤	細菌の病原因子	A-4-1-2/ 総I1-キ	ヶ
27	11/22	口腔感染免疫学概論⑥	自然免疫と獲得免疫	A-4-2-1, 2/ 総II3-エ, オ	ヶ
28	11/29	口腔感染免疫学概論⑦	新たな感染症	A-4-1-4/ 総III1-キ	ヶ

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
29	12/6	口腔感染免疫学概論(8)	ワクチンによる感染予防	A-4-2-7/ 総II3-オ	(8)
30	12/13	口腔組織学概論(8)	歯と歯周組織の構造	A-3-4/ 必4-ア 総II5-イ	(1)

臨床歯学概論（前期・1単位）

D①②③A-a1-1207(D1207)

科目責任者：鈴木 史彦（高齢・教授）

科目担当者：①鈴木 史彦（高齢），②菊井 徹哉（修復），
③木村 裕一（歯内），④高橋 慶壯（歯周），
⑤羽鳥 弘毅（冠橋），⑥高橋文太郎（外科），
⑦高津 匠樹（有床），⑧山崎 信也（麻酔），
⑨山野辺晋也（矯正），⑩島村 和宏（小児），
⑪原田 卓哉（放射），⑫高橋 昌宏（イン），
⑬吉田 健司（障害），⑭風間 咲美（医学）

※この科目は、主に診療経験のある歯科医師と医師が担当する

1. 科目の概要

歯科医師を目指して歯学部に入学した直後に歯科医療の現場を知ることは、これから6年間の勉強の目標を設定するうえで重要なことである。歯科医師に求められる資質には、①社会人として信頼できること、②歯科医療に対する知識・技能を有すること、③保健に関する助言・援助ができること、④生涯にわたり研修意欲を持ち続けること、⑤患者に対して十分な説明を行い、同意を得るという考え方を尊重すること、などがある。

2. 一般目標

歯科医学・歯科医療を学ぶ目標を設定するために、先進的かつ近未来の歯科医療の現場を視覚的に理解し、歯科医療を行うまでの問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その問題を解決できる力を身につける。

3. 到達目標

- 1) 歯科の臨床を見て今後の学習の目標を認識する。
- 2) う蝕・非う蝕性硬組織疾患の種類と歯冠修復治療の概要を把握する。
- 3) 歯内治療の概要を説明する。
- 4) 歯周病学について概説する。
- 5) クラウンブリッジにより補綴治療を説明する。
- 6) 口腔外科領域で行われる小手術を列挙する。
- 7) 有床義歯による欠損補綴の概要を説明する。
- 8) 歯科麻酔科の仕事内容を説明する。
- 9) 歯科矯正治療の手順を説明する。
- 10) 乳幼児期の特徴について概論を理解する。
- 11) 画像検査法の目的と意義を説明する。
- 12) インプラントによる補綴治療を説明する。
- 13) 摂食嚥下リハビリテーションを説明する。
- 14) 障がい者の概要を説明する。
- 15) 歯科医師に必要な医学知識を習得する。

4. 履修の進め方

基本的には講義形式でスライドと資料を使用して履修する。

5. 事前学習：科目の概要、一般目標、到達目標および授業内容を認識しておく。(15分)

事後学習：授業内容を確認し十分に理解する。(30分)

6. 評価方法

各担当教員から100点満点として提出された点数を合計し、担当教員数で割った点数を評価点として65点以上の者を合格とする。

7. 教本

なし

8. 参考書

なし

9. 授業内容と日程

(コ:コアカリ記号, 国:国家試験出題基準, 担:担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4/12	科目の説明	基本的診療技能	E-2-2)/ 必9-ア~エ, 10-イ	① ⑨
2	4/19	歯冠修復治療	歯の硬組織疾患の診断、治療と身体の健康保持	E-3-3)(1)/ 各Ⅲ-2-ア, イ, B-3-2)- ①②③④	②
3	4/26	歯内治療	歯髓・根尖歯周疾患の診断と治療	D-5-2-2 各Ⅱ-2-ア, イ	③
4	5/10	歯周治療	歯周疾患の病態、診断および治療	E-3-3)(3)/ 各Ⅲ-8-ア, 9-イ	④
5	5/17	冠橋義歯治療	クラウンブリッジの治療	E-5-3-4-1/ 各Ⅳ-3-アイウ	⑤
6	5/24	口腔外科治療	小手術の基本	D-5-4)/ 総Ⅶ-4-ア	⑥
7	5/31	有床義歯治療	有床義歯による欠損補綴の概要	D-5-3-2/ 総Ⅶ-2-ア	⑦
8	6/7	歯科麻酔治療	歯科麻酔の基本	D-1-2)/ 必11-カ, 総Ⅶ-4	⑧
9	6/14	歯科矯正治療	不正咬合の治療	E-5-4)/ 各I-5, 6	⑨
10	6/21	小児歯科治療	小児の歯科治療	D-5-6/ 総V-2	⑩
11	6/28	歯科放射線治療	画像検査	D-2-5, E-2-5/ 必修-9-カ, 総VI-2-ア~コ	⑪
12	7/5	インプラント治療	インプラントによる補綴治療	D-5-3-3/ 各Ⅳ-6	⑫
13	7/12	摂食嚥下治療	摂食嚥下リハビリテーションの基本	D-5-7-8/ 総VII-6-イ-a	①
14	7/19	障がい者歯科診療	スペシャルニーズを有する人への対応	E-5-7)/ 必-2-ア, 総V-3	⑬
15	7/26	歯科と医学の知識	歯科と医学の知識	D-6-1)/ 総VII-1-エ	⑭

臨床心理学 (後期・1単位)

D①②③A-a1-1201(D1201)

科目責任者: 佐藤 歩 (心理・講師)

科目担当者: ①佐藤 歩 (心理)

※この科目は、公認心理師である教員が担当する

1. 科目の概要

臨床心理学とは、様々な心の悩みを乗り越えようとする人間を心理学的に支援する学問である。人間存在が持つ様々な悩み、悩みに陥る心の構造とプロセス、支援の方法を学んでいく。臨床心理学では、代表的な精神疾患および心理的問題を項目別に学んでいく。

2. 一般目標

臨床心理学の基礎を学び、人間が人間を心理的に支援することの意味と悩みを抱える人の立場や背景を理解する (ディプロマ・ポリシー「1」に該当する)。

臨床心理学を学ぶことで、医療従事者として患者に思いやりを持った言動に心がけると共に、患者を尊重することの重要性を理解する (ディプロマ・ポリシー「1」に該当する)。

臨床心理学の知識を生かし、自己のパーソナリティ特性を理解する。

3. 到達目標

- 1) ストレスについて説明できる。
- 2) うつ病について説明できる。
- 3) 統合失調症について説明できる。
- 4) 不安症について説明できる。
- 5) 摂食症について説明できる。
- 6) 神経発達症について説明できる。
- 7) 愛着障害について説明できる。
- 8) パーソナリティ症について説明できる。
- 9) 自殺、自傷行為について説明できる。

4. 履修の進め方

講義形式でスライドとプリントを使用して履修する。

5. 準備学修

予習: 次時のテーマについて、歯科医療の場面で自分であれば、どのように対応するかを具体的に考えておく。(15分)

復習: 授業中の思考、講義の内容を自分の問題としてまとめておく。(15分)

6. 評価方法

定期試験 (本試験・追試験・再試験) で65点以上の者を合格とする。全授業範囲を記述、選択式で実施する。

7. 教本

なし。下記参考書と、毎回科目担当者がプリントを配付する。

8. 参考書

ベーシック心理学 第2版 二宮克美編著 医歯薬出版

9. 授業内容と日程

(コ：コアカリ記号、国：国家試験出題基準、担：担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	9／4	ストレス対応とPTSD	ストレッサーとストレス反応、ストレスコーピング、PTSDの予防	D-5-9)／各Ⅲ-4-シc	②
2	9／11	うつ病の理解	うつ病の心理特性と対応及び予防	D-5-9)／各Ⅲ-4-シa	〃
3	9／18	自殺の理解	自殺の心理特性と対応及び予防	D-5-9)／各Ⅲ-4-シ	〃
4	9／25	自傷行為の理解	自傷行為の心理特性と対応及び予防	D-5-9)／各Ⅲ-4-シ	〃
5	10／2	統合失調症	統合失調症の症状と対応	D-5-9)／総Ⅶ-1-エg	〃
6	10／9	摂食症	摂食症の分類及び心理特性と対応	D-5-9)／必6-アj	〃
7	10／16	不安症	不安症の心理特性と対応	D-5-9)／各Ⅲ-4-シ	〃
8	10／23	パニック症	パニック症の心理特性と対応	D-5-9)／各Ⅲ-4-シb	〃
9	10／30	パーソナリティ症	パーソナリティ症の心理特性と対応	D-5-9)／各Ⅲ-4-シb	〃
10	11／6	その他の精神疾患	その他の精神疾患の分類及び心理特性と対応	D-5-9)／各Ⅲ-4-シ	〃
11	11／13	神経発達症①	神経発達症の分類及び心理特性と対応	D-5-8)／総V-2-オabc	〃
12	11／20	神経発達症②	神経発達症の分類及び心理特性と対応	D-5-8)／総V-2-オabc	〃
13	11／27	愛着障害	愛着障害の原因及び対応	A-2-2)／必5-イabc	〃
14	12／4	災害心理学	災害を含めた危機状況での心理	C-4-3)／必7-ア、各Ⅲ-4-シ	〃
15	12／11	まとめ	全体の振り返り、ポイントの整理	D-5-9)／必6-アi,必6-イr	〃

歯科医療人間学Ⅰ（後期・2単位）

D①A-a2-1401(D1401)

科目責任者：中川 敏浩（組織・准教授）

科目担当者：①中川 敏浩（組織）、②吉田いくよ（非常勤）、
③鈴木 俊子（非常勤）、④本多 真史（日本語）、
⑤清浦 有祐（感染）

※この科目は、主に一般企業勤務経験のある教員が担当する

1. 科目の概要

歯科医療人間学（Dental Practice Human Science）は、本学歯学部の目的である「高度な専門知識と技術を備えた人間性豊かな歯科医師の養成」を実践する学問であり、高度専門職業人（プロフェッショナル）としての歯科医師である前に社会人としての素養、教養および社会適応能力を高揚し、自らのホスピタリティマインドに加えて、患者中心の医療を全人的に捉えるため、身体面、心理面、社会面、倫理面の各要素を総合的かつ包括的に理解し、「歯科医療の安全・安心・信頼の文化」を醸成することにある。

2. 一般目標

人間性豊かな優れた歯科医師となるために、大学で学ぶ目的を明確化し、歯学医療現場にふれ、基本的なコミュニケーションや日常習慣の重要性を認識する態度、知識および技能を修得する。

3. 到達目標

- 1) 医療人として謙虚な態度と傾聴力を養う。
- 2) 患者の訴えを正確に聞き取る。
- 3) 平易な言葉で順序立てて説明する。
- 4) 医療現場で必要な言葉でコミュニケーションを取る。

4. 履修の進め方

グループおよびペアによる学修を行う。授業形態はプリントを配布し、レポート提出形式をとることもあるので受動的な学習ではなく、必ず参加が義務づけられる能動的学習である。

5. 準備学修

予習：シラバスで内容を確認する。また、人と接する時は状況を把握し、意識をして対応することを日頃から心がける。（30分）

復習：プリント学修や実演したことを自然に実践できるように日々訓練をする。

6. 評価方法

プレゼンテーション（50%）、記述式試験（50%）により評価を行い、65点以上を合格とする。

7. 教本

日本学術振興会編 「科学の健全な発展のために－誠実な科学者の心得－」 テキスト版 日本学術振興会 2015年

8. 参考書

なし

9. 授業内容と日程

(コ:コアカリ記号, 国:国家試験出題基準, 担:担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1 2	9/2	パフォーマンス学総論①	自分をどのように表現するかを実感する	CM-01~05, CS-D-2-1, E-2-1/ 必8-ウ-a~e	① ② ③
3 4	9/2	コミュニケーションの基礎①	コミュニケーションに必要なことを演習する	CM-01~05, E-2-1/ 必8-ウ-a~e	④
5 6	9/9	あいさつについて	あいさつの重要性を実感し信頼関係の重要性について演習する	CM-01~05, CS-D-2-1, E-2-1/ 必8-ウ-a~e	① ② ③
7 8	9/30	エニアグラム-表現・自他の理解の為に-	エニアグラムにより自他のタイプを知り人間関係の構築に役立てる	CM-01~05, CS-D-2-1, E-2-1/ 必8-ウ-a~e	① ② ③
9 10	9/30	コミュニケーションの基礎②	コミュニケーションに必要なことを演習する	CM-01~05, CS-D-2-1, E-2-1/ 必8-ウ-a~e	④
11 12	10/7	説明力-伝わる話し方-	伝えるではなく伝わる論理的な会話の仕方を学ぶ	CM-01~05, CS-D-2-1, E-2-1/ 必8-ウ-a~e	① ② ③
13 14	10/7	医療と敬語について①	医学用語と一般用語の関連	CM-01~05, CS-D-2-1, E-2-1/ 必8-ウ-a~e	④
15 16	10/21	グループディスカッション	文章から事実を理解要約し考えや意見を伝える	CM-01~05, CS-D-2-1, E-2-1/ 必8-ウ-a~e	① ② ③
17 18	10/21	医療と敬語について②	医学用語と一般用語の関連	CM-01~05, CS-D-2-1, E-2-1/ 必8-ウ-a~e	④
19 20	10/28	医療人の想・態度・傾聴力	痛みに対する歯科医師の態度表現を会得する	CM-01~05, CS-D-2-1, E-2-1/ 必8-ウ-a~e	④
21 22	11/11	ビジネスマナー	社会人としてのマナーの基礎を学ぶ	CM-01~05, CS-D-2-1, E-2-1/ 必8-ウ-a~e	① ② ③
23 24	11/18	歯科診療とアサーション①	患者の訴えをソフトな言葉で会話する	CM-01~05, CS-D-2-1, E-2-1/ 必8-ウ-a~e	④
25 26	11/25	表現・自分を知る	演習を通して自分の表現を客観視する	CM-01~05, CS-D-2-1, E-2-1/ 必8-ウ-a~e	① ② ③
27 28	12/2	歯科診療とアサーション②	患者の訴えをソフトな言葉で会話する	CM-01~05, CS-D-2-1, E-2-1/ 必8-ウ-a~e	④

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
29	12/9	研究倫理	研究者に求められる研究倫理と研究不正防止の試み	E-01, 04/ 必2-エ-a	⑤
30	12/9	試験評価	評価試験を行う	CM-01~05, CS-D-2-1, E-2-1/ 必8-ウ-a~e	① ② ④

第2学年

教養系教育・基礎科学教育科目

社 会 学	91
情 報 リ テ ラ シ ー II	92
英 語 II	93
日 本 語 学 II	94
物 理 学	96
化 学	97
生 物 学	99
基 础 歯 学 概 論 II	100
歯 科 医 療 人 間 学 II	101

教養系教育・基礎科学教育科目

口 腔 解 剖 学	103
口 腔 解 剖 学 実 習	104
解 剖 学	105
解 剖 学 実 習	107
口 腔 組 織 学	108
口 腔 組 織 学 実 習	110
口 腔 生 理 学 I	112
口 腔 生 理 学 実 習	114
口 腔 生 化 学 I	115
口 腔 感 染 免 疫 学 I	116
歯 科 薬 理 学 I	118
生 体 材 料・歯 科 材 料 学 I	119
公 衆 衛 生 学	120

社会学（前期・1単位）

D①②A-a1-2102(D2102)

科目責任者：高橋 嘉代（非常勤）

科目担当者：①高橋 嘉代（非常勤）

※この科目は、一般企業勤務経験のある教員が担当する

1. 科目の概要

この授業においては、現代社会で発生する社会現象に対する客観的な分析視角を身につけることを目的とする。社会学的な視角と社会学の基礎理論を学ぶことを目標として、社会学の領域において特に議論が深められてきた分野を多角的に取り上げ、本学ディプロマポリシー1の「倫理とコミュニケーション」の実現をめざす。更に、今とこれからの医療・福祉について重要な論点を提示するトピックに関する議論について学び、本講義における学習を通して、本学ディプロマポリシー6「奥羽プロフェッショナリズム」の「超高齢社会の問題と課題を分析し、ニーズを抽出して解決策を立案できる」社会学的な思考力・分析力の獲得をめざす。

2. 一般目標

現代社会における様々な課題への関心と分析力を涵養するために、社会学の基礎知識を学び、現代社会の基本的構造、様々な集団・組織の構成原理、人々のつながりに関する今日的な課題について分析・考察できるようになる。

3. 到達目標

- 1) 社会学の基礎概念を学び、理解する。
- 2) 社会学の成立過程について学ぶことを通して、近代社会の形成過程についての認識を深める。
- 3) 医療者および生活者として、社会学的な分析力及び考察力を身につける。

4. 履修の進め方

授業は講義形式で行う。毎回の授業の際に簡単な課題（所要時間10分程度）を課す。

5. 準備学修

講義科目は社会学だが、法学、心理学、文化人類学等の他の社会科学領域との関連は深い。また、授業の内容に関連した各種政府統計（人口動態調査など）についても紹介する予定である。事前の予習はとくに必要はないが、授業中に紹介した事項について学修後に再度確認されたい。

授業内容として紹介した各種統計のソースを確認しておくこと（20分）。

6. 評価方法

記述式の定期試験による（100%）。試験時は授業で配布した資料に限り持ち込み可。100点満点中65点以上を合格とする。

7. 教本

なし。教員作成の資料を配布する。

8. 参考書

なし。

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号、国：国家試験出題基準、担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／10	近代社会の形成と社会学の誕生	近代社会と社会学の形成過程を学ぶ。	①	
2	4／17	社会の作りをどう見るか	社会学の基礎理論を学ぶ。	ヶ	
3	4／24	自我と役割	自我論・役割論について学ぶ。	ヶ	

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
4	5／8	相互行為と社会	相互行為論について学ぶ。		①
5	5／15	家族の構造と機能	家族類型と家族の機能について学ぶ。		ヶ
6	5／22	地域社会とその変動	地域社会の構造と変動について学ぶ。		ヶ
7	5／29	人口と社会	人口とその構成が社会に及ぼす影響を学ぶ。		ヶ
8	6／5	集団と組織	社会集団と組織についての理論を学ぶ。		ヶ
9	6／12	教育と労働	社会における教育と労働の機能を学ぶ。		ヶ
10	6／19	社会移動と社会階層	社会移動と社会階層について学ぶ。		ヶ
11	6／26	社会的役割としての性別	ジェンダー（社会的役割としての性）について学ぶ		ヶ
12	7／3	社会的行為としてみた医療	医療を社会的行為の一つとして把握する。		ヶ
13	7／10	社会的格差	社会的格差発生の理論と近年の動向を学ぶ。		ヶ
14	7／17	社会問題と逸脱	社会問題と逸脱についての理論を学ぶ。		ヶ
15	7／24	グローバリゼーションとリスク社会	グローバリゼーションの展開と影響を学ぶ。		ヶ

情報リテラシーⅡ（通年・1単位）

D①②A-b1-2105(D2105)

科目責任者：宇佐美晶信（解剖・教授）

科目担当者：①宇佐美晶信（解剖）、②阿部 匡聰（化学）、
③荒木 啓吾（組織）、④大木 達也（材料）、
⑤大須賀謙二（生理）、⑥前田 豊信（生化）、
⑦茂呂祐利子（放射）

※この科目は、主に診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

コンピュータの操作を習熟し、学習にも応用することは必須である。そこで、学生個人がコンピュータを用いて、歯学基礎系科目の問題作成を行う。次に、他の学生が作成した問題のブラッシュアップを行う。最後に教員が選択したブラッシュアップ問題について解説を行い、フィードバックとともに形成的評価を行う。各科目の内容について講義3回を1つのセッションとして演習を中心とした学習を行う。

2. 一般目標

コンピュータを駆使して問題作成、ブラッシュアップを行い、さらに教員からの問題解説を受講することで歯学基礎科目の「知識」をより深く理解する。

3. 到達目標

- 1) 各科目の課題に対して的確な問題を作成する。
- 2) 問題を的確に説明する。
- 3) 他学生が作成した問題に対して的確な意見を述べる。

4. 履修の進め方

コンピュータを用いて、出された課題について学生個人で問題を作成し、その問題に対するブラッシュアップを行う。学生により選択された問題ファイルはポータルサイトの「授業資料」にアップロードする。各セッション最終回で学生により選択されたブラッシュアップ問題に対して教員から解説を行うとともに、教員による更なるブラッシュアップを行った問題により試験を行う。

5. 準備学修

問題作成およびブラッシュアップはいずれも講義時間内に行う。各回の授業内容項目について、事前学習として教本の該当部分を読むこと（15分）。選択されたブラッシュアップ問題はポータルサイトの「課題管理」にアップロードするので、事後学習としてすべての課題について確認すること（30分）。

6. 評価方法

3コマ毎に1回20点のテストを各期でそれぞれ5回行い、合計が「可（65点）」以上を合格とする。各期それぞれ追・再試験を行う。再試験は上限65点、追試験は上限80点とする。CBT-Medicalで正答を表示するので、講義時間内に各自でフィードバックを行う。

7. 教本

なし

8. 参考書

岩田幸一 他編「基礎歯科生理学」第7版 医薬出版社 2020

和泉博之 他編「ビジュアル生理学・口腔生理学」第3版 学建書院 2021

磯川桂太郎 他著「カラーアトラス 口腔組織発生学」第4版 わかば出版 2016

明坂年隆 他著「カラーアトラス 口腔組織発生学」第3版 わかば出版 2009

伊與田正彦 他著「基礎から学ぶ有機化学」朝倉書店 2013

安孫子宣光 他著「スタンダード生化学・口腔生化学」第

3版 学建書院 2016

中嶋 裕 他著「スタンダード歯科理工学」第8版 学建書院 2023

井出吉信 他著「図説新歯牙解剖学」第5版 わかば出版 2021

脇田 稔 他著「口腔解剖学」第2版 医薬出版社 2018

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号、国：国家試験出題基準、担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4/12	人体の生理	人体の機能に関する問題作成	A-3-1, 2, 3/ 必4-ア, 総II1ア-ケ, 6-ア-カ	① ② ⑤ ⑦
2	4/19	ク	作成した問題のブラッシュアップ	ク	ク
3	4/26	ク	問題解説	ク	ク
4	5/10	人体の微細構造	人体の微細構造に関する問題作成	A-1-4-1, A-3-1-1~5/ 必4-ア, 総II-1-ア~ ウ, ク	① ② ③ ⑦
5	5/17	ク	作成した問題のブラッシュアップ	ク	ク
6	5/24	ク	問題解説	ク	ク
7	5/31	生体分子	生体分子の構造と性質に関する問題作成	A-1-1, A-1-2, A-1-3, A-1-5/ 必4-ア, 必12-イ	① ② ⑦
8	6/7	ク	作成した問題のブラッシュアップ	ク	ク
9	6/14	ク	問題解説	ク	ク
10	6/21	歯の形態	歯の形態に関する問題作成	A-3-4/ 必4-ア, 総II-5-ア	ク
11	6/28	ク	作成した問題のブラッシュアップ	ク	ク
12	7/5	ク	問題解説	ク	ク
13	7/12	人体の機能	人体を構成する物質に関する問題作成	A-1-2, A-1-5/ 必4-ア	① ② ⑥ ⑦
14	7/19	ク	作成した問題のブラッシュアップ	ク	ク
15	7/26	ク	問題解説	ク	ク
16	9/6	口腔の生理	口腔の生理に関する問題作成	A-3-1, 2, 3/ 必4-ア, 総II1ア-ケ, 6-ア-カ	① ⑤ ⑦
17	9/13	ク	作成した問題のブラッシュアップ	ク	ク
18	9/20	ク	問題解説	ク	ク

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
19	9/27	口腔の微細構造	口腔の微細構造に関する問題作成	A-3-3, 4/ 総II-4-オ, 5-イ, 8-イ	① ③ ⑦
20	10/4	口腔の微細構造	作成した問題のブラッシュアップ	A-3-3, 4/ 総II-4-オ, 5-イ, 8-イ	〃
21	10/11	〃	問題解説	〃	〃
22	10/18	頭頸部の構造	頭頸部の構造に関する問題作成	A-3-1, 2/ 必4-ア, 総II-4-ア~キ	① ⑥ ⑦
23	10/25	〃	作成した問題のブラッシュアップ	〃	〃
24	11/1	〃	問題解説	〃	〃
25	11/8	人体の機能	代謝に関する問題作成	A-1-2, A-1-3/ 必4-ア	〃
26	11/15	〃	作成した問題のブラッシュアップ	〃	〃
27	11/22	〃	問題解説	〃	〃
28	11/29	歯科材料の諸性質	歯科材料の諸性質に関する問題作成	B-1, 2, 3/ 総VII-1~7	① ④ ⑥ ⑦
29	12/6	〃	作成した問題のブラッシュアップ	〃	〃
30	12/13	〃	問題解説	〃	〃

英語 II (通年・1単位)

D①②A-b1-2108 (D2108)

科目責任者：長峯 英樹（英語・講師）

科目担当者：①長峯 英樹（英語）

※この科目は、一般企業勤務経験のある教員が担当する

1. 科目の概要

本講義の目的は、異なる文化や価値観の多様性を理解できる歯科医師となるために、歯科医療分野における英語の専門用語や頻出語彙表現、文法、そして読解力の基礎を学び、英語で専門知識を吸収できるスキルを習得することである。

2. 一般目標

英語の理解スピードと精度、そして発信力を向上させるために不可欠な基礎的な語彙と文法を復習すると同時に、歯科医療分野の英語表現および自分の意見を述べるときに役立つ表現を数多く覚える。

3. 到達目標

- 1) 歯科医療英語の基本的な語彙と表現、接頭辞、接尾辞を覚える。
- 2) 基礎文法を復習し、表現方法の細かなニュアンスを理解できるようになる。
- 3) 歯科医療分野の英文を「訳せる」だけで満足せず、英語で知識を「吸収できる」ようになる。

4. 履修の進め方

まず、テキストに基づきながら歯科医療分野の専門用語や頻出語彙表現、接頭辞、接尾辞を覚えると同時に、読解力の基礎を学ぶ。次に、医療機関の英語ウェブサイトや記事・レポートを読むことにより実践的な読解力を習得する。

5. 準備学修

<予習>

- ①各Unitの語彙や英文の意味を確認（45分）
- ②理解できない部分を把握し、講義で確認すべきリストを作成（10分）

<復習>

- ①講義で学んだ語彙や英文の意味を再確認（20分）
- ②講義で学んだ英文を再度熟読（40分）

<その他>

日常的に、映画や雑誌・新聞など、できるだけ多く英語に触れるよう心がけること。

6. 評価方法

筆記試験（100%）により評価し、100点満点中65点以上を合格とする。

なお、筆記試験は①前期定期試験、②後期定期試験、③Review Test（全6回）の合計を平均した点数で評価される。フィードバックは基本的に次回講義時に解説する。

7. 教本

影山幾男編著『歯科学生のための医学英語 第2版』学建書院

8. 参考書

なし。

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号、国：国家試験出題基準、担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4/12	1.Dental Terminology	Reading	C-7-1/ 必12-ウ	①
2	4/19	2.Toothache	Reading	C-7-1/ 必12-ウ	〃
3	4/26		Review (1-2)	C-7-1/ 必12-ウ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
4	5/10		Review Test (1-2)	C-7-1/ 必12-ウ	①
5	5/17	3. Severe Dental Anxiety	Reading	C-7-1/ 必12-ウ	〃
6	5/24	4. Oral Hygiene	Reading	C-7-1/ 必12-ウ	〃
7	5/31		Review (3-4)	C-7-1/ 必12-ウ	〃
8	6/7		Review Test (3-4)	C-7-1/ 必12-ウ	〃
9	6/14	5. Periodontal Disease	Reading	C-7-1/ 必12-ウ	〃
10	6/21	6. Dental Implants	Reading	C-7-1/ 必12-ウ	〃
11	6/28		Review (5-6)	C-7-1/ 必12-ウ	〃
12	7/5		Review Test (5-6)	C-7-1/ 必12-ウ	〃
13	7/12	7. Cleft Lip	Reading	C-7-1/ 必12-ウ	〃
14	7/19		Review (7)	C-7-1/ 必12-ウ	〃
15	7/26		Review (1-7)	C-7-1/ 必12-ウ	〃
16	9/6	8. Leukoplakia	Reading	C-7-1/ 必12-ウ	〃
17	9/13	9. Herpes Simplex	Reading	C-7-1/ 必12-ウ	〃
18	9/20		Review (8-9)	C-7-1/ 必12-ウ	〃
19	9/27		Review Test (8-9)	C-7-1/ 必12-ウ	〃
20	10/4	10. The Temporo-mandibular Joint	Reading	C-7-1/ 必12-ウ	〃
21	10/11	11. Sialolithiasis	Reading	C-7-1/ 必12-ウ	〃
22	10/18		Review (10-11)	C-7-1/ 必12-ウ	〃
23	10/25		Review Test (10-11)	C-7-1/ 必12-ウ	〃
24	11/1	12. Inferior Alveolar Nerve Block	Reading	C-7-1/ 必12-ウ	〃
25	11/8	13. Trigeminal Neuralgia	Reading	C-7-1/ 必12-ウ	〃
26	11/15		Review (12-13)	C-7-1/ 必12-ウ	〃
27	11/22		Review Test (12-13)	C-7-1/ 必12-ウ	〃
28	11/29	14. Paranasal Sinusitis	Reading	C-7-1/ 必12-ウ	〃
29	12/6		Review (14)	C-7-1/ 必12-ウ	〃
30	12/13		Review (8-14)	C-7-1/ 必12-ウ	〃

日本語学Ⅱ（前期・1単位）

D②A-al-2112(D2112)

科目責任者：本多 真史（日本語・講師）

科目担当者：①本多 真史（日本語）

1. 科目の概要

歯科医師免許という「高度な資格」を取得するためには、国家試験への合格が必要不可欠とされている。歯科医師国家試験問題を解く際には、問題を正確に読み、内容をきちんと理解し、自らの考えを整理し、正しく答えられる力が必要になる。

本講義では、歯科医師国家試験問題を解く際に必要とされる「読解力」を培うことを目指す。1年時に習得した内容をもとに、より実践的な読解方法を身につける演習を行う。

2. 一般目標

問題を解く際に必要な「筋道を立てる」という基本姿勢、論理的な思考、記号読解などの技能を身につける。また、「問題文を読み、理解し、思考して問題を解く」という一連の行為が円滑にいくような能力を体得させる。加えて、国家試験で要求される「問題を時間内に正確に解く」力をも向上させる。

3. 到達目標

- 1) 重要語句等の、問題を解くために必要な基礎的な知識を身につける。
- 2) 論理構造を理解しつつ、問題を正確に読むことができる。
- 3) 問われている内容をきちんと理解することができる。
- 4) 自らの考えを整理し、解答への筋道を立てることができる。
- 5) 客観的に判断し、問題を解決することができる。

4. 履修の進め方

- 1) 講義資料をもとに、講義および演習形式で読解力の育成を行う。
- 2) 各自ノートを作り、板書を適宜書き込むことを基本とする。

5. 準備学修

講義受講前にシラバスで内容を確認し、それに関する事柄を理解しておくことが望ましい（所要時間10分前後）。また講義受講後は、その内容を復習（所要時間30分前後）し、日頃から自然に実践できるように心がける。

6. 評価方法

記述式試験（70%）、ワークシート等（13回）の提出状況及びその内容（30%）により評価し、65点以上を合格とする。試験問題は、多肢選択方式と記述式が含まれる。ワークシート等については、点検して個人に返却する。フィードバックは、講義内で適宜行う。

7. 教本

指定しない。プリントを配布し、それに沿って進める。

8. 参考書

『AI vs 教科書が読めない子どもたち』、『日本語練習帳』、『「ロンリ」の授業』、『「考える技術」と「地頭力」がいっさきに身につく東大思考』など

9. 授業内容と日程

(コ : コアカリ記号, 国 : 国家試験出題基準, 担 : 担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／10	オリエンテーション	練習問題を通して、「なんとなく解く」ことから脱却しよう	PR-04, LL-01, LL-03～05, RE-01・02, RE-05, PS-12, CM-02, C-2-1, C-2-3～C-2-6	①
2	4／17	読解力向上演習(1)	単語に敏感になろう	〃	〃
3	4／24	読解力向上演習(2)	文の構造をしっかりと覚えられるようになろう	〃	〃
4	5／8	読解力向上演習(3)	段落と段落の「つながり方」を意識してみよう	〃	〃
5	5／15	読解力向上演習(4)	「印つけ」読解法を確実に身につけよう	〃	〃
6	5／22	読解力向上演習(5)	文章を要約してみよう 【要約実践演習①】	〃	〃
7	5／29	読解力向上演習(6)	文章を要約してみよう 【要約実践演習②】	〃	〃
8	6／5	読解力向上演習(7)	文章を縮約してみよう 【縮約実践演習①】	〃	〃
9	6／12	読解力向上演習(8)	文章を縮約してみよう 【縮約実践演習②】	〃	〃
10	6／19	読解力向上演習(9)	きちんとした解答を作成しよう 【記述式問題実践演習①】	〃	〃
11	6／26	読解力向上演習(10)	きちんとした解答を作成しよう 【記述式問題実践演習②】	〃	〃
12	7／3	読解力向上演習(11)	「論理思考」を駆使し、実践力を高めよう 【マーク式問題実践演習①】	〃	〃
13	7／10	読解力向上演習(12)	「論理思考」を駆使し、実践力を高めよう 【マーク式問題実践演習②】	〃	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
14	7／17	読解力向上演習(13)	「論理思考」を駆使し、実践力を高めよう 【マーク式問題実践演習③】	PR-04, LL-01, LL-03～05, RE-01・02, RE-05, PS-12, CM-02, C-2-1, C-2-3～C-2-6	①
15	7／24	形成的評価	形成的評価試験を行う	関連範囲	〃

物理学（前期・2単位）

D③A-a2-2302 (D2302)

科目責任者：菊地 尚志（物理・教授）

科目担当者：①菊地 尚志（物理）

1. 科目の概要

物理学は自然界の最も基本的な現象について記述する学問です。それゆえ歯科医学でも物理学の知識を基にそれを応用している分野が多いです。1年生の物理学の教養科目「基礎物理学」を基に、歯科医学で物理学が応用されていることについて歯科の専門的な知識と関係つけながら授業を進めます。基礎物理学で学んだことを復習しながら、具体的には歯科材料学と歯科放射線学への応用事項について発展させます。

歯科材料学では物質の弾性の大きさについての理解が大切になります。国家試験でも歪み・応力曲線に関しての問題が多く出されています。基礎物理学で学んだ原子の構造をもとに、クーロン力についての電磁気学を新たに学んで物質の弾性について理解を深めます。

歯科ではレントゲン写真は言うに及ばず、最近はCTやPETなどの断層写真による診断も使われています。これらの歯科放射線学の技術を安全にまた正しく使う上でやはり原子と原子核の構造や電子と電磁波について思い出すことが必要になります。陽子、中性子、電子、さらには陽電子などの物質の基本的な構成粒子について理解を深め、歯科への応用を知るようにします。

2. 一般目標

物理学の基礎的な内容の歯科医学への応用を理解する。

3. 到達目標

- 1) クーロンの法則で表される原子核と電子の静電気力の効果を理解する。
- 2) 電磁波の発生と物質との相互作用を説明する。
- 3) 物質の弾性を分子・原子間力で説明する。
- 4) 陽子、中性子、電子という基本粒子の存在を説明し、放射線との相互作用を理解する。

4. 履修の進め方

板書を中心に授業をします。ノートをしっかり取る習慣をつけましょう。

5. 準備学修

教科書の授業内容のところをよく読んでくる。(30分)

講義で行った内容の復習を行う。(30分)

6. 評価方法

記述と計算を合わせた試験問題とする。定期試験で65点以上を合格とする。不合格者には再試験を行う。必要に応じて再々試験を行う。

7. 教本

「シップマン自然科学入門 新物理学」(学術図書出版)

8. 参考書

なし

9. 授業内容と日程

(コ：コアカリ記号、国：国家試験出題基準、担：担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4/9	ガイダンス	科目の内容を歯科との関係で説明する。	A-1-1, B-1-1, D-2-5/ 必12-イ	①
2	4/9		科目の内容を歯科との関係で説明する。	A-1-1, B-1-1, D-2-5/ 必12-イ	ク

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
3	4/16	弾性	電荷の間の力	A-1-1, B-1-1, D-2-5/ 必12-イ	①
4	4/16		クーロンの法則	A-1-1, B-1-1, D-2-5/ 必12-イ	ク
5	4/23		バネ定数と弾性率	A-1-1, B-1-1, D-2-5/ 必12-イ	ク
6	4/23		原子の構造と弾性率	A-1-1, B-1-1, D-2-5/ 必12-イ	ク
7	5/7		応力歪み曲線1	A-1-1, B-1-1, D-2-5/ 必12-イ	ク
8	5/7		弾性エネルギー	A-1-1, B-1-1, D-2-5/ 必12-イ	ク
9	5/14		応力歪み曲線2	A-1-1, B-1-1, D-2-5/ 必12-イ	ク
10	5/14		固体の応力	A-1-1, B-1-1, D-2-5/ 必12-イ	ク
11	5/21		問題演習	A-1-1, B-1-1, D-2-5/ 必12-イ	ク
12	5/21	熱力学	熱量	A-1-1, B-1-1, D-2-5/ 必12-イ	ク
13	5/28		熱伝導	A-1-1, B-1-1, D-2-5/ 必12-イ	ク
14	5/28		熱膨張	A-1-1, B-1-1, D-2-5/ 必12-イ	ク
15	6/4		問題演習	A-1-1, B-1-1, D-2-5/ 必12-イ	ク
16	6/4	放射能と放射線	放射性核種	A-1-1, B-1-1, D-2-5/ 必12-イ	ク
17	6/11		放射能の種類と原因	A-1-1, B-1-1, D-2-5/ 必12-イ	ク

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
18	6/11		放射能の強さと半減期	A-1-1, B-1-1, D-2-5/ 必12-イ	①
19	6/18		人工放射能の社会影響、医学応用	A-1-1, B-1-1, D-2-5/ 必12-イ	〃
20	6/18	原子の構造	原子模型	A-1-1, B-1-1, D-2-5/ 必12-イ	〃
21	6/25		電子配置と周期表	A-1-1, B-1-1, D-2-5/ 必12-イ	〃
22	6/25		電磁波と光量子	A-1-1, B-1-1, D-2-5/ 必12-イ	〃
23	7/2		X線管	A-1-1, B-1-1, D-2-5/ 必12-イ	〃
24	7/2		光電効果とコンプトン散乱	A-1-1, B-1-1, D-2-5/ 必12-イ	〃
25	7/9		放射線被曝	A-1-1, B-1-1, D-2-5/ 必12-イ	〃
26	7/9		放射線被曝	A-1-1, B-1-1, D-2-5/ 必12-イ	〃
27	7/16		MRIとPET	A-1-1, B-1-1, D-2-5/ 必12-イ	〃
28	7/16		問題演習	A-1-1, B-1-1, D-2-5/ 必12-イ	〃
29	7/23		問題演習	A-1-1, B-1-1, D-2-5/ 必12-イ	〃
30	7/23		まとめ	A-1-1, B-1-1, D-2-5/ 必12-イ	〃

化学（前期・2単位）

D③A-a2-2305(D2305)

科目責任者：阿部 匡聰（化学・講師）

科目担当者：①阿部 匡聰（化学）

1. 科目の概要

生体内で働く物質や、私たちの身近にある物質（燃料、塗料、プラスチック製品、衣類、食品、医薬品など）には、多くの有機化合物が存在している。さらに、歯科医学で用いられる、抗炎症薬・鎮痛薬・抗菌薬・麻酔薬などの薬物の大部分は有機化合物であり、印象剤や歯冠用硬質レジンなどの歯科材料にも有機高分子化合物が利用されている。代謝過程での種々の生体反応も、基本的な有機化合物の反応と根本的な機構は同じであり、有機化学の知識・概念は、生命現象の分子機構的理説、歯科医学関連薬物・材料の構造・性質の理解に不可欠である。本科目では、基本的な有機化合物の構造・性質・合成・反応について解説する。本科目の履修を通じ、生命現象や、物質の変化を、分子機構的に探究する志向性を抱いてほしい。

2. 一般目標

学修者は、ディプロマポリシー③病態解析と治療概念のため、基本的な有機化合物の構造・性質・反応についての知識・概念を習得する。

3. 到達目標

- 1) 学修者は、官能基の種類により化合物を分類し、各化合物の性質・反応を説明できる。
- 2) 学修者は、異性体について説明し、構造式で示すことができる。
- 3) 学修者は、誘起効果と共鳴効果について説明できる。
- 4) 学修者は、置換反応、付加反応、脱離反応、転位反応を説明し、反応式を記述できる。
- 5) 学修者は、反応の進行過程における求核剤と求電子剤の働きを説明できる。
- 6) 学修者は、芳香族化合物の性質・反応について、脂肪族化合物との違いを示し、説明できる。

4. 履修の進め方

教科書の内容編成に沿い、主に板書により講義する。ミニマムリクワイアメントを口頭試問で確認しながら進める。レポートにより、形成的評価を行う。適宜、プリントを用いた問題演習を導入する。

5. 準備学修

1年次で履修する基礎化学の内容を修得しておくことが望ましい。本科目の内容は、歯科基礎医学、歯科基礎病態治療学区分に関連し、特に、口腔生化学Ⅰ、Ⅱ、歯科薬理学Ⅰ、Ⅱ、生体材料・歯科材料学Ⅰ、Ⅱの履修に役立つ。

事前学習（10分）：教科書の当該箇所を読んでおく。

事後学習（30分）：教科書やノートを読み返し、学習内容の理解を深め、知識・概念を覚えるよう努める。内容を理解し覚える上で、構造式や反応式を書いてみることが特に有効である。

6. 評価方法

中間試験（6月中旬）と定期試験を、いずれも多肢選択方式問題（40%）、記述式問題（60%）で実施する。中間試験（45%）と定期試験（55%）による評価を科目成績とし、65点以上で合格とする。65点未満の者については、再試験で65点以上を獲得した場合、科目成績を65点とする。

7. 教本

伊與田正彦 他著「基礎から学ぶ有機化学」 朝倉書店
2013年

8. 参考書

中川徹夫著「化学の基礎－元素記号からおさらいする化学の基本－」 化学同人 2010年

9. 授業内容と日程

(コ:コアカリ記号, 国:国家試験出題基準, 担:担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4/10	原子の構造と電子配置	原子の構造; 電子配置; 値電子	A-1-1/必4-ア, 必12-イ	①
2	4/10	共有結合と分子の形成	共有結合; 混成軌道	A-1-1/必4-ア, 必12-イ	〃
3	4/17	有機分子の形と構造異性体	構造式; 官能基; 構造異性体	A-1-1/必4-ア, 必12-イ	〃
4	4/17	立体異性体	不斉炭素と光学異性体; アミノ酸・糖の構造; cis-trans 異性体	A-1-1, A-1-2/必4-ア, 必12-イ	〃
5	4/24	分子の中の電子の偏りと非局在化1	結合の分極; 結合の開裂と電子の流れ	A-1-1/必4-ア, 必12-イ	〃
6	4/24	分子の中の電子の偏りと非局在化2	形式電荷; 誘起効果と共鳴効果; 共鳴安定化と芳香族性	A-1-1/必4-ア, 必12-イ	〃
7	5/8	分子間力	ファンデルワールス力; 双極子-双極子相互作用; 水素結合	A-1-1/必4-ア, 必12-イ	〃
8	5/8	アルカン	アルカンの構造・性質・反応	A-1-1/必4-ア, 必12-イ	〃
9	5/15	アルケンとアルキン1	アルケンとアルキンの構造・性質; アルケンの合成	A-1-1/必4-ア, 必12-イ	〃
10	5/15	アルケンとアルキン2	アルケンの反応	A-1-1/必4-ア, 必12-イ	〃
11	5/22	アルケンとアルキン3	アルキンの合成・反応	A-1-1/必4-ア, 必12-イ	〃
12	5/22	ハロゲン化アルキル1	ハロゲン化アルキルの構造・性質・合成	A-1-1/必4-ア, 必12-イ	〃
13	5/29	ハロゲン化アルキル2	ハロゲン化アルキルの求核置換反応・脱離反応	A-1-1/必4-ア, 必12-イ	〃
14	5/29	アルコールとエーテル1	アルコールの構造・性質・合成	A-1-1/必4-ア, 必12-イ	〃
15	6/5	アルコールとエーテル2	アルコールの反応	A-1-1/必4-ア, 必12-イ	〃
16	6/5	アルコールとエーテル3	エーテルの構造・性質・合成・反応	A-1-1/必4-ア, 必12-イ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
17	6/12	ベンゼンと芳香族炭化水素1	ベンゼンの構造; アルケンとベンゼンの反応性の違い	A-1-1/必4-ア, 必12-イ	①
18	6/12	ベンゼンと芳香族炭化水素2	芳香族化合物とヒュッケル則; 芳香族求電子置換反応	A-1-1/必4-ア, 必12-イ	〃
19	6/19	ベンゼンと芳香族炭化水素3	求電子置換反応における配向効果と活性化効果	A-1-1/必4-ア, 必12-イ	〃
20	6/19	置換ベンゼン類の合成と反応1	フェノールの性質・合成; フェノール類, ハロゲン化アリールの反応	A-1-1/必4-ア, 必12-イ, 総VII-8-ウ	〃
21	6/26	置換ベンゼン類の合成と反応2	アニリンの反応; ジアゾニウム塩の合成と反応	A-1-1/必4-ア, 必12-イ	〃
22	6/26	カルボニル化合物1	カルボニル化合物の構造・性質・合成	A-1-1/必4-ア, 必12-イ	〃
23	7/3	カルボニル化合物2	カルボニル化合物の求核付加反応, 酸化還元	A-1-1/必4-ア, 必12-イ	〃
24	7/3	カルボニル化合物3	エノールおよびエノラートイオンの反応; アルドール縮合	A-1-1/必4-ア, 必12-イ	〃
25	7/10	カルボン酸	カルボン酸の構造・性質・合成; 弱酸の解離定数; 酸塩基平衡	A-1-1, A-1-2/必4-ア, 必12-イ	〃
26	7/10	カルボン酸誘導体1	エステル, カルボン酸塩化物の合成・反応	A-1-1, A-1-2/必4-ア, 必12-イ	〃
27	7/17	カルボン酸誘導体2	カルボン酸無水物, アミド, ニトリルの合成・反応	A-1-1, A-1-2/必4-ア, 必12-イ	〃
28	7/17	アミン1	アミンの構造・性質・合成; 局所麻酔薬とアミン	A-1-1/必4-ア, 必11-カ, 必12-イ	〃
29	7/24	アミン2	アミンの反応	A-1-1/必4-ア, 必12-イ	〃
30	7/24	高分子	高分子化合物の分類; 歯科材料と高分子; 重合反応	A-1-1, B-1-2/総VII-1	〃

生物学（前期・2単位）

D③A-a2-2308(D2308)

科目責任者：前田 豊信（生化・教授）

科目担当者：①前田 豊信（生化）

1. 科目の概要

本科目では、歯科医師として必要な生命現象を理解するために、必要な分子生物学の知識を中心に講義を行う。具体的には、細胞生物学と細胞間情報伝達について講義する。各臓器の機能について、分子生物学的観点から講義する。さらに遺伝子工学の現状を解説し、生命倫理について考察する。

2. 一般目標

歯科口腔疾患の病態を解析し、治療の要素を把握するために必要な、基礎系科目の知識を理解・習得するために、必要な生物学の知識を身につける。

3. 到達目標

- 1) 細胞の構造と機能について説明できる。
- 2) 生体を構成する基本分子とその代謝について説明できる。
- 3) 細胞間情報伝達について説明できる。
- 4) 中心命題とその制御について説明できる。
- 5) 血液の成分と機能について説明できる。

4. 履修の進め方

講義主体でスライドと web 資料、配布資料を使用して履修する。

5. 準備学修

事前に web 資料、配布資料を読み、講義内容の概略を把握するとともに疑問点を見出しておくこと（10分）。

6. 評価方法

客観的な問題で行われる定期試験（100点満点）で評価し、65点以上で合格（単位認定）とする。65点未満の者は、願い出により再試験を受験することができる。再試験で65点以上であった場合には、65点として評価する。なお、追試験に関しては100点で評価する。

7. 教本

なし。

8. 参考書

基礎から学ぶ生物学・細胞生物学 第4版 和田 勝著（羊土社）

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号、国：国家試験出題基準、担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4/8	細胞の構造と機能①	小器官の機能	A-1-4/必4-ア	①
2	〃	細胞の構造と機能②	細胞骨格	A-1-4/必4-ア	〃
3	4/15	細胞の構造と機能③	形質膜と膜輸送	A-1-4/必4-ア	〃
4	〃	人体を構成する成分①	糖 甘味料	A-1-2/必4-ア	〃
5	4/22	人体を構成する成分②	アミノ酸	A-1-2/必4-ア, 総II-1-コ	〃
6	〃	人体を構成する成分③	タンパク質	A-1-2/必4-ア	〃
7	5/13	人体を構成する成分④	脂質	A-1-2/必4-ア, 総II-1-コ	〃
8	〃	栄養素の消化と吸収①	栄養素の消化	A-1-2/必4-ア, 総II-1-オ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
9	5/20	栄養素の消化と吸収②	栄養素の吸収と輸送	A-1-2/必4-ア, 総II-1-オ	①
10	〃	栄養素の代謝①	エネルギー產生1	A-1-2/必4-ア, 総II-1-コ	〃
11	5/27	栄養素の代謝②	エネルギー產生2	A-1-2/必4-ア, 総II-1-コ	〃
12	〃	栄養素の代謝③	排泄1	A-3-1/必4-ア, 総II-1-コ	〃
13	6/3	栄養素の代謝④	排泄2	A-3-1/必4-ア, 総II-1-コ	〃
14	〃	血液	血液の構成	A-3-1/必4-ア, 必9-エ, 総II-1-カ	〃
15	6/10	内蔵の機能①	肝臓の機能	A-3-1/必4-ア, 必9-エ	〃
16	〃	内蔵の機能②	脾臓の機能	A-3-1/必4-ア, 必9-エ	〃
17	6/17	内蔵の機能③	膵臓の機能	A-3-1/必4-ア, 必9-エ	〃
18	〃	生体恒常性	緩衝作用	A-1-4/必4-ア, 必10-エ	〃
19	6/24	細胞間情報伝達④	ホルモン①	A-1-5, A-3-1/総II-1-ケ	〃
20	〃	細胞間情報伝達④	ホルモン②	A-1-5, A-3-1/総II-1-ク	〃
21	7/1	細胞間情報伝達④	細胞内シグナル伝達	A-1-5, A-3-1/総II-1-ク	〃
22	〃	細胞間情報伝達④	成長因子	A-1-5, A-3-1/総II-1-ク	〃
23	7/8	細胞間情報伝達⑤	エイコサノイド	A-1-5, A-3-1/総II-1-ク	〃
24	〃	細胞分裂と細胞死	細胞分裂	A-1-3/必4-ア	〃
25	〃	細胞分裂と細胞死	核酸合成	A-1-3/必4-ア	〃
26	〃	細胞分裂と細胞死	細胞分裂と細胞死	A-1-3/必4-ア	〃
27	7/22	中心命題①	転写と転写因子	A-1-3/必4-ア	〃
28	〃	中心命題②	翻訳と翻訳後修飾	A-1-3/必4-ア	〃
29	〃	遺伝	遺伝	A-1-3/必4-ア	〃
30	〃	遺伝子工学	遺伝子工学	A-1-3/必4-ア, 総VI-3	〃

基礎歯学概論Ⅱ（前期・2単位）

D②A-a2-2206 (D2206)

科目責任者：遊佐 淳子（病理・准教授）

科目担当者：①遊佐 淳子（病理）、②廣瀬 公治（衛生）、
③小林美智代（衛生）、④鈴木 礼子（薬理）、
⑤山崎 幹子（病理）、⑥石田 喜紀（材料）、
⑦前田 豊信（生化）、⑧加藤 靖正（生化）

※この科目は、主に診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

歯科医師として身につけなければならない知識を習得する上で、専門基礎科目は特に重要となる。その中で、2年時の後期から3年時の履修科目となる専門基礎科目を中心に、履修前に予備知識として知っておくべき概論や要点について早期に学習する。

2. 一般目標

ディプロマ・ポリシー（3）の病態を解析するための基礎となる第2学年時の後期から第3学年時の履修科目である専門基礎科目を中心に、その知識を習得する。

3. 到達目標

- 1) 生体を構成する成分と機能を説明できる。
- 2) 歯と歯周組織の疾患の病因と病態を説明できる。
- 3) 健康の保持・増進の方策を説明できる。
- 4) 社会保障の概要を理解する。
- 5) 地域保健における歯科医師の役割を説明できる。
- 6) 疫学と調査について概念を説明できる。
- 7) 歯科材料、診療用機械について基本的な事項を説明できる。
- 8) 食品衛生と栄養摂取基準を説明できる。
- 9) 医薬品の開発と薬害を説明できる。

4. 履修の進め方

講義主体でスライド、プリント、板書で適宜進める。ノートをとり、プリントに追記する。

5. 準備学修

講義担当者から配布される資料や、図書館の資料を用いる。新聞やTVニュースなどから保健・医療・福祉に関する社会の流れを把握すること（事前学習15分）。加えて、講義受講後に、その内容を復習すること（事後学習30分）。

6. 評価方法

多肢選択方式問題による定期試験（100%）で評価し、65点以上を合格とする。再試験は65点未満の不合格者に実施する。再試験は上限65点、追試験は上限80点とする。定期試験のフィードバックは、答案を開示して適宜行う。

7. 教本

講義担当者から配布される資料を用いる。口腔衛生学概論ではスタンダード衛生・公衆衛生、口腔生化学概論ではスタンダード生化学口腔生化学を持参のこと。

8. 参考書

坪井貴司著「そうだったのか！ヒトの生物学」 丸善出版 2019年

田村浩一著「図解入門 よくわかる病理学の基本としくみ」 秀和システム 2011年

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号、国：国家試験出題基準、担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4/12	口腔衛生学概論①	公衆衛生学序論 社会変化と健康	C-5-1, 2, 3/ 総1-ア～オ	②

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
2	4/12	口腔衛生学概論②	疾病構造と健 康問題 国際保健協力	C-5-1, 2, 3/ 総1-ア～オ	②
3	4/19	口腔衛生学概論③	健康の保持増 進 健康増進法 健康日本21 (第三次) 歯科口腔保健 の推進に関する 法律	C-5-1, 2, 3/ 必3-イ, 総1-ア～オ	③
4	4/19	口腔衛生学概 論④	統計学の基礎 -1	C-6-1, C-6-2/ 必9-ウ, 総I-6-ア	ク
5	4/26	口腔衛生学概 論⑤	統計学の基礎 -2	C-6-1, C-6-2/ 必9-ウ, 総I-6-ア	ク
6	4/26	口腔衛生学概 論⑥	統計学の基礎 -3	C-6-1, C-6-2/ 必9-ウ, 総I-6-ア	ク
7	5/10	歯科薬理学概 論①	薬物と医薬品 1	A-6-2-1/ 必11-コ	④
8	5/10	歯科薬理学概 論②	薬物と医薬品 2	A-6-1-1/ 必2-イ	ク
9	5/17	口腔衛生学概 論⑦	食生活と健康 -1	E-5-2/ 総I-8-ア, イ	③
10	5/17	口腔衛生学概 論⑧	食生活と健康 -2	E-5-2/ 総I-8-ア, イ	ク
11	5/24	口腔病理学概 論①	病理組織検査	D-2-6-1/ 総IV-3-ア	①
12	5/24	口腔病理学概 論②	齲歯	D-3-2-1/ 総III-2-ア	ク
13	5/31	口腔病理学概 論③	歯周病 1	D-3-2-3/ 総III-2-ア	⑤
14	5/31	口腔病理学概 論④	歯周病 2	D-3-2-3/ 総III-2-ア	ク
15	6/7	生体材料学概 論①	歯科修復用材 料(1)	B-1, 2, 3/ 総VII-1～11	⑥
16	6/7	生体材料学概 論②	歯科修復用材 料(2)	B-1, 2, 3/ 総VII-1～11	ク
17	6/14	生体材料学概 論③	歯科修復用材 料(3)	B-1, 2, 3/ 総VII-1～11	ク
18	6/14	生体材料学概 論④	歯科修復用材 料(4)	B-1, 2, 3/ 総VII-1～11	ク
19	6/21	生体材料学概 論⑤	歯科修復用材 料(5)	B-1, 2, 3/ 総VII-1～11	ク
20	6/21	生体材料学概 論⑥	歯科修復用材 料(6)	B-1, 2, 3/ 総VII-1～11	ク
21	6/28	口腔生化学概 論①	アミノ酸基本 構造・アミノ 酸残基の修飾 アミノ酸代謝	A-1-2/ 必4-ア	⑦
22	6/28	口腔生化学概 論②	タンパク質の 基本構造・ フォールディ ング, 翻訳	A-1-2/ 必4-ア	ク

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
23	7/5	口腔生化学概論③	ビタミンの種類、機能、欠乏症	A-1-2/ 総Ⅶ-8-ウ	⑦
24	7/5	口腔生化学概論④	補酵素とその役割	A-1-2/ 必4-ア	〃
25	7/12	口腔生化学概論⑤	栄養素の相互変換とエネルギー代謝①	A-1-2/ 必4-ア	〃
26	7/12	口腔生化学概論⑥	栄養素の相互変換とエネルギー代謝②	A-1-2-8/ 必4-ア	〃
27	7/19	歯科薬理学概論③	医薬品の開発	A-6-1-2/ 必2-ケ	④
28	7/19	歯科薬理学概論④	薬害	A-6-1-2/ 必2-ケ	〃
29	7/26	口腔生化学概論⑦	酵素反応速度論Ⅰ：ミカエリスメンテンの式	A-1-2/ 必4-ア	⑧
30	7/26	口腔生化学概論⑧	酵素反応速度論Ⅱ：アロステリック酵・酵素反応阻害様式	A-1-2/ 必4-ア	〃

歯科医療人間学Ⅱ（前期・1単位）

D①A-al-2402(D2402)

科目責任者：中川 敏浩（組織・准教授）

科目担当者：①中川 敏浩（組織）、②南 健太郎（衛生）、
③吉田いくよ（非常勤）、④鈴木 俊子（非常勤）、
⑤本多 真史（日本語）

※この科目は、診療経験のある歯科医師及び一般企業勤務経験のある教員が担当する

1. 科目の概要

歯科医療人間学（Dental Practice Human Science）は、本学歯学部の目的である「高度な専門知識と技術を備えた人間性豊かな歯科医師の養成」を実践する学問であり、高度専門職業人（プロフェッショナル）としての歯科医師である前に社会人としての素養、教養および社会適応能力を高揚し、自らのホスピタリティマインドに加えて、患者中心の医療を全人的に捉えるため、身体面、心理面、社会面、倫理面の各要素を総合的かつ包括的に理解し、「歯科医療の安全・安心・信頼の文化」を醸成することにある。

2. 一般目標

人間性豊かな優れた歯科医師となるために、大学で学ぶ目的を明確化し、歯学医療現場にふれ、基本的なコミュニケーションや日常習慣の重要性を認識する態度、知識および技能を修得する。

3. 到達目標

- 1) 医療人として謙虚な態度と傾聴力を養う。
- 2) 患者の訴えを正確に聞き取る。
- 3) 平易な言葉で順序立てて説明する。
- 4) 医療現場で必要な言葉でコミュニケーションを取る。

4. 履修の進め方

グループワークおよびペアによる Active Learning を行う。授業形態はプリントを配布し、レポート提出形式をとることもあるので受動的な学習でなく、必ず参加が義務づけられる能動的学習である。

5. 準備学修

予習：シラバスで内容を確認する。また、人と接する時は状況を把握し、意識をして対応することを日頃から心がける（30分）。

復習：プリント学習や実演したことを自然に実践できるように日々訓練をする。

6. 評価方法

態度教育（パフォーマンス学）の評価方法としてビデオ撮影を実施し、基準点（60点）、言語表現（15点）、非言語表現（15点）、全体印象（10点）の100点満点で評価する。コミュニケーション技能の評価方法として記述式試験を実施し、100点満点で評価する。両者の平均値で65点以上を合格とする。

7. 教本

なし。

8. 参考書

なし。

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号、国：国家試験出題基準、担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4/9	2-A 歯科医療とホスピタリティ	医療の基本を考える	PR/ 必-1-ア-a	① ②
〃	〃	2-B 歯科医療とホスピタリティ	医療の基本を考える	PR/ 必-1-ア-a	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
2	4/16	2-A 医療人とア サーション① 進行の仕方	医療コミュニケーションの 進行の仕方	CS/ 必-8-ウ-C	⑤ ②
〃	〃	2-B 聞き手の基本 的な態度①	傾聴力とホスピタリティ能 力	CM/ 必-8-ウ-C	③ ④ ①
3	4/23	2-A 医療人とア サーション② 進行の仕方	医療コミュニケーションの 進行の仕方	CS/ 必-8-ウ-C	⑤ ②
〃	〃	2-B 聞き手の基本 的な態度②	傾聴力とホスピタリティ能 力	CM/ 必-8-ウ-C	③ ④ ①
4	5/7	2-A 聞き手の基本 的な態度①	傾聴力とホスピタリティ能 力	CM/ 必-8-ウ-C	〃
〃	〃	2-B 医療人とア サーション① 進行の仕方	医療コミュニケーションの 進行の仕方	CS/ 必-8-ウ-C	⑤ ②
5	5/14	2-A 聞き手の基本 的な態度②	傾聴力とホスピタリティ能 力	CM/ 必-8-ウ-C	③ ④ ①
〃	〃	2-B 医療人とア サーション② 進行の仕方	医療コミュニケーションの 進行の仕方	CS/ 必-8-ウ-C	⑤ ②
6	5/21	2-A 表現・自分自 身を知るⅡ- 1①	自分の表現の 仕方基礎	CM/ 必-8-ウ-C	③ ④ ①
〃	〃	2-B 医療面接と傾 聴力①	好感度、信頼 度を上げる会 話とは？	E-2-1-1/ 必-8-ウ-C	⑤ ②
7	5/28	2-A 表現・自分自 身を知るⅡ- 1②	自分の表現の 仕方基礎	CM/ 必-8-ウ-C	③ ④ ①
〃	〃	2-B 医療面接と傾 聴力②	好感度、信頼 度を上げる会 話とは？	E-2-1-1/ 必-8-ウ-C	⑤ ②
8	6/4	2-A 医療面接と傾 聴力①	好感度、信頼 度を上げる会 話とは？	E-2-1-1/ 必-8-ウ-C	〃
〃	〃	2-B 表現・自分自 身を知るⅡ- 1①	自分の表現の 仕方基礎	CM/ 必-8-ウ-C	③ ④ ①
9	6/11	2-A 医療面接と傾 聴力②	好感度、信頼 度を上げる会 話とは？	E-2-1-1/ 必-8-ウ-C	⑤ ②
〃	〃	2-B 表現・自分自 身を知るⅡ- 1②	自分の表現の 仕方基礎	CM/ 必-8-ウ-C	③ ④ ①
10	6/18	2-A 表現・自分自 身を知るⅡ- 2①	自分の表現の 仕方実践	CM/ 必-8-ウ-C	〃
〃	〃	2-B 医療面接の実 践トレーニン グ①	話す・傾聴・ 状況判断・ク レーム処理 <グループ ワーク>	E-2-1-1/ 必-8-ウ-C	⑤ ②

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
11	6/25	2-A 表現・自分自 身を知るⅡ- 2②	自分の表現の 仕方実践	CM/ 必-8-ウ-C	③ ④ ①
〃	〃	2-B 医療面接の実 践トレーニン グ②	話す・傾聴・ 状況判断・ク レーム処理 <グループ ワーク>	E-2-1-1/ 必-8-ウ-C	⑤ ②
12	7/2	2-A 医療面接の実 践トレーニン グ①	話す・傾聴・ 状況判断・ク レーム処理 <グループ ワーク>	E-2-1-1/ 必-8-ウ-C	〃
〃	〃	2-B 表現・自分自 身を知るⅡ- 2①	自分の表現の 仕方実践	CM/ 必-8-ウ-C	③ ④ ①
13	7/9	2-A 医療面接の実 践トレーニン グ②	話す・傾聴・ 状況判断・ク レーム処理 <グループ ワーク>	E-2-1-1/ 必-8-ウ-C	⑤ ②
〃	〃	2-B 表現・自分自 身を知るⅡ- 2②	自分の表現の 仕方実践	CM/ 必-8-ウ-C	③ ④ ①
14	7/16	形成的評価	形成的評価試 験を行う。	関連範囲	① ⑤
15	7/23	形成的評価	形成的評価試 験を行う。	関連範囲	〃

口腔解剖学（通年・3単位）

D③B-a3-2503 (D2503)

科目責任者：宇佐美晶信（解剖・教授）

科目担当者：①宇佐美晶信（解剖）、②芹川 雅光（解剖）

※この科目は、診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

臨床歯科医学を学修するのに先立ち、歯および口腔領域の正常な形態と構造について講義で学ぶ。

2. 一般目標

歯科医学を学修していくために必要な歯や口腔周囲の構造についての「知識」を身に付けるために、ヒトの歯および口腔領域の正常な形態と構造について理解する。

3. 到達目標

- 1) 永久歯、乳歯の形態を説明する。
- 2) 歯列・咬合について説明する。
- 3) 口腔領域の筋・神経・脈管について説明する。
- 4) 口腔内臓について説明する。
- 5) 頸関節の構造と機能について説明する。

4. 履修の進め方

プリントを用いた講義を行う。前回講義内容を CBT-Medical による小テストで形成的評価を行いながら講義を進めていく。これにより学修するすべての項目についての理解を確実なものとして、項目間の関連について理解できることを目指す。

5. 準備学修

講義プリントを事前に確認しておくとともに（15分）、小テストのために前回講義内容の復習をしておく（30分）。

6. 評価方法

多肢選択問題（MCQ）形式の定期試験（90%）と講義時間内で行う CBT-Medical による前回講義内容の試験（10%）の平均が「可（65点）」以上を合格とする。再試験は上限65点、追試験は上限80点で採点する。フィードバックは解答を開示して適宜行う。

7. 教本

井出吉信 編著「図説 新歯牙解剖学－歯牙解剖実習」第5版 わかば出版 2021

8. 参考書

松村譲兒ら編著「イラスト顎顔面解剖学」中外医学社

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号、国：国家試験出題基準、担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4/11	口腔解剖学総論1	口腔解剖学とは	A-3-4/ 総II-5-ア	①
2	4/11	口腔解剖学総論2	歯の種類、歯列、歯式と方向用語	A-3-4/ 総II-5-ア	〃
3	4/18	永久歯の形態①	切歯の形態	A-3-4/ 総II-5-ア	〃
4	4/18	永久歯の形態②	切歯のスケッチ、スケッチ方法論	A-3-4/ 総II-5-ア	〃
5	4/25	永久歯の形態③	犬歯の形態	A-3-4/ 総II-5-ア	〃
6	4/25	永久歯の形態④	犬歯のスケッチ、歯の彫刻の実際	A-3-4/ 総II-5-ア	〃
7	5/9	永久歯の形態⑤	上顎小白歯の形態	A-3-4/ 総II-5-ア	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
8	5/9	永久歯の形態⑥	下顎小白歯の形態	A-3-4/ 総II-5-ア	①
9	5/16	永久歯の形態⑦	上顎第一大臼歯の形態	A-3-4/ 総II-5-ア	〃
10	5/16	永久歯の形態⑧	上顎第二大臼歯の形態	A-3-4/ 総II-5-ア	〃
11	5/23	永久歯の形態⑨	下顎第一大臼歯の形態	A-3-4/ 総II-5-ア	〃
12	5/23	永久歯の形態⑩	下顎第二大臼歯の形態	A-3-4/ 総II-5-ア	〃
13	5/30	慰霊式説明	慰霊式説明、死体解剖保存法	C-1-1/ 必1-ア	〃
14	5/30	慰霊式	慰霊式	A-3-4/ 必1-ア	〃
15	6/6	永久歯の形態⑪	永久歯のまとめ	A-3-4/ 総II-5-ア	〃
16	6/6	乳歯の形態①	乳歯総論	A-3-4/ 総II-5-ア	②
17	6/13	乳歯の形態②	乳歯の形態1	A-3-4/ 総II-5-ア	〃
18	6/13	乳歯の形態③	乳歯の形態2 歯齶	A-3-4/ 総II-5-ア	〃
19	6/20	歯の形態異常	歯の形態異常	A-3-4/ 総II-5-ア	〃
20	6/20	歯列、咬合	歯列、咬合	A-3-3/ 総II-5-ア	〃
21	6/27	乳歯の形態④	乳歯のまとめ	A-3-4/ 総II-5-ア	〃
22	6/27	臨床と口腔解剖	臨床からみた口腔解剖	A-3-3/ 総II-5-ア	①
23	7/4	神経学①	神経学総論	A-3-1/ 必5-ア	②
24	7/4	神経学②	中枢神経1・総論	A-3-1/ 必4-ア	〃
25	7/11	神経学③	中枢神経2・大脳	A-3-1/ 必4-ア	〃
26	7/11	口腔の解剖①	口腔内臓総論	A-3-3/ 総II-4-ア	①
27	7/18	神経学④	中枢神経3・脳幹、小脳	A-3-1/ 必4-ア	②
28	7/18	口腔の解剖②	口蓋、口峡	A-3-3/ 総II-4-オ	①
29	7/25	神経学⑤	中枢神経4・脊髄	A-3-1/ 必4-ア	②
30	7/25	口腔の解剖③	咽頭・唾液腺	A-3-3/ 総II-4-オ	①
31	9/2	神経学⑥	末梢神経1・脳神経総論	A-3-1/ 総II-4-カ	〃
32	9/9	神経学⑦	末梢神経2・脳神経I, II, III, IV, VI, VII	A-3-1/ 総II-1-キ	〃
33	9/30	神経学⑧	末梢神経3・脳神経VII	A-3-1/ 総II-4-カ	〃
34	9/30	神経学⑨	末梢神経4・脳神経VIII, XII	A-3-1/ 総II-4-カ	〃
35	10/7	神経学⑩	末梢神経5・脳神経V	A-3-1/ 総II-4-カ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
36	10/21	神経学⑪	末梢神経6・脳神経V	A-3-1/ 総II-4-カ	①
37	10/28	神経学⑫	末梢神経7・脳神経IX, X, XI	A-3-1/ 総II-4-カ	〃
38	10/28	神経学⑬	末梢神経8・自律神経	A-3-1/ 総II-1-ク	〃
39	11/11	神経学⑭	末梢神経9・脊髄神経	A-3-1/ 総II-4-カ	〃
40	11/18	頭頸部の筋①	顔面筋と咀嚼筋	A-3-2/ 総II-4-ウ	〃
41	11/25	頭頸部の筋②	舌筋, 舌骨上筋, 舌骨下筋	A-3-2/ 総II-4-ウ	〃
42	11/25	神経学⑮	末梢神経まとめ	A-3-1/ 総II-4-カ	〃
43	12/2	嚥下	嚥下関連の解剖学	A-3-2/ 総II-6-エ	〃
44	12/9	筋膜隙	臨床関連の解剖学	A-3-2/ 総II-4-キ	〃
45	12/9	頸関節	頸関節の構造と機能	A-3-2/ 総II-4-イ	②

口腔解剖学実習（前期・1単位）

D②③B-c1-2504 (D2504)

科目責任者：宇佐美晶信（解剖・教授）

科目担当者：①宇佐美晶信（解剖）, ②芹川 雅光（解剖）

※この科目は、診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

前半の7回で歯の形態についてスケッチおよび彫刻実習により理解する。後半の8回で骨の形態と構造について骨標本を用いた実習により理解する。

2. 一般目標

歯の形態と全身の骨の構造を理解することにより歯科医師として必要な歯と骨に関連した「知識」を身に付ける。

3. 到達目標

- 1) 歯の形態を2次元的にスケッチする。
- 2) 歯の形態を3次元的に彫刻する。
- 3) 頭蓋骨や全身の骨の形態および構造を説明できる。

4. 履修の進め方

永久歯の3倍大のスケッチと彫刻の実習を行う。骨学実習ではテキストの内容を骨標本で確認する。

5. 準備学修

歯の彫刻実習には歯種に応じた大きさの石膏棒を用意するとともに歯の形態を事前に確認しておく（15分）。

骨学実習では「口腔顎顔面ノート」の該当部分を事前に確認しておく（30分）。

実習後に歯のスケッチ又は「口腔顎顔面ノート」を復習しておく（15分）。

6. 評価方法

各回の提出物の評価（85%）、態度評価（15%：欠席1回につき5%減点）の100点満点の評価で、「可（65点）」以上を合格とする。提出物の評価基準については実習の第1回目で説明する。フィードバックは提出物返却時に適宜行う。

7. 教本

井出吉信 監修「口腔顎顔面解剖ノート」第3版 学建書院

8. 参考書

なし。

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号、国：国家試験出題基準、担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4/11	口腔解剖学実習①	評価基準の説明, Wax棒彫刻	A-3-4/ 総II-5-ア	① ②
2					
3					
4					
5	4/18	口腔解剖学実習②	切歯のスケッチ, 彫刻	A-3-4/ 総II-5-ア	〃
6					
7					
8					
9	4/25	口腔解剖学実習③	犬歯のスケッチ, 彫刻	A-3-4/ 総II-5-ア	〃
10					
11					
12					
13	5/9	骨学実習①	骨の貸出と確認	A-3-4/ 総II-4-イ	〃
14					
15					
16					
17	5/16	口腔解剖学実習④	小白歯のスケッチ, 彫刻	A-3-4/ 総II-5-ア	〃
18					
19					
20					

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
21	5/23	口腔解剖学実習⑤	上顎大臼歯のスケッチ、彫刻	A-3-4/ 総II-5-ア	① ②
22					
23					
24					
25	5/30	慰靈式	慰靈式	C-1-1/ 必1-ア	〃
26					
27					
28					
29	6/6	口腔解剖学実習⑥	下顎大臼歯のスケッチ、彫刻	E-3-1/ 総II-5-ア	〃
30					
31					
32					
33	6/13	骨学実習②	頭蓋冠、頭蓋底	A-3-2/ 総II-4-イ	〃
34					
35					
36					
37	6/20	骨学実習③	蝶形骨、側頭骨、眼窩	A-3-2/ 総II-4-イ	〃
38					
39					
40					
41	6/27	骨学実習④	上顎骨、口蓋骨、鼻腔	A-3-2/ 総II-4-イ	〃
42					
43					
44					
45	7/4	骨学実習⑤	下顎骨、舌骨	A-3-2/ 総II-4-イ	〃
46					
47					
48					
49	7/11	骨学実習⑥	体幹と四肢の骨	A-3-1/ 総II-1-イ	〃
50					
51					
52					
53	7/18	骨学実習⑦	頭蓋底の孔・管と翼口蓋窓	A-3-1/ 総II-1-イ	〃
54					
55					
56					
57	7/25	骨学実習⑧	骨学実習まとめ	A-3-1, 2/ 総II-1-イ, 総II-4-イ	〃
58					
59					
60					

解剖学（通年・3単位）

D③B-a3-2501(D2501)

科目責任者：宇佐美晶信（解剖・教授）

科目担当者：①宇佐美晶信（解剖）、②芹川 雅光（解剖）、
③佐藤 功二（非常勤）、④阿部 伸一（非常勤）、
⑤井出 吉昭（非常勤）

※この科目は、診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

歯科医学を学修するのに先立ち、肉眼解剖による人体の正常構造を講義により学ぶ。

2. 一般目標

歯科医学を学修していくために必要な肉眼解剖学の「知識」を身に付けるために、人体の正常な形態と構造について理解する。

3. 到達目標

- 1) 身体の部位と方向用語を説明する。
- 2) 身体を構成する器官系について説明する。
- 3) 人体の骨、脈管、筋、内臓、神経の形態と構造を説明する。
- 4) 鰓弓および顎顔面の発生を説明する。

4. 履修の進め方

プリントを用いた講義を行う。前回の講義内容を形成的評価を行ながら講義を進めていく。また、各項目終了時にも形成的評価を行う。これによりすべての項目についての理解を確実なものとして、項目間の関連について理解できることを目標とする。

5. 準備学修

講義プリントを事前に確認しておくとともに（15分）、形成的評価のために前回講義内容の復習をしておく（30分）。

6. 評価方法

多肢選択問題（MCQ）形式の定期試験（90%）と講義時間内で行う CBT-Medical による前回講義内容の試験（10%）の100点満点の評価が「可（65点）」以上を合格とする。再試験は上限65点、追試験は上限80点で採点する。フィードバックは解答を示して適宜行う。

7. 教本

脇田稔ら監修「口腔解剖学」第2版 医歯薬出版 2018年

8. 参考書

松村譲兒著「イラスト解剖学」第10版 中外医学社 2021年

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号、国：国家試験出題基準、担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4/9	解剖学総論	解剖学とは、方向用語	A-3-1/ 総II-4-ア～キ	①
2	4/16	骨学①	骨学総論	A-3-1/ 総II-4-イ	〃
3	4/23	骨学②	頭蓋冠・外頭蓋底	A-3-2/ 総II-4-イ	〃
4	5/7	骨学③	内頭蓋底	A-3-2/ 総II-4-イ	〃
5	5/14	骨学④	蝶形骨1	A-3-2/ 総II-4-イ	〃
6	5/21	骨学⑤	蝶形骨2	A-3-2/ 総II-4-イ	〃
7	5/28	骨学⑥	側頭骨	A-3-2/ 総II-4-イ	〃
8	6/4	骨学⑦	上顎骨	A-3-2/ 総II-4-イ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
9	6/11	骨学⑧	下顎骨	A-3-2/ 総II-4-イ	①
10	6/18	骨学⑨	体幹の骨	A-3-1/ 総II-1-イ	〃
11	6/25	骨学⑩	体肢の骨	A-3-1/ 総II-1-イ	〃
12	7/2	骨学⑪	骨学のまとめ	A-3-1, A-3-2/ 総II-4-イ	〃
13	7/9	脈管学①	脈管学総論	A-3-1/ 総II-1-ウ	②
14	7/16	脈管学②	動脈	A-3-2/ 総II-4-エ	〃
15	7/23	脈管学③	静脈, リンパ	A-3-2/ 総II-4-エ	〃
16	9/5	内臓学①	筋学1	A-3-1/ 総II-1-イ	①
17	9/5	局所解剖学1	人体解剖学実習1のための解説	A-3-1/ 必5-ア	〃
18	9/12	内臓学②	筋学2	A-3-1/ 総II-1-イ	〃
19	9/12	局所解剖学2	人体解剖学実習2のための解説	A-3-1/ 必5-ア	〃
20	9/19	内臓学③	消化器1	A-3-1/ 総II-1-オ	〃
21	9/19	局所解剖学3	人体解剖学実習3のための解説	A-3-1/ 必5-ア	〃
22	9/26	内臓学④	消化器2	A-3-1/ 総II-1-オ	〃
23	9/26	局所解剖学4	人体解剖学実習4のための解説	A-3-1/ 必5-ア	〃
24	10/3	内臓学⑤	呼吸器	A-3-1/ 総II-1-エ	〃
25	10/3	局所解剖学5	人体解剖学実習5のための解説	A-3-1/ 総III-2-ア, ウ, エ, キ	〃
26	10/10	内臓学⑥	感覚器1	A-3-1/ 総II-1-ク	〃
27	10/10	局所解剖学6	人体解剖学実習6のための解説	A-3-1/ 総III-2-ア, エ, キ	〃
28	10/17	内臓学⑦	感覚器2	A-3-1/ 総II-1-ク	〃
29	10/17	局所解剖学7	人体解剖学実習7のための解説	A-3-1/ 総III-2-ア, イ, エ, キ	〃
30	10/24	内臓学⑧	泌尿生殖器	A-3-1/ 総II-1-キ	〃
31	10/24	局所解剖学8	人体解剖学実習8のための解説	A-3-1/ 必5-ア	〃
32	10/31	内臓学⑨	内分泌器	A-3-1/ 総II-1-ケ	〃
33	10/31	局所解剖学9	人体解剖学実習9のための解説	A-3-1/ 必5-ア	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
34	11/7	内臓学⑩	内臓学のまとめ	A-3-1/ 総II-1-ア～ケ	①
35	11/7	局所解剖学10	人体解剖学実習10のための解説	A-3-1/ 必5-ア	〃
36	11/14	発生①	鰓弓	A-2-4/ 総II-8-ア	②
37	11/14	局所解剖学11	人体解剖学実習11のための解説	A-3-1/ 必5-ア	①
38	11/21	発生②	顎顔面の発生	A-2-4/ 総II-8-ア	②
39	11/21	局所解剖学12	人体解剖学実習12のための解説	A-3-1/ 必5-ア	①
40	11/28	局所解剖学13	人体解剖学実習13のための解説	A-3-1/ 必5-ア	〃
41	11/28	臨床解剖①	咀嚼嚥下の機能解剖	A-3-2/ 総II-4-キ	④
42	12/5	局所解剖学14	人体解剖学実習14のための解説	A-3-1/ 必5-ア	①
43	12/5	発生③	舌	A-2-4/ 総II-8-ア	③
44	12/12	局所解剖学15	人体解剖学実習15のための解説	A-3-1/ 必5-ア	①
45	12/12	臨床解剖②	頭頸部の臨床解剖	A-3-2/ 総II-4-キ	⑤

解剖学実習（後期・1単位）

D②③B-c1-2502 (D2502)

科目責任者：宇佐美晶信（解剖・教授）

科目担当者：①宇佐美晶信（解剖）、②芹川 雅光（解剖）、
③櫻井 裕子（解剖）、④佐藤 功二（非常勤）

※この科目は、診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

人体を用いた肉眼解剖学の実習を行う。この実習は「死体解剖保存法」に則って行われる。人体の構造についての知識を深めるだけでなく、医の倫理を考え、死者に対する尊厳を学ぶ場でもある。

2. 一般目標

歯科医学を学修していくために必要な解剖学の「知識」を関連付けて理解するだけでなく、実習期間中に各班がプレゼンテーションを行うことにより「研究志向と解決力」を涵養する。

3. 到達目標

- 1) 身体の部位と方向用語を説明する。
- 2) 身体を構成する器官系について説明する。
- 3) 人体の骨、脈管、筋、内臓、神経の形態と構造を説明する。
- 4) 献体への礼意をもって実習に臨む。

4. 履修の進め方

特に頭頸部を中心とした人体解剖実習を行う。各回の内容手順は事前にプリントをポータルサイトの「授業資料」にアップロードしておくとともに、実習前に講義により手順の解説を行う。また、班ごとに指定された課題について期間中に1回のプレゼンテーションを行う。

5. 準備学修

事前に教科書、プリントで解剖手順を確認しておくとともに（15分）、総括的評価のために前回実習内容の復習をしておく（30分）。実習の第1回目に各班の課題を提示するので発表日までに班ごとにプレゼンテーションの準備を行う。

6. 評価方法

毎回講義前に行う前回内容のCBT-Medicalによる小テスト（70%）、各班1回のプレゼンテーション（15%）と出席点（15%：欠席1回につき5%減点）の100点満点の評価で、「可（65点）」以上を合格とする。フィードバックはCBT-Medicalにおいて正答を示す。プレゼンテーション評価基準については発表内容、発表時間、質問対応、準備状況、その他の5項目について評価する。

7. 教本

寺田春水、藤田恒太郎 著「解剖実習の手引き」南山堂
佐藤達夫 訳「あたらしい人体解剖学アトラス」第1版
MEDSi

8. 参考書

上條雍彦著「口腔解剖学1～5」 アナトーム社

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号、国：国家試験出題基準、担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	9/5	人体解剖学実習1	解剖実習オリエンテーション、体表観察 頸部皮神経・皮靜脈	A-3-1, 2/ 必4-ア	① ②
2					
3					
4					
5	9/12	人体解剖学実習2	頸部浅層・中層の筋・脈管・神経浅胸筋、腹部の筋	A-3-1, 2/ 必4-ア	ク
6					
7					
8					

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
9	9/19	人体解剖学実習3	頸部深層の筋・脈管・神経、甲状腺、腋窩、大腿伸筋、大腿三角筋	A-3-1, 2/ 必4-ア	① ②
10					
11					
12					
13	9/26	人体解剖学実習4	耳下腺、顔面神経、鎖骨下動脈、腕神經叢、上肢屈筋	A-3-1, 2/ 必4-ア	ク
14					
15					
16					
17	10/3	人体解剖学実習5	顔面筋、顔面動脈、開胸、肺	A-3-1, 2/ 必4-ア	ク
18					
19					
20					
21	10/10	人体解剖学実習6	耳下腺神經叢、顔面動脈、後縫隔、心臓	A-3-1, 2/ 必4-ア	ク
22					
23					
24					
25	10/17	人体解剖学実習7	顔面神經、舌骨上筋、開腹、腹部動脈	A-3-1, 2/ 必4-ア	ク
26					
27					
28					
29	10/24	人体解剖学実習8	後頭筋浅層、背部の浅層・中層の筋	A-3-1, 2/ 必4-ア	ク
30					
31					
32					
33	12/31	人体解剖学実習9	後頭下三角、頭部切断、脊髓、殿部深層	A-3-1, 2/ 必4-ア	ク
34					
35					
36					
37	11/7	人体解剖学実習10	咽頭、頭部矢状断、腹部内臓	A-3-1, 2/ 必4-ア	ク
38					
39					
40					
41	11/14	人体解剖学実習11	眼窩、舌、鼻腔、後腹壁、横隔膜腰神經叢	A-3-1, 2/ 必4-ア	ク
42					
43					
44					
45	11/21	人体解剖学実習12	咀嚼筋、顎動脈、骨盤内臓	A-3-1, 2/ 必4-ア	ク
46					
47					
48					
49	11/28	人体解剖学実習13	顎関節、側頭下窩、下顎管、中枢神經	A-3-1, 2/ 必4-ア	ク
50					
51					
52					
53	12/5	人体解剖学実習14	口蓋、舌下神經管、三叉神經、喉頭、気管	A-3-1, 2/ 必4-ア	① ② ④
54					
55					
56					
57	12/12	人体解剖学実習15	三叉神經、副鼻腔、後片付け及び納棺	A-3-1, 2/ 必4-ア	① ②
58					
59					
60					

口腔組織学（通年・4単位）

D③B-a4-2505 (D2505)

科目責任者：安部 仁晴（組織・教授）

科目担当者：①安部 仁晴（組織）、②中川 敏浩（組織）、
③荒木 啓吾（組織）、④山本 仁（客員）

※この科目は、診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

組織学は、細胞・組織・器官について、正常構造の微細形態を明らかにする学問である。この組織学の一部として、細胞を総合的に分子レベルでとらえる細胞生物学と、受精に始まり、死に至るまでの継続的過程を明らかにする発生学があり、この二つの分野を包括的に捉えて講義する。口腔組織学の理解なくして口腔諸器官における疾患ならびに全身に至る疾病を把握することは不可能である。口腔組織学において、如何に知識を融合させて修得できるか否かが、歯科医師としての成否を握っているといつても過言ではない。本教科は、他の基礎科目の基盤であり、さらに診断や治療方針のエビデンスとして役立てなければならない学問である。

2. 一般目標

疾病を治療対象とした基礎知識を得るために、細胞、組織、人体諸器官、さらに歯と歯周組織をはじめ口腔諸器官の正常構造と微細構造を機能と結びつけ、それらの発生過程、加齢変化を理解する。

3. 到達目標

- 1) 細胞および上皮、結合、軟骨、骨、筋、神経組織の構造と機能を説明する。
- 2) 消化器、呼吸器、循環器、免疫性器官、内分泌器、泌尿生殖器、感覺器、中枢神経系各器官の構造と機能を説明する。
- 3) 歯と歯周組織および口腔周囲器官の微細構造と機能を説明する。
- 4) 顔面と口腔の発生および加齢変化を説明する。

4. 履修の進め方

講義を主体として、媒体には穴埋めプリント、スライド、コンピューター画像、教科書、参考図書を用いて、細胞や組織像について説明を加える。

5. 準備学修

事前に当日の授業内容に関して、教科書を一読してくる（事前学習：20分）。講義後は、ノートとアトラスや教科書を照らし合わせ、細胞や組織の特徴と機能を把握する（事後学習：20分）。また、疑問点は、オフィスアワーを活用して解決する。

6. 評価方法

組織学では総論（前期中間試験）と各論（前期定期試験）、口腔組織学では発生学、歯の三硬組織と歯髄（後期中間試験）、歯周組織、口腔諸器官、歯の発生および加齢変化（後期定期試験）において、計4回の記述試験（各25%）を行い、65点以上で合格とする。フィードバックは、不合格者に答案を開示して解説を行う。追・再試験は、願い出により各1回ずつを行い、得点は本試験、追・再試験のどちらか高い方とする。ただし、後期定期試験は本学試験規程に従う。

7. 教本

磯川桂太郎、安部仁晴 他著「組織学・口腔組織学」第5版 わかば出版 2024

8. 参考書

藤田尚男 藤田恒夫著「標準組織学」総論 各論 第6版 医学書院2022

Alan Stevens著 内山安男 他訳「人体組織学」原書第2版 南江堂 2004

脇田 稔 他編「口腔組織・発生学」第2版 医歯薬出版 2015

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号、国：国家試験出題基準、担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4/9	組織学総論、細胞学(1)	組織学の研究手法、核の構造と機能	A-1-4/必4-ア	①
2	4/9	細胞学(2)	細胞小器官の構造と機能(1)	A-1-4/必4-ア	ク
3	4/16	細胞学(3)	細胞小器官の構造と機能(2)	A-1-4/必4-ア	ク
4	4/16	細胞学(4)	細胞骨格の構造、細胞膜の構造と機能	A-1-4/必4-ア	ク
5	4/23	細胞学(5)	細胞周期と細胞分裂、接着装置	A-1-4,-5/必4-ア	ク
6	4/23	上皮組織(1)	上皮の形態的分類とその特徴、機能	A-3-1/必4-ア 総II 1-ア	ク
7	5/7	上皮組織(2)	上皮の機能的分類、基底膜	A-3-1/必4-ア 総II 1-ア	ク
8	5/7	腺組織	外分泌腺の構造と分泌様式	A-3-1/必4-ア 総II 6-オ	ク
9	5/14	結合組織(1)	結合組織の分類と存在する線維の種類	A-3-1/必4-ア 総II 1-ア	ク
10	5/14	結合組織(2)	結合組織に存在する細胞の特徴と機能	A-3-1/必4-ア 総II 1-ア	ク
11	5/21	軟骨組織	軟骨組織の分類と特徴および微細構造	A-3-1/必4-ア 総II 1-イ	ク
12	5/21	骨組織(1)	骨組織の組織学的特徴とリモデリング	A-3-1/必4-ア 総II 1-イ	ク
13	5/28	骨組織(2)	骨芽細胞、骨細胞、破骨細胞の特徴と機能	A-3-1/必4-ア 総II 1-イ、8-ウ	ク
14	5/28	骨組織(3)	骨の発生と石灰化機序	A-3-1/必4-ア 総II 8-ウ	ク
15	6/4	血液	血液とリンパの成分	A-3-1/必4-ア	ク
16	6/4	造血器	造血器と血球の形成過程	A-3-1/必4-ア 総II 1-カ	ク
17	6/11	筋組織(1)	骨格筋の構造と収縮機構	A-3-1/必4-ア 総II 1-イ	ク
18	6/11	筋組織(2)	心筋と平滑筋の特徴と微細構造	A-3-1/必4-ア 総II 1-イ	ク

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
19	6/18	神経組織(1)	神経細胞の分類と微細構造 必4-ア 総II1-ク	A-3-1/	①
20	6/18	神経組織(2)	シナプスの形態学的特徴と神経伝達物質 必4-ア 総II1-ク	A-3-1/	〃
21	6/25	神経系	中枢神経と末梢神経の組織学的特徴 必4-ア 総II1-ク	A-3-1/	〃
22	6/25	循環器系	血管系の構造と特徴および差異 必4-ア 総II1-ウ	A-3-1/	〃
23	7/2	消化器系(1)	食道、胃の組織学的特徴と機能 必4-ア 総II1-オ	A-3-1/	〃
24	7/2	消化器系(2)	小腸、大腸の組織学的特徴と機能 必4-ア 総II1-オ	A-3-1/	〃
25	7/9	消化器系(3)	肝臓、脾臓の組織学的特徴と機能 必4-ア 総II1-オ	A-3-1/	〃
26	7/9	呼吸器系	鼻腔、気管、肺の組織学的特徴と機能 必4-ア 総II1-エ	A-3-1/	〃
27	7/16	泌尿器系	腎臓、膀胱の組織学的特徴と機能 必4-ア 総II1-キ	A-3-1/	〃
28	7/16	内分泌系(1)	下垂体、甲状腺の構造と分泌するホルモン 必4-ア 総II1-ケ	A-3-1/	②
29	7/23	内分泌系(2)	副腎、副甲状腺、松果体の構造と分泌するホルモン 必4-ア 総II1-ケ	A-3-1/	〃
30	7/23	免疫系	リンパ節、胸腺、脾臓の特徴と機能 必4-ア 総II3-ア, イ	A-3-1/	〃
31	9/3	感覚器系(1)	嗅覚器の特徴と機能 必4-ア 総II1-ク	A-3-1/	③
32	9/3	感覚器系(2)	視覚器の組織学的特徴と機能 必4-ア 総II1-ク	A-3-1/	〃
33	9/10	感覚器系(3)	聴覚・平衡感覚器の特徴と機能 必4-ア 総II1-ク	A-3-1/	〃
34	9/10	生殖器系(1)	男性生殖器の構造と機能 精子形成過程 必4-ア 総II1-キ	A-3-1/	〃
35	9/17	生殖器系(2)	女性生殖器の構造と機能 卵子形成過程 必4-ア 総II1-キ	A-3-1/	〃
36	9/17	顎・顔面の発生(1)	個体発生、器官発生 必5-ア	A-2-1/	〃
37	9/24	顎・顔面の発生(2)	鰓弓、鰓囊、鰓溝から形成される組織 必5-ア 総II8-ア	A-2-1, -4/	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
38	9/24	顎・顔面の発生(3)	顔面と口蓋の形成 必5-ア 総II8-ア	A-2-4/	③
39	10/1	顎・顔面の発生(4)	舌、唾液腺、甲状腺、下垂体の発生 必5-ア 総II8-ア	A-2-4/	〃
40	10/1	エナメル質(1)	エナメル質の基本構造 必4-ア 総II5-イ	エナメル質の基本構造 必4-ア 総II5-イ	①
41	10/8	エナメル質(2)	エナメル質の成長線と構造物 必4-ア 総II5-イ	エナメル質の成長線と構造物 必4-ア 総II5-イ	〃
42	10/8	象牙質(1)	象牙質の基本構造と石灰化機構 必4-ア 総II5-イ	象牙質の基本構造と石灰化機構 必4-ア 総II5-イ	〃
43	10/15	象牙質(2)	象牙質の成長線と構造物 必4-ア 総II5-イ	象牙質の成長線と構造物 必4-ア 総II5-イ	〃
44	10/15	歯髄(1)	歯髄にみられる細胞と線維 必4-ア 総II5-イ	歯髄にみられる細胞と線維 必4-ア 総II5-イ	〃
45	10/22	歯髄(2)	歯髄表層の構造、歯髄の脈管と神経 必4-ア 総II5-イ	歯髄表層の構造、歯髄の脈管と神経 必4-ア 総II5-イ	〃
46	10/22	セメント質	セメント質の基本構造、分類と形成過程 必4-ア 総II5-イ	セメント質の基本構造、分類と形成過程 必4-ア 総II5-イ	〃
47	10/29	歯根膜(1)	歯根膜の細胞と機能 必4-ア 総II5-イ	歯根膜の細胞と機能 必4-ア 総II5-イ	〃
48	10/29	歯根膜(2)	歯根膜線維の種類と走行 必4-ア 総II5-イ	歯根膜線維の種類と走行 必4-ア 総II5-イ	〃
49	11/5	歯肉	歯肉の分類と上皮の組織学的特徴 必4-ア 総II5-イ	歯肉の分類と上皮の組織学的特徴 必4-ア 総II5-イ	〃
50	11/5	歯槽骨	歯槽骨の区分と形態学的特徴 必4-ア 総II5-イ	歯槽骨の区分と形態学的特徴 必4-ア 総II5-イ	②
51	11/12	皮膚と粘膜、口腔粘膜	皮膚と粘膜の基本構造、口腔粘膜の分類 必5-ア 総II4-オ	皮膚と粘膜の基本構造、口腔粘膜の分類 必5-ア 総II4-オ	〃
52	11/12	顎関節と扁桃	顎関節、扁桃の構造と組織学的特徴 必4-ア 総II4-イ, オ	顎関節、扁桃の構造と組織学的特徴 必4-ア 総II4-イ, オ	〃
53	11/19	舌、口蓋	舌、硬口蓋と軟口蓋の組織学的特徴 必4-ア 総II4-オ	舌、硬口蓋と軟口蓋の組織学的特徴 必4-ア 総II4-オ	〃
54	11/19	唾液腺	大唾液腺、小唾液腺の組織学的特徴 必4-ア 総II4-オ	大唾液腺、小唾液腺の組織学的特徴 必4-ア 総II4-オ	〃
55	11/26	歯の発生(1)	歯胚の構造と分化 必5-ウ 総II8-イ	歯胚の構造と分化 必5-ウ 総II8-イ	④
56	11/26	歯の発生(2)	歯根および歯周組織の発生 必5-ウ 総II8-イ	歯根および歯周組織の発生 必5-ウ 総II8-イ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
57	12/3	歯の発生(3)	エナメル質の形成と石灰化	A-3-1/ 必5-ウ 総II8-イ	①
58	12/3	歯の発生(4)	象牙質の形成と石灰化	A-3-1/ 必5-ウ 総II8-イ	〃
59	12/10	口腔の加齢変化(1)	歯と歯周組織の加齢変化	A-2-4/ 必5-エ 総II7-エ 各V3-イ	〃
60	12/10	口腔の加齢変化(2)	唾液腺、舌、顎関節の加齢変化	A-2-4/ 必5-エ 総II7-エ 各V3-イ	〃

口腔組織学実習（後期・1単位）

D②③B-c1-2506(D2506)

科目責任者：安部 仁晴（組織・教授）

科目担当者：①安部 仁晴（組織）、②中川 敏浩（組織）、
③荒木 啓吾（組織）、④森山 光（組織）、
⑤山本 仁（客員）、⑥釜田 朗（非常勤）

※この科目は、診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

近年の歯科医学は、疾患の原因、病状の把握、更にはエビデンスに基づいた治療方針と病状の転帰を理解することが求められている。人体の正常構造と機能の理解なくしては、病変さらには治療方針を理解し把握することは不可能なことから、その基盤となる組織学、口腔組織学の修得が重要となる。本実習は、上皮、結合、筋、神経などの総論、消化器、呼吸器、循環器、内分泌などの各論、歯、歯周組織、舌、唾液腺、口蓋、扁桃、歯の発生などの口腔組織について実習する。本実習は、講義で学んだ内容を自分自身の目で確認し、理解を深めることが主たる目的である。

2. 一般目標

人体と口腔諸器官における特徴と機能を理解するために、光学顕微鏡を用いて、細胞、組織の正常構造、歯と歯周組織をはじめとする口腔諸器官の正常微細構造、それらの発生過程の知識を修得する。

3. 到達目標

- 1) 上皮、腺、軟骨、骨、筋、血液、血管、神経の各細胞と組織について、各部の名称と機能を説明する。
- 2) 消化器系、呼吸器系、内分泌系、泌尿生殖器系、感覺器系、中枢神経系の器官について、組織の構造と機能を説明する。
- 3) 歯の研磨標本と脱灰標本を観察し、エナメル質、象牙質、セメント質の微細構造を説明する。
- 4) 歯周組織の微細構造と組織学的特徴を説明する。
- 5) 歯の発生の標本からエナメル質、象牙質、セメント質、歯周組織の形成機構を説明する。
- 6) 口腔粘膜、唾液腺、舌、口蓋、扁桃など口腔諸器官の微細構造と機能を説明する。

4. 履修の進め方

毎回画像説明を中心とした実習前講義を受け、各種細胞、組織の形態学的特徴を把握し、スケッチを行う。なお、媒体は光学顕微鏡を使う。さらに教科書、参考図書、スライド、PC画像、講義プリント等を使用する。

5. 準備学修

「組織学・口腔組織学実習の指針」を一読し、当日の実習内容を把握する。実習の指針に沿った内容で、毎回小テストを行うので、内容は必ず把握しておく（事前学習：20分）。実習後は、実習で描いた図と教科書やアトラスの図とを比較し、講義で学んだ内容の理解を深める（事後学習：15分）。

6. 評価方法

一般組織学（10/22）と口腔組織学（12/10）の実習終了時に行う実習試験にて評価する。試験の合計点数（80%）に、リクワイアメント（20%）を加え最終評価とし、65点以上で合格とする。実習試験の追・再試験は、願い出により各1回ずつを行い、得点は本試験、追・再試験のどちらか高い方とする。また、フィードバックは、答案を開示して行う。

7. 教本

磯川桂太郎 他編「カラーアトラス口腔組織発生学」第4版 わかば出版 2016

「組織学・口腔組織学実習の指針」教室作成 2024

8. 参考書

Paul R. Wheater著 柴崎晋 監訳「カラーアトラス組織学」
西村書店 2010

相磯貞和 訳「人体組織図譜」原書第11版 南江堂 2011

9. 授業内容と日程

(コ : コアカリ記号, 国 : 国家試験出題基準, 担 : 担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	9/3	上皮組織・筋組織	単層円柱, 多列線毛, 重層扁平上皮, 平滑筋, 骨格筋, 心筋	A-3-1/必4-ア 総II 1-ア, イ	① ② ③ ④
2					
3					
4					
5	9/10	軟骨組織・骨組織・骨の発生	硝子, 弹性, 線維軟骨 骨の研磨標本と骨化様式	A-3-1/必4-ア 総II 1-イ, 8-ウ	① ② ③ ④ ⑥
6					
7					
8					
9	9/17	消化器系①	食道, 胃, 小腸, 大腸	A-3-1/必4-ア 総II 1-オ	① ② ③ ④
10					
11					
12					
13	9/24	消化器系②・泌尿器系	肝臓, 脾臓, 腎臓	A-3-1/必4-ア 総II 1-オ, キ	〃
14					
15					
16					
17	10/1	呼吸器系・中枢神経系	気管, 肺, 小脳, 脊髄	A-3-1/必4-ア 総II 1-工, ク	〃
18					
19					
20					
21	10/8	血液・免疫系	血液の塗抹標本とリンパ節, 脾臓, 胸腺	A-3-1/必4-ア 総II 3-イ	〃
22					
23					
24					
25	10/15	内分泌系	副腎, 甲状腺 下垂体	A-3-1/必4-ア 総II 1-ケ	〃
26					
27					
28					
29	10/22	一般組織学のまとめ	各組織と各器官系のまとめ	A-3-1/必4-ア 総II 1-ア～ケ 総II 3-イ	〃
30					
31					
32					
33	10/29	歯の研磨標本 脱灰標本	エナメル質, 象牙質, セメント質の微細構造, 齒髄の構造と細胞	A-3-4/必4-ア 総II 5-イ	① ② ③ ④ ⑥
34					
35					
36					
37	11/5	歯周組織	歯根膜, 齒肉 歯槽骨の微細構造	A-3-4/必4-ア 総II 5-イ	① ② ③ ④
38					
39					
40					
41	11/12	口唇, 扁桃	口唇, 舌扁桃 口蓋扁桃の組織学的特徴	A-3-3/必4-ア 総II 4-オ	〃
42					
43					
44					
45	11/19	軟口蓋, 舌	軟口蓋, 舌乳頭(味蕾)の組織学的特徴	A-3-3/必4-ア 総II 4-オ	〃
46					
47					
48					

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
49	11/26	唾液腺	耳下腺, 頸下腺, 舌下腺の組織学的差異	A-3-3/必4-ア 総II 4-オ	① ② ③ ④ ⑤
50					
51					
52					
53	12/3	歯の発生	蕾状期, 帽状期, 鐘状期歯胚とエナメル質, 象牙質の形成	A-3-4/必5-ウ 総II 8-イ	① ② ③ ④ ⑥
54					
55					
56					
57	12/10	口腔組織学のまとめ	歯と歯周組織および口腔諸器官のまとめ	A-3-3, -4/必4ア, 5-ウ 総II 4-オ, 5-イ, 8-イ	① ② ③ ④
58					
59					
60					

口腔生理学 I (通年・3単位)

D③B-a1-2507 (D2507)

科目責任者：川合 宏仁（生理・教授）

科目担当者：①川合 宏仁（生理）、②大須賀謙二（生理）、
③古山 昭（生理）

※この科目は、主に診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

生理学は、細胞から個体の行動にいたる各レベルの種々の生体機能および機構を対象として正常な状態における生命現象の機序について学ぶことを目的とした科目である。ヒトは生命を維持するための生体恒常性が乱され、その修復が困難な時に病気となる。それゆえ、正しい治療や予防措置を施すためには、病気の原因や患者の状態を正確に把握していくなければならない。そのためには生体の正常な基本的機能を学び知つておくことが不可欠であり、それらの知識なくして病理学や薬理学などを正しく理解することはできないと言つてよい。講義には、近年の分子生物学や細胞生物学の著しい進展とともに新たな新しい内容が随時盛り込まれる。講義の各論は相互に密接な関連をもち、独立したものではないことを銘記すべきである。また生体機能は合理的に構成され、多くの場合に論理的に説明できる。

歯科医として、生理学は必要不可欠な科目である。生理学を知ることなく麻醉学や補綴学、あるいは口腔外科学を学ぶことはできない。この授業では、臨床医として最低限の正常な体の仕組みを理解し、把握することを目標とする。したがって、学習に際しては、基礎的事項を必ず記憶してから「理解」をすることが大切である。

本科目では、顎・口腔・顔面領域の器官およびそれらと密接な関係をもつ器官の機能に関する基本的事項については重点的に充分な理解をすることが肝要である。

本科目の行動目標としては、種々の生命現象を営む生体の機構、特に顎・口腔・顔面領域の機構について適切な生理学用語を用いて説明でき、また、各器官の協調活動によって個体の健康が維持されていること、および歯科診療において対象となる疾患の病態生理学の基礎を理解できるようにすることである。

2. 一般目標

臨床歯科学を学習する基盤を構築するために、生体機能、生命現象の機序を理解する。

3. 到達目標

- 1) 生命現象を営む生体の機構を説明できる。
- 2) 各器官の協調活動を説明できる。
- 3) 歯科疾患の病態生理を説明できる。

4. 履修の進め方

講義を主体として、適宜、プリントやスライドを用いた視覚的素材を活用し、人体の構造、詳細な構築およびそれらの機能に関して説明を加えながら進めていく。

5. 準備学修

生物学や解剖学が生理学の基礎となるため、これらの科目と連動させて学習すること。予習は、シラバスで内容を確認して、教科書・参考書で学習する（10分）。復習は、講義内容について講義ノート（プリント）・教科書・参考書で学習する（40分）。履修後は、すべての科目につながるため、繰り返し学習することが重要である。

6. 評価方法

前期の定期試験、および後期の中間試験と定期試験の各試験において、65点以上を合格とする。65点未満の場合には再試験を行う。65点未満の再試験受験該当者は、再試験の点数が65点以上でも65点の採点結果とする。追試験該当者に対し

ては、100点満点として試験を行い、65点以上を合格とする。

前期の定期試験、および後期の中間試験と定期試験の合計3回の平均点が、65点以上獲得した者を進級とする。なお、試験問題の内容に関しては、多肢選択問題と記述式問題の出題を行う。

後期の中間試験の施行日に関しては、講義の進行具合を見て、変更することがあるので注意すること。

7. 教本

和泉博之・浅沼直和 編「ビジュアル生理学・口腔生理学」第3版 学建書院 2021

岩田幸一・井上富雄ほか 編 第7版「基礎歯科生理学」医歯薬出版 2020

8. 参考書

なし。

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号、国：国家試験出題基準、担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4/10	口腔生理学総論	口腔生理機能の意義および特徴	A-3-1/ 総II-1-ク, 総II-1-ク	③
2	4/17	興奮性組織（I）	興奮性細胞の基本動作	A-1-4/ 総II-1-ク	ク
3	4/24	興奮性組織（II）	刺激と興奮のしくみ	A-3-1/ 必-4-ア	ク
4	5/8	興奮性組織（III）	興奮伝導のメカニズム	A-3-1/ 総II-1-ク	ク
5	5/15	シナプス伝達	シナプスの種類と構造、伝達の特徴、神経伝達物質	A-3-1/ 総II-1-ク	ク
6	5/22	骨格筋収縮	骨格筋の構造と興奮収縮連関	A-3-1/ 総II-1-イ	ク
7	5/29	感覚（I）	感覚受容器と感覚の種類、感覚神経	A-3-1/ 必-4-ア 総II-1-ク	②
8	6/5	感覚（II）	体性感覚（触・圧・温度・痛覚）	A-3-1/ 必-4-ア 総II-1-ク	ク
9	6/12	感覚（III）	特殊感覚（視覚、聴覚、平衡感覚・嗅覚）	A-3-1/ 必-4-ア 総II-1-ク	ク
10	6/19	咀嚼（I）	咀嚼の生理的意義、咀嚼運動	A-3-2/ 必-4-ア 総II-6-ウ	ク
11	6/26	咀嚼（II）	咀嚼運動の神経・筋機構	A-3-2/ 必-4-ア 総II-6-ウ	ク
12	7/3	顎・口腔・顔面の体性感覚（I）	歯髄感覚と歯痛、歯根膜感覚	A-3-3/ 総II-6-ア	③
13	7/10	顎・口腔・顔面の体性感覚（II）	顎顔面領域・口腔領域の体性感覚と顎反射	A-3-2, A-3-3/ 総II-6-ア, 総II-6-イ	ク
14	7/17	自律機能（I）	自律神経系の構造、性質	A-3-1/ 必-4-e, 総II-1-ク	②
15	7/24	自律機能（II）	自律神経の中枢性調節	A-3-1/ 必-4-e, 総II-1-ク	ク

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
16	9/4	神経束の興奮伝導	末梢神経伝導検査・局所麻酔	A-2-3, D-1-2/ 総II-1-ア, 総II-6-ク	(3)
17	9/4	血液(I)	血液の役割	A-3-1/ 必-4-ア, 総II-1-カ	(1)
18	9/11	血液(II)	細胞成分の種類と役割	A-3-1/ 必-4-ア, 総II-1-カ	〃
19	9/11	血液(III)	血漿成分と機能	A-3-1/ 必-4-ア, 総II-1-カ	〃
20	9/18	循環(I)	体循環と肺循環、血管の特性	A-3-1/ 必-4-ア, 総II-1-ウ	〃
21	9/18	循環(II)	心臓の構造と心筋の特性	A-3-1/ 必-4-ア, 総II-1-ウ	〃
22	9/25	循環(III)	刺激興奮伝達系	A-3-1/ 必-4-ア, 総II-1-ウ	〃
23	9/25	循環(IV)	血圧と心拍の調節	A-3-1/ 必-4-ア, 総II-1-ウ	〃
24	10/2	呼吸(I)	呼吸器の形態と呼吸運動	A-3-1/ 必-4-ア, 総II-1-エ	〃
25	10/2	呼吸(II)	ガスの交換・運搬、酸塩基平衡	A-3-1/ 必-4-ア, 総II-1-エ	〃
26	10/9	呼吸(III)	呼吸器の形態と呼吸運動	A-3-1/ 必-4-ア, 総II-1-エ	〃
27	10/9	呼吸(IV)	スパイロメーターと肺気量	A-3-1/ 必-4-ア, 総II-1-エ	〃
28	10/16	味覚(I)	味覚受容機構と中枢機序	A-3-1/ 総II-6-ア, 総II-7-ウ	(3)
29	10/16	味覚(II)	味覚障害と歯科臨床における味覚	A-3-1, D-3-1/ 総II-6-ア, 総II-7-ウ, 総IV-1-イ	〃
30	10/23	心筋・平滑筋の収縮	心筋・平滑筋の構造、効果器としての役割	A-3-1/ 総II-1-イ,ウ	〃
31	10/23	内分泌(I)	ホルモンの種類と受容・作用機序	A-3-1/ 必-4-ア, 総II-1-ケ	(2)
32	10/30	内分泌(II)	ホルモンの働きと機能、生体恒常性の液性調節	A-3-1/ 必-4-ア, 総II-1-ケ	〃
33	10/30	内分泌(III)	神経-液性調節の仕組み	A-3-1/ 必-4-ア, 総II-1-ケ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
34	11/6	咬合・下顎位	生理的咬合・下顎位の種類	A-3-2, D-5-5/ 総II-6-イ	(3)
35	11/6	顎運動(I)	咀嚼筋と顎関節の役割	A-3-1	〃
36	11/13	内分泌(IV)	内分泌のまとめ	A-3-1/ 必-4-ア, 総II-1-ケ	(2)
37	11/13	消化と吸収(I)	胃腸の構造と運動および神経支配	A-3-1/ 必-4-ア, 総II-1-オ	〃
38	11/20	顎運動(II)	顎運動の神経機構、顎反射I 顎運動の筋機構、顎反射II	A-3-1, D-5-5/ 総II-6-イ	(3)
39	11/20	口唇・頬・顔面・舌運動	口唇・頬・顔面筋運動の神経・筋機構 舌反射、舌運動の神経・筋機構	A-3-2, A-3-2, A-3-3/ 総II-6-イ	〃
40	11/27	消化と吸収(II)	消化液と栄養分の吸収	A-3-1/ 必-4-ア, 総II-1-オ	(2)
41	11/27	唾液(I)	唾液腺、唾液の種類と性状	A-3-3/ 必-4-ア, 総II-1-ク	〃
42	12/4	唾液(II)	唾液腺の分泌機構と機能、唾液の生成機序	A-3-3/ 必-4-ア, 総II-1-ク	〃
43	12/4	唾液(III)	唾液腺の代謝と血流、唾液と口腔疾患	A-3-3/ 必-4-ア, 総II-1-ク	〃
44	12/11	受容体	自律神経のシナプスと受容体	A-1-5, A-3-1/ 必-4-ア	(3)
45	12/11	まとめ	興奮性組織のまとめ	A-3-1, A-3-1/ 総II-1-ア～コ, 総II-4-ア～キ	〃

口腔生理学実習（後期・1単位）

D②③B-c1-2509 (D2509)

科目責任者：川合 宏仁（生理・教授）

科目担当者：①川合 宏仁（生理）、②大須賀謙二（生理）、
③古山 昭（生理）、④山崎 信也（麻酔）、
⑤富田 修（麻酔）、⑥木村 楽（麻酔）、
⑦今井 彩乃（麻酔）、⑧佐藤 光（麻酔）、
⑨鈴木香奈美（麻酔）、⑩高橋 晃司（麻酔）、
⑪若松慶一郎（麻酔）、⑫中瀬 由希（麻酔）、
⑬富田 祐介（非常勤）

※この科目は、主に診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

生理学実習の意義は、学生が講義で学んだことを目でみて理解することにある。講義で習得した知識を自ら実習で実証し、体系化した知識にして一層の理解を深めることである。

実習では、動物あるいはヒトを対象に、いろいろな道具を用いて生物現象、運動および感覚機序などのどのようなものであるかを体験し、教科書や講義の内容を十分に理解することが重要である。

実習を通じて、創意工夫を養い、注意深い観察、記録、考察ができるように努力することが必要である。

2. 一般目標

生体機能と生命機能の理解を深めるために、全身および口腔の機能について実体験する。

3. 到達目標

- 心電図を測定できる。
- 呼吸機能を測定できる。
- 神経の興奮伝導速度を測定できる。
- 筋の収縮機能を説明できる。
- 血圧を測定できる。
- 味覚閾値を測定できる。
- 感覚点を測定できる。
- 2点弁別閾を測定できる。
- 咀嚼能率を測定できる。
- 出血時間を測定できる。
- 血液型を判定できる。

4. 履修の進め方

本実習では、一般生理学と口腔生理学に関する実習を12コマ行う。学生は、大きく4グループに分かれ各グループ毎に実習する。内容は、臨床に結びつく内容のため、実習と講義を織り交ぜながら学習する。実習後は、レポート作成を行い、復習を兼ねて、学生自ら知識の総まとめを行う。

5. 準備学修

オリエンテーション時に配布する実習予定表を確認して実習内容の予習を行う（10分）。実習後に課せられた課題について復習し、分からぬ点は解決するように努力する（60分）。

6. 評価方法

各グループで行う到達目標1)～11)をクリアした場合、40点満点として評価する。

各グループで課せられたレポートを30点満点として評価する。

各グループから出題された実習試験の結果を30点満点として評価する。

各グループ毎に、採点された結果を平均して、65点以上を合格とする。

レポートのフィードバックは添削して個人へ返却する。

7. 教本

「歯科生理学実習書」奥羽大学歯学部口腔生理学教室編
令和4年度版

8. 参考書

「ビジュアル 生理学・口腔生理学 第3版」学建書院
「基礎 歯科生理学 第7版」医歯薬出版

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号、国：国家試験出題基準、担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	9/4	オリエンテーション	生理学実習を行う際の心構え、留意事項 レポート提出方法を伝達し、動物実験の3Rについて説明する。	C-1-1, C-2-1, C-2-3, C-2-4, C-2-6, C-2-7/必1-ア, 総I-6-ア	①
2					（）
3					⑧
4	9/11	口腔内体性感覚	刺激毛、針、熱伝導子を用いて口腔内体性感覚の種類と分布を調べる。また、歯牙の触域値と位置感覚についても検査する。	A-3-1, A-3-3/必4-ア, 総II-1-ク, 総II-6-ア, 総VI-5-ア	ク
5	（）				
6	10/16				
7	9/11	咀嚼機能	筛分法により咀嚼能率を求め、咀嚼能率に影響する因子を考える。	A-3-2, A-3-2/必4-ア, 総II-6-ウ, 総VI-1-イ	ク
8	（）				
9	10/16				
10	9/11	血圧測定	触診法、聴診法による血圧測定を学ぶ。	A-3-1, D-2-3, E-2-3/必4-ア, 必8-エ, 総II-1-ウ, 総V-1-カ	ク
11	（）				
12	10/16				
13	9/11	出血時間測定と血液型判定	出血時間の測定方法と血液型判定法を行い、そのしくみと判定する機序について学ぶ。	A-3-1/必4-ア, 総II-1-カ, 総VI-3-ア	ク
14	（）				
15	10/16				
16	9/11	神経束の興奮伝導	カエルの坐骨神経標本による活動電位を記録後、興奮伝導速度を測定し、不応期および麻酔効果について学ぶ。	A-3-1, D-1-2/必4-ア, 総II-1-ク	ク
17	（）				
18	10/16				
19					
20					
21					
22	10/23	実習試験1回目	実習内容に対する筆記試験		ク
23					
24					

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
25	10/30	換気機能	スパイロメータを用いて、時間肺活量を測定後、努力性肺活量や1秒率を評価し換気機能障害について考察する。	A-3-1/必-4-ア、総II-1-エ、総VI-4-ア	① ⑤ ⑧
26	↓				
27	12/4				
28	10/30	骨格筋の収縮	ヒトとカエルの骨格筋の収縮を観察し、筋収縮機構について考察する。	A-3-1、A-3-2/総II-1-イ、総II-4-ウ、総II-6-イ	〃
29	↓				
30	12/4				
31	10/30	味覚	味覚感受性について、全口腔法、ろ紙法あるいは電気味覚法により閾値を調べ、個人差を検討する。	A-3-1/総II-6-ア、総II-7-ウ、総VI-1-イ	〃
32	↓				
33	12/4				
34	10/30	心電図	心電図を採得し、臨床生理学的意味を考察する。	A-3-1/必-4-ア、総II-1-ウ、総VI-4-ア	〃
35	↓				
36	12/4				
37					
38					
39					
40					
41					
42					
43	12/11	実習試験2回目	実習内容に対する筆記試験		〃
44					
45					

口腔生化学 I (後期・1単位)

D③B-al-2510(D2510)

科目責任者：加藤 靖正 (生化・教授)

科目担当者：①加藤 靖正 (生化)、②前田 豊信 (生化)、
③神林 直大 (生化)

1. 科目の概要

生化学は代謝という化学的な側面から生体の成り立ちを理解する学問である。暗号化され細胞の核に保存されている遺伝情報は基本的にタンパク質の一次構造でしかないが、生体には脂質や糖質などたくさんの物質から成り立っている。遺伝情報を司る核酸そのものさえ、糖やアミノ酸、リン酸などから合成されているのである。口腔生化学 I では、一般生化学として代謝を中心に学習し、医師やパラメディカルスタッフなどの医療従事者との間で共通の認識を養うことを目的とする。また、3年次で行われる口腔生化学 II を理解するに必要な知識の整理を行う。

2. 一般目標

生体を構成する成分や機能について、個々に理解を深めるとともに、異なる成分同士のつながりやホルモンなどにより巧妙に調節された機能などの分子メカニズムなどを理解する。また、代謝の破たんが原因となる疾患については、その成り立ちを生化学的側面から学ぶ。

3. 到達目標

- 1) 生体を構成している主な物質の分子構造と機能について説明できる。
- 2) 遺伝情報の保存と発現について説明できる。
- 3) 代謝における酵素の働きを説明できる。
- 4) 糖代謝と脂肪酸代謝によるエネルギー産生機序が説明できる。
- 5) 糖新性、脂質合成の機序を説明できる。
- 6) 代謝の破たんと疾病の成り立ちについて例を挙げて説明できる。

4. 履修の進め方

予習：教科書（該当箇所のページ）を読み、講義内容の概略を把握するとともに疑問点を見出してください。

講義：予習内容の確認と知識の整理を行う。また、予習中に見出された疑問点を解決する。

復習：学修内容を整理するとともに、事前に生じた疑問点について解決したかを確認する。

その他：新たに生じた疑問点などについては、教科書の利用や教員への質問等により早期に克服する。

5. 準備学修

講義の項に該当する内容についてスタンダード生化学・口腔生化学 第4版（学研書院）を読み、予め疑問点を見出してください（15分）。復習（20分）。

6. 評価方法

定期試験（多肢選択形式、100点満点）で65点以上を合格とする。追・再試験は、65点以上を合格とする。再試験の評価は、65点以上を65点とし、追試験の評価は、90点以上を90点とする。本試験、追・再試験以外の試験は評価しない。

7. 教本

スタンダード生化学・口腔生化学 第4版（学研書院）

8. 参考書

口腔生化学 第6版（医歯薬出版）

9. 授業内容と日程

(コ:コアカリ記号, 国:国家試験出題基準, 担:担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	9/4	核酸 I	核酸の種類と構造, 半保存的複製	A-1-3/ 必4-ア	② ③
2	9/11	核酸 II	PCR の原理, 遺伝子発現, タンパク質合成	A-1-3/ 必4-ア	〃
3	9/18	核酸 III	スクレオチド代謝, 痛風, Lesch-Nyhan 症候群	A-1-3/ 必4-ア	〃
4	9/25	糖質 I	糖の分類, グリコシド結合とグリコシダーゼ	A-1-2/ 必4-ア	①
5	10/2	糖質 II	解糖系 (嫌気的, 好気的), シャトル経路	A-1-2/ 必4-ア	〃
6	10/9	糖質 III	TCA サイクル, 酸化的リシン酸化, 電子伝達系	A-1-2/ 必4-ア	〃
7	10/16	糖質 IV	基質準位のリシン酸化, エネルギー収支	A-1-2/ 必4-ア	〃
8	10/23	糖質 V	ペントースリシン酸経路, 糖新性, von Gierke 病	A-1-2/ 必4-ア	〃
9	10/30	糖質 VI	血糖調節	A-1-2, A-3-1/ 必4-ア	〃
10	11/6	脂質 I	脂質の分類, 細胞膜とリン脂質, 糖脂質とABO式血液型物質	A-1-2/ 必4-ア	〃
11	11/13	脂質 II	流動モザイクモデル, 脂質の分解酵素	A-1-2/ 必4-ア	〃
12	11/20	脂質 III	脂質の消化吸収, 脂質の輸送・リボ蛋白質, 粘液状動脈硬化	A-1-2/ 必4-ア	〃
13	11/27	脂質 IV	飢餓と糖尿病とアシドーシス脂肪酸代謝 (β 酸化), 脂質の合成 (脂肪酸)	A-1-2/ 必4-ア・7-ウ	〃
14	12/4	脂質 V	脂質の合成 (中性脂肪, グリセロリン脂質, コレスチロール)	A-1-2/ 必4-ア	〃
15	12/11	脂質 VI	アラキドン酸代謝, エイコサノイド, 炎症, 血栓	A-1-2/ 必4-ア	〃

口腔感染免疫学 I (通年・2単位)

D③④B-a2-2601 (D2601)

科目責任者: 玉井利代子 (感染・教授)

科目担当者: ①玉井利代子 (感染), ②清浦 有祐 (感染)

※この科目は、診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

口腔感染症及び全身感染症の原因となる微生物について講義を行う。さらに微生物の感染に対してヒトは免疫応答と呼ばれる宿主反応を起こすことで病原微生物を排除する。この免疫応答を担う白血球の様々な働きや抗体の作用について分子レベルまで掘り下げて詳しく説明する。

2. 一般目標

口腔感染症及び全身感染症の原因となる微生物とその微生物に対する免疫応答に関する知識を身につける。具体的には以下のことである。

- 1) 微生物の種類とその特性を理解する。
- 2) 病原微生物の病原性を理解する。
- 3) 減菌, 消毒及び化学療法について理解する。
- 4) 鹹蝕と歯周病の原因菌を理解する。
- 5) 微生物感染に対するヒトの免疫応答を理解する。

3. 到達目標

- 1) 微生物の種類とその特性を説明する。
- 2) 病原微生物の病原性を説明する。
- 3) 減菌, 消毒及び化学療法について説明する。
- 4) 微生物感染に対するヒトの免疫応答を説明する。

4. 履修の進め方

講義形式で教科書・配布プリントを使用して履修する。講義中に学習者に質問し、それに対する応答を求めて授業の理解度を確認する。

5. 準備学修

毎回の講義終了時に次回の講義予定を説明するので、当該部分の配布プリント・教科書を読んでおくこと (15分)。

6. 評価方法

定期試験 (100点満点) で評価する。65点以上を合格とする。試験問題は記述式と多肢選択方式が含まれる。定期試験後に学生全員に模範解答を配布し、学生から意見があれば対応する。追試験は100点満点で採点し、その点数を評価とする。再試験は100点満点で採点し、65点以上は「65点」とする。

7. 教本

口腔微生物学 - 感染と免疫 - 第7版 学建書院 2021年

8. 参考書

標準微生物学 第14版 医学書院 2021年

9. 授業内容と日程

(コ:コアカリ記号, 国:国家試験出題基準, 担:担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4/12	微生物概論	微生物の種類とその特徴	A-4-1-1/ 必4-イ-a	②
2	4/19	細菌の形態	細菌の形態と構造	A-4-1-1/ 必4-イ-a	①
3	4/26	細菌の毒素	細菌の毒素	A-4-1-2/ 総III-1-キ-a	〃
4	5/10	特殊な細菌	芽胞・リケッチア・クラミジア	A-4-1-1/ 必4-イ-a	〃
5	5/17	細菌の遺伝学	細菌の遺伝子伝達と増殖メカニズム	A-4-1-1, 2/ 必4-イ-a	〃
6	5/24	ウイルスの種類と特徴	ウイルスの特徴と種類	A-4-1-1/ 必4-イ-a	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
7	5/31	感染症	新興感染症・再興感染症・輸入感染症・院内感染	A-4-1-3,4,9/総Ⅲ-1-キ-b	①
8	6/7	細菌の病原因子	細菌の病原因子の特徴とその発現メカニズム	A-4-1-2/総Ⅲ-1-キ-a	〃
9	6/14	細菌感染症Ⅰ	AMR のメカニズムと感染症	A-4-1-7,9/総Ⅲ-1-キ-a	〃
10	6/21	細菌感染症Ⅱ	結核とその他の抗酸菌感染症	A-4-1-2,3/各Ⅲ-4-ウ-c	〃
11	6/28	細菌感染症Ⅲ	レンサ球菌感染症	A-4-1-2,3/各V-2-エ-k	〃
12	7/5	細菌感染症Ⅳ	大腸菌・赤痢菌・マイコプラズマ感染症	A-4-1-2,3/各V-2-エ-k	〃
13	7/12	細菌感染症Ⅴ	その他の細菌感染症	A-4-1-2,3/各Ⅲ-4-ウ-a,b,各V-2-エ-k	〃
14	7/19	真菌感染症	カンジダ症などの真菌感染症	A-4-1-2,3/各V-2-エ-k	〃
15	7/26	滅菌	滅菌法の種類とその特徴	A-4-1-8/必-11-エ-a	〃
16	9/2	消毒	消毒法の種類とその特徴	A-4-1-8/必-11-エ-a	〃
17	9/9	ヘルペスウイルス	ヘルペスウイルスとその病原性	A-4-1-2,3/各V-2-エ-k	〃
18	9/30 4限	B型肝炎ウイルス	B型肝炎ウイルスとその病原性	A-4-1-2,3/各V-2-エ-k	〃
19	9/30 5限	C型肝炎ウイルス	C型肝炎ウイルスとその病原性	A-4-1-2,3/各V-2-エ-k	〃
20	10/7	ヒト免疫不全ウイルス	ヒト免疫不全ウイルスとその病原性	A-4-1-2,3/各V-2-エ-k	〃
21	10/21	ヒトT細胞白血病ウイルス	ヒトT細胞白血病ウイルスとその病原性	A-4-1-2,3/各V-2-エ-k	〃
22	10/28 4限	動物介在ウイルス	節足動物などの動物を介するウイルスとその病原性	A-4-1-2,3/各V-2-エ-k	〃
23	10/28 5限	寄生虫感染症	原虫を含む寄生虫とその病原性	A-4-1-2,3/各V-2-エ-k	〃
24	11/11	病原微生物と感染症法	1～5類感染症の原因微生物とその病原性	A-4-1-2,3/総Ⅲ-1-キ-b	〃
25	11/18	微生物に対する化学療法	化学療法薬の種類と作用メカニズム	A-4-1-6,9/必-2-キ-c	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
26	11/25 4限	自然免疫	自然免疫の役割とその特徴	A-4-2-1/総Ⅱ-3-エ-a,b	②
27	11/25 5限	獲得免疫	獲得免疫の役割とその特徴	A-4-2-2,3/総Ⅱ-3-オ-a,b	〃
28	12/2	抗原	抗原の種類とその特徴	A-4-2-3/総Ⅱ-3-ウ	〃
29	12/9 4限	抗体Ⅰ	IgG と IgA について	A-4-2-2,3,4/総Ⅱ-3-オ-a	〃
30	12/9 5限	抗体Ⅱ	IgE と IgM 及び IgD について	A-4-2-2,3/総Ⅱ-3-オ-a	〃

歯科薬理学 I (後期・1単位)

D③④B-a1-2602 (D2602)

科目責任者：鈴木 礼子（薬理・准教授）

科目担当者：①鈴木 礼子（薬理）、②柴田 達也（薬理）

※この科目は、診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

歯科薬理学の履修意義は、歯科臨床において適切な処方ができ、また、患者が他科で処方された薬についても十分に理解できるようになることである。本科目では、薬物の作用機序に主体をおく基礎薬理学について、講義主体で学修する。

2. 一般目標

歯科医療現場において、個々の患者の背景を理解し思いやりを持った言動ができるようになるため、更に、安全かつ適確に薬物を使用できるようになるため、薬理学の基礎的な知識を修得する。

3. 到達目標

- 1) 薬物療法の種類や薬理作用の基本形式と分類及び作用機序を説明できる。
- 2) 薬理作用を規定する要因（用量と反応、感受性）を説明できる。
- 3) 薬物動態（吸収、分布、代謝、排泄）を説明できる。
- 4) 薬物の投与方法の種類と特徴を説明できる。
- 5) 薬物の併用による影響（協力作用、拮抗作用）を説明できる。
- 6) 薬物の連用による影響（耐性、蓄積、及び、薬物依存）を説明できる。
- 7) ライフステージに応じた、医薬品を適用する際の注意点を説明できる。
- 8) 日本薬局方を説明できる。
- 9) 医薬品の分類、毒薬・劇薬、及び、麻薬等の表示と保管を説明できる。
- 10) 医薬品の開発プロセスと臨床試験における医薬品の評価を説明できる。

4. 履修の進め方

講義主体で、スライドと配布プリントを使用して履修する。

5. 準備学修

事前に各回の授業内容を確認し、教科書の該当部分を読むこと。その際、授業内容に関連する基礎知識（既に他科目で学修した事項）で不確実な事項があれば、確認しておくこと（1時間）。授業後は、配布プリントの復習課題に取り組み、毎回の授業内容を確実にすること（1時間）。

6. 評価方法

多肢選択問題（MCQ）形式の定期試験（100%）で評価し、100点満点中65点以上で合格とする。追・再試験は100点満点で採点し、65点以上を合格とする。再試験は上限65点、追試験は上限80点で採点する。試験のフィードバックは、正答の掲示等により適宜行う。

7. 教本

鈴木邦明 監修 「現代歯科薬理学」第7版 医薬品出版 2024

8. 参考書

鈴木邦明ほか 監修 「疾病の成り立ち及び回復過程の促進3 薬理学」 医薬品出版 2023

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号、国：国家試験出題基準、担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	9/6	薬理学総論 1：薬物の作用1	薬理作用の基本形式・分類、薬物療法の種類	A-6-2-1/必11-コ、総VII-8-ア	①
2	9/13	薬理学総論 2：薬物の作用2	用量-反応関係	A-6-2-3,4/必11-コ、総VII-8-イ	ヶ
3	9/20	薬理学総論 3：薬物の作用3	受容体を介する/介さない薬物の作用	A-6-2-2/必11-コ、総VII-8-ア	ヶ
4	9/27	薬理学総論 4：薬物の作用4	受容体を介する/介さない薬物の作用	A-6-2-2/必11-コ、総VII-8-ア	ヶ
5	10/4	薬理学総論 5：薬物の作用5	受容体を介する/介さない薬物の作用	A-6-2-2/必11-コ、総VII-8-ア	ヶ
6	10/11	薬理学総論 6：薬物動態1	薬物動態（吸収・分布・代謝・排泄）	A-6-3-2/必11-コ、総VII-8-ア	ヶ
7	10/18	薬理学総論 7：薬物動態2	薬物動態（吸収・分布・代謝・排泄）	A-6-3-2/必11-コ、総VII-8-ア	ヶ
8	10/25	薬理学総論 8：薬物の投与方法1	薬物の投与方法の種類と特徴	A-6-3-1/必11-コ、総VII-8-イ	ヶ
9	11/1	薬理学総論 9：薬物の投与方法2	薬物の投与方法の種類と特徴	A-6-3-1/必11-コ、総VII-8-イ	ヶ
10	11/8	薬理学総論 10：薬物の作用に影響を与える因子	薬物の効果に影響する因子、薬物の併用と連用	A-6-2-5, A-6-4-3/必2-イ	ヶ
11	11/15	薬理学総論 11：薬理学総論のまとめ1	問題演習と解説	A-6-2,3, A-6-4-3/必11-コ、総VII-8-ア,イ	① ②
12	11/22	薬理学総論 12：薬物と医薬品	日本薬局方、医薬品の分類、毒薬・劇薬及び麻薬等の表示と保管	A-6-1-1, C-4-2-4/必2-イ	①
13	11/29	薬理学総論 13：医薬品を適用する際の注意1	服薬指導、ライフステージと薬物	A-6-3-3/総VII-8-イ	ヶ
14	12/6	薬理学総論 14：医薬品を適用する際の注意2、医薬品の開発・薬害	ライフステージと薬物、医薬品の開発・薬害	A-6-1-2, A-6-3-3/必2-ケ、総VII-8-イ	ヶ
15	12/13	薬理学総論 15：薬理学総論のまとめ2	問題演習と解説	A-6-1~3/必11-コ、総VII-8-ア,イ	① ②

生体材料・歯科材料学 I

(後期・2単位)

D③④B-a2-2603(D2603)

科目責任者：石田 喜紀（材料・准教授）

科目担当者：①石田 喜紀（材料）、②齋藤 龍一（材料）、
③大木 達也（材料）

※この科目は、診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

歯科材料には金属材料、無機材料、有機材料、およびこれらを複合した材料があり、印象用、模型用、義歯床用など多様な形で応用されている。生体材料・歯科材料学は、これらの材料の成り立ちの基礎的な理論や特性および実際の取り扱い技術を学習する科目である。総論で物理学、化学、および生物学などの基礎的学力をもとに種々の歯科材料の特徴を学ぶ。各論では臨床で使用される材料であることを踏まえて、材料毎に所要性質、構成成分、その役割、物理化学的および機械的性質などを理解するとともに、それらの取り扱い法について学ぶ。

2. 一般目標

歯科医師となるうえで、治療に必要な機材、材料の知識を当該科目にて学修する。

3. 到達目標

- 1) 歯科修復物を構成する各種の生体材料を説明できる。
- 2) 成形加工に用いる歯科材料と器具の特性および使用法について説明できる。
- 3) さまざまな症例に適応した歯科材料や器具が選定できる。

4. 履修の進め方

要点はプロジェクターを活用し、視覚素材を多用することで極力図案として記憶出来るようにする。また、学生は板書の内容、教科書およびレジュメにて理解を深める。各項目終了後に練習問題を配布し、各学生が自学自習後に知識の確認をさせる。

5. 準備学修

各回の授業内容項目について、教科書の該当部分を読むこと（15分）。

授業内容について教科書にある図表を確認する（15分）。

6. 評価方法

定期試験（上限100点）、追・再試験（上限100点）、再試験（上限65点）で評価する。65点以上を合格とする。必要に応じて特別試験を行うことがある。試験問題は多肢選択式とする。

7. 教本

中島 裕他 「スタンダード歯科理工学第8版」 学建書院 2023年

8. 参考書

なし。

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号、国：国家試験出題基準、担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	9/6	歯科材料学総論(1)	歯科材料、生体材料の物理的化学的性質について	B-1-1, 2, 3/ 総VIII-1-ア, イ	①
2	9/6	歯科材料学総論(2)	歯科材料、生体材料の物理的化学的性質について	B-1-1, 2, 3/ 総VIII-1-ア, イ	ヶ

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
3	9/13	歯科材料学総論(3)	歯科材料、生体材料の物理的化学的性質について	B-1-1, 2, 3/ 総VIII-1-ア, イ	①
4	9/13	歯科材料学総論(4)	歯科材料、生体材料の物理的化学的性質について	B-1-1, 2, 3/ 総VIII-1-ア, イ	ヶ
5	9/20	歯科材料学総論(5)	歯科材料、生体材料の物理的化学的性質について	B-1-1, 2, 3/ 総VIII-1-ア, イ	ヶ
6	9/20	歯質の切削 - 1	歯質切削の理論と使用する機械・器材	B-3-2/ 総VIII-2-ア, イ	ヶ
7	9/27	歯質の切削 - 2	歯質切削の理論と使用する機械・器材	B-3-2/ 総VIII-2-ア, イ	ヶ
8	9/27	成形修復材 - 1	成形修復材の分類と所要性質	B-2-1/ 総VIII-5-ア	②
9	10/4	成形修復材 - 2	コンポジットレジンの成分特性および操作法(1)	B-2-1/ 総VIII-5-ア	ヶ
10	10/4	成形修復材 - 3	コンポジットレジンの成分特性および操作法(2)	B-2-1/ 総VIII-5-ア	ヶ
11	10/11	成形修復材 - 4	歯質接着理論	B-2-1/ 総VIII-5-ア	ヶ
12	10/11	成形修復材 - 5	酸処理剤	B-2-1/ 総VIII-5-ア	ヶ
13	10/18	成形修復材 - 6	接着性モノマー	B-2-1/ 総VIII-5-ア	ヶ
14	10/18	成形修復材 - 7	歯質に対する接着操作	B-2-1/ 総VIII-5-ア	ヶ
15	10/25	成形修復材 - 8	グラスアイオノマーセメント	B-2-1/ 総VIII-5-ア	ヶ
16	10/25	予防填塞材料	予防材料の成分と特性	B-2-1/ 総VIII-5-イ	ヶ
17	11/1	歯科用印象材 - 1	印象探得概説 印象材の分類および所要性質	B-3-1/ 総VIII-3	③
18	11/1	歯科用印象材 - 2	弾性印象材の種類、成分および性質(1)	B-3-1/ 総VIII-3	ヶ
19	11/8	歯科用印象材 - 3	弾性印象材の種類、成分および性質(2)	B-3-1/ 総VIII-3	ヶ
20	11/8	歯科用印象材 - 4	弾性印象材の種類、成分および性質(3)	B-3-1/ 総VIII-3	ヶ
21	11/15	歯科用印象材 - 5	弾性印象材の種類、成分および性質(4)	B-3-1/ 総VIII-3	ヶ

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
22	11/15	歯科用印象材 - 6	非弾性印象材の種類、成分および性質	B-3-1/ 総VIII-3	③
23	11/22	歯科用模型材	模型材料の成分、特性および使用法	B-3-1/ 総VIII-4-ア	〃
24	11/22	歯科用合金 - 1	歯科用合金の種類と特性	B-2-1/ 総VIII-6-ウ	①
25	11/29	歯科用合金 - 2	貴金属合金 - 1	B-2-1/ 総VIII-6-ウ	〃
26	11/29	歯科用合金 - 3	貴金属合金 - 2	B-2-1/ 総VIII-6-ウ	〃
27	12/6	歯科用合金 - 4	非貴金属合金	B-2-1/ 総VIII-6-ウ	〃
28	12/6	歯科用合金 - 5	金属の熱処理 加工硬化	B-2-1/ 総VIII-6-ウ	〃
29	12/13	歯科用合金 - 6	金属の接合	B-2-1/ 総VIII-7-ウ-b	〃
30	12/13	矯正用材料	矯正用材料の成分と特性	B-2-4/ 総VIII-10	〃

公衆衛生学（後期・1単位）

D③B-al-2515(D2515)

科目責任者：小林美智代（衛生・講師）

科目担当者：①小林美智代（衛生）

※この科目は、診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

公衆衛生学は個人ではなく「集団」を主な対象とし、社会全体の健康増進と疾病予防に対する解決策を求めていく学問である。歯科医師は、公衆衛生の向上・増進に寄与することが求められる。本科目では、その基礎となる公衆衛生学の基本としくみ、疫学的手法による疾病への関わり、生活環境対策および人口問題などについて講義を行う。

2. 一般目標

学修者が歯科医師として必要な公衆衛生学的な考え方を学び、社会や環境が求める必要性に対して、的確に対応し解決できる能力を身につける。

3. 到達目標

- 1) 健康、障害、疾病と死の概念を理解している。
- 2) 疫学と根拠に基づいた医療（EBM）を実践するための概念と応用法を理解している。
- 3) 統計学の有用性と限界を踏まえながら、保健医療統計とその応用を理解している。
- 3) 公衆衛生の視点から見た感染症と予防対策を理解している。
- 4) 疾病予防や健康を保持増進する環境条件を見出すことの重要性を理解している。
- 5) 食品衛生と栄養摂取基準を理解している。
- 6) 主な人口統計（人口静態と人口動態）、疾病の分類・統計（ICD等）、生命曲線を理解している。

4. 履修の進め方

予習：教科書（該当ページ）を読み、講義内容の概略を把握しておくこと。

講義：講義内容に関するプリントを配布するので、必要に応じて該当プリントに記録を取りながら履修する。

復習：学習内容を整理するとともに、講義中に行なった練習問題の見直しを行う。もし疑問点があった際には教員への質問等により早期に克服する。

5. 準備学修

各回の講義範囲について教科書該当部分を読み、内容の概略を把握する（15分）。復習（20分）。

6. 評価方法

定期試験（100%）で評価し、65点以上を合格とする。追試験100点満点で採点し、その点数を評価する。再試験は100点満点で採点し、65点以上を「65点」として評価する。

定期試験の形式は、多肢選択式（56問、84点）および記述式（2問、16点）で行う。

7. 教本

安井利一 他編 スタンダード衛生・公衆衛生 第18版
学建書院 2023

8. 参考書

なし。

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号、国：国家試験出題基準、担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	9/2	公衆衛生概論	公衆衛生学概要、公衆衛生学の歴史	C-4-1, 3, C-5-3, 5/ 必2-ア, 3-ア, 総I-1-ア, オ	①

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
2	9／9	公衆衛生と健康の概念	健康と疾病の概念、疾病の自然史、健康保持増進対策	C-4-1, 3, C-5-1, 5／必2-ア, 3-ア, 総 I -1-ア	①
3	9／30	国際医療と日本	世界の保健・医療問題。日本の医療の特徴、国際社会への貢献協力	C-7-3, 4／総論 I -5-ア	〃
4	9／30	疫学 I	疫学の研究方法（記述疫学、分析疫学、実験疫学、臨床疫学）	C-6-1／必9-ア, ウ, ク, 総論 I -6-ア, イ	〃
5	10／7	疫学 II	疫学研究の実際（スクリーニング検査、統計手法）	C-6-1／必9-ア, ウ, ク, 総論 I -6-ア, イ	〃
6	10／21	疫学 III	根拠に基づいた医療(EBM)の実践、バイアスおよびエビデンスレベル	C-6-1／必9-ア, ウ, ク, 総論 I -6-ア, イ	〃
7	10／28	疾病予防と健康管理 I	感染性疾患と非感染性疾患の予防。感染症関連法規、院内感染の予防	A-4-1-3, 4, 8, 9, C-4-2, C-5-4, ／必2-キ, 総 I -7-ア	〃
8	10／28	疾病予防と健康管理 II	生活習慣病の予防、保健医療の統計調査	C-5-4, C-6-2／必3-ア, 総 I -6-ウ	〃
9	11／11	環境と健康 I	環境問題と環境関連法規、水、大気と環境	C-4-5／総 I -9-ア	〃
10	11／18	環境と健康 II	温熱環境、放射線、廃棄物	C-4-5／総 I -9-ア	〃
11	11／25	食生活と健康 I	日本人の食事摂取基準、食品保健	E-5-2, C-6-2／総 I -8-ア, イ	〃
12	11／25	食生活と健康 II	食中毒の予防	E-5-2, C-6-2／総 I -8-ア, イ	〃
13	12／2	人口問題 I	人口静態統計、人口指数、人口割合、生命表	C-6-2／総 I -6-ウ	〃
14	12／9	人口問題 II	人口動態統計（出生、死亡の指標）	C-6-2／総 I -6-ウ	〃
15	12／9	人口問題 III	社会環境と人口	C-6-2／総 I -6-ウ	〃

第3学年

教養系教育・基礎科学教育科目

歯科医療管理学	125
社会歯科学	126
歯科医療人間学Ⅲ	127

生命科学教育科目

口腔生理学Ⅱ	128
口腔生化学Ⅱ	129
口腔生化学実習	131
口腔病理学	132
口腔病理学実習	135
口腔感染免疫学Ⅱ	136
口腔感染免疫学実習	137
歯科薬理学Ⅱ	138
歯科薬理学実習	140
生体材料・歯科材料学Ⅱ	141
生体材料・歯科材料学実習	142
口腔衛生学	143
口腔衛生学実習	145

口腔科学教育科目

保存修復学Ⅰ	146
冠橋義歯補綴学Ⅰ	148
有床義歯補綴学Ⅰ	149
有床義歯補綴学Ⅰ実習	151
口腔外科学Ⅰ	152
口腔内科学	154
歯科放射線学Ⅰ	155
高齢者歯科学Ⅰ	157
災害歯科医学	158
総合臨床医学	159

歯科医療管理学（後期・1単位）

D①②A-a1-3209 (D3209)

科目責任者：南 健太郎（衛生・講師）

科目担当者：①南 健太郎（衛生）、②瀬川 洋（衛生）

1. 科目の概要

歯科医療管理学は、歯科医療を社会に適応するための環境および条件への考察を理論管理論で捉え、それを基本とする手段・行動を実践管理論でとらえる医療の管理学で歯科医療を社会に提供する社会歯科学系の学問である。そこで、本科目では質の高い歯科医療サービスを安定して供給し、患者満足度を高めることにより、地域社会に貢献していくための実践的な知識を総合的に講義する。

2. 一般目標

安心・安全な良質の歯科医療を提供するために必要な歯科医療管理の基礎的事項を理解して、実践できるようする。

3. 到達目標

- 1) 歯科医療管理の概要について説明できる。
- 2) 歯科医師の義務について説明できる。
- 3) 診療記録・情報の意義および法令で定められた取り扱いについて説明できる。
- 4) 医療安全確保、医療事故の回避及び発生後の原因追及について説明できる。
- 5) 歯科診療所の開設・管理について説明できる。
- 6) 感染の予防と管理について説明できる。
- 7) 社会保障制度について説明できる。
- 8) 国民医療費について説明できる。

4. 履修の進め方

講 義：授業内容に関するプリントを配布するので、必要に応じて当該プリントに記録を取りながら履修する。

復 習：授業内容に関する練習問題のプリントを配布するので、即日解答し、もしわからぬことや疑問点があった際には教員に質問し、放置しないようにする。

5. 準備学修

前期に履修する社会歯科学と関連があるので、履修済みの内容に関しては復習しておくこと（30分）。

6. 評価方法

定期試験（100%）で評価し、65点で合格とする。再試験は65点を上限とし、追試験は100点を上限とする。なお、試験形式はすべて多肢選択方式（MCQ：Multiple Choice Question）とする。

7. 教本

〔新版〕歯科医療管理学 安全・安心・信頼の歯科医療を提供するために 第1版 医歯薬出版株式会社 2018

8. 参考書

スタンダード社会歯科学 第7版 学建書院

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号、国：国家試験出題基準、担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	9／2	歯科医療管理学総論、歯科医師法①	歯科医療管理学とは、歯科医師法	C-4-2／ 必-2-イ	① ②
2	9／9	歯科医師法② 医療情報管理	歯科医師の義務、診療録・電子診療録・SOAP、各種記録等保存期間と根拠法	C-4-2／ 必-2-イ, C-6-3-2／ 必-2-サ	①

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
3	9／30	医療法①	医療法に規定されている事項	C-4-2-1／ 必-2-イ	①
4	9／30	医療法②	医療計画①	C-4-2-1／ 必-2-イ, 総I-1-オ-b	ヶ
5	10／7	医療法③、歯科医療安全①	医療計画②、歯科診療所及び医療機関の開設と管理、ハイアリッヒの法則・フルブルーフ・フェールセーフ、医療機関における医療安全対策、医療事故調査制度①	C-4-2-1／ 必-2-イ, 総I-1-オ-b, C-3／ 必-2-カ	ヶ
6	10／21	歯科医療安全②	医療機関における医療安全対策、医療事故調査制度②、感染予防管理、医療廃棄物管理	C-3／ 必-2-キ	ヶ
7	10／28	歯科医療事故への対応	医療過誤の民事・刑事・行政責任	C-3／ 必-2-キ	ヶ
8	10／28	社会保障制度①	社会保障とは、社会保障の種類、社会保険とは、社会保険の種類、医療保険①	C-4-3-2／ 総I-1-ウ	ヶ
9	11／11	社会保障制度②	医療保険②	C-4-3-2／ 総I-1-ウ	ヶ
10	11／18	社会保障制度③	医療保険③、年金保険	C-4-3-2／ 総I-1-ウ	ヶ
11	11／25	社会保障制度④	社会保障給付費、国民医療費	C-4-3-2／ 総I-1-ウ	ヶ
12	11／25	社会保障制度⑤	公的扶助、社会福祉①	C-4-3-2／ 総I-1-ウ	ヶ
13	12／2	社会保障制度⑥	公的扶助、社会福祉②、介護保険①	C-4-3-2／ 総I-1-ウ	ヶ
14	12／9	社会保障制度⑦	介護保険②	C-4-3-2／ 総I-1-ウ	ヶ
15	12／9	社会保障制度⑧、歯科医療管理学のまとめ	介護保険③、地域包括ケアシステム、歯科医療管理学のまとめ	C-4-3-2、 C-4-3-6／ 総I-1-ウ	① ②

社会歯科学（前期・1単位）

D①②A-a1-3208 (D3208)

科目責任者：南 健太郎（衛生・講師）

科目担当者：①南 健太郎（衛生）、②瀬川 洋（衛生）

※この科目は、診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

社会歯科学は、歯科医師が歯科医療と保健指導を実施するための制度を学ぶ学問である。本科目では、歯科医師として当然具備すべき法律の知識や社会情勢の変遷について学ぶ。

2. 一般目標

学修者は歯科医師として稼働するのに必要な法的知識と社会保障制度について学び、社会の変化やニーズに対応できる基礎的能力を習得する。

3. 到達目標

学修者は以下の到達目標を説明できる。

- 1) わが国の行政機構を説明できる。
- 2) 歯科医師の刑事・民事・行政責任を説明できる。
- 3) 歯科医療関連法規を説明できる。
- 4) 社会保障制度を説明できる。
- 5) 医療保険制度と国民医療費を説明できる。
- 6) わが国の社会構造の変化に伴う歯科医療・保健の変化を説明できる。

4. 履修の進め方

スライド、配布資料を使用して、教科書の内容をより分かりやすく解説する。

5. 準備学修

教科書（シラバスより授業内容を確認）をよく読み、講義の内容を把握しておくこと（15分）学習した内容を整理し、疑問点がないか確認すること。（30分）

6. 評価方法

定期試験で評価し、65点以上で合格とする。試験形式は多肢選択方式50問とする。再試験は65点を上限とし、追試験は100点を上限とする。

7. 教本

石井拓男 他 編 スタンダード社会歯科学 第8版 学建書院

8. 参考書

なし

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号、国：国家試験出題基準、担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4/9	社会歯科学概論	歯科医師の責務と倫理	C-1-1/必1-ア ① ②	
2	4/16	医事衛生法規1	歯科医師法、歯科衛生士法、歯科技工士法	C-4-2/必2-イ ①	
3	4/23	医事衛生法規2	医療法	C-4-3/必2-イ 〃	
4	5/7	医療連携、チーム医療	医療関係職種、医療機関でのチームワーク、地域医療でのチームワーク	C-1-3/必2-ウ 〃	
5	5/14	診療情報・診療記録	診療情報、診療録・医療記録、診断書	C-3-1/必2-サ 〃	

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
6	5/21	医療の質と安全の確保	医療の質の確保、医療事故防止、院内感染対策、医事裁判	C-3-1/必2-カ、キ ①	
7	5/28	薬事衛生法規	医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保に関する法律、臨床試験と倫理	C-4-2/必2-ケ 〃	
8	6/4	衛生行政とその他の衛生法規1	地域保健法、健康増進法	C-4-5/総I-1-オ、 総I-8-イ 〃	
9	6/11	衛生行政とその他の衛生法規2	学校保健安全法、母子保健法、労働安全衛生法、歯科口腔保健の推進に関する法律	C-5-5/総I-2-ア、 イ、ウ 〃	
10	6/18	社会保険1	医療保険	C-4-3/総I-1-ウ 〃	
11	6/25	社会保険2	介護保険、地域包括ケアシステム	C-4-3/総I-1-ウ、カ 〃	
12	7/2	社会保障制度	年金保険、雇用保険	C-4-3/総I-4-ア 〃	
13	7/9	公的扶助	生活保護法	C-4-3/総I-1-ウ 〃	
14	7/16	社会福祉	精神保健福祉法、障害者総合支援法	C-4-3/総I-2-カ、 総I-1-オ 〃	
15	7/23	国民医療費	国民医療費	C-4-3/総I-4-ア 〃	

歯科医療人間学Ⅲ（前期・1単位）

D①A-a1-3403 (D3403)

科目責任者：中川 敏浩（組織・准教授）

科目担当者：①中川 敏浩（組織）、②長岡 正博（薬理）、
③吉田いくよ（非常勤）、④鈴木 俊子（非常勤）、
⑤本多 真史（日本語）

※この科目は、診療経験のある歯科医師及び一般企業勤務経験のある教員が担当する

1. 科目の概要

歯科医療人間学（Dental Practice Human Science）は、本学歯学部の目的である。

「高度な専門知識と技術を備えた人間性豊かな歯科医師の養成」を実践する学問であり、高度専門職業人（プロフェッショナル）としての歯科医師である前に社会人としての素養、教養および社会適応能力を高揚し、自らのホスピタリティマインドに加えて、患者中心の医療を全人的に捉えるため、身体面、心理面、社会面、倫理面の各要素を総合的かつ包括的に理解し、「歯科医療の安全・安心・信頼の文化」を醸成することにある。

2. 一般目標

人間性豊かな優れた歯科医師となるために、大学で学ぶ目的を明確化し、歯学医療現場にふれ、基本的なコミュニケーションや日常習慣の重要性を認識する態度、知識および技能を修得する。

3. 到達目標

- 1) 医療現場でのルールを理解する。
- 2) 医療人として謙虚な態度を示す。
- 3) 患者の訴えを正確に聞き取る。
- 4) 基本的な会話で診療室情報を尋ねる。

4. 履修の進め方

講義形式で教本に準じてスライドと資料を用いて履修する。

5. 準備学修

事前にシラバスで内容を確認する。また、人と接する時は状況を把握し、意識をして対応することを日頃から心がける。参考書や参考資料は特にないが配付したプリント活用して自然に実践できるように日々訓練をする。(30分)

6. 評価方法

最終日のビデオ撮影（言語表現・非言語表現・全体印象評価）や記述式試験、客観的試験により平均値を算出し65点以上を合格とする。

7. 教本

特になし

8. 参考書

なし

9. 授業内容と日程

(コ：コアカリ記号、国：国家試験出題基準、担：担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／11	オリエンテーション	3年次の歯科医療人間学の目的を概説する	C-1-2、 C-1-3-4 C-1/ 必-1-アイ-ab	① ⑤
2	4／18	ある医療事故から（KJ法）	実際に起こった歯科医療事故から検証し、防止策を探る	C-3-1/ 必-2-カ-f	①
3	4／25	ある医療事故から（KJ完成）	実際に起こった歯科医療事故から検証し、防止策を探る	C-3-1/ 必-2-カ-f	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
4	5／9	3-A口頭表現・傾聴・アサーションの復習と実践・演習Ⅰ	コミュニケーションの復習と実践・演習Ⅰ	PR-01~06 +GE-01, CM/ 必-8-ウ-abcde	⑤
〃	5／9	3-B聴くこと・伝えることⅠ	如何に正確に伝わるか、伝えるか	PR-01~06 +GE-01, CM/ 必-8-ウ-abcde	② ③ ④
5	5／16	3-A聴くこと・伝えることⅠ	如何に正確に伝わるか、伝えるか	PR-01~06 +GE-01, CM/ 必-8-ウ-abcde	〃
〃	5／16	3-B口頭表現・傾聴・アサーションの復習と実践・演習Ⅰ	コミュニケーションの復習と実践・演習Ⅰ	PR-01~06 +GE-01, CM/ 必-8-ウ-abcde	⑤
6	5／23	3-A聴くこと・伝えることⅡ	如何に正確に伝わるか、伝えるか	PR-01~06 +GE-01, CM/ 必-8-ウ-abcde	② ③ ④
〃	5／23	3-B口頭表現・傾聴・アサーションの実践Ⅱ	好感度、信頼度アップの会話とは？	PR-01~06 +GE-01, CM/ 必-8-ウ-abcde	⑤
7	5／30	3-A口頭表現・傾聴・アサーションの実践Ⅱ	好感度、信頼度アップの会話とは？	PR-01~06 +GE-01, CM/ 必-8-ウ-abcde	〃
〃	5／30	3-B聴くこと・伝えることⅡ	如何に正確に伝わるか、伝えるか	PR-01~06 +GE-01, CM/ 必-8-ウ-abcde	② ③ ④
8	6／6	3-Aパワーパフォーマンスを身に付けるⅠ	印象的な非言語コミュニケーションを会得する	PR-01~06 +GE-01, CM/ 必-8-ウ-abcde	〃
〃	6／6	3-B医療面接に向けて①自己PR	医療面接での会話と重要ポイントについて	PR-01~06 +GE-01, CM/ 必-8-ウ-abcde	⑤
9	6／13	3-A医療面接に向けて①自己PR	医療面接での会話と重要ポイントについて	PR-01~06 +GE-01, CM/ 必-8-ウ-abcde	〃
〃	6／13	3-Bパワーパフォーマンスを身に付けるⅠ	印象的な非言語コミュニケーションを会得する	PR-01~06 +GE-01, CM/ 必-8-ウ-abcde	② ③ ④
10	6／20	3-Aパワーパフォーマンスを身に付けるⅡ	ソーシャルスキルを会得する	PR-01~06 +GE-01, CM/ 必-8-ウ-abcde	〃
10	6／20	3-B医療面接に向けて②自己PR	高感度・信頼度を上げるコミュニケーションの実践	PR-01~06 +GE-01, CM/ 必-8-ウ-abcde	⑤
11	6／27	3-A医療面接に向けて②自己PR	高感度・信頼度を上げるコミュニケーションの実践	PR-01~06 +GE-01, CM/ 必-8-ウ-abcde	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
11	6/27	3-Bパワー パフォーマンスを身に付けようⅡ	ソーシャルス キルを会得す る	PR-01~06 +GE-01, CM/ 必-8-ウ-abcde	② ③ ④
12	7/4	ある医療事故 から (KJ 法 発表)	実際に起こっ た歯科医療事 故から検証し、 防止策を探る (発表)	C-3-1/ 必-2-カ-f	①
13	7/11	ある医療事故 から (二次元 展開法作成)	実際に起こっ た歯科医療事 故を二次元展 開法により検 証し、防止策 を探る。	C-3-1/ 必-2-カ-f	〃
14	7/18	ある医療事故 から (発表)	実際に起こっ た歯科医療事 故から検証し、 防止策を探る (発表)	C-3-1/ 必-2-カ-f	〃
15	7/25	形成的評価	形成的評価試 験を行う	関連範囲	① ⑤

口腔生理学Ⅱ (前期・1単位)

D③B-al-3508(D3508)

科目責任者：川合 宏仁 (生理・教授)

科目担当者：①川合 宏仁 (生理), ②大須賀謙二 (生理),
③古山 昭 (生理)

※この科目は、主に診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

生理学は、細胞から個体の行動にいたる各レベルの種々の生体機能および機構を対象として正常な状態における生命現象の機序について学ぶことを目的とした科目である。ヒトは生命を維持するための生体恒常性が乱され、その修復が困難な時に病気となる。それゆえ、正しい治療や予防措置を施すためには、病気の原因や患者の状態を正確に把握していくなければならない。そのためには生体の正常な基本的機能を学び知っておくことが不可欠であり、それらの知識なくして病理学や薬理学などを正しく理解することはできないと言つてよい。講義には、近年の分子生物学や細胞生物学の著しい進展にともなった新しい内容が随時盛り込まれる。講義の各論は相互に密接な関連をもち、独立したものではないことを銘記すべきである。また生体機能は合理的に構成され、多くの場合に論理的に説明できる。

歯科医として、生理学は必要不可欠な科目である。生理学を知ることなく麻酔学や補綴学、あるいは口腔外科学を学ぶことはできない。この授業では、臨床医として最低限の正常な体の仕組みを理解し、把握することを目標とする。従って、学習に際しては、基礎的事項を必ず記憶してから「理解」をすることが大切である。

本科目では、顎・口腔・顔面領域の器官およびそれらと密接な関係をもつ器官の機能に関する基本的事項については重点的に充分な理解をすることが肝要である。

本科目の行動目標としては、種々の生命現象を営む生体の機構、特に顎・口腔・顔面領域の機構について適切な生理学用語を用いて説明でき、また、各器官の協調活動によって個体の健康が維持されていること、および歯科診療において対象となる疾患の病態生理学の基礎を理解できるようにすることである。

2. 一般目標

臨床歯科学を学習する基盤を構築するために、生体機能、生命現象の機序を理解する。

3. 到達目標

- 1) 生命現象を営む生体の機構を説明できる。
- 2) 各器官の協調活動を説明できる。
- 3) 歯科疾患の病態生理を説明できる。

4. 履修の進め方

講義を主体として、適宜、プリントやスライドを用いた視覚的素材を活用し、人体の構造、詳細な構築およびそれらの機能に関して説明を加えながら進めていく。

5. 準備学修

生物学や解剖学が生理学の基礎となるため、これらの科目と連動させて学習すること。予習は、シラバスで内容を確認して、教科書・参考書で学習する(10分)。復習は、講義内容について講義ノート(プリント)・教科書・参考書で学習する(40分)。履修後は、すべての科目につながるため、繰り返し学習することが重要である。

6. 評価方法

前期の定期試験において、65点以上を合格とする。65点未満の場合には再試験を行う。65点未満の再試験受験該当者は、再試験の点数が65点以上でも65点の採点結果とする。追試験該当者に対しては、100点満点として試験を行い、65点以上

を合格とする。なお、試験問題の内容に関しては、多肢選択問題と記述式問題を出題する。

7. 教本

和泉博之・浅沼直和 編 「ビジュアル生理学・口腔生理学」第3版 学建書院 2021

岩田幸一・井上富雄ほか 編 「基礎歯科生理学」第7版 医薬出版 2020

8. 参考書

なし

9. 授業内容と日程

(コ:コアカリ記号、国:国家試験出題基準、担:担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4/12	排泄(I)	ネフロンの働き、尿の生成、再吸収と分泌	A-3-1/必4-ア-e、総II-1-キ	②
2	4/19	排泄(II)	細胞外液量の調節と浸透圧の調節	A-3-1/必4-ア-e、総II-1-キ	〃
3	4/26	排泄(III)	ホルモン、排尿の神経機序	A-3-1/必4-ア-e、総II-1-キ	〃
4	5/10	運動(I)	随意運動、脊髄反射と姿勢反射	A-3-1/総II-1-ク	③
5	5/17	運動(II)	運動制御のしくみ、運動中枢と大脳基底核	A-3-1/総II-1-ク	〃
6	5/24	運動(III)連合系	脳幹と小脳の機能、大脳皮質感覚-運動連合系の役割	A-3-1/総II-1-ク	〃
7	5/31	脳と行動(I)	大脳皮質の機能局在、情動と本能行動	A-3-1/総II-1-ク	〃
8	6/7	脳と行動(II)	大脳辺縁系、視床下部、意識	A-3-1/総II-1-ク	〃
9	6/14	脳の統合機能	脳波、睡眠、記憶	A-3-1/総II-1-ク	〃
10	6/21	構音と发声(I)	喉頭の構造と发声のしくみ、发声器官としての口腔	A-3-2/総VI-1-イ	②
11	6/28	構音と发声(II)	言語音形成のしくみ	A-3-2/総VI-1-イ	〃
12	7/5	摂食・嚥下	嚥下運動の特徴と中枢性機序	A-3-1、A-3-2、D-5-7/必6-イ、総II-6-エ	①
13	7/12	嘔吐	嘔吐の特徴と発生機序	A-3-2/必7-ア、総IV-1-エ	〃
14	7/19	体温調節と代謝(I)	体温調節と代謝	A-3-1/必4-ア-e、総II-1-ク、ケ	②
15	7/26	体温調節と代謝(II)	体温調節と中枢	A-3-1/必4-ア-e、総II-1-ク、ケ	〃

口腔生化学Ⅱ（前期・2単位）

D③B-a2-3511(D3511)

科目責任者：加藤 靖正（生化・教授）

科目担当者：①加藤 靖正（生化）、②前田 豊信（生化）、
③神林 直大（生化）、④半田 慶介（非常勤）

1. 科目の概要

生化学は代謝という化学的な側面から生体の成り立ちを理解する学問である。暗号化され細胞の核に保存されている遺伝情報は基本的にタンパク質の一次構造でしかないが、生体には脂質や糖質などたくさんの物質から成り立っている。遺伝情報を司る核酸そのものさえ、糖やアミノ酸、リン酸などから合成されているのである。口腔生化学Ⅱでは、歯科・口腔領域に特化した生化学について専門的に学ぶ。また、癌やメタボリックシンドロームなど社会的に問題となっている病態について生化学的側面から理解を深めるとともに、遺伝学の一端として、先天性疾患について臨床科目での講義に先立ち、これらの発症原因となっている障害遺伝子の本来の役割などを通じて病態との関連性に対する理解を深める。

2. 一般目標

歯科・口腔領域として、細胞外マトリックス分子、骨、軟骨、歯、唾液、及び齶歯について焦点を絞り、構造と機能について学修する。また、染色体異常、結合組織の異常、色素沈着のみられる疾患、新生児のマスククリーニング対象疾患などについて焦点を絞り、遺伝形式と病態の基本的事項について学ぶ。

3. 到達目標

- 1) 細胞外マトリックス分子の構造と機能について説明できる。
- 2) 硬組織の構造と機能を説明できる。
- 3) 血清カルシウムのホメオスタシスについて説明できる。
- 4) 唾液・ブラーク・齶歯の分子機構について説明できる。
- 5) 細胞内情報伝達機構について説明できる。
- 6) DNAの損傷と修復について説明できる。
- 7) 遺伝病・遺伝子病の成因について例を挙げて説明できる。
- 8) 生活習慣病の成因について説明できる。

4. 履修の進め方

予習：教科書（該当箇所のページ）を読み、講義内容の概略を把握するとともに疑問点を見出しておく。

講義：板書やパワーポイントを使用した解説を聴講し、予習内容の確認と知識の整理を行うとともに、予習中に見出された疑問点を解決する。

復習：学修内容を整理するとともに、事前に生じた疑問点について解決したかを確認する。

その他：新たに生じた疑問点などについては、教科書の利用や教員への質問等により早期に克服する。

5. 準備学修

講義の項に該当する内容についてスタンダード生化学・口腔生化学 第4版（学建書院）や口腔生化学 第6版（医薬出版）を用いて内容を把握するとともに、予め疑問点を見出してください（15分）。復習（20分）。

6. 評価方法

定期試験（多肢選択形式、100点満点）にて65点以上を合格とする。追・再試験は65点以上を合格とする。再試験の評価は、65点以上を65点とし、追試験の評価は、90点以上を90点とする。本試験、追・再試験以外の試験では評価しない。

7. 教本

スタンダード生化学・口腔生化学 第4版（学建書院）

8. 参考書

口腔生化学 第6版 (医歯薬出版)

9. 授業内容と日程

(コ:コアカリ記号, 国:国家試験出題基準, 担:担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4/12	細胞外マトリックス分子I	コラーゲンの構造, 分布	A-1-5/ 必4-ア	①
2	4/12	細胞外マトリックス分子II	コラーゲンの合成, 壊血病, コラーゲン関連疾患	A-1-3・5, A-5-1/ 必4-ア	〃
3	4/19	細胞外マトリックス分子III	弾性纖維・エラスチン・フィブリリン, Marfan症候群	A-1-3・5, A-3-4/ 必4-ア	〃
4	4/19	細胞外マトリックス分子IV	細胞接着性糖蛋白質, 種類と分布	A-1-3, A-1-5/ 必4-ア	〃
5	4/26	細胞外マトリックス分子V	RGD配列, 細胞外マトリックス受容体, インテグリン細胞外マトリックス分子の分解 (MMP, その他のプロテアーゼ)	A-1-3, A-1-5/ 必4-ア	〃
6	4/26	細胞外マトリックス分子VI	グリコサミノグリカンとプロテオグリカン	A-1-5/ 必4-ア	〃
7	5/10	硬組織I	石灰化機構① 無機質:ヒドロキシアパタイト, 石灰化機構の3つの説	A-3-1/ 必4-ア, 総II-8-ウ	〃
8	5/10	硬組織II	石灰化機構② 有機質:コラーゲン性石灰化, 象牙質・エナメル質の石灰化	A-3-1/ 必4-ア, 総II-8-ウ	〃
9	5/17	硬組織III	骨形成(膜性骨化・軟骨性骨), 軟骨細胞の分化	A-3-1/ 必4-ア, 総II-8-ウ	② ③
10	5/17	硬組織IV	骨芽細胞の分化	A-3-1/ 必4-ア, 総II-9-ウ	〃
11	5/24	硬組織V	破骨細胞の分化, 生理的骨吸収, 炎症性骨吸収, 骨のリモデリング	A-3-1/ 必4-ア, 総II-8-ウ	〃
12	5/24	血清カルシウム濃度の調節機構I	血清カルシウム濃度の調節機構	A-3-1/ 必4-ア, 総II-8-ウ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
13	5/31	血清カルシウム濃度の調節機構II	血清カルシウム濃度の調節機構の破綻: (原発性・続発性) 副甲状腺機能亢進症	A-3-1/ 必4-ア, 総II-8-ウ	② ③
14	5/31	唾液腺と唾液	唾液腺の種類, 役割	A-3-3/ 必4-ア, 総II-6-カ	〃
15	6/7	唾液の機能	唾液の成分と機能, 排泄作用	A-3-3/ 必4-ア, 総II-6-カ	〃
16	6/7	ペリクル・ブラーク	組成と機能	D-3-2/ 必5-ア, イ, 総II-6-カ	〃
17	6/14	齲歯I	齲歯の成因, ブラーク(グルカン, フルクトサン), 酸産生	D-3-2/ 必4-イ, 総II-2-イ, 総III-2-ア	④
18	6/14	齲歯II	アパタイトの崩壊, ステファン曲線, 再石灰化, 酸抵抗性, 軟化象牙質	D-3-2/ 必4-イ, 総II-2-イ, 総III-2-ア	〃
19	6/21	細胞の情報伝達機構I	分泌様式, 細胞内情報伝達機構①(細胞内受容体)	A-1-5/ 必4-ア, 総II-8-ウ	①
20	6/21	細胞の情報伝達機構II	細胞内情報伝達機構②(三量体Gタンパク質共役型受容体)	A-1-5/ 必4-ア, 総II-8-ウ	〃
21	6/28	細胞の情報伝達機構III	細胞内情報伝達機構③(チロシンキナーゼ型受容体, セリンスレオニン型受容体)	A-1-5/ 必4-ア, 総II-8-ウ, 総III-1-イ	〃
22	6/28	細胞の老化	テロメアとテロマーゼ	A-1-3/ 必4-ア	〃
23	7/5	細胞周期の制御機構	E2F, サイクリン, p53, RB	A-1-4/ 必4-ア	〃
24	7/5	アポトーシスの分子機構	TNF α , FasL, カスパーゼ, CAD, プログラム細胞死	A-1-4, A-5-2/ 必4-ア	〃
25	7/12	DNAの損傷と修復	DNAの損傷, 化学発癌物質, 付加体形成, 修復機構	A-1-3, A-5-6/ 必4-ア	〃
26	7/12	発癌機構	癌遺伝子, 癌抑制遺伝子, 癌ウイルス, 多段階発癌	A-1-3/ 必4-ア・7-ウ, 総III-1-コ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
27	7/19	癌の特性	癌の基本的性質のまとめ	A-1-3/ 必4-ア・6-ア	①
28	7/19	遺伝性疾患	遺伝、染色体異常症、色素沈着を伴う疾患	A-5-1/ 必4-ア	〃
29	7/26	生活習慣病の成因基盤 I	メタボリックシンドローム(診断基準、成因)、摂食ホルモン	A-5-2/ 各 II-3-ア	〃
30	7/26	生活習慣病の成因基盤 II	糖尿病(診断基準、成因、病態)、動脈硬化、痛風	A-5-2/ 各 II-3-ア	〃

口腔生化学実習（後期・1単位）

D③B-cl-3512(D3512)

科目責任者：加藤 靖正（生化・教授）

科目担当者：①加藤 靖正（生化）、②前田 豊信（生化）、
③神林 直大（生化）、④内山 梨夏（有床）、
⑤鈴木 厚子（非常勤）

1. 科目の概要

生化学は、物質代謝の面から生命の成り立ちを理解する学問である。そこから発生した分子生物学や遺伝子工学などは、核酸を主として扱うことに特化した学問で、生化学との深い関わりの中で発展してきた。ヒトゲノム計画終了により、染色体上の遺伝子配列が全て決定されたのも、分子生物学や遺伝子工学といった分野の進歩が大きく寄与している。そこで、本実習では、生体を構成する基本的な物質、医学的に重要な血液検査項目、さらに遺伝子の解析方法まで幅広く実体験してもらい、座学での知識をさらに深めることを目的としている。

2. 一般目標

- 1) 測定機器の取り扱い方を習得する。
- 2) 測定法の原理と特異性を理解する。
- 3) 解析方法の理論と技術を習得する。
- 4) データベースからデータを取得して応用できる。

3. 到達目標

- 1) 測定機器の基本的な取り扱いができる。
- 2) 生体構成物質の基本的な取り扱いができる。
- 3) 測定法の原理を説明できる。
- 4) 測定領域を決定するにあたり、オンラインデータベースを活用できる。
- 5) 測定した結果をまとめることができる。
- 6) 測定した値の意味を考察できる。

4. 履修の進め方

予習：教科書の該当箇所を読み、当日の実習内容に関連した項目を把握しておく。

実習：配布されるプリントに従って実習を行い、予習内容の知識を用いて考察する。

復習：学修内容を整理するとともに、疑問点などについては、教科書の利用や教員への質問等により早期に克服する。

5. 準備学修

該当する内容についてスタンダード生化学・口腔生化学第4版（学建書院）や口腔生化学 第6版（医歯薬出版）を用いて内容を把握するとともに、予め疑問点を見出しておく（10分）。復習（15分）。

6. 評価方法

筆記による実習内容と関連知識を問う試験3回の平均（70%）とレポート（30%）により評価し、65点以上を合格とする。レポートは、項目ごとに配布された記入用紙に、実習中に記載し即日提出する。記載項目がすべて網羅されていることをミニマムリクワイアメントとする。また、欠席者は、日数に応じた課題に対するレポートの提出を必須とする。

7. 教本

スタンダード生化学・口腔生化学 第4版（学建書院）

8. 参考書

口腔生化学 第6版（医歯薬出版）

9. 授業内容と日程

(コ:コアカリ記号, 国:国家試験出題基準, 担:担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	9/6	基本操作	生化学実習の諸注意、器具の取扱い方、測定機器の取扱い方		① ↓ ⑤
2					
3					
4	9/13	タンパク質 I (血清蛋白質)	血清蛋白質の分離とその意義	A-1-2/ 必4-ア	〃
5					
6					
7	9/20	タンパク質 II (酵素)	AST, ALT 活性の測定とその意義	A-1-2/ 必4-ア	〃
8					
9					
10	9/27	糖	血糖と血中ホルモン濃度測定	A-1-2/ 必4-ア	〃
11					
12					
13	10/4	解説講義	糖、蛋白質、酵素(I, II)についてのまとめ	A-1-2/ 必4-ア	〃
14					
15					
16	10/11	振返り学習： 試験①	自学習(知識の整理)：学習効果を確認する		〃
17					
18					
19	10/18	石灰化 I	ALP の測定と石灰化	A-3-1/ 総 II-8-ウ	〃
20					
21					
22	10/25	石灰化 II	血中 Ca と P の測定	A-3-1/ 総 II-8-ウ	〃
23					
24					
25	11/1	唾液	ホスホホリンの検出	A-3-4/ 必4-ア, 総 II-8-イ	〃
26					
27					
28	11/8	解説講義	石灰化(I, II)についてのまとめ	A-3-1-4/ 必4-ア 総 II-8-イ-ウ	〃
29					
30					
31	11/15	振返り学習： 試験②	自学習(知識の整理)：学習効果を確認する		〃
32					
33					
34	11/22	核酸 I	DNA の取り扱い方、PCR 法、PCR プライマー設計	A-1-3/ 必4-ア	〃
35					
36					
37	11/29	核酸 II	RT-qPCR によるオステオカルシン遺伝子検出	A-1-3/ 必4-ア	〃
38					
39					
40	12/6	解説講義	核酸(I, II)についてのまとめ	A-1-3/ 必4-ア	〃
41					
42					
43	12/13	振返り学習： 試験③	自学習(知識の整理)：学習効果を確認する		〃
44					
45					

口腔病理学(通年・4単位)

D③④B-a4-3604(D3604)

科目責任者：遊佐 淳子(病理・准教授)

科目担当者：①遊佐 淳子(病理), ②山崎 幹子(病理)

※この科目は、診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

口腔病理学は病気の原因、経過およびその結果生じる形態的・機能的变化を学ぶことによって、病気の本質を理解することを目的としている。口腔病理学の講義ではまず病理学総論として、細胞傷害と細胞の適応現象、代謝障害、循環障害、炎症、免疫異常、遺伝性疾患と奇形、および腫瘍について講義する。病理学総論に引き続き、齶歯を初めとする歯牙硬組織疾患、歯髓、根尖部歯周組織、辺縁部歯周組織、頸骨、口腔粘膜、唾液腺等の顎口腔領域に発生する疾患について、分類、原因、病理発生、臨床像および病理組織像などを講義する。口腔病理学は臨床歯学に深く関連することから、臨床歯学を学ぶ前に口腔病理学を充分理解しなければならない。

2. 一般目標

- 1) 病気を総括的に理解するために病理学総論として、細胞の傷害と細胞の適応現象、代謝障害、循環障害、免疫異常、炎症、腫瘍、遺伝性疾患と奇形について概略を学ぶ。
- 2) 歯科臨床における疾病を理解するために、病理学各論(口腔病理学)として、齶歯をはじめとする歯牙硬組織疾患、歯髓、根尖部および辺縁部の歯周組織、頸骨、口腔粘膜、唾液腺等の顎口腔領域全般における疾患について、分類、原因、病理発生、臨床像および病理組織像の特徴などを学ぶ。

3. 到達目標

- 1) 細胞傷害と細胞の適応現象を説明する。
- 2) 代謝障害の病変を説明する。
- 3) 循環障害の病変を説明する。
- 4) 炎症の原因と分類を説明する。
- 5) 免疫異常による病変を説明する。
- 6) 遺伝性疾患の病変を説明する。
- 7) 腫瘍の特徴と病変を説明する。
- 8) 顎口腔領域疾患の分類、原因および病変を説明する。

4. 履修の進め方

スライド投影を用いた説明を主体とした講義を行う。また、講義プリントを配布する。

5. 準備学修

事前学習(30分)：第2学年の解剖学・組織学・感染免疫学で履修した事項で、各回の口腔病理学講義に関連することを事前に復習する。

事後学習(1時間)：講義プリント、教本および参考書を使って各回講義の内容の理解を深める。

6. 評価方法

前期定期試験及び後期の確認試験と定期試験の各試験において65点以上で合格とする。最終評価は、3回の平均点が65点以上を合格とする。試験形式は記述式で行う。再試験は65点未満の不合格者に実施する。再試験は上限65点、追試験は上限80点とする。フィードバックは、解答を開示して適宜行う。

7. 教本

坂本穆彦ら編「標準病理学」第7版 医学書院 2023年

下野正基ら編「新口腔病理学」第3版 医歯薬出版 2021年

8. 参考書

青篠克之 総監修 「解明 病理学」第4版 医歯薬出版
2021年
高木 實 監修 「口腔病理アトラス」第3版 文光堂
2018年

下野正基ら監修 「新編口腔外科・病理診断アトラス」医歯薬出版 2017年

9. 授業内容と日程

(コ:コアカリ記号, 国:国家試験出題基準, 担:担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4/8	病理学概論、 病因論	病理学とは何 かについて説 明し、内因と 外因について 述べる	A-5-1/ 総III-1-ア	①
2	4/15	細胞傷害(I)	細胞傷害のメ カニズムと細 胞傷害によっ て生じる変性 について述べ る	A-5-2/ 総III-1-イ	〃
3	4/22	細胞傷害(II)	脂肪変性、硝 子変性、石灰 変性、萎縮を 説明する	A-5-2/ 総III-1-イ	〃
4	5/13	細胞死	ネクローシス とアポトーシ スの形態学的 特徴を説明す る	A-5-2/ 総III-1-イ	〃
5	5/20	細胞の適応現 象(I)	刺激に対する 細胞の適応現 象である肥大 と過形成を説 明する	A-5-3/ 総III-1-エ	〃
6	5/27	細胞の適応現 象(II)	刺激に対する 細胞の適応現 象である化生 を説明する	A-5-3/ 総III-1-エ	〃
7	6/3	組織の再生と 修復	細胞の分裂周 期と組織の再 生、修復を説 明する	A-5-3/ 総III-1-ウ	〃
8	6/10	肉芽組織と創 傷治癒	肉芽組織の構 成要素、役割 および創傷治 癒、器質化を 説明する	A-5-3/ 総III-1-ウ	〃
9	6/17	物質代謝障害	脂質、タンパ ク質、糖質、 血色素の代謝 異常に基づく 疾患を概説す る	A-5-2/ 総III-1-イ	〃
10	6/24	循環障害(I)	虚血、充血、 うっ血の徵候、 原因、転帰を 説明する 出血の原因、 種類、転帰を 説明する	A-5-4/ 総III-1-オ	②

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
11	7/1	循環障害(II)	血栓症、塞栓 症、梗塞、水 腫、ショック、 高血圧を説明 する	A-5-4/ 総III-1-オ	②
12	7/8	炎症(I)	炎症の定義、 原因、分類を 説明する	A-5-5/ 総III-1-カ	①
13	7/8	炎症(II)	急性炎症およ び慢性炎症で の組織反応の 特徴を説明す る 滲出性炎の各 型を説明する	A-5-5/ 総III-1-カ	〃
14	7/22	炎症(III)	肉芽腫性炎の 特徴と、その 代表例を説明 する	A-5-5/ 総III-1-カ	〃
15	7/22	炎症(IV)	炎症反応に関 わる細胞、ケ ミカルメディ エーターを説 明する	A-5-5/ 総III-1-カ	〃
16	9/3	感染症	各種病原体に よる感染症に ついて病理学 的立場から概 説する	A-4-1-3/ 総III-1-キ	②
17	9/3	免疫異常	アレルギーと 自己免疫疾患 を説明する	A-4-2/ 総III-1-ク	〃
18	9/5	遺伝と疾患、 奇形	遺伝性疾患の 代表例を説明 し、奇形につ いて概説する	A-5-1/ 総III-2-ア	〃
19	9/10	腫瘍(I)	腫瘍の定義、 形態と基本構 造を説明する	A-5-6/ 総III-1-コ	①
20	9/10	腫瘍(II)	良性腫瘍と悪 性腫瘍の生物 学的性状を比 較説明する	A-5-6/ 総III-1-コ	〃
21	9/12	腫瘍(III)	上皮性腫瘍の 特徴と分類に ついて説明す る	A-5-6/ 総III-1-コ	〃
22	9/17	腫瘍(IV)	非上皮性腫瘍 の特徴と分類 について説明す る	A-5-6/ 総III-1-コ	〃
23	9/17	腫瘍(V)	腫瘍と遺伝子 異常の関連に ついて説明す る	A-5-6/ 総III-1-コ	〃
24	9/19	歯の機械的・ 化学的損傷、 歯の発育異常	歯の発育異常、 咬耗症、磨耗 症、酸蝕症、 歯折、脱臼に ついて説明す る	D-3-2-1/ 各II-1-ア	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
25	9/24	病理学まとめ	確認試験		①
26	9/24	歯の沈着物、着色、変色	沈着物としての歯垢・歯石、歯の着色・変色について説明する	D-3-2-4/各II-1-ア	〃
27	9/26	齲歯症(I)	概論(定義)、疫学、病因について述べる	D-3-2-1/各II-1-ア	〃
28	10/1	齲歯症(II)	臨床所見に基づく分類(部位、急性と慢性、二次齲歯)を説明する	D-3-2-1/各II-1-ア	〃
29	10/1	齲歯症(III)	エナメル質初期齲歯の組織学的特徴を説明する	D-3-2-1/各II-1-ア	〃
30	10/3	齲歯症(IV)	象牙質・セメント質各齲歯病変の組織像を説明する	D-3-2-1/各II-1-ア	〃
31	10/8	象牙質・セメント質の増生と吸収	第二・第三象牙質、セメント質増殖症、歯の内部吸収を説明する	D-3-2-1/各II-2-ア	②
32	10/8	歯髓の病変(I)	加齢による変化、変性、歯髓充血、急性漿液性歯髓炎について説明する	D-3-2-2/各II-2-ア	〃
33	10/10	歯髓の病変(II)	化膿性歯髓炎(急性、慢性)について説明する	D-3-2-2/各II-2-ア	〃
34	10/15	歯髓の病変(III)	潰瘍性歯髓炎、増殖性歯髓炎について説明する	D-3-2-2/各II-2-ア	〃
35	10/15	根尖部歯周組織の病変(I)	根尖性歯周炎、歯根肉芽腫、歯根囊胞について互いの関連性を説明する	D-3-2-2/各II-2-ア	〃
36	10/17	根尖部歯周組織の病変(II)	歯槽膿瘍の継発症として骨髓炎、頭頸部膿瘍および蜂窩織炎を説明する	D-3-2-2/各II-2-ア	〃
37	10/22	辺縁部歯周組織の病変(I)	歯周疾患の概念、疫学、病因について説明する	D-3-2-3/各II-3-ア	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
38	10/22	辺縁部歯周組織の病変(II)	プラーク性歯肉炎・慢性歯周炎の病理発生と病理組織像を詳説する	D-3-2-3/各II-3-ア	②
39	10/24	辺縁部歯周組織の病変(III)	非プラーク性歯肉病変、侵襲性歯周炎、壞死性歯周疾患について説明する	D-3-2-3/各II-3-ア	〃
40	10/29	辺縁部歯周組織の病変(IV)	外傷性咬合に伴う組織変化を説明する 歯肉の増殖性病変(エピリスを含む)について説明する	D-3-2-3/各II-3-ア	〃
41	10/29	辺縁部歯周組織の病変(V)	辺縁性歯周炎と全身疾患との関わりについて説明する	D-5-2-3/各II-3-ア	〃
42	10/31	口腔領域の囊胞(I)	囊胞の定義、発生メカニズム、分類を説明する	D-3-1-5/各III-1-エ、各III-2-オ	①
43	11/5	口腔領域の囊胞(II)	歯原性囊胞の臨床的特徴・病理組織学的特徴を概説する	D-3-1-5/各III-1-エ、各III-2-オ	〃
44	11/5	口腔領域の囊胞(III)	非歯原性囊胞の臨床的特徴・病理組織学的特徴を概説する	D-3-1-5/各III-1-エ、各III-2-オ	〃
45	11/7	口腔領域の腫瘍(I)	歯原性腫瘍の分類と各論(エナメル上皮腫など)を概説する	D-3-1-6/各III-1-オ、各III-2-カ	〃
46	11/12	口腔領域の腫瘍(II)	歯原性腫瘍各論(エナメル上皮線維腫など)と頸骨腫瘍について説明する	D-3-1-6/各III-1-オ、各III-2-カ	〃
47	11/12	口腔領域の腫瘍(III)	頸骨の非歯原性腫瘍と腫瘍様病変について説明する	D-3-1-6/各III-1-オ、各III-2-カ	〃
48	11/14	口腔領域の腫瘍(IV)	非歯原性良性上皮性腫瘍について説明する	D-3-1-6/各III-1-オ、各III-2-カ	〃
49	11/19	口腔領域の腫瘍(V)	非歯原性悪性上皮性腫瘍について説明する	D-3-1-6/各III-1-オ、各III-2-カ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
50	11/19	口腔領域の腫瘍(VI)	非歯原性良性 非上皮性腫瘍 と非歯原性悪性非上皮性腫瘍について説明する	D-3-1-6/ 各Ⅲ-1-オ, 各Ⅲ-2-カ	①
51	11/21	口腔潜在的悪性疾患	口腔潜在的悪性疾患を説明する	D-3-1-6/ 各Ⅲ-1-オ	〃
52	11/26	口腔粘膜の病変(I)	水疱性病変について説明する	D-3-1-4/ 各Ⅲ-1-ク, 各Ⅲ-4-オ	〃
53	11/26	口腔粘膜の病変(II)	潰瘍性病変, 赤色病変について説明する	D-3-1-4/ 各Ⅲ-1-ク	〃
54	11/28	口腔粘膜の病変(III)	白色病変について説明する	D-3-1-4/ 各Ⅲ-1-ク	〃
55	12/3	口腔粘膜の病変(IV)	色素沈着, 感染症(細菌, 真菌, ウィルス)を概説する	D-3-1-4/ 各Ⅲ-1-ク, 各Ⅲ-4-イ	〃
56	12/3	唾液腺の非腫瘍性病変	化生, 唾石症 唾液腺炎, シェーグレン症候群, IgG4 関連疾患について説明する	D-3-1-8/ 各Ⅲ-3-ア	②
57	12/5	唾液腺腫瘍(I)	良性唾液腺腫瘍について説明する	D-3-1-8/ 各Ⅲ-3-ア	〃
58	12/10	唾液腺腫瘍(II)	悪性唾液腺腫瘍について説明する	D-3-1-8/ 各Ⅲ-3-ア	〃
59	12/10	顎骨の非腫瘍性病変	顎骨骨髓炎, 遺伝性顎骨疾患について説明する	D-3-1-3/ 各Ⅲ-2-エ	〃
60	12/12	口腔病理学まとめ			〃

口腔病理学実習（後期・1単位）

D③④B-c1-3605(D3605)

科目責任者：遊佐 淳子（病理・准教授）

科目担当者：①遊佐 淳子（病理）, ②山崎 幹子（病理）

※この科目は、診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

人体の病変から作製された病理組織標本を顕微鏡で観察することにより、講義で説明された病変がどのような病理組織像を示すかを学んでいく。この実習の前半では病理学総論で学んだ各病変を諸臓器において観察し、その組織像を理解する。それをもとに後半では、顎口腔領域の病変を観察し、他臓器での病変との共通性や特異性を検討する。実習に際しては顕微鏡観察を行うだけでなく、顕微鏡像のスケッチを主体とした、実習レポートを各学生に課す。これにより各自の理解度を高めると同時に、病変を的確に把握しているかどうかを判定する。

2. 一般目標

顎口腔領域の病変を的確に診断できるようになるために、諸病変の病理組織像を理解し、かつ、それを説明できる能力を習得することを目標とする。

3. 到達目標

- 1) 病変の組織像を正確に理解することができる。
- 2) スケッチと文により、病理組織像を説明することができる。
- 3) 病変の組織像を観察して、その病変の病理組織診断名を述べることができる。

4. 履修の進め方

病理組織像を観察したのち、観察した組織像の説明を書いた実習レポートを作製する。

5. 準備学修

事前学習：第2学年で講義された口腔組織学の事項で、各回実習に関連するものを再確認する（10分）。各回実習に関連する、口腔病理学講義の事項を、教本、講義プリント、講義ノートなどを読んで再確認する（20分）。

事後学習：各回実習の内容を実習プリント、実習レポート、教本、参考書で復習する（60分）。

6. 評価方法

病理学と口腔病理学の実習終了後に行う実習試験で評価する。実習試験（病理学30%, 口腔病理学50%）に課題レポート（20%）を加えて最終評価とし、65点以上を合格とする。フィードバックとして、実習試験終了後、解説を行う。

7. 教本

北川昌伸ら 編「標準病理学」第7版 医学書院 2023年
下野正基ら 編「新口腔病理学」第3版 医歯薬出版
2021年

高木 實 監修「口腔病理アトラス」第3版 文光堂
2018年

8. 参考書

下野正基ら 監修「新編口腔外科・病理診断アトラス」医歯薬出版 2017年

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号、国：国家試験出題基準、担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	9/5	変性, 代謝障害	硝子変性, 脂肪変性, 黄疸, 痿状動脈硬化症	A-5-2/ 総Ⅲ-1-イ	① ②
2					
3					

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
4 5 6	9/12	壊死、組織の増殖	凝固壊死、融解壊死、肉芽組織	A-5-2,3/ 総III-1-イ,ウ	① ②
7 8 9	9/19	循環障害	出血、うつ血、水腫、梗塞	A-5-4/ 総III-1-オ	〃
10 11 12	9/26	炎症	線維素性炎、化膿性炎、肉芽腫性炎	A-5-5/ 総III-1-カ	〃
13 14 15	10/3	感染症、免疫異常	アスペルギルス症、巨大細胞封入体症、橋本病、結節性多発動脈炎	A-4-1,2/ 総III-1-キ,ク	〃
16 17 18	10/10	腫瘍	上皮性良性腫瘍、上皮性悪性腫瘍、非上皮性良性腫瘍、非上皮性悪性腫瘍	A-5-6/ 総III-1-コ	〃
19 20 21	10/17	実習試験(1) (病理学) 齲歯、歯周炎	エナメル質齲歯、象牙質齲歯、化膿性歯髓炎、開放性歯髓炎	D-3-2/ 総III-2-ア、各II-1-ア、各II-2-ア	〃
22 23 24	10/24	根尖性歯周炎、歯周病、エプーリス	歯根囊胞、プラーカ单独性歯肉炎、慢性歯周炎、エプーリス	D-3-2/ 総III-2-ア、各II-3-ア	〃
25 26 27	10/31	歯原性囊胞	含歯性囊胞、歯原性角化囊胞	D-3-1-5/ 総III-1-ケ、各III-2-オ	〃
28 29 30	11/7	非歯原性囊胞、歯原性腫瘍(1)	鼻口蓋管囊胞、類表皮囊胞、腺腫様歯原性腫瘍、セメント質骨形成線維腫	D-3-1-5,6/ 総III-1-ケ、各III-2-オ、カ	〃
31 32 33	11/14	歯原性腫瘍(2)	濾胞型エナメル上皮腫、網状型エナメル上皮腫、エナメル上皮線維腫	D-3-1-6/ 各III-2-カ	〃
34 35 36	11/21	非歯原性腫瘍	乳頭腫、扁平上皮癌、悪性リンパ腫	D-3-1-6/ 総III-1-コ、各III-1-オ	〃
37 38 39	11/28	粘膜疾患	天疱瘡、口腔扁平苔癬、白斑症(上皮過形成、上皮性異形成)、口腔カンジダ症	D-3-1-4/ 総III-1-コ、各III-2-ア、各III-1-オ、ク	〃
40 41 42	12/5	唾液腺疾患	慢性硬化性唾液腺炎、多形腺腫、腺様囊胞癌、粘液瘤	D-3-1-8/ 総III-2-ア、各III-3-ア	〃
43 44 45	12/12	実習試験(2) (口腔病理学)			〃

口腔感染免疫学Ⅱ（前期・2単位）

D③④B-a2-3701 (D3701)

科目責任者：玉井利代子（感染・教授）

科目担当者：①玉井利代子（感染）、②清浦 有祐（感染）

※この科目は、診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

口腔感染症及び全身感染症の原因となる微生物とその微生物に対するヒトの免疫応答について講義を行う。特に免疫応答については2年次における口腔感染免疫学Ⅰの講義を基に掘り下げて詳しく解説する。さらにヒトの二大口腔感染症である齲歯と歯周病の原因菌とその性状を説明する。

2. 一般目標

口腔感染症及び全身感染症の原因となる微生物とそれに対する免疫応答に関する知識を身につける。具体的には以下のことである。

- 1) 微生物感染に対する免疫応答を理解する。
- 2) 免疫応答に関係する細胞性因子を理解する。
- 3) 免疫応答に関係する液性因子を理解する。
- 4) 齲歯と歯周病の原因菌を理解する。
- 5) 齲歯と歯周病の起こるメカニズムを理解する。

3. 到達目標

- 1) 微生物感染に対する免疫応答を説明する。
- 2) 免疫応答に関係する細胞性因子を説明する。
- 3) 免疫応答に関係する液性因子を説明する。
- 4) 齲歯と歯周病の原因菌を説明する。
- 5) 齲歯と歯周病の起こるメカニズムを説明する。

4. 履修の進め方

講義形式で教科書・配布プリントを使用して履修する。講義中に、学習者に質問し、それに対する応答を求めて授業の理解度を確認する。

5. 準備学修

毎回の講義終了時に次回の講義予定を説明するので当該部分の配布プリント・教科書を読んでおくこと(15分)。

6. 評価方法

定期試験(50点)及び中間試験(50点)で評価する。65点以上を合格とする。定期試験及び中間試験の試験問題はどちらも記述式と多肢選択方式が含まれる。定期試験後に学生全員に模範解答を配布し、学生から意見があれば対応する。追試験は100点満点で採点し、その点数を評価とする。再試験は100点満点で採点し、65点以上は「65点」とする。

7. 教本

口腔微生物学－感染と免疫－ 第7版 学建書院 2021年

8. 参考書

標準微生物学 第14版 医学書院 2021年

9. 授業内容と日程

(コ:コアカリ記号、国:国家試験出題基準、担:担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4/11	補体	補体の種類と活性化経路	A-4-2-1,2/ 必4-ア-g	①
2	4/11	補体	補体産物の役割	A-4-2-1,2/ 必4-ア-g	〃
3	4/18	免疫担当細胞	免疫担当細胞の種類	A-4-2-1,2,3/ 総II-3-ア	②
4	4/18	サイトカインI	サイトカインIの種類	A-4-2-1,2,3/ 必4-ア-g	〃
5	4/25	サイトカインII	サイトカインIIの病態への影響	A-4-2-1,2,3/ 必4-ア-g	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
6	4/25	抗原認識 I	T 細胞による 外来性抗原の 認識	A-4-2-2,3/ 総 II-3-ウ	②
7	5/9	抗原認識 II	T 細胞による 内在性抗原の 認識	A-4-2-2,3/ 総 II-3-ウ	〃
8	5/9	アレルギー I	I 型・II 型ア レルギーのメ カニズム	A-4-2-6/ 総 VII-1-エ-j	〃
9	5/16	アレルギー II	III型・IV型・ V型アレル ギーのメカニ ズム	A-4-2-6/ 総 VII-1-エ-j	〃
10	5/16	免疫寛容	免疫寛容のメ カニズム	A-4-2-5/ 総 VII-1-エ-j	〃
11	5/23	自己免疫疾患 と免疫不全	自己免疫疾患 と免疫不全の メカニズム	A-4-2-6/ 総 VII-1-エ-j	〃
12	5/23	粘膜免疫	粘膜免疫のメ カニズム	A-4-2-4/ 総 II-3-オ	〃
13	5/30	ワクチン I	生ワクチン	A-4-2-7/ 総 II-3-オ-a, b	〃
14	5/30	ワクチン II	不活化ワクチ ン	A-4-2-7/ 総 II-3-オ-a, b	〃
15	6/6	免疫応答の全 体像	免疫応答の全 体像とその役 割	A-4-2-1~7/ 総 II-3-ア~オ	〃
16	6/6	口腔微生物学 概論	口腔微生物の 役割と病原性	A-4-1-5/ 総 II-2-イ-a, b	〃
17	6/13	プラーカの形 成と口腔細菌	口腔細菌のプ ラーカ形成に おける役割	A-4-1-5/ 総 II-2-イ-a, b	〃
18	6/13	口腔レンサ球 菌	口腔内のレン サ球菌の種類 と役割	A-4-1-5/ 総 II-2-イ-a, b	〃
19	6/20	齲歯原性細菌 I	齲歯の原因菌 とその種類	A-4-1-5/ 総 II-2-ア-a	〃
20	6/20	齲歯原性細菌 II	齲歯の発症メ カニズム	A-4-1-5/ 総 II-2-ア-a	〃
21	6/27	歯周病原性細 菌 I	歯周病原性細 菌の種類	A-4-1-5/ 総 II-2-ア-b	〃
22	6/27	歯周病原性細 菌 II	歯周病原性細 菌の病原性	A-4-1-5/ 総 II-2-ア-b	〃
23	7/4	口腔細菌の総 括	口腔細菌の種 類とその役割	A-4-1-5/ 総 II-2-イ-a, b	〃
24	7/4	新型コロナウ イルス感染症	新型コロナウ イルスとその 病原性	A-4-1-2,3/ 各 V-2-エ-k	〃
25	7/11	口腔真菌と原 虫	口腔原虫の病 原性	A-4-1-2,5/ 各 V-2-エ-k	〃
26	7/11	口腔ウイルス I	口腔内のウイ ルスの種類	A-4-1-2,5/ 各 V-2-エ-k	〃
27	7/18	口腔ウイルス II	口腔内のウイ ルスの病原性	A-4-1-2,5/ 各 V-2-エ-k	〃
28	7/18	口腔ウイルス III	口腔内のウイ ルスの感染症	A-4-1-2,5/ 各 V-2-エ-k	〃
29	7/25	口腔真菌・原 虫・ウイルス の総括	口腔内の細菌 以外の微生物 の病原性	A-4-1-2,5/ 各 V-2-エ-k	〃
30	7/25	薬剤耐性菌	抗菌薬に対す る耐性のメカ ニズム	A-4-1-7,9/ 総 III-1-キ-a	〃

口腔感染免疫学実習（前期・1単位）

D③④B-c1-3702(D3702)

科目責任者：玉井利代子（感染・教授）

科目担当者：①玉井利代子（感染）、②清浦 有祐（感染）、
③眞島いづみ（感染）

※この科目は、診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

口腔感染免疫学の講義内容を実際に自分で確認してその理解を深めることで、歯科医師としての日常に応用できる感染免疫学の知識とその手技を修得するために行う。

2. 一般目標

口腔感染症及び全身感染症の原因となる微生物とそれに対する免疫応答に関する知識と技術を身につける。具体的には以下のことである。

- 1) 細菌と真菌の取り扱いに関する手技を習得する。
- 2) 細菌と真菌の基本的な形態を理解する。
- 3) 薬剤の細菌への効果を知ることで、化学療法の原理を理解する。
- 4) 齧歯と歯周病の原因菌の性状を理解する。
- 5) ヒトの生体防御のメカニズムを理解する。

3. 到達目標

- 1) 細菌と真菌の取り扱いに関する手技を説明する。
- 2) 細菌と真菌の基本的な形態を説明する。
- 3) 薬剤の細菌への効果を知ることで、化学療法の原理を説明する。
- 4) 齧歯と歯周病の原因菌の性状を説明する。
- 5) ヒトの生体防御のメカニズムを説明する。

4. 履修の進め方

実習の内容に関する講義を行ってから、実習テキストに従って実習を行っていく。原則として当日の実習結果を指定されたレポート形式で記載して次回の実習時に提出する。

5. 準備学修

毎回の実習終了時に次回の実習予定を説明するので当該部分の配布プリント・教科書を読んでおくこと（15分）。

6. 評価方法

筆記試験と実技試験の成績（40点）、提出されたレポートの採点結果（50点）、出席点（10点）で評価する。65点以上を合格とする。筆記試験及び実習試験終了後、学生全員を対象に解説を行う。レポートは、採点後に記載内容についての講評を学生全員に対して行う。学生から意見があれば対応する。

7. 教本

口腔微生物学－感染と免疫－ 第7版 学建書院 2021年
講義・実習解説書 2024年

8. 参考書

標準微生物学 第14版 医学書院 2021年

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号、国：国家試験出題基準、担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4/11	オリエンテー ション	口腔感染免疫 学実習の特色 とその注意点	A-4-1-1/ 総 III-1-キ-a	① ② ③
2					
3					
4	4/18	グラム染色	細菌のグラム 染色法の理論 とその実技	A-4-1-1/ 総 III-1-キ-a	〃
5					
6					
7	4/25	細菌のコロ ニー	細菌のコロ ニーの観察	A-4-1-1/ 総 III-1-キ-a	〃
8					
9					

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
10	5/9	特殊染色	特殊染色による細菌の染色	A-4-1-1/ 総Ⅲ-1キ-a	① ③
11					
12					
13	5/16	消毒と無菌試験	各種消毒薬に対する細菌の感受性	A-4-1-8/ 必11-エ-a	〃
14					
15					
16	5/23	抗菌薬感受性試験	各種抗菌薬に対する細菌の感受性	A-4-1-7/ 総Ⅶ-8-ウ-c	〃
17					
18					
19	5/30	実習筆記試験	実習内容に関する筆記試験		〃
20					
21					
22	6/6	歯垢細菌	歯垢中の細菌の観察	A-4-1-3/ 必4-イ-c	〃
23					
24					
25	6/13	齲歯原性細菌	齲歯原性細菌の観察	A-4-1-3/ 総Ⅱ-2-イ-a	〃
26					
27					
28	6/20	歯周病原性細菌	歯周病原性細菌の観察	A-4-1-3/ 総Ⅱ-2-イ-a, b	〃
29					
30					
31	6/27	口腔真菌	口腔真菌の観察	A-4-1-3/ 必4-イ-b	〃
32					
33					
34	7/4	抗原抗体反応	ゲル拡散法による沈降反応	A-4-2-2/ 必4-ア-g	〃
35					
36					
37	7/11	口腔微生物のまとめ	口腔微生物の総括	A-4-1-3/ 必4-イ-c	〃
38					
39					
40	7/18	実習実技試験	細菌のグラム染色法の実技試験		〃
41					
42					
43	7/25	実習筆記試験	実習内容に関する筆記試験		〃
44					
45					

歯科薬理学Ⅱ（前期・2単位）

D③④B-a2-3703(D3703)

科目責任者：柴田 達也（薬理・准教授）

科目担当者：①柴田 達也（薬理）、②鈴木 礼子（薬理）、
③長岡 正博（薬理）

※この科目は、診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

歯科薬理学Ⅰ（薬理学総論）では薬物の作用機序、薬物の生体内運命（薬物動態）、薬物の適用方法などを学修した。歯科薬理学Ⅱ（薬理学各論・歯科薬理学）では、全身疾患および歯科疾患の治療に用いられる個々の薬物について作用機序、薬物動態、副作用・相互作用などを学修する。

2. 一般目標

適切な歯科治療計画を立案し、高度な歯科医療を実践するための基盤として

- 1) 全身疾患の治療に用いられる薬物の特徴を理解する。
- 2) 歯科医療現場で使用・処方される薬物の特徴を理解する。

3. 到達目標

- 1) 薬理学各論：神経系、循環器系、呼吸器系、消化器系、血液および造血器、内分泌系、代謝系、免疫系に作用する薬物、抗腫瘍薬の特徴を説明できる。
- 2) 歯科薬理学：歯科医療現場で使用頻度が高い薬物（局所麻酔薬、抗炎症薬、鎮痛薬、抗感染症薬、唾液腺作用薬、神経疾患治療薬、消毒薬）の特徴を説明できる。

4. 履修の進め方

講義主体でスライドと資料を使用して履修する。

5. 準備学修

事前に、各回の授業内容を確認し、教科書の該当部分を読むこと（15分）。授業後は、配布プリントや教科書を見直して、毎回の授業内容を確実にすること（15分）。

6. 評価方法

試験はすべて多肢選択問題で行う。定期試験（50%）と中間試験（50%）で評価し、100点満点で65点以上を合格とする。追試験該当者は、追試験の点数が80点以上でも80点の採点結果とする。再試験該当者は、再試験の点数が65点以上でも65点の採点結果とする。試験のフィードバックは、総合演習3D、科目選択ゼミナールにおける講義や、配布物等により適宜行う。

7. 教本

鈴木邦明 監修 「現代歯科薬理学」第7版 医歯薬出版 2024

伊豆津宏二 他編「今日の治療薬2024」南江堂 2024

8. 参考書

笠原正貴 他編「シンプル歯科薬理学」第3版 永末書店 2023

鈴木邦明 他編「疾病の成り立ち及び回復過程の促進3薬理学」医歯薬出版 2023

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号、国：国家試験出題基準、担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4/8	薬理学各論 1：末梢神経系に作用する薬物①	末梢神経系、神経伝達物質	A-6-2, 3, 4/ 必11コ、総Ⅶ-8-ア, イ	①
2	4/8	薬理学各論 2：末梢神経系に作用する薬物②	自律神経系に作用する薬物、筋弛緩薬	A-6-2, 3, 4/ 必11コ、総Ⅶ-8-ア, イ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
3	4/15	薬理学各論 3:中枢神経系に作用する薬物①	全身麻酔薬、 睡眠薬・抗不安薬、抗てんかん薬	A-6-2, 3, 4/ 必11コ, 総VII-8-ア, イ	①
4	4/15	薬理学各論 4:中枢神経系に作用する薬物②	抗精神病薬、 抗うつ薬、気分安定薬	A-6-2, 3, 4/ 必11コ, 総VII-8-ア, イ	〃
5	4/22	薬理学各論 5:中枢神経系に作用する薬物③	中枢神経系興奮薬、 Parkinson病治療薬、認知症治療薬	A-6-2, 3, 4/ 必11コ, 総VII-8-ア, イ	〃
6	4/22	薬理学各論 6:循環器系に作用する薬物①	高血圧治療薬、 心不全治療薬、 抗不整脈薬	A-6-2, 3, 4/ 必11コ, 総VII-8-ア, イ	〃
7	5/13	薬理学各論 7:循環器系に作用する薬物②	狭心症治療薬、 利尿薬、脂質異常症治療薬	A-6-2, 3, 4/ 必11コ, 総VII-8-ア, イ	〃
8	5/13	薬理学各論 8:呼吸器系、消化器系に作用する薬物	気管支喘息、 COPD治療薬、 鎮咳薬、上部・下部消化管疾患治療薬、肝疾患治療薬	A-6-2, 3, 4/ 必11コ, 総VII-8-ア, イ	〃
9	5/20	薬理学各論 9:血液および造血器系に作用する薬物	貧血治療薬、 止血線溶機構、 抗血栓薬・止血薬	A-6-2, 3, 4/ 必11コ, 総VII-8-ウ	〃
10	5/20	薬理学各論 10:抗腫瘍薬	抗腫瘍薬	A-6-2, 3, 4/ 必11コ, 総VII-8-ウ	〃
11	5/27	薬理学各論 11:内分泌系に作用する薬物	糖尿病治療薬、 性ホルモン関連薬	A-6-2, 3, 4/ 必11コ, 総VII-8-ウ	〃
12	5/27	薬理学各論 12:代謝系に作用する薬物	カルシウム代謝調節機構、 骨粗鬆症治療薬、ビタミン	A-6-2, 3, 4/ 必11コ, 総VII-8-ウ	〃
13	6/3	薬理学各論 13:免疫系に作用する薬物	抗アレルギー薬、免疫抑制薬	A-6-2, 3, 4/ 必11コ, 総VII-8-ウ	〃
14	6/3	薬理学各論 14:まとめ	薬理学各論のまとめ	A-6-2, 3, 4/ 必11コ, 総VII-8-ア, イ, ウ	〃
15	6/10	歯科薬理学 1:局所麻酔薬①	局所麻酔薬総論	A-6-2, 3, 4/ 必11コ, 総VII-8-ア, イ	〃
16	6/10	歯科薬理学 2:局所麻酔薬②	局所麻酔薬各論	A-6-2, 3, 4/ 必11コ, 総VII-8-ア, イ	〃
17	6/17	歯科薬理学 3:抗炎症薬①	炎症の発症機序、ステロイド性抗炎症薬	A-6-2, 3, 4/ 必11コ, 総VII-8-ウ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
18	6/17	歯科薬理学 4:抗炎症薬②	非ステロイド性抗炎症薬	A-6-2, 3, 4/ 必11コ, 総VII-8-ウ	①
19	6/24	歯科薬理学 5:鎮痛薬①	鎮痛薬総論	A-6-2, 3, 4/ 必11コ, 総VII-8-ウ	〃
20	6/24	歯科薬理学 6:鎮痛薬②	鎮痛薬各論	A-6-2, 3, 4/ 必11コ, 総VII-8-ウ	〃
21	7/1	歯科薬理学 7:抗感染症薬①	抗菌薬総論・ 抗菌薬各論1	A-6-2, 3, 4/ 必11コ, 総VII-8-ウ	〃
22	7/1	歯科薬理学 8:抗感染症薬②	抗菌薬各論2、 抗真菌薬・抗ウイルス薬	A-6-2, 3, 4/ 必11コ, 総VII-8-ウ	〃
23	7/8	歯科薬理学 9:消毒薬	消毒薬	A-6-2, 3, 4/ 必11コ	〃
24	7/8	歯科薬理学 10:唾液腺作用薬、漢方薬	口腔乾燥の原因となる薬物、 口腔乾燥症治療薬、歯科における漢方薬	A-6-2, 3, 4/ 必11コ, 総VII-8-ウ	〃
25	7/8	歯科薬理学 11:神経疾患治療薬	神経痛治療薬、 神経麻痺治療薬	A-6-2, 3, 4/ 必11コ, 総VII-8-ウ	〃
26	7/8	歯科薬理学 12:薬物の副作用・有害反応①	薬物の一般的な副作用・有害反応	A-6-2, 3, 4/ 必11コ, 総VII-8-ア, イ ① ② ③	① ② ③
27	7/22	歯科薬理学 13:薬物の副作用・有害反応②	薬物の顎口腔領域に現れる副作用・有害反応	A-6-2, 3, 4/ 必11コ, 総VII-8-ア, イ	〃
28	7/22	歯科薬理学 14:薬物相互作用①	薬力学的相互作用	A-6-2, 3, 4/ 必11コ, 総VII-8-ア, イ	〃
29	7/22	歯科薬理学 15:薬物相互作用②	薬物動態学的相互作用	A-6-2, 3, 4/ 必11コ, 総VII-8-ア, イ	〃
30	7/22	歯科薬理学 16:まとめ	歯科薬理学のまとめ	A-6-2, 3, 4/ 必11コ, 総VII-8-ア, イ	〃

歯科薬理学実習（前期・1単位）

D③④B-c1-3704 (D3704)

科目責任者：鈴木 礼子（薬理・准教授）

科目担当者：①鈴木 礼子（薬理）、②柴田 達也（薬理）、
③長岡 正博（薬理）

※この科目は、診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

コンピュータ・シミュレーションと標本解析を通じて、歯科薬理学Ⅰ・Ⅱの講義で学んだ知識を生きた知識にすることを目的とした実習である。近年、動物愛護の精神を遵守することが強く求められており、たとえ教育目的であっても、動物実験に替わる方法によって目的が達成されるならば、積極的に代替法を採用するべきであるとされている。本実習では、実際の患者のデータや、過去に実施された動物実験のデータを再現できるコンピュータ・シミュレーション、及び、過去に骨粗鬆症モデル動物から採取した標本のデジタルデータを採用する。

2. 一般目標

超高齢社会における歯科医療現場において、個々の患者の背景を理解し、問題と課題を分析し、ニーズを抽出して解決策を立案できるようになるため、また、歯科口腔疾患に対する適切な薬物療法の計画立案と実施ができるようになるために、目の前の客観的データと、学んだ知識を結びつけて論理的に考える姿勢を身につける。

3. 到達目標

- 1) 薬物によって、適した投与方法があることを説明できる。
- 2) 有病者・高齢者における薬物動態の変化について説明できる。
- 3) 骨格筋や腸管平滑筋に作用する薬物を例に、薬物相互作用について説明できる。
- 4) 歯科診療の際に遭遇する機会の多い循環動態の変動に関わる受容体と、それらに作用する薬物について説明できる。
- 5) 卵巣摘出動物の骨形成能の評価を通じて、骨粗鬆症の病態を説明できる。

4. 履修の進め方

実習形式によって履修する。但し、理解を深めるための解説講義・問題演習の回を含む。

5. 準備学修

実習項目について、歯科薬理学Ⅰ及びⅡで使用している教科書や配布プリントの該当箇所を読んで予習しておくこと（30分）。

6. 評価方法

提出課題（40%）と実習内容に関する筆記試験（60%）で評価し、100点満点とする。規定に則り、秀（100～90点）、優（89～80点）、良（79～70点）、可（69～65点）、不可（64点以下）に分類し、秀、優、良、可は合格とし、不可は不合格とする。試験のフィードバックは、解説講義等により適宜行う。

7. 教本

伊豆津宏二 他編 「今日の治療薬 2024」南江堂 2024

8. 参考書

鈴木邦明 監修 「現代歯科薬理学」第7版 医薬学出版
2024

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号、国：国家試験出題基準、担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4/12	薬物動態 1	薬物動態に関する基礎知識の確認	A-6-3/必11-コ、総VII-8-ア, イ	①
2					（）
3					③
4	4/19	薬物動態 2	健康成人の薬物血中濃度シミュレーション	A-6-3/必11-コ、総VII-8-ア, イ	ク
5					
6					
7	4/26	薬物動態 3	腎機能・肝機能低下患者の薬物血中濃度シミュレーション	A-6-3/必11-コ、総VII-8-ア, イ	ク
8					
9					
10	5/10	薬物動態のまとめ	問題演習	A-6-3/必11-コ、総VII-8-ア, イ	ク
11					
12					
13	5/17	薬物相互作用 1	薬力学的薬物相互作用に関する基礎知識の確認	A-6-2-2, 5/必11-コ、総VII-8-ア, イ	ク
14					
15					
16	5/24	薬物相互作用 2	ラット横隔膜の神経-筋標本のシミュレーション	A-6-2-2, 5/必11-コ、総VII-8-ア, イ	ク
17					
18					
19	5/31	薬物相互作用 3	モルモット摘出腸管標本のシミュレーション	A-6-2-2, 5/必11-コ、総VII-8-ア, イ	ク
20					
21					
22	6/7	薬物相互作用のまとめ	問題演習	A-6-2-2, 5/必11-コ、総VII-8-ア, イ	ク
23					
24					
25	6/14	循環器系に作用する薬物 1	血圧と心拍数の調節に関する基礎知識の確認	A-6-2-2, 5/必11-コ、総VII-8-ア, イ	ク
26					
27					
28	6/21	循環器系に作用する薬物 2	麻酔下ラットの血圧と心拍数に影響する薬物のシミュレーション 1	A-6-2-2, 5/必11-コ、総VII-8-ア, イ	ク
29					
30					
31	6/28	循環器系に作用する薬物 3	麻酔下ラットの血圧と心拍数に影響する薬物のシミュレーション 2	A-6-2-2, 5/必11-コ、総VII-8-ア, イ	ク
32					
33					
34	7/5	循環器系に作用する薬物のまとめ	問題演習	A-6-2-2, 5/必11-コ、総VII-8-ア, イ	ク
35					
36					
37	7/12	試験	実習内容（薬物動態、薬物相互作用、循環器系に作用する薬物）に関する筆記試験と解説	A-6-2-2, 5, A-6-3/必11-コ、総VII-8-ア, イ	ク
38					
39					
40	7/19	硬組織の薬理	卵巣摘出動物の骨形成能の評価（標本データの解析）	A-6-2-2/必11-コ、総VII-8-ウ	ク
41					
42					
43	7/26	歯科薬理学実習のまとめ	実習総括	A-6-2-2, 5, A-6-3/必11-コ、総VII-8	ク
44					
45					

生体材料・歯科材料学Ⅱ

(前期・2単位)

D③④B-a2-3705 (D3705)

科目責任者: 石田 喜紀 (材料・准教授)

科目担当者: ①石田 喜紀 (材料), ②大木 達也 (材料),
③齋藤 龍一 (材料), ④覚本 嘉美 (非常勤)

※この科目は、診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

歯科材料には金属材料、無機材料、有機材料、およびこれらを複合した材料があり、印象用、模型用、義歯床用など多様な形で応用されている。生体材料・歯科材料学は、これらの材料の成り立ちの基礎的な理論や特性および実際の取り扱い技術を学習する科目である。総論で物理学、化学、および生物学などの基礎的学力をもとに種々の歯科材料の特徴を学ぶ。各論では臨床で使用される材料であることを踏まえて、材料毎に所要性質、構成成分、その役割、物理化学的および機械的性質などを理解するとともに、それらの取り扱い法について学ぶ。

2. 一般目標

歯科医師となるうえで、治療に必要な機材、材料の知識を当該科目にて学修する。

3. 到達目標

- 1) 歯科修復物を構成する各種の生体材料を説明できる。
- 2) 成形加工に用いる歯科材料と器具の特性および使用法について説明できる。
- 3) さまざまな症例に適応した歯科材料や器具が選定できる。

4. 履修の進め方

要点はプロジェクトを活用し、視覚素材を多用することで極力図案として記憶出来るようにする。また、学生は板書の内容、教科書およびレジュメにて理解を深める。各項目終了後に練習問題を配布し、各学生が自学自習後に知識の確認をさせる。

5. 準備学修

各回の授業内容項目について、教科書の該当部分を読むこと(15分)

授業内容について教科書にある図表を確認する(15分)

6. 評価方法

定期試験(上限100点)、追試験(上限100点)、再試験(上限65点)で評価する。必要に応じて特別試験を行うことがある。試験問題は多肢選択式とする。

7. 教本

中島 裕 他 「スタンダード歯科理工学第7版」 学建書院 2019年

8. 参考書

なし

9. 授業内容と日程

(コ:コアカリ記号、国:国家試験出題基準、担:担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4/9	義歯用材料 - 1	床用アクリルレジンの特性	B-2-2/ 総VIII-6-ア	②
2	〃	義歯用材料 - 2	アクリルレジンによる義歯床の作製方法	B-2-2/ 総VIII-6-ア, 7-ア	〃
3	4/16	義歯用材料 - 3	床用材料の比較	B-2-2/ 総VIII-6-ア, 7-ア	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
4	4/16	義歯用材料 - 4	人工歯とノンクラスプデンチャー	B-2-2/ 総VIII-6-ア, 7-ア, 6-オ	②
5	4/23	義歯用材料 - 5	義歯裏装材、義歯洗浄剤について	B-2-2/ 総VIII-6-ア, 7-ア, 6-カ	〃
6	〃	歯科精密铸造 - 1	歯科用ワックスの成分、特性および使用法	B-3-1/ 総VIII-4-イ, 7-ウ-a	①
7	5/7	歯科精密铸造 - 2	埋没材の種類性質、役割および操作法	B-3-1/ 総VIII-7-ウ-a	〃
8	〃	歯科精密铸造 - 3	歯科精密铸造の基礎理論	B-3-1/ 総VIII-7-ウ-a	〃
9	5/14	歯科精密铸造 - 4	歯科精密铸造の工程と器械	B-3-1/ 総VIII-7-ウ-a	〃
10	〃	歯科精密铸造 - 5	铸造体の製作工程-埋没法、铸造法	B-3-1/ 総VIII-7-ウ-a	〃
11	5/21	歯科精密铸造 - 6	铸造欠陥の成因とその対策	B-3-1/ 総VIII-7-ウ-a	〃
12	〃	歯科精密铸造 - 7	铸造欠陥の成因とその対策	B-3-1/ 総VIII-7-ウ-a	〃
13	5/28	歯冠用材料 - 1	歯科用陶材の臨床応用と所要性質	B-3-4/ 総VIII-6-イ	〃
14	〃	歯冠用材料 - 2	歯科用陶材の理工学的性質	B-3-4/ 総VIII-6-イ	〃
15	6/4	歯冠用材料 - 3	陶材焼付铸造冠の特性と作製法	B-3-4/ 総VIII-6-イ, 7-イ	〃
16	〃	歯冠用材料 - 4	歯科用陶材冠の作製法 - 1	B-3-4/ 総VIII-6-イ, 7-イ, 工	〃
17	6/11	歯冠用材料 - 5	歯科用陶材冠の作製法 - 2	B-3-4/ 総VIII-6-イ, 7-イ, 工	〃
18	〃	歯冠用材料 - 6	硬質レジン前装冠の特性	B-3-4/ 総VIII-6-工, 7-工	〃
19	6/18	歯科用合着材 - 1	歯科用合着材の用途	B-2-3/ 総VIII-9-ア	③
20	〃	歯科用合着材 - 2	歯科用合着材の成分と特性 - 1	B-2-3/ 総VIII-9-ア	〃
21	6/25	歯科用合着材 - 3	歯科用合着材の成分と特性 - 2	B-2-3/ 総VIII-9-ア	〃
22	〃	歯科用合着材 - 4	歯科用合着材の成分と特性 - 3	B-2-3/ 総VIII-9-ア	〃
23	7/2	歯科用合着材 - 5	接着の理論	B-2-3/ 総VIII-9-ア, 8-ウ	〃
24	〃	歯内療法関連材料 - 1	裏層材、覆髓材および根管充填材の特性 - 1	B-2-5/ 総VIII-5-ウ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
25	7/9	歯内療法関連材料-2	裏層材、覆髓材および根管充填材の特性-2	B-2-5/総Ⅷ-5-ウ	③
26	7/9	歯内療法関連材料-3	支台築造用材料	B-2-5/総Ⅷ-5-ウ	〃
27	7/16	生体材料	組織工学用材料の種類と特性	B-2-6/総Ⅷ-11	①
28	〃	歯科用インプラント	歯科用インプラントの概要と理工学的性質	B-2-6/総Ⅷ-11	④
29	7/23	修復物の研磨-1	研磨に関する理論、研磨用工具の種類と特性	B-3-2/総Ⅷ-2	②
30	〃	修復物の研磨-2	切削研磨用機械の種類と特性	B-3-2/総Ⅷ-2	〃

生体材料・歯科材料学実習 (前期・1単位)

D③④B-c1-3706 (D3706)

科目責任者：石田 喜紀（材料・准教授）

科目担当者：①石田 喜紀（材料）、②大木 達也（材料）、
③齋藤 龍一（材料）、④覚本 嘉美（非常勤）、
⑤泉 俊郎（非常勤）

※この科目は、診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

歯科理工学という科目は単に材料の特性や機器の構造を学ぶのみではない。歯科補綴学、保存修復学をはじめ、その他臨床で使用する材料や機器を、化学的法則に基づいてより効率的に取り扱う手法を学ぶことにある。したがって、歯科理工学の実習では講義で学んだ理論を実証し、講義で理解が不十分であったところを実際に自らの手で扱い、目で観察することによってその材料の基本的な性質および正しい使用法を学ぶ。

2. 一般目標

歯科臨床で取り扱う材料と器材を正しく使用するために、その特性と操作法を理解する。

3. 到達目標

- 1) 印象材と模型材の種類および特性を理解し操作できる。
- 2) 義歯床と铸造物について関連材料の特性を理解し、操作法を習得する。
- 3) 切削・研磨用材料の種類および特性を理解する。
- 4) 成形修復材および歯科用セメントの種類と特性を理解し操作できる。
- 5) 金属の熱処理について操作法と性質の変化を理解する。

4. 履修の進め方

実習書を基にビデオ映像や実技のデモなどで説明し、実際に材料・器具に触れる。実習を進めるにあたりチェック項目を設け、各項目で担当教員がチェックを行う。また、知識の習得と技術の向上のために試験を行う。実習中は疑問点を聞き出し解説を行う。また、小試験および総合試験のフィードバックは科目選択ゼミナールなどで解説を行う。

5. 準備学修

実習内容や使用機材を実習書にて確認し、準備することで実習をスムーズに行えるようとする（10分）。また、実習書の各項目に記載されている「実習の目的」について教科書や講義ノートを基にまとめる（10～20分）。

6. 評価方法

①実習の各項目に対するチェック、製作物の提出および評価（40%）、②小試験（MCQ）（20%）、③総合試験（MCQ）と実技試験（40%）により評価する。①+②+③の合計で65点以上を合格とする。

7. 教本

①中島 裕他 編「スタンダード歯科理工学第7版」学建書院 2019

8. 参考書

なし

9. 授業内容と日程

(コ:コアカリ記号, 国:国家試験出題基準, 担:担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4/9	オリエンテーション, 印象材・模型材(1)	器材チェック, 印象用関連機材の操作法	B-3-2/ 総VIII-3-イ	① ⑤
2					↓
3					
4	4/16	印象材・模型材(2)	口腔模型の印象採得と模型製作	B-2-1/ 総VIII-3-イ, エ, オ, 4-ア, イ	〃
5					
6					
7	4/23	印象材・模型材(3)	義歯床用模型の製作	B-2-1/ 総VIII-4-ア	〃
8					
9					
10	5/7	印象材・模型材(4)	支台歯原形の印象採得と作業用模型製作	B-2-1/ 総VIII-3-イ, エ, オ, 4-ア, イ	〃
11					
12					
13	5/14	床用レジン-1	ワックスパターンの作製, 人工歯の配列	B-3-1/ 総VIII-4-イ, 6-オ	〃
14					
15					
16	5/21	床用レジン-2	埋没と流ロウ	B-2-2/ 総VIII-7-ア	〃
17					
18					
19	5/28	床用レジン-3	レジン混和物の填入と重合	B-2-2/ 総VIII-7-ア	〃
20					
21					
22	6/4	床用レジン-4	適合性の測定と重合体の研磨	B-2-2/ 総VIII-2-ア, イ, 6-ア	〃
23					
24					
25	6/11	歯科精密铸造-1	ワックスパターンの製作	B-3-1/ 総VIII-4-イ	〃
26					
27					
28	6/18	歯科精密铸造-2	ワックスパターンの埋没	B-2-1/ 総VIII-7-ウ	〃
29					
30					
31	6/25	歯科精密铸造-3	铸造操作と铸造体の掘り出し, 小試験①	B-2-1/ 総VIII-7-ウ	〃
32					
33					
34	7/2	歯科精密铸造-4	適合性の測定と铸造体の研磨	B-2-1/ 総VIII-2-ア, イ, 6-ウ	〃
35					
36					
37	7/9	成形修復材	成形修復材の充填と硬さの測定	B-2-1/ 総VIII-5-ア, 7-ア	〃
38					
39					
40	7/16	合着用セメント, 金属の熱処理	セメントの被膜厚さの測定, 鑄造体の熱処理, 小試験②	B-2-3/ 総VIII-7-ウ, 9-ア	〃
41					
42					
43	7/23	実習試験	総合試験, 実技試験	B-2-1~3, B-3-1~4/ 総VIII-2~9	〃
44					
45					

口腔衛生学 (後期・2単位)

D③B-a2-3513(D3513)

科目責任者: 廣瀬 公治 (衛生・教授)

科目担当者: ①廣瀬 公治 (衛生), ②小林美智代 (衛生), ③南 健太郎 (衛生)

※この科目は、診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

口腔衛生学は、他の臨床歯科医学と異なり、学問の出発点が疾病ではなく健康にあること、そして、その対象を集団を主としているところに大きな特徴を持つ。また、歯科医師法第1条にあるように、歯科医師は保健指導を掌り、公衆衛生の向上・増進に寄与するとある。よって、この基礎となる本科目では、前期では主に2年生で履修した衛生学の応用的内容を実施することでより実践的な地域保健について学ぶ。そして後期は主に口腔疾患の予防を目的とした予防歯科学について学ぶ。

2. 一般目標

歯科医師として具備すべき公衆衛生学・口腔衛生学の知識を履修し、地域口腔保健支援及び予防歯科診療を根拠に基づき適切に対応できる基礎を修得する。

3. 到達目標

- 1) 健康の概念と予防の段階を理解している。
- 2) 疫学の研究方法とその活用を理解している。
- 3) 感染症の成り立ちと予防対策を理解している。
- 4) 公害や地球環境破壊と健康との関りを理解している。
- 5) 食品衛生と栄養摂取基準を理解している。
- 6) 人口構造の変化と疾病構造との関連を理解している。
- 7) 地域保健法と健康増進法の実施事業等について理解している。
- 8) 地域保健(母子・学校・成人・老人・産業・精神・障害者)のあらましを理解している。
- 9) 口腔疾患の成り立ちとその予防法を理解している。
- 10) 口腔疾患の予防をライフコースアプローチの視点をもって理解している。
- 11) 國際保健協力機構について理解している。
- 12) 口腔疾患の成り立ちと予防法を理解している。
- 13) 口腔保健支援活動の実施内容と方法およびその法的枠組みを理解している。
- 14) 國家統計とその活用方法を理解している。

4. 履修の進め方

教科書を傍用した講義で履修する。

5. 準備学修

シラバスを参照し、教科書の該当頁を読んでおくこと(15分)。

6. 評価方法

定期試験が65点以上で合格とする。定期試験を欠席した者及び65点未満の者には追・再試験を行い、その得点が65点以上で合格とする。試験形式は多肢選択式問題及び計算問題とする。追試験は素点を評価点とする。再試験は65点以上を65点として評価する。

7. 教本

末高武彦 他 編 スタンダード衛生学・公衆衛生学 学建書院 2022

安井利一 他 編 口腔保健・予防歯科学 医薬出版社 2023

8. 参考書

医療情報科学研究所 編 公衆衛生がみえる メディックメディア 2023

9. 授業内容と日程

(コ:コアカリ記号, 国:国家試験出題基準, 担:担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	9/4	口腔衛生学概論	健康の定義, 健康保持増進対策, PHC と HP, 国際保健協力, 健康増進法と健康日本21(第二次), 健康の社会的決定要因, ICF, 地域健康指標	C-4-1, C-5-2, 3, 5, C-6-2-3/, 必2-ア, 必3-ア, 総I-1-ア	①
2	9/4	疫学	疫学の概念と疫学要因, 交絡とバイアス, 疾病・死亡の指標, 記述疫学	C-6-1-1/, 総I-6-ア, イ	〃
3	9/11	疫学	患者対照研究, コホート研究, 生態学的研究	C-6-1-1/, 総I-6-ア, イ	〃
4	9/11	疫学	介入研究(RCT)とEBM, メタアナリシス, システマティックレビュー, スクリーニングテスト	C-6-1-1, 2/, 総I-6-ア, イ	〃
5	9/18	疫学	スクリーニングテスト	C-6-1-2/, 総I-6-ア	〃
6	9/18	疾病予防と健康管理	疾病の自然史と予防の3相5段階, 感染症の予防, 感染症関連法規, 院内感染予防, B型肝炎訴訟, NCD 予防対策	C-5-1, 4/, 必2-ア, 総I-1-ア, 総I-7-ア	〃
7	9/25	疾病予防と健康管理, 環境衛生	地球環境破壊と保全条約, 典型公害(水俣病, イタイタイ病, 四日市ぜんそく)	C-4-5/, 総I-9-ア	〃
8	9/25	食品衛生	食中毒	総I-8-ア, イ	〃
9	10/2	地域保健	地域保健法(保健所と市町村保健センター), 健康増進法と市町村保健事業, 精神保健, 歯科口腔保健の推進に関する法律	C-4-3-1/, 必3-イ, 総I-1-エ, オ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
10	10/2	地域保健	地域保健の進め方(ポピュレーションアプローチとハイリスクアプローチ), ライフコースアプローチ, PDCAサイクル, 費用効果分析, 費用便益分析, 費用効用分析	C-4-3-1/, 必3-イ, 総I-1-エ, オ	①
11	10/9	母子保健	母子保健法, 児童虐待	C-4-3-1, 2, 4, 5/, 必3-イ, 総I-2-ア	②
12	10/9	母子歯科保健	妊娠婦歯科健康診査, 1歳6か月児歯科健康診査, 3歳児歯科健康診査	C-4-3-1, 2/, 必3-イ, 総I-2-ア	〃
13	10/16	学校保健	学校保健安全法, 学校保健活動, 学校保健の3管理, 学校保健関係者, 学校歯科医の職務の準則	C-4-3-1/, 必3-イ, 総I-2-イ	〃
14	10/16	学校歯科保健	学校保健管理, 学校歯科健康診断	C-4-3-1/, 必3-イ, 総I-2-イ	〃
15	10/23	産業保健	労働安全衛生法, 労働衛生3管理	C-4-3-1, C-5-7/, 必3-イ, 総I-2-ウ	①
16	10/23	産業保健	トータルヘルスプロモーションプラン, 職業性疾患	C-4-3-1/, 必3-イ, 総I-2-ウ	〃
17	10/30	産業歯科保健 国際保健協力	産業歯科医による特殊健康診断, 労働者災害補償保険, SDGs, JICA, ODA, UHC	C-4-3-2, C-7-3, 4, 5/, 必3-イ, 総I-2-ウ, 総I-4-ア	〃
18	10/30	成人・老人歯科保健	健康増進法事業, 特定健康診査における標準的な質問票, 介護予防の基本チェックリスト, オーラルフレイル, 禁煙支援	C-4-3-4, 5/, 必3-イ, 総I-2-エ, オ, カ	②

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
19	11／6	国家統計	歯科疾患実態調査、国民生活基礎調査、患者調査、医師・歯科医師・薬剤師調査、国民健康・栄養調査、ICD	C-6-2-2／ 総 I-6-ウ	②
20	11／6	口腔環境	口腔の発育と唾液の機能、口腔内不潔物(ペリクル)	C-4-3-1／ 必3-ウ, エ, 総 II-2-イ, 各 II-ア	①
21	11／13	口腔環境	口腔内不潔物(ブラーク、歯石、色素沈着、マテリアアルバ)		〃
22	11／13	歯口清掃	ブラッシング法、歯磨剤	D-3-2-1, 4, D-5-1-1～6／ 必3-ウ, エ	〃
23	11／20	歯科疫学指標	歯口清掃関連指標(OHI, OHI-S, PHP, PCR, PII)	C-6-1-3／ 総 I-6-エ	③
24	11／20	歯科疫学指標	硬組織関連指標(DMF, CFI, 鹫歯抑制率, RCI)	C-6-1-3／ 総 I-6-エ	〃
25	11／27	歯科疫学指標	歯周組織関連指標(CPI, PMA, GI)、その他(DAI)	C-6-1-3／ 総 I-6-エ	〃
26	11／27	鶴歯の予防	鶴歯の疫学、鶴歯病因論、鶴歯活動性試験	C-6-1-3, D-5-1-4-5／ 総 I-6-エ, 各 II-1-ア, イ	②
27	12／4	鶴歯の予防	フッ化物の基本、フッ化物の応用	D-5-1-2／ 必3-ウ, 各 II-1-イ	〃
28	12／4	鶴歯の予防	フッ化物の応用と急性・慢性フッ素中毒、フィッシャーシーラント	D-5-1-2／ 必3-ウ, 各 II-1-イ	〃
29	12／11	歯周病の予防	歯周病の原因と修飾要因、歯周病と全身疾患、喫煙の害	D-5-1-1, D-5-2-3-1／ 各 II-3-ア, イ	①
30	12／11	口臭の予防	口臭の原因と予防・治療	D-5-1-1／ 必9-オ, 総 VI-1-ア, 各 III-3-イ, 各 III-5-イ	〃

口腔衛生学実習（後期・1単位）

D③B-c1-3514(D3514)

科目責任者：廣瀬 公治（衛生・教授）

科目担当者：①廣瀬 公治（衛生）、②瀬川 洋（衛生）、
③南 健太郎（衛生）、④小林美智代（衛生）、
⑤相馬 親良（非常勤）

※この科目は、診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

本実習では、人間の健康に影響を与える環境要因の測定と、地域歯科保健活動の主軸をなす歯科疫学指標の収集の実際と、さらには予防歯科臨床で多用される小窩裂溝填塞とフッ化物応用について実技を通してその基本を習得することを目的に実施する。

2. 一般目標

環境要因を測定するための基本的技能と、集団における口腔疾患の状況を正しく分析・評価し、疾病予防の方策を立案するための基本的技能を習得する。

3. 到達目標

- 1) 環境測定を行い評価できる。
- 2) 口腔内を適切な指標で評価できる。
- 3) 口腔清掃状況を評価し適切な指導を実施できる。
- 4) フッ化物応用と小窩裂溝填塞の基本的手技を実施できる。
- 5) 統計分析の意義を説明し解析を実施できる。
- 6) 各測定資料から個人及び集団の口腔内状況を評価し予防対策を立案できる。
- 7) 実習で習得したことをスライドにまとめ発表できる。

4. 履修の進め方

実習実技についての説明、実技を取り入れた実習及び実習成果のスライドを作成し発表、この3つを柱として履修する。

5. 準備学修

実習項目に関連する項目について、実習書、教科書及び講義ノートを読むこと（15分）。

6. 評価方法

出席（10%）、レポート（20%）、効果測定（70%）の合計で65点以上を合格とする。

出席点は次に定める方法に従う。

45回全出席：10点

42回出席：6点

39回出席：3点

36回出席：0点

35回以下：未修了

7. 教本

荒川浩久 他 編 「生活と健康－測定と評価法－」 学建書院 2021.

8. 参考書

末高武彦 他 編 スタンダード衛生学・公衆衛生学 学建書院 2022

安井利一 他 編 口腔保健・予防歯科学 医歯薬出版 2023

9. 授業内容と日程

(コ:コアカリ記号, 国:国家試験出題基準, 担:担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	9/4	環境衛生実習 オリエンテーション	環境衛生実習 概説	C-4-5/ 総 I-9-ア	① ⑤
2					②
3					③
4	9/11	1. 水の衛生 2. 空気の衛生 3. 騒音と疲労	3グループ編成で、1~3の内容を3週ローテーションで行う。	C-4-5/ 総 I-9-ア	〃
5					
6					
7	9/18	1. 水の衛生 2. 空気の衛生 3. 騒音と疲労	3グループ編成で、1~3の内容を3週ローテーションで行う。	C-4-5/ 総 I-9-ア	〃
8					
9					
10	9/25	1. 水の衛生 2. 空気の衛生 3. 騒音と疲労	3グループ編成で、1~3の内容を3週ローテーションで行う。	C-4-5/ 総 I-9-ア	〃
11					
12					
13	10/2	環境衛生実習 効果測定	効果測定	C-4-5/ 総 I-9-ア	〃
14					
15					
16	10/9	予防歯科実習 オリエンテーション	予防歯科実習 概説	D-5-1/ 必3-ウ, エ, 各 II-1-イ	〃
17					
18					
19	10/16	齲蝕活動性試験	宿主要因と寄生体要因についての検査	D-5-1/ 必3-ウ, エ, 各 II-1-イ	〃
20					
21					
22	10/23	1. 小窓裂溝 填塞 2. フッ化物 基礎実習	2グループ編成で1, 2の内容をローテーションで行う	D-5-1/ 必3-ウ, エ, 各 II-1-イ	〃
23					
24					
25	10/30	口腔診査(硬組織), DMF 関連, 計算演習	DMF 関連指標	C-6-1-3/ 必9-ア, 総 I-6-イ	〃
26					
27					
28	11/6	口腔診査(歯周組織), 歯周組織関連指標, 計算演習	PMA, GI	C-6-1-3/ 必9-ア, 総 I-6-イ	〃
29					
30					
31	11/13	口腔診査(歯口清掃)	OHI, OHI-S, PHP, PCR, PII	C-6-1-3/ 必9-ア, 総 I-6-イ, ウ 各 II-1-イ	〃
32					
33					
34	11/20	保健統計演習	疫学統計実習	C-6-2, 4/ 総 I-6-イ, ウ	④
35					
36					
37	11/27	口腔内総合評価(個人・集団)演習	総合評価	D-5-1/ 必3-ウ, エ, 総 I-6-イ, 各 II-1-イ	① ⑤
38					②
39					③
40	12/4	口腔内総合評価効果測定	効果測定	C-6-2, 4, D-5-1/ 必3-ウ, エ, 総 I-6-イ, ウ, 各 II-1-イ	〃
41					
42					
43	12/11	全実習の総括 および再効果測定	統括演習, 再効果測定	実施全範囲	〃
44					
45					

保存修復学 I (後期・2単位)

D③④C-a2-3802(D3802)

科目責任者: 山田 嘉重 (修復・教授)

科目担当者: ①山田 嘉重 (修復), ②菊井 徹哉 (修復)

※この科目は、診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

齲蝕、歯の破折および摩耗などにより生じた自然治癒しない硬組織実質欠損に対して、病変の進行を阻止して歯の生理学的機能を回復させるとともに、審美的にも調和する生体親和性のある修復方法を研究する分野が保存修復学である。

保存修復学 I では総括的項目や各種修復法に共通する原理と技術、特に齲蝕の診断、処置方法、窩洞形成の理論ならびにその問題点を講義する。板書、スライド、配布資料を用いた講義が主体となる。

2. 一般目標

齲蝕、非齲蝕性硬組織疾患による実質欠損を適切に治療するため、基礎知識として疾患の診断と処置方法、窩洞および各種修復方法に共通する原理や基本的技術の理論を習得する。ディプロマ・ポリシーの2:探求力と解決力、4:知識と診断能力を養い各種硬組織疾患の診断や処置法など歯科治療の基礎となる項目を確実に履修することを目標とする。

3. 到達目標

- 1) 齲蝕、非齲蝕性硬組織疾患の病因と病態が説明できる。
- 2) エナメル質齲蝕、象牙質齲蝕、根面齲蝕の診査方法および治療方法が説明できる。
- 3) 切削機器、器具の名称と用途が説明できる。
- 4) 窩洞の分類、特徴および形成方法が説明できる。
- 5) 象牙質知覚過敏症、変色歯、破折歯の処置法が説明できる。
- 6) 歯髓障害の原因と対策を説明できる。
- 7) コンポジットレジン修復法の特徴・適応症や処置手順が説明できる。
- 8) グラスアイオノマーセメント修復法の特徴・適応症や処置手順が説明できる。

4. 履修の進め方

- 1) 講義は教科書の内容をシラバスの予定に従って行う。
- 2) 板書、スライド、配布資料等を使用して教科書の内容をよりわかりやすく解説する。
- 3) 学生は板書、スライドおよび配付資料に沿って独自に授業ノート等を作成し、要点および追加事項を記入する。
- 4) 学生は理解が不十分な点について、適宜教員に質問して理解を深める。
- 5) 学生の授業の予習・復習の確認のため、授業の前後で小試験を行うこともある。

5. 準備学修

シラバスを確認して、授業内容について事前に教科書を用いて予習を行う(30分)。授業終了後、講義ノートや配布資料を用いてその日のうちに当日の講義内容の要点をノートにまとめて復習する(30分から1時間程度)。

6. 評価方法

定期試験で評価する。定期試験(MCQ形式40~50問)で65点以上の得点で合格とする。

追・再試験については、追試験は上限100点、再試験は上限65点とし、追・再試験ともに65点以上の得点で合格とする。

7. 教本

田上順次、奈良陽一郎、山本一世、斎藤隆史(編)「保存修復学21 第6版」 永末書店 2022年版

8. 参考書

千田 彰, 宮崎真至, 林美加子, 向井義晴, 斎藤隆史 (編)
「保存修復学 第7版」医歯薬出版 2019年版

9. 授業内容と日程

(コ:コアカリ記号, 国:国家試験出題基準, 担:担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	9/2	保存修復法概論①	保存修復学の概念と目的, 歴史, 修復材料の一般的な性質, 治療器械の変遷	D-3-2-1/必-12-ア, 総VIII-2-ア	①
2	9/2	保存修復法概論②	保存修復の種類と適応症, 歯の構造と機能, 硬組織の加齢に伴う変化	D-3-2-1/総II-5-ア-c, 総II-7-エ-a,	〃
3	9/9	硬組織疾患①	齲蝕の病因と病態①, エナメル質齲蝕・象牙質齲蝕	D-3-2-1/必-6-イ-a, 総III-2-ア-b, 各II-1-ア-a	〃
4	9/9	硬組織疾患②	齲蝕の病因と病態②, 根面齲蝕・二次齲蝕	D-3-2-1/必-6-イ-a 総III-2-ア-b, 各II-1-ア-a	〃
5	9/30	硬組織疾患③	非齲蝕性硬組織疾患, 変色歯, 象牙質知覚過敏	D-3-2-1/必-7-イ-b 総III-2-ア-b, 各II-1-ア-d	②
6	9/30	診断と治療計画①	医療面接, 硬組織疾患の検査法, 問題点の抽出	E-5-3-1/総V-1-ア, VI-1-ア-a, 各-4-2-ア, 各-4-2-エ	〃
7	9/30	診断と治療計画②	治療計画, インフォームドコンセント	E-5-3-1/総VII-1-ア, 各-4-2-ア, 各-4-2-エ	〃
8	9/30	硬組織切削	診療設備, 姿勢, 切削器具, 医療用レーザー等	B-3-2/総VIII-2-ア-b, 総-7-9-エ, 各II-1-ア-a	〃
9	10/7	齲蝕の処置①	初期エナメル質齲蝕, エナメル質齲蝕の処置法	E-5-3-1/必-11-ケ-b, 総-7-2-ア-b, 各II-1-ウ-a	①
10	10/7	齲蝕の処置②	象牙質齲蝕, 根面齲蝕の処置法	E-5-3-1/必-11-ケ-b, 総-7-2-ア-b, 各II-1-ウ-a	〃
11	10/21	窩洞①	窩洞の分類, 窩洞の構造と各部の名称, 窩洞の具備すべき条件①	E-5-3-1/必-11-ケ-b, 総-7-2-ア-b, 各II-1-ウ-a	②
12	10/21	窩洞②	窩洞の具備すべき条件②, 接着性修復と非接着性修復での窩洞の違い	E-5-3-1/必-11-ケ-b, 総-7-2-ア-b, 各II-1-ウ-a	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
13	10/28	修復時の留意点①	象牙質・歯髄複合体の保護, 裏層・覆髄および仮封	B-2-1/必-11-ケ-b, 総-7-2-ア-b, 各II-1-ウ-a	①
14	10/28	修復時の留意点②	修復物の具備すべき条件	B-2-1/必-11-ケ-b, 総-7-2-ア-b, 各II-1-ウ-a	〃
15	10/28	齲蝕の処置③	回転切削器具を使用しない齲蝕処置	E-5-3-1/必-11-ケ-b, 総-7-2-ア-b, 各II-1-ウ-a	〃
16	10/28	非齲蝕性硬組織疾患の処置①	くさび状欠損, 咬耗症	E-5-3-1/必-11-ケ-b, 総-7-2-ア-b, 各II-1-ウ-a	〃
17	11/11	非齲蝕性硬組織疾患の処置②	摩耗症, 酸蝕症, 象牙質知覚過敏症	E-5-3-1/必-11-ケ-b, 総-7-2-ア-b, 各II-1-ウ-a	〃
18	11/11	非齲蝕性硬組織疾患の処置③	変色歯, 形成異常, 破折歯の処置	E-5-3-1/必-11-ケ-b, 総-7-2-ア-b, 各II-1-ウ-a	〃
19	11/18	直接修復①	従来型グラスアイオノマーセメント修復①	E-5-3-1-3/必-11-ケ-b, 総VIII-5-ア-b, 各II-1-ウ-a	〃
20	11/18	直接修復②	従来型グラスアイオノマーセメント修復②	E-3/必-11-ケ-b, 総-7-2-ア-b, 各II-1-ウ-a	〃
21	11/25	歯冠修復法各論	歯冠修復方法の分類・特徴, 治療の前準備・修復補助法	E-5-3-1/各II-1-ウ-a	②
22	11/25	歯科の接合技術①	歯科用セメントの種類と用途	B-2-4/必-11-セ-f, 総VIII-8, 各II-1-ウ-a	〃
23	11/25	歯科の接合技術②	歯質接着システムの分類と接着補助材	B-2-4/必-11-セ-f, 総VIII-8, 各II-1-ウ-a	〃
24	11/25	直接修復③	コンポジットレジン修復①	E-5-3-1-1/必-11-ケ-b, 総VIII-5-ア-a, 各II-1-ウ-a	〃
25	12/2	直接修復④	コンポジットレジン修復②	E-5-3-1-1/必-11-ケ-b, 総VIII-5-ア-a, 各II-1-ウ-a	〃
26	12/2	直接修復⑤	コンポジットレジン修復③	E-5-3-1-1/必-11-ケ-b, 総VIII-5-ア-a, 各II-1-ウ-a	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
27	12／9	直接修復⑥	コンポジット レジン修復④ E-5-3-1-1/ 必-11-ケ-b, 総VIII-5-ア-a, 各II-1-ウ-a	E-5-3-1-1/ 必-11-ケ-b, 総VIII-5-ア-a, 各II-1-ウ-a	②
28	12／9	直接修復⑦	コンポジット レジン修復⑤ E-5-3-1-1/ 必-11-ケ-b, 総VIII-5-ア-a, 各II-1-ウ-a	E-5-3-1-1/ 必-11-ケ-b, 総VIII-5-ア-a, 各II-1-ウ-a	〃
29	12／9	直接修復⑧	レジン添加型 グラスアイオ ノマーセメン ト修復① E-5-3-1-3/ 必-11-ケ-b, 総VIII-5-ア-b, 各II-1-ウ-a	E-5-3-1-3/ 必-11-ケ-b, 総VIII-5-ア-b, 各II-1-ウ-a	〃
30	12／9	直接修復⑨	レジン添加型 グラスアイオ ノマーセメン ト修復② E-3/ 必-11-ケ-b, 総-7-2-ア-b, 各II-1-ウ-a	E-3/ 必-11-ケ-b, 総-7-2-ア-b, 各II-1-ウ-a	①

冠橋義歯補綴学 I (後期・1単位)

D③④C-al-3803(D3803)

科目責任者：羽鳥 弘毅（冠橋・教授）

科目担当者：①羽鳥 弘毅（冠橋）

※この科目は、診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

冠橋義歯補綴は歯科治療の中でも高頻度な治療方法であることから、安全かつ確実な治療を施すためには、顎口腔系総合器官の機能や形態に関する知識の修得のみならず、使用する機械の特徴や材料の性質についても把握する必要があり、かつ歯学全般の幅広い知識と熟練した技能が必要とされる。そこで、冠橋義歯補綴学 I では冠橋義歯の歴史と総論およびクラウンの種類、ブリッジの種類と構成などについて教授する。

2. 一般目標

歯冠部歯質欠損および少数歯欠損による咬合・咀嚼障害や審美障害を治療できるようになるために、クラウンおよびブリッジを応用した補綴法に必要な知識を修得する。

3. 到達目標

- 1) クラウンブリッジの歴史を説明する。
- 2) 冠橋義歯補綴学の意義と目的を説明する。
- 3) クラウンブリッジの要件を説明する。
- 4) クラウンの種類を説明する。
- 5) ブリッジの種類と構成を説明する。
- 6) インフォームドコンセントの考え方と成立要件を説明できる。
- 7) 冠橋義歯補綴治療に先立ち実施する前処置を説明できる。
- 8) 支台歯形成の目的と原則、手順を説明できる。

4. 履修の進め方

教科書を中心としたスライドによる視覚素材を用いて講義する。理解度を確認するために適宜試験問題を配付する。この試験問題の解答はユニバに掲示する。

5. 準備学修

予習として、シラバスを確認して、次回の講義内容について教科書を読むこと。(30分)

復習として、教科書とスライドデータを確認して講義内容を十分に理解すること。(60分)

6. 評価方法

後期の定期試験において点数が65点以上を合格とする。定期試験は多肢選択式問題と記述式問題の筆記試験とする。追試験を実施する場合は点数の上限を90点とする。点数が65点未満の場合には再試験を行う。点数が65点未満の再試験該当者は、再試験の点数が65点以上でも65点の採点結果とする。

7. 教本

矢谷博文ら 編「クラウンブリッジ補綴学第6版」医歯薬出版

石橋寛二ら 編「クラウンブリッジテクニック第2版」医歯薬出版

8. 参考書

なし

9. 授業内容と日程

(コ：コアカリ記号、国：国家試験出題基準、担：担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	9／4	クラウンブ リッジ補綴学 の意義と目的	クラウンブ リッジ補綴学 の目的と意義、 利点と欠点	E-5-3/ 各IV-3-ア	①

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
2	9/11	咬合・歯周組織の正常像	咬合・歯周組織の正常像	E-5-3/ 必5-ア	①
3	9/18	咬合・咬合異常・咀嚼障害	咬合・咬合異常・咀嚼障害	E-5-3/ 各IV-1-ア, イ,ウ,エ,オ	〃
4	9/25	診察・診断	医療面接と診察、検査	E-5-3/ 各IV-2-ア, イ,ウ	〃
5	10/2	治療計画を左右する因子	口腔内因子、全身的因子、社会・心理学的因子	E-5-3/ 各IV-2-エ	〃
6	10/9	クラウンブリッジの要件	生物学的・機能的・力学的・審美的・材料学的要件	E-5-3/ 各IV-3-ア	〃
7	10/16	クラウンの種類①	全部被覆冠の種類と分類	E-5-3/ 各IV-3-ア	〃
8	10/23	クラウンの種類②	部分被覆冠の種類と分類	E-5-3/ 各IV-3-ア	〃
9	10/30	ブリッジの種類と構成	ブリッジの臨床的意義、適応症、種類、構成要素	E-5-3/ 各IV-3-ア	〃
10	11/6	クラウンブリッジの設計	支台歯、欠損歯、支台装置とポンティックの選択	E-5-3/ 各IV-3-ア	〃
11	11/13	インフォームドコンセント前処置①	基本理念、プロセス、治療の選択 予防的・外科的処置	E-5-3/ 必1-イ, 各IV-3-イ	〃
12	11/20	前処置②	保存的・矯正的・補綴的処置	E-5-3/ 各IV-3-イ	〃
13	11/27	支台歯形成①	支台歯形成の目的と原則、支台歯の基本形態	E-5-3/ 各IV-3-イ	〃
14	12/4	支台歯形成②	全部被覆冠の支台歯形成	E-5-3/ 各IV-3-イ	〃
15	12/11	支台歯形成③ 感染予防	部分被覆冠の支台歯形成 治療における感染対策	E-5-3/ 各IV-3-イ	〃

有床義歯補綴学 I (前期・3単位)

D③④C-a3-3804 (D3804)

科目責任者：高津 匠樹（有床・教授）

科目担当者：①高津 匠樹（有床）、②松本 知生（有床）、
③池田 敏和（有床）、④内山 梨夏（有床）、
⑤田中みか子（非常勤）

※この科目は、診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

有床義歯には歯の部分欠損に対する部分床義歯と全部欠損（無歯顎）に対する全部床義歯がある。有床義歯補綴学 I では全部床義歯補綴学を学習する。全部床義歯は上下顎の一方または両方の歯を喪失した症例に対して装着される義歯で、人工歯列を付与することにより顎顔面および口腔の形態、機能、審美性を回復するとともに、患者の健康を維持・増進する補綴装置である。ここでは、全部床義歯を製作・装着するための理論を学ぶ。

2. 一般目標

無歯顎患者の健康を維持・増進させるために、全部床義歯の臨床的意義を理解し、全部床義歯を製作・装着するための知識を修得する。

3. 到達目標

- 1) 無歯顎の特徴を説明する。
- 2) 全部床義歯の維持力発現の因子を説明する。
- 3) 全部床義歯の製作過程を説明する。
- 4) 無歯顎の診察・検査・診断法および治療計画の立て方を説明する。
- 5) 前処置の内容と方法を説明する。
- 6) 全部床義歯の維持・支持に関する要因を説明する。
- 7) 全部床義歯の製作過程における理論を説明する。
- 8) 全部床義歯に付与する咬合の理論と平衡咬合を得るための削合を説明する。
- 9) 全部床義歯のメインテナンスに対する考え方を説明する。
- 10) 全部床義歯装着後の異常経過と疾病を説明する。

4. 履修の進め方

講義室において、スライド、プリントなどを用い、講義を中心とした学習を行う。

5. 準備学修

予習：有床義歯補綴学に関連する基礎科目として、口腔解剖学、口腔生理学、生体材料学の講義・実習を通して学んだ内容を復習して講義に臨む。(30分)

復習：講義内容を当日中に必ず復習し、講義中に指示のあった箇所および理解が不十分な項目については講義ノート、配布資料、教科書により自己学習を行う。(60分以上)

6. 評価方法

毎授業の小テストで形成的評価を行う。総括的評価は、中間試験（40%）と前期定期試験（60%）で行う。中間試験と前期定期試験は、筆記試験および選択式試験で行う。なお、履修態度に応じて10%を上限として加点をする。追試験対象者は80点を、再試験対象者は65点を、それぞれ上限として評価する。

7. 教本

市川哲雄 他編：無歯顎補綴治療学 第4版 医歯薬出版 2022

8. 参考書

日本補綴歯科学会編：歯科補綴学専門用語集 第6版 医歯薬出版 2023

9. 授業内容と日程

(コ:コアカリ記号, 国:国家試験出題基準, 担:担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4/10	無歯顎の特徴	無歯顎の成り立ちと無歯顎の持徴を学ぶ	D-5-3-2/ 総VII-2	①
2	4/10	全部床義歯の特徴	全部床義歯の構成要素と特徴を学ぶ	D-5-3-2/ 各IV-5	〃
3	4/10	全部床義歯の製作過程1	全部床義歯の製作過程・製作手順を学ぶ	D-5-3-2/ 各IV-5	〃
4	4/17	全部床義歯の物理的維持	全部床義歯の維持をもたらす物理的因素を学ぶ	D-5-3-2/ 各IV-5	〃
5	4/17	全部床義歯の解剖学的維持	全部床義歯の維持をもたらす解剖学的因素を学ぶ	D-5-3-2/ 各IV-5	〃
6	4/17	全部床義歯の支持と安定	全部床義歯の支持と安定に影響を及ぼす因子を学ぶ	D-5-3-2/ 各IV-5	〃
7	4/24	無歯顎の診察・検査	無歯顎の診察・検査項目を学ぶ	D-5-3-2/ 各IV-5	③
8	4/24	無歯顎の診断基準と治療計画	無歯顎の診断基準と治療計画立案を学ぶ	D-5-3-2/ 各IV-5	〃
9	4/24	前処置	無歯顎補綴治療の前処置を学ぶ	D-5-3-2/ 各IV-5	〃
10	5/8	無歯顎の印象採得	印象材の種類と印象法の分類を学ぶ	D-5-3-2/ 各IV-5	①
11	5/8	概形印象採得	概形印象採得と研究用模型・個人トレード製作を学ぶ	D-5-3-2/ 各IV-5	〃
12	5/8	精密印象採得	筋圧形成と精密印象採得方法を学ぶ	D-5-3-2/ 各IV-5	〃
13	5/15	作業用模型と咬合床	作業用模型の製作と調整、咬合床の製作を学ぶ	D-5-3-2/ 各IV-5	③
14	5/15	咬合採得の進め方	全部床義歯製作のための咬合採得の概要を学ぶ	D-5-3-2/ 各IV-5	〃
15	5/15	仮想咬合平面の設定	仮想咬合平面の決定法を学ぶ	D-5-3-2/ 各IV-5	〃
16	5/22	垂直的顎間関係の決定	形態的根拠と機能的根拠に基づく垂直的顎間関係の決定法を学ぶ	D-5-3-2/ 各IV-5	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
17	5/22	水平的顎間関係の記録1	器具を使用しない水平的顎間関係の記録法を学ぶ	D-5-3-2/ 各IV-5	③
18	5/22	水平的顎間関係の記録2	特殊な器具を使用する水平的顎間関係の記録法を学ぶ	D-5-3-2/ 各IV-5	〃
19	5/29	下顎運動の記録	下顎運動を記録する目的と方法を学ぶ	D-5-3-2/ 各IV-5	①
20	5/29	下顎運動の記録	下顎運動を記録する目的と方法を学ぶ	D-5-3-2/ 各IV-5	〃
21	5/29	咬合器と模型の装着	咬合器の種類と模型の装着法を学ぶ	D-5-3-2/ 各IV-5	〃
22	6/5	咬合器の調節	咬合器の顆路調節法を学ぶ	D-5-3-2/ 各IV-5	〃
23	6/5	前歯部人工歯の選択	前歯部人工歯の種類と選択法を学ぶ	D-5-3-2/ 各IV-5	〃
24	6/5	前歯部人工歯の排列	前歯部人工歯の排列基準と排列法を学ぶ	D-5-3-2/ 各IV-5	〃
25	6/12	臼歯部人工歯の選択	臼歯部人工歯の種類と選択法を学ぶ	D-5-3-2/ 各IV-5	〃
26	6/12	臼歯部人工歯の排列	臼歯部人工歯の排列の基本原則を学ぶ	D-5-3-2/ 各IV-5	〃
27	6/12	全部床義歯に付与する咬合様式	全部床義歯に付与する咬合様式を学ぶ	D-5-3-2/ 各IV-5	〃
28	6/19	歯肉形成とろう義歯試適	歯肉形成およびろう義歯試適時の検査事項を学ぶ	D-5-3-2/ 各IV-5	④
29	6/19	歯肉形成とろう義歯試適	歯肉形成およびろう義歯試適時の検査事項を学ぶ	D-5-3-2/ 各IV-5	〃
30	6/19	埋没とレジン重合	ろう義歯の埋没とレジン重合方法を学ぶ	D-5-3-2/ 各IV-5	〃
31	6/26	埋没とレジン重合	ろう義歯の埋没とレジン重合方法を学ぶ	D-5-3-2/ 各IV-5	〃
32	6/26	研磨	義歯床用レジンの研磨方法を学ぶ	D-5-3-2/ 各IV-5	〃
33	6/26	咬合器再装着	重合義歯の咬合器再装着の目的と方法を学ぶ	D-5-3-2/ 各IV-5	〃
34	7/3	削合	選択削合と自動削合の理論と実際を学ぶ	D-5-3-2/ 各IV-5	②

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
35	7/3	義歯装着	完成義歯の試適、装着時の留意事項を学ぶ	D-5-3-2/ 各IV-5	②
36	7/3	義歯装着	完成義歯の試適、装着時の留意事項を学ぶ	D-5-3-2/ 各IV-5	〃
37	7/10	義歯装着後の経過	義歯装着後に生じる異常事項と対応を学ぶ	D-5-3-2/ 各IV-5	⑤
38	7/10	義歯の修理	装着後の破損と修理方法を学ぶ	D-5-3-2/ 各IV-8	〃
39	7/10	リラインとリベース	全部床義歯のリライン、リベースを学ぶ	D-5-3-2/ 各IV-8	〃
40	7/17	金属床義歯	金属床義歯の特徴と製作法を学ぶ	D-5-3-2/ 各IV-8	①
41	7/17	特殊な義歯	暫間義歯、即時義歯、治療用義歯、移行義歯および診断用義歯を学ぶ	D-5-3-2/ 各IV-5	〃
42	7/17	オーバーデンチャー	オーバーデンチャーの特徴、適応症および製作法を学ぶ	D-5-3-2/ 各IV-5	〃
43	7/24	口蓋補綴	口蓋裂患者の補綴方法と機能回復を学ぶ	D-5-3-2/ 各IV-5	〃
44	7/24	顎補綴	顎欠損に対する顎義歯の特徴を学ぶ	D-5-3-2/ 各IV-7	〃
45	7/24	全部床義歯の製作過程2	全部床義歯の製作過程とその理論を再度確認する	D-5-3-2/ 各IV-7	〃

有床義歯補綴学Ⅰ実習

(前期・1単位)

D④⑤C-c1-31005 (D31005)

科目責任者：高津 匠樹（有床・教授）

科目担当者：①高津 匠樹（有床）、②松本 知生（有床）、
③池田 敏和（有床）、④内山 梨夏（有床）、
⑤浅井 政一（非常勤）、⑥和田 裕一（非常勤）、
⑦佐久間隆章（非常勤）、他

※この科目は、診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

有床義歯補綴学Ⅰで理解した無歯顎補綴の理論と全部床義歯を製作・装着するための基本的技術を、模型実習を通して修得する。歯科医療における技術とは、「理論を実践する技」であるとの認識に立ち、単に全部床義歯の製作過程・操作を覚えることとどまらず、背景にある理論を併せて学ぶ。

2. 一般目標

無歯顎患者の健康を維持・増進させるために、全部床義歯を製作・装着するための技術を修得するとともに、その背景にある理論を学ぶ。

3. 到達目標

- 1) 咬合床の役割と咬合堤の標準的寸法に関する知識を基に、咬合床を製作する。
- 2) 模型を咬合器に装着する方法に関する知識を基に、咬合器を調節する。
- 3) 人工歯排列の基本的原則に則り、咬合堤に人工歯を排列する。
- 4) 回復すべき歯肉形態に関する知識を基に、自然観のある歯肉形態を形成する。
- 5) 蟻義歯をフラスクに埋没する。
- 6) 義歯床用レジンの成形法と重合法に関する知識を基に、レジンを填入・重合する。
- 7) 完成義歯を咬合器に再装着する意義と方法に関する知識を基に、咬合器に再装着する。
- 8) 両側性平衡咬合における咬合接触関係に関する知識を基に、人工歯を削合する。
- 9) 義歯の研磨操作をする。

4. 履修の進め方

中央棟5階の模型実習室において、小人数のグループに分かれてチューターから個別指導を受ける。実習の進行は実習マニュアルに沿って計画的に実施される。

5. 準備学修

予習：有床義歯学に関する基礎科目として、口腔解剖学、口腔生理学、生体材料学の講義・実習を通して学んだ内容および有床義歯学Ⅰの講義内容を良く理解する。また事前に配布される実習プリント、教科書の関連範囲を熟読して実習に臨む。(60分)

復習：実習内容および実習講義の内容を当日中に必ず復習し、理解が不十分な項目については実習プリント、教科書により自己学習を行う。(30分)

6. 評価方法

実習中の口頭試問、レポート等にて形成的評価を行う。総括的評価は実技試験(40%)、製作物(40%)、実習毎の小テスト(10%)および履修態度(10%)により行う。

7. 教本

細井紀雄 他編：コンプリートデンチャー・テクニック 第6版 医歯薬出版 2011年

8. 参考書

日本補綴歯科学会編：歯科補綴学専門用語集 第6版 医

9. 授業内容と日程

(コ:コアカリ記号, 国:国家試験出題基準, 担:担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4/10	基準線の記入	模型に外形線・歯槽頂線を記入する	D-5-3-2/各IV-5	① ② ⑦ 他
2					
3					
4					
5	4/17	上顎模型の咬合器装着	咬合探得し、上顎模型を咬合器に装着	D-5-3-2/各IV-5	〃
6					
7					
8					
9	4/24	下顎模型の咬合器装着	顎間関係の記録をもとに下顎模型を咬合器に装着	D-5-3-2/各IV-5	〃
10					
11					
12					
13	5/8	人工歯排列 1	上顎前歯部の人工歯を排列する	D-5-3-2/各IV-5	〃
14					
15					
16					
17	5/15	人工歯排列 2	上顎臼歯部の人工歯を排列する	D-5-3-2/各IV-5	〃
18					
19					
20					
21	5/22	人工歯排列 3	下顎前歯部の人工歯を排列する	D-5-3-2/各IV-5	〃
22					
23					
24					
25	5/29	人工歯排列 4	下顎臼歯部の人工歯を排列する	D-5-3-2/各IV-5	〃
26					
27					
28					
29	6/5	歯肉形成 1	唇・頬側歯肉を形成する	D-5-3-2/各IV-5	〃
30					
31					
32					
33	6/12	歯肉形成 2	口蓋側・舌側歯肉を形成する	D-5-3-2/各IV-5	〃
34					
35					
36					
37	6/19	歯型の探得	咬合器再装着するためのテンチの歯型を探得	D-5-3-2/各IV-5	〃
38					
39					
40					
41	6/26	フラスク埋没	フラスクに蠣義歯を埋没し流蠣する	D-5-3-2/各IV-5	〃
42					
43					
44					
45	7/3	レジン填入・重合・割り出し	レジンを混和・填入・重合し、義歯を割り出す	D-5-3-2/各IV-5	〃
46					
47					
48					
49	7/10	咬合器再装着・削合	重合した義歯を咬合器に再装着し、削合を行う	D-5-3-2/各IV-5	〃
50					
51					
52					
53	7/17	仕上げ研磨、提出準備	義歯の仕上げ研磨を行い、提出の準備をする	D-5-3-2/各IV-5	〃
54					
55					
56					
57	7/24	提出、実技試験	製作物を提出し、人工歯排列の実技試験を受ける	D-5-3-2/各IV-5	〃
58					
59					
60					

口腔外科学 I (後期・2単位)

D③④C-a2-3809(D3809)

科目責任者: 金秀樹 (口外・教授)

科目担当者: ①金秀樹 (口外), ②川原一郎 (口外),

③御代田駿 (口外), ④小嶋忠之 (口外)

※この科目は、診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

口腔外科学とは顎・口腔領域（口唇、頬粘膜、歯肉、口底、舌、口蓋など）の軟組織と上・下顎骨とそれに植立する歯などの硬組織および隣接する顎関節、唾液腺、所属リンパ節などに生じる各種疾患（先天異常、後天異常、損傷、炎症、囊胞、腫瘍、血液疾患、顎関節疾患、唾液腺疾患、口腔粘膜疾患、神経疾患など）を正しく診断し、外科療法を主体とした適切な治療法を行うとともに、失われた形態と口腔機能の回復を図るために理論と技術を研究する学問であり、臨床歯科医学のなかで特に広範囲な診療科目として体系づけられている。したがって、口腔および口腔に関連する組織・器官の正常な形態と機能を理解するとともに、技能を獲得するための基礎と臨床を含めた歯科医学と隣接医学の幅広い知識が必要である。

2. 一般目標

口腔外科学 I では、顎・口腔領域の疾患に罹患した患者の健康維持・増進を図るために、1) 手術総論、小手術の知識、2) 症性疾患、3) 腺粘膜疾患、4) 血液疾患、5) 損傷、6) 全身疾患と口腔病態（口腔・顔面に症状を現す全身疾患）の基礎的および臨床的な知識を習得する。

3. 到達目標

- 1) 消毒法および切開、止血、縫合の種類と器具、基本術式を説明する。
- 2) 外科処置と全身疾患との関連を理解し説明する。
- 3) 炎症性疾患の分類と症状を説明する。
- 4) 口腔粘膜疾患の分類と特徴を概説し診断と治療法を説明する。
- 5) 血液疾患の分類と特徴を概説し診断と治療法を説明する。
- 6) 損傷の分類と症状を概説し診断と治療法を説明する。
- 7) 全身疾患と口腔病態の種類と症状を概説し診断と治療法を説明する。

4. 履修の進め方

講義主体でスライドと配布資料を使用して履修する。

5. 準備学修

各回の授業内容項目について事前に教科書の該当範囲を読んでおくこと。(30分)

6. 評価方法

後期の講義終了後、講義内容について MCQ および記述式試験を実施し理解度を評価する。再試験は65点未満の不合格者に実施する。最終評価は後期の本試験、追・再試験の全平均点で65点以上を合格とする。

7. 教本

野間弘康、瀬戸院一 監修 「標準口腔外科学」第4版
医学書院 2020年

8. 参考書

なし

9. 授業内容と日程

(コ:コアカリ記号, 国:国家試験出題基準, 担:担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	9/6 2限	手術総論および小手術1	手術用器具と材料の滅菌, 術者の手指の消毒	E-1-4/ 総VII-4-ア	④
2	9/6 3限	手術総論および小手術2	切開の器具, 切開法, 縫の材料・器具, 縫合法	E-1-4/ 総VII-4-ア	〃
3	9/13 2限	手術総論および小手術3	出血の種類, 止血法	E-1-4/ 総VII-4-ア	〃
4	9/13 3限	手術総論および小手術4	有病者(全身疾患を有する患者)に対する観血処置の問題点	E-1-4/ 総VII-4-ア	〃
5	9/20 2限	炎症性疾患1	歯冠周囲炎, 歯周組織炎, 蜂巣炎, 所属リンパ節炎の診断	E-2-4/ 各III-1-ウ	①
6	9/20 3限	炎症性疾患2	歯冠周囲炎, 歯周組織炎, 蜂巣炎, 所属リンパ節炎の治療	E-2-4/ 各III-1-ウ	〃
7	9/27 2限	炎症性疾患3	顆骨炎, 歯性上顎洞炎の診断	E-2-4/ 各III-2-エ	〃
8	9/27 3限	炎症性疾患4	顆骨炎, 歯性上顎洞炎の治療	E-2-4/ 各III-2-エ	〃
9	10/4 2限	炎症性疾患5	骨髓炎, 放射線性骨壊死と放射線性骨髓炎の診断と治療	E-2-4/ 各III-2-エ	〃
10	10/4 3限	炎症性疾患6	頸部放線菌症 口腔結核, 口腔梅毒の口腔症状と診断と治療	E-2-4/ 各III-1-ウ	〃
11	10/11 2限	炎症性疾患7	菌血症, 敗血症の診断と治療	E-2-4/ 各III-1-ウ	〃
12	10/11 3限	損傷1	歯の脱臼, 歯の破折に対する診断と治療	E-2-4/ 各III-2-ウ	③
13	10/18 2限	損傷2	軟組織損傷に対する診断と治療	E-2-4/ 各III-2-ウ	〃
14	10/18 3限	損傷3	骨折の診断	E-2-4/ 各III-2-ウ	〃
15	10/25 2限	損傷4	骨折の治療	E-2-4/ 各III-2-ウ	〃
16	10/25 3限	血液疾患1	造血と血液機能, 止血機能, 血液検査と鑑別, 診断	E-2-4/ 各III-4-サ	②

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
17	11/1 2限	血液疾患2	貧血の診断と治療	E-2-4/ 各III-4-ク	②
18	11/1 3限	血液疾患3	白血病の診断と治療	E-2-4/ 各III-4-ケ	〃
19	11/8 2限	血液疾患4	血小板, 凝固因子, 血管, 線溶系異常の各疾患の診断と治療	E-2-4/ 各III-4-コ	〃
20	11/8 3限	口腔粘膜疾患1	水疱, 紅斑・びらんを主徴とする疾患の診断と治療	E-2-4/ 各III-1-ク	④
21	11/15 2限	口腔粘膜疾患2	潰瘍, 白斑, 色素沈着を主徴とする疾患の診断と治療	E-2-4/ 各III-1-ク	〃
22	11/15 3限	口腔粘膜疾患3	舌炎および類似疾患の診断と治療	E-2-4/ 各III-1-ク	〃
23	11/22 2限	口腔粘膜疾患4	口唇炎および類似疾患の診断と治療	E-2-4/ 各III-1-ク	〃
24	11/22 3限	全身疾患と口腔病態1	口腔・顎顔面領域に症状を現す症候群	E-2-4/ 各III-4-ア	〃
25	11/29 2限	全身疾患と口腔病態2	感染症の診断と治療	E-2-4/ 各III-4-イ	〃
26	11/29 3限	全身疾患と口腔病態3	免疫不全, 免疫疾患の診断	E-2-4/ 各III-4-エ	①
27	12/6 2限	全身疾患と口腔病態4	免疫不全, 免疫疾患の治療	E-2-4/ 各III-4-オ	〃
28	12/6 3限	全身疾患と口腔病態5	内分泌障害の診断と治療	E-2-4/ 各III-4-カ	〃
29	12/13 2限	全身疾患と口腔病態6	代謝異常の診断と治療	E-2-4/ 各III-4-カ	〃
30	12/13 3限	全身疾患と口腔病態7	栄養障害の診断と治療	E-2-4/ 各III-4-キ	〃

口腔内科学（後期・2単位）

D③④C-a2-3808 (D3808)

科目責任者：高田 訓（口外・教授）

科目担当者：①高田 訓（口外）、②白田 真浩（放射）、
③高橋文太郎（口外）、④中江 次郎（非常勤）、
⑤小板橋 勉（非常勤）

※この科目は、診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

口腔内科学は、2014年度から正式に標記され取り入れた科目である。現在、奥羽大学歯学部附属病院にも口腔内科として外来が開設されている。1980年代はオーラルメディシンや口腔診断学の概念が強く、口腔疾患の診断がメインと思われがちな科目であった。近年は、全身疾患や心身医学的疾患に関する知識、口腔機能や栄養サポート、院内感染や感染予防、様々な臨床検査や放射線学的診断、口腔病理診断も加えた広範囲で総合的な医学的知識による診断能力を必要とする科目であり、内科的治療の必要性が高い超高齢社会の我が国にとって必要不可欠な科目である。

2. 一般目標

社会の変化や新知見に伴って概念が変わりつつある口腔疾患を広い視野で診断し、全身疾患を把握して他職種と連携して患者個々のニーズに合わせた治療方針を立案できるようになるために、各種疾患を理解して診査・診断・治療法を学ぶ。

3. 到達目標

- 1) 口腔内科学の定義・役割を学ぶ。
- 2) 診断の進め方を理解する。
- 3) 臨床検査とその意義を理解する。
- 4) 口腔疾患に対する治療法を理解する。
- 5) 全身疾患と口腔疾患との関連を理解する。
- 6) 医療連携と他職種連携を理解する。
- 7) 器質的变化を伴う疾患を理解し、診断する。
- 8) 器質的变化を伴わない疾患を理解し、診断する。
- 9) 口腔機能を理解し、患者のニーズを知る。
- 10) 医療安全と感染対策を理解する。

4. 履修の進め方

2016年に教本が出来た新しい科目である。歯学教育モデル・コア・カリキュラムには診療参加型臨床実習に必要な内容として記載されている。通年30コマのうち、前期15コマは口腔領域に関連した疾患の概要を理解し、様々な疾患名を記憶に残すことを目的に講義形式で履修を進める。後期15コマも講義形式で行うが、臨床における口腔内科の現状を併覧する。30コマを通じて口腔内科学の教本に沿って授業をすすめる。

5. 準備学修

口腔内科学は教本に示した口腔内科学（末永書店）の内容のみならず、基礎系科目の口腔解剖、口腔組織、口腔生化、口腔生理、歯科薬理、口腔病理、口腔感染免疫などの基本的な知識とともに修得していく必要がある。特に口腔粘膜疾患や口腔外科学で履修する各疾患、更に歯科口腔心身症や全身疾患とも密接に関連するので、口腔外科学第3版や標準口腔外科学第4版も参考に履修するのが望ましい。また、口腔疾患の診断のために必要な臨床検査や心身医学的検査、放射線診断能力や口腔病理学的診断能力など、広い知識をバランス良く頭に入れておく必要がある。履修日前日に30分程度の事前学修が望ましい。

6. 評価方法

MCQ（40～50問）を8割以上、論述を2割未満の形式で満点を100点とする定期試験を行い評価する。65点未満の者に再試を行う。追試験は正式な欠席理由による届出を要し、

追試験に対する再試は実施しない。最終評価は定期試験の本試・追試・再試の全ての平均点を算出し、平均が65点以上の者を合格とする。

7. 教本

口腔内科学 第2版 末永書店

8. 参考書

口腔外科学 第4版 医歯薬出版

標準口腔外科学 第4版 医学書院

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号、国：国家試験出題基準、担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	9／3	口腔内科とは	口腔内科の定義と役割	E-1-1)／ 総IV-1-ア	①
2	9／3	診査・診断 - 1	インフォームドコンセントと診査・診断の進め方	E-1-1)／ 総IV-1-ア	ク
3	9／10	診査・診断 - 2	他職種連携・病診連携	E-6／ 総IV-6-カ	ク
4	9／10	臨床検査 - 1	血液・尿・生化・免疫学的検査	E-1-3／ 総VI-3-ア	ク
5	9／17	臨床検査 - 2	呼吸器・循環器・病理学的検査	E-1-3／ 総VI-4-ア	ク
6	9／17	臨床現状 - 1	外部講師による講演	E-2-4／ 総IV-2-ケ	③ ④
7	9／24	臨床現状 - 2	外部講師による講演	E-2-4／ 総IV-2-ケ	ク
8	9／24	臨床現状 - 3	外部講師による講演	E-2-4／ 総IV-2-ケ	③ ⑤
9	10／1	臨床現状 - 4	外部講師による講演	E-2-4／ 総IV-2-ケ	ク
10	10／1	顎口腔機能検査 - 1	唾液・味覚検査	E-2-4／ 総VI-1-イ	①
11	10／8	顎口腔機能検査 - 2	嚥下・咀嚼・生理学的検査	E-2-4／ 総VI-1-イ	ク
12	10／8	治療学 - 1	薬物療法・理学療法	E-2-4／ 総VII-8, 9	ク
13	10／15	治療学 - 2	治療の障害になる疾患	E-2-4／ 総VII-1-エ	ク
14	10／15	治療学 - 3	終末期医療・ランディング	E-2-4／ 総VII-5-ア, イ, ウ	ク
15	10／22	前期口腔内科 学まとめ	前期15コマ総括	E-2／ 必, 総IV, VI, VII	ク
16	10／22	前期フィードバック	確認試験 (形成的評価)	E-2／ 必, 総IV, VI, VII	ク
17	10／29	全身疾患との関連 - 1	血液疾患・脳卒中	E-6／ 総V-6-ア	②
18	10／29	全身疾患との関連 - 2	循環器・呼吸器・肝臓・腎臓疾患	E-6／ 総V-6-ア	ク
19	11／5	全身疾患との関連 - 3	代謝・内分泌疾患	E-6／ 総V-6-ア	ク
20	11／5	全身疾患との関連 - 4	アレルギー・自己免疫疾患・感染症	E-6／ 総V-6-ア	③

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
21	11/12	口腔疾患各論	炎症性疾患 -1	E-2-4)/ 各Ⅲ-1	③
22	11/12	口腔疾患各論	皮膚・粘膜疾 患 -2	E-2-4)/ 各Ⅲ-1	〃
23	11/19	口腔疾患各論	唾液腺疾患1 -3	E-2-4)/ 各Ⅲ-3-ア	〃
24	11/19	口腔疾患各論	唾液腺疾患2 -4	E-2-4)/ 各Ⅲ-2	〃
25	11/26	口腔疾患各論	神経疾患 -5	E-2-4)/ 各Ⅲ-3-イ	②
26	11/26	口腔疾患各論	歯科口腔心身 -6 症	E-2-4)/ 各Ⅲ-4-シ	③
27	12/3	口腔疾患各論	顎関節疾患1 -7	E-2-4)/ 各Ⅲ-3-ウ	②
28	12/3	口腔疾患各論	顎関節疾患2 -8	E-2-4)/ 各Ⅲ-3-ウ	〃
29	12/10	医療現場と環 境-1	口腔機能と睡 眠障害	E-2-4)/ 各Ⅳ-1-ク	④
30	12/10	医療現場と環 境-2 口腔内科学ま とめ	医療安全と感 染症対策およ び総括	E-2-4)/ 必2-オ, カ E-2/ 必, 総V, 各Ⅲ, Ⅳ	〃

歯科放射線学 I (後期・2単位)

D③④C-a2-3811 (D3811)

科目責任者：原田 卓哉 (放射・教授)

科目担当者：①原田 卓哉 (放射), ②茂呂祐利子 (放射),
③臼田 真浩 (放射), ④矢口 剛士 (放射)

※この科目は、診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

放射線の医学利用には放射線診断や放射線治療があり、患者に利益をもたらしている一方で、被曝による危険も共存しています。放射線利用には、知識や技術的なことはもちろん、良識のある放射線診療・インフォームドコンセントも重要なとなります。

歯科放射線学は基礎放射線学として放射線物理学、放射線生物学、放射線化学を、また臨床放射線学として放射線診断学、放射線治療学、放射線防護学を学びます。基礎放射線学では、放射線の基礎的知識やその生物学的影響を学び、臨床放射線学では放射線を利用した画像診断、放射線治療に必要な撮影技術、腫瘍治療学さらに放射線防護について学びます。

2. 一般目標

- 1) 的確な画像診断を行うために、歯科領域の画像所見における特徴を理解する。
- 2) 口腔領域悪性腫瘍の放射線治療および治療患者の口腔管理を実施するために、放射線治療の基礎と実際を理解する。

3. 到達目標

- 1) 電離放射線の種類、性質および単位について述べる。
- 2) 放射線の生体に対する影響について述べる。
- 3) エックス線画像形成について述べる。
- 4) 口内法エックス線撮影について述べる。
- 5) パノラマエックス線撮影について述べる。
- 6) 口外法エックス線撮影について述べる。
- 7) 特殊撮影について述べる。
- 8) 腫瘍の放射線治療について述べる。
- 9) 放射線治療患者の口腔管理について述べる。

4. 履修の進め方

- 1) 講義、示説で学習する。
- 2) 文書、視覚媒体を用いる。
- 3) 投影視覚媒体を用いる。

5. 準備学修

予習：教科書の熟読を中心に予習する。(60分)
復習：教科書および講義ノートの振り返りにより復習する。(60分)

6. 評価方法

定期試験で評価する。

評価基準：定期試験100%により評価する。追試験の最高点は80点とする。再試験の最高点は65点とする。

試験方法：筆記試験。形式：多肢選択形式および記述式。

範囲：講義内容全範囲。

7. 教本

岡野友宏 他 「歯科放射線学 第6版」医歯薬出版
2018年

8. 参考書

金田 隆 他著「新歯科放射線学」医学情報社 2017年
日本歯科放射線学会編 「歯科臨床における画像診断アトラス 第2版」医歯薬出版 2020年

9. 授業内容と日程

(コ:コアカリ記号, 国:国家試験出題基準, 担:担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	9/5	電離放射線	原子とその構造, 電離と励起, 電離放射線	D-2-5, E-2-5/必修-9-カ, 総VI-2-ア	①
2	9/5	画像検査法の選択	病歴の取り方, 画像検査のための推定診断	D-2-5, E-2-5/必修-9-カ, 総VI-2-コ	〃
3	9/12	放射線の線量と単位	放射線の種類と分類, 線量, 放射能, エネルギー	D-2-5, E-2-5/必修-9-カ, 総VI-2-ア	〃
4	9/12	口内法撮影	口内法撮影の原理, 水平的角度, 垂直的角度	D-2-5, E-2-5/必修-9-カ, 総VI-2-エ	②
5	9/19	エックス線の特徴	エックス線と物質との相互作用, 物質透過作用, 電離作用, 写真作用	D-2-5, E-2-5/必修-9-カ, 総VI-2-エ	①
6	9/19	パノラマエックス線撮影	パノラマ撮影の原理, 断層域, 障害陰影	D-2-5, E-2-5/必修-9-カ, 総VI-2-エ	③
7	9/26	エックス線撮影装置1	エックス線の発生原理, エックス線管	D-2-5, E-2-5/必修-9-カ, 総VI-2-エ	①
8	9/26	頭部エックス線撮影	後頭前頭方向撮影法, 側方向撮影法, 軸方向撮影法	D-2-5, E-2-5/必修-9-カ, 総VI-2-エ	〃
9	10/3	エックス線撮影装置2	口内法撮影装置, パノラマエックス線撮影装置	D-2-5, E-2-5/必修-9-カ, 総VI-2-エ	〃
10	10/3	頸関節, セファロ	頸関節撮影法, 頭部エックス線規格撮影法(セファログラム)	D-2-5, E-2-5/必修-9-カ, 総VI-2-エ	〃
11	10/10	デジタルエックス線撮影装置	デジタルデータの意義, デジタルエックス線撮影装置	D-2-5, E-2-5/必修-9-カ, 総VI-2-イ	〃
12	10/10	断層撮影, 造影撮影	断層撮影の概要, 造影剤の種類, 造影剤の具備すべき条件	D-2-5, E-2-5/必修-9-カ, 総VI-2-エ, ケ	〃
13	10/17	エックス線フィルム, 増感紙	エックス線フィルムおよび増感紙の構造および種類	D-2-5, E-2-5/必修-9-カ, 総VI-2-エ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
14	10/17	エックス線CT1	エックス線CT装置の構造と役割	D-2-5, E-2-5/必修-9-カ, 総VI-2-オ	①
15	10/24	エックス線写真処理	現像(広義)の定義, 現像の手順と意義, 使用薬剤の意義	D-2-5, E-2-5/必修-9-カ, 総VI-2-エ	〃
16	10/24	エックス線CT2	組織のエックス線吸収率とCT値との関係	D-2-5, E-2-5/必修-9-カ, 総VI-2-オ	〃
17	10/31	画像形成	潜像核, 潜像, 金属銀の生成, 半影, 幾何学的関係	D-2-5, E-2-5/必修-9-カ, 総VI-2-エ	〃
18	10/31	MRI原理1	MRIの概要, 原子核のスピン, 共鳴	D-2-5, E-2-5/必修-9-カ, 総VI-2-カ	〃
19	11/7	コントラスト	エックス線コントラスト, 特性曲線(黒化度曲線)	D-2-5, E-2-5/必修-9-カ, 総VI-2-エ	〃
20	11/7	MRI原理2	縦緩和(スピン-格子緩和), 横緩和(スピン-スピン緩和)	D-2-5, E-2-5/必修-9-カ, 総VI-2-カ	〃
21	11/14	鮮鋭度と解像力, 画質	画質の定義, 画質を低下する因子	D-2-5, E-2-5/必修-9-カ, 総VI-2-エ	〃
22	11/14	MRI特徴	組織性状および病変と信号強度の関係, 撮影禁忌	D-2-5, E-2-5/必修-9-カ, 総VI-2-カ	〃
23	11/21	被曝, 生体への影響	放射線の種類による影響, 人体への影響	D-2-5, E-2-5/必修-9-カ, 総VI-2-ウ, ケ	〃
24	11/21	超音波検査1	超音波検査の概要, 超音波検査装置	D-2-5, E-2-5/必修-9-カ, 総VI-2-ク	〃
25	11/28	生物学的作用	組織の放射線感受性, 放射線障害	D-2-5, E-2-5/必修-9-カ, 総VI-2-ウ	〃
26	11/28	超音波検査2	音響インピーダンス, エコーレベル, エラストグラフィ	D-2-5, E-2-5/必修-9-カ, 総VI-2-ク	〃
27	12/5	防護	医療被曝, 職業被曝, 公衆被曝, 診断参考レベル	D-2-5, E-2-5/必修-9-カ, 総VI-2-ウ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
28	12/5	核医学検査	単光子放出型 CT, 陽電子 放出型断層撮 影 (PET) ほか	D-2-5, E-2-5/ 必修-9-カ, 総VI-2-キ	①
29	12/12	画像情報シス テム	DICOM, PACS, 画像 情報システム 病院情報シス テム	D-2-5, E-2-5/ 必修-9-カ, 総VI-2-イ	〃
30	12/12	放射線治療	放射線治療の 概要, 外部照 射, 組織内照 射放射線治療 の副作用	D-2-5, E-2-5/ 必修-9-カ, 総VII-7-ア, イ, ウ	〃

高齢者歯科学 I (後期・1単位)

D③④C-al-3806 (D3806)

科目責任者：鈴木 史彦（高齢・教授）

科目担当者：①鈴木 史彦（高齢）, ②本間 達也（客員）

※この科目は、診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

現在の日本は高齢化率29.1%の超高齢社会である。超高齢社会の問題点の一つは有病・要介護高齢者の増加である。高齢者特有の身体的・心理的特徴を考慮した歯科治療のみならず、オーラルフレイルや口腔機能低下症等の口腔機能管理と、誤嚥性肺炎予防のための口腔衛生管理を併せた口腔健康管理が必須となる。また、医療・介護・福祉分野による多職種協働において、歯科の果たすべき役割についても理解する必要がある。高齢者歯科学 I では高齢者の特徴を理解するとともに、要介護の原因疾患を学習することで、通院が困難な要介護高齢者の在宅歯科医療や訪問歯科診療に必要な基本的知識を学習していく。本科目は高齢者歯科学の総論に位置するものである。各論として、4年前期に高齢者歯科学 II で摂食嚥下リハビリテーションを学習する。

2. 一般目標（コンピテンス）

高齢者の身体的、精神的及び心理的特徴と歯科治療上の留意点を理解する。

3. 到達目標（コンピテンシー）

- 1) 高齢者の生理的、精神心理的及び行動的特徴（認知症を含む）を理解している。
- 2) 高齢者に多く見られる疾患及び服用薬剤を理解している。
- 3) 高齢者の口腔機能検査と口腔機能管理を理解している。
- 4) 口腔機能低下症を理解している。
- 5) 高齢者における口腔衛生管理の用具と処置を理解している。
- 6) 高齢者の歯科治療時の全身管理を理解している。
- 7) 要介護高齢者（在宅要介護者を含む）の歯科治療時の注意点を理解している。
- 8) 高齢者の虐待の徴候と対応を理解している。

4. 履修の進め方

講義形式でスライド、資料および教科書を使用して履修する。

5. 準備学修

一般的な身体的特徴を理解していないと、老化の身体的特徴の理解は難しい。本科目の履修準備として生物学と口腔生理学の内容を復習しておくこと。

本科目で履修する内容のうち、他分野と関係が深い科目は次の通りである。高齢者で多くみられる全身疾患：総合臨床医学、口腔粘膜疾患：口腔外科学、介護保険：口腔衛生学、チーム医療：チーム医療学、高齢者で高頻度となる歯科治療：有床義歯学 I・II、保存修復学 I・II、歯内療法学、歯周病学。

事前学習は教科書の該当箇所の重要語句（赤文字・青文字）と国家試験頻出項目（びっくりマーク）を確認しておくこと（15分）。事後学習は配布資料と授業中に確認した教科書の図表について復習しておくこと（15分）。理解が不十分な項目については担当教員に質問すること。

6. 評価方法

定期試験は、論述試験80点と客観試験20点の合計が、65点以上の者を合格とする。なお、講義開始時に実施するGoogle フォームによる小テストの正答を5点満点に換算して、定期試験の結果に100点満点を上限として加点する。定期試験65点未満の者と定期試験欠席者に対しては追・再試験

を実施し、定期試験と同様に評価する。定期試験と追・再試験のフィードバックは正答を全員へ配布する。

7. 教本

よくわかる高齢者歯科学 第2版 永末書店

8. 参考書

老年歯科医学 第2版 医歯薬出版

9. 授業内容と日程

(コ:コアカリ記号, 国:国家試験出題基準, 担:担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	9/6	高齢者歯科学	概論高齢者の特性	D-5-7/ 総I-2-オ-b	①
2	9/13	社会保障	介護保険、高齢者医療	C-4-3-6/ 総I-1-ウ-c	〃
3	9/20	全身の加齢変化	身体・精神・心理の加齢変化	D-5-7-1/ 必5エ-b	〃
4	9/27	口腔の加齢変化	頸・口腔・嚥下機能の加齢変化	D-5-7-4/ 総II-7-エ	〃
5	10/4	高齢患者の臨床評価	全身の評価、口腔機能の評価	D-5-7-3/ 各V-4-ア	〃
6	10/11	高齢者に多い口腔疾患	硬組織疾患、軟組織疾患	D-5-7-2/ 各V-6-ア~エ	〃
7	10/18	高齢者に多い全身疾患I	脳血管障害	D-5-7-2/ 総VII-1-エ	〃
8	10/25	高齢者に多い全身疾患II	認知症	D-5-7-2/ 総VII-1-エ	〃
9	11/1	高齢者に多い全身疾患III	その他の全身疾患	D-5-7-2/ 総VII-1-エ	〃
10	11/8	チーム医療	チーム医療、多職種連携	D-6-2/ 必2-ウ	〃
11	11/15	介護施設	介護老人保健施設、介護老人福祉施設	D-5-7-6/ 総I-1-エ-g	②
12	11/22	訪問歯科診療	訪問歯科診療の基本、器具・器材、実際	D-5-7-7/ 総I-1-オ	①
13	11/29	各ステージでの歯科の役割	急性期、回復期、終末期	D-5-7-7/ 総VII-1-ウ-c	〃
14	12/6	口腔健康管理	口腔衛生管理、口腔ケア口腔ケア	D-5-7-5/ 必3-エ	〃
15	12/13	臨床・まとめ	臨床例と講義のまとめ	D-5-7/ 各V	〃

災害歯科医学（後期・1単位）

D③④C-a1-3805(D3805)

科目責任者:板橋 仁(矯正・准教授)

科目担当者:①板橋 仁(矯正), ②佐藤 歩(心理),
③岩原 香織(非常勤), ④瀬川 洋(衛生),
⑤中川 敏浩(組織)

※この科目は、診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

今から13年前の未曾有の災害、東日本大震災を経験した本学において、災害時の医療体制・歯科的個人識別等、災害発生時の歯科医師の役割について学び、社会に貢献できる歯科医師となることを目標とする。

2. 一般目標

社会における歯科医師の役割を理解し、個人の尊厳と個人情報を遵守し、将来起こり得る大規模災害等に際して社会に貢献できる歯科医師となるために、災害時の歯科医療について学ぶ。(本学ディプロマポリシー1, 2および6)

3. 到達目標

- 1) 災害時における歯科医師の役割を説明する。
- 2) 災害時の医療体制について説明する。
- 3) 歯科的個人識別について説明する。
- 4) 歯科法医学の基本について説明する。

4. 履修の進め方

講義主体でスライドと資料を使用して履修する。

5. 準備学修

各回の授業内容項目について、教科書および授業プリントの該当部分を読むこと(15分)

6. 評価方法

定期試験(100%)により評価し、65点以上で合格とする(多肢選択形式)。追・再試験においては、追試験の評価は90点以上を90点とし、再試験の評価は65点以上を65点とする。

7. 教本

災害歯科医学 梶木恵一・中久木康一 編著: 医師薬出版

8. 参考書

災害時の歯科保健医療対策～連携と標準化に向けて～
日本災害時公衆衛生歯科研究会 編: 一世出版

法歯科医学 高橋雅典監修 都筑民幸他編: 永末書店

臨床法医学テキスト 第2版 佐藤喜宣編著: 中外医学社

9. 授業内容と日程

(コ:コアカリ記号, 国:国家試験出題基準, 担:担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	9/3	総論/災害歯科各論1	災害の種類と歴史/大規模災害時における歯科医師の役割	C-4-3/ 総I-1-オ, 総I-3-ア	①
2	9/10	災害歯科各論2	災害時の医療体制/CSCATT・トリアージ	C-4-3/ 総I-1-オ	〃
3	9/17	災害歯科各論3	口腔ケアと誤嚥性肺炎	C-4-3/ 各V-1-エ	〃
4	9/24	災害歯科各論4	東日本大震災における本学の社会支援活動1	C-4-3/ 総I-1-オ, 総I-3-ア	〃
5	10/1	災害歯科各論5	東日本大震災における本学の社会支援活動2	C-4-3/ 総I-1-オ, 各V-1-エ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
6	10/8	災害歯科各論6	災害時における心のケア1	C-4-3／必7-ア, 各Ⅲ-4-シ	① ②
7	10/15	災害歯科各論7	災害時における心のケア2	C-4-3／必7-ア, 各Ⅲ-4-シ	〃
8	10/22	災害歯科各論8	歯科法医学1／個人識別／性別判定, 年齢推定	C-4-4／総I-3-ア	① ③
9	10/29	災害歯科各論9	歯科法医学2／歯科の個人識別	C-4-4／総I-3-ア	①
10	11/5	災害歯科各論10	歯科法医学3／虐待・虐待の歯科所見	C-4-3／総I-2-ア	① ③
11	11/12	災害歯科各論11	歯科法医学4／創傷, 死後変化	C-4-4／総I-3-ア, 総Ⅲ-3-ア, イ	①
12	11/19	災害歯科各論12	歯科法医学5／死の判定	C-4-4／総Ⅲ-3-ア, イ	① ③
13	11/26	災害歯科各論13	歯科法医学6／死体解剖と死因究明制度	C-4-4／総I-3-ア	①
14	12/3	災害歯科各論14	災害から中長期後の歯科医療支援活動	C-4-3／総I-1-オ	① ④
15	12/10	総括	災害歯科医学のまとめ		①

総合臨床医学（後期・1単位）

D③④C-al-3801 (D3801)

科目責任者：風間 咲美（医学・教授）

科目担当者：①風間 咲美（医学）

※この科目は、診療経験のある医師が担当する

1. 科目の概要

歯科治療を行う上で、医学領域との連携が必要な場合は少なくない。総合的に患者を診療していかなくてはならないからである。

歯科医師となる学生に対し、内科学を中心に、全身の疾患の概念につき講義を行うとともに、歯科治療に際し、留意すべきことを医学の面から解説する。

2. 一般目標

臨床歯学の土台となる内科学・外科学の内容を概観し、病の病態、診断、治療に関する知識を修得する。

3. 到達目標

- 1) 医の倫理について説明できる。
- 2) インフォームド・コンセントについて説明できる。
- 3) 医療安全の意義について説明できる。
- 4) 主要な症候と対処法について列挙できる。
- 5) 疾患の診断と治療について説明できる。

4. 履修の進め方

講義形式でスライドと資料を使用して履修する。

5. 準備学修

総合臨床医学は、人間性豊かな優れた医療人を輩出するにあたって必須な科目であり、総合臨床医学を履修する前に歯科医療人間学、医療倫理学の内容を知っておくべきである。

事前学習・事後学習（各々5分）

6. 評価方法

定期試験（100%）で評価する。評価基準：65点以上を合格とする。追・再試験は各々1回のみとする。追・再試験において65点以上を合格とする。追・再試験の最高点は65点とする。なお追々試験および再々試験は行わない。試験方法：マークシート40問、範囲：講義内容。なお、定期試験のフィードバックは正答を掲示して示す。

7. 教本

千葉俊美 山田浩之「歯科医師のための内科学」 医歯薬出版

馬場秀夫「わかりやすい外科学」 文光堂

8. 参考書

水野嘉夫「歯科医師が知っておくべき全身疾患」 一世出版

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号、国：国家試験出題基準、担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	9/3	総論	総論（診察、症候）	D-6-1)／総Ⅶ-1-工	①
2	9/10	循環器疾患1	循環器疾患総論、心不全、心筋梗塞、狭心症、不整脈	D-6-1)／総Ⅶ-1-工	〃
3	9/17	循環器疾患2	感染性心内膜炎、弁膜症、先天性心疾患、深部静脈血栓	D-6-1)／総Ⅶ-1-工	〃
4	9/24	呼吸器疾患	閉塞性肺疾患（COPD）、気管支喘息、呼吸不全、誤嚥性肺炎	D-6-1)／総Ⅶ-1-工	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
5	10／1	腎臓疾患	慢性腎臓病(CKD), 腎不全	D-6-1)／ 総VII-1-工	①
6	10／8	消化器疾患(消化管疾患)	消化管疾患総論, 消化性潰瘍	D-6-1)／ 総VII-1-工	〃
7	10／15	消化器疾患(肝臓・胆嚢・膵臓疾患)	肝硬変, ウイルス性肝炎	D-6-1)／ 総VII-1-工	〃
8	10／22	アレルギー疾患	アレルギー疾患, 膠原病, 免疫不全, 後天性免疫不全症候群(AIDS)	D-6-1)／ 総VII-1-工	〃
9	10／29	内分泌疾患	内分泌疾患, 骨粗鬆症	D-6-1)／ 総VII-1-工	〃
10	11／5	糖尿病	糖尿病	D-6-1)／ 総VII-1-工	〃
11	11／12	神経疾患	脳血管障害, Alzheimer病, Parkinson病	D-6-1)／ 総VII-1-工	〃
12	11／19	血液疾患	貧血, 白血病, 出血性素因	D-6-1)／ 総VII-1-工	〃
13	11／26	感染症	ウイルス感染症, 細菌感染症, 真菌感染症	D-6-1)／ 総VII-1-工	〃
14	12／3	その他の疾患	依存症(アルコール・薬物等), 婦人科疾患総論	D-6-1)／ 総VII-1-工	〃
15	12／10	復習	総まとめ	D-6-1)／ 総VII-1-工	〃

第4学年

口腔科学教育科目

保存修復学Ⅱ	163
保存修復学実習	164
歯内療法学	166
歯内療法学実習	168
歯周病学	170
歯周病学実習	172
冠橋義歯補綴学Ⅱ	173
冠橋義歯補綴学実習	175
有床義歯補綴学Ⅱ	176
有床義歯補綴学Ⅱ実習	178
口腔インプラント学	179
口腔インプラント学実習	180
口腔外科学Ⅱ	181
口腔外科学Ⅲ	183
歯科麻酔学	184
歯科矯正学	186
歯科矯正学実習	188
小児歯科学	189
小児歯科学実習	191
歯科放射線学Ⅱ	193
高齢者歯科学Ⅱ	194
障害者歯科学	195
臨床総合演習	196

保存修復学Ⅱ（前期・1単位）

D③④C-a2-4802 (D4802)

科目責任者：山田 嘉重（修復・教授）

科目担当者：①山田 嘉重（修復）、②菊井 徹哉（修復）

※この科目は、診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

齲蝕、破折および摩耗などにより生じた自然治癒しない硬組織実質欠損に対して、病変の進行を阻止して歯の生理学的機能を回復させるとともに、審美的にも調和する生体親和性のある修復方法を研究する分野が保存修復学である。保存修復学Ⅱでは、保存修復学Ⅰで学んだ事項を基本として新たな歯冠修復法についての講義を行う。板書、スライド、配布資料を用いた講義が主体となり、同時期に行われる保存修復学実習の修得が容易になるよう適切な単位数と履修時間で構成されている。

2. 一般目標

齲蝕を含む様々な硬組織疾患より生じた歯質の変色や実質欠損等の疾患に対する適切な診断と処置方法の習得をめざす。ディプロマ・ポリシーの2：探求力と解決力、4：知識と診断能力を養い適切な歯冠修復処置法とその手技や必要な器具が的確に選択できることを目標とする。

3. 到達目標

- 1) コンポジットレジン修復に必要な治療用具、材料の名称と用途が説明できる。
- 2) コンポジットレジン修復窩洞の分類と特徴および形成方法が説明できる。
- 3) 直接修復法と間接修復法の種類、特徴と臨床手順が説明できる。
- 4) 裏層法と覆雫法の意義・種類と特徴が説明できる。
- 5) 裏層法と覆雫法の適応症・使用薬剤と処置手順が説明できる。
- 6) メタルインレー修復の適応症、窩洞の特徴が説明できる。
- 7) メタルインレー修復の利点・欠点および修復手技が説明できる。
- 8) コンポジットレジンインレー修復の適応症と窩洞の特徴を説明できる。
- 9) セラミックインレー修復窩洞の適応症と窩洞の特徴を説明できる。
- 10) ラミネートベニア修復の特徴、適応症、臨床手技が説明できる。
- 11) 修復物装着後の術後管理について説明できる。

4. 履修の進め方

- 1) 講義は教科書の内容をシラバスの予定に従って行う。
- 2) 板書、スライド、配布資料等を使用して教科書の内容をよりわかりやすく解説する。
- 3) 学生は板書、スライドおよび配布資料に沿って独自に授業ノートを作成し、要点および追加事項を記入する。
- 4) 学生は理解が不十分な点について適宜教員に質問して理解を深める。
- 5) 学生の授業の予習・復習の確認のため、授業の前後で小試験を行うこともある。

5. 準備学修

シラバスを確認して、授業内容について事前に教科書を用いて予習を行う（30分）。授業終了後、講義ノートや配布資料を用いて、その日のうちに当日の講義内容の要点をノートにまとめて復習する（30分から1時間程度）。

6. 評価方法

評価の配分は中間試験（30%）、定期試験（70%）とし、

合計100%（100点）とする。合計が65%（65点）以上の得点で合格とする。

中間試験、定期試験ともにMCQ形式（40～50問）で出題する。

追・再試験については、追試験は上限100点、再試験は上限65点とし、追・再試験ともに65点以上の得点で合格とする。

7. 教本

田上順次、奈良陽一郎、山本一世、斎藤隆史（編）「保存修復学21 第6版」永末書店 2022年版

8. 参考書

千田 彰、宮崎真至、林美加子、向井義晴、斎藤隆史（編）「保存修復学 第7版」医歯薬出版 2019年版

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号、国：国家試験出題基準、担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4/10	コンポジット レジン修復総 括①	コンポジット レジン修復、 各窩洞形態と 修復の手順	E-5-3-1-1/ 必-11-ケ-b, 総VIII-5-ア-a, 各II-1-ウ-a	①
2	4/17	コンポジット レジン修復総 括②	コンポジット レジンの組成 および前処置	E-5-3-1-1/ 必-11-ケ-b, 総VIII-5-ア-a, 各II-1-ウ-a	〃
3	4/24	コンポジット レジン修復総 括③	コンポジット レジン修復補 助器具と修復 後の問題点	E-5-3-1-1/ 必-11-ケ-b, 総VIII-5-ア-a, 各II-1-ウ-a	〃
4	5/8	メタルイン レー修復①	メタルイン レー修復の特 徴、鑄造用合 金	E-5-3-1-1/ 必-11-ケ-b, 総VIII-5-ア-a, 各II-1-ウ-b	②
5	5/15	メタルイン レー修復②	メタルイン レー修復 窩洞の特徴	E-5-3-1-1/ 必-11-ケ-b, 総VIII-5-ア-a, 各II-1-ウ-b	〃
6	5/22	メタルイン レー修復③	メタルイン レー修復の臨 床手技	E-5-3-1-1/ 必-11-ケ-b, 総VIII-5-ア-a, 各II-1-ウ-b	〃
7	5/29	コンポジット レジン/セラ ミックイン レー①	コンポジット レジン/セラ ミックイン レー修復の特 徴、製作法、 窩洞と臨床手 技	E-5-3-1-1/ 必-11-ケ-b, 総VIII-5-ア-a, 各II-1-ウ-b	①
8	6/5	コンポジット レジン/セラ ミックイン レー②	セラミックイ ンレー修復の 特徴、適応症、 窩洞と臨床手 技	E-5-3-1-1/ 必-11-ケ-b, 総VIII-5-ア-a, 各II-1-ウ-b	〃
9	6/12	コンポジット レジン/セラ ミックイン レー③	セラミックイ ンレーの製作 方法・手技、 歯科用CAD /CAM製作	E-5-3-1-1/ 必-11-ケ-b, 総VIII-5-ア-a, 各II-1-ウ-b	〃
10	6/19	歯質の漂白と ベニア修復①	歯質漂白の種 類と適応症、 ベニア修復の 特徴と適応症	E-5-3-1-1/ 必-11-ケ-b, 総VIII-5-ア-a, 各II-1-ウ-b	②
11	6/26	ベニア修復②	ベニア修復の 臨床手技	E-5-3-1-1/ 必-11-ケ-b, 総VIII-5-ア-a, 各II-1-ウ-b	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
12	7/3	歯冠修復法総括	修復法の種類と臨床手技	E-5-3-1-1/ 必-11-ケ-b, 総VIII-5-ア-a, 各II-1-ウ-b	②
13	7/10	歯科の接合技術 補修修復	合着材と接着材の種類、所用性質	B-2-4/ 必-11-セ-f, 総VIII-8, 各II-1-ウ-a	〃
14	7/17	修復治療の術後管理	メンテナンス、 補修修復、修復物の具備条件	E-5-3-1-1/ 必-11-ケ-b, 総VIII-5-ア-a, 各II-1-ウ-b	〃
15	7/24	保存修復学復習	問題演習	E-5-3-1-1/ 必-11-ケ-b, 総VIII-5-ア-a, 各II-1-ウ-a	〃

保存修復学実習（前期・1単位）

D③④C-c2-41001 (D41001)

科目責任者：山田 嘉重（修復・教授）

科目担当者：①山田 嘉重（修復）、②菊井 徹哉（修復）、
③佐藤 正文（非常勤）、④大塩 健司（非常勤）、
⑤塩崎 洋堂（非常勤）

※この科目は、診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

保存修復学の講義で習得した齲歯を含む硬組織疾患の治療法に対する知識や理解を模型実習を行い実際に処置法を体験することで、講義では具体的に理解が困難な箇所を含め、実際の歯の修復処置に必要な基本的な技術的理論を確実に定着させる。そのための履修方法として硬組織疾患に対する診断と処置方法、窩洞形成法、各種修復用器材の使用法を4倍大の人工歯で基本的技術を習得した後に、実物大人工歯を歯科用マネキンに装着して実際の臨床診療に模した状況で履修していく。

2. 一般目標

ディプロマポリシー5にある将来歯科医師になった際に必要となる技能と治療能力の修得のために、本実習では保存修復学の領域で必要となる基本的な治療方針や治療技術の修得を目標とする。

3. 到達目標

- 1) 硬組織の切削および修復物の研削に必要な器械と器具を適切に操作する。
- 2) 施術部位に対応した診察位置と姿勢をとり、器具を適切に保持し操作する。
- 3) 感染歯質の判別と適切な除去を施術する。
- 4) 各種疾患の病態と修復法に対応した窩洞設計と窩洞形成を施術する。
- 5) 歯髓保護処置を適切に施術する。
- 6) コンポジットレジンおよびグラスアイオノマーセメント修復のための前準備、填塞、仕上げ研磨を適切に施術する。
- 7) メタルインレー修復のための窩洞形成、印象・咬合探得、仮封、インレーボディの試適・装着、口腔内で必要な研磨を適切に施術する。
- 8) メタルインレー修復のための咬合模型、ロウ型、铸造体の製作など、一連の技工操作を適切に施術する。

4. 履修の進め方

- 1) 実習前日までには、これまで講義で学習した項目について理解の整理を行い、同時に実習帳をあらかじめ読んでおき、当日行う実習の目的を理解しておく（30分程度）。
- 2) 実習当日は、実習開始前に実習内容の説明と注意事項の説明をしっかりと聞き、当日の実習の学習内容を十分に理解してから実習を開始する。
- 3) 使用器材は実習開始時までに準備しておき、迅速に実習が開始できるようにする。
- 4) 窩洞の基本設計と形成は4倍大の人工歯を用いて行う。
- 5) 臨床を模した窩洞形成、修復実習は実物大人工歯をマネキンに装着して行う。
- 6) 実習課題の各ステップごとに、それぞれの班の指導教員の確認と検印を受けながら的確に課題内容を習得する。

5. 準備学修

実習前日までに保存修復学IおよびIIの講義で習った内容を復習し、実習で行う内容について理解してから実習に臨む。実習終了後には、その日に学んだ項目について十分理解がで

きなかった箇所を抽出し、教科書や講義ノートを参考に復習する（1時間）。

6. 評価方法

実習の評価の配分は(1)各実習時間で行った実習課題の成績(50%) (2)実習試験の成績(30%) (3)出席点(20%)とする。

評価法の詳細

- (1)「各実習時間で実習課題を4倍大人工歯および実物大人歯を用いて行う。実習課題の点数は実習書に記載されている内容の遵守の程度により決定する。
- (2)4倍大人工歯を用いた窩洞形成、実物大人歯を用いた形成窩洞と製作物については最大50点として評価する。
- (3)実習最終日に実技試験を行い実習内容が十分に理解され、確実に施術できることを試験する。最終日に行う実習試験については実物大人歯を用いて行い、ブラックの窩洞形態の要件に照らし合わせて評価する。また同日に筆記試験も行われるが、評価は実習書の内容に沿って判定する。この2つの試験を合計して最大30点として評価する。
- (4)実習の出席も評価に加える（全出席で最大20点とする）。これらを合計して100点とし、65点以上の成績者を合格とする。

7. 教本

2021年度保存修復学模型実習指針（実習書：教室編集）

8. 参考書

- 1) 田上順次、奈良陽一郎、山本一世、斎藤隆史（編）「保存修復学21 第6版」永末書店 2022年版
- 2) 千田 彰、宮崎真至、林美加子、向井義晴、斎藤隆史（編）「保存修復学 第7版」医歯薬出版 2019年版

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号、国：国家試験出題基準、担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4/11	4倍大石膏歯での窩洞形成①	①実習器材の点検②メタルインレー修復：窩洞の設計、形成	E-5-3-1-1／必-11-ケ-b, 総VIII-5-ア-a, 各II-1-ウ-b	① ⑤
2					
3					
4	4/18	4倍大石膏歯での窩洞形成②	コンポジットレジン修復、窩洞の設計、形成：class III, class V	E-5-3-1-1／必-11-ケ-b, 総VIII-5-ア-a, 各II-1-ウ-a	〃
5					
6					
7	4/25	4倍大石膏歯での窩洞形成③	レジン（セラミック）インレー修復、窩洞の設計、形成：class II	E-5-3-1-1／必-11-ケ-b, 総VIII-5-ア-a, 各II-1-ウ-b	〃
8					
9					
10	5/9	直接修復 I コンポジットレジン修復①	コンポジットレジン修復、窩洞形成と修復：class III, class V	E-5-3-1-1／必-11-ケ-b, 総VIII-5-ア-a, 各II-1-ウ-a	〃
11					
12					
13	5/16	齲歯質の除去コンポジットレジン修復②	小窩裂溝齲歯の齲歯質の検知と除去およびコンポジットレジン修復	E-5-3-1-1／必-11-ケ-b, 総VIII-5-ア-a, 各II-1-ウ-a	〃
14					
15					

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
16	5/23	間接修復法 I メタルインレー修復①	メタルインレー修復 class II 窩洞、設計と形成	E-5-3-1-1／必-11-ケ-b, 総VIII-5-ア-a, 各II-1-ウ-b	① ⑤
17					
18					
19	5/30	間接修復法 I メタルインレー修復②等	メタルインレー修復 印象採得～歯列模型製作	E-5-3-1-1／必-11-ケ-b, 総VIII-5-ア-a, 各II-1-ウ-b	〃
20					
21					
22	6/6	間接修復法 I メタルインレー修復③等	メタルインレー修復 咬合模型～鑑原型製作	E-5-3-1-1／必-11-ケ-b, 総VIII-5-ア-a, 各II-1-ウ-b	〃
23					
24					
25	6/13	間接修復法 I メタルインレー修復④等	メタルインレー修復 鑄型製作～鑄造・研磨	E-5-3-1-1／必-11-ケ-b, 総VIII-5-ア-a, 各II-1-ウ-b	〃
26					
27					
28	6/20	間接修復法 I メタルインレー修復⑤等	メタルインレー修復 口腔内試適～インレー装着	E-5-3-1-1／必-11-ケ-b, 総VIII-5-ア-a, 各II-1-ウ-b	〃
29					
30					
31	6/27	間接修復法 II レジンインレー修復①	レジンインレー修復 class II 窩洞、設計と形成	E-5-3-1-1／必-11-ケ-b, 総VIII-5-ア-a, 各II-1-ウ-b	〃
32					
33					
34	7/4	間接修復法 II レジンインレー修復②	レジンインレー修復 印象採得～咬合模型製作	E-5-3-1-1／必-11-ケ-b, 総VIII-5-ア-a, 各II-1-ウ-b	〃
35					
36					
37	7/11	間接修復法 II レジンインレー修復③	レジンインレー修復 インレー体の調整～口腔内装着	E-5-3-1-1／必-11-ケ-b, 総VIII-5-ア-a, 各II-1-ウ-b	〃
38					
39					
40	7/18	直接修復 II グラスアイオノマーセメント修復	レジン添加型グラスアイオノマーセメント修復 Class I 窩洞	E-3／必-11-ケ-b, 総-7-2-ア-b, 各II-1-ウ-a	〃
41					
42					
43	7/25	実習試験作品提出	実習試験 提出物の確認	E-5-3-1-1／必-11-ケ-b, 総VIII-5-ア-a, 各II-1-ウ-a	〃
44					
45					

歯内療法学（前期・3単位）

D③④C-a3-4901 (D4901)

科目責任者：木村 裕一（歯内・教授）

科目担当者：①木村 裕一（歯内）、②佐藤 穂子（歯内）、
③長崎 慶太（歯内）、④金澤 朋昭

※この科目は、診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

歯内療法学とは、歯の硬組織、歯髄および根尖歯周組織などの疾病に対する診断と治療に関する研究を行う学問である。歯の硬組織疾患は、そのまま放置すれば歯質欠損を生じ、歯髄の露出をきたすとともに歯髄が感染に陥り、その結果として軽重さまざまな歯髄疾患が発症し、さらに根尖周囲に炎症が波及して根尖性歯周組織疾患を繰り返すことになる。したがって、本講義では歯内療法に関する診査、診断、処置、予防を講義主体に行う。

2. 一般目標

歯内療法学とは、歯の硬組織、歯髄および根尖歯周組織などの疾病に対する診断と治療に関する研究を行う学問である。歯の硬組織疾患は、そのまま放置すれば歯質欠損を生じ、歯髄の露出をきたすとともに歯髄が感染に陥り、その結果としてさまざまな歯髄疾患が発症し、さらに根尖周囲に炎症が波及して根尖性歯周組織疾患を繰り返すことになる。したがって、本講義では歯内療法に関する診査、診断、処置、予防を講義主体に行う（ディプロマポリシー5）。

3. 到達目標

- 1) 歯・歯周組織の構造と機能、歯の硬組織疾患を分類してその特徴や発生原因、症状、そして処置法を説明する。
- 2) 歯内治療における各種の基本術式、歯髄疾患を分類して原因、臨床症状、進行と経過、診査・検査法、そして治療法を説明する。
- 3) 根尖性歯周組織疾患を分類し、進行と経過、診査・検査し、診断法、そして治療法を説明する。
- 4) 根管処置（髓室開拓、根管長測定法と作業長の決定、機械的清掃）、根管処置（化学的清掃、根管貼薬、内容物検査、補助療法）について説明する。
- 5) 根管充填の目的と意義、時期、根管充填材の所要性質と種類、根管充填の術式、そして根管充填後の治癒経過について説明する。
- 6) 根未完成歯の治療、歯根の病的吸収の分類、原因、症状と診断、処置について説明する。
- 7) 外傷歯の分類、診断と治療、外科的歯内治療の種類、術式について説明する。
- 8) 歯科用实体顕微鏡を応用した歯内治療、変色歯の原因と漂白法について説明する。
- 9) 歯内・歯周疾患、高齢者の歯内治療、根管処置後の歯冠修復について説明する。
- 10) 歯内治療における偶発事故の種類とその安全対策について説明する。

4. 履修の進め方

本科目を履修する前に口腔解剖学、歯科理工学、病理学、薬理学などを理解しておく必要がある。保存系（保存修復学、歯周病学）と小児歯科学とは繋がりが深い。講義は教科書を中心に進めていくので、事前に内容を読んでおいて講義が終了したらその日のうちに復習して記憶を定着させる。

5. 準備学修

各回の授業内容項目について、教科書の該当部分を読むこと（15分）

授業内容について復習しポイントをまとめること（30分）

6. 評価方法

講義内容について論述問題または多肢選択問題による試験を実施し、理解度に関する評価を行う。評価は中間試験（50%）と定期試験（50%）により行う。最終評価は100点満点で65点以上を合格とする。不合格の場合は再試験を行い、65点以上を合格とする。

7. 教本

勝海一郎、興地隆史、石井信之、中田和彦 編 第5版「歯内治療学」医歯薬出版（教科書）

8. 参考書

興地隆史、石井信之、林美加子、北村知昭 編集主幹、第6版エンドドンティクス、永末書店

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号、国：国家試験出題基準、担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4/10	歯内療法学の概念	歯内療法学の定義、意義と目的、ならびに歴史	D-5-2/各II-2-ア、イ	①
2	4/10	歯・歯周組織の構造と機能（1）	歯の硬組織の構造と発生、歯髄の構造と機能	A-3-4-4/総II-5-ア、イ	ク
3	4/10	歯・歯周組織の構造と機能（2）	歯周組織の構造と機能、歯根と歯髄腔の形態と変化	A-3-4-5,6/総II-5-ア、イ	ク
4	4/17	歯の硬組織疾患（1）	歯と歯髄腔の形態異常	D-3-2-1/各II-1-ア、イ、ウ	③
5	4/17	歯の硬組織疾患（2）	歯の形成不全、歯の損耗（トゥースウェア）	D-3-2-1/各II-1-ア、イ、ウ	ク
6	4/17	歯の硬組織疾患（3）	齲歎症、象牙質知覚過敏症	D-3-2-1/各II-1-ア、イ、ウ	ク
7	4/24	歯内治療の基本術式の概要（1）	各種の口腔診査法（1）	D-2-2-1/必8-イ-a、総VI-1-ア-a,b	④
8	4/24	歯内治療の基本術式の概要（2）	各種の口腔診査法（2）	D-2-2-2/必8-イ-a、総VI-1-ア-a,b	ク
9	4/24	歯内治療の基本術式の概要（3）	無菌的処置法	D-2-2-2-E-1-1/総VI-1-ア-a,b	ク
10	5/8	歯内治療の基本術式の概要（4）	除痛法	D-1-2-1/必11-カ-a、総VII-4-ウ-a	ク
11	5/8	歯髄疾患（1）	歯髄疾患の概要、原因、分類と臨床症状	D-5-2-2/必6-イ-b、必7-イ-c、各II-2-ア-a、イ-b,c	③
12	5/8	歯髄疾患（2）	歯髄疾患の特徴と経過、歯髄疾患の診断	D-5-2-2/必6-イ-b、必7-イ-c、各II-2-ア-a、イ-b,c	ク
13	5/15	歯髄疾患（3）	歯髄疾患の診断、歯痛錯誤と関連痛、治療方針	D-5-2-2/必6-イ-b、必7-イ-c、各II-2-ア-a、イ-b,c	①

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
14	5/15	歯髓疾患(4)	歯髓疾患の治療法(1) (保存療法)	D-5-2-2/ 必6-イ-b, 必7-イ-c, 各II-2-ア-a, イ-b, c	①
15	5/15	歯髓疾患(5)	歯髓疾患の治療法(2) (保存療法)	D-5-2-2/ 必6-イ-b, 必7-イ-c, 各II-2-ア-a, イ-b, c	〃
16	5/22	歯髓疾患(6)	歯髓疾患の治療法(3) (保存, 去除療法)	D-5-2-2/ 必6-イ-b, 必7-イ-c, 各II-2-ア-a, イ-b, c	〃
17	5/22	歯髓疾患(7)	歯髓疾患の治療法(4) (除去療法), 緊急処置	D-5-2-2/ 必6-イ-b, 必7-イ-c, 各II-2-ア-a, イ-b, c	〃
18	5/22	根尖性歯周疾患(1)	根尖性歯周疾患の概要, 原因	D-5-2-2/ 必6-イ-b, 必7-イ-c, 各II-2-ア-b, イ-c	②
19	5/29	根尖性歯周疾患(2)	根尖性歯周疾患の分類と臨床症状	D-5-2-2/ 必6-イ-b, 必7-イ-c, 各II-2-ア-b, イ-c	〃
20	5/29	根尖性歯周疾患(3)	根尖性歯周疾患の特徴と経過, 診査・検査	D-5-2-2/ 必6-イ-b, 必7-イ-c, 各II-2-ア-b, イ-c	〃
21	5/29	根尖性歯周疾患(4)	根尖性歯周疾患の診査・検査	D-5-2-2/ 必6-イ-b, 必7-イ-c, 各II-2-ア-b, イ-c	〃
22	6/5	根尖性歯周疾患(5)	根尖性歯周疾患の診断法と治療方針	D-5-2-2/ 必6-イ-b, 必7-イ-c, 各II-2-ア-b, イ-c	〃
23	6/5	根尖性歯周疾患(6)	根尖性歯周疾患の診断法と治療方針と緊急処置	D-5-2-2/ 必6-イ-b, 必7-イ-c, 各II-2-ア-b, イ-c	〃
24	6/5	根管処置(1)	髓室開拓	D-5-2-2/ 各II-2-イ-d	〃
25	6/12	根管処置(2)	根管長測定法と作業長の決定	D-5-2-2/ 各II-2-イ-d	〃
26	6/12	根管処置(3)	根管形成(1)	D-5-2-2/ 各II-2-イ-d	〃
27	6/12	根管処置(4)	根管形成(2)	D-5-2-2/ 各II-2-イ-d	〃
28	6/19	根管処置(5)	根管の化学的清掃, 根管の消毒(根管貼薬)	D-5-2-2/ 各II-2-イ-d	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
29	6/19	根管処置(6)	根管内容物の検査, 根管治療の補助療法	D-5-2-2/ 各II-2-イ-d	②
30	6/19	根管充填(1)	根管充填の目的, 時期, 根管充填材の所要性質	B-2-5, D-5-2-2-2/ 各II-2-イ-e	〃
31	6/26	根管充填(2)	根管充填材の種類	D-5-2-2-2/ 各II-2-イ-e	〃
32	6/26	根管充填(3)	根管充填の術式	D-5-2-2-2/ 各II-2-イ-e	〃
33	6/26	根管充填(4)	根管充填後の治癒経過	D-5-2-2-2/ 各II-2-イ-e	〃
34	7/3	根未完成歯の治療	アペキソゲ ネーシスとアペキシフイケーション	D-5-6-4/ 各II-2-イ-f	①
35	7/3	歯根の病的吸収	内部吸収と外部吸収	D-5-2-2-7/ 各II-2-ア-e, イ-h	〃
36	7/3	外傷歯の診断と処置	外傷歯の分類, 診査・検査, 治療	D-3-1-2/ 各I-4-ア-b, 各II-2-ア-d	③
37	7/10	外科的歯内治療(1)	外科的歯内治療の適応症と種類, 術式	D-5-2-2-5/ 各II-2-イ-g	①
38	7/10	外科的歯内治療(2)	外科的歯内治療の術式および治癒機転と予後	D-5-2-2-5/ 各II-2-イ-g	〃
39	7/10	歯科用実体顕微鏡を応用した歯内治療	顕微鏡による検査, 処置の特徴, 適応症	D-5-2-2-5/ 各II-2-イ-g	〃
40	7/17	変色歯の漂白	変色歯の分類, 漂白	D-5-2-2-6/ 各II-1-ウ-f	③
41	7/17	歯内・歯周疾患	歯内疾患と歯周疾患の関連性	D-5-2-2/ 各II-2-ア-c	〃
42	7/17	高齢者・有病者の歯内治療	高齢者の心身における特徴	D-5-2-2/ 総V-5,6, 各V-6-ア	〃
43	7/24	根管処置後の歯冠修復	コロナルリーケージと支台築造	D-5-2-2/ 各IV-3-イ	〃
44	7/24	歯内治療における安全対策(1)	髓室壁・根管壁の穿孔, 小器具の根管内破折など	D-5-2-2/ 各II-2-イ-j	〃
45	7/24	歯内治療における安全対策(2)	皮下気腫, 歯性上顎洞炎, 根管処置時の全身管理	D-5-2-2/ 各II-2-イ-j	〃

歯内療法学実習（前期・1単位）

D④⑤C-c2-41002 (D41002)

科目責任者：木村 裕一（歯内・教授）

科目担当者：①木村 裕一（歯内）、②佐藤 穏子（歯内）、
③長崎 慶太（歯内）、④金澤 朋昭（歯内）、
⑤山崎 信夫（非常勤）、⑥森田 聰（非常勤）、
⑦吉野 浩正（非常勤）

※この科目は、診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

講義で修得した知識を整理しながら、基本的な歯内治療の術式を実践することを目的とする。歯内療法学の実習は、透明根管模型を用いて根管形成と根管充填を実施、理解して実際に行った後の根管模型から各自の技術的な欠点を十分に理解し納得させる。その後、複製根管腔模型歯を植立した顎模型をマネキンに装着して水平位診療姿勢でラバーダム防湿を実施した後、一連の根管治療を行い、エックス線写真を撮影して根管充填の良否を判断できるようとする。講義で修得した知識やこの実習で実施した技術や術式を通して修得した技能、そして態度をより完全にして臨床実習に望むためにこの実習を行う。

2. 一般目標

臨床において根管治療を行うために必要なラバーダム防湿、根管形成および根管充填に関する基本的な知識と技術を確認し、さまざまな植立模型歯の顎模型を用いてマネキンに装着し、患者とみなして修得する。また、マネキンを患者とみなしているので、患者に対する態度も修得する（ディプロマボリシー6）。

3. 到達目標

- 1) 根管の形態を図示し、説明する。
- 2) 根管形成に必要な器具を準備し、器具の名称と使用法を説明する。
- 3) 根管充填に必要な器具を準備し、器具の名称と使用法を説明する。
- 4) 根管治療に必要な器具の名称とそれぞれの器具の操作法を説明し、使用する。
- 5) ラバーダム防湿に必要な器具を準備し、器具の名称と手順を述べ、実施する。
- 6) 根管形成の手順を述べ、術式を実施する。
- 7) 根管充填の術式を述べ、実施する。
- 8) エックス線写真を撮影し根管充填の良否を判断する。
- 9) 根管充填し仮封後の対合関係を調整する。
- 10) 全実習に出席し、基本的な術式を実施する。

4. 履修の進め方

7～8名の学生に1～2名の教員が指導する。ステップごとにチェックしてもらい、検印を受ける。あらかじめ実習内容について予習し、必要な機材を用意しておく。また実習中に疑問点があれば質問する。実習では正しい器具を選択して使用し、実習書や教科書に記載してある術式通りに行う。

5. 準備学修

各回の実習内容項目について、実習書と教科書の該当部分を読むこと（15分）

実習内容について復習し、重要な項目をまとめること（30分）

6. 評価方法

それぞれの課題のステップごとに基準を満たしているものに対して各インストラクターが評価して検印し、さらにそれぞれの課題が終了するごとに作品を提出させ、実習責任者が全作品を採点し、技能評価とする。技能評価（60%）、実習試験（40%）により評価し、65点以上を合格とする。技能評

価での合格基準はすべての作品において規格形成法による根管形態に根管形成されており、かつ根管内異物が認められないことと根管充填においては緊密に充填されており、かつ到達度が根尖から2mm以内で根尖から溢出していないことである。小テストと実習試験での合格基準は26点以上である。

7. 教本

Practice in root canal preparation and filling (実習書) および手技の動画を電子媒体にて配布

勝海一郎、興地隆史、石井信之、中田和彦 編 第5版「歯内治療学」医歯薬出版（教科書）

8. 参考書

興地隆史、石井信之、林美加子、北村知昭 編集主幹、第6版エンドドンティクス、永末書店

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号、国：国家試験出題基準、担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4/12	器材チェック	窩洞外形の設定、チャンバーオープン、便宜形態の形成、根管口表示（部位26）	E-5-3-2/必-11-ケ-c,各II2-イ-d,e	①
2		と透明根管模型を用いた根管形成			＼
3					⑦
4	4/19	透明根管模型の根管形成	アピカルシート、アピカルカラー、フレアー形成、アピカルシートの確認（部位26）	E-5-3-2/必-11-ケ-c,各II2-イ-d,e	＼
5					
6					
7	4/26	透明根管模型の根管充填	マスターポイントの試適、側方加压根管充填、二重仮封（部位26）	E-5-3-2/必-11-ケ-c,各II2-イ-d,e	＼
8					
9					
10	5/10	複製根管腔模型歯を用いた根管形成（1）	ラバーダム防湿、根管口表示、根管長測定、エックス線写真撮影（リーマー試適）根管形成（部位11）	E-5-3-2/必-11-ケ-c,各II2-イ-d,e	＼
11					
12					
13	5/17	複製根管腔模型歯を用いた根管形成（2）	ラバーダム防湿、アピカルシートの確認、根管形成完了の確認（部位11）	E-5-3-2/必-11-ケ-c,各II2-イ-d,e	＼
14					
15					
16	5/24	複製根管腔模型歯を用いた根管充填	ラバーダム防湿、マスターポイントの試適、側方加压根管充填、エックス線写真撮影（根管充填の良否確認）、二重仮封（部位11）	E-5-3-2/必-11-ケ-c,各II2-イ-d,e	＼
17					
18					

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
19	5/31	複製根髓腔模型歯を用いた根管形成(1)	ラバーダム防湿, 根管口明示, 根管長測定, エックス線写真撮影(リーマー試適) 根管形成(部位24)	E-5-3-2/必-11-ケ-c, 各Ⅱ2-イ-d, e	① ⑤ ⑦
20					
21					
22	6/7	複製根髓腔模型歯を用いた根管形成(2)	ラバーダム防湿, アピカルシートの確認, 根管形成完了の確認(部位24)	E-5-3-2/必-11-ケ-c, 各Ⅱ2-イ-d, e	〃
23					
24					
25	6/14	複製根髓腔模型歯を用いた根管充填	ラバーダム防湿, マスターポイントの試適, 側方加圧根管充填, エックス線写真撮影(根管充填の良否確認), 二重仮封(部位24)	E-5-3-2/必-11-ケ-c, 各Ⅱ2-イ-d, e	〃
26					
27					
28	6/21	複製根髓腔模型歯を用いた根管形成(1)	ラバーダム防湿, 根管口明示, 根管長測定, エックス線写真撮影(リーマー試適) 根管形成(部位26)	E-5-3-2/必-11-ケ-c, 各Ⅱ2-イ-d, e	〃
29					
30					
31	6/28	複製根髓腔模型歯を用いた根管形成(2)	ラバーダム防湿, アピカルシートの確認, 根管形成完了の確認(部位26)	E-5-3-2/必-11-ケ-c, 各Ⅱ2-イ-d, e	〃
32					
33					
34	7/5	複製根髓腔模型歯を用いた根管充填	ラバーダム防湿, マスターポイントの試適, 側方加圧根管充填, エックス線写真撮影(根管充填の良否確認), 二重仮封(部位26)	E-5-3-2/必-11-ケ-c, 各Ⅱ2-イ-d, e	〃
35					
36					
37	7/12	複製根髓腔模型歯を用いた根管充填材除去	ラバーダム防湿, 仮封材と根管充填材の除去, エックス線写真撮影(根管充填材除去の確認)(部位11)	E-5-3-2/必-11-ケ-c, 各Ⅱ2-イ-d, e	〃
38					
39					

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
40	7/19	根管洗浄とマスターポイントの試適ラバーダム防湿, 根管洗浄, マスターポイント(部位11), 実施内容の説明, ラバーダム防湿の実施	実施内容の説明, ラバーダム防湿, 根管洗浄, マスターポイント(部位11), 実施内容の説明, ラバーダム防湿の実施	E-5-3-2/必-11-ケ-c, 各Ⅱ2-イ-d, e	① ⑤ ⑦
41					
42					
43	7/26	透明根管模型を用いた実習試験	ラバーダム防湿, 根管口明示, 根管形成	E-5-3-2/必-11-ケ-c, 各Ⅱ2-イ-d, e	〃
44					
45					

歯周病学（後期・3単位）

D③④C-a3-4902(D4902)

科目責任者：高橋 慶壯（歯周・教授）

科目担当者：①高橋 慶壯（歯周）、②齋藤 淳（客員）、
③山崎 厚作（歯周）、④小林 之直（非常勤）、
⑤大塩 薫里（非常勤）、⑥田中 真喜（非常勤）

※この科目は、診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

歯周病は「感染症」から「生活習慣病」あるいは「慢性炎症」へと疾患の位置づけが変化した。歯周病は多因子性の慢性の炎症性疾患であり、患者ごとに複数のリスク因子が関わるため、歯周治療では患者教育・支援に基づく患者の行動変容を促し、原因除去およびリスク評価に基づくリスク管理を主眼においていた歯周基本治療、歯周外科療法および口腔機能回復治療、そしてメインテナンスあるいはSPTが行われる。講義では歯周組織の構造と機能、歯周疾患の病因と病態、歯周疾患の診断、歯周治療の術式と適応症等を学ぶ。さらに、歯周病学の研究と臨床の軸足が「歯周医学」「歯周組織再生療法」および「口腔インプラント治療」へとシフトしているため、3つの項目についても講義を行う。

2. 一般目標

歯周病の診断、治療および予防を行うために、歯周組織の常態、疾患、診断および治療方法を理解する（ディプロマボリシード）

3. 到達目標

- 1) 歯周組織の発生、構造および機能を説明できる。
- 2) 歯周疾患の病因と病態を説明できる。
- 3) 病因としての口腔細菌、歯垢および歯石を説明できる。
- 4) 歯周疾患の分類を説明できる。
- 5) 歯周疾患の診断と治療方針を説明できる。
- 6) 歯周治療の術式と適応症を説明できる。
- 7) 歯周外科手術の種類と適応症を説明できる。
- 8) 歯周治療後の組織の治癒機転と予後を説明できる。
- 9) 歯周疾患の緊急処置の種類と方法を説明できる。
- 10) 歯周疾患の予防法を説明できる。

4. 履修の進め方

教科書とスライドを用いて講義を行う。スライド内容はあらかじめPDFにして各自がダウンロードできるように授業提示システムに掲載しており、講義で該当する領域の教科書範囲とともに予習することを可能にしている。寺子屋方式で知識を一方向的に伝授するだけではなく、双方向的な講義形成をとる。現在はコロナ感染対策の観点から、双方向の講義が難しい状況にあるが、能動的に学ぶ姿勢の育成を支援する。

5. 準備学修

本科目は臨床歯学の一分野であり、基礎歯学（解剖学、病理学、生化学、感染免疫学、生理学、薬理学、歯科理工学）を基盤にしている。また、臨床科目（保存修復学、歯内療法学、小児歯科学、歯科補綴学、歯科矯正学、歯科放射線学、口腔外科学、口腔インプラント学、臨床医学）に繋がる領域を含んでいるため、狭い領域に集中しがちな「垂直思考」に「水平思考」を加えた学習が望まれる。事前学習および事後学習を30分ずつ程度行うことが望ましい。分からぬ領域をそのままにせず、説明できるレベルまで理解を深める努力が求められる。教科書や参考書以外にもGoogleやChat GPTを活用した自主学習が出来る環境にあるので、自主的に学ぶ習慣を身に付けることが肝要である。

6. 評価方法

出席率は80%以上を必須とする。後期の講義終了後、講義内容について多肢選択式問題および記述式試験を実施し、点

数が65点未満の場合には再試験を行う。定期試験欠席者に対しては追試験を行う。また、追・再試験の点数が65点以上でも65点の採点結果とする。最終評価は全試験結果から決定する。

7. 教本

臨床歯周病学 第3版 医歯薬出版
ザ・ペリオドントロジー 第4版 永末書店

8. 参考書

エンド・ペリオ病変の臨床 歯内-歯周複合病変 診断と治療のストラテジー 医歯薬出版 2009.

歯周治療 失敗回避のためのポイント33 クインテッセンス出版 2011.

考えるペリオドンティクス クインテッセンス出版 2018.

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号、国：国家試験出題基準、担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	9/4	歯周病学の概要	歯周病学と歯周治療学の概要、病因論のパラダイムシフト	E-5-3-3/	①
2	9/4	歯周組織の構造と機能	正常および病的な歯周組織の解剖学	A-3-4/ 総II-5-イ-b, 総IV-2-イ	ク
3	9/4	歯周病の病因論	プラーク、バイオフィルム、歯垢と歯石	D-3-2-3/ 総III-2-アb	ク
4	9/11	歯周病の病因論	各種の修飾因子	D-3-2-3/ 総VI-6ウ	③
5	9/11	リスクファクター	喫煙、糖尿病、肥満、ストレス、歯ぎしり	D-3-2-3/ 各論II-3-ア-a, b	ク
6	9/11	リスクファクター	遺伝的素因、全身疾患	D-5-2-3-1/ 各論II-3-ア-a, b	ク
7	9/18	歯周病の分類	歯肉炎、歯周炎の特徴、欧米の新分類	D-5-2-3-1/ 各論II-3-ア-a, b, c	①
8	9/18	歯周病の分類	非プラーク性歯肉病変、特殊な歯周疾患	D-5-2-3-1/ 各論II-3-ア-a, c	ク
9	9/18	炎症および免疫応答	自然免疫、生体防御細胞、細胞性および体液性免疫応答	E-3-3)-(3)-(2)/ 総VI-11イ	ク
10	9/25	歯周医学	歯周病と全身疾患の関連性、糖尿病、肥満	D-5-2-3-1/ 各論II-3-ア-h	ク
11	9/25	歯周医学	歯周病と心血管疾患、誤嚥性肺炎、早産、腎疾患等	D-5-2-3-1/ 各論II-3-ア-h	ク
12	9/25	歯周検査	PCR、歯肉炎指数、歯周ポケットプローピング、アタッチメントレベル、BOP等	E-2-2-5(Ia)/ 総VI-1ア-c/ 各III-9ア	ク

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
13	10/2	歯周検査	画像診断, 骨吸収指数, 前臨床的検査	E-2-2-5(Ia)/ 総IX-1エ/ 総VI-3ア-e	③
14	10/2	歯周基本治療	患者教育・支援, 行動変容, 口腔衛生指導	E-5-3-3-1 (Ia)/ 各論II3-イ-a, b, c, d, e, 各論II3-ウ-b	〃
15	10/2	歯周基本治療	救急処置	D-1-1/ 各論II3-ウ-a	〃
16	10/9	歯周基本治療	スケーリング, ルートプレーニング	D-5-3-3-2/ 各論II3-ウ-b	④
17	10/9	歯周基本治療	抗菌療法, 局所薬物配送システム (LDDS)	D-5-3-3-3/ 総VII8-イ, 各論II3-ウ-i	〃
18	10/9	歯周基本治療	咬合治療, 暫間固定, 暫間義歯	D-5-2-3-5/ 各論II3-ウ-c	〃
19	10/16	歯周基本治療	咬合性外傷, ブラキシズムの病態と対処法	D-5-2-3-3/ 各論II3-ウ-c	〃
20	10/16	歯周外科療法	分類, 特徴および術式	D-5-2-3-4/ 各論II3-ウ-e	②
21	10/16	歯周外科療法	分類, 特徴および術式	D-5-2-3-4/ 各論II3-ウ-e	〃
22	10/30	骨移植	人工骨, 異種骨, 同種骨および自家骨の特徴と治療成績	D-5-2-3-4/ 各論II3-ウ-e	①
23	10/30	歯周外科療法	ポケット除去療法, 新付着術, 臨床的歯冠長延長術など	D-5-2-3-4/ 各論II3-ウ-d	〃
24	10/30	歯周外科療法	フラップ手術の原理と術式	D-5-2-3-4/ 各論II3-ウ-d	〃
25	10/31	歯周外科療法	組織再生誘導法 (GTR法) 再生の原理と術式	D-5-2-3-4/ 各論II3-ウ-e	③
26	10/31	歯周外科療法	エナメルマトリックスタンパク質, FGF-2製剤の応用	D-5-2-3-4/ 総VII2-ア-c, 各論II3-ウ-e	〃
27	10/31	歯周外科療法	歯周形成外科 (遊離歯肉移植術, 齒肉弁根尖側移動術, 小帶切除術など)	D-5-2-3-4/ 各論II3-ウ-f	①
28	11/6	歯周外科療法	歯周形成外科 (根面被覆)	D-5-2-3-4/ 各論II3-ウ-f	〃
29	11/6	歯周外科療法	歯周外科療法のまとめ	D-5-2-3-4/ 各論II3-ウ-d, e, f	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
30	11/6	歯周外科療法	歯周 - 矯正治療, PAOO	D-5-2-3-4, D-5-5-1/ 各論III-9イ	⑥
31	11/13	レーザー治療	歯周治療におけるレーザーの活用	D-5-2-3-4, / 総VII9-エ, 各論III-6ケ, 8ケ	〃
32	11/13	歯周 - 歯内複合病変	Simon の分類ごとの治療法と予後	D-5-2-3-4, / 各論III-9カ	①
33	11/13	根分岐部病変	根分岐部病変の分類	D-5-2-3-4/ 各論II3-ウ-g	⑤
34	11/20	根分岐部病変	根分岐部病変の治療	D-5-2-3-4/ 各論II3-ウ-g	〃
35	11/20	歯周病に関する臨床疫学	歯周疾患を表す指數と指數評価 齒周治療のEBMとNBM, ガイドライン, GRADE	E-3-3)-(3)- ⑤/ 総V-1オ/ 総X-1ア, イ, ウ, エ	③
36	11/20	再生医療	組織工学 (Tissue engineering)	E-3-3)-(3)- ④/ 総XI-16エ	〃
37	11/27	創傷治癒	切除型, 歯周組織再生誘導法による治癒過程	D-5-2-3-5/ 各論II3-ウ-d	①
38	11/27	口臭, 口呼吸	口臭および口呼吸の原因と治療法	E-3-3)-(3)- ⑥/ 総VI-1ア-f	〃
39	11/27	臨床推論	診断の暗黙知, SOAP	E-3-1, 2/ 総V-1ア	〃
40	12/4	臨床推論	診断時の思考法, 帰納法, アブダクション	E-3-1, 2/ 必須3-ケa, b, c	〃
41	12/4	口腔機能回復治療	歯周補綴, 永久固定	D-5-2-3-5, / 各論II3-ウ-h	〃
42	12/4	歯周病患者に対するインプラント治療	インプラント周囲粘膜炎, インプラント周囲炎	D-5-3-3-8/ 各論III-9ケ	〃
43	12/11	SPT, メインテナンス	意義と実際, 電動歯ブラシの効果, 口腔管理	D-5-3-3-6/ 各論II3-ウ-j	③
44	12/11	歯周病の診断と治療計画	一口腔単位の診断および治療計画の立案 包括的な歯周治療	D-5-2-3-2, / 必12-アc, ウa	①
45	12/11	高齢者と有病者の歯周治療講義のまとめ	講義の総括	D-5-6-2, 3/ 総VI-11イ 各論II3-ウ-k	〃

歯周病学実習（後期・1単位）

D④⑤C-cl-41003 (D41003)

科目責任者：高橋 慶壯（歯周・教授）

科目担当者：①高橋 慶壯（歯周）、②山崎 厚作（歯周）、
③メ谷 晓子（非常勤）、④小林 之直（非常勤）、
⑤杉 祐紀（非常勤）、⑥大塩 薫里（非常勤）、
⑦田中 真喜（非常勤）

※この科目は、診療経験のある歯科医師および一般企業勤務
経験のある教員が担当する

1. 科目の概要

講義の内容を踏まえて、基本的な歯周治療の知識と手技を習得することを目的とする。すなわち、歯周病の診査・診断、一口腔単位の治療計画の立案、歯周基本治療、修正治療および各種歯周外科手術に必要な術式を修得し、SPTあるいはメインテナンスに移行できるようにする。また、歯周病が「生活習慣病」であることから、歯周治療において術者による適切な患者教育（行動変容）および治療、さらに患者自身による口腔管理を確立させるような指導力、説明能力およびコミュニケーション能力が要求される。

2. 一般目標

歯周治療を実践するために、基本となる知識、技術、態度を修得する。（ディプロマポリシー5）

3. 到達目標

- 1) 歯周診査を実施できる。
- 2) 歯周病の状態を診断できる。
- 3) 一口腔単位の治療計画を立案できる。
- 4) プラーカコントロールレコードの記載と患者への説明ができる。
- 5) プラーカの付着部位に適したブラッシング方法を患者に指導できる。
- 6) スケーリングとルートプレーニングを実施できる。
- 7) 咬合調整を実施できる。
- 8) 暫間固定を実施できる。
- 9) 基本的な歯周外科手術の適応症を説明できる。
- 10) 基本的な歯周外科手術を実施できる。

4. 履修の進め方

教員のデモや動画を視聴させて内容を説明後に学生に実習させ、ステップ・バイ・ステップで検印をする。コロナ感染対策が必要な状況であれば、今年度と同様の対応を検討する。

5. 準備学修

臨床歯周病学 第3版 医歯薬出版
ザ・ペリオドロジー 第4版 永末書店
歯周治療 失敗回避のためのポイント33 クインテッセンス出版

エンド・ペリオ病変の臨床 歯内-歯周複合病変 診断と治療のストラテジー 医歯薬出版

事前および事後学習を30分ずつ程度行うことが望ましい。

6. 評価方法

全出席を原則とする。実習中の実習態度、各ステップごとの習得度に対するインストラクターの評価（30%）および中間テストと実習試験の結果（70%）を総合判定して合否を決める。

7. 教本

歯周病学実習マニュアル2024 奥羽大学歯学部歯科保存学講座（歯周）

8. 参考書

なし

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号、国：国家試験出題基準、担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	9/4	歯周診査	購入器具の確認、歯肉模型を用いた歯周診査	E-2-2-5(Ia)／ 総IX-1工	① ②
2					
3					
4	9/11	口腔衛生指導・ルートプレーニング	口腔衛生指導(つまようじ法、バス法)相互実習)、縁上スケーリング(CSX 対策)	E-5-3-3-1(Ia)／ 各Ⅲ-9イ	① ② ⑦
5					
6					
7	9/18	歯周病の病態説明	歯周病の病態説明(相互実習)	E-5-3-3-1(Ia)／ 必12-アc, ウa	ク
8					
9					
10	9/25	歯周治療	歯肉模型を用いた歯肉縁下ルートプレーニング(上顎)スケーラーのシャープニング	D-5-3-3-2／ 各Ⅲ-9イ	ク
11					
12					
13	10/2	歯周治療	歯肉模型を用いた歯肉縁下ルートプレーニング(上顎)スケーラーのシャープニング	D-5-3-3-2／ 各Ⅲ-9イ	ク
14					
15					
16	10/9	歯周治療	歯肉縁下ルートプレーニング(下顎)、スケーラーのシャープニング	D-5-3-3-2／ 各Ⅲ-9イ	ク
17					
18					
19	10/16	歯周治療	暫間固定(咬合調整)、歯周外科の基本手技、切開、縫合	D-5-2-3-5／ 各Ⅲ-9イ	ク
20					
21					
22	10/30	歯周外科	歯肉切除術(模型)	D-5-2-3-4／ 各Ⅲ-9イ	ク
23					
24					
25	10/31	歯周外科	フランプ手術(模型)	D-5-2-3-4／ 各Ⅲ-9工	ク
26					
27					
28	11/6	歯周外科	ブタ下顎骨を用いたフランプ手術	D-5-2-3-4／ 各Ⅲ-9工	ク
29					
30					
31	11/13	歯周外科	ブタ下顎骨を用いたGTR法	D-5-2-3-4／ 各Ⅲ-9工	ク
32					
33					
34	11/20	歯周外科	ブタ下顎骨を用いた遊離歯肉移植術、根面被覆	D-5-2-3-4／ 各Ⅲ-9工, オ	ク
35					
36					
37	11/27	診断・治療計画	歯周病の診断に基づく一口腔単位の治療計画の立案	D-5-2-3-2／ 必12-アc, ウa	ク
38					
39					

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
40	12／4	診断・治療計画	診断および治療方針の記載あるいは発表担当教員とのディスカッション	D-5-2-3-2／必12-a.c. ウa	① ② ⑦
41					
42					
43	12／11	実習試験	実習試験		① ②
44					
45					

冠橋義歯補綴学Ⅱ（前期・2単位）

D③④C-a2-4904(D4904)

科目責任者：羽鳥 弘毅（冠橋・教授）

科目担当者：①羽鳥 弘毅（冠橋）

※この科目は、診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

冠橋義歯補綴は歯科治療の中でも高頻度な治療方法であることから、安全かつ確実な治療を施すためには、顎口腔系緒器官の機能や形態に関する知識の修得のみならず、使用する機械の特徴や材料の性質についても把握する必要があり、かつ歯学全般の幅広い知識と熟練した技能が必要とされる。そこで、冠橋義歯補綴学Ⅱでは冠橋義歯補綴装置の実際の製作法から予後管理に至るまでの、治療の流れの中で重要な項目について教授する。

2. 一般目標

歯冠部歯質欠損および少数歯欠損による咬合・咀嚼障害や審美障害を治療できるようになるために、クラウンおよびブリッジを応用した補綴法に必要な知識を修得する。

3. 到達目標

- 1) 印象採得法と印象用器材を説明する。
- 2) 顎間関係の記録法とその重要性を説明する。
- 3) 作業用模型の種類と要件を説明する。
- 4) ワックスパターン形成の要件と形成法の種類を説明する。
- 5) レジン前装冠の臨床的意義と特徴、製作法を説明する。
- 6) 陶材焼付冠の臨床的意義と特徴、製作法を説明する。
- 7) ハイブリッド型コンポジットレジンクラウンの特徴を説明する。
- 8) オールセラミッククラウンの特徴を説明する。
- 9) 従来型ブリッジと接着ブリッジの特徴を比較する。
- 10) 鋳造法とCAD/CAMによる補綴装置製作の特徴を比較する。
- 11) クラウンブリッジの試適・装着手順を説明する。
- 12) 装着後に発生する問題とその対応を説明する。
- 13) 高齢者・要介護者のクラウンブリッジ補綴治療の要件を説明する。

4. 履修の進め方

教科書を中心としたスライドによる視覚素材を用いて講義する。理解度を確認するために適宜試験問題を配付する。この試験問題の解答はユニバに掲示する。

5. 準備学修

予習として、シラバスを確認して、次回の講義内容について教科書を読むこと。(30分)

復習として、教科書とスライドデータを確認して講義内容を十分に理解すること。(60分)

6. 評価方法

前期の定期試験において点数が65点以上を合格とする。定期試験は多肢選択式問題と記述式問題の筆記試験とする。追試験を実施する場合は上限を90点とする。点数が65点未満の場合には再試験を行う。点数が65点未満の再試験該当者は、再試験の点数が65点以上でも65点の採点結果とする。

7. 教本

矢谷博文 ら編「クラウンブリッジ補綴学第6版」医歯薬出版

石橋寛二 ら編「クラウンブリッジテクニック第2版」医歯薬出版

8. 参考書

なし

9. 授業内容と日程

(コ:コアカリ記号, 国:国家試験出題基準, 担:担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4/12	印象採得①	印象材の種類、印象用器材 印象の前準備	E-5-3/ 各IV-3-イ	①
2	4/12	印象採得②	印象法、印象後の処理	E-5-3/ 各IV-3-イ	〃
3	4/19	顎間関係の記録①	咬合関係の決定と記録	E-5-3/ 各IV-3-イ	〃
4	4/19	顎間関係の記録②	頑蓋に対する上顎歯列の三次元的位置記録の記録	E-5-3/ 各IV-3-イ	〃
5	4/26	ロストワックス法による製作①	作業用模型の構成と要件	E-5-3/ 各IV-3-ウ	〃
6	4/26	ロストワックス法による製作②	咬合器の種類と選択 咬合器装着と調節	E-5-3/ 各IV-3-ウ	〃
7	5/10	ワックスアップ(ワックスパターン形成)	ワックスパターンの要件 ワックスアップの種類	E-5-3/ 各IV-3-ウ	〃
8	5/10	埋没・铸造	埋没材の種類・埋没法、铸造と铸造取縮の補償	E-5-3/ 各IV-3-ウ	〃
9	5/17	熱処理・研磨	铸造欠陥、铸造後処理、熱処理、研磨	E-5-3/ 各IV-3-ウ	〃
10	5/17	患者情報の記録と伝達	患者情報の記録と伝達	E-5-3/ 各IV-3-イ	〃
11	5/24	レジン前装冠①	レジン前装冠の臨床的意義と適応症	E-5-3/ 各IV-3-ア	〃
12	5/24	レジン前装冠②	レジンと金属の結合 レジン前装冠の製作法	E-5-3/ 各IV-3-ウ	〃
13	5/31	陶材焼付冠①	陶材焼付冠の臨床的意義、適応症と禁忌症	E-5-3/ 各IV-3-ア	〃
14	5/31	陶材焼付冠②	陶材と金属の結合	E-5-3/ 各IV-3-ウ	〃
15	6/7	陶材焼付冠③	陶材焼付冠の製作法	E-5-3/ 各IV-3-ウ	〃
16	6/7	CAD/CAMによるクラウンブリッジの製作	臨床的意義、歯科におけるCAD/CAM	E-5-3/ 各IV-3-ウ	〃
17	6/14	ハイブリッド型コンポジットレジンクラウン	臨床的意義、適応症と禁忌症、種類、製作法	E-5-3/ 各IV-3-ア	〃
18	6/14	オールセラミック修復	修復法の臨床的意義、適応症と禁忌症	E-5-3/ 各IV-3-ア	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
19	6/21	ブリッジ(従来型ブリッジ)①	臨床的意義、適応症と禁忌症、支台歯形成	E-5-3/ 各IV-3-ア	①
20	6/21	ブリッジ(従来型ブリッジ)②	印象採得・咬合採得、ブリッジの製作	E-5-3/ 各IV-3-ウ	〃
21	6/28	接着ブリッジ①	接着ブリッジの歴史と基本デザイン	E-5-3/ 各IV-3-ア	〃
22	6/28	接着ブリッジ②	接着ブリッジの臨床的意義、適応症、製作法	E-5-3/ 各IV-3-ウ	〃
23	7/5	支台築造①	支台築造の臨床的意義、種類・選択基準	E-5-3/ 各IV-3-イ	〃
24	7/5	支台築造②	支台築造の方法	E-5-3/ 各IV-3-イ	〃
25	7/12	プロビジョナルレストレーション	プロビジョナルレストレーションの臨床的意義、種類、製作方法	E-5-3/ 各IV-3-イ	〃
26	7/12	装着	口腔内試適と装着	E-5-3/ 各IV-3-イ	〃
27	7/19	術後管理(メインテナンス)	術後管理の重要性、プラクコントロール、ケア	E-5-3/ 各IV-3-イ	〃
28	7/19	装着後に発生する問題とその対応	支台装置、支台歯、歯周組織、残存歯列(咬耗)	E-5-3/ 各IV-3-イ	〃
29	7/26	オーラルアプロライアンス(口腔内装置)	オーラルアプロライアンスの使用目的、種類と特徴	E-5-3/ 各IV-3-ア、イ、ウ	〃
30	7/26	高齢者・要介護者におけるクラウンブリッジ治療	高齢者・要介護者を対象にしたクラウンブリッジ治療	E-5-3/ 各IV-3-ア、イ、ウ	〃

冠橋義歯補綴学実習（前期・1単位）

D④⑤C-cl-41004 (D41004)

科目責任者：羽鳥 弘毅（冠橋・教授）

科目担当者：①羽鳥 弘毅（冠橋）、②内田 光洋（冠橋）、
③小野崎 裕（非常勤）、④加藤 崇（非常勤）、
⑤白井やよい（非常勤）、⑥菊池 利也（非常勤）、
⑦佐々木具文（非常勤）、他

※この科目は、診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

講義で学んだ知識を基に、クラウンブリッジを実際に自分で製作し、支台歯形成、印象採得、咬合採得、作業用模型の製作、ワックスパターン形成、埋没、铸造、前装材料築盛、研磨といった各製作過程における技術的な要点および生体に調和した補綴装置の要件について学ぶ。また、実際に製作に使用する器具の特徴や性質などについても学ぶ。

2. 一般目標

歯質欠損や少数歯欠損による咬合・咀嚼障害を回復できるようになるために、クラウンブリッジを製作、装着する技術と知識を修得する。

3. 到達目標

- 1) 全部金属冠とレジン前装冠の支台歯形成を行う。
- 2) シリコーンゴム印象材により支台歯の精密印象採得を行う。
- 3) 精密な作業用模型を製作する。
- 4) 歯型上で精度の高いワックスパターンを形成する。
- 5) ワックスパターンを変形させずに埋没する。
- 6) 鑄造欠陥を生じさせずに铸造を行う。
- 7) 前装用レジンで天然歯の色調と形態を再現する。
- 8) 歯冠補綴装置を口腔内装着可能なまで滑沢に研磨する。

4. 履修の進め方

マネキンおよび歯列模型を用いてクラウンブリッジを製作する。その各ステップで使用する器械や材料の扱い方に習熟し、緻密で正確な技工操作ができる技術を磨くとともに知識を修得する。

5. 準備学修

次回行う実習内容を実習書で予習する。(30分)

実習内で毎回実施する小テストで、間違った問題等を再度、学習する。(30分)

6. 評価方法

実習製作物評価（25点）、小テスト結果（25点）、実習実技試験（25点）及び実習筆記試験（25点）を総合して評価する。

7. 教本

奥羽大学歯学部歯科補綴学講座 編「冠橋義歯補綴学実習マニュアル」

8. 参考書

矢谷博文 ら編「クラウンブリッジ補綴学第6版」医歯薬出版

石橋寛二 ら編「クラウンブリッジテクニック第2版」医歯薬出版

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号、国：国家試験出題基準、担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4/11	オリエンテーション、下顎白歯部ブリッジ	実習の進め方 および材料の取り扱い方、 支台歯形成	E-5-3/ 各IV-3-ア、 イ、ウ	① ⑤ ⑦
2					
3					
4					

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
5	4/18	下顎白歯部ブリッジ	支台歯形成	E-5-3/ 各IV-3-ア、 イ、ウ	① ⑤ ⑦
6					
7					
8					
9	4/25	下顎白歯部ブリッジ	印象採得	E-5-3/ 各IV-3-ア、 イ、ウ	ク
10					
11					
12					
13	5/9	下顎白歯部ブリッジ	作業用模型製作	E-5-3/ 各IV-3-ア、 イ、ウ	ク
14					
15					
16					
17	5/16	下顎白歯部ブリッジ	咬合採得	E-5-3/ 各IV-3-ア、 イ、ウ	ク
18					
19					
20					
21	5/23	下顎白歯部ブリッジ	模型の咬合器付着	E-5-3/ 各IV-3-ア、 イ、ウ	ク
22					
23					
24					
25	5/30	下顎白歯部ブリッジ	ワックスパターン形成	E-5-3/ 各IV-3-ア、 イ、ウ	ク
26					
27					
28					
29	6/6	下顎白歯部ブリッジ	埋没、铸造	E-5-3/ 各IV-3-ア、 イ、ウ	ク
30					
31					
32					
33	6/13	下顎白歯部ブリッジ	研磨、仕上げ	E-5-3/ 各IV-3-ア、 イ、ウ	ク
34					
35					
36					
37	6/20	レジン前装冠	支台歯形成	E-5-3/ 各IV-3-ア、 イ、ウ	ク
38					
39					
40					
41	6/27	レジン前装冠	ワックスパターン形成、窓開け、埋没	E-5-3/ 各IV-3-ア、 イ、ウ	ク
42					
43					
44					
45	7/4	レジン前装冠	铸造、調整、研磨	E-5-3/ 各IV-3-ア、 イ、ウ	ク
46					
47					
48					
49	7/11	レジン前装冠	レジン築造、仕上げ	E-5-3/ 各IV-3-ア、 イ、ウ	ク
50					
51					
52					
53	7/18	支台築造	ワックスパターン形成	E-5-3/ 各IV-3-ア、 イ、ウ	ク
54					
55					
56					
57	7/25	実習試験	筆記試験、実技試験	E-5-3/ 各IV-3-ア、 イ、ウ	ク
58					
59					
60					

有床義歯補綴学Ⅱ（前期・3単位）

D③④C-a3-4905 (D4905)

科目責任者：高津 匡樹（有床・教授）

科目担当者：①高津 匡樹（有床）、②松本 知生（有床）、
③田中みか子（非常勤）

※この科目は、診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

有床義歯補綴学Ⅱでは、部分床義歯の製作・装着に至る理論を学ぶ。部分床義歯とは、歯列内の部分的な歯の喪失と、それに伴って生じた歯周組織や歯槽突起の実質欠損の補綴を目的として、残存歯またはインプラントを支台とする有床可撤方式の義歯をいう。少数歯欠損から1歯残存に至るあらゆる欠損の症例に適用され、多様性に富んでいる。したがって、欠損の部位や範囲によって咬合力を支持する様式が多様であり、橋義歯の考え方から、全部床義歯の考え方まで種々の対応が要求されることになる。臨床では最も頻度の高い有床義歯である。

2. 一般目標

部分欠損患者の健康を維持・増進させるために、部分床義歯の臨床的意義を理解し、部分床義歯を製作・装着するための理論を修得する。

3. 到達目標

- 1) 部分床義歯の特徴と臨床的意義を説明する。
- 2) 部分床義歯を構成する要素と支持・維持・把持に対する考え方を説明する。
- 3) 支台装置の種類と特徴、およびその応用法を説明する。
- 4) 義歯床、連結装置の種類と特徴および、その応用を説明する。
- 5) 部分床義歯の設計に対する基本的原則を説明する。
- 6) 部分床義歯製作過程における技工操作とその理論的背景を説明する。
- 7) 部分床義歯装着後のメインテナンスと異常経過に対する処置を説明する。

4. 履修の進め方

講義室において、スライド、プリントなどを用い、講義を中心とした学習を行う。

5. 準備学修

予 習：有床義歯学に関する基礎科目として、口腔解剖学、口腔生理学、生体材料学の講義・実習を通して学んだ内容および有床義歯補綴学Ⅰ講義・実習の内容を復習して講義に臨む。(30分)

復 習：講義内容を当日中に必ず復習し、講義中に指示のあった箇所および理解が不十分な項目については講義ノート、配布資料、教科書により自己学習を行う。(60分以上)

6. 評価方法

毎授業の小テストで形成的評価を行う。総括的評価は、中間試験(40%)、前期定期試験(60%)で行う。中間試験と前期定期試験は、筆記試験および選択式試験で行う。なお履修態度に応じて10%を上限として加点する。追試対象者は80点を、再試験対象者は65点を、それぞれ上限として最終評価とする。

7. 教本

藍 稔 編：スタンダードバーシャルデンチャー補綴学
学建書院 2016

8. 参考書

日本補綴歯科学会編：歯科補綴学専門用語集 第6版 医
歯薬出版 2023

9. 授業内容と日程

(コ：コアカリ記号、国：国家試験出題基準、担：担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4/9	部分床義歯の特徴	他の補綴装置に対する部分床義歯の特徴を学ぶ	D-5-3-2/各IV-4	①
2	4/9	部分床義歯の臨床的意義	歯科臨床での部分床義歯の意義と役割、為害作用	D-5-3-2/各IV-4	✓
3	4/9	部分床義歯の構成要素	義歯側、生体側の構成要素を学ぶ	D-5-3-2/各IV-4	✓
4	4/16	部分床義歯の分類	部分床義歯の分類法と欠損型の基本的形態	D-5-3-2/各IV-4	②
5	4/16	部分床義歯欠損歯列の分類	部分欠損歯列の分類法を学ぶ	D-5-3-2/各IV-4	✓
6	4/16	部分床義歯の支持	部分床義歯の支持に対する考え方を学ぶ	D-5-3-2/各IV-4	✓
7	4/23	部分床義歯の把持と維持	部分床義歯の把持と維持に対する考え方を学ぶ	D-5-3-2/各IV-4	✓
8	4/23	部分床義歯の支台装置の分類	部分床義歯の支台装置の分類を学ぶ	D-5-3-2/各IV-4	✓
9	4/23	支台装置1. (クラスプ1)	クラスプの構造・分類について学ぶ	D-5-3-2/各IV-4	✓
10	5/7	支台装置2. (クラスプ2)	各種クラスプの特徴と適応症を学ぶ	D-5-3-2/各IV-4	✓
11	5/7	支台装置3. (クラスプ1)	アタッチメントの種類と特徴を学ぶ	D-5-3-2/各IV-4	✓
12	5/7	支台装置4. (アタッチメント2)	各種アタッチメントの適応症を学ぶ	D-5-3-2/各IV-4	✓
13	5/14	支台歯の評価と選択基準	支台歯の評価と支台歯の選択基準を学ぶ	D-5-3-2/各IV-4	✓
14	5/14	義歯床	義歯床の設定基準、種類と特徴を学ぶ	D-5-3-2/各IV-4	✓
15	5/14	連結装置1.	上顎の連結装置の種類と特徴を学ぶ	D-5-3-2/各IV-4	✓
16	5/21	連結装置2.	下顎の連結装置の種類と特徴を学ぶ	D-5-3-2/各IV-4	✓
17	5/21	診察・検査・診断	診察・検査項目と診断基準を学ぶ	D-5-3-2/各IV-4	✓
18	5/21	診察・検査・診断	診察・検査項目と診断基準を学ぶ	D-5-3-2/各IV-4	✓

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
19	5/28	治療計画と設計	治療計画の立案と部分床義歯の設計を学ぶ	D-5-3-2/各IV-4	②
20	5/28	治療計画と設計	治療計画の立案と部分床義歯の設計を学ぶ	D-5-3-2/各IV-4	〃
21	5/28	前処置1.	外科的前処置、矯正的前処置、保存的前処置	D-5-3-2/各IV-4	〃
22	6/4	前処置2.	補綴的前処置を学ぶ	D-5-3-2/各IV-4	〃
23	6/4	部分床義歯の印象	印象時の留意事項を学ぶ	D-5-3-2/各IV-4	〃
24	6/4	部分床義歯の印象	印象時の留意事項を学ぶ	D-5-3-2/各IV-4	〃
25	6/11	部分床義歯の作業用模型	作業用模型の所要条件、製作法を学ぶ	D-5-3-2/各IV-4	〃
26	6/11	咬合採得1.	咬合支持の違いによる顎間関係の記録法を学ぶ	D-5-3-2/各IV-4	〃
27	6/11	咬合採得2.	顎弓記録と下顎運動の記録法	D-5-3-2/各IV-4	〃
28	6/18	人工歯の選択	人工歯の選択基準を学ぶ	D-5-3-2/各IV-4	〃
29	6/18	人工歯排列	人工歯排列の原則を学ぶ	D-5-3-2/各IV-4	〃
30	6/18	蠟義歯の口腔内試適	蠟義歯試適時の検査事項を学ぶ	D-5-3-2/各IV-4	〃
31	6/25	埋没	蠟義歯の埋没法を学ぶ	D-5-3-2/各IV-4	〃
32	6/25	埋没	蠟義歯の埋没法を学ぶ	D-5-3-2/各IV-4	〃
33	6/25	重合、研磨	義歯床用レジンの重合法、研磨法を学ぶ	D-5-3-2/各IV-4	〃
34	7/2	完成義歯の装着	完成義歯の装着法を学ぶ	D-5-3-2/各IV-4	〃
35	7/2	完成義歯の装着	完成義歯の装着法を学ぶ	D-5-3-2/各IV-4	〃
36	7/2	義歯装着後の管理	義歯装着後のホームケア、定期検査を学ぶ	D-5-3-2/各IV-4	〃
37	7/9	装着後の異常と対応	装着後の異常とその対応法を学ぶ	D-5-3-2/各IV-8	③
38	7/9	装着後の異常と対応	装着後の異常とその対応法を学ぶ	D-5-3-2/各IV-8	〃
39	7/9	リラインとリベース	部分床義歯のリライン、リベースを学ぶ	D-5-3-2/各IV-8	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
40	7/16	顎義歯	顎義歯の特徴を学ぶ	D-5-3-2/各IV-7	①
41	7/16	顎義歯	顎義歯の特徴を学ぶ	D-5-3-2/各IV-7	〃
42	7/16	即時義歯・暫間義歯	即時義歯、暫間義歯の特徴と適応症を学ぶ	D-5-3-2/各IV-4	〃
43	7/23	治療用義歯・移行義歯	治療用義歯、移行義歯の特徴と適応症を学ぶ	D-5-3-2/各IV-4	〃
44	7/23	金属床義歯	金属床義歯の特徴と製作法を学ぶ	D-5-3-2/各IV-4	〃
45	7/23	金属床義歯	金属床義歯の特徴と製作法を学ぶ	D-5-3-2/各IV-4	〃

有床義歯補綴学Ⅱ実習

(前期・1単位)

D④⑤C-c1-41006(D41006)

科目責任者：高津 匠樹（有床・教授）

科目担当者：①高津 匠樹（有床）、②松本 知生（有床）、
③池田 敏和（有床）、④内山 梨夏（有床）、
⑤田中みか子（非常勤）、⑥高玉 典彦（非常勤）、
⑦伊藤 隼（非常勤）、他

※この科目は、診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

有床義歯補綴学Ⅱ実習では、有床義歯補綴学Ⅱの講義で学習した理論を、部分床義歯を製作する過程を通して確実なものにするとともに、部分床義歯を製作・装着するための基本的技術を修得する。

2. 一般目標

部分欠損患者の健康を維持・増進させるために、部分床義歯を製作・装着する理論の理解度を向上するとともに、その技術を修得する。ともに、その背景にある理論を学ぶ。

3. 到達目標

- 1) サベイヤーの使用方法に関する知識を基に、サベイングをする。
- 2) 上顎部分床義歯の設計方法の知識を基に、模型上で設計する。
- 3) ガイドプレーン、レストシートを形成する。
- 4) ワイヤークラスプを屈曲してレスト付き2腕鉤を製作する。
- 5) キャストクラスプを製作する。
- 6) 咬合床を製作し、咬合採得、作業用模型の咬合器装着をする。
- 7) 人工歯の選択と排列の理論に関する知識を基に、人工歯を排列する。
- 8) 部分床義歯のフラスクに埋没、レジンの填入、重合を説明する。
- 9) 金属床義歯のフレームワークの設計、およびワックスアップをする。

4. 履修の進め方

中央棟5階の模型実習室において、小人数のグループに分かれてチューターから個別指導を受ける。実習の進行は実習マニュアルに沿って計画的に実施される。

5. 準備学修

予習：有床義歯学に関する基礎科目として、口腔解剖学、口腔生理学、生体材料学の講義・実習を通して学んだ内容および有床義歯学Ⅰ講義・実習、有床義歯学Ⅱ講義の内容を良く理解する。また事前に配布される実習プリント、教科書の関連範囲を熟読して実習に臨む。(60分)

復習：実習内容および実習講義の内容を当日中に必ず復習し、理解が不十分な項目については実習プリント、教科書により自己学習を行う。(30分)

6. 評価方法

実習中の口頭試問、レポート等にて形成的評価を行う。総括的評価は実技試験(30%)、製作物(30%)、筆記試験(20%)、実習毎の小テスト(10%)および履修態度(10%)により行う。

7. 教本

五十嵐順正 他編：パーシャルデンチャー・テクニック 第6版 医歯薬出版 2022

8. 参考書

日本補綴歯科学会編：歯科補綴学専門用語集 第5版 医歯薬出版 2018

9. 授業内容と日程

(コ：コアカリ記号、国：国家試験出題基準、担：担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4/9	上顎模型のサベイングと設計	サベイヤーとその付属品を用い模型をサベイング	D-5-3-2/各IV-4	①
2					⑤
3					⑦
4					他
5	4/16	前処置とワイヤークラスプ	補綴の前処置を実施し、ワイヤークラスプを屈曲	D-5-3-2/各IV-4	タ
6					
7					
8					
9	4/23	前処置とワイヤークラスプ	上顎左側第一小白歯のワイヤークラスプを屈曲	D-5-3-2/各IV-4	タ
10					
11					
12					
13	5/7	キャストクラスプの製作	耐火模型を製作	D-5-3-2/各IV-4	タ
14					
15					
16					
17	5/14	キャストクラスプの製作	ワックスアップし、埋没、鋳造	D-5-3-2/各IV-4	タ
18					
19					
20					
21	5/21	パラタルバーの製作	用線を屈曲してパラタルバーを製作	D-5-3-2/各IV-4	タ
22					
23					
24					
25	5/28	咬合床の製作	基礎床と咬合堤を製作し、咬合採得を行う。	D-5-3-2/各IV-4	タ
26					
27					
28					
29	6/4	咬合器装着と人工歯排列	咬合床を介して模型を咬合器装着、人工歯を排列	D-5-3-2/各IV-4	タ
30					
31					
32					
33	6/11	歯肉形成	歯肉の形態を形成し、蠣義歯を完成させる。	D-5-3-2/各IV-4	タ
34					
35					
36					
37	6/18	実技試験	蠣義歯を提出する。実技試験を受ける。	D-5-3-2/各IV-4	タ
38					
39					
40					
41	6/25	下顎模型のサベイングと設計	下顎模型のサベイング、設計を行う。	D-5-3-2/各IV-4	タ
42					
43					
44					
45	7/2	耐火模型の製作	ブロックアウトとリリーフ耐火模型を製作	D-5-3-2/各IV-4	タ
46					
47					
48					
49	7/9	フレームワークワックスアップ	耐火模型上でフレームワークワックスアップ	D-5-3-2/各IV-4	タ
50					
51					
52					

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
53	7/16	フレームワーカワックスアップ	耐火模型上でフレームワーカのワックスアップ	D-5-3-2/各IV-4	① ⑤ ⑦ 他
54					
55					
56					
57	7/23	ワックスパートーンの完成提出	ワックスパートーンを完成筆記試験を受ける	D-5-3-2/各IV-4	〃
58					
59					
60					

口腔インプラント学（後期・1単位）

D③④C-al-4906(D4906)

科目責任者：高橋 昌宏（イン・講師）

科目担当者：①高橋 昌宏（イン）、②保田 穩（イン）、
③石田 喜紀（材料）、④宇佐美晶信（解剖）、
⑤山崎 幹子（病理）、⑥羽鳥 弘毅（冠橋）、
⑦川鍋 仁（矯正）、⑧今 一裕（非常勤）、
⑨西郷 慶悦（非常勤）

※この科目は、診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

口腔インプラントを用いた欠損補綴治療は、予知性のある治療法の一つとして広く実践されている。口腔インプラント治療を成功させるためには、口腔インプラントの特性と臨床的意義を十分に理解し、適切な治療計画を立案することが重要である。また口腔インプラント治療には、種々の前処置、顎骨へのインプラント体埋入、上部構造の製作・装着、メインテナンスなど多様な処置が含まれるため、広範な基礎的、臨床的知識が求められる。それぞれの系統科目で学んだ知識とインプラント治療の結びつきを理解することが口腔インプラント学を修得する近道である。

2. 一般目標

歯の欠損を有する患者の機能的、形態的回復によって健康の維持・増進をはかるために、口腔インプラント治療の基本的知識を修得する。

3. 到達目標

- 1) 口腔インプラント治療の歴史と概要を説明する。
- 2) 口腔インプラント治療のための診察・検査・診断・治療計画立案を説明する。
- 3) 口腔インプラント治療に必要な手術を説明する。
- 4) 口腔インプラント治療のための基礎的知識を整理する。
- 5) 口腔インプラント治療のための補綴的処置を説明する。
- 6) 口腔インプラント治療の失敗の原因と対処法を説明する。

4. 履修の進め方

教科書を中心に、配布資料とスライドを用いて講義する。

5. 準備学修

予習：指定された教科書を熟読し、予備知識を得る（15分）。

復習：小テストによる形成的評価で指摘された点を、教科書、講義ノートにて確認する（15分）。

6. 評価方法

定期試験（100%）で評価し、65点以上で合格とする。なお履修態度に応じて10%を上限とする加点を行う。

7. 教本

赤川安正ら編「よくわかる口腔インプラント学第4版」
医歯薬出版

8. 参考書

日本口腔インプラント学会編「口腔インプラント学実習書」永末書店

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号、国：国家試験出題基準、担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	9/6	口腔インプラント学総論	インプラント治療の歴史と種類、臨床的意義と治療過程	D-5-3-3/各IV-6-ア	①

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
2	9/6	リスク要因	口腔インプラントに対するリスク要因	D-5-3-3/ 各IV-6-ア	①
3	9/6	検査・診断	口腔インプラントのための診察、検査、診断	D-5-3-3/ 各IV-6-ア	②
4	9/13	治療計画の立案	治療計画立案の原則とチーム医療	D-5-3-3/ 各IV-6-ア	①
5	9/13	手術基本手技-1	基本的な手術術式と手技	D-5-3-3/ 各IV-6-イ	〃
6	9/13	手術基本手技-2	骨造生術、軟組織形成術	D-5-3-3/ 各IV-6-イ	〃
7	9/20	基礎学(1)	口腔インプラントのための生体材料学	B-2-6/ 総VII-11	③
8	9/20	基礎学(2)	口腔インプラントのための臨床解剖学	D-5-3-3/ 各IV-6-ア	④
9	9/20	基礎学(3)	臨床病理：オッセオインテグレーションの概念	D-5-3-3/ 各IV-6-ア	⑤
10	9/27	上部構造(1)	上部構造の種類と特徴	D-5-3-3/ 各IV-6-ウ	⑥
11	9/27	上部構造(2)	上部構造装着までの基本的術式	D-5-3-3/ 各IV-6-ウ	①
12	9/27	メインテナンス	インプラント周囲病変	D-5-3-3/ 各IV-8-イ, オ	①
13	10/4	口腔インプラントの応用(1)	矯正歯科治療への応用	D-5-5/ 各I-8	⑦
14	10/4	口腔インプラントの応用(2)	デジタル機器の応用	D-5-3-3/ 各IV-6-ア	⑧
15	10/4	口腔インプラントの応用(3)	インプラント治療の変遷	D-5-3-3/ 各IV-6-イ, ウ	⑨

口腔インプラント学実習 (後期・1単位)

D④⑤C-c1-41007(D41007)

科目責任者：高橋 昌宏（イン・講師）

科目担当者：①高橋 昌宏（イン）、②羽鳥 弘毅（冠橋）、
③保田 穂（イン）、④佐藤 篤（非常勤）、
⑤君 賢司（非常勤）、他

※この科目は、診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

口腔インプラントを用いた欠損補綴治療は、予知性のある治療法の一つとして広く実践されている。口腔インプラント治療を成功させるためには、口腔インプラントの特性と臨床的意義を十分に理解し、適切な治療計画を立案することが重要である。また口腔インプラント治療には、種々の前処置、頸骨へのインプラント体埋入、上部構造の製作・装着、メインテナンスなど多様な処置が含まれるため、広範な基礎的、臨床的知識が求められる。それぞれの系統科目で学んだ知識とインプラント治療の結びつきを理解することが口腔インプラント学を修得する近道である。

2. 一般目標

歯の欠損を有する患者の機能的、形態的回復によって健康の維持・増進をはかるために、口腔インプラント治療の手技およびその理論的背景を修得する。

3. 到達目標

- 1) 口腔インプラント治療のための画像検査結果を説明する。
- 2) 口腔インプラント治療の治療計画を立案する。
- 3) インプラント体埋入に関する外科的治療を模型上で実施する。
- 4) インプラント上部構造製作に関わる補綴的治療を模型上で実施する。
- 5) 口腔インプラント治療の流れを説明する。

4. 履修の進め方

提供された資料や頸模型を用いた実習、演習を行う。

5. 準備学修

予習：配布される実習指針を熟読し、実習内容を理解する（30分）。

復習：実習した内容について該当する箇所の教科書を熟読する（30分）。

6. 評価方法

実習筆記試験（50%）、実習中の提出物（50%）で評価し、65点以上で合格とする。なお履修態度に応じて10%を上限とする加点を行う。

7. 教本

配付資料

8. 参考書

赤川安正ら編「よくわかる口腔インプラント学第3版」
医薬学出版

公益社団法人日本口腔インプラント学会編 口腔インプラント学実習書 永末書店

9. 授業内容と日程

(コ:コアカリ記号, 国:国家試験出題基準, 担:担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	10/11	診断学実習 - 1	SGD	D-5-3-3/ 各IV-6-ア	① ⑤ 他
2					②
3					③
4	10/18	診断学実習 - 2	トレースとインプラントポジショニング: 第一症例, 総合討議	D-5-3-3/ 各IV-6-ア	〃
5					
6					
7	10/25	外科実習(1)	切開, フラップ形成, 術野の確保	D-5-3-3/ 各IV-6-イ	〃
8					
9					
10	11/1	外科実習(2)	インプラント体埋入窓形成	D-5-3-3/ 各IV-6-イ	〃
11					
12					
13	11/8	外科実習(3)	インプラント体埋入, 縫合	D-5-3-3/ 各IV-6-イ	〃
14					
15					
16	11/15	シミュレーション実習(1)	インプラント体埋入計画シミュレーション: 第一症例	D-5-3-3/ 各IV-6-ア	〃
17					
18					
19	11/22	シミュレーション実習(2)	インプラント体埋入計画シミュレーション: 第二症例	D-5-3-3/ 各V-IV-6-ア	〃
20					
21					
22	11/29	補綴実習(1)	アバットメント・セレクション	D-5-3-3/ 各IV-6-イ	〃
23					
24					
25	12/6	補綴実習(2)	印象採得: クローズドトレーフ法とオープントレーフ法	D-5-3-3/ 各IV-6-イ	〃
26					
27					
28	12/13	実習総括	実習試験, 問題解説とフィードバック	D-5-3-3/ 各IV-6-ア, イ	〃
29					
30					

口腔外科学Ⅱ (後期・2単位)

D③④C-a2-4908(D4908)

科目責任者: 川原 一郎 (口外・教授)

科目担当者: ①川原 一郎 (口外), ②金 秀樹 (口外),
③御代田 駿 (口外), ④小嶋 忠之 (口外),
⑤高橋文太郎 (口外)

※この科目は、診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

口腔外科学とは顎・口腔領域 (口唇, 頬粘膜, 齒肉, 口底, 舌, 口蓋などの軟組織と上・下顎骨とそれに植立する歯などの硬組織および隣接する顎関節, 唾液腺, 所属リンパ節など) に生じる各種疾患 (先天異常, 後天異常, 損傷, 炎症, 囊胞, 腫瘍, 血液疾患, 顎関節疾患, 唾液腺疾患, 口腔粘膜疾患, 神経疾患など) を正しく診断し, 外科療法を主体とした適切な治療法を行うとともに, 失われた形態と口腔機能の回復を図るために理論と技術を研究する学問であり, 臨床歯科医学のなかで特に広範囲な診療科目として体系づけられている。したがって, 口腔および口腔に関連する組織・器官の正常な形態と機能を理解するとともに, 技能を獲得するための基礎と臨床を含めた歯科医学と隣接医学の幅広い知識が必要である。

2. 一般目標

顎・口腔領域の疾患に罹患した患者の健康維持・増進を図るために, 口腔外科学Ⅱでは, ①抜歯術, 小手術学の知識, ②囊胞および類似疾患, ③唾液腺疾患, ④腫瘍および類似疾患の知識を習得する。

3. 到達目標

- 1) 抜歯術および小手術の種類を概説し, 適応症, 禁忌症, 術式, 偶発症を説明する。
- 2) 囊胞および類似疾患の種類と症状を概説し, 検査法と治療法を説明する。
- 3) 唾液腺疾患の種類, 特徴, 症状を概説し, 診断と治療法を説明する。
- 4) 肿瘍および類似疾患の種類と特徴, 症状を概説し, 診断と治療法を説明する。

4. 履修の進め方

文書視覚媒体と投影視覚媒体を用いて履修する。

5. 準備学修

口腔外科学の理解には, 基礎系科目 (口腔解剖・口腔組織・口腔生理・口腔生化学・口腔感染免疫・歯科薬理・口腔病理等) の知識が必須である。口腔外科学の勉強時に上記基礎系科目も一緒に勉強する事が, 口腔外科学と基礎系科目の更なる知識の定着に繋がる。事前学習では, 各授業内容項目について教科書の該当部分を読むこと (15分)。事後学習では, 授業で説明した内容について教科書や配布資料で勉強すること (15分)。

6. 評価方法

定期試験で評価する。多肢選択式問題と記述式問題とする。再試験は65点未満の者に対して実施する。最終評価は各試験の平均で65点以上を合格とする。

7. 教本

「口腔外科学」第4版 医歯薬出版 2020年

「標準口腔外科学」第4版 医学書院 2015年

8. 参考書

なし

9. 授業内容と日程

(コ:コアカリ記号, 国:国家試験出題基準, 担:担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	9/2	拔歯術および小手術学(1) 拔歯術1	拔歯の適応症、禁忌症	D-5-4/ 総VII-4-ア	②
2	9/2	拔歯術および小手術学(2) 拔歯術2	拔歯の術式	D-5-4/ 総VII-4-ア	〃
3	9/9	拔歯術および小手術学(3) 拔歯術3	拔歯の偶発症	D-5-4/ 総VII-4-ア	〃
4	9/9	拔歯術および小手術学(4) 小手術学1	歯根端切除術、歯槽骨整形術、歯の移植術	D-5-4/ 総VII-4-ア	〃
5	9/30	拔歯術および小手術学(5) 小手術学2	舌および上唇 小帯形成術、 浮動粘膜切除術	D-5-4/ 総VII-4-ア	〃
6	9/30	囊胞(1) 頸骨1	頸骨に発生する囊胞1	D-3-1/ 各III-2-オ	④
7	9/30	囊胞(2) 頸骨2	頸骨に発生する囊胞2	D-3-1/ 各III-2-オ	〃
8	9/30	囊胞(3) 軟組織1	軟組織に発生する囊胞1	D-3-1/ 各III-1-エ	〃
9	10/7	囊胞(4) 軟組織2	軟組織に発生する囊胞2	D-3-1/ 各III-1-エ	〃
10	10/7	唾液腺疾患(1) 総論1	唾液腺の解剖および機能	D-3-1/ 各III-3-ア	①
11	10/21	唾液腺疾患(2) 各論1	唾液腺疾患1	D-3-1/ 各III-3-ア	〃
12	10/21	唾液腺疾患(3) 各論2	唾液腺疾患2	D-3-1/ 各III-3-ア	〃
13	10/28	唾液腺疾患(4) 各論3	唾液腺疾患3	D-3-1/ 各III-3-ア	〃
14	10/28	唾液腺疾患(5) 各論4	唾液腺疾患4	D-3-1/ 各III-3-ア	〃
15	10/28	前期まとめ	拔歯術・小手術学、囊胞、 唾液腺疾患のまとめ	D-3-1, D-5-4/ 総VII-4-ア, 各III-1-エ, 各III-2-オ, 各III-3-ア	〃
16	10/28	腫瘍および類似疾患(1) 総論	腫瘍の定義、分類、症状、診断、治療	D-3-1/ 各III-1-オカキ, 各III-2-カキ	〃
17	11/11	腫瘍および類似疾患(2) 各論1	良性腫瘍1 歯原性腫瘍1	D-3-1/ 各III-2-カキ	③
18	11/11	腫瘍および類似疾患(3) 各論2	良性腫瘍2 歯原性腫瘍2	D-3-1/ 各III-2-カキ	〃
19	11/18	腫瘍および類似疾患(4) 各論3	良性腫瘍3 非歯原性腫瘍	D-3-1/ 各III-1-オカ	〃
20	11/18	腫瘍および類似疾患(5) 各論4	良性腫瘍4 腫瘍類似疾患	D-3-1/ 各III-1-オカ, 各III-2-カキ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
21	11/25	腫瘍および類似疾患(6) 各論5	口腔潜在的悪性疾患(前癌病変と前癌状態)	D-3-1/ 各III-1-オカ	②
22	11/25	腫瘍および類似疾患(7) 各論6	悪性腫瘍1 口腔癌の分類	D-3-1/ 各III-1-オカキ, 各III-2-カキ	〃
23	11/25	腫瘍および類似疾患(8) 各論7	悪性腫瘍2 口腔癌の診断	D-3-1/ 各III-1-オカキ, 各III-2-カキ	〃
24	11/25	腫瘍および類似疾患(9) 各論8	悪性腫瘍3 口腔癌の治療	D-3-1/ 各III-1-オカキ, 各III-2-カキ	〃
25	12/2	腫瘍および類似疾患(10) 各論9	悪性腫瘍4 肉腫 悪性黒色腫	D-3-1/ 各III-1-オカキ, 各III-2-カキ	①
26	12/2	腫瘍および類似疾患(11) 各論10	悪性腫瘍5 造血器腫瘍1	D-3-1/ 造血器腫瘍1 各III-1-オカキ	〃
27	12/9	腫瘍および類似疾患(12) 各論11	悪性腫瘍6 造血器腫瘍2	D-3-1/ 造血器腫瘍2 各III-1-オカキ	〃
28	12/9	腫瘍および類似疾患(13) 各論12	唾液腺腫瘍1 良性腫瘍	D-3-1/ 良性腫瘍 各III-3-ア	⑤
29	12/9	腫瘍および類似疾患(14) 各論13	唾液腺腫瘍2 悪性腫瘍	D-3-1/ 悪性腫瘍 各III-3-ア	〃
30	12/9	腫瘍および類似疾患(15) まとめ	腫瘍のまとめ	D-3-1/ 各III-1-オカキ, 各III-2-カキ	①

口腔外科学Ⅲ（後期・1単位）

D③④C-a1-4909 (D4909)

科目責任者：高田 訓（口外・教授）

科目担当者：①高田 訓（口外）、②白田 真浩（放射）、
③須賀賛一郎（非常勤）、④宮島 久（非常勤）

※この科目は、診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

顎口腔領域に生じる様々な疾患は、いくつかの各論に分類されている。口腔外科学ⅠおよびⅡと同様に、口腔外科学Ⅲにおいても、顎口腔領域の疾患を一つ一つ履修する。特に先天異常や発育異常、顎関節疾患、神経疾患について診断と治療に必要な最低限の知識を教本から修得する授業である。

2. 一般目標

先天異常や発育異常、顎関節疾患、神経疾患の概要を説明し、診断に必要な検査、治療方針、治療法を患者さんに説明できるようになるために、各疾患の定義、特徴、診断に必要な検査、治療方針と治療法の種類を理解する。

3. 到達目標

- 1) 先天異常・発育異常の疾患を分類し、それぞれの定義と治療法を説明できる。
- 2) 顎関節疾患を分類し、それぞれの定義と治療法を説明できる。
- 3) 神経疾患を分類し、それぞれの定義と治療法を説明できる。

4. 履修の進め方

歯学教育モデル・コア・カリキュラムにおいて必要とされる口腔外科領域に生じる疾患の診査、診断能力を養い、診療参加型臨床実習で実践できるスキルを得るために、口腔外科学（第4版）の教本を主体に講義形式で授業をすすめる。

5. 準備学修

教本に示した口腔外科学第4版を予習・復習に活用して頂きたい。この教本には、口腔外科領域における様々な術式が図説や写真とともに詳しく記されている。また、口腔内科学、口腔外科学Ⅰ・Ⅱは直接関連した科目なので、これらの科目は常にフィードバックしておく必要がある。当然、口腔解剖、口腔組織、口腔生化、口腔生理、歯科薬理、口腔病理、口腔感染免疫などの基礎系科目の知識がなくては口腔外科学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの知識を得ることはできない。講義前日に30分程度の事前学修が望ましい。

6. 評価方法

満点を100点とする定期試験で評価する。試験形式はMCQ（40～50問）を8割以上、論述を2割未満の配点で作成する。65点未満の者に再試験を行う。追試験は正式な欠席理由による届出を要し、追試験に対する再試は実施しない。最終評価は受験した定期試験の本試・追試・再試のすべての平均を算出し、平均が65点以上の者を合格とする。

7. 教本

口腔外科学 第4版 医薬出版社 2020年

8. 参考書

標準口腔外科学 第4版 医学書院 2015年

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号、国：国家試験出題基準、担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	9/3	先天異常-1	口腔外科学Ⅲ概要 先天異常・発育異常 硬組織・軟組織の異常	D-3-1/必6-イ、総Ⅲ-2-ア、各Ⅲ-1-ア	①

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
2	9/10	先天異常-2	口唇裂・口蓋裂-1	D-3-1/必6-イ、総Ⅲ-2-ア、各Ⅲ-1-ア	② ③
3	9/17	先天異常-3	口唇裂・口蓋裂-2	D-3-1/必6-イ、総Ⅲ-2-ア、各Ⅲ-1-ア	ク
4	9/24	発育異常-1	後天異常・症候群	D-3-1/必6-イ、総Ⅲ-2-ア、各Ⅲ-4-ア	ク
5	10/1	発育異常-2	発育異常・顎変形症	D-3-1/必6-イ、総Ⅲ-2-ア、各Ⅲ-2-ア、イ	ク
6	10/8	顎関節疾患-1	顎関節の構造と疾患総論	D-3-1/必6-イ、総Ⅲ-2-ア、各Ⅲ-3-ウ	② ④
7	10/15	顎関節疾患-2	発育異常・外傷・炎症代謝性・退行性疾患	D-3-1/必6-イ、総Ⅲ-2-ア、各Ⅲ-3-ウ	ク
8	10/22	顎関節疾患-3	腫瘍性・顎関節強直症	D-3-1/必6-イ、総Ⅲ-2-ア、各Ⅲ-3-ウ	ク
9	10/29	顎関節疾患-4	顎関節症の診断と治療	D-3-1/必6-イ、総Ⅲ-2-ア、各Ⅲ-3-ウ	ク
10	11/5	顎関節疾患-5	顎関節疾患総括	D-3-1/必6-イ、総Ⅲ-2-ア、各Ⅲ-3-ウ	②
11	11/12	神経疾患-1	末梢神経の解剖と疾患総論	D-3-1/必6-イ、総Ⅲ-2-ア、各Ⅲ-3-イ	①
12	11/19	神経疾患-2	疼痛性疾患	D-3-1/必6-イ、総Ⅲ-2-ア、各Ⅲ-3-イ	ク
13	11/26	神経疾患-3	麻痺性疾患	D-3-1/必6-イ、総Ⅲ-2-ア、各Ⅲ-3-イ	ク
14	12/3	神経疾患-4	心因性疾患・認知症・高次脳機能障害	D-3-1/必6-イ、総Ⅲ-2-ア、各Ⅲ-3-イ、シ	ク
15	12/10	口腔外科学Ⅲまとめ	先天異常・発育異常・顎関節疾患・神経疾患総括	D-3-1/必6-イ、総Ⅲ-2-ア	ク

歯科麻酔学（後期・4単位）

D③④C-a4-4810(D4810)

科目責任者：山崎 信也（麻酔・教授）

科目担当者：①山崎 信也（麻酔）、②川合 宏仁（生理）、
③吉田 健司（障害）、④安部 将太（麻酔）、
⑤佐藤 光（麻酔）

※この科目は、診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

歯科麻酔学は、医科の麻酔学と共通する学問であり、医療、処置、手術、侵襲などにおける種々なストレスから生体を防護することを主とした学問である。その範囲は、呼吸循環管理、局所麻酔、精神鎮静法、全身麻酔法、術前術後管理、救急処置、心肺蘇生法などにおよび、さらに、歯科治療で問題となる高血圧、糖尿病、心疾患など、種々の合併疾患患者の管理や、疼痛管理としてのペインクリニックも網羅する。また、歯科麻酔学は、基礎医学としての解剖学、薬理学、生理学、生化学や、臨床医学としての外科学、内科学、循環器科学、呼吸器科学など、多くの学問を含むことで広範な知識が要求され、臨床医学の中で最も応用範囲の広い学科目である。

2. 一般目標

学修者は当科目で病態を解析し、治療の要素を把握できるようにする。すなわち、広く基礎医学と臨床医学を理解することで、的確に患者の全身状態を評価し、その上で安全で適切な患者の生体管理を実践するために必須である歯科麻酔学の知識を修得する。

3. 到達目標

- 1) 歯科麻酔学の概念、歴史、特徴、法的問題を説明する。
- 2) 全身管理に必要な呼吸、循環、神経、代謝、内分泌生理を説明する。
- 3) 術前管理や全身状態評価、患者管理上、問題となる疾患を説明する。
- 4) 局所麻酔、精神鎮静、全身麻酔、日帰り全身麻酔を説明する。
- 5) 心身障害者、小児、障害者、高齢者の麻酔を説明する。
- 6) 周術期管理を説明する。
- 7) 痛みの治療やペインクリニックを説明する。
- 8) 歯科治療時の全身的偶発症、および救急救命処置を説明する。

4. 履修の進め方

- 1) 板書とプリントを主体とし、実演、DVD、スライドを適宜併用する。
- 2) 各自ノートを作り板書を書き込むことを基本とする。
- 3) 口頭での重要点はプリントや教科書への書き込み、マーキングを行う。

5. 準備学修

- 1) 基礎医学の、生理、薬理、解剖との関連が深く、予習と復習が必要である。
- 2) 予習は、各回の授業内容項目について、教科書の該当部分を読むこと（15分）。
- 3) 復習は、授業内容についてのポイントをまとめること（15分）。

6. 評価方法

約15コマ毎に行う中間試験と定期試験の4つの試験（記述+多肢選択）の平均65点以上を合格とする。なお、各試験は、1回のみ追・再試験を設定する。再試験の上限は65点とする。試験のフィードバックは、必要な場合に、個別にオフィスアワーを利用して行う。

7. 教本

山崎信也、川合宏仁ほか、スタンダード全身管理・歯科麻

醉学、学建書院

8. 参考書

山崎信也、川合宏仁ほか、歯科麻酔学第7版、医歯薬出版

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号、国：国家試験出題基準、担：担当教員）

1) 火曜日の講義

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	9/3	歯科麻酔学概論	歯科麻酔の概念／歴史、種類特徴、法的問題	D-1-2／必11-カ、総VII-4	① ⑤
2	9/3	呼吸生理(1)	呼吸器系の構造、呼吸の調節	A3-1／必4-ア-e、総II-1-エ	✓
3	9/10	呼吸生理(2)	換気、ガス交換、換気への影響因子	A3-1／必4-ア-e、総II-1-エ	✓
4	9/10	呼吸生理(3)	酸素の運搬、二酸化炭素の運搬	A3-1／必4-ア-e、総II-1-エ	✓
5	9/17	呼吸生理(4)	酸塩基平衡	A3-1／必4-ア-e、総II-1-エ	✓
6	9/17	呼吸生理(5)	呼吸機能検査	A3-1／必4-ア-e、総II-1-エ	✓
7	9/24	循環生理(1)	心臓	A3-1／必4-ア-e、総II-1-ウ-a	✓
8	9/24	循環生理(2)	心臓	A3-1／必4-ア-e、総II-1-ウ-a	✓
9	10/1	循環生理(3)	循環の調節	A3／必4-ア-e、総II-1-ウ-b	✓
10	10/1	循環生理(4)	血管に対する調節	A3／必4-ア-e、総II-1-ウ-b	✓
11	10/8	循環生理(5)	体液	A3／必4-ア-e、総II-1-ウ-b	✓
12	10/8	循環生理(6)	重要臓器の血流分布と自己調節能	A3／必4-ア-e、総II-1-ウ-b	✓
13	10/15	神経・代謝・内分泌生理	神経、代謝、内分泌	A3-1-9／必4-ア-e、総II-1-ク、総II-1-ケ	✓
14	10/15	神経・代謝・内分泌生理	神経、代謝、内分泌	A3-1-9／必4-ア-e、総II-1-ク、総II-1-ケ	✓
15	10/22	術前管理(1)	術前診察、臨床検査	D2-3／総VII-4-イ	✓
16	10/22	術前管理(2)	手術危険度、管理方法の選択	D2-3／総VII-4-イ	✓
17	10/29	術前管理(3)	術前処置	D2-3／総VII-4-イ	✓
18	10/29	術前管理(4)	麻酔前投薬	D2-3／総VII-4-イ	✓

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
19	11/5	術中管理(1)	呼吸、循環管理 輸液、輸血 モニター、ショック	D1-2-3/ 総VII-4-イ-d	① ⑤
20	11/5	術中管理(2)	術後管理、術後合併症、疼痛管理	D1-2-3/ 総VII-4-イ-d	〃
21	11/12	全身疾患(1)	循環器系疾患	D6/ 総VII-1-エ-c	〃
22	11/12	全身疾患(2)	循環器系疾患	D6/ 総VII-1-エ-c	〃
23	11/19	全身疾患(3)	呼吸器系疾患	D6/ 総VII-1-エ-b	〃
24	11/19	全身疾患(4)	その他の疾患	D6/ 総VII-1-エ-d~m	〃
25	11/26	全身麻酔法-1	全身麻酔の理論	D1-2-3/ 総VII-4-ウ-b	〃
26	11/26	全身麻酔法-2	吸入麻酔法、麻酔深度	D1-2-3/ 総VII-4-ウ-b	〃
27	12/3	全身麻酔法-3	吸入麻酔薬の種類	D1-2-3/ 総VII-4-ウ-b	〃
28	12/3	全身麻酔法-4	麻酔器と麻酔法、必要な器具	D1-2-3/ 総VII-4-ウ-b	〃
29	12/10	全身麻酔法-5	静脈麻酔法、特殊な麻酔法	D1-2-3/ 総VII-4-ウ-b	〃
30	12/10	全身麻酔法-6	筋弛緩薬、口腔外科手術の麻酔	D1-2-3/ 総VII-4-ウ-b	〃

2) 金曜日の講義

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	9/6	救急救命処置-1	救急蘇生法の目的 一次救命処置、窒息の解除	D-1-1/ 必10, 総VII-3, 各III-4-ソ	① ⑤
2	9/6	救急救命処置-2	二次救命処置、蘇生後のサポート	D-1-1/ 必10, 総VII-3, 各III-4-ソ	〃
3	9/13	全身的偶発症-1	バイタルサイン	D-2-3, E6/ 必8-エ, 11 総V-1-カ	〃
4	9/13	全身的偶発症-2	偶発症の対応	D-1-1-1/ 必8, 10, 総VII-1, 3, 各III-4-ソ	〃
5	9/20	全身的偶発症-3	神経性ショック、過換気症候群	D-1-1-1/ 必8, 10, 総VII-1, 3, 各III-4-ソ	〃
6	9/20	全身的偶発症-4	高血圧緊急症、アナフィラキシー	D-1-1-1/ 必8, 10, 総VII-1, 3, 各III-4-ソ	〃
7	9/27	全身的偶発症-5	局所麻酔中毒、メトヘモグロビン血症	D-1-1-1/ 必8, 10, 総VII-1, 3, 各III-4-ソ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
8	9/27	全身的偶発症-6	虚血性疾患脳卒中	D-1-1-1/ 必8, 10, 総VII-1, 3, 各III-4-ソ	① ⑤
9	10/4	全身的偶発症-7	循環器疾患	D-1-1-1/ 必8, 10, 総VII-1, 3, 各III-4-ソ	〃
10	10/4	全身的偶発症-8	循環器疾患	D-1-1-1/ 必8, 10, 総VII-1, 3, 各III-4-ソ	〃
11	10/11	全身的偶発症-9	呼吸器疾患	D-1-1-1/ 必8, 10, 総VII-1, 3, 各III-4-ソ	〃
12	10/11	全身的偶発症-10	呼吸器疾患	D-1-1-1/ 必8, 10, 総VII-1, 3, 各III-4-ソ	〃
13	10/18	全身的偶発症-11	肝、腎疾患	D-1-1-1/ 必8, 10, 総VII-1, 3, 各III-4-ソ	〃
14	10/18	全身的偶発症-12	代謝、内分泌疾患	D-1-1-1/ 必8, 10, 総VII-1, 3, 各III-4-ソ	〃
15	10/25	局所麻酔法-1	概要、構造、種類	D-1-2-1/ 必11-カ-c, 総VII-4-ウ-c	〃
16	10/25	局所麻酔法-2	作用機序	D-1-2-1/ 必11-カ-c, 総VII-4-ウ-c	〃
17	11/1	局所麻酔法-3	全身への影響 剤形、器材	D-1-2-1/ 必11-カ-c, 総VII-4-ウ-c	〃
18	11/1	局所麻酔法-4	解剖、局所麻酔法	D-1-2-1/ 必11-ア-c, 総VII-4-ウ-c	〃
19	11/8	ペインクリニック(1)	痛覚伝導路、痛みの分類	D-3-1-9/ 必11-ア-b, 総VII-5, 各III-1-キ	〃
20	11/8	ペインクリニック(2)	代表的な疼痛疾患、痙攣	D-3-1-10-11/ 必11-ア-b, 総VII-5, 各III-1-キ	〃
21	11/15	精神鎮静法-1	概念	D-1-2-2/ 必11-カ-c, 総VII-4-ウ-c	〃
22	11/15	精神鎮静法-2	使用薬剤	D-1-2-2/ 必11-カ-c, 総VII-4-ウ-c	〃
23	11/22	精神鎮静法-3	使用薬剤	D-1-2-2/ 必11-カ-c, 総VII-4-ウ-c	〃
24	11/22	精神鎮静法-4	精神鎮静法の実際	D-1-2-1/ 必11-カ-c, 総VII-4-ウ-c	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
25	11／29	日帰り全身麻酔(1)	症例の選択、術前管理、麻酔前投薬	D1-2-3／ 総VII-4-ウ-b	① ⑤
26	11／29	日帰り全身麻酔(2)	麻酔薬や麻酔補助薬、麻酔法、術後管理	D1-2-3／ 総VII-4-ウ-b	〃
27	12／6	障害者の麻酔-1	障害者の特徴、術前管理	D1-2-3／ 総VII-4-ウ-b	〃
28	12／6	障害者の麻酔-2	術中管理、術後管理、疾患各論	D1-2-3／ 総VII-4-ウ-b	〃
29	12／13	小児の麻酔	小児の特徴、術前／麻酔／術後管理	D2-3-8／ 必11-カ、 総論II-7	〃
30	12／13	高齢者の麻酔	高齢者の特徴、術前／麻酔／術後管理	D2-3-8／ 必11-イ、 各V-5、 総I-2-オ	〃

歯科矯正学（後期・3単位）

D③④C-a3-4910(D4910)

科目責任者：福井 和徳（矯正・教授）

科目担当者：①福井 和徳（矯正）、②板橋 仁（矯正）、
③川鍋 仁（矯正）、④山野辺晋也（矯正）

※この科目は、診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

歯科矯正学は、歯、歯周組織、顎、さらにそれらを包含する顔の正常な成長発育を研究し、それら諸機能の不正による成長発育から引き起こされる不正咬合や顎の異常な関係を改善して、顎口腔系の正しい機能の獲得と同時に顔貌の改善を図り、社会的・心理的に個人の福祉に寄与し、延いては不正咬合の発現を予防するための研究と技術とを含む歯科の一分科である。

2. 一般目標

ディプロマポリシーの知識と診断能力を身につけるため、矯正歯科治療に係わる総論および診断学、治療学を理解するために歯科矯正学の意義、成長発育、正常咬合と不正咬合の基礎を知り、矯正歯科治療における生体反応、診察、検査、診断、矯正装置、矯正力と固定、材料と器械・器具、不正咬合の治療について学習する。

3. 到達目標

- 1) 不正咬合による障害を説明する。
- 2) 身体と顎顔面の成長発育を説明する。
- 3) 正常咬合の概念と不正咬合の分類を記述する。
- 4) 統計学的評価について述べる。
- 5) ツイード分析から抜歯の必要性を推論する。
- 6) 総合診断の進め方を具体的に述べる。
- 7) 矯正力と顎整形力、固定法について説明する。
- 8) 線材料の特徴を比較し歯の移動と関連づける。
- 9) 矯正装置の構造を具体的に述べる。
- 10) 不正咬合の矯正治療とその偶発症、および保定について説明する。

4. 履修の進め方

予定されている授業項目および課題について配布プリント、板書および示説を行い、毎回の確認試験により到達度の自己判定を行う。不正咬合の模擬治療については、事前に各ステータス毎の診断資料を配布し、各講義までに分析と症例のまとめを課す。

5. 準備学修

本講義は解剖学分野における口腔解剖学、生理学における歯槽骨の吸収添加のメカニクス、生体材料における歯科用金属およびレジンに関する物性に関する知識を活用して授業を行う。また、本講義は主に小児歯科学、口腔外科学と関連を持ち、履修後には5年次の臨床実習、6年次の臨床総合講義へと繋がる。

予習：各講義内容に対し歯科矯正学第6版を用い各自で内容の確認を行う。課題については事前に各自で調べる（30分）。

復習：授業内で配布したプリント、歯科矯正学第6版、新しい歯科矯正学を参考に知識の確認を行う（30分）。

6. 評価方法

中間試験および後期定期試験の平均点にて評価する。不合格の場合は不合格範囲の再試験を行い、65点以上を合格とする。

7. 教本

飯田順一郎 他 編「歯科矯正学 第6版」医歯薬出版
2019年

8. 参考書

三浦廣行 他 編「矯正歯科臨床ヒント集カラーアトラスハンドブック」クインテッセンス出版

9. 授業内容と日程

(コ:コアカリ記号, 国:国家試験出題基準, 担:担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1 2 3	9/5	歯科矯正学概論および歴史、診査と診察 - 1, 2	矯正歯科治療の定義と目的意義、一般診査（全身、写真、模型分析法）頭部エックス線規格写真分析について講義する。	D-5-5/ 必12-ア E-5-4/ 各 I-6	①
4 5 6	9/12	成長発育（全身の成長発育）、歯・歯列および咬合の成長、口腔機能の発達	身体、頭骨の発生と脳頭蓋、顔面頭蓋の発生と成長発育、歯の形成及び萌出、咬合の変化、口腔機能の発達を理解する。	A-2-4/ 総 II-7-イ、 総 II-8-ア A-2-4/ 総 II-8-ウ、エ A-2-4/ 総 II-6-ウ、 エ、オ	②
7 8 9	9/19	咬合概論 正常咬合	咬合に関する諸構造の解剖学と機能、正常咬合の概念、成立とその保持条件を講義する。	E-2-2-4/ 各 I-5-ア	④
10 11 12	9/26	不正咬合の医学および定義、分類	不正咬合の医学および定義、分類を解説する。	E-5-5-1/ 各 I-5-イ	③
13 14 15	10/3	不正咬合の先天的、後天的原因、予防	不正咬合の先天的、後天的原因、予防、口腔顎顔面における異常の要因、機序を解説する。	E-5-5-1/ 各 I-5-ウ E-5-5-6/ 各 I-3-エ	〃
16 17 18	10/10	矯正力と生体反応	矯正歯科治療による生体反応について講義する。	D-5-5/ 各 I-8	②
19 20 21	10/17	矯正歯科治療におけるPOS、診査と診察 - 3, 4	矯正歯科治療におけるPOS、一般診査、エックス線検査の種類、各種機能検査および分析法について講義する。	E-5-5-1/ 各 I-6 E-5-4/ 各 I-6	①
22 23 24	10/23	抜歯法(1) 治療方針の立案、治療学概論	矯正治療の抜歯の意義、部位、総合的診断、治療方針の立案について説明する。	D-5-5-3/ 各 I-6	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
25 26 27	10/24	抜歯法(2) 矯正力と固定	連続抜去法、矯正力の種類、大きさと作用様式の講義を行う。	D-5-5-3/ 各 I-6	①
28 29 30	11/7	矯正装置	矯正装置の分類および構成、適応症の講義を行う。	D-5-5-4/ 各 I-9-ア～キ	④
31 32 33	11/14	矯正材料、器具	矯正歯科治療に使用される材料、器具の講義を行う。	D-5-5-4/ 総 VIII-10-ア～オ	③
34 35 36	11/21	不正咬合の治療	叢生の治療、機能性と骨格性反対咬合について理解を深める。	D-5-5-3/ 各 I-10	〃
37 38 39	11/28	不正咬合の治療(2)	上顎前突症例の機能分析、成長発育を理解する。	D-5-5-3/ 各 I-10	④
40 41 42	12/5	不正咬合の治療(3)	顎変形症、口唇・口蓋裂の診断と矯正歯科治療、矯正歯科治療時の偶発症、筋機能療法(MFT)について理解する。	D-5-5-3/ 各 I-10-オ	③
43 44 45	12/12	不正咬合の治療(4) 総まとめ	保定の意義、種類、再発防止策について理解する。重要項目に対する総まとめを行う。	D-5-5-3/ 各 I-10 E-5-4	①

歯科矯正学実習（後期・1単位）

D④⑤C-cl-41008 (D41008)

科目責任者：福井 和徳（矯正・教授）

科目担当者：①福井 和徳（矯正）、②板橋 仁（矯正）、
③川鍋 仁（矯正）、④山野辺晋也（矯正）、
⑤岡崎 智世（矯正）、⑥松山 仁昭（非常勤）、
⑦廣瀬 将邦（非常勤）

※この科目は、診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

歯科医療における矯正歯科の役割はますます高まっている。叢生歯列でブラッシングをいくら努力しても、傾斜歯に対してそのままブリッジを装着しても、歯科治療には限界があろう。上下歯列の良い咬合が保たれて、口腔の健康が維持されていることを考えれば、矯正歯科治療は歯科医療にとって最も基本的な医療として位置づけることができる。実習では、歯科矯正学の臨床的な面に関して、講義や参考書からでは理解しにくい部分を、実技を通して修得する。

2. 一般目標

ディプロマポリシーの技能と治療能力を身につける。歯が移動する原理について理解するために、舌側弧線装置およびマルチブレケット装置で歯の移動をシミュレートし、学習する。

3. 到達目標

- 1) 基本手技の線屈曲、自在ろう接を正しく行うことができる。
- 2) 矯正診断に必要な資料を分析できる。
- 3) 舌側弧線装置を製作し補助弾線の作用と歯の移動様相を理解することができる。
- 4) マルチブレケット装置で個々の歯の移動、臼歯の直立化を行うことができる。
- 5) タイポドント模型上で矯正力が発現するメカニズムや歯の移動様式を理解することができる。

4. 履修の進め方

実習前に示説を行う。各矯正装置を作製し、作用と歯の移動様相を観察する。歯の移動様相の観察には、デジタルカメラを使用し、各自のコンピュータにて画像データをPowerPointにまとめ、歯の移動について考察する。各単元ごとに小試験を行い確認しながら履修する。

5. 準備学修

第3学年までに得た知識のうち口腔解剖学の骨学、歯の形態、生体材料学の印象材の種類、セメントの特性、金属の特性を復習しておくこと（30分）。実習内容は実習書およびコンピュータビデオに収録されているので、自分で確認し、必ず予習すること（15分）。本実習で得た知識は第5年時の臨床実習時に活用されることとなる。

6. 評価方法

リクワイアメントで評価する。到達目標に記載した5項目を以下の内容から100点を満点として評価し、65点以上を合格とする。

「点数配分の内訳」

実習の態度（5%）、小試験（3回）（15%）、総合試験〔実技（35%）、筆記（35%）〕および口頭試問（10%）により行う。

7. 教本

歯科矯正学実習マニュアルおよび手技の動画を電子媒体にて配布

8. 参考書

飯田順一郎 他 編「歯科矯正学 第6版」 医歯薬出版
2019年

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号、国：国家試験出題基準、担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	9/5	実習を始めるにあたって基本手技(1) 線屈曲	可撤式装置の製作に必要な基本手技である線屈曲を習得する。	D-5-5-4/各論 I-9-アウ	① ② ③
4	9/12	基本手技(2), (3) 自在ろう接, 線屈曲	矯正歯科独特の基本手技である自在ろう接の必要性を理解し、手技を習得する。	D-5-5-4/各論 I-9-ア	②
7	9/19	セファロ分析	症例の分析に必要な資料、分析項目を習得する。	E-5-4-1/各論 I-10-ウ	⑤
8		模型分析小試験			
9					
10	9/26	舌側弧線装置	バンドの適合、チューブの電気溶接の方法を習得する。	D-5-5-4/各論 I-9-ア	ク
11					
12					
13	10/3	舌側弧線装置	舌側弧線装置の作業用模型の作製手順を習得する。	D-5-5-4/各論 I-9-ア	ク
14					
15					
16	10/10	舌側弧線装置	維持装置の作製手順を習得する。	D-5-5-4/各論 I-9-ア	ク
17					
18					
19	10/17	舌側弧線装置	主線を鍛着し、舌側弧線装置のセメント合着の手順を習得する。	D-5-5-4/各論 I-9-ア	ク
20					
21					
22	10/23	舌側弧線装置小試験	舌側弧線装置へ補助弾線を鍛着し、舌側転位歯の移動様式を理解する。	D-5-5-4/各論 I-9-ア	ク
23					
24					
25	10/24	マルチブレケット装置	マルチブレケット装置について口頭試問形式で習得する。	D-5-5-4/各論 I-9-ウ	ク
26					
27					
28	11/7	マルチブレケット装置	適切なブレケットの装着方法を習得する。	D-5-5-4/各論 I-9-ウ	ク
29					
30					
31	11/14	マルチブレケット装置	ニッケルチタンのアーチワイヤによる歯列のレベリング法を習得する。	D-5-5-4/各論 I-9-ウ	ク
32					
33					
34	11/21	マルチブレケット装置	歯の排列に必要な空隙獲得の方法を習得する。	D-5-5-4/各論 I-9-ウ	ク
35					
36					
37	11/28	マルチブレケット装置	オープンバーチカルループを用いて舌側転位歯の移動の方法を習得する。	D-5-5-4/各論 I-9-ウ	ク
38					
39					

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
40	12/5	マルチプラケット装置小試験	アップライトスプリングを用いて下顎臼歯の整直法を習得する。	各論I-9-ウ	⑤
41					
42					
43	12/12	総合試験	矯正装置の製作方法、作用様式に関する修練度、理解度を試験する。	D-5-5-4/ 各論I-9-アウ	① ③ ⑤
44					
45					

小児歯科学（前期・3単位）

D③④C-a3-4911(D4911)

科目責任者：島村 和宏（小児・教授）

科目担当者：①島村 和宏（小児）

※この科目は、診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

小児歯科学は、成長発育の過程にある小児を対象にした歯学の一分野である。小児歯科臨床では小児の歯列・咬合を健全に維持、育成するために、口腔領域（歯、歯列、咬合、歯周組織、顎顔面頭蓋）の疾患や異常の診断、治療、予防に關注することや、継続的に成長発育している小児の口腔管理を行うことによって、将来の健全な永久歯列咬合を育成していくことを目的としている。小児歯科学における講義では、こうした成長期の小児についての理解と疾病的治療、予防について講義を行う。

2. 一般目標

小児の口腔健康維持、歯列・咬合の育成をはかるために、成長発育を学び、小児の口腔発育・発達および種々の口腔疾患を理解して、その診断と治療法についての知識と技術を習得する。

3. 到達目標

- 1) 小児の心身の発育の特徴、成長発育の評価法について説明する。
- 2) 小児の歯・歯列咬合、顎顔面頭蓋発育と障害・異常にについて説明する。
- 3) 乳歯・幼若永久歯・歯周組織の特徴と異常、予防について説明する。
- 4) 小児の情動の特徴および患児への歯科的対応について説明する。
- 5) 小児患者の治療方針、治療計画、口腔管理について説明する。
- 6) 乳歯・幼若永久歯の歯冠修復法、歯内療法について説明する。
- 7) 小児の外科的疾患、軟組織疾患、外傷について説明する。
- 8) 小児の咬合誘導処置（保隙、動的咬合誘導処置）について説明する。
- 9) 障害児、小児疾患およびその歯科治療について説明する。

4. 履修の進め方

講義形式で、教科書、参考書およびプリント資料を活用して講義を行う。講義中に示される視覚教材や補助教材も活用し理解を深め、習得する。

5. 準備学修

小児歯科学は、解剖学、生理学をはじめとする基礎科目や歯科保存学、口腔外科学など臨床科目と関連がある。3年生までの履修内容を復習すると、小児歯科学の理解はより深まる。事前にシラバス、教科書、参考書に目を通し講義内容を確認する（30分）。毎回の講義終了後、板書内容、配布プリントに目を通し、教科書と照らし合わせ内容を確認する（60分）。

6. 評価方法

- 1) 前期の定期試験（多肢選択）で65点以上を合格とする。65点未満または定期試験欠席者に対し追・再試験を行った場合は65点以上を合格とする。
- 2) 再試験は65点、追試験は80点を上限とする。

7. 教本

新谷誠康 他編：小児歯科学

ベーシックテキスト 第3版 永末書店 2023年

8. 参考書

白川哲夫 他編：小児歯科学基礎・臨床実習 第3版 4 医歯薬出版 2021年

9. 授業内容と日程

(コ：コアカリ記号, 国：国家試験出題基準, 担：担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／8	小児の成長発育概論	小児歯科学の特徴, 発育概論	D-5-6／必-5-イウ, 総II-7, V-1, 2	①
2	4／8	小児の成長発達①	身体の成長, 評価	A-2-2-2／必-5-イウ, 総II-7, V-1, 2	〃
3	4／8	小児の成長発達②	小児の発達運動・言語・情緒	A-2-2-2／必-5-イウ, 総II-7, V-1, 2	〃
4	4／15	小児の成長発達③	小児の発達運動・言語・情緒	A-2-2-2／必-5-イウ, 総II-7, V-1, 2	〃
5	4／15	小児の成長発達④	小児の生理的特徴・栄養	A-2-2-2／必-5-イウ, 総II-7, V-1, 2	〃
6	4／15	頭蓋と頸の発育	頭蓋・頸の発育	A-2-2-1／必-5-イウ, 総II-7	〃
7	4／22	頭蓋と頸の発育	頭蓋・頸の発育, 頸関節の発育	A-2-2-1／必-5-イウ, 総II-7	〃
8	4／22	口腔機能の発達	摂食嚥下の発達, 頸顎面発育の評価	A-2-2-1／必-5-イウ, 総II-7-ウ	〃
9	4／22	歯の発育と異常	歯の形成, 異常の原因	A-3-4／必-5, 総II-8-イ, 各I-2, 3	〃
10	5／13	歯の形成異常	歯数, 形態, 歯質の異常	A-3-4／必-5, 総II-8-イ, 各I-2, 3	〃
11	5／13	歯の形成異常	歯数, 形態, 歯質の異常	A-3-4／必-5, 総II-8-イ, 各I-2, 3	〃
12	5／13	歯列咬合発育と異常	歯の萌出と異常, 歯列咬合の発育変化	A-3-4／必-5, 総II-8-エ	〃
13	5／20	歯列咬合発育と異常	歯列咬合の発育変化・異常	A-3-4／必-5, 総II-8-エ, IV-2-ウ	〃
14	5／20	歯列咬合発育と異常	歯列咬合の発育変化・異常	A-3-4／必-5, 総II-8-エ, IV-2-ウ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
15	5／20	乳歯・幼若永久歯の特徴	乳歯の特徴	A-3-4／必-5, 総II-5, IV-2	①
16	5／27	乳歯・幼若永久歯の特徴	幼若永久歯の特徴	A-3-4／必-5, 総II-5, IV-2	〃
17	5／27	小児の歯周組織と歯周疾患	歯周組織の特徴, 歯周疾患と予防	D-5-6-5／必-5, 総IV-2, 各II-3	〃
18	5／27	小児の齲蝕	小児期の齲蝕の特徴, 為害作用, 検査, 診断	D-5-6-1, 2／必-7-イ-b, 総III-2-ア-b, 各II-1	〃
19	6／3	小児の齲蝕	小児期の齲蝕の特徴, 為害作用, 検査, 診断	D-5-6-1, 2／必-7-イ-b, 総III-2-ア-b, 各II-1	〃
20	6／3	小児への歯科的対応	小児の心理, 歯科的対応の実際	D-5-6／必-8, 総V-2	〃
21	6／3	小児への歯科的対応	年齢別対応, 行動変容法	D-5-6／必-8, 総V-2	〃
22	6／10	小児への歯科的対応	前投薬法, 精神鎮静法, 全身麻酔法	D-5-6／必-11, 総VII-4	〃
23	6／10	診察・検査・診断	診察, 検査法, 診療計画	D-5-6／必-8, 総V-2, VI-1, 2, VII-1	〃
24	6／10	診察・検査・診断	診察, 検査法, 診療計画	D-5-6／必-8, 総V-2, VI-1, 2, VII-1	〃
25	6／17	齲蝕予防と進行抑制	齲蝕予防法, 進行抑制	D-5-6-1／必-3-ウ, 各II-1-イ	〃
26	6／17	小児の歯冠修復	齲蝕治療の基本, 歯冠修復の種類	D-5-6-3／必-11, 各II-1	〃
27	6／17	小児の歯冠修復	歯冠修復の種類, 形成時の注意	D-5-6-3／必-11, 各II-1	〃
28	6／24	小児の歯冠修復	歯冠修復法	D-5-6-3／必-11, 各II-1	〃
29	6／24	小児の歯冠修復	幼若永久歯の歯冠修復	D-5-6-3／必-11, 各II-1	〃
30	6／24	小児の歯内療法	乳歯の歯髓疾患	D-5-6-4／必-11, 総IV-2, VI-1, VII-1, 各II-2	〃
31	7／1	小児の歯内療法	乳歯の歯髓疾患	D-5-6-4／必-11, 総IV-2, VI-1, VII-1, 各II-2	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
32	7/1	小児の歯内療法	幼若永久歯の歯内療法、根尖性歯周炎の診断と処置	D-5-6-4/必-11, 総IV-2, VI-1, VII-1, 各II-2	①
33	7/1	外科的処置	疼痛管理、局所麻酔、偶発症	D-5-6/必-11, 総VII-4	〃
34	7/8	乳歯の抜歯	抜歯の適応症、器具・器材	D-5-6/必-11, 総VII-4	〃
35	7/8	リスクマネジメント	リスクマネジメント、薬物療法	D-5-6/必-2-カ, 11-コ	〃
36	7/8	顎・軟組織疾患	顎骨の炎症、腫瘍、囊胞	D-5-6/必-6, 7, 8, 総IV-2, VI, VII, 各I, III	〃
37	7/8	軟組織疾患	軟組織の異常処置	D-5-6/必-6, 7, 8, 総IV-2, VI, VII, 各I, III	〃
38	7/8	口腔外傷	外傷の疫学、分類、検査と診断	D-5-6-6/各I-4	〃
39	7/8	口腔外傷	外傷歯の処置と予防	D-5-6-6/各I-4	〃
40	7/22	咬合誘導	咬合誘導の目的、診察、検査、診断、保隙	D-5-6-8/総VI-1, 各I-5	〃
41	7/22	咬合誘導	保隙、動的誘導、習癖	D-5-6-9/総VI-1, 各I-5	〃
42	7/22	小児の摂食嚥下障害・顎関節症、心身障害児	摂食嚥下障害、顎関節症、心身障害児	D-5-8/必7-イ, 11, 総III-2, V-3, 各V-2, 各-8	〃
43	7/22	心身障害児	心身障害児への対応、障害の特徴	D-5-8/必-11, 総V-3, 各-8	〃
44	7/22	心身障害児・注意する全身疾患	障害の特徴、全身疾患と口腔所見	D-5-8/必-11, 総V-3, 8	〃
45	7/22	注意すべき全身疾患、児童虐待まとめ	全身疾患と口腔所見、児童虐待、まとめ	D-5-6, D-5-6-10/必-11, 総I-2, V-3, 各V-8	〃

小児歯科学実習（前期・1単位）

D④⑤C-cl-41009(D41009)

科目責任者：島村 和宏（小児・教授）

科目担当者：①島村 和宏（小児）、②金子 知弘（非常勤）、
③原 憲司（非常勤）、④春山 博貴（非常勤）、
⑤岡 琢弓（非常勤）、⑥山内 旬美（非常勤）、
⑦関野 貴大（非常勤）
ほか

※この科目は、診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

小児歯科学実習では講義で学んだ知識をもとに、小児患者の各種歯科疾患に対する治療法の理論を学習し、その基本的手技、装置作製の技術を習得する。

2. 一般目標

小児の口腔健康維持、歯科疾患の治療を行うために、齲歯予防、齲歯治療、咬合誘導処置の理論と技術を習得する。

3. 到達目標

- 1) 小児歯科治療について必要な各種器具・機材について説明する。
- 2) ラバーダム防湿をする。
- 3) 乳白歯のコンポジットレジン修復の窩洞（1級）を形成する。
- 4) 乳白歯のインレー修復の窩洞（2級）を形成する。
- 5) 乳歯の歯髓処置（生活歯髓切断）をする。
- 6) 乳白歯の既製金属冠修復をする。
- 7) 乳前歯の歯冠修復をする。
- 8) クラウンループ保隙装置を設計、製作する。
- 9) 可撤保隙装置を設計、製作する。
- 10) 予防填塞をする。
- 11) フッ化物歯面塗布をする。
- 12) 咬合誘導装置（保隙装置）の説明をする。
- 13) 保護者に対するブラッシング指導をする。

4. 履修の進め方

実習書、配布資料に基づき、小児歯科学教科書も参考にして各種処置法・装置製作法の理論を学ぶ。また視覚教材（VTR・スライドの映像など）、班ごとのデモンストレーションから、実際の使用器材、作業手順＜術式＞、注意点を理解し技術習得の助けにする。また各班でのインストラクターから実習途中でのチェック、アドバイスを受け、実習予定に従って各実習項目を完了させる。項目ごとに小試験で評価を受け、レポートを提出する。

5. 準備学修

シラバス、教科書、実習書に目を通し、実習内容を確認して小テストに備える（60分）。毎回の実習終了後、教科書、実習書を用いて復習をする（30分）。その他、疑問点があれば科目担当者や担当教員に質問する。

6. 評価方法

到達目標をすべてミニマムリクワイメントとして評価する。模型実習の各項目＜8項目＞・演習＜2課題＞について、指導医の指示のもとスムーズに実施し、各製作物は患児に装着できるレベルで作製・提出する。これらを80%，また実習試験・小テストを20%とし、すべてを総合して100点として評価する。総合評価で65点を合格とする。

7. 教本

新谷誠康 他編：小児歯科学

ベーシックテキスト 第3版 永末書店 2023年

クリニカルテキスト 第3版 永末書店 2023年

8. 参考書

白川哲夫 他編：小児歯科学基礎・臨床実習 第3版 医

9. 授業内容と日程

(コ:コアカリ記号, 国:国家試験出題基準, 担:担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4/10	器材説明…顎模型ナントリング石膏模型の装着	顎模型にナンバリング石膏模型の咬合器への装着	B-1/ 総IVア	① ⑦
2					⑨
3					
4	4/17	(1)ラバーダム防湿 (2)乳歯歯冠修復	使用器材の確認 認ラバーダム 防湿下でのEの2級インレー窩洞	D-1-2), D-5/ 必11-セ, 総VIII-5, 各II-1-ウ	〃
5					
6					
7	4/24	乳歯歯冠修復法1)インレー窩洞	E; 2級インレー窩洞形成とE; 1級成形充填窩洞	D-1-2), D-5/ 必12-セ, 総VIII-5, 各II-1-ウ	〃
10	5/8	乳歯歯冠修復法2)成形充填窩洞CR充填/冠修復	乳臼歯隣接面を含む窩洞E; 1級成形充填窩洞とCR修復A; 支台歯形成CR冠修復	D-1-2), D-5/ 必12-セ, 総VIII-4, 各II-1-ウ	〃
11					
12					
13	5/15	乳歯の歯内療法生活歯髓切断法	生活歯髓切断法…E; 水酸化カルシウムによる生活歯髓処置	D-5/ 必11, 総IV-2, ア, VII-1, 各II-2	〃
14					
15					
16	5/22	乳歯歯冠修復法(3)既製乳歯冠装着	乳臼歯の既製金属冠修復法E; 断髓後の支台歯形成	D-5/ 必11-セ, 各II-1-ウ	〃
17					
18					
19	5/29	保隙装置1)クラウンループ製作2)可撤保隙装置製作	咬合誘導の概要クラウンループ保隙装置の設計と製作可撤保隙装置の外形線設定	D-5-6/ 必7, 総VI-1, 各I-10	〃
20					
21					
22	6/5	クラウンループ作成	クラウンループの屈曲	D-5-6/ 必7, 総VI-1, 各I-10	〃
23					
24					
25	6/12	クラウンループ作成可撤保隙装置(2)単純鈎	単純鈎の屈曲	D-5-6/ 必7, 総VI-1, 各I-10	〃
26					
27					
28	6/19	可撤保隙装置(3)アダムスクラスプ	単純鈎, アダムスクラスプの屈曲	D-5-6/ 必7, 総VI-1, 各I-10	〃
29					
30					
31	6/26	可撤保隙装置(4)レジン床の形成	レジン床の形成, 形態修正研磨	D-5-6/ 必7, 総VI-1, 各I-10	〃
32					
33					
34	7/3	可撤保隙装置(5)レジン床の研磨	レジン床の形成, 形態修正研磨	D-5-6/ 必7, 総VI-1, 各I-10	〃
35					
36					

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
37	7/10	模型計測保護者へのブッシング指導	歯列模型の計測保護者に対する家庭でのブッシング指導	E-5-5-2/ 必5, 7, 総I-2-ア, 各II-1-イ-e, 3-エ	① ⑨ ⑦
38					
39					
40	7/17	予防填塞処置	防湿下での下顎両側第一大臼歯予防填塞	E-5-5-5, 6/ 必5, 7, 総I-2-ア, 各II-1-イ-e, 3-エ	〃
41					
42		フッ化物応用法	乳歯列のフッ化物歯面塗布		
43	7/24	実習試験・総括実習	総括試験		〃
44					
45					

歯科放射線学Ⅱ（後期・1単位）

D③④C-al-4912 (D4912)

科目責任者：原田 卓哉（放射・教授）

科目担当者：①原田 卓哉（放射）、②茂呂祐利子（放射）、
③白田 真浩（放射）、④矢口 剛士（放射）

※この科目は、診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

放射線の医学利用には放射線診断や放射線治療があり、患者に利益をもたらしている一方で、被曝による危険も共存しています。放射線利用には、知識や技術的なことはもちろん、良識のある放射線診療・インフォームドコンセントも重要になります。

歯科放射線学は基礎放射線学として放射線物理学、放射線生物学、放射線化学を、また臨床放射線学として放射線診断学、放射線治療学、放射線防護学を学びます。基礎放射線学では、放射線の基礎的知識やその生物学的影響を学び、臨床放射線学では放射線を利用した画像診断、放射線治療に必要な撮影技術、腫瘍治療学さらに放射線防護について学びます。

2. 一般目標

- 的確な画像診断を行うために、歯科領域の画像所見における特徴を理解する。
- 口腔領域悪性腫瘍の放射線治療および治療患者の口腔管理を実施するために、放射線治療の基礎と実際を理解する。

3. 到達目標

- 画像診断について述べる。
- 歯と歯周組織の病変について述べる。
- 口腔顎顔面領域の疾患について述べる。

4. 履修の進め方

- 講義、示説で学習する。
- 文書、視覚媒体を用いる。
- 投影視覚媒体を用いる。

5. 準備学修

- 予 習：教科書の熟読を中心に予習する。（60分）
復 習：教科書および講義ノートの振り返りにより復習する。（60分）

6. 評価方法

定期試験で評価する。

評価基準：定期試験100%により評価する。追試験の最高点は80点とする。再試験の最高点は65点とする。

試験方法：筆記試験。形式：多肢選択形式および記述式。

範囲：講義内容全範囲。

7. 教本

岡野友宏 他 「歯科放射線学 第6版」医歯薬出版 2018年

8. 参考書

- 金田 隆 他著「新歯科放射線学」医学情報社 2017年
日本歯科放射線学会編 「歯科臨床における画像診断アトラス 第2版」医歯薬出版 2020年

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号、国：国家試験出題基準、担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
2	9/10	画像解剖2	パノラマエックス線写真における正常エックス線解剖	D-2-5/総II-4,5,総VI-2-5	① ④
3	9/17	歯と歯周組織1	形成異常、発育異常	D-2-5/総VI-2-5,各I-2	ク
4	9/24	歯と歯周組織2	齲歯、根尖性歯周疾患、歯周炎におけるエックス線像	D-2-5/総VI-2-5,各II-2,3,各III-2	ク
5	10/1	嚢胞	嚢胞の基本的エックス線像	D-2-5/総VI-2-5,各III-2	ク
6	10/8	良性腫瘍1	良性腫瘍の基本的エックス線像	D-2-5/総VI-2-5,各III-2	ク
7	10/15	良性腫瘍2	良性腫瘍および非歯原性腫瘍の画像所見	D-2-5/総VI-2-5,各III-2	ク
8	10/22	悪性腫瘍	悪性腫瘍の基本的エックス線像、レントゲンサイン	D-2-5/総VI-2-5,各III-2	ク
9	10/29	炎症	炎症の概要、基本的エックス線像	D-2-5/総VI-2-5,各III-2	ク
10	11/5	腫瘍類似疾患	線維性異形成症、Paget骨病、HistiocytosisX	D-2-5/総VI-2-5,各III-2	ク
11	11/12	上顎洞病変	上顎洞解剖、基本的エックス線所見	D-2-5/総VI-2-5,各III-2	ク
12	11/19	顎関節病変	顎関節解剖、基本的エックス線所見	D-2-5/総VI-2-5,各III-3	ク
13	11/26	唾液腺病変	唾液腺病変の基本的画像所見、唾液腺造影	D-2-5/総VI-2-5,各III-3	ク
14	12/3	顎骨に影響する全身疾患	代謝性疾患、内分泌疾患、先天性疾患、遺伝性疾患の画像所見	D-2-5/総VI-2-5,各III-4	ク
15	12/10	まとめ	これまでの講義内容まとめ		ク

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	9/3	画像解剖1	口内法エックス線写真における正常エックス線解剖	D-2-5/総II-4,5	① ④

高齢者歯科学Ⅱ（前期・1単位）

D③④C-a1-4907 (D4907)

科目責任者：鈴木 史彦（高齢・教授）

科目担当者：①鈴木 史彦（高齢），②北條健太郎（高齢），
③鈴木 海路（高齢），④山家 尚仁（高齢），
⑤植田耕一郎（客員），⑥阪口 英夫（非常勤）

※この科目は、診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

摂食嚥下障害は脳血管障害、認知症、神経筋疾患、頭頸部癌、加齢等により、食物の取り込みや嚥下に障害をきたしたものである。嚥下障害の合併症として誤嚥性肺炎、窒息、低栄養、脱水等が挙げられる。高齢者にとっては死亡の原因ともなる合併症であるため、嚥下機能を適切に評価して、リハビリテーションによって機能の向上や維持を図るのか、より安全な栄養管理を実施するのかといった選択が必要となる。高齢者歯科学Ⅱでは摂食嚥下モデルの概念、評価方法、訓練方法、嚥下補助床等について理解し、歯科医師として摂食嚥下リハビリテーションの臨床にどのように関わるのかを学習する。

2. 一般目標（コンピテンス）

高齢者の摂食嚥下障害（成人の中途障害を含む）の原因と、障害に応じた適切なアプローチ法の実践に必要な留意点を理解する。

3. 到達目標（コンピテンシー）

- 1) リハビリテーションの概念について理解している。
- 2) 摂食嚥下器官の解剖と生理について理解している。
- 3) 摂食嚥下モデルと各時期の摂食嚥下障害について理解している。
- 4) 摂食嚥下障害に関係する諸因子について理解している。
- 5) 摂食嚥下障害の合併症について理解している。
- 6) 摂食嚥下障害の検査方法について理解している。
- 7) 摂食嚥下障害に対する間接・直接訓練について理解している。
- 8) 摂食嚥下障害に対する食事指導について理解している。
- 9) 嚥下補助床について理解している。
- 10) 高齢者の栄養状態の評価と栄養指導を理解している。

4. 履修の進め方

講義形式でスライド、資料および教科書を使用して履修する。

5. 準備学修

本科目の履修準備として摂食嚥下障害の原因疾患である脳血管障害、認知症、神経筋疾患等について高齢者歯科学Ⅰと総合臨床医学の内容を復習しておくこと。また、摂食嚥下に関係する生理と解剖については口腔生理学と口腔解剖学の内容を復習しておくこと。

本科目で履修する内容のうち、他分野と関係が深い科目は次の通りである。リハビリテーションの理念：障害者歯科学、評価と訓練での多職種連携：チーム医療学、嚥下補助床：有床義歯学Ⅰ・Ⅱ、在宅歯科診療や訪問歯科診療：高齢者歯科学Ⅰ。

事前学習は教科書の該当箇所の図表を確認しておくこと（15分）。事後学習は配布資料と授業中に確認した教科書の図表について復習しておくこと（15分）。理解が不十分な項目については担当教員に質問すること。

6. 評価方法

定期試験は、論述試験80点と客観試験20点の合計が、65点以上の者を合格とする。なお、講義開始時に実施するGoogle フォームによる小テストの正答を5点満点に換算して、定期試験の結果に100点満点を上限として加点する。定期試験65点未満の者と定期試験欠席者に対しては追・再試験

を実施し、定期試験と同様に評価する。定期試験と追・再試験のフィードバックは正答を全員へ配布する。

7. 教本

新版 歯学生のための摂食・嚥下リハビリテーション学
医歯薬出版

8. 参考書

摂食嚥下リハビリテーション学 第3版 医歯薬出版、よくわかる高齢者歯科学 第2版 永末書店

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号、国：国家試験出題基準、担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4/9	障害学	リハビリテーションの理念 ICF、アプローチ法	C-4-3-4/必2-ア-d	①
2	4/16	構造と機能	摂食嚥下器官の解剖と生理	A-3-2/総II-7-ウ-a	③
3	4/23	摂食嚥下モデルと摂食嚥下障害	3期、4期、5期モデルとプロセスモデルと各期の障害	D-5-7-8/総II-6-エ-a	①
4	5/7	原因と病態 1	摂食嚥下に関する諸因子	D-5-7-8/各IV-1-イ、ウ	ク
5	5/14	原因と病態 2	合併症（誤嚥性肺炎・窒息・低栄養・脱水）	D-5-7-8/各IV-1-イ	④
6	5/21	評価・検査 1	スクリーニングテスト	D-3-1-11-2/各V-4-イ-a	①
7	5/28	評価・検査 2	嚥下造影、嚥下内視鏡検査	D-3-1-11-2/各V-4-イ-a	②
8	6/4	訓練 1	間接訓練	D-5-7-8/各V-7-ア-a	①
9	6/11	訓練 2	直接訓練、段階的摂食訓練	D-5-7-8/各V-7-ア-b	②
10	6/18	食事指導	食事指導、食事介助	D-5-7-8/各V-7-ア-b	①
11	6/25	歯科的アプローチ	摂食嚥下障害のための補助装置	D-5-7-8/各V-7-ア～オ	ク
12	7/2	高齢者と栄養	栄養状態の評価、栄養管理	D-5-7-9/必11-サ-a	ク
13	7/9	臨床 1	摂食嚥下リハビリテーションの臨床	D-5-7-8/各V-7-ア～オ	⑥
14	7/16	臨床 2	摂食嚥下リハビリテーションの臨床	D-5-7-8/各IV-7-ア～エ	⑤
15	7/23	ライフサイクルと摂食嚥下障害・まとめ	発達期・成人期・老年期の摂食嚥下障害・講義のまとめ	D-5-7-8/総VII-1-ウ	①

障害者歯科学（後期・1単位）

D③④C-a1-4807 (D4807)

科目責任者：吉田 健司（障害・講師）

科目担当者：①吉田 健司（障害），②加川千鶴世（障害），
③赤穂 麗子（障害）

※この科目は、診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

障害者歯科学は、口腔や歯の健康を守っていくために、心身に障害のある人に対して歯科保健指導や歯科治療を行う歯科医療学であり、その障害には個人個人で特異的な問題が付随することから、生理学的、身体的、心理的特徴を十分に理解し、全身管理上の問題点と顎・口腔の生理学的な機能の回復・維持を学ぶ必要がある。さらに、ノーマライゼーションの観点から、障害を有する患者のQOL (Quality of life) の向上を考えた歯科医療をどのように実践していくのかを学ぶ。

2. 一般目標

近年必要性が増加している障害者に対する医療より歯科領域における保健医療を障害者に提供するために、社会保障制度などの法的側面と障害の程度に合わせた顎・口腔機能の維持・増進に関する歯科の基本的知識を修得する。さらに、障害者の社会的環境や身体的・心理的特徴、各障害に伴う顎口腔系の変化や全身疾患と歯科治療との関係についての基礎的知識を修得する。

3. 到達目標

- 1) 障害者に関する概念を説明する。
- 2) 歯科治療に配慮すべき疾患・症候群を説明する。
- 3) 障害者の歯科治療における行動調整について説明する。
- 4) 障害者の歯科治療に必要な注意点を説明する。
- 5) 障害者の障害に合わせた歯科の管理を説明する。
- 6) 障害者歯科における安全管理を説明する。

4. 履修の進め方

講義主体でスライドと資料（プリント）を使用して履修する。次回の講義において前回の重要な項目を再度提示する。

5. 準備学修

障害者歯科学における障害の特異性に関しては口腔衛生学、小児歯科学、口腔外科学、歯科麻酔学と関連性が深い。障害者歯科学の講義では今までに習った知識の確認事項であるものや新たな知識を知ることによってより研鑽を積む内容も多い。よって、授業前に授業項目における教科書の該当項目について目を通すこと（15分）。また、授業後は当日の内容について配布されたプリントなどの資料を見直す（30分）ことが肝要である。

6. 評価方法

定期試験で評価する。評価基準：定期試験100%により評価し、65点以上を合格とする。試験形式：多肢選択式。範囲：講義内容全範囲。65点未満の場合には再試験を行う。定期試験65点未満の再試験受験該当者は、再試験の点数が65点以上でも65点の採点結果とする。また、再試験の試験形式、範囲は定期試験に準じる。

7. 教本

日本障害者歯科学会編 スペシャルニーズデンティストリーダー 障害者歯科 第2版 医歯薬出版

8. 参考書

スペシャルニーズデンティストリーハンドブック 障害者歯科医療ハンドブック改訂版 東京都立心身障害者口腔保健センター 一世印刷

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号、国：国家試験出題基準、担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	9/2	歯科医療におけるスペシャルニーズ	QOL, ノーマライゼーション, バリアフリー, ユニバーサルデザイン	C-4-3-4)/ 必2-ア-C, 総I-1-ア-d	① ② ③
2	9/9	スペシャルニーズと社会保障	障害者福祉, 医療制度, ADL, IADL, チーム医療	C-1-3), D-6)/ 総I-2-カ, 総V-5-イ-a, b	ヶ
3	9/30	精神発達・心理的発達と行動の障害	発達遅滞, 精神遅滞, 自閉症スペクトラム障害, 注意欠陥多動性障害, 学習障害	D-5-8), D-5-9)/ 総V-2-オ	ヶ
4	9/30	神経・運動障害(1)	脳性麻痺, 筋ジストロフィー, 脊髄損傷, 関節リウマチ, Parkinson病	D-5-8), D-5-9)/ 総V-3-オ, 総V-6-ア-g	ヶ
5	10/7	神経・運動障害(2), 感覚障害	脳血管障害, 筋萎縮性側索硬化症, てんかん, 視覚・聴覚障害	D-5-8), D-5-9)/ 総V-6-ア-g	ヶ
6	10/21	摂食嚥下障害	摂食嚥下障害, 摂食嚥下リハビリテーション, 咀嚼障害	D-5-8-5) 必11-シ-a, 総II-7-ウ-a, 総VII-6-イ-a	ヶ
7	10/28	精神および行動の障害	統合失調症, うつ病, 不安心身症, 認知症, 摂食障害	D-5-8), D-5-9)/ 総V-6-ア-f	ヶ
8	10/28	歯科治療時に配慮すべき疾患	内科的疾患(循環器・呼吸器・消化器・腎尿路内分泌・血液疾患)	D-5-8), D-5-9)/ 総V-6-ア	ヶ
9	11/11	歯科治療時に配慮すべき疾患・症候群-1	(口腔に症状がみられる) 遺伝性疾患	D-5-8), D-5-9)/ 総V-3-オ, 各I-1	ヶ
10	11/18	歯科治療時に配慮すべき疾患・症候群-2	(頭蓋・顎頬面に症状がみられる) 遺伝性疾患, 染色体異常	D-5-8), D-5-9)/ 総V-3-オ, 各I-1	ヶ
11	11/25	歯科治療時に配慮すべき疾患・難病	炎症性腸疾患, 心筋症, エリテマトーデス, サルコイドーシス	D-5-8), D-5-9)/ 総V-6-ア-k, 各III-1-ク, 各III-4-オ	ヶ
12	11/25	行動調整	コミュニケーション法, 行動療法, 薬物的行動調整, 体動の調整法	D-5-8), D-5-9)/ 総V-3-ウ, オ, 各V-8-ア-b	ヶ

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
13	12/2	スペシャルニーズのある人の歯科治療-1	医療面接, 齢 齶処置, 歯周 治療, 歯冠修 復	D-5-8), D-5-9)/ 各V-8-ウ	① ② ③
14	12/9	スペシャルニーズのある人の歯科治療-2	補綴的対応, 顎顔面領域の 外傷	D-5-8), D-5-9)/ 各V-8-ウ	〃
15	12/9	リスク評価と 安全管理	リスク評価, 医療安全管理 体制, 医療事 故の予防, ターミナルケ ア	D-5-8), D-5-9)/ 必2-オ, 総VII-5-イ	〃

臨床総合演習（後期・2単位）

D ②③④⑤C-b2-41101 (D41101)

科目責任者：川原 一郎 (口外・教授)

科目担当者：(修復) 山田 嘉重, 菊井 徹哉, 大木 英俊,
橋本 昌典, 野口 太照, 影山 直
(歯周) 高橋 慶壯, 山崎 厚作
(歯内) 木村 裕一, 佐藤 穏子, 長崎 慶太,
金澤 明昭
(冠橋) 羽鳥 弘毅, 内田 光洋, 雨宮 幹樹,
伊藤 歩, 大友 悠資, 山口 雄大
(有床) 高津 匡樹, 松本 知生, 池田 敏和,
内山 梨夏, 飯島 康基, 佐々木慎一,
橋原 楓, 嶋田 伊吹, 高橋 泰我
(口外) 御代田 駿, 小嶋 忠之, 高橋文太郎,
西 祐也
(矯正) 福井 和徳, 川鍋 仁, 板橋 仁,
山野辺晋也, 岡崎 智世, 笹谷 哲郎,
根本奈央子, 松村 賢史, 萩野 早紀,
小須田一剛, 浅倉 卓弥, 北村 裕紀,
宗像 恭史
(小児) 島村 和宏, 神庭 優衣, 舟山 敦雄,
玉木 望
(放射) 原田 卓哉, 茂呂祐利子, 白田 真浩,
矢口 剛士
(麻酔) 山崎 信也, 佐藤 光

※この科目は、診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

臨床歯科学においては、知識のみならず技能と態度の学習が要求される。次年度に履修する臨床実習では、これまでに学習してきた知識と技能をさらに発展させて、実際の臨床に即した診療参加型の実習を行うことになる。本科目では講義・模型実習で学習した事項と診療参加型臨床実習を段階的に結びつけ、臨床実習へ円滑に移行するための内容を学習する。

2. 一般目標

臨床実習において指導医とともに診療に携わるために、基本的歯科疾患に対する診察・検査・診断・治療計画立案および歯科治療の実践に必要な知識・技能・態度を習得する。

3. 到達目標

- 1) 初診患者の医療面接を実施する。
- 2) 予防填塞を実施する。
- 3) バイタルサインを観察する。
- 4) 頭頸部の診察を実施する。
- 5) エックス線撮影の説明をする。
- 6) 修復用隔壁の装着を実施する。
- 7) 概形印象採得を実施する。
- 8) 歯周病の診断と病状について説明する。
- 9) 支台歯形成を実施する。
- 10) 保隙装置を説明する。
- 11) レストシート形成を実施する。

4. 履修の進め方

学年を約7,8名ずつのグループに分け少人数学習を行う。グループ毎に課題を実施し、別紙日程表に準じてローテーションする。演習の場所として前期は中央棟4階と5階の実習室とし、後期は病院棟内を活用する。演習中は指定の白衣を着用する。また課題毎に指定された器材、教科書を持参する。

5. 準備学修

シラバス等により事前に提示された課題内容に関して、こ

これまでの講義、模型実習で履修した事項を整理する。(30分)

そして、当日実施した課題に関して、配布プリントや各自のノート・メモ等を見直し、イメージトレーニングを実施する。(30分)

6. 評価方法

前期の最終期に、形成的評価として確認試験を2週4課題実施し、即時にフィードバックするも最終評価には加えない。後期の演習の最終5日間で10課題の実技試験を実施する。10課題実技試験の平均値での演習成績を90%、出席率を10%とする。

総括的評価の合格基準は、72点以上であることとする。

7. 教本

各課題からプリントを配布する。

8. 参考書

なし

課題. 1 バイタルサイン

E-2-3-2

必修-8-エ-1-C

口腔外科学講座(麻酔:山崎 信也)

一般目標

診療を行うために、バイタルサインを観察する基本的態度、技能および知識を修得する。

到達目標

- 1) 患者にこれから行うことを説明する。
- 2) 患者の日常の血圧を確認する。
- 3) 脈拍を適切に測定する。
- 4) 血圧を適切に測定する。
- 5) 患者に脈拍と血圧の測定値を伝える。

課題. 2 心肺蘇生

E-1-2

歯科医学総論VII-3-ア-1-a, b

口腔外科学講座(麻酔:山崎 信也)

一般目標

診療中や院内での偶発的な心肺停止にも対応できるような安全な歯科医療を実践するために、心肺蘇生の基本的態度、技能および知識を修得する。

到達目標

- 1) 意識の有無を評価する。
- 2) 応援とAEDを要求する。
- 3) 呼吸の有無を評価する。
- 4) 人工呼吸を実施する。
- 5) 循環の有無を評価する。
- 6) 胸骨圧迫を実施する。
- 7) 人工呼吸と胸骨圧迫を適切な割合で実施する。
- 8) AEDを安全に操作する。

課題. 3 浸潤麻酔

E-1-3-1

必修-11-カ-1

口腔外科学講座(麻酔:山崎 信也)

一般目標

無痛的な治療を行うために、浸潤麻酔についての基本的態度、技能および知識を修得する。

到達目標

- 1) 清潔な状態で必要な器材を選択する。
- 2) 手袋を正しく装着する。
- 3) 器材と薬剤を正しく準備する。
- 4) 患者にこれから行うことを説明する。
- 5) 安全な浸潤麻酔操作を行う。
- 6) 清潔に配慮した操作をする。

課題. 4 初診患者の医療面接(急性症状)

E-2-1

必修-8-ウ-abcde

成長発育学講座(矯正:山野辺晋也)

一般目標

急性症状を訴える初診患者との良好な人間関係の構築と問題点の抽出を行うために、医療面接についての基本的態度、技能および知識を習得する。

到達目標

- 1) 面接の導入にあたって、環境を整える。
- 2) 急性病状や心理状態に応じたコミュニケーションをとる。
- 3) わかりやすい言葉づかいと聞き取りやすい話し方をする。
- 4) 急性症状やその心理状態に応じた質問をする。
- 5) 病状中心の病歴を聴取する。
- 6) 既往歴を聴取する。
- 7) 解釈モデルを聴取する。
- 8) 急性症状やその心理状態に対する共感的理解の態度を示す。
- 9) 面接の終わりに患者の言い忘れないかを確認する。
- 10) 面接の終わりに訴えの要約と再確認をする。

課題. 5 初診患者の医療面接(慢性症状)

E-2-1-1

必修-8-ウ-abcde

成長発育学講座(矯正:山野辺晋也)

一般目標

慢性症状を訴える初診患者との良好な人間関係の構築と問題点の抽出を行うために、医療面接についての基本的態度、技能および知識を習得する。

到達目標

- 1) 面接の導入にあたって、環境を整える。
- 2) 慢性病状や心理状態に応じたコミュニケーションをとる。
- 3) わかりやすい言葉づかいと聞き取りやすい話し方をする。
- 4) 慢性症状やその心理状態に応じた質問をする。
- 5) 病状中心の病歴を聴取する。
- 6) 既往歴を聴取する。
- 7) 解釈モデルを聴取する。
- 8) 背景(心理的、社会的、経済的)を聴取する。
- 9) 慢性症状やその心理状態に応じた共感的理解の態度を示す。
- 10) 面接の終わりに患者の言い忘れないかを確認する。
- 11) 面接の終わりに訴えの要約と確認をする。

課題. 6 口腔内状態の記録

E-4-1

必修-8-キ-1-a

歯科保存学講座(歯内:金澤 朋昭)

一般目標

口腔内の情報収集を行うために、口腔内状態の記録に求められる基本的態度、技能および知識を習得する。

到達目標

- 1) 患者にこれから行うことを説明する。
- 2) 患者に配慮した器具の操作をする。
- 3) 口腔内状態を診療録(記入用紙)に記載する。
- 4) 安全性に配慮した操作ができる。

課題. 7 ブラッシング指導

E-5-2

各論-III-3-イ-1-C

各論-II-3-イ-1-C

歯科保存学講座(歯周:高橋 慶祐)

一般目標

歯周治療におけるブラッシングの位置づけと重要性を説明し、具体的なブラッシング方法の指導を行うための基本的態度、技能および知識を習得する。

到達目標

- 1) 指導の開始にあたって、環境を整える。
- 2) 様々な媒体を用いて指導する。
- 3) 患者の理解度を確認しながら指導する。
- 4) わかりやすい言葉づかいと聞き取りやすい話し方をする。
- 5) 指導の終わりに、患者の疑問点を確認する。
- 6) ブラッシング法について指導する。
- 7) 歯ブラシの選択法を指導する。
- 8) 患者に練習させながら指導する。

課題. 8 コンポジットレジン修復(単純)

E-5-3-1-1

各論-II-1-ウ-1-a

歯科保存学講座(修復:菊井 徹哉)

一般目標

光重合コンポジットレジン修復を適切に実施するために必要な基本的態度、技能および知識を習得する。

到達目標

- 1) 患者にこれから行う処置を伝える。
- 2) 必要に応じたポジショニングをとる。
- 3) 適切なシェードを選択する。
- 4) 指定された接着システムに基づく歯面処理を実施する。
- 5) 光重合型コンポジットレジンの窩洞充填を的確に実施する。
- 6) 的確な光照射を実施する。
- 7) 清潔に配慮した操作をする。
- 8) 患者の痛みや不快感に配慮した操作をする。
- 9) 安全性に配慮した操作をする。

課題. 9 根管治療

E-5-3-2-1

各論-II-2-イ-1-d

歯科保存学講座(歯内:佐藤 穏子)

一般目標

歯髓・根尖歯周組織疾患の治療を行うために、根管治療における根管洗浄およびマスターポイント試適の基本的態度、技能および知識を習得する。

到達目標

- 1) 患者にこれから行うことを伝える。
- 2) 根管洗浄に用いる器具を選択する。
- 3) 必要に応じたポジショニングをする。
- 4) 適切な根管洗浄操作をする。
- 5) 適切な根管乾燥の操作をする。
- 6) マスターポイントの試適をする。
- 7) 清潔に配慮した操作をする。
- 8) 患者の痛みや不快感に配慮した操作をする。
- 9) 安全性に配慮した操作をする。

課題. 10 頭頸部(頸・顔面・頸部)の診察	E-2-2-2
必-8-オ- adfgh	
口腔外科学講座(小嶋 忠之)	
一般目標	
頭頸部領域の診察を行うために必要な基本的態度、技能および知識を修得する。	
到達目標	
1) 患者にこれから行うことを伝えることができる。 2) 顔面の色調の変化を確認できる。 3) 顔面の対称性を確認できる。 4) 頸の開閉口路を確認できる。 5) 頸関節の可動性を触診できる。 6) 頭頸部の筋肉の触診ができる。 7) 頸下リンパ節の触診ができる。 8) 患者の痛みや不快に配慮した診察ができる。 9) 診察内容を診療録に記録できる。	

課題. 11 歯周病の病状の説明	E-3-11 E-4-3-1 or E-3-1-2 各論 II-3-ウ-a
	歯科保存学講座(歯周:高橋 廉太)

一般目標	
患者の歯周疾患の病状を診断し、治療の概要および具体的な治療方針について患者に分かり易く説明できるための基本的態度、技能および知識を修得する。	
到達目標	
1) 説明の開始にあたり、環境を整える。 2) 様々な媒体を用いて説明する。 3) 患者の理解度を確認しながら説明する。 4) わかりやすい言葉づかいと聞き取りやすい話し方をする。 5) 説明の終わりに、患者の疑問点を確認する。 6) 検査結果に基づいて歯周病の病状を正しく説明する。	

課題. 12 普通抜歯	E-5-3-5-1 必須11-ケ-a 口腔外科学講座(高橋文太郎)
一般目標	
抜歯に必要な器具を選択し、無菌操作に配慮して安全な抜歯操作を行うために必要な基本的態度、技能および知識を修得する。	
到達目標	
1) 患者にこれから行うことを説明する。 2) 抜歯術に必要な器材を選択する。 3) 清潔に配慮して器材をトレー上に準備する。 4) 処置に応じたポジショニングをする。 5) 無菌手袋を正しく装着する。 6) 患者に配慮した器材の操作をする。 7) 指定された歯を抜歯する。 8) 清潔に配慮した操作をする。	

課題. 13 手指消毒と手袋の装着	E-1-1-2 必11-エ-b 口腔外科学講座(御代田 駿)
一般目標	
清潔な診療を行うために、手洗い方法および滅菌グローブ装着についての基本的態度、技能および知識を修得する。	
到達目標	
1) 清潔・不潔に配慮しながら順序よく手洗いをする。 2) 清潔・不潔に配慮しながら滅菌タオルを使用する。 3) 無菌的にグローブを装着する。	

課題. 14 縫合	E-5-3-5-3 必11-キ-c 口腔外科学講座(高橋文太郎)
一般目標	
創面の縫合を行うために必要な基本的態度、技能および知識を修得する。	
到達目標	
1) 必要な器材を選択する。 2) 減菌グローブを正しく装着する。 3) 結紉を正しく実施する。 4) 糸を正しく切る。 5) 清潔に配慮した操作をする。 6) 患者の痛みや不快感に配慮した操作をする。 7) 安全性に配慮した操作をする。	

課題. 15 エックス線撮影の説明	E-2-5-2 総論VI-2-エ-b +総論VI-2-ウ-a 放射線診断学講座(原田 卓哉)
一般目標	
エックス線撮影の同意を得るために、エックス線検査の必要性と人体への影響および防御の説明に必要な基本的態度、技能および知識を修得する。	
到達目標	
1)撮影の開始にあたって環境を整える。 2)疑問点に関して自由に質問できることを説明する。 3)理解度を確認しながら進める。 4)わかりやすい言葉づかいと聞き取りやすい話し方で説明する。 5)エックス線撮影の必要性について説明する。 6)口腔内エックス線撮影について説明する。 7)放射線の防護について説明する。 8)説明の終わりに説明内容の要約と確認をする。	

課題. 16 欠損補綴の治療方針の説明	E-4-2-2-2
各論IV-2-エ-2	歯科補綴学講座(有床:山森 徹雄)
一般目標	
治療にあたっての協力を得るために、補綴治療法の説明についての基本的態度、技能および知識を修得する。	
到達目標	
1) 説明の開始にあたり、環境を整える。 2) 様々な媒体を用いて説明する。 3) 患者の理解度を確認しながら説明する。 4) わかりやすい言葉づかいと聞き取りやすい話し方で説明する。 5) 説明の終わりに患者の疑問点を確認する。 6) 補綴処置の構造について説明する。 7) 補綴処置の構造の概略を説明する。 8) 治療法について、長所、短所を説明する。	

課題. 17 ラバーダム防湿	E-5-3-2-1
各論II-2-エ-1-d	歯科保存学講座(歯内:長崎 廉太)
一般目標	
安全かつ効率的な歯科治療を行うために、ラバーダム防湿についての基本的態度、技能および知識を修得する。	
到達目標	
1) 患者にこれから行うことを伝える。 2) 必要な器具を準備する。 3) 処置に応じたポジショニングをとる。 4) 指定された歯に装着する。 5) 術野の消毒をする。 6) 適切なラバーダム防湿を実施する。 7) 清潔に配慮した操作をする。 8) 患者の痛みや不快感に配慮した操作をする。 9) 安全性に配慮した操作をする。	

課題. 18 支台歯形成	E-5-3-4-1-3
各論IV-3-エ-1-b	歯科補綴学講座(冠橋:羽鳥 弘毅)
一般目標	
歯の欠損・咀嚼障害の治療を行うために、全部金属冠の支台歯形成についての基本的態度、技能および知識を修得する。	
到達目標	
1) これから行うことを患者に伝達できる。 2) 処置に応じたポジションをとれる。 3) 切削用ポイントをハンドピースに確実に装着できる。 4) 指定された歯を形成できる。 5) ハンドピースを操作できる。 6) 歯髓保護に配慮できる。 7) 支台歯形成ができる。 8) 清潔に配慮できる。 9) 患者の痛みや不快感に配慮できる。 10) 安全性に配慮できる。	

課題. 19 プロビジョナルレストレーションの製作	E-5-3-4-1-7
各論IV-3-エ-1-e	歯科補綴学講座(冠橋:羽鳥 弘毅)
一般目標	
歯の欠損・咀嚼障害の治療を行うために、プロビジョナルレストレーション製作についての基本的態度、技能および知識を修得する。	
到達目標	
1) これから行うことを患者に伝達できる。 2) 処置に応じたポジションをとれる。 3) 既製樹脂冠を試適できる。 4) 支台歯と臨在歯に分離剤を塗布できる。 5) 常温(即時)重合レジンを操作できる。 6) 迂縁部のバリを削除(切除)できる。 7) 清潔に配慮できる。 8) 患者の痛みや不快感に配慮できる。 9) 安全性に配慮できる。	

課題. 20 概形印象採得	E-5-3-4-2-3
各論IV-4-エ-1-b	歯科補綴学講座(有床:高津 匠樹ほか)
一般目標	
基本的診察を行うために、アルジネート印象材による印象採得の基本的態度、技能および知識を修得する。	
到達目標	
1) 患者にこれから行うことを説明する。 2) 必要な機材を準備する。 3) 処置に応じたポジショニングをとる。 4) アルジネート印象材の手練和を適切に行う。 5) 印象採得を適切に行う。 6) 清潔に配慮した操作をする。 7) 患者の痛みや不快感に配慮した操作をする。 8) 安全性に配慮した操作をする。	

課題. 21 矯正装置の説明 E-5-4-1
各論 I-9-ア-ア-a
成長発育学講座(矯正:山野辺晋也)

一般目標

不正咬合治療に使用する矯正装置について患者の保護者にわかりやすく説明するため必要な基本的態度、技能および知識を修得する。

到達目標

- 1) 説明の開始にあたって環境を整えることができる。
- 2) 様々な媒体を用いて説明できる。
- 3) 保護者の理解度を確認しながら説明できる。
- 4) わかりやすい言葉づかいと聞き取りやすい話しができる。
- 5) 説明の終わりに疑問点を確認できる。
- 6) 不正咬合の状態を説明できる。
- 7) 矯正装置の使用目的を説明できる。
- 8) 矯正装置の特徴と作用機序を説明できる。
- 9) 装置の取り扱いについて説明できる。

課題. 22 保護者へのブラッシング指導 E-5-5-2
各論IV-8-オ-ア
成長発育学講座(小児:舟山 敦雄)

一般目標

小児の保護者が家庭で行う有効なブラークコントロールのために、ブラッシング指導についての必要な基本的態度、技能および知識を修得する。

到達目標

- 1) 指導の開始にあたって、環境を整える。
- 2) 指導の概要や自由に質問できることを伝える。
- 3) 小児の年齢にあつた仕上げ磨きの方法を指導する。
- 4) 患者(保護者)の理解度を確認しながら指導する。
- 5) 適切な歯ブラシの選択を指導する。
- 6) 保護者に実体験させながら指導する。
- 7) 様々な媒体を用いて指導する。
- 8) わかりやすい言葉づかいと聞き取りやすい話し方で説明する。
- 9) 指導の終わりに、指導の要約と疑問点やいい忘れたことの確認をする。

課題. 23 保険装置の説明 E-5-4-2 E-4-3-1
各論 I-10-ア-ア-a
成長発育学講座(小児:神庭 優衣)

一般目標

保護者に対して保険の必要性を説明するための必要な基本的態度、技能および知識を修得する。

到達目標

- 1) 説明の開始にあたって環境を整えることができる。
- 2) 様々な媒体を用いて説明できる。
- 3) 保護者の理解度を確認しながら説明できる。
- 4) わかりやすい言葉づかいと聞き取りやすい話しができる。
- 5) 説明の終わりに疑問点を確認できる。
- 6) 保険の必要性を説明できる。
- 7) 適切な保険装置を選択できる。
- 8) 保険装置の名称が伝えられる。
- 9) 保険装置の構成・使用方法について説明できる。
- 10) 装着後、定期管理の必要性を説明できる。

課題. 24 予防填塞 E-5-5-6
各論 II-1-イ-ア
成長発育歯学講座(小児:舟山 敦雄)

一般目標

小児のう蝕予防に有効な予防填塞処置を行うために、レジン系シーラント材による予防填塞の術式、技能を修得する。

到達目標

- 1) 患者にこれから行うことを伝える。
- 2) 処置に応じたポジショニングができる。
- 3) 齢面及び小窓裂溝部の機械的清掃、化学的清掃ができる。
- 4) 指定された接着システムに基づく歯面処理、シーラント材の填塞ができる。
- 5) レジン系シーラント材の的確な填塞ができる。
- 6) 的確な光照射ができる。
- 7) 清潔に配慮した操作ができる。
- 8) 患者の痛みや不快感に配慮した操作ができる。
- 9) 安全性に配慮した操作ができる。

課題. 25 フッ化物塗布 E-5-5-5
各論 II-1-イ-丙
成長発育学講座(小児:玉木 望)

一般目標

小児のう蝕予防に有効なフッ化物塗布を行うために、基本的態度、技能および知識を修得する。

到達目標

- 1) 患者にこれから行うことを伝えることができる。
- 2) 処置に応じたポジショニングができる。
- 3) 齢面清掃を適切に行うことができる。
- 4) 齢面乾燥を適切に行うことができる。
- 5) 簡易防湿を行なうことができる。
- 6) 指定された部位にフッ化物の歯面塗布が適切にできる。
- 7) 清潔に配慮した操作ができる。
- 8) 患者の痛みや不快感に配慮した操作ができる。
- 9) 安全性に配慮した操作ができる。

課題. 26 スケーリング・ルートプレーニング E-5-3-3-3
各論 II-3-ウ-ア
歯科保存学講座(歯周:高橋 慶壮)

一般目標

スケーリング・ルートプレーニングを適切に実施するための基本的態度、技能および知識を修得する。

到達目標

- 1) 患者にこれから行うことを伝達する。
- 2) 適切なスケーラーを選択する。
- 3) 処置に応じたポジショニングをとる。
- 4) 指定された歯の処置をする。
- 5) 適切なスケーリング・ルートプレーニングを行う。
- 6) 清潔に配慮した操作をする。
- 7) 患者の痛みや不快感に配慮した操作をする。
- 8) 安全性に配慮した操作をする。

課題. 27 修復用隔壁の装着 E-5-3-1-2
必-11-ケ-ア
各論 II-1-ウ-ア
歯科保存学講座(修復:山田 嘉重)

一般目標

レジン修復用隔壁を装着するための必要な基本的態度、技能および知識を修得する。

到達目標

- 1) 患者にこれから行うことを伝達する。
- 2) 処置に応じたポジショニングができる。
- 3) トップマイヤー型マトリックスリテナーの操作ができる。
- 4) 適切なウェッジ挿入ができる。
- 5) 指定された歯に装着できる。
- 6) 装着状態の確認ができる。
- 7) 清潔に配慮した操作をする。
- 8) 患者の痛みや不快感に配慮した操作をする。
- 9) 安全性に配慮した操作をする。

課題. 28 う蝕罹患歯質の除去 E-5-3-1-2
必-11-ケ-ア
各論 II-1-ウ-ア
歯科保存学講座(修復:山田 嘉重)

一般目標

歯の硬組織疾患の治療を行うために、う蝕象牙質の除去についての基本的態度、技能および知識を修得する。

到達目標

- 1) 患者にこれから行うことを伝達する。
- 2) 処置に応じたポジショニングができる。
- 3) 指定された歯を処置できる。
- 4) う蝕検知液を使用できる。
- 5) ハンドピースの操作ができる。
- 6) 歯髄保護に配慮ができる。
- 7) う蝕象牙質の除去ができる。
- 8) 清潔に配慮した操作をする。
- 9) 患者の痛みや不快感に配慮した操作をする。
- 10) 安全性に配慮した操作をする。

課題. 29 レストシート形成 E-5-3-4-2-2
各論 VI-4-イ-ア
歯科補綴学講座(有床:高津 匡樹ほか)

一般目標

レストシートを形成するための必要な基本的態度、技能および知識を修得する。

到達目標

- 1) 患者にこれから行うことを伝達する。
- 2) 処置に応じたポジショニングができる。
- 3) 指定された歯の正しい位置に形成ができる。
- 4) ハンドピースの操作ができる。
- 5) 歯髄保護に配慮ができる。
- 6) レストシートの形成ができる。
- 7) 清潔に配慮した操作をする。
- 8) 患者の痛みや不快感に配慮した操作をする。
- 9) 安全性に配慮した操作をする。

課題. 30 エックス線写真的取り扱いと読影 E-2-5-4
各論 VI-2-コ-ア
放射線診断学講座(原田 阜哉)

一般目標

正しい画像診断を得るために、撮影された14枚法(あるいは10枚法)エックス線写真を適切に取り扱い、読影する基本的態度、技能および知識を修得する。

到達目標

- 1) エックス線写真を正しく取り扱う。
- 2) エックス線写真の表裏を判別する。
- 3) エックス線像から解剖的位置を識別する。
- 4) エックス線像の読影をする。

2024年度 第4学年 臨床総合演習 日程表 前期

班	学籍番号	学年 番号	氏名	4月					5月					6月					7月																						
				12	12	19	19	26	26	10	10	17	17	24	24	31	31	7	7	14	14	21	21	28	28	5	5	12	12	19	19	26	26								
オリエンテーション	オリエンテーション	オリエンテーション	オリエンテーション	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J								
				J	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J							
				I	J	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J						
				H	I	J	A	B	C	D	E	F	G	I	J	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J						
				G	H	I	J	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J				
				F	G	H	I	J	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J			
				E	F	G	H	I	J	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J		
				D	E	F	G	H	I	K	A	B	C	D	E	F	G	H	I	K	A	B	C	D	E	F	G	H	I	K	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	
				C	D	E	F	G	H	I	K	A	B	C	D	E	F	G	H	I	K	A	B	C	D	E	F	G	H	I	K	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
				B	C	D	E	F	G	H	I	J	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	A	B	C	D	E	F	G	H	I

セクション	課題	実習場所 中央棟	担当講座(科)
A	バイタルサイン/心肺蘇生	5階実習室	口腔外科学講座(麻酔)
	浸潤麻酔/心肺蘇生	5階実習室	口腔外科学講座(麻酔)
B	初診患者の医療面接(急性症状)	4階実習室	成長発育歯学講座(矯正)
	初診患者の医療面接(慢性症状)	4階実習室	成長発育歯学講座(矯正)
C	口腔内状態の記録	4階実習室	保存学講座(歯内)
	う蝕罹患歯質の除去	5階実習室	保存学講座(修復)
D	プロビジョナルレーストレーションの製作	4階実習室	歯科補綴学講座(冠橋)
	支台歯形成	4階実習室	歯科補綴学講座(冠橋)
E	矯正装置の説明	5階実習室	成長発育歯学講座(矯正)
	保険装置の説明	5階実習室	成長発育歯学講座(小児)

セクション	課題	実習場所 中央棟	担当講座(科)
F	手指消毒と手袋の装着	4階実習室	口腔外科学講座(口外)
	縫合	5階実習室	口腔外科学講座(口外)
G	普通抜歯	5階実習室	口腔外科学講座(口外)
	頭頸部(顎・顔面・頸部)の診察	5階実習室	口腔外科学講座(口外)
H	フッ化物塗布	4階実習室	成長発育歯学講座(小児)
	エックス線撮影の説明	4階実習室	放射線診断学講座
I	保護者へのブラッシング指導	5階実習室	成長発育歯学講座(小児)
	予防填塞	4階実習室	成長発育歯学講座(小児)
J	コンポジットレジン修復(単純)	5階実習室	保存学講座(修復)
	ラバーダム防湿/根管治療	4階実習室	保存学講座(歯内)

オリエンテーション、学修・評価項目教授は332教室

2024年度 第4学年 臨床総合演習 後期

班	学籍番号	学年 番号	氏名	9月			10月				11月			12月					
				6	13	20	27	4	11	18	25	1	8	15	22	29	6	13	
1				A	J	I	H	G	F	E	D	C	B	試験2課題	試験2課題	試験2課題	試験2課題	試験2課題	
2				B	A	J	I	H	G	F	E	D	C	B	試験2課題	試験2課題	試験2課題	試験2課題	試験2課題
3				C	B	A	J	I	H	G	F	E	D	B	試験2課題	試験2課題	試験2課題	試験2課題	試験2課題
4				D	C	B	A	J	I	H	G	F	E	D	試験2課題	試験2課題	試験2課題	試験2課題	試験2課題
5				E	D	C	B	A	J	I	H	G	F	E	試験2課題	試験2課題	試験2課題	試験2課題	試験2課題
6				F	E	D	C	B	A	J	I	H	G	E	試験2課題	試験2課題	試験2課題	試験2課題	試験2課題
7				G	F	E	D	C	B	A	J	I	H	G	試験2課題	試験2課題	試験2課題	試験2課題	試験2課題
8				H	G	F	E	D	C	B	A	J	I	H	試験2課題	試験2課題	試験2課題	試験2課題	試験2課題
9				I	H	G	F	E	D	C	B	A	J	I	試験2課題	試験2課題	試験2課題	試験2課題	試験2課題

第5学年

臨　　床　　実　　習 205

臨床実習（通年・30単位）

D①②③④C-c30-51201 (D51201)

科目責任者：鈴木 史彦（附属病院長・教授）

科目担当者：歯学部臨床科目担当教員

※この科目は、診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

歯科医師として適切な歯科医療を提供するために、奥羽大学歯学部附属病院で診療参加型臨床実習を行う。本実習を通して、歯科臨床に必要な知識・技能・態度を身につける。

2. 一般目標

人間性および倫理観を備えた歯科医師としての職責を果たすことができ、かつ患者中心の視点から地域医療やチーム医療に貢献できる資質を有する総合的臨床能力を身につけた歯科医療に必要な知識・技能・態度を習得する。

3. 到達目標

- 1) 信頼される安全・安心な歯科医療を提供するために、救急処置法を身に付けるとともに、患者安全対策に配慮した医療を実践し、処置時には適切な疼痛管理（除痛法）を実践する。
- 2) 臨床において患者から症状や異常を聴取し、適切な診察や検査を選択して診断できる技能を身に付ける。
- 3) 口腔・顎顔面領域の主な症候・病態から原因疾患を鑑別診断できる基本的能力を身に付ける。
- 4) 患者から得られた医療情報の取り扱いを理解し、得られた情報を基にする患者中心の治療計画の立案法を身に付ける。
- 5) 安全・安心な歯科医療を提供するために、基本的治療技能を身に付ける。
- 6) 医療チームの一員として地域医療に参画する。
- 7) 超高齢社会の問題と課題を分析し、ニーズを抽出して解決策を立案できる。
- 8) 地域特性を踏まえた医療連携を構築し、他職種とともに包括医療を実践できる。
- 9) 生涯にわたり歯科医師として自己研鑽ができる。

4. 履修の進め方

1) プレクリニック

各診療科・診療室において歯科医療に必要な基本事項を確認し、診療参加型実習を安全に実施するために必要な基本的臨床能力を確認する（4週間）。

2) 診療参加型臨床実習（各科ローテーション方式）

指導歯科医のもとで医療チームの一員として歯科医療に携わり、歯科教育モデル・コア・カリキュラムに記載されている「E 診療・診断と治療技能」および「診療参加型臨床実習の水準」を到達目標として履修し、歯科医療に必要な知識・技能・態度を身につける（36週間）。

3) 総合演習5D

生命科学の基本的知識、人体の構造や機能、薬物や医療技術の基礎的成果などを確認し、病因や病態の解明ならびに安心・安全な医療の発展に結びつく研究マインドを涵養するために総合演習5Dを実施し、客観試験による総括的評価を行う。実施日は偶数月の第一金曜日午後3コマ（1コマ60分）を年間で6回に分けた合計18コマとする。

4) 選択実習

V期では臨床能力をさらに向上させるために、希望する臨床系科目へ出向し、アドバンス的な知識・技能を取得する（4週間）。

5. 準備学修

各科のローテーションにおいて、臨床実習必携に記載されている内容について教科書等を用いて予習を行う（30分）。また、その日に実施した実習内容について、同様に復習を行う（30分）。

6. 評価方法

1) 各科での臨床実習評価

各科で知識点30点、技能点50点、態度点10点、出席点10点の合計100点満点で評価し、65点以上を合格とする。なお、技能点では必須ケースはすべて満たすこと。必須ケースが未了の場合は技能点を0点として評価する。態度点と出席点の詳細は臨床実習必携を参照のこと。

2) 終了試験（総合学力試験）

第I期～第IV期に行われる終了試験を100点満点に換算し、平均65.00点以上を合格とする。なお、各期での出席率80%以上を終了試験の受験要件とする。

3) 歯学系診療参加型臨床実習後客観的臨床能力試験（Post-CC PX）

臨床実地試験（CPX）と一斉技能試験（CSX）に合格すること。なお、CPXは異なる系での2課題合格をCSXの受験要件とする。

4) 総合試験5D

総合試験5Dで100点満点中72.00%以上を合格とする。なお、朝礼、総合演習5D、終礼（フィードバック）の各出席率が全て80%であることを総合試験5Dの受験要件とする。

7. 教本

第4学年までに購入した教本を用いる。各科で別途購入が必要なものは臨床実習必携を参照のこと。

8. 参考書

第4学年までに購入した参考書を用いる。

9. 授業内容と日程

2024年度 臨床実習年間予定表を参照のこと。

2024（令和6）年度 臨床実習年間予定表

2024-25 日程	行事／予定	臨床実習 A班 ローテーション						臨床実習 B班 ローテーション					
		A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	B-1	B-2	B-3	B-4	B-5	B-6
4/1(月)													
4/2(火)													
4/3(水)													
4/4(木)													
4/5(金)	登院式／オリエンテーション	担当 全科臨床実習実務者（臨床講義室）											
4/6(土)													
4/7(日)													
4/8(月)	I期プレクリ1	補綴系		保存系			口外	麻酔	放射	口外	小児	矯正	
4/9(火)	I期プレクリ2	補綴系		保存系			放射	口外	麻酔	矯正	口外	小児	
4/10(水)	I期プレクリ3	補綴系		保存系			麻酔	放射	口外	小児	矯正	口外	
4/11(木)	I期1クール1日目	補綴系		保存系			口外	麻酔	放射	口外	小児	地域1	
4/12(金)	I期1クール2日目AM	補綴系		保存系			口外	麻酔	放射	口外	小児	地域1	
	I期1クール2日目PM	総合演習5D① 4限：衛生, 5限：感染, 6限：生理, 7限：保険診療ミニセミナー											
4/13(土)													
4/14(日)													
4/15(月)	I期1クール3日目	補綴系		保存系			口外	麻酔	放射	口外	小児	地域1	
4/16(火)	I期1クール4日目	補綴系		保存系			口外	麻酔	放射	口外	小児	地域1	
4/17(水)	I期1クール5日目	補綴系		保存系			口外	麻酔	放射	口外	小児	地域1	
4/18(木)	I期1クール6日目	補綴系		保存系			口外	麻酔	放射	口外	小児	矯正	
4/19(金)	I期1クール7日目	補綴系		保存系			口外	麻酔	放射	口外	小児	矯正	
4/20(土)													
4/21(日)													
4/22(月)	I期1クール8日目	補綴系		保存系			口外	麻酔	放射	口外	小児	矯正	
4/23(火)	I期1クール9日目	補綴系		保存系			口外	麻酔	放射	口外	小児	矯正	
4/24(水)	I期1クール10日目	補綴系		保存系			口外	麻酔	放射	口外	小児	矯正	
4/25(木)	I期1クール11日目	補綴系		保存系			口外	麻酔	地域1	口外	小児	矯正	
4/26(金)	I期1クール12日目	補綴系		保存系			口外	麻酔	地域1	口外	小児	矯正	
4/27(土)													
4/28(日)													
4/29(月)													
4/30(火)													
5/1(水)													
5/2(木)													
5/3(金)													
5/4(土)													
5/5(日)													
5/6(月)													
5/7(火)	I期1クール13日目	補綴系		保存系			口外	麻酔	地域1	口外	小児	矯正	
5/8(水)	I期1クール14日目	補綴系		保存系			口外	麻酔	地域1	口外	小児	矯正	
5/9(木)	I期1クール15日目	補綴系		保存系			口外	麻酔	地域1	口外	小児	矯正	
5/10(金)	予備日												
5/11(土)													
5/12(日)													
5/13(月)	I期2クール1日目	補綴系		保存系			放射	口外	麻酔	地域1	口外	小児	
5/14(火)	I期2クール2日目	補綴系		保存系			放射	口外	麻酔	地域1	口外	小児	
5/15(水)	I期2クール3日目	補綴系		保存系			放射	口外	麻酔	地域1	口外	小児	
5/16(木)	I期2クール4日目	補綴系		保存系			放射	口外	麻酔	地域1	口外	小児	
5/17(金)	I期2クール5日目	補綴系		保存系			放射	口外	麻酔	地域1	口外	小児	
5/18(土)													
5/19(日)													
5/20(月)	I期2クール6日目	補綴系		保存系			放射	口外	麻酔	矯正	口外	小児	
5/21(火)	I期2クール7日目	補綴系		保存系			放射	口外	麻酔	矯正	口外	小児	
5/22(水)	I期2クール8日目	補綴系		保存系			放射	口外	麻酔	矯正	口外	小児	
5/23(木)	I期2クール9日目	補綴系		保存系			放射	口外	麻酔	矯正	口外	小児	
5/24(金)	I期2クール10日目	補綴系		保存系			放射	口外	麻酔	矯正	口外	小児	

2024-25	行事／予定	臨床実習 A班 ローテーション						臨床実習 B班 ローテーション					
		A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	B-1	B-2	B-3	B-4	B-5	B-6
5/25(土)													
5/26(日)													
5/27(月)	I期2クール11日目	補綴系			保存系			地域1	口外	麻酔	矯正	口外	小児
5/28(火)	I期2クール12日目	補綴系			保存系			地域1	口外	麻酔	矯正	口外	小児
5/29(水)	I期2クール13日目	補綴系			保存系			地域1	口外	麻酔	矯正	口外	小児
5/30(木)	I期2クール14日目	補綴系			保存系			地域1	口外	麻酔	矯正	口外	小児
5/31(金)	I期2クール15日目	補綴系			保存系			地域1	口外	麻酔	矯正	口外	小児
6/1(土)													
6/2(日)													
6/3(月)	I期3クール1日目	補綴系			保存系			麻酔	放射	口外	小児	地域1	口外
6/4(火)	I期3クール2日目	補綴系			保存系			麻酔	放射	口外	小児	地域1	口外
6/5(水)	I期3クール3日目	補綴系			保存系			麻酔	放射	口外	小児	地域1	口外
6/6(木)	I期3クール4日目	補綴系			保存系			麻酔	放射	口外	小児	地域1	口外
6/7(金)	I期3クール5日目 AM	補綴系			保存系			麻酔	放射	口外	小児	地域1	口外
	I期3クール5日目 PM	総合演習5D② 4限:材料, 5限:薬理, 6限:組織, 7限:保険診療ミニセミナー											
6/8(土)	奥羽祭												
6/9(日)													
6/10(月)	I期3クール6日目	補綴系			保存系			麻酔	放射	口外	小児	矯正	口外
6/11(火)	I期3クール7日目	補綴系			保存系			麻酔	放射	口外	小児	矯正	口外
6/12(水)	I期3クール8日目	補綴系			保存系			麻酔	放射	口外	小児	矯正	口外
6/13(木)	I期3クール9日目	補綴系			保存系			麻酔	放射	口外	小児	矯正	口外
6/14(金)	I期3クール10日目	補綴系			保存系			麻酔	放射	口外	小児	矯正	口外
6/15(土)													
6/16(日)													
6/17(月)	I期3クール11日目	補綴系			保存系			麻酔	地域1	口外	小児	矯正	口外
6/18(火)	I期3クール12日目	補綴系			保存系			麻酔	地域1	口外	小児	矯正	口外
6/19(水)	I期3クール13日目	補綴系			保存系			麻酔	地域1	口外	小児	矯正	口外
6/20(木)	I期3クール14日目	補綴系			保存系			麻酔	地域1	口外	小児	矯正	口外
6/21(金)	I期3クール15日目	補綴系			保存系			麻酔	地域1	口外	小児	矯正	口外
6/22(土)													
6/23(日)													
6/24(月)	I期終了試験												
6/25(火)	II期プレクリ1	保存系			補綴系			口外	小児	矯正	口外	麻酔	放射
6/26(水)	II期プレクリ2	保存系			補綴系			矯正	口外	小児	放射	口外	麻酔
6/27(木)	II期プレクリ3	保存系			補綴系			小児	矯正	口外	麻酔	放射	口外
6/28(金)	予備日												
6/29(土)													
6/30(日)													
7/1(月)	II期1クール1日目	保存系			補綴系			口外	小児	地域2	口外	麻酔	放射
7/2(火)	II期1クール2日目	保存系			補綴系			口外	小児	地域2	口外	麻酔	放射
7/3(水)	II期1クール3日目	保存系			補綴系			口外	小児	地域2	口外	麻酔	放射
7/4(木)	II期1クール4日目	保存系			補綴系			口外	小児	地域2	口外	麻酔	放射
7/5(金)	II期1クール5日目	保存系			補綴系			口外	小児	地域2	口外	麻酔	放射
7/6(土)													
7/7(日)													
7/8(月)	II期1クール6日目	保存系			補綴系			口外	小児	矯正	口外	麻酔	放射
7/9(火)	II期1クール7日目	保存系			補綴系			口外	小児	矯正	口外	麻酔	放射
7/10(水)	II期1クール8日目	保存系			補綴系			口外	小児	矯正	口外	麻酔	放射
7/11(木)	II期1クール9日目	保存系			補綴系			口外	小児	矯正	口外	麻酔	放射
7/12(金)	II期1クール10日目	保存系			補綴系			口外	小児	矯正	口外	麻酔	放射
7/13(土)													
7/14(日)													
7/15(月)													
7/16(火)	II期1クール11日目	保存系			補綴系			口外	小児	矯正	口外	麻酔	地域2
7/17(水)	II期1クール12日目	保存系			補綴系			口外	小児	矯正	口外	麻酔	地域2
7/18(木)	II期1クール13日目	保存系			補綴系			口外	小児	矯正	口外	麻酔	地域2
7/19(金)	II期1クール14日目	保存系			補綴系			口外	小児	矯正	口外	麻酔	地域2

2024-25	行事／予定	臨床実習 A班 ローテーション						臨床実習 B班 ローテーション					
		A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	B-1	B-2	B-3	B-4	B-5	B-6
7/20(土)													
7/21(日)													
7/22(月)	Ⅱ期2クール1日目	保存系			補綴系			地域2	口外	小児	放射	口外	麻酔
7/23(火)	Ⅱ期2クール2日目	保存系			補綴系			地域2	口外	小児	放射	口外	麻酔
7/24(水)	Ⅱ期2クール3日目	保存系			補綴系			地域2	口外	小児	放射	口外	麻酔
7/25(木)	Ⅱ期2クール4日目	保存系			補綴系			地域2	口外	小児	放射	口外	麻酔
7/26(金)	Ⅱ期2クール5日目	保存系			補綴系			地域2	口外	小児	放射	口外	麻酔
7/27(土)													
7/28(日)													
7/29(月)	Ⅱ期2クール6日目	保存系			補綴系			矯正	口外	小児	放射	口外	麻酔
7/30(火)	Ⅱ期2クール7日目	保存系			補綴系			矯正	口外	小児	放射	口外	麻酔
7/31(水)	Ⅱ期2クール8日目	保存系			補綴系			矯正	口外	小児	放射	口外	麻酔
8/1(木)	Ⅱ期2クール9日目	保存系			補綴系			矯正	口外	小児	放射	口外	麻酔
8/2(金)	Ⅱ期2クール10日目	保存系			補綴系			矯正	口外	小児	放射	口外	麻酔
8/3(土)													
8/4(日)													
8/5(月)	Ⅱ期2クール11日目	保存系			補綴系			矯正	口外	小児	地域2	口外	麻酔
8/6(火)	Ⅱ期2クール12日目	保存系			補綴系			矯正	口外	小児	地域2	口外	麻酔
8/7(水)	Ⅱ期2クール13日目	保存系			補綴系			矯正	口外	小児	地域2	口外	麻酔
8/8(木)	Ⅱ期2クール14日目	保存系			補綴系			矯正	口外	小児	地域2	口外	麻酔
8/9(金)	Ⅱ期2クール15日目 AM	保存系			補綴系			矯正	口外	小児	地域2	口外	麻酔
	Ⅱ期2クール15日目 PM	総合演習5D③ 4限：生化、5限：解剖、6限：病理、7限：保険診療ミニセミナー											
8/10(土)													
8/11(日)													
8/12(月)													
8/13(火)													
8/14(水)													
8/15(木)													
8/16(金)													
8/17(土)													
8/18(日)													
8/19(月)	Ⅱ期3クール1日目	保存系			補綴系			小児	地域2	口外	麻酔	放射	口外
8/20(火)	Ⅱ期3クール2日目	保存系			補綴系			小児	地域2	口外	麻酔	放射	口外
8/21(水)	Ⅱ期3クール3日目	保存系			補綴系			小児	地域2	口外	麻酔	放射	口外
8/22(木)	Ⅱ期3クール4日目	保存系			補綴系			小児	地域2	口外	麻酔	放射	口外
8/23(金)	Ⅱ期3クール5日目	保存系			補綴系			小児	地域2	口外	麻酔	放射	口外
8/24(土)													
8/25(日)													
8/26(月)	Ⅱ期3クール6日目	保存系			補綴系			小児	矯正	口外	麻酔	放射	口外
8/27(火)	Ⅱ期3クール7日目	保存系			補綴系			小児	矯正	口外	麻酔	放射	口外
8/28(水)	Ⅱ期3クール8日目	保存系			補綴系			小児	矯正	口外	麻酔	放射	口外
8/29(木)	Ⅱ期3クール9日目	保存系			補綴系			小児	矯正	口外	麻酔	放射	口外
8/30(金)	Ⅱ期3クール10日目	保存系			補綴系			小児	矯正	口外	麻酔	放射	口外
8/31(土)													
9/1(日)													
9/2(月)	Ⅱ期3クール11日目	保存系			補綴系			小児	矯正	口外	麻酔	地域2	口外
9/3(火)	Ⅱ期3クール12日目	保存系			補綴系			小児	矯正	口外	麻酔	地域2	口外
9/4(水)	Ⅱ期3クール13日目	保存系			補綴系			小児	矯正	口外	麻酔	地域2	口外
9/5(木)	Ⅱ期3クール14日目	保存系			補綴系			小児	矯正	口外	麻酔	地域2	口外
9/6(金)	Ⅱ期3クール15日目	保存系			補綴系			小児	矯正	口外	麻酔	地域2	口外
9/7(土)													
9/8(日)													
9/9(月)	Ⅱ期終了試験												
9/10(火)	Ⅲ期プレクリ1	口外	麻酔	放射	口外	小児	矯正	補綴系			保存系		
9/11(水)	Ⅲ期プレクリ2	放射	口外	麻酔	矯正	口外	小児	補綴系			保存系		
9/12(木)	Ⅲ期プレクリ3	麻酔	放射	口外	小児	矯正	口外	補綴系			保存系		
9/13(金)	Ⅲ期1クール1日目	口外	麻酔	放射	口外	小児	地域1	補綴系			保存系		

2024-25 日程	行事／予定	臨床実習 A班 ローテーション						臨床実習 B班 ローテーション					
		A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	B-1	B-2	B-3	B-4	B-5	B-6
9/14(土)													
9/15(日)													
9/16(月)													
9/17(火)	Ⅲ期1クール2日目	口外	麻酔	放射	口外	小児	地域1	補綴系			保存系		
9/18(水)	Ⅲ期1クール3日目	口外	麻酔	放射	口外	小児	地域1	補綴系			保存系		
9/19(木)	Ⅲ期1クール4日目	口外	麻酔	放射	口外	小児	地域1	補綴系			保存系		
9/20(金)	Ⅲ期1クール5日目	口外	麻酔	放射	口外	小児	地域1	補綴系			保存系		
9/21(土)													
9/22(日)													
9/23(月)													
9/24(火)	Ⅲ期1クール6日目	口外	麻酔	放射	口外	小児	矯正	補綴系			保存系		
9/25(水)	Ⅲ期1クール7日目	口外	麻酔	放射	口外	小児	矯正	補綴系			保存系		
9/26(木)	Ⅲ期1クール8日目	口外	麻酔	放射	口外	小児	矯正	補綴系			保存系		
9/27(金)	Ⅲ期1クール9日目	口外	麻酔	放射	口外	小児	矯正	補綴系			保存系		
9/28(土)													
9/29(日)													
9/30(月)	Ⅲ期1クール10日目	口外	麻酔	地域1	口外	小児	矯正	補綴系			保存系		
10/1(火)	Ⅲ期1クール11日目	口外	麻酔	地域1	口外	小児	矯正	補綴系			保存系		
10/2(水)	Ⅲ期1クール12日目	口外	麻酔	地域1	口外	小児	矯正	補綴系			保存系		
10/3(木)	Ⅲ期1クール13日目	口外	麻酔	地域1	口外	小児	矯正	補綴系			保存系		
10/4(金)	Ⅲ期1クール14日目	口外	麻酔	地域1	口外	小児	矯正	補綴系			保存系		
10/5(土)													
10/6(日)													
10/7(月)	Ⅲ期2クール1日目	放射	口外	麻酔	地域1	口外	小児	補綴系			保存系		
10/8(火)	Ⅲ期2クール2日目	放射	口外	麻酔	地域1	口外	小児	補綴系			保存系		
10/9(水)	Ⅲ期2クール3日目	放射	口外	麻酔	地域1	口外	小児	補綴系			保存系		
10/10(木)	Ⅲ期2クール4日目	放射	口外	麻酔	地域1	口外	小児	補綴系			保存系		
10/11(金)	Ⅲ期2クール5日目	放射	口外	麻酔	地域1	口外	小児	補綴系			保存系		
10/12(土)													
10/13(日)													
10/14(月)													
10/15(火)	Ⅲ期2クール6日目	放射	口外	麻酔	矯正	口外	小児	補綴系			保存系		
10/16(水)	Ⅲ期2クール7日目	放射	口外	麻酔	矯正	口外	小児	補綴系			保存系		
10/17(木)	Ⅲ期2クール8日目	放射	口外	麻酔	矯正	口外	小児	補綴系			保存系		
10/18(金)	Ⅲ期2クール9日目	地域1	口外	麻酔	矯正	口外	小児	補綴系			保存系		
10/19(土)													
10/20(日)													
10/21(月)	Ⅲ期2クール10日目	地域1	口外	麻酔	矯正	口外	小児	補綴系			保存系		
10/22(火)	Ⅲ期2クール11日目	地域1	口外	麻酔	矯正	口外	小児	補綴系			保存系		
10/23(水)	Ⅲ期2クール12日目	地域1	口外	麻酔	矯正	口外	小児	補綴系			保存系		
10/24(木)	Ⅲ期2クール13日目	地域1	口外	麻酔	矯正	口外	小児	補綴系			保存系		
10/25(金)	Ⅲ期2クール14日目AM	地域1	口外	麻酔	矯正	口外	小児	補綴系			保存系		
	Ⅲ期2クール14日目PM	総合演習5D④ 1限:衛生, 2限:感染, 3限:生理, 7限:保険診療ミニセミナー											
10/26(土)													
10/27(日)													
10/28(月)	Ⅲ期3クール1日目	麻酔	放射	口外	小児	地域1	口外	補綴系			保存系		
10/29(火)	Ⅲ期3クール2日目	麻酔	放射	口外	小児	地域1	口外	補綴系			保存系		
10/30(水)	Ⅲ期3クール3日目	麻酔	放射	口外	小児	地域1	口外	補綴系			保存系		
10/31(木)	Ⅲ期3クール4日目	麻酔	放射	口外	小児	地域1	口外	補綴系			保存系		
11/1(金)	Ⅲ期3クール5日目	麻酔	放射	口外	小児	地域1	口外	補綴系			保存系		
11/2(土)													
11/3(日)													
11/4(月)													
11/5(火)	Ⅲ期3クール6日目	麻酔	放射	口外	小児	矯正	口外	補綴系			保存系		
11/6(水)	Ⅲ期3クール7日目	麻酔	放射	口外	小児	矯正	口外	補綴系			保存系		
11/7(木)	Ⅲ期3クール8日目	麻酔	放射	口外	小児	矯正	口外	補綴系			保存系		
11/8(金)	Ⅲ期3クール9日目	麻酔	放射	口外	小児	矯正	口外	補綴系			保存系		

2024-25 日程	行事／予定	臨床実習 A班 ローテーション						臨床実習 B班 ローテーション					
		A - 1	A - 2	A - 3	A - 4	A - 5	A - 6	B - 1	B - 2	B - 3	B - 4	B - 5	B - 6
11／9(土)													
11／10(日)													
11／11(月)	Ⅲ期3クール10日目	麻酔	地域1	口外	小児	矯正	口外	補綴系			保存系		
11／12(火)	Ⅲ期3クール11日目	麻酔	地域1	口外	小児	矯正	口外	補綴系			保存系		
11／13(水)	Ⅲ期3クール12日目	麻酔	地域1	口外	小児	矯正	口外	補綴系			保存系		
11／14(木)	Ⅲ期3クール13日目	麻酔	地域1	口外	小児	矯正	口外	補綴系			保存系		
11／15(金)	Ⅲ期3クール14日目	麻酔	地域1	口外	小児	矯正	口外	補綴系			保存系		
11／16(土)													
11／17(日)													
11／18(月)	Ⅲ期終了試験												
11／19(火)	Ⅳ期プレクリ1	口外	小児	矯正	口外	麻酔	放射	保存系			補綴系		
11／20(水)	Ⅳ期プレクリ2	矯正	口外	小児	放射	口外	麻酔	保存系			補綴系		
11／21(木)	Ⅳ期プレクリ3	小児	矯正	口外	麻酔	放射	口外	保存系			補綴系		
11／22(金)	予備日												
11／23(土)													
11／24(日)													
11／25(月)	Ⅳ期1クール1日目	口外	小児	地域2	口外	麻酔	放射	保存系			補綴系		
11／26(火)	Ⅳ期1クール2日目	口外	小児	地域2	口外	麻酔	放射	保存系			補綴系		
11／27(水)	Ⅳ期1クール3日目	口外	小児	地域2	口外	麻酔	放射	保存系			補綴系		
11／28(木)	Ⅳ期1クール4日目	口外	小児	地域2	口外	麻酔	放射	保存系			補綴系		
11／29(金)	Ⅳ期1クール5日目	口外	小児	地域2	口外	麻酔	放射	保存系			補綴系		
11／30(土)													
12／1(日)													
12／2(月)	Ⅳ期1クール6日目	口外	小児	矯正	口外	麻酔	放射	保存系			補綴系		
12／3(火)	Ⅳ期1クール7日目	口外	小児	矯正	口外	麻酔	放射	保存系			補綴系		
12／4(水)	Ⅳ期1クール8日目	口外	小児	矯正	口外	麻酔	放射	保存系			補綴系		
12／5(木)	Ⅳ期1クール9日目	口外	小児	矯正	口外	麻酔	放射	保存系			補綴系		
12／6(金)	Ⅳ期1クール10日目 AM	口外	小児	矯正	口外	麻酔	放射	保存系			補綴系		
	Ⅳ期1クール10日目 PM	総合演習5D⑤ 4限：材料、5限：薬理、6限：組織、7限：保険診療ミニセミナー											
12／7(土)													
12／8(日)													
12／9(月)	Ⅳ期1クール11日目	口外	小児	矯正	口外	麻酔	地域2	保存系			補綴系		
12／10(火)	Ⅳ期1クール12日目	口外	小児	矯正	口外	麻酔	地域2	保存系			補綴系		
12／11(水)	Ⅳ期1クール13日目	口外	小児	矯正	口外	麻酔	地域2	保存系			補綴系		
12／12(木)	Ⅳ期1クール14日目	口外	小児	矯正	口外	麻酔	地域2	保存系			補綴系		
12／13(金)	Ⅳ期1クール15日目	口外	小児	矯正	口外	麻酔	地域2	保存系			補綴系		
12／14(土)													
12／15(日)													
12／16(月)	Ⅳ期2クール1日目	地域2	口外	小児	放射	口外	麻酔	保存系			補綴系		
12／17(火)	Ⅳ期2クール2日目	地域2	口外	小児	放射	口外	麻酔	保存系			補綴系		
12／18(水)	Ⅳ期2クール3日目	地域2	口外	小児	放射	口外	麻酔	保存系			補綴系		
12／19(木)	Ⅳ期2クール4日目	地域2	口外	小児	放射	口外	麻酔	保存系			補綴系		
12／20(金)	Ⅳ期2クール5日目	地域2	口外	小児	放射	口外	麻酔	保存系			補綴系		
12／21(土)													
12／22(日)													
12／23(月)	Ⅳ期2クール6日目	矯正	口外	小児	放射	口外	麻酔	保存系			補綴系		
12／24(火)	Ⅳ期2クール7日目	矯正	口外	小児	放射	口外	麻酔	保存系			補綴系		
12／25(水)	Ⅳ期2クール8日目	矯正	口外	小児	放射	口外	麻酔	保存系			補綴系		
12／26(木)	Ⅳ期2クール9日目	矯正	口外	小児	放射	口外	麻酔	保存系			補綴系		
12／27(金)	Ⅳ期2クール10日目	矯正	口外	小児	放射	口外	麻酔	保存系			補綴系		
12／28(土)													
12／29(日)													
12／30(月)													
12／31(火)													
1／1(水)													
1／2(木)													
1／3(金)													

2024-25	行事／予定	臨床実習 A班 ローテーション						臨床実習 B班 ローテーション					
		A - 1	A - 2	A - 3	A - 4	A - 5	A - 6	B - 1	B - 2	B - 3	B - 4	B - 5	B - 6
1／4(土)													
1／5(日)													
1／6(月)													
1／7(火)													
1／8(水)	IV期2クール11日目	矯正	口外	小児	地域2	口外	麻酔	保存系			補綴系		
1／9(木)	IV期2クール12日目	矯正	口外	小児	地域2	口外	麻酔	保存系			補綴系		
1／10(金)	IV期2クール13日目	矯正	口外	小児	地域2	口外	麻酔	保存系			補綴系		
1／11(土)													
1／12(日)													
1／13(月)													
1／14(火)	IV期2クール14日目	矯正	口外	小児	地域2	口外	麻酔	保存系			補綴系		
1／15(水)	IV期2クール15日目	矯正	口外	小児	地域2	口外	麻酔	保存系			補綴系		
1／16(木)	IV期3クール1日目	小児	地域2	口外	麻酔	放射	口外	保存系			補綴系		
1／17(金)	IV期3クール2日目	小児	地域2	口外	麻酔	放射	口外	保存系			補綴系		
1／18(土)													
1／19(日)													
1／20(月)	IV期3クール3日目	小児	地域2	口外	麻酔	放射	口外	保存系			補綴系		
1／21(火)	IV期3クール4日目	小児	地域2	口外	麻酔	放射	口外	保存系			補綴系		
1／22(水)	IV期3クール5日目	小児	地域2	口外	麻酔	放射	口外	保存系			補綴系		
1／23(木)	OSCE 病院立入り禁(仮)												
1／24(金)	OSCE 病院立入り禁(仮)												
1／25(土)													
1／26(日)													
1／27(月)	IV期3クール6日目	小児	矯正	口外	麻酔	放射	口外	保存系			補綴系		
1／28(火)	IV期3クール7日目	小児	矯正	口外	麻酔	放射	口外	保存系			補綴系		
1／29(水)	IV期3クール8日目	小児	矯正	口外	麻酔	放射	口外	保存系			補綴系		
1／30(木)	IV期3クール9日目	小児	矯正	口外	麻酔	放射	口外	保存系			補綴系		
1／31(金)	IV期3クール10日目	小児	矯正	口外	麻酔	放射	口外	保存系			補綴系		
2／1(土)													
2／2(日)													
2／3(月)	IV期3クール11日目	小児	矯正	口外	麻酔	地域2	口外	保存系			補綴系		
2／4(火)	IV期3クール12日目	小児	矯正	口外	麻酔	地域2	口外	保存系			補綴系		
2／5(水)	IV期3クール13日目	小児	矯正	口外	麻酔	地域2	口外	保存系			補綴系		
2／6(木)	IV期3クール14日目	小児	矯正	口外	麻酔	地域2	口外	保存系			補綴系		
2／7(金)	IV期3クール15日目 AM	小児	矯正	口外	麻酔	地域2	口外	保存系			補綴系		
	IV期3クール15日目 PM	総合演習5D ⑥ 4限：生化, 5限：解剖, 6限：病理, 7限：保険診療ミニセミナー											
2／8(土)													
2／9(日)													
2／10(月)	IV期終了試験												
2／11(火)													
2／12(水)	総合試験5D	試験監督	1限：修復／歯内, 2限：歯周／冠橋, 3限：イン／有床, 4限：口外／麻酔, 5限：小児／矯正, 6限：放射／地域 (臨床講義室)										
2／13(木)	V期選択実習1日目												
2／14(金)	V期選択実習2日目												
2／15(土)													
2／16(日)													
2／17(月)	V期選択実習3日目												
2／18(火)	一斉技能試験 CSX												
2／19(水)	V期選択実習4日目												
2／20(木)	V期選択実習5日目												
2／21(金)	V期選択実習6日目												
2／22(土)													
2／23(日)													
2／24(月)													
2／25(火)	V期選択実習7日目												
2／26(水)	V期選択実習8日目												
2／27(木)	V期選択実習9日目	PM : CSX 再試験											
2／28(金)	V期選択実習10日目	総合試験5D 再試験監督 1限：修復／歯内, 2限：歯周／冠橋, 3限：イン／有床, 4限：口外／麻酔, 5限：小児／矯正, 6限：放射／地域 (臨床講義室)											

2024-25 日程	行事／予定	臨床実習 A 班 ローテーション						臨床実習 B 班 ローテーション					
		A - 1	A - 2	A - 3	A - 4	A - 5	A - 6	B - 1	B - 2	B - 3	B - 4	B - 5	B - 6
3／1(土)													
3／2(日)													
3／3(月)	V期選択実習11日目												
3／4(火)	V期選択実習12日目												
3／5(水)	V期選択実習13日目												
3／6(木)	V期選択実習14日目												
3／7(金)	V期選択実習15日目												
3／8(土)													
3／9(日)													
3／10(月)	V期選択実習16日目												
3／11(火)	V期選択実習17日目												
3／12(水)	V期選択実習18日目												
3／13(木)	V期選択実習19日目												
3／14(金)	V期選択実習20日目												
3／15(土)													
3／16(日)													
3／17(月)	V期選択実習21日目												
3／18(火)	V期選択実習22日目	16:30～臨床実習終了式（臨床講義室）											
3／19(水)	進級予定者発表												
3／20(木)													

第6学年

臨床総合講義 215

臨床総合講義（通年・10単位）

D(3)(4)-3300

科目責任者：山崎 信也（麻酔・教授）

科目担当者：各科目教員

※ この科目は、主に診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

歯科医師国家試験の出題傾向および出題基準を基に各科目の講義が構成されているので、歯科医師国家試験の合格に必要な全ての履修内容を総復習して確実な知識を得る。個々の理解度は、実力試験や確認試験、模擬試験で確認し、知識の不足はフィードバック（FB）や強化講義で再確認しながら履修する。

2. 一般目標

歯科医師国家試験に合格するため、国家試験出題基準に関する全ての内容を理解し、卒業する。

3. 到達目標

- 1) 講義は全て出席し、講義内容を全て理解する。
- 2) 講義以外の実量試験FBや強化講義を利用し、理解度を深める。
- 3) 実力試験、外部模擬試験を全て受験し、確実な知識を得る。
- 4) 実力試験では正解率85%以上を獲得する。
- 5) 外部模擬試験では全国順位上位50%以内を維持する。
- 6) 卒業試験では正解率72%以上を獲得する。

4. 履修の進め方

授業日程と時間割に沿って講義を行う。10月までは実力試験により理解度を確認し、実力試験FBで理解度を再確認する。外部模擬試験では知識を確認するとともに全国レベルを把握する。11月以降は集大成で卒業試験に臨み、歯科医師国家試験の合格を目指す。

- 1) 実力試験は、1ブロック60問とし、概ね試験前日までの履修内容から出題される。午前は8:50、午後は13:00に開始する。正解率85%以上は合格とする。
- 2) 実力試験FBおよび夏季強化講義は、該当する実力試験の正解率85%未満の者は受講者（必須）とし、それ以外（正解率85%以上の者）は出席したものとして扱う。

5. 準備学修

時間割を把握し、必要な資料を準備して授業に臨む。当日の授業内容は当日中に再確認し、確実に理解する。歯科医師国家試験に受験するまでは、授業以外に6時間以上/日の学修時間を設ける。実力試験、模擬試験、卒業試験の結果を自己分析する。

6. 評価方法

卒業試験で評価する。

- 1) 3回の卒業試験で平均72.00%以上を合格とする。
- 2) 出題範囲は、歯科医師国家試験出題基準の全範囲から出題する。
- 3) 卒業試験の受験資格は、①各科目の講義（通年の回数）、②前期朝礼（74回+ガイダンスを含む）、③後期朝礼（66回+ガイダンスを含む）、④実力試験（42ブロック）、⑤模擬試験（26ブロック；午前1ブロック、午後1ブロック）、⑥実力試験FB（75回）、⑦夏季強化講義（9回）、⑧冬季強化講義（30~45回）の①~⑨の出席率が全て80%以上であること。

●口腔解剖学

担当者：①宇佐美晶信（解剖）

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4/10	解剖学総論	器官系	A-3-1/ 必4-ア, 総II-1-ア~コ	①
2	〃	顔面・口腔	口腔の構造	A-3-3/ 必4-ア, 総II-4-オ	〃
3	4/24	歯の解剖①	歯の解剖 (総論)	A-3-4/ 総II-5-ア	〃
4	〃	歯の解剖②	歯の解剖 (各論)	A-3-4/ 総II-5-ア	〃
5	5/15	骨学①	頭頸部の骨学 1	A-3-2/ 必4-ア, 総II-4-イ	〃
6	〃	骨学②	頭頸部の骨学 2	A-3-2/ 必4-ア, 総II-4-イ	〃
7	5/29	筋学①	筋学総論, 各論1	A-3-2/ 必4-ア, 総II-4-ウ	〃
8	〃	筋学②	筋学各論2	A-3-2/ 必4-ア, 総II-4-ウ	〃
9	6/12	筋学③	筋膜隙	A-3-2/ 総II-4-ウ	〃
10	〃	脈管学	頭頸部の脈管	A-3-2/ 必4-ア, 総II-4-エ	〃
11	6/26	神経学①	神経学総論, 脳神経1	A-3-2/ 必4-ア, 総II-4-カ	〃
12	〃	神経学②	脳神経2, 脊髄神経	A-3-2/ 必4-ア, 総II-4-カ	〃
13	7/10	神経学③	神経節	A-3-2/ 必4-ア	〃
14	〃	口腔内臓学	唾液腺	A-3-3/ 必4-ア, 総II-4-オ	〃
15	7/24	頸関節	頸関節の構造	A-3-2/ 必4-ア, 総II-4-イ	〃
16	〃	フィードバック①	演習問題, 解説	A-3-1, 2, 3/ 必4-ア, 総II-4-ア~キ	〃
17	8/28	嚥下関連の解剖	咽頭, 喉頭の 解剖	A-3-2/ 必4-ア, 総II-4-オ	〃
18	〃	画像解剖	頭頸部の画像 解剖	A-3-1, 2, 3/ 必4-ア, 総II-4-ア~キ	〃
19	10/2	歯の異常, 歯 列咬合	歯列・咬合	A-3-3/ 総II-5-ア	〃
20	〃	加齢変化	成長・発育, 加齢変化	A-2-4/ 必5-ウ, エ, 総II-7-エ	〃
21	10/16	フィードバック②	実力確認試験 まとめ1	A-3-1, 2, 3/ 必4-ア, 総II-4-ア~キ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
22	10/16	フィードバック ③	実力確認試験 まとめ2	A-3-1, 2, 3/ 必4-ア, 総II-4-ア～キ	①
23	11/6	局所解剖学	頭頸部の局所 解剖学	A-3-1, 2, 3/ 必4-ア, 総II-4-ア～キ	〃
24	〃	フィードバック ④	頭頸部の解剖 まとめ	A-3-1, 2, 3/ 必4-ア, 総II-4-ア～キ	〃
25	11/20	フィードバック ⑤	必修まとめ	A-3-1, 2, 3/ 必4-ア	〃
26	〃	神経学④	神経学と臨床	A-3-1, 2, 3/ 必4-ア	〃
27	12/4	歯の解剖③	歯の解剖まとめ	A-3-4/ 総II-5-ア	〃
28	〃	フィードバック ⑥	頭頸部の解剖 フィードバック	A-3-1, 2, 3/ 必4-ア, 総II-4-ア～キ	〃

●口腔組織学

担当者：①安部 仁晴（組織）

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4/18	エナメル質	エナメル質の 組織学的特徴	A-3-4/ 必4-ア 総II-5-イ	①
2	〃	象牙質	象牙質の組織 学的特徴	A-3-4/ 必4-ア 総II-5-イ	〃
3	5/9	歯 髓	歯髄の組織学 的特徴	A-3-4/ 必4-ア 総II-5-イ	〃
4	〃	歯周組織(1)	セメント質、 歯根膜の組織 学的特徴	A-3-4/ 必4-ア 総II-5-イ	〃
5	5/23	歯周組織(2)	歯肉、歯槽骨 の組織学的特 徴	A-3-4/ 必4-ア 総II-5-イ	〃
6	〃	歯と歯周組織	演習問題	A-3-4/ 必4-ア 総II-5-イ	〃
7	6/6	歯の発生(1)	歯胚の形成、 歯根の形成	A-3-4/ 必5-ウ 総II-8-イ	〃
8	〃	歯の発生(2)	エナメル質、 象牙質の形成	A-3-1, -4/ 必5-ウ 総II-8-イ	〃
9	6/20	初期発生	生殖と胚発生、 鰓弓から形成 される組織	A-2-1, -4/ 必5-ア 総II-8-ア	〃
10	〃	顔面の発生	顔面、口蓋の 発生	A-2-4/ 必5-ア 総II-8-ア	〃
11	7/11	細胞の構造と 機能(1)	核、細胞小器 官の構造と機 能	A-1-4/ 必4-ア	〃
12	〃	細胞の構造と 機能(2)	細胞膜、細胞 骨格および細 胞接着装置	A-1-4, -5/ 必4-ア	〃
13	8/1	人体の正常構 造(1)	上皮の構造と 組織学的特徴	A-3-1/ 必4-ア 総II-1-ア	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
14	8/1	人体の正常構 造(2)	結合組織の構 造と組織学的 特徴	A-3-1/ 必4-ア 総II-1-ア	①
15	9/5	人体の正常構 造(3)	軟骨、筋組織 の構造と組織 学的特徴	A-3-1/ 必4-ア 総II-1-イ	〃
16	〃	人体の正常構 造(4)	血液と血球の 組織学的特徴	A-3-1/ 必4-ア 総II-1-カ	〃
17	9/19	人体の正常構 造(5)	骨組織の組織 学的特徴と発 生様式	A-3-1/ 必4-ア 総II-1-イ, -8-ウ	〃
18	〃	人体の正常構 造(6)	骨に存在する 細胞の組織学 的特徴	A-3-1/ 必4-ア 総II-1-イ, -8-ウ	〃
19	10/3	人体の正常構 造(7)	神経組織の構 造と組織学的 特徴	A-3-1/ 必4-ア 総II-1-ク	〃
20	〃	唾液腺	唾液腺の組織 学的特徴	A-3-3/ 必4-ア 総II-4-オ	〃
21	10/17	口腔周囲器官 の発生	舌、唾液腺、 甲状腺、下垂 体、顎関節の 発生	A-2-4/ 必5-ア 総II-8-ア	〃
22	〃	舌、扁桃、顎 関節	舌、扁桃、顎 関節の組織学 的特徴	A-3-2, -3/ 必4-ア 総II-4-イ, オ	〃
23	10/31	加齢変化	加齢による歯、 口腔、顎顔面 の変化	A-2-4/ 必5-エ 総II-7-エ 各V-3-イ	〃
24	〃	歯と歯周組織 (1)	歯と歯周組織 の組織学的特 徴	A-3-4/ 必4-ア 総II-5-イ	〃
25	11/28	歯と歯周組織 (2)	歯と歯周組織 の組織学的特 徴	A-3-4/ 必4-ア 総II-5-イ	〃
26	〃	口腔周囲器官	口腔周囲器官 の組織学的特 徴	A-3-2, -3/ 必4-ア 総II-4-イ, オ	〃
27	12/12	発生学のまとめ	胚発生および 歯を含む口腔 の発生のまとめ	A-2-1, -4/ 必5-ア 総II-8-ア	〃
28	〃	組織学のまとめ	各組織、器官 系の特徴のま とめ	A-3-1/ 必4-ア 総II-1-ア～ク, -8-ウ	〃

●口腔感染免疫学

担当者：①玉井利代子（感染）

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4/17	微生物学概論	微生物の種類 とその特性	A-4-1-1/ 必4-1-イ-a	①
2	〃	細菌の病原因 子	細菌の持つ病 原因子につい て	A-4-1-2/ 必4-1-イ-a	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
3	5/8	細菌の毒素	細菌の内毒素と外毒素	A-4-1-2/総Ⅲ-1-キ-a	①
4	〃	細菌感染症	感染症の種類とその原因菌	A-4-1-3/総Ⅲ-1-キ-b	〃
5	5/22	ウイルスの構造と種類	ウイルスの構造の特徴	A-4-1-1/総Ⅲ-1-キ-a	〃
6	〃	ウイルス感染症	感染症の種類とその原因ウイルス	A-4-1-3/総Ⅲ-1-キ-b	〃
7	6/5	真菌感染症	感染症の種類とその原因菌	A-4-1-3/総Ⅲ-1-キ-b	〃
8	〃	感染の種類	微生物感染の種類とそのメカニズム	A-4-1-3/総Ⅲ-1-キ-b	〃
9	6/19	再興感染症と新興感染症	感染症の種類と原因微生物	A-4-1-4/総Ⅲ-1-キ-b	〃
10	〃	滅菌と消毒	その種類とその特性	A-4-1-8/必-11-エ-a	〃
11	7/3	自然免疫	特性とその作用メカニズム	A-4-2-1/総Ⅱ-3-エ-a, b	〃
12	〃	獲得免疫	特性とその作用メカニズム	A-4-2-2/総Ⅱ-3-オ-a, b	〃
13	7/17	抗原	抗原の定義とその種類	A-4-2-3/総Ⅱ-3-オ-a, b	〃
14	〃	抗体	抗体の種類とその特性	A-4-2-3/総Ⅱ-3-オ-a	〃
15	7/31	免疫担当細胞I	免疫担当細胞の種類	A-4-2-1, 2, 3/総Ⅱ-3-ア	〃
16	〃	免疫担当細胞II	免疫担当細胞の特性	A-4-2-1, 2, 3/総Ⅱ-3-ア	〃
17	9/25	サイトカイン	サイトカインの種類	A-4-2-1, 2, 3/必4-ア-g	〃
18	〃	アレルギーI	アレルギーの種類	A-4-2-6/総Ⅲ-1-ク-c	〃
19	10/9	アレルギーII	アレルギーの発症メカニズム	A-4-2-6/総Ⅲ-1-ク-c	〃
20	〃	自己免疫疾患	自己免疫疾患の種類とその発症メカニズム	A-4-2-6/総Ⅲ-1-ク-b	〃
21	10/30	免疫寛容	免疫寛容のメカニズム	A-4-2-5/総Ⅱ-3-オ-a, b	〃
22	〃	粘膜免疫	粘膜免疫の機能と役割	A-4-2-4/総Ⅱ-3-オ-a, b	〃
23	11/13	ワクチン	ワクチンの種類とその役割	A-4-2-7/総Ⅱ-3-オ-a, b	〃
24	〃	口腔細菌	口腔細菌の種類	A-4-1-5/必4-イ-c	〃
25	11/27	齲歯原性細菌	原因菌の種類とそのメカニズム	A-4-1-5/各Ⅱ-1-ア-a	〃
26	〃	歯周病原性細菌I	歯周病原性細菌の種類	A-4-1-5/総Ⅱ-2-イ-b	〃
27	12/11	歯周病原性細菌II	歯周病原性細菌の病原性	A-4-1-5/総Ⅱ-2-イ-b	〃
28	〃	口腔内のウイルス	ウイルスの種類とその病原性	A-4-1-5/各Ⅲ-4-イ-a, b, c, d, e, f, g	〃

●口腔病理学

担当者: ①遊佐 淳子 (病理), ②山崎 幹子 (病理)

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4/23	病理学総論(1)	代謝障害, 細胞死	A-5-2/総Ⅲ-1-イ	②
2	5/14	病理学総論(2)	炎症, 循環障害	A-5-4, 5/総Ⅲ-1-オ, カ	〃
3	5/28	囊胞	囊胞	D-3-1-5/各Ⅲ-1-エ, 各Ⅲ-2-オ	①
4	6/11	唾液腺疾患	唾液腺疾患	D-3-1-8/各Ⅲ-3-ア	〃
5	6/25	腫瘍総論	腫瘍	A-5-6, D-3-1-6/総Ⅲ-1-コ, 各Ⅲ-1-オ, 各Ⅲ-2-カ	〃
6	7/9	口腔領域の腫瘍(1)	非歯原性腫瘍	A-5-6, D-3-1-6/各Ⅲ-1-オ, 各Ⅲ-2-カ	〃
7	7/23	口腔粘膜疾患(1)	口腔粘膜疾患	D-3-1-4/各Ⅲ-1-ク	〃
8	8/6	口腔粘膜疾患(2)	口腔粘膜疾患	D-3-1-4/各Ⅲ-1-ク	〃
9	9/3	口腔領域の腫瘍(3)	腫瘍類似疾患, 口腔潜在的悪性疾患	D-3-1-6/各Ⅲ-1-オ	〃
10	10/1	頸骨疾患	頸骨疾患	D-3-1-2, 3/各Ⅲ-2-エ, カ	②
11	10/29	病理学検査	細胞診, 組織診	D-2-6/総VI-3-ア	①
12	11/12	総合講義(1)	問題演習	A-5, D-3/各Ⅲ-1~4	②
13	11/26	総合講義(2)	問題演習	A-5, D-3/各Ⅲ-1~4	〃
14	12/10	総合講義(3)	問題演習(病理組織像)	A-5, D-3/各Ⅲ-1~4	①

●歯科薬理学

担当者: ①鈴木 礼子 (薬理), ②柴田 達也 (薬理)

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4/16	薬物療法の基本(1)	薬物療法の種類, 投与方法, 薬物動態	A-6-2, 3/必11-コ, 総VII-8-ア, イ	①
2	5/7	薬物療法の基本(2)	用量と反応, 薬物適用の注意	A-6-2~4/必11-コ, 総VII-8-イ	〃
3	5/21	薬物療法の基本(3)	作用部位・作用機序	A-6-2/必11-コ, 総VII-8-ア	〃
4	6/4	薬物療法の基本(4)	服薬計画・指導, ライフステージと薬物投与	A-6-3/必11-コ, 総VII-8-イ	〃
5	6/18	疾患に応じた薬物療法①	抗感染症薬	A-6/総VII-8-ウ	〃
6	7/2	疾患に応じた薬物療法②	抗炎症薬	A-6/総VII-8-ウ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
7	7/16	疾患に応じた薬物療法③	鎮痛薬	A-6/総VII-8-ウ	②
8	7/30	疾患に応じた薬物療法④	抗腫瘍薬	A-6/総VII-8-ウ	〃
9	8/27	疾患に応じた薬物療法⑤	代謝改善薬、ビタミン	A-6/総VII-8-ウ	〃
10	9/24	疾患に応じた薬物療法⑥	止血薬、抗血栓薬	A-6/総VII-8-ウ	〃
11	10/8	薬物（和漢薬を含む）の有害事象のまとめ	薬物の副作用と有害反応、薬害	A-6/必7-工、総VII-8-イ	①
12	11/5	まとめ1	国試頻出事項の再確認	A-6/必11-コ、総VII-8	〃
13	11/19	まとめ2	国試頻出事項の再確認	A-6/必11-コ、総VII-8	① ②
14	12/3	まとめ3（和漢薬を含む）	国試頻出事項の再確認	A-6/必11-コ、総VII-8	〃

●口腔生理学

担当者：①川合 宏仁（生理）、②大須賀謙二（生理）、
③古山 昭（生理）

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4/19	循環	心臓、血管とその調節	A-3-1-4/総II-1-ウ	①
2	5/17	呼吸	呼吸器とその調節	A-3-1-8/総II-1-エ	〃
3	5/31	自律神経	交感神経と副交感神経の働き	A-3-1-5/総II-1-ク	②
4	6/21	内分泌	ホルモンの産生、分泌、働き	A-3-1-9/総II-1-ケ	〃
5	7/5	神経と筋	興奮性細胞の基礎知識	A-3-1-3/必IV-ア	③
6	7/19	顎反射	顎反射に関わる神経・筋のまとめ	A-3-2-9/総II-6-イ	〃
7	8/2	口腔体性感覚	口腔粘膜の体性感覚、味覚	A-3-3-9/総II-6-ア	〃
8	9/6	唾液	唾液分泌調節のメカニズム	A-3-3-6,7/総II-6-カ	②
9	9/20	反射復習	摂食嚥下に関わる生理学的問題対策	A-3-1-5/総II-6-イ	③
10	10/4	筋の生理	骨格筋と心筋の頻出問題対策	A-3-1-3/総II-1-イ	〃
11	10/18	自律機能要点①	循環・呼吸の調節、頻出項目おさらい	A-3-1-4,8/総II-1-ウ、エ	①
12	11/1	发声と構音	发声・構音のメカニズム要点	A-3-2-14/総II-6-ア	②
13	11/29	自律機能要点②	内分泌・消化頻出項目おさらい	A-3-1-5,9/総II-1-ク、ケ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
14	12/13	興奮性組織要点	神経・筋基礎項目の国家試験対策	A-3-1/必4-ア	③

●口腔生化学

担当者：①前田 豊信（生化）

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4/18	細胞外マトリックスI	コラーゲン、接着性糖蛋白質	必4-ア、総II-1-イ・5-イ	①
2	5/9	細胞外マトリックスII	インテグリン、グリコサミノグリカン、プロテオグリカン	必4-ア、総II-1-イ・5-イ	〃
3	5/23	骨のリモデリングと血清カルシウムI	石灰化、骨吸収、軟骨内骨化	必4-ア、総II-1-ケ・8-ウ	〃
4	6/6	骨のリモデリングと血清カルシウムII	血清カルシウム濃度の調節機構、慢性腎不全	必4-ア、総II-1-ケ・8-ウ	〃
5	6/20	唾液・ペリクル・プラーカ	唾液蛋白質の機能、菌体外多糖、プラーカ	必4-ア-イ、総II-6-カ	〃
6	7/11	血漿蛋白質I	肝機能と代謝	必9-エ、総II-1-ケ・6-カ、総VI-4-ア	〃
7	8/1	血漿蛋白質II	肝機能と代謝	必9-エ、総II-1-ケ・6-カ、総VI-4-ア	〃
8	9/5	生体構成成分と代謝I	ビタミンと欠乏症	必4-ア、総III-1-コ	〃
9	9/19	生体構成成分と代謝II	代謝と血中マーカー	必4-ア、総VI-4-ア	〃
10	10/3	細胞の老化とアポトーシス	細胞周期の制御	テロメラーゼ、必4-ア・7-ア、アポトーシス総III-1-イ	〃
11	10/17	癌	癌遺伝子、癌抑制遺伝子	必4-ア・7-ア、総III-1-イ	〃
12	10/31	遺伝子検査	検体検査方法	必9-エ、総VI-3-ア	〃
13	11/28	硬組織	軟骨内骨化、骨のリモデリング	必4-ア、総II-1-ケ・8-ウ	〃
14	12/12	唾液	唾液成分、ペリクル	必4-ア、総II-6-カ	〃

●生体材料・歯科材料学

担当者：①石田 喜紀（材料）、②大木 達也（材料）、
③齋藤 龍一（材料）

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4/11	歯冠材料(1)	歯冠材料の性質と成形	B-3-1,4/総VII-6,7	①
2	〃	歯冠材料(2)	歯冠材料の性質と成形	B-3-1,4/総VII-6,7	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
3	4/25	歯冠材料(3)	歯冠材料の性質と成形	B-3-1, 4/総VIII-6, 7	①
4	〃	歯冠材料(4)	歯冠材料の性質と成形	B-3-1, 4/総VIII-6, 7	〃
5	5/16	印象材(1)	成分と特性	B-3-4/総VIII-3, 4	②
6	〃	印象材(2)と模型材	成分と特性	B-3-4/総VIII-3, 4	〃
7	5/30	診療用器械	各機械の特性	B-3-2/総VIII-2	②
8	〃	歯内療法用材料	組成と特性	B-2-5/総VIII-5-ウ	〃
9	6/13	成形修復材 - 1	特性と接着性	B-2-1/総VIII-5-ア	③
10	〃	成形修復材 - 2	特性と接着性	B-2-1/総VIII-5-ア	〃
11	7/4	金属の成形技術(1)	鋳造関連材料の特性	B-3-1/総VIII-7-ウ	①
12	〃	金属の成形技術(2)	鋳造関連材料の特性	B-3-1/総VIII-7-ウ	〃
13	7/25	金属の成形技術(3)	鋳造欠陥	B-3-1/総VIII-7-ウ	〃
14	〃	金属の成形技術(4)	鋳造欠陥	B-3-1/総VIII-7-ウ	〃
15	8/29	合着材(1)	成分と特性	B-2-3/総VIII-8, 9	③
16	〃	合着材(2)	成分と特性	B-2-3/総VIII-8, 9	〃
17	9/12	義歯用材料 - 1	成分、特性および成形法	B-2-2/総VIII-6, 7	②
18	〃	義歯用材料 - 2	成分、特性および成形法	B-2-2/総VIII-6, 7	〃
19	9/26	金属材料(1)	金属材料の特性	B-3-1/総VIII-6-ウ	①
20	〃	金属材料(2)	金属材料の特性	B-3-1/総VIII-6-ウ	〃
21	10/10	インプラント用材料	各材料の特性	B-2-6/総VIII-11	〃
22	〃	矯正用材料	各材料の特性	B-2-4/総VIII-10	〃
23	10/24	歯科材料の基本事項(1)	歯科材料の分類と特性	B-1/総VIII-1	〃
24	〃	歯科材料の基本事項(2)	歯科材料の分類と特性	B-1/総VIII-1	〃
25	11/21	歯科材料の基本事項(3)	歯科材料の分類と特性	B-1/総VIII-1	〃
26	〃	歯科材料の基本事項(4)	歯科材料の分類と特性	B-1/総VIII-1	〃
27	12/5	総合講義(1)	材料のまとめ	B-1~3/総VIII	〃
28	〃	総合講義(2)	材料のまとめ	B-1~3/総VIII	〃

●保存修復学

担当者：①山田 嘉重（修復）、②菊井 徹哉（修復）

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4/16	保存修復学概論 MI 概念	硬組織疾患および歯質の保護と修復の目的	D-3-2-1/必-5-ウ-a, 総VII-2-ア-a, 各II-1-ウ	②
2	〃	歯の診査・診断治療計画	歯の診査方法、検査機器、治療計画	D-4-2, E-2-2-3/必-9-オ-a, 総VII-2-ア-a, 各II-1-ウ	〃
3	〃	総括	問題演習および解説	D-3-2-1, D-4-2, 必-5-ウ-a, 総VII-2-ア-a	〃
4	5/7	齲蝕・齲蝕病巣	齲蝕の病因、発症要因、エナメル質齲蝕の特徴	D-3-2-1/必-6-イ-a, 総III-2-ア-b, 各II-1-ア-a, 各II-1-ウ	①
5	〃	齲蝕・齲蝕病巣	象牙質齲蝕、根面齲蝕の特徴	D-3-2-1/必-6-イ-a, 総III-2-ア-b, 各II-1-ア-a, II-1	〃
6	〃	齲蝕の処置	齲蝕病巣の病理、齲蝕歯質の検知	D-3-2-1/必-6-イ-a, 総III-2-ア-b, 各II-1-ア-a	〃
7	5/15	窩洞形成・印象採得	窩洞の具備条件、窩洞形成法、印象採得・材料	E-5-3-1-2, E-5-3-1-4/必-11-ケ-b, 総-7-2-ア-b, 各II-1-ウ-a	②
8	〃	齲蝕以外の硬組織疾患	咬耗症、磨耗症、酸蝕症、硬組織の加齢変化等による疾患	D-3-2-1/必-7-イ-b, 総III-2-ア-b, 各II-1-ア-d	〃
9	〃	総括	問題演習および解説	D-3-2-1/必-7-イ-b, 総III-2-ア-b, 各II-1-ア-d	〃
10	6/4	歯科用セメント概要	合着用および修復用歯科用セメントの種類と特徴	B-2-1/必-11-ケ-b, 総VIII-5-ア-b, 各II-1-ウ-a	①
11	〃	セメント修復	従来型グラスアイオノマーセメントの特徴	E-5-3-1-3/必-11-ケ-b, 総VIII-5-ア-b, 各II-1-ウ-a	〃
12	〃	セメント修復	レジン添加型グラスアイオノマーセメントの特徴	E-5-3-1-3/必-11-ケ-b, 総VIII-5-ア-b, 各II-1-ウ-a, 8	〃
13	6/18	歯冠修復に用いる補助器具	修復補助法と補助器具	B-3-2/必-11-ケ-b, 総VIII-5-ア-a, 各II-1-ウ-a	②

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
14	6/18	硬組織切削	器具手用切削 器具、回転切削器具、その他の切削方法	B-3-2/ 総VII-2-ア-b, 総-7-9-エ, 各II-1-ア-a	②
15	〃	総括	問題演習および解説	B-3-2/ 総VII-2-ア-b, 総-7-9-エ, 各II-1-ア-a	〃
16	7/2	メタルインレー修復	メタルインレー修復の特徴	E-5-3-1-1/ 必-11-ケ-b, 総VII-5-ア-a, 各II-1-ウ-b	〃
17	〃	メタルインレー修復	メタルインレー修復の臨床	E-5-3-1-1/ 必-11-ケ-b, 総VII-5-ア-a, 各II-1-ウ-b	〃
18	〃	総括	問題演習および解説	E-5-3-1-1/ 必-11-ケ-b, 総VII-5-ア-a, 各II-1-ウ-b	〃
19	7/16	コンポジットレジン修復①	コンポジットレジンとMMA レジンの差異と物性的特徴	B-2-1/ 必-11-セ-e, 総VII-5-ア-a, 各II-1-ウ-a	①
20	〃	コンポジットレジン修復②	コンポジットレジン修復に必要な歯面処理	B-2-4/ 必-11-セ-f, 総VII-8, 各II-1-ウ-a	〃
21	〃	コンポジットレジン修復③	コンポジットレジン修復の手順および必要器具	E-5-3-1-1/ 必-11-ケ-b, 総VII-5-ア-a, 各II-1-ウ-a	〃
22	7/30	コンポジットレジン修復④	歯冠修復前の前処置（裏層と覆歯）	B-2-1/ 必-11-ケ-b, 総-7-2-ア-b, 各II-1-ウ-a	〃
23	〃	コンポジットレジン修復⑤	歯冠修復後に生じる問題への対応法	E-5-3-1-1/ 必-11-ケ-b, 総VII-5-ア-a, 各II-1-ウ-a	〃
24	〃	コンポジットレジン修復⑥	国試および過去の模試問題の解説	E-5-3-1-1/ 必-11-ケ-b, 総VII-5-ア-a, 各II-1-ウ-a	〃
25	8/27	歯冠修復に用いる接着技術	各種接着面処置、歯質接着材の種類、特徴	B-2-4/ 必-11-セ-f, 総VII-8, 各II-1-ウ-a	②
26	〃	補修修復	補修修復処置（金属、セラミックプライマー等）	E-5-3-1-6/ 総VII-2-ア-a, 各II-1-ウ	〃
27	〃	総括	問題演習および解説	E-5-3-1/ 必-11-ケ-b, 総VII-2-ア-a, 各II-1-ウ	〃
28	9/24	レジンインレー修復	レジンインレーの特徴および窩洞の具備条件	E-5-3-1-5/ 必-11-ケ-b, 総VII-2-ア-a, 各II-1-ウ	①

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
29	9/24	セラミックインレー修復	セラミックインレーの特徴および窩洞の具備条件	E-5-3-1-5/ 必-11-ケ-b, 総VII-2-ア-a, 各II-1-ウ	①
30	〃	ラミネートベニア修復	ラミネートベニア修復の種類と処置法	E-5-3-1-5/ 必-11-ケ-b, 各II-1	〃
31	10/8	合着材	従来型歯科用セメントの種類と適応症	B-2-4/ 必-11-セ-f, 総VII-8, 各II-1-ウ-a	②
32	〃	合着材	レジン系歯科用セメントの種類と適応症	B-2-4/ 必-11-セ-f, 総VII-8, 各II-1-ウ-a	〃
33	〃	歯冠修復法の総括	問題演習および解説	B-2-4/ 必-11-セ-f, 総VII-8, 各II-1-ウ-a	〃
34	11/5	国家試験問題の解説	本年度までの国家試験問題の解説	E-5-3-1/ 必-11-ケ-b, 総VII-2-ア-a, 各II-1-ウ	①
35	〃	破折歯・象牙知覚過敏症歯の処置	破折歯・象牙質知覚過敏症歯の原因および処置法	D-3-2-1/ 必-7-イ-b 総III-2-ア-b, 各II-1-ア-d	〃
36	〃	歯科用レーザー	歯科用レーザー装置の種類、特徴、適応症	B-3-2/ 総VII-2-ア-b, 総-7-9-エ, 各II-1-ア-a	〃
37	11/19	卒業試験問題の解説	卒業試験Iの解説 - 1	E-5-3-1/ 必-11-ケ-b, 総VII-5-ア-a, 各II-1-ウ	〃
38	〃	保存修復学のまとめ①	外部模試の解説 - 1	E-5-3-1/ 必-11-ケ-b, 総VII-2-ア-a, 各II-1-ウ	〃
39	〃	保存修復学のまとめ②	外部模試の解説 - 2	E-5-3-1/ 必-11-ケ-b, 総VII-2-ア-a, 各II-1-ウ	〃
40	12/3	保存修復学のまとめ③	国家試験対策 - ①	E-5-3-1/ 必-11-ケ-b, 総VII-2-ア-a, 各II-1-ウ	②
41	〃	保存修復学のまとめ④	国家試験対策 - ②	E-5-3-1/ 必-11-ケ-b, 総VII-2-ア-a, 各II-1-ウ	〃
42	〃	保存修復学のまとめ⑤	国家試験対策 - ③	E-5-3-1/ 必-11-ケ-b, 総VII-2-ア-a, 各II-1-ウ	〃

●歯内療法学

担当者：①木村 裕一（歯内）、②佐藤 穏子（歯内）、
③長嶋 慶太（歯内）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／23	歯内療法学概論	総論	D-5-2／各Ⅱ-2-ア,イ	①
2	〃	歯の構造	歯・歯周組織の構造と機能	A-3-4-4,5,6／総Ⅱ-5-ア,イ	〃
3	〃	硬組織疾患	硬組織疾患	D-3-2-1／各Ⅱ-1-ア,イ,ウ	〃
4	5／14	診査法	歯内治療における基本術式の概要（診査・検査）	D-2-2-1／必8-イ-a,総VI-1-ア-a,b	〃
5	〃	診査法	歯内治療における基本術式の概要（診査・検査）	D-2-2-1／必8-イ-a,総VI-1-ア-a,b	〃
6	〃	診査法	歯内治療における基本術式の概要（診査・検査）	D-2-2-1／必8-イ-a,総VI-1-ア-a,b	〃
7	5／28	歯髄疾患	歯髄疾患の原因	D-5-2-2／必6-イ-b,必7-イ-c,各Ⅱ-2-ア-a,イ-b,c	〃
8	〃	歯髄疾患	歯髄疾患の診断	D-5-2-2／必6-イ-b,必7-イ-c,各Ⅱ-2-ア-a,イ-b,c	〃
9	〃	歯髄疾患	歯髄疾患の治療	D-5-2-2／必6-イ-b,必7-イ-c,各Ⅱ-2-ア-a,イ-b,c	〃
10	6／11	根尖性歯周疾患	根尖性歯周疾患の原因	D-5-2-2／必6-イ-b,必7-イ-c,各Ⅱ-2-ア-b,イ-c	〃
11	〃	根尖性歯周疾患	根尖性歯周疾患の診断	D-5-2-2／必6-イ-b,必7-イ-c,各Ⅱ-2-ア-b,イ-c	〃
12	〃	根尖性歯周疾患	根尖性歯周疾患の治療	D-5-2-2／必6-イ-b,必7-イ-c,各Ⅱ-2-ア-b,イ-c	〃
13	6／25	根管処置	髓室開拓	D-5-2-2／各Ⅱ-2-イ-d	②
14	〃	根管処置	根管形成	D-5-2-2／各Ⅱ-2-イ-d	〃
15	〃	根管処置	清掃、消毒等	D-5-2-2／各Ⅱ-2-イ-d	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
16	7／9	根管充填	根管充填の時期	D-5-2-2-2／各Ⅱ-2-イ-e	①
17	〃	根管充填	根管充填材の所用性質	D-5-2-2-2／各Ⅱ-2-イ-e	〃
18	〃	根管充填	根管充填の術式	D-5-2-2-2／各Ⅱ-2-イ-e	〃
19	7／23	臨床実地問題	歯髓疾患、根尖性歯周組織疾患に関する臨実	D-5-2-2／必6-イ-b,必7-イ-c,各Ⅱ-2-ア-a,イ-b,c	②
20	〃	臨床実地問題	歯髓疾患、根尖性歯周組織疾患に関する臨実	D-5-2-2／必6-イ-b,必7-イ-c,各Ⅱ-2-ア-b,イ-c	〃
21	〃	臨床実地問題	歯髓疾患、根尖性歯周組織疾患に関する臨実	D-5-2-2／必6-イ-b,必7-イ-c,各Ⅱ-2-ア-b,イ-c	〃
22	8／6	根未完成歯と外傷歯	根未完成歯	D-5-6-4／各Ⅱ-2-イ-f	①
23	〃	根未完成歯と外傷歯	歯根の病的吸収	D-5-2-2-7／各Ⅱ-2-ア-e,イ-h	〃
24	〃	根未完成歯と外傷歯	外傷歯	D-3-1-2／各Ⅰ-4-ア-b,各Ⅱ-2-ア-d	〃
25	9／3	外科的歯内治療	外科的歯内治療と顕微鏡を応用した歯内治療	D-5-2-2-5／各Ⅱ-2-イ-g	〃
26	〃	外科的歯内治療	外科的歯内治療と顕微鏡を応用した歯内治療	D-5-2-2-5／各Ⅱ-2-イ-g	〃
27	〃	外科的歯内治療	顕微鏡を応用した歯内治療	D-5-2-2-5／各Ⅱ-2-イ-g	〃
28	10／1	臨床実地問題	根未完成歯と外科的歯内治療に関する臨実	D-5-6-4／各Ⅱ-2-イ-f	〃
29	〃	臨床実地問題	根未完成歯と外科的歯内治療に関する臨実	D-3-1-2／各Ⅰ-4-ア-b,各Ⅱ-2-ア-d	〃
30	〃	臨床実地問題	根未完成歯と外科的歯内治療に関する臨実	D-5-2-2-5／各Ⅱ-2-イ-g	〃
31	10／29	漂白、歯内-歯周疾患	漂白法	D-5-2-2-6／各Ⅱ-1-ウ-f	③
32	〃	漂白、歯内-歯周疾患	歯内-歯周疾患	D-5-2-2／各Ⅱ-2-ア-c	〃
33	〃	漂白、歯内-歯周疾患	高齢者の歯内治療	D-5-2-2／総V-5,6,各V-6-ア	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
34	11/12	偶発症	根管処置後の歯冠修復	D-5-2-2/各II-2-イ-j	③
35	〃	偶発症	安全対策	D-5-2-2/各II-2-イ-j	〃
36	〃	偶発症	安全対策	D-5-2-2/各II-2-イ-j	〃
37	11/26	臨床実地問題	漂白、歯内-歯周疾患、偶発症に関する臨実	D-5-2-2-6/各II-1-ウ-f	①
38	〃	臨床実地問題	漂白、歯内-歯周疾患、偶発症に関する臨実	D-5-2-2/各II-2-ア-c	〃
39	〃	臨床実地問題	漂白、歯内-歯周疾患、偶発症に関する臨実	D-5-2-2/総V-5, 6, 各V-6-ア	〃
40	12/10	総まとめ	歯髓疾患から根尖性歯周炎	D-5-2-2/必6-イ-b, 必7-イ-c, 各II-2-ア-b, イ-c	〃
41	〃	総まとめ	根管処置	D-5-2-2/各II-2-イ-d	〃
42	〃	総まとめ	外科的歯内治療	D-5-2-2-5/各II-2-イ-g	〃

●歯周病学

担当者: ①高橋 慶壯 (歯周), ②山崎 厚作 (歯周)

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4/22	歯周組織の解剖	歯周組織の解剖における基本的重要な項目	A-3-4/総II-5-イ-b, 総IV-2-イ	①
2	〃	歯周診査	歯周病の診査方法	E-2-2-5(Ia)/総VI-1ア-c/各III-9ア	〃
3	〃	リスクファクター	歯周病に関するリスクの考え方	D-3-2-3, D-5-2-3-1/各論II-3-ア-a, b	〃
4	5/20	宿主応答	歯周炎における宿主応答の特徴	E-3-3)-(3)-(2)/総VI-11イ	〃
5	〃	歯周医学	歯周医学の基本的重要な項目	D-5-2-3-1/各論II-3-ア-h	〃
6	〃	歯周病の病因論	病因論の基本的重要な項目	D-3-2-3/総III-2-アb	〃
7	6/3	レントゲン画像の読影	レントゲン写真的読影方法	E-2-2-5(Ia)/総VI-1ア-c/各III-9ア	②
8	〃	口腔内写真の読み方	口腔内写真の読み取り方	E-2-2-5(Ia)/総VI-1ア-c/各III-9ア	〃
9	〃	臨床データの読みとり方	歯周病の検査結果の解釈	E-2-2-5(Ia)/総VI-1ア-c/各III-9ア	〃
10	6/17	診査と診断	過去の問題を解いて知識の定着を図る	E-2-2-5(Ia)/総VI-1ア-c/各III-9ア	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
11	6/17	歯周基本治療	歯周基本治療の基本的重要な項目	D-1-1/各論II-3-ウ-a	②
12	〃	歯周基本治療	過去の問題を解いて知識の定着を図る	D-5-3-3-2/各論II-3-ウ-b	〃
13	7/1	歯周基本治療	歯周基本治療の基本的重要な項目	D-5-3-3-3/総VII-8-イ, 各論II-3-ウ-i	①
14	〃	歯周基本治療	過去の問題を解いて知識の定着を図る	D-5-2-3-5/各論II-3-ウ-c	〃
15	〃	歯周外科療法	歯周外科治療の基本的重要な項目	D-5-2-3-4/各論II-3-ウ-e	〃
16	7/22	歯周外科療法	歯周外科治療の基本的重要な項目	D-5-2-3-4/各論II-3-ウ-e	〃
17	〃	歯周外科療法	過去の問題を解いて知識の定着を図る	D-5-2-3-4/各論II-3-ウ-e	〃
18	〃	歯周外科療法	過去の問題を解いて知識の定着を図る	D-5-2-3-4/各論II-3-ウ-d	〃
19	8/5	臨床推論	臨床思考の技術の習得を図る	E-3-1, 2/総V-1ア	〃
20	〃	臨床推論	臨床思考の技術の習得を図る	E-3-1, 2/必須3-ケa, b, c	〃
21	〃	臨床推論	臨床思考の技術の習得を図る	E-3-1, 2/必須3-ケa, b, c	〃
22	9/2	根分岐部病変	根分岐部病変における基本的重要な項目	D-5-2-3-4/各論II-3-ウ-g	〃
23	〃	根分岐部病変	根分岐部病変における基本的重要な項目	D-5-2-3-4/各論II-3-ウ-g	〃
24	〃	歯内-歯周複合病変	歯内-歯周複合病変における基本的重要な項目	D-5-2-3-4/各III-9カ	〃
25	9/30	歯周形成外科	遊離歯肉移植術, 小帶切除等	D-5-2-3-4/各論II-3-ウ-f	〃
26	〃	歯周形成外科	根面被覆	D-5-2-3-4/各論II-3-ウ-f	〃
27	〃	歯周形成外科	歯肉弁根尖側移動術, 臨床的歯冠長延長術	D-5-2-3-4/各論II-3-ウ-f	〃
28	10/21	必須問題	歯周病学の必須問題 禁忌問題 歯科英語	E-5-3-3/	②
29	〃	歯周疾患の分類	慢性歯周炎と侵襲性歯周炎の特徴と症状	D-5-2-3-1/各論II-3-ア-a, b, c	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
30	10/21	歯周疾患の分類	特殊な歯周疾患（歯肉炎を含む）	D-5-2-3-1／各論Ⅱ3-ア-a, c	②
31	11/11	SPT	SPTにおける基本的重要な項目	D-5-3-3-6／各論Ⅱ3-ウ-j	①
32	〃	疫学	歯周病の疫学問題	E-3-3)-(3)-(5)／総V-1オ／総X-1ア, イ, ウ, エ	〃
33	〃	口臭	口臭における基本的重要な項目	E-3-3)-(3)-(6)／総VI-1ア-f	〃
34	11/25	歯周基本治療	過去の問題を解いて知識の定着を図る	E-5-3-3-1 (Ia)／各論Ⅱ3-イ-a, b, c, d, e, 各論Ⅱ3-ウ-b	〃
35	〃	歯周外科療法	過去の問題を解いて知識の定着を図る	D-5-2-3-4／各論Ⅱ3-ウ-e	〃
36	〃	歯周外科療法	過去の問題を解いて知識の定着を図る	D-5-2-3-4／各論Ⅱ3-ウ-e	〃
37	12/9	歯周形成外科	過去の問題を解いて知識の定着を図る	D-5-2-3-4／各論Ⅱ3-ウ-f	〃
38	〃	歯周形成外科	過去の問題を解いて知識の定着を図る	D-5-2-3-4／各論Ⅱ3-ウ-f	〃
39	〃	臨床問題の解き方	過去の問題を解いて知識の定着を図る	D-5-2-3-2, /必12-アc, ウa	〃
40	12/23	臨床問題の解き方	過去の問題を解いて知識の定着を図る	D-5-2-3-2, /必12-アc, ウa	〃
41	〃	臨床問題の解き方	過去の問題を解いて知識の定着を図る	D-5-2-3-2, /必12-アc, ウa	〃
42	〃	臨床問題の解き方	過去の問題を解いて知識の定着を図る	D-5-2-3-2, /必12-アc, ウa	〃

●冠橋義歯補綴学

担当者：①羽鳥 弘毅（冠橋）

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4/17	冠橋義歯補綴学の意義と目的	冠橋義歯補綴学の意義と目的	E-5-3／各Ⅳ-3-ア	①
2	〃	咬合・咀嚼障害	咬合・咀嚼障害	E-5-3／各Ⅳ-1-アイウエオ	〃
3	〃	クラウンブリッジの要件	クラウンブリッジに求められる要件	E-5-3／各Ⅳ-3-ア	〃
4	5/8	クラウンの種類と分類	クラウンの種類と分類	E-5-3／各Ⅳ-3-ア	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
5	5/8	ブリッジの種類と構成	ブリッジの固定方法とポンティック基底面形態	E-5-3／各Ⅳ-3-ア	①
6	〃	ブリッジの設計	支台歯、支台装置とポンティックの選択	E-5-3／各Ⅳ-3-ア	〃
7	5/22	支台歯形成①	支台歯形成の原則	E-5-3／各Ⅳ-3-イ	〃
8	〃	支台歯形成②	支台歯の基本形態	E-5-3／各Ⅳ-3-イ	〃
9	〃	印象採得①	印象材、印象採得器材	E-5-3／各Ⅳ-3-イ	〃
10	6/5	印象採得②	印象の前準備印象法	E-5-3／各Ⅳ-3-イ	〃
11	〃	頸間関係の記録①	咬合関係の記録と決定	E-5-3／各Ⅳ-3-イ	〃
12	〃	頸間関係の記録②	頭蓋に対する上顎の位置記録	E-5-3／各Ⅳ-3-イ	〃
13	6/19	作業用模型	作業用模型の要件と種類	E-5-3／各Ⅳ-3-ウ	〃
14	〃	ワックスパターン形成	ワックスパターン形成の要件と形成法	E-5-3／各Ⅳ-3-ウ	〃
15	〃	埋没・铸造	埋没法、铸造取締の補償	E-5-3／各Ⅳ-3-ウ	〃
16	7/3	熱処理・研磨	铸造欠陥、後処理	E-5-3／各Ⅳ-3-ウ	〃
17	〃	レジン前装冠①	レジン前装冠の臨床的意義	E-5-3-4-1-1／各Ⅳ-3-ア	〃
18	〃	レジン前装冠②	レジンと金属の結合	E-5-3／各Ⅳ-3-ア	〃
19	7/17	陶材焼付冠①	陶材焼付冠の臨床的意義	E-5-3／各Ⅳ-3-ア	〃
20	〃	陶材焼付冠②	陶材と金属の結合	E-5-3／各Ⅳ-3-ウ	〃
21	〃	ハイブリッド型コンポジットレジンクラウン	ハイブリッド型コンポジットレジンクラウンの適応症と禁忌症	E-5-3／各Ⅳ-3	〃
22	7/31	オールセラミッククラウン	オールセラミッククラウンの適応症と禁忌症	E-5-3／各Ⅳ-3-ア	〃
23	〃	従来型ブリッジ①	従来型ブリッジの種類	E-5-3／各Ⅳ-3-ア	〃
24	〃	従来型ブリッジ②	従来型ブリッジの連結法	E-5-3／各Ⅳ-3-ア	〃
25	9/25	接着ブリッジ①	接着ブリッジの適応症と製作法	E-5-3-4-1-1／各Ⅳ-3-ア	〃
26	〃	接着ブリッジ②	接着ブリッジの適応症と製作法	E-5-3／各Ⅳ-3-ウ	〃
27	〃	支台築造①	支台築造の臨床的意義と種類	E-5-3／各Ⅳ-3-イ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
28	10/9	支台築造②	支台築造の方法	E-5-3/各IV-3-イ	①
29	〃	プロビジョナルレストレーション	プロビジョナルレストレーションの臨床的意義と種類	E-5-3/各IV-3-イ	〃
30	〃	口腔内試適・装着	口腔内試適の手順	E-5-3/各IV-3-イ	〃
31	10/30	術後管理	術後管理の重要性と方法	E-5-3/各IV-3-イ	〃
32	〃	装着後に発生する問題と対応	装着後に発生する問題とその対応	E-5-3/各IV-3-イ	〃
33	〃	高齢者・要介護者への適用	超高齢社会におけるクラウンブリッジの役割と注意点	E-5-3/各IV-3-アイウ	〃
34	11/13	冠橋義歯補綴学の要点の再点検①	試験問題解説など	E-5-3/各IV-3-アイウ	〃
35	11/27	冠橋義歯補綴学の要点の再点検②	試験問題解説など	E-5-3/各IV-3-アイウ	〃
36	12/11	冠橋義歯補綴学の要点の再点検③	試験問題解説など	E-5-3/各IV-3-アイウ	〃

●有床義歯補綴学

担当者：①高津 匠樹（有床）、②松本 知生（有床）他

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4/15	有床義歯治療の概要	有床義歯治療の流れ	D-5-3-2/必-11-ケ	①
2	4/22	全部床義歯治療学1	診察・検査と前処置	D-5-3-2/各IV-2-ア～エ、各IV-5-ア、イ	〃
3	5/13	全部床義歯治療学2	印象採得	D-5-3-2/各IV-5-イ	〃
4	5/20	全部床義歯治療学3	咬合採得	D-5-3-2/各IV-5-イ、ウ	〃
5	5/27	全部床義歯治療学4	顎弓記録と咬合器調節	D-5-3-2/各IV-5-イ、ウ	〃
6	6/3	全部床義歯治療学5	人工歯の選択と排列	D-5-3-2/各IV-5-イ、ウ	〃
7	6/10	全部床義歯治療学6	リマウントと削合、義歯装着	D-5-3-2/各IV-5-イ、ウ	〃
8	6/17	全部床義歯治療学7	義歯装着後の管理と経過観察	D-5-3-2/各IV-8-オ	〃
9	6/24	全部床義歯治療学8	その他の補綴装置	D-5-3-2/各IV-5-ア、イ	〃
10	7/1	全部床義歯治療学9	全部床義歯治療学解説1	D-5-3-2/各IV-5-ア～ウ	〃
11	7/8	全部床義歯治療学10	全部床義歯治療学解説2	D-5-3-2/各IV-5-ア～ウ	〃
12	7/22	部分床義歯治療学1	診察・検査と分類	D-5-3-2/各IV-2-ア～エ、各IV-4-ア、イ	②

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
25	7/29	部分床義歯治療学2	前処置	D-5-3-2/各IV-4-イ	②
26	8/5	部分床義歯治療学3	支持様式と印象採得	D-5-3-2/各IV-4-イ、ウ	〃
27	8/26	部分床義歯治療学4	サベイングと設計	D-5-3-2/各IV-4-イ、ウ	〃
28	9/2	部分床義歯治療学5	支台装置と連結装置	D-5-3-2/各IV-4-イ、ウ	〃
29	9/9	部分床義歯治療学6	フレームワークと蠟義歯試適	D-5-3-2/各IV-4-ア～ウ	①
30	9/30	部分床義歯治療学7	埋没・重合と義歯装着	D-5-3-2/各IV-4-イ、ウ	②
31	10/7	部分床義歯治療学8	義歯装着後の経過観察	D-5-3-2/各IV-8-オ	〃
32	10/21	部分床義歯治療学9	特殊な義歯	D-5-3-2/各IV-4-ア～ウ	〃
33	10/28	部分床義歯治療学10	部分床義歯学解説1	D-5-3-2/各IV-4-ア～ウ	〃
34	11/11	全部床義歯治療学11	顎堤に問題のある症例	D-5-3-2/各IV-5-ア～ウ	①
35	11/18	全部床義歯治療学12	顎堤の位置関係に問題のある症例	D-5-3-2/各IV-5-ア～ウ	〃
36	11/25	全部床義歯治療学13	下顎運動に問題のある症例	D-5-3-2/各IV-5-ア～ウ	〃
37	12/2	全部床義歯治療学14	粘膜の疼痛	D-5-3-2/各IV-5-ア～ウ	〃
38	12/9	部分床義歯治療学11	部分床義歯学解説2	D-5-3-2/各IV-4-ア～ウ	〃
39	12/16	部分床義歯治療学12	部分床義歯学解説3	D-5-3-2/各IV-4-ア～ウ	〃
40	12/23	有床義歯治療学まとめ	有床義歯治療学まとめ	D-5-3-2/各IV-5-イ、ウ	〃

●口腔インプラント学

担当者：①高橋 昌宏（イン）、②保田 穂（イン）

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4/10	口腔インプラント学総論1	オーバービュー：口腔インプラント学の全容	D-5-3-3/各IV-6-ア～ウ	①
2	4/24	口腔インプラント学総論2	これだけは覚えておきたい基礎知識	D-5-3-3/各IV-6-ア～ウ	〃
3	5/15	インプラント関連必修対策	インプラントと天然歯の違いを理解する	D-5-3-3/各IV-6-ア	〃
4	5/29	診察・検査・診断	リスクファクターと必須検査項目との関係	D-5-3-3/各IV-6-ア	〃
5	6/12	治療計画1	補綴主導型治療の手順	D-5-3-3/各IV-6-ア、イ	②
6	6/26	治療計画2	計画通りに施術するための工夫	D-5-3-3/各IV-6-ア	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
7	7/10	外科処置 1	インプラント 埋入手術：関連器材と使用順序	D-5-3-3/ 各IV-6-イ	①
8	7/24	外科処置 2	インプラント 外科にかかる硬・軟組織管理	D-5-3-3/ 各IV-6-イ	〃
9	8/28	補綴処置 1	上部構造の固定方法の特徴	D-5-3-3/ 各IV-6-イ	②
10	10/2	補綴処置 2	インプラント 印象方法	D-5-3-3/ 各IV-6-イ, ウ	〃
11	10/16	術後管理	口腔衛生と咬合の管理	D-5-3-3/ 各IV-8-オ	①
12	11/6	術後のトラブル対策	外科処置にかかる重篤な偶発症と対策	D-5-3-3/ 各IV-6-イ	〃
13	11/20	まとめ	振り返り講義	D-5-3-3/ 各IV-6-ア, イ	〃
14	12/4	口腔インプラント学の要点の再点検	試験問題解説	D-5-3-3/ 各IV-6-ア~ウ	〃

●歯科矯正学

担当者：①福井 和徳（矯正）、②板橋 仁（矯正）、
③川鍋 仁（矯正）、④山野辺晋也（矯正）

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4/19	診査、検査、診断①	診査、検査法分析、資料の総合的評価を説明する	E-5-4/ 各I-6	①
2					
3					
4	5/17	診査、検査、診断②	診断、治療方針の立案に至る過程を説明する	E-5-4/ 各I-6	〃
5					
6					
7	5/31	成長発育	発生と成長発育について説明する	A-2-4/ 総II-7-イ、 総II-8-ア	②
8					
9					
10	6/21	口蓋裂、顎機能異常、顎変形症	口蓋裂・顎変形症について説明する	D-5-5-3/ 各I-10-エオ	③
11					
12					
13	7/5	歯科矯正用材料・器具	矯正歯科治療に使用される材料、器具について説明する	D-5-5-4/ 総VII-10-ア~オ	〃
14					
15					
16	7/19	矯正装置	矯正装置について説明する	D-5-5-4/ 各I-9-ア~キ	④
17					
18					
19	8/2	歯の移動と組織変化	矯正歯科治療にて生じる生体反応について説明する	D-5-5/ 各I-8	②
20					
21					
22	9/6	上顎前突の治療	上顎前突の治療を実際の症例を通じて理解する。	D-5-5-3/ 各I-10-	④
23					
24					

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
25	9/20	叢生の治療	叢生の治療を実際の症例を通じて理解する	D-5-5-3/ 各I-10-	③
26					
27					
28	10/4	反対咬合の治療	反対咬合の治療を実際の症例を通じて理解する。	D-5-5-3/ 各I-10-	〃
29					
30					
31	10/18	開咬の治療	開咬の治療を実際の症例を通じて理解する。	D-5-5-3/ 各I-10-	④
32					
33					
34	11/1	保定・全身疾患	保定及び全身疾患について説明する	D-5-5-3/ 各I-10	③
35					
36					
37	11/29	総まとめ①	重要箇所の復習1	E-5-4	①
38					
39					
40	12/13	総まとめ②	重要箇所の復習2	E-5-4	〃
41					
42					

●小児歯科学

担当者：①島村 和宏（小児）

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4/10	小児の成長・発達	成長発達・評価、反射、運動・言語情緒・社会性の発達	A-2-2-2- D-5-6/ 必-5-イウ、 総II-7- V-1, 2	①
2					
3					
4	4/24	頭蓋顎面の発育口腔機能発達	頭蓋顎面頭蓋の成長、咀嚼・嚥下・顎関節機能の発達	A-2-2-1/ 必-5-イウ、 総II-7	〃
5	〃	歯の形成と萌出	歯の形成・萌出、歯列・咬合の成長発育	A-3-4/ 必-5- 総II-8-イ、 各I-2, 3	〃
6	〃	歯の形成と萌出	乳歯・幼若永久歯の特徴、歯・歯列・萌出異常	E-4/ 必-6- 総II, IV-2- 各I-2, 3	〃
7	5/21	歯列・咬合の発育と異常	歯列・咬合の定義・発育歯列咬合の発育変化	A-3-4/ 必-5- 総II-8-エ、 IV-2-ウ	〃
8					
9					
10	5/29	乳歯・幼若永久歯・歯周組織	乳歯の形態的・組織学的特徴	A-3-4/ 必-5- 総II-5, IV-2	〃
11	〃	乳歯・幼若永久歯・歯周組織	幼若永久歯・歯周組織の特徴	A-3-4/ 必-5- 総II-5, IV-2	〃
12	〃	歯科的対応疼痛コントロール	疼痛のコントロール	D-5-6/ 必-11- 総VII-4	〃
13	6/12	歯科的対応	小児の心理・対応の実際・基本的な診察・管理	D-5-6/ 必-8- 総V-2, VII-4	〃
14					
15					

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
16	6/26	小児の診療の流れ	小児患者の診察・検査・診断	D-5-6/必-8, 総V-2, VI-1, 2, VII-1	①
17					
18	〃	齲歯治療の前準備	治療の前処置・麻酔・偶発症	D-5-6-1/必-3-ウ, 各II-1-イ	〃
19	7/10	小児期の齲歯①	齲歯の疫学、特徴と分類、好発時期	D-5-6-1, 2/必-7-イ-b, 総III-2-ア-b, 各II-1	〃
20	〃	小児期の齲歯②		〃	〃
21	〃	小児期の齲歯③	齲歯予防	D-5-6-1/必-3-ウ, 各II-1-イ	〃
22	7/24	乳歯・幼若永久歯の歯冠修復	歯の硬組織疾患の治療	D-5-6-3/必-11, 各II-1	〃
23					
24					
25	8/28	乳歯・幼若永久歯の歯内療法①	歯髓・根尖性歯周組織疾患の治療	D-5-6-4/必-11, 総IV-2, VI-1, VII-1, 各II-2	〃
26	〃	乳歯・幼若永久歯の歯内療法②		〃	〃
27	〃	乳歯・幼若永久歯の歯内療法③		〃	〃
28	10/2	外科的処置①	小児の麻酔、抜歯、軟組織疾患	D-5-6/必-11, 総VII-4	〃
29	〃	外科的処置②		〃	〃
30					
31	10/16	外科的処置③	歯の外傷	D-5-6-6/各I-4	〃
32	〃	外科的処置③	歯の外傷	〃	〃
33	〃	咬合誘導①②	保隙、動的咬合誘導	D-5-6-8/総VI-1, 各I-5	〃
34	11/6	障害児の歯科診療①・虐待	障害者への対応・虐待	D-5-8/必7-イ, 11, 総III-2, V-3, 各V-2, 各-8	〃
35	〃	障害児②・虐待・摂食	障害者への対応	D-5-8/必-11, 総V-3, 各-8	〃
36	〃	先天異常・小児疾患	先天異常・骨系統疾患・症候群	D-5-6, D-5-6-10/必-11, 総I-2, V-3, 各V-8	〃
37	11/20	模試／卒試解説・まとめ	模試／卒試解説 まとめ		〃
38					
39					
40	12/4	模試／卒試解説・まとめ	模試／卒試解説 まとめ		〃
41					
42					

●歯科放射線学

担当者：①原田 卓哉（放射）、②茂呂祐利子（放射）、
③矢口 剛士（放射）

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4/16	画像検査装置の取り扱い	エックス線撮影装置	D-2-5, E-2-5/ 必修-9-カ, 総VI-2-工	① ② ③
2	〃	検査の基本1	口内法、パノラマ、CT	D-2-5, E-2-5/ 必修-9-カ, 総VI-2-工	〃
3	5/7	検査の基本2	MRI、超音波、核医学	D-2-5, E-2-5/ 必修-9-カ, 総VI-2-カ	〃
4	〃	安全管理	患者の安全管理（被曝）、医療者の安全管理（被曝）	D-2-5, E-2-5/ 必修-9-カ, 総VI-2-ウ, ケ	〃
5	5/21	放射線の影響1	確率的影響、確定的影響	D-2-5, E-2-5/ 必修-9-カ, 総VI-2-ウ	〃
6	〃	放射線の影響2	放射線治療による後障害	D-2-5, E-2-5/ 必修-9-カ, 総VII-7-ア, イ, ウ	〃
7	6/4	放射線物理	放射線の種類、単位、測定、放射線同位元素	D-2-5, E-2-5/ 必修-9-カ, 総VI-2-ア	〃
8	〃	画像形成	現像、画質を構成する因子	D-2-5, E-2-5/ 必修-9-カ, 総VI-2-工	〃
9	6/18	エックス線装置器材	エックス線撮影装置、ヘッド、フィルム	D-2-5, E-2-5/ 必修-9-カ, 総VI-2-工	〃
10	〃	デジタル・情報システム	デジタル画像の特徴、CCDセンサー、イメージングプロセス、フラットパネル、DICOPACs、放射線情報システム、病院情報システム	D-2-5, E-2-5/ 必修-9-カ, 総VI-2-イ	〃
11	7/2	放射線生物学・放射線治療	放射線の影響、放射線感受性、外部照射、IMRT、内部照射、照射後障害	D-2-5, E-2-5/ 必修-9-カ, 総VI-2-ウ	〃
12	〃	防護・法的規制	正当化、最適化、線量制限、医療被曝、職業被曝、公衆被曝、医療法施行規則	D-2-5, E-2-5/ 必修-9-カ, 総VI-2-ウ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
13	7／16	画像検査1	口内法, 口外法, CT	D-2-5, E-2-5／必修-9-カ, 総VI-2-ア～コ	① ② ③
14	〃	画像検査2	MRI, 超音波, 核医学, IVR	D-2-5, E-2-5／必修-9-カ, 総VI-2-ア～コ	〃
15	7／30	画像診断1	歯および歯周疾患, 囊胞	D-2-5／総VI-2-5, 各III-2	〃
16	〃	画像診断2	顎骨の炎症, 上顎洞炎, 頸部軟組織の炎症	D-2-5／総VI-2-5, 各III-2～4	〃
17	8／27	画像診断3	良性腫瘍, 悪性腫瘍	D-2-5／総VI-2-5, 各III-2	〃
18	〃	画像診断4	腫瘍類似疾患, 口腔に症状を表す全身疾患	D-2-5／総VI-2-5, 各III-2～4	〃
19	9／24	まとめ1	放射線の基礎的事項	D-2-5, E-2-5／必修-9-カ, 総VI-2-ア	〃
20	〃	まとめ2	画像検査法	D-2-5, E-2-5／必修-9-カ, 総VI-2-ア, イエ～コ	〃
21	10／8	まとめ3	放射線生物学, 防護	D-2-5, E-2-5／必修-9-カ, 総VI-2-ウ	〃
22	〃	まとめ4	核医学, 放射線治療	D-2-5, E-2-5／必修-9-カ, 総VI-2-ウ	〃
23	11／5	まとめ5	画像診断(囊胞, 腫瘍)	D-2-5／総VI-2-5, 各III-2～4	〃
24	〃	まとめ6	画像診断(炎症, その他)	D-2-5／総VI-2-5, 各III-2～4	〃
25	11／19	まとめ予備1	歯科放射線まとめ予備	D-2-5, E-2-5／必修-9-カ, 総VI-2-ア～コ, 総VII-7-ア～ウ	〃
26	〃	まとめ予備2	歯科放射線まとめ予備	D-2-5, E-2-5／必修-9-カ, 総VI-2-ア～コ, 総VII-7-ア～ウ	〃
27	12／3	まとめ予備3	歯科放射線まとめ予備	D-2-5, E-2-5／必修-9-カ, 総VI-2-ア～コ, 総VII-7-ア～ウ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
28	12／3	まとめ予備4	歯科放射線まとめ予備	D-2-5, E-2-5／必修-9-カ, 総VI-2-ア～コ, 総VII-7-ア～ウ	① ② ③

●総合臨床医学

担当者：①風間 咲美（医学）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／11	総論	総論（診察, 症候）	D-6-1)／総VII-1-工	①
2	4／25	循環器疾患1	循環器疾患総論, 心不全, 心筋梗塞, 狹心症, 不整脈	D-6-1)／総VII-1-工	〃
3	5／16	循環器疾患2	感染性心内膜炎, 弁膜症, 先天性心疾患, 深部静脈血栓	D-6-1)／総VII-1-工	〃
4	5／30	呼吸器疾患	閉塞性肺疾患(COPD), 気管支喘息, 呼吸不全, 誤嚥性肺炎	D-6-1)／総VII-1-工	〃
5	6／13	腎臓疾患	慢性腎臓病(CKD), 腎不全	D-6-1)／総VII-1-工	〃
6	7／4	消化器疾患1(消化管)	消化管疾患総論, 消化性潰瘍	D-6-1)／総VII-1-工	〃
7	7／25	消化器疾患2(肝・胆・膵)	肝硬変, ウィルス性肝炎	D-6-1)／総VII-1-工	〃
8	8／29	アレルギー疾患	アレルギー疾患, 腸原病, 免疫不全, 後天性免疫不全症候群(AIDS)	D-6-1)／総VII-1-工	〃
9	9／12	内分泌疾患	内分泌疾患, 骨粗鬆症	D-6-1)／総VII-1-工	〃
10	9／26	糖尿病	糖尿病	D-6-1)／総VII-1-工	〃
11	10／10	神経疾患	脳血管障害, Alzheimer病, Parkinson病	D-6-1)／総VII-1-工	〃
12	10／24	血液疾患	血液疾患	D-6-1)／総VII-1-工	〃
13	11／21	その他の疾患	感染症, 依存症(アルコール・薬物等), 婦人科疾患総論, 他	D-6-1)／総VII-1-工	〃
14	12／5	復習	総まとめ	D-6-1)／総VII-1-工	〃

●医療倫理学

担当者：①長岡 正博（薬理）、②佐藤 歩（心理）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／22	医の倫理1	ヒポクラテスの誓い、ジュネーブ宣言等	C-1-2-1／ 必1-ア-a, b	①
2	5／20	医の倫理2	ニュルンベルク綱領、ヘルシンキ宣言	C-1-1-5／ 必2-エ-a, b	〃
3	6／3	医療倫理と心理臨床1 心の発達と障害①	発達障害	D-5-8)／ 総V-2-オabc, 各V-8-アb	②
4	6／17	医療倫理と心理臨床2 心の発達と障害②	発達課題・発達検査・虐待	A-2-2), C-4-3), D-5-6), D-5-7)／ 必5-イ-ab, 総I-2-アg, 総II-7-イc	〃
5	7／1	医療倫理と心理臨床3 精神疾患と心理療法①	うつ病・双極症・ストレスチェック	D-5-9)／ 各III-4-シa	〃
6	7／22	医療倫理と心理臨床4 精神疾患と心理療法②	不安症・心理療法	D-5-9)／ 各III-4-シb, 総VII-9-コ	〃
7	8／5	患者中心の歯科医療1	患者の権利と義務	C-1-1-1／ 必1-ア-a	①
8	9／2	患者中心の歯科医療2	インフォームドコンセント	C-1-1-4／ 必1-イ-a	〃
9	9／30	生命倫理1	生と死に関する問題、バイオエシックスの4原則	C-1-1-1／ 必1-ア-a, b	〃
10	10／21	生命倫理2	死に関する宣言（シドニー宣言）、臓器移植	C-1-1-5／ 必2-エ-a, b	〃
11	11／11	現代医療の倫理問題	末期患者の苦痛と心理、ターミナルケアとランディング	C-1-3-6／ 総VII-5-ア, イ	〃
12	11／25	医療面接1	意義と目的、患者-歯科医師関係の確立、言語的コミュニケーション	D-2-1／ 必8-ウ-a	〃
13	12／9	医療面接2	準言語的コミュニケーション、非言語的コミュニケーション	D-2-1／ 必8-ウ-a	〃
14	12／23	医療倫理と心理臨床5 心身症とまとめ	心身症・歯科心身症、まとめ	D-5-9)／ 必6-イr, 各III-4-シef, 各III-4-ソb	②

●歯科麻酔学

担当者：①山崎 信也（麻酔）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／15	臨床に必要な生理1	循環生理	A3-1／ 必4-ア-e, 総II-1-ウ	①
2	〃	臨床に必要な生理1	循環生理	A3-1／ 必4-ア-e, 総II-1-ウ	〃
3	〃	臨床に必要な生理1	循環生理	A3-1／ 必4-ア-e, 総II-1-ウ	〃
4	5／13	臨床に必要な生理2	呼吸生理	A3-1／ 必4-ア-e, 総II-1-エ	〃
5	〃	臨床に必要な生理2	呼吸生理	A3-1／ 必4-ア-e, 総II-1-エ	〃
6	〃	臨床に必要な生理2	呼吸生理	A3-1／ 必4-ア-e, 総II-1-エ	〃
7	5／27	臨床に必要な生理3	代謝内分泌生理	A3-1-9／ 必4-ア-e, 総II-1-ク, ケ	〃
8	〃	臨床に必要な生理3	小児の生理	D2-3-8／ 必11-カ, 総論II-7	〃
9	〃	臨床に必要な生理3	高齢者妊婦の生理	D2-3-8／ 必11-イ, 各V-5, 総I-2-オ	〃
10	6／10	局所麻酔	局所麻酔、痛覚伝導路	D-1-2-1／ 必11-カ-c, 総VII-4-ウ-c	〃
11	〃	ペインクリニック	痛みの分類	D-3-1-9／ 必11-ア-b, 総VII-5, 各III-1-キ	〃
12	〃	ペインクリニック	代表的な疼痛、痙攣	D-3-1-10-11／ 必11-ア-b, 総VII-5, 各III-1-キ	〃
13	6／24	全身麻酔	全身麻酔	D-1-2-3／ 総VII-4-ウ-b	〃
14	〃	全身麻酔	全身麻酔	D-1-2-3／ 総VII-4-ウ-b	〃
15	〃	精神鎮静法	精神鎮静法	D-1-2-2／ 必11-カ-c, 総VII-4-ウ-c	〃
16	7／8	周術期管理	検査、術前評価	D2-3／ 総VII-4-イ	〃
17	〃	周術期管理	前投薬、術前管理	D2-3／ 総VII-4-イ	〃
18	〃	周術期管理	術中管理、術後管理	D1-2-3／ 総VII-4-イ-d	〃
19	7／29	全身的偶発症1	神経性ショック	D-1-1-1／ 必8, 10, 総VII-1, 3, 各III-4-ソ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
20	7/29	全身的偶発症1	過換気症候群, 高血圧緊急症	D-1-1-1/ 必8, 10, 総VII-1, 3, 各III-4-ソ	①
21	〃	全身的偶発症1	アナフィラキシー	D-1-1-1/ 必8, 10, 総VII-1, 3, 各III-4-ソ	〃
22	8/26	全身的偶発症2	局麻中毒, MetHb 血症	D-1-1-1/ 必8, 10, 総VII-1, 3, 各III-4-ソ	〃
23	〃	全身的偶発症2	仰臥位低血圧	D-1-1-1/ 必8, 10, 総VII-1, 3, 各III-4-ソ	〃
24	〃	全身的偶発症2	虚血性心疾患 脳卒中	D-1-1-1/ 必8, 10, 総VII-1, 3, 各III-4-ソ	〃
25	9/9	全身的偶発症3	代謝内分泌疾患	D-1-1-1/ 必8, 10, 総VII-1, 3, 各III-4-ソ	〃
26	〃	全身的偶発症3	糖尿病	D-1-1-1/ 必8, 10, 総VII-1, 3, 各III-4-ソ	〃
27	〃	全身的偶発症3	肝, 腎疾患	D-1-1-1/ 必8, 10, 総VII-1, 3, 各III-4-ソ	〃
28	10/7	全身的偶発症4	不整脈	D-1-1-1/ 必8, 10, 総VII-1, 3, 各III-4-ソ	〃
29	〃	全身的偶発症4	不整脈	D-1-1-1/ 必8, 10, 総VII-1, 3, 各III-4-ソ	〃
30	〃	全身的偶発症4	不整脈	D-1-1-1/ 必8, 10, 総VII-1, 3, 各III-4-ソ	〃
31	10/28	器具, 英語	麻酔救急器具, 英語	D-1-2/ 必11-カ, 総VII-4	〃
32	〃	歴史	麻酔歴史	D-1-2/ 必11-カ, 総VII-4	〃
33	〃	計算問題	麻酔計算問題	D-1-2/ 必11-カ, 総VII-4	〃
34	11/18	救急処置	一次救命処置	D-1-1/ 必10, 総VII-3, 各III-4-ソ	〃
35	〃	救急処置	窒息の解除	D-1-1/ 必10, 総VII-3, 各III-4-ソ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
36	11/18	救急処置	二次救命処置	D-1-1/ 必10, 総VII-3, 各III-4-ソ	①
37	12/2	まとめ予備	歯科麻酔まとめ予備	D-1-2/ 必11-カ, 総VII-4	〃
38	〃	まとめ予備	歯科麻酔まとめ予備	D-1-2/ 必11-カ, 総VII-4	〃
39	〃	まとめ予備	歯科麻酔まとめ予備	D-1-2/ 必11-カ, 総VII-4	〃
40	12/16	まとめ予備	歯科麻酔まとめ予備	D-1-2/ 必11-カ, 総VII-4	〃
41	〃	まとめ予備	歯科麻酔まとめ予備	D-1-2/ 必11-カ, 総VII-4	〃
42	〃	まとめ予備	歯科麻酔まとめ予備	D-1-2/ 必11-カ, 総VII-4	〃

●高齢者歯科学

担当者 : ①鈴木 史彦 (高齢)

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4/12	全身の加齢変化1	身体・精神の加齢変化	D-5-7-1/ 必5エ-b	①
2	〃	口腔の加齢変化1	口腔の加齢変化	D-5-7-4/ 総II-7-エ	〃
3	〃	高齢患者の臨床評価1	全身・口腔機能の評価	D-5-7-3/ 各V-4-ア	〃
4	4/26	高齢者に多い口腔疾患1	硬・軟組織疾患	D-5-7-2/ 各V-6-ア~エ	〃
5	〃	脳血管障害1	分類と後遺症	D-5-7-2/ 総VII-1-エ	〃
6	〃	認知症1	分類と症状	D-5-7-2/ 総VII-1-エ	〃
7	5/24	その他の全身疾患1	Parkinson 病等	D-5-7-2/ 総VII-1-エ	〃
8	〃	チーム医療と各ステージでの歯科の役割1	急性期~終末期	D-6-2/ 必2-ウ	〃
9	〃	歯科訪問診療と治療の場1	施設, 在宅	D-5-7-7/ 総I-1-オ	〃
10	6/7	口腔健康管理1	口腔衛生管理 口腔ケア	D-5-7-5/ 必3-エ	〃
11	〃	障害学1	ICF, アプローチ法	C-4-3-4/ 必2-ア-d	〃
12	〃	嚥下器官の構造と機能1	解剖と生理	A-3-2/ 総II-7-ウ-a	〃
13	6/28	摂食嚥下モデルと摂食嚥下障害1	嚥下モデルと各期の障害	D-5-7-8/ 総II-6-エ-a	〃
14	〃	原因と病態1	諸因子, 構音, 合併症	D-5-7-8/ 各V-1-イ, ウ	〃
15	〃	スクリーニングテスト1	RSST, MWST 等	D-3-1-11-2/ 各V-4-イ-a	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
16	7/12	VE・VF 1	特徴と評価方法	D-3-1-11-2/各V-4-イ-a	①
17	〃	間接訓練 1	各期の間接訓練	D-5-7-8/各V-7-ア-a	〃
18	〃	直接訓練と食事指導 1	直接訓練, 食事指導	D-5-7-8/各V-7-ア-b	〃
19	7/26	嚥下補助床 1	PAP, PLP	D-5-7-8/各IV-7-ア~エ	〃
20	〃	高齢者と栄養 1	評価と管理	D-5-7-9/必11-サ-a	〃
21	〃	前半のまとめ	総括1	D-5-7/各V	〃
22	8/30	全身の加齢変化 2	身体・精神の加齢変化	D-5-7-1/必5エ-b	〃
23	〃	口腔の加齢変化 2	口腔の加齢変化	D-5-7-4/総II-7-エ	〃
24	〃	高齢患者の臨床評価 2	全身・口腔機能の評価	D-5-7-3/各V-4-ア	〃
25	9/13	高齢者に多い口腔疾患 2	硬・軟組織疾患	D-5-7-2/各V-6-ア~エ	〃
26	〃	脳血管障害 2	分類と後遺症	D-5-7-2/総VII-1-エ	〃
27	〃	認知症 2	分類と症状	D-5-7-2/総VII-1-エ	〃
28	9/27	その他の全身疾患 2	Parkinson 病等	D-5-7-2/総VII-1-エ	〃
29	〃	チーム医療と各ステージでの歯科の役割 2	急性期～終末期	D-6-2/必2-ウ	〃
30	〃	歯科訪問診療と治療の場 2	施設, 在宅	D-5-7-7/総I-1-オ	〃
31	10/11	口腔健康管理 2	口腔衛生管理 口腔ケア	D-5-7-5/必3-エ	〃
32	〃	障害学 2	ICF, アプローチ法	C-4-3-4/必2-ア-d	〃
33	〃	嚥下器官の構造と機能 2	解剖と生理	A-3-2/総II-7-ウ-a	〃
34	10/25	摂食嚥下モデルと摂食嚥下障害 2	嚥下モデルと各期の障害	D-5-7-8/総II-6-エ-a	〃
35	〃	原因と病態 2	諸因子, 構音合併症	D-5-7-8/各IV-1-イ, ウ	〃
36	〃	スクリーニングテスト 2	RSST, MWST 等	D-3-1-11-2/各V-4-イ-a	〃
37	11/22	VE・VF 2	特徴と評価方法	D-3-1-11-2/各V-4-イ-a	〃
38	〃	間接訓練 2	各期の間接訓練	D-5-7-8/各V-7-ア-a	〃
39	〃	直接訓練と食事指導 2	直接訓練, 食事指導	D-5-7-8/各V-7-ア-b	〃
40	12/6	嚥下補助床 2	PAP, PLP	D-5-7-8/各IV-7-ア~エ	〃
41	〃	高齢者と栄養 2	評価と管理	D-5-7-9/必11-サ-a	〃
42	〃	後半のまとめ	総括 2	D-5-7/各V	〃

●障害者歯科学

担当者: ①吉田 健司 (障害)

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4/17	歯科医療におけるスペシャルニーズ	QOL, ノーマライゼーション, パリアフリー, ユニバーサルデザイン	C-4-3-4)/必2-ア-C, 総I-1-ア-d	①
2	5/8	スペシャルニーズと社会保障	障害者福祉, 医療制度, ADL, IADL, チーム医療	C-1-3), D-6)/総I-2-カ, 総V-5-イ-a, b	〃
3	5/22	精神発達・心理的発達と行動の障害	発達遅滞, 精神遅滞, 自閉症スペクトラム障害, 注意欠陥多動性障害, 学習障害	D-5-8), D-5-9)/総V-2-オ	〃
4	6/5	神経・運動障害(1)	脳性麻痺, 筋ジストロフィー, 脊髄損傷, 関節リウマチ, Parkinson 病	D-5-8), D-5-9)/総V-3-オ, 総V-6-ア-g	〃
5	6/19	神経・運動障害(2)	感覺障害(脳血管障害, 筋萎縮性側索硬化症, てんかん, 視覚・聴覚障害)	D-5-8), D-5-9)/総V-6-ア-g	〃
6	7/3	精神および行動の障害	統合失調症, うつ病, 不安症, 強迫症, 心身症, 認知症, 摂食障害	D-5-8), D-5-9)/総V-6-ア-f	〃
7	7/17	歯科治療時に配慮すべき疾患	内科的疾患(循環器・呼吸器・消化器・腎尿路内分泌・血液疾患)	D-5-8), D-5-9)/総V-6-ア-b	〃
8	7/31	歯科治療時に配慮すべき疾患・症候群-1	(口腔に症状がみられる) 遺伝性疾患	D-5-8), D-5-9)/総V-3-オ, 各I-1-ア, イ, ウ, エ	〃
9	9/25	歯科治療時に配慮すべき疾患・症候群-2	(頭蓋・顎面に症状がみられる) 遺伝性疾患, 染色体異常	D-5-8), D-5-9)/総V-3-オ, 各I-1-ア, イ, ウ, エ	〃
10	10/9	歯科治療時に配慮すべき疾患・難病	炎症性腸疾患, 心筋症, エリテマトーデス, サルコイドーシス	D-5-8), D-5-9)/総V-6-ア-k, 各III-1-ク, 各III-4-オ	〃
11	10/30	行動調整	コミュニケーション法, 行動療法, 薬物的行動調整, 体動の調整法	D-5-8), D-5-9)/総V-3-ウ, オ, 各V-8-ア-b	〃
12	11/13	スペシャルニーズのある人の歯科治療-1	医療面接, 齢齢処置, 齢周治療, 齢冠修復	D-5-8), D-5-9)/各V-8-ウ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
13	11/27	スペシャルニーズのある人の歯科治療-2	補綴的対応、顎頬面領域の外傷	D-5-8), D-5-9)/ 各V-8-ウ	①
14	12/11	リスク評価と安全管理	リスク評価、医療安全管理体制、医療事故の予防、ターミナルケア	D-5-8), D-5-9)/ 必2-オ, 総VII-5-イ	〃

●公衆衛生学・口腔衛生学

担当者: ①廣瀬 公治 (衛生), ②小林美智代 (衛生)

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4/12	公衆衛生総論I	健康の概念、疾病の自然史、ICF、健康の社会的決定要因	C-5/必2-ア, 総I-ア	①
2	〃	公衆衛生総論II	健康日本21、国際保健協力、SDGs、UHC、ライフコースアプローチ	C-5, C-7/必3-ア, 総I-1-ア, 総I-1-オ	〃
3	4/19	疫学	疫学要因、因果関係、記述疫学	C-6-1/総I-6-ア	〃
4	〃	疫学	分析疫学 (患者対照研究、オッズ比)	C-6-1/総I-6-ア	〃
5	4/26	疫学	分析疫学 (コホート研究)、計算問題	C-6-1/総I-6-ア	〃
6	〃	疫学	生態学的研究 (バイアス、介入研究)	C-6-1/総I-6-ア	〃
7	5/17	疫学	臨床試験、GCP、RCT、メタアナリシス、EBM	C-6-1/必2-エ, 総I-6-ア, 総V-1-オ	〃
8	〃	疫学	スクリーニング	C-6-2/必9-ア, 総I-1-ア, 総I-6-ア	〃
9	5/24	疫学	スクリーニング	C-6-2/必9-ア, 総I-1-ア, 総I-6-ア	〃
10	〃	疫学	スクリーニング	C-6-2/必9-ア, 総I-1-ア, 総I-6-ア	〃
11	5/31	口腔保健疫学指標	ICDAS, DMF, CAMBRA, OHI, OHI-S	C-6-1, D-5-1/ 総I-6-イ, エ	②
12	〃	口腔保健疫学指標	PHP, PCR, PII	C-6-1, D-5-1/ 総I-6-イ, エ	〃
13	6/7	口腔保健疫学指標	CPI, PMA, PI, PDI	C-6-1, D-5-1/ 総I-6-イ, エ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
14	6/7	口腔保健疫学指標	CFI, DAI, RCI, RID, 龈歯抑制率	C-6-1, D-5-1/ 総I-6-イ, エ	②
15	6/21	疾病予防と健康管理	感染症の予防	C-5-4/必7-ウ, 総I-7-ア	①
16	〃	疾病予防と健康管理	感染症の予防	C-5-4/必7-ウ, 総I-7-ア	〃
17	6/28	疾病予防と健康管理	日本人の食事摂取基準	E-5-2-4/総I-8-ア	〃
18	〃	疾病予防と健康管理	食品衛生、食中毒、食事バランスガイド	E-5-2-4/総I-8-ア, イ	〃
19	7/5	環境衛生	地球環境変化と健康被害	C-4-5/総I-9-ア	〃
20	〃	環境衛生	公害	C-4-5/総I-9-ア	〃
21	7/12	環境衛生	医療廃棄物	C-4-5/総I-9-ア	〃
22	〃	環境衛生	温熱・空気・水の衛生	C-4-5/総I-9-ア	〃
23	7/19	人口保健統計	人口静態、我が国の人団推移	C-6-2/総I-6-ウ	②
24	〃	人口保健統計	人口動態、人口再生産、死亡指標	C-6-2/総I-6-ウ	〃
25	7/26	人口保健統計	年齢調整死亡率、生命表	C-6-2/総I-6-ウ	〃
26	〃	人口保健統計	保健衛生統計 (国民生活基礎調査、患者調査、医師・歯科医師・薬剤師調査等)	C-6-2/総I-6-ウ	〃
27	8/2	人口保健統計	保健統計量 (尺度、偏差、検定)	C-6-2/総I-6-イ	〃
28	〃	人口保健統計	平成28年歯科疾患実態調査	C-6-2/総I-6-ウ	〃
29	8/30	地域保健	保健所、市町村保健センター、歯科口腔保健センター、母子健康包括支援センター等の概要	C-4-2-5/必3-イ, 総I-1-エ, オ	①
30	〃	地域保健	PHCとHP、ハイリスクアプローチとボピュレーションアプローチ、ライフコースアプローチ、学修援助型保健活動、保健活動の評価法	C-5/必3-イ, 総I-1-エ, オ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
31	9/6	地域医療	地域完結の医療（地域連携クリニカルパス）、医療法	C-5-5, D-6-2/ 必2-イ, 総I-1-ウ, 工,才	①
32	〃	歯科医師法と多職種連携	歯科医師法、医療関係職種	C-4-2/ 必2-イ, 総I-1-ウ	〃
33	9/13	社会保障の仕組み	ユニバーサルヘルスカバレッジ、社会保障の機能、社会保険（医療保険）、生活保護	C-4-3/ 必2-イ, 総I-1-ウ, 総I-5-ア	〃
34	〃	母子保健	母子保健法と母子保健事業	C-4-2, C-4-3/ 必3-イ, 総I-2-ア	②
35	9/20	母子歯科保健	1歳6か月児歯科健康診査	C-4-2, C-4-3/ 必3-イ, 総I-2-ア	〃
36	〃	母子歯科保健	3歳児歯科健康診査	C-4-2, C-4-3/ 必3-イ, 総I-2-ア	〃
37	9/27	学校保健	学校保健安全法	C-4-2, C-4-3/ 必3-イ, 総I-2-イ	〃
38	〃	学校保健	学校保健管理	C-4-2, C-4-3/ 必3-イ, 総I-2-イ	〃
39	10/4	学校歯科保健	学校歯科健康診断	C-4-2, C-4-3/ 必3-イ, 総I-2-イ	〃
40	〃	医療裁判	医事紛争と賠償、医療訴訟（民事・刑事）	C-3-2/ 必2-ク	①
41	10/11	成人・老人保健	老人福祉法、介護保険法、精神保健福祉法、障害者総合支援法	C-4-2, C-4-3, E-6-1-1/ 必2-イ, 必3-イ, 総I-1-ウ, 工,才,力, 総I-2-工,才, 総I-4-ア	〃
42	〃	介護・福祉制度	地域包括ケアシステム、地域連携クリニカルパス	C-4-2, C-4-3, E-6-1-1/ 必2-イ, 必3-イ, 総I-1-ウ, 工,才,力, 総I-2-工,才, 総I-4-ア	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
43	10/18	産業保健	労働基準法、労働安全衛生法	C-4-2, C-4-3/ 必3-イ, 総I-2-ウ	①
44	〃	産業保健	労働者災害補償保険、ILO	C-4-2, C-4-3/ 必3-イ, 総I-2-ウ	〃
45	10/25	産業歯科保健	特殊健康診断	C-4-2, C-4-3/ 必3-イ, 総I-2-ウ	〃
46	〃	職業性疾患、関連法規	職業性歯の酸蝕症	C-4-2, C-4-3/ 必3-イ, 総I-2-ウ	〃
47	11/1	口腔環境と歯科疾患	唾液の機能、ペリクル	A-3-3-6, D-5-1/ 必4-イ, 総I-1-イ, 総II-2-ア,イ, 総II-6-オ	〃
48	〃	口腔環境と歯科疾患	ペリクルの形成から歯石まで	D-5-1/ 必4-イ, 総I-1-イ, 総II-2-ア,イ	〃
49	11/22	齲歯の予防	ステファンカーブ、代用甘味料	D-5-1/ 必3-ウ, 総I-1-イ, 各論II-1-イ	②
50	〃	齲歯の予防	齲歯活動性試験	E-2-2-3/ 必3-エ, 総I-1-イ	〃
51	11/29	齲歯の予防	フッ化物の基礎、フッ化物応用法	D-5-1-2/ 必3-ウ,工, 各II-1-イ	〃
52	〃	齲歯の予防	安全なフッ化物の応用	D-5-1-2/ 必3-ウ,工, 各II-1-イ	〃
53	12/6	齲歯の予防	歯磨剤	D-5-1-6/ 必3-ウ,工, 総論I-1-イ	〃
54	〃	齲歯の予防	ブラッシング	D-5-1-3/ 必4-ウ, 総I-1-イ	〃
55	12/13	口臭の予防	口臭の原因と揮発性硫化物、口臭測定、口臭治療と予防	D-5-9-2/ 総VI-1-ア, 各III-3-イ	①
56	〃	口腔と全身疾患との関連	糖尿病と歯周病	D-6-1-1/ 必7-ウ, 総V-2-エ	〃

●社会歯科学

担当者：①南 健太郎（衛生）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／12	社会歯科学概論	歯科医師の責務と倫理	C-1-1／ 必1-ア	①
2	4／26	医事衛生法規1	歯科医師法、歯科衛生士法、歯科技工士法	C-4-2／ 必2-イ	〃
3	5／24	医事衛生法規2	医療法	C-4-3／ 必2-イ	〃
4	6／7	医療連携、チーム医療	医療関係職種、医長機関でのチームワーク、地域医療でのチームワーク	C-1-3／ 必2-ウ	〃
5	6／28	診療情報・診療記録	診療情報、診療録・医療記	C-3-1／ 必2-サ	〃
6	7／12	医療の質と安全の確保	医療の質の確保、医療事故防止、院内感染対策、医事裁判	C-3-1)／ 必2-カ、キ	〃
7	7／26	薬事衛生法規	医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保に関する法律、臨床試験と倫理	C-4-2／ 必2-ケ	〃
8	8／30	衛生行政とその他の衛生法規1	地域保健法、健康増進法	C-4-5／ 総I-1-オ、 総I-8-イ	〃
9	9／13	衛生行政とその他の衛生法規2	学校保健安全法、母子保健法、労働安全衛生法、歯科口腔保健の推進に関する法律	C-5-5／ 総I-2-ア、 イ、ウ、	〃
10	9／27	社会保険1	医療保険	C-4-3／ 総I-1-ウ	〃
11	10／11	社会保険2	介護保険、地域包括ケアシステム、年金保険、雇用保険	B-2-2)／ 総I-4-ア C-4-3／ 総I-4-ア	〃
12	10／25	公的扶助	生活保護法	C-4-3／ 総I-1-ウ	〃
13	11／22	社会福祉	精神保健福祉法、障害者総合支援法	C-4-3／ 総I-2-カ、 総I-1-オ	〃
14	12／6	国民医療費	国民医療費	C-4-3／ 総I-4-ア	〃

●口腔外科学

担当者：①高田 訓（口外）、②金 秀樹（口外）、
③川原 一郎（口外）、④御代田 駿（口外）、
⑤小嶋 忠之（口外）、⑥白田 真浩（放射）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／11	囊胞	総論	E-2-4)／ 必7-アイ	③
2	〃	囊胞	総論	E-2-4)／ 必7-アイ	〃
3	〃	腫瘍	総論	E-2-4)／ 必7-アイ	〃
4	4／18	腫瘍	総論	E-2-4)／ 必7-アイ	〃
5	〃	先天異常	総論	E-2-4)／ 必7-アイ	①
6	〃	先天異常	総論	E-2-4)／ 必7-アイ	〃
7	5／9	炎症感染症	総論	E-2-4)／ 必7-アイ	④
8	〃	炎症感染症	総論	E-2-4)／ 必7-アイ	〃
9	〃	損傷	総論	E-2-4)／ 必7-アイ	〃
10	5／16	損傷	総論	E-2-4)／ 必7-アイ	〃
11	〃	口腔粘膜疾患	総論	E-2-4)／ 必7-アイ	〃
12	〃	口腔粘膜疾患	総論	E-2-4)／ 必7-アイ	〃
13	5／23	神経疾患	総論	E-2-4)／ 必7-アイ	⑥
14	〃	神経疾患	総論	E-2-4)／ 必7-アイ	〃
15	〃	頸関節疾患	総論	E-2-4)／ 必7-アイ	④
16	5／30	頸関節疾患	総論	E-2-4)／ 必7-アイ	〃
17	〃	唾液腺疾患	総論	E-2-4)／ 必7-アイ	③
18	〃	唾液腺疾患	総論	E-2-4)／ 必7-アイ	〃
19	6／13	血液疾患	総論	E-2-4)／ 必7-アイ	〃
20	〃	血液疾患	総論	E-2-4)／ 必7-アイ	〃
21	〃	検査	総論	E-1-2)3)／ 総VI	⑤
22	6／20	検査	総論	E-1-2)3)／ 総VI	〃
23	〃	治療	総論	E-1-5)／ 総VII	②
24	〃	治療	総論	E-1-5)／ 総VII	〃
25	7／11	頸・口腔領域の先天異常	各論	E-2-4)／ 各III-1-ア	①
26	〃	頸・口腔領域の先天異常	各論	E-2-4)／ 各III-1-ア	〃
27	〃	頸変形症	各論	E-2-4)／ 各III-2-アイ	⑤
28	7／25	頸変形症	各論	E-2-4)／ 各III-2-アイ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
29	7/25	顎・口腔領域の損傷	各論	E-2-4) / 各Ⅲ-1-イ 各Ⅲ-2-ウ	④
30	〃	顎・口腔領域の損傷	各論	E-2-4) / 各Ⅲ-1-イ 各Ⅲ-2-ウ	〃
31	8/1	顎・口腔領域の損傷	各論	E-2-4) / 各Ⅲ-1-イ 各Ⅲ-2-ウ	〃
32	〃	顎・口腔領域の炎症	各論	E-2-4) / 各Ⅲ-1-ウ 各Ⅲ-2-エ	②
33	〃	顎・口腔領域の炎症	各論	E-2-4) / 各Ⅲ-1-ウ 各Ⅲ-2-エ	〃
34	9/5	顎・口腔領域の炎症	各論	E-2-4) / 各Ⅲ-1-ウ 各Ⅲ-2-エ	〃
35	〃	顎・口腔領域に発生する囊胞	各論	E-2-4) / 各Ⅲ-1-エ 各Ⅲ-2-オ	③
36	〃	顎・口腔領域に発生する囊胞	各論	E-2-4) / 各Ⅲ-1-エ 各Ⅲ-2-オ	〃
37	9/12	顎・口腔領域に発生する囊胞	各論	E-2-4) / 各Ⅲ-1-エ 各Ⅲ-2-オ	〃
38	〃	顎・口腔領域に発生する良性腫瘍	各論	E-2-4) / 各Ⅲ-1-オカ 各Ⅲ-2-カキ	②
39	〃	顎・口腔領域に発生する良性腫瘍	各論	E-2-4) / 各Ⅲ-1-オカ 各Ⅲ-2-カキ	〃
40	9/19	顎・口腔領域に発生する良性腫瘍	各論	E-2-4) / 各Ⅲ-1-オカ 各Ⅲ-2-カキ	〃
41	〃	唾液腺疾患	各論	E-2-4) / 各Ⅲ-3-ア	③
42	〃	唾液腺疾患	各論	E-2-4) / 各Ⅲ-3-ア	〃
43	10/3	顎・口腔領域に発生する悪性腫瘍	各論	E-2-4) / 各Ⅲ-1-オカキ 各Ⅲ-2-カキ	②
44	〃	顎・口腔領域に発生する悪性腫瘍	各論	E-2-4) / 各Ⅲ-1-オカキ 各Ⅲ-2-カキ	〃
45	〃	顎・口腔領域に発生する悪性腫瘍	各論	E-2-4) / 各Ⅲ-1-オカキ 各Ⅲ-2-カキ	〃
46	10/10	顎関節疾患	各論	E-2-4) / 各Ⅲ-3-ウ	④
47	〃	顎関節疾患	各論	E-2-4) / 各Ⅲ-3-ウ	〃
48	〃	口腔粘膜疾患	各論	E-2-4) / 各Ⅲ-1-ク	②
49	10/24	口腔粘膜疾患	各論	E-2-4) / 各Ⅲ-1-ク	〃
50	〃	口腔粘膜疾患	各論	E-2-4) / 各Ⅲ-1-ク	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
51	10/24	顎・口腔領域の神経疾患	各論	E-2-4) / 各Ⅲ-3-イ	⑥
52	10/31	顎・口腔領域の神経疾患	各論	E-2-4) / 各Ⅲ-3-イ	〃
53	〃	顎・口腔領域に異常をきたす疾患・症候群	各論	E-2-4) / 各Ⅲ-4-ア	⑤
54	〃	顎・口腔領域に異常をきたす疾患・症候群	各論	E-2-4) / 各Ⅲ-4-ア	〃
55	11/21	血液疾患	各論	E-2-4) / 各Ⅲ-4-クケコサ	③
56	〃	血液疾患	各論	E-2-4) / 各Ⅲ-4-クケコサ	〃
57	〃	血液疾患	各論	E-2-4) / 各Ⅲ-4-クケコサ	〃
58	11/28	口腔症状を呈する全身疾患	各論	E-2-4) / 各Ⅲ-4-イウエオカキ	②
59	〃	口腔症状を呈する全身疾患	各論	E-2-4) / 各Ⅲ-4-イウエオカキ	〃
60	〃	口腔症状を呈する全身疾患	各論	E-2-4) / 各Ⅲ-4-イウエオカキ	〃
61	12/12	口腔外科学まとめ	まとめ	E-2-4) / 各Ⅲ-1234	③
62	〃	口腔外科学まとめ	まとめ	E-2-4) / 各Ⅲ-1234	〃
63	〃	口腔外科学まとめ	まとめ	E-2-4) / 各Ⅲ-1234	②

●口腔内科学

担当者：①高田 訓（口外）、②高橋文太郎（口外）、
③山根 源之（客員）、④野村 武史（非常勤）

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4/25	総論、診断法、検査法	各論	E-2-4) / 必7-アイ 各Ⅲ-12345	② ③
2	〃	全身疾患、症候群に伴う口腔症状・病変	各論	E-2-4) / 必7-アイ 各Ⅲ-12345	〃
3	〃	第1・2回まとめ	各論	E-2-4) / 必7-アイ 各Ⅲ-12345	① ②
4	6/6	循環器疾患、脳血管障害と歯科診療	各論	E-2-4) / 必7-アイ 各Ⅲ-12345	② ③
5	〃	代謝・内分泌疾患と歯科診療、糖尿病と歯周病	各論	E-2-4) / 必7-アイ 各Ⅲ-12345	〃
6	〃	第4・5回まとめ	各論	E-2-4) / 必7-アイ 各Ⅲ-12345	① ②

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
7	7/4	血液疾患（貧血、顆粒球減少症、白血病）と歯科診療	各論	E-2-4)／ 必7-アイ 各Ⅲ-12345	② ③
8	〃	出血性素因と歯科診療、造血幹細胞移植と歯科の関連	各論	E-2-4)／ 必7-アイ 各Ⅲ-12345	〃
9	〃	第7・8回まとめ	各論	E-2-4)／ 必7-アイ 各Ⅲ-12345	① ②
10	8/29	消化器疾患、腎疾患、周産期と歯科診療	各論	E-2-4)／ 必7-アイ 各Ⅲ-12345	② ④
11	〃	呼吸器疾患、アレルギー・自己免疫疾患と歯科診療	各論	E-2-4)／ 必7-アイ 各Ⅲ-12345	〃
12	〃	第10・11回まとめ	各論	E-2-4)／ 必7-アイ 各Ⅲ-12345	① ②
13	9/26	唾液腺疾患（口腔乾燥症、Sjögren症候群）、神経疾患と歯科診療	各論	E-2-4)／ 必7-アイ 各Ⅲ-12345	② ④
14	〃	感染症（ウイルス性肝炎、STD）、医療安全と感染症対策	各論	E-2-4)／ 必7-アイ 各Ⅲ-12345	〃
15	〃	第13・14回まとめ	各論	E-2-4)／ 必7-アイ 各Ⅲ-12345	① ②
16	10/17	チーム医療1 周術期口腔機能管理 RST	各論	E-2-4)／ 必7-アイ 各Ⅲ-12345	② ④
17	〃	チーム医療2 栄養管理 NST	各論	E-2-4)／ 必7-アイ 各Ⅲ-12345	〃
18	〃	第16・17回まとめ	各論	E-2-4)／ 必7-アイ 各Ⅲ-12345	① ②
19	12/5	心身症、精神疾患、認知症と歯科診療	各論	E-2-4)／ 必7-アイ 各Ⅲ-12345	〃
20	〃	睡眠と睡眠障害にかかわる歯科、オーラルフレイル	各論	E-2-4)／ 必7-アイ 各Ⅲ-12345	〃
21	〃	第19・20回まとめ	各論	E-2-4)／ 必7-アイ 各Ⅲ-12345	〃

●災害歯科医学

担当者：①板橋 仁（矯正）、②岩原 香織（非常勤）

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4/23	総論	大規模災害時における歯科医師の役割	C-4-3／ 総Ⅰ-1-オ、 総Ⅰ-3-ア	①
2	5/28	災害時歯科医療	災害時における医療体制、口腔ケアと誤嚥性肺炎	C-4-3／ 総Ⅰ-1-オ、 各Ⅴ-1-エ	〃
3	6/25	個人識別	人類学的個人識別／性別判定・年齢推定	C-4-3／ 総Ⅰ-3-ア	① ②
4	7/23	歯科の個人識別	検死と照合判定	C-4-3／ 総Ⅰ-3-ア	①
5	9/3	歯科法医学1	創傷、死後変化	C-4-4／ 総Ⅰ-3-ア、 総Ⅲ-3-ア、イ	〃
6	10/29	歯科法医学2	死体解剖と死因究明制度	C-4-4／ 総Ⅰ-3-ア	〃
7	11/26	総括	国家試験に向けて		① ②

●歯科医療管理学

担当者：①南 健太郎（衛生）、②瀬川 洋（衛生）

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4/15	歯科医師法	歯科医師法、歯科医師の義務	C-4-2／ 必-2-イ	① ②
2	5/13	医療情報管理	診療録・電子診療録・SOAP各種記録等保存期間と根拠法	C-6-3-2／ 必-2-イ	①
3	5/27	医療法①	医療法に規定されている事項、医療計画①	C-4-2-1／ 必-2-イ、 総Ⅰ-1-オ-b	〃
4	6/10	医療法②	医療計画②、歯科診療所及び医療機関の開設と管理	C-4-2-1／ 必-2-イ、 総Ⅰ-1-オ-b	〃
5	6/24	歯科医療安全①	ハインリッヒの法則・フルブルーフ・フェールセーフ、医療機関における医療安全対策、医療事故調査制度	C-3／ 必-2-カ	〃
6	7/8	歯科医療安全②	感染予防管理、医療廃棄物管理	C-3／ 必-2-キ	〃
7	7/29	歯科医療事故への対応	医療過誤の民事・刑事・行政責任	C-3／ 必-2-キ	〃
8	8/26	社会保障制度①	社会保険とは社会保険の種類、医療保険①	C-4-3-2／ 総Ⅰ-1-ウ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
9	9／9	社会保障制度 ②	医療保険②	C-4-3-2／ 総 I -1-ウ	①
10	10／7	社会保障制度 ③	医療保険③, 年金保険, 社 会保障給付費, 国民医療費①	C-4-3-2／ 総 I -1-ウ	〃
11	10／28	社会保障制度 ④	社会保障給付 費, 国民医療 費②, 公的扶 助, 社会福祉 ①	C-4-3-2／ 総 I -1-ウ	〃
12	11／18	社会保障制度 ⑤	公的扶助, 社 会福祉②	C-4-3-2／ 総 I -1-ウ	〃
13	12／2	社会保障制度 ⑥	介護保険①	C-4-3-2／ 総 I -1-ウ	〃
14	12／16	社会保障制度 ⑦	介護保険②, 地域包括ケア システム	C-4-3-2, C-4-3-6／ 総 I -1-ウ	① ②

●歯学史／歯科英語

担当者：①御代田 駿（口外）、②長峯 英樹（英語）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	5／14	歯学史	世界, 日本の 歯学史①	A-7-2)／ 必-13-ウ	①
2	6／11	歯学史	世界, 日本の 歯学史②	A-2-2)／ 必-13-ア	〃
3	7／9	歯科英語	歯科医療に關 わる医学／歯 学英語の基礎 知識 Toothache	A-7-2)／ 必-13-ウ	②
4	8／6	歯科英語	歯科医療に關 わる医学／歯 学英語の基礎 知識 Oral Hygiene	A-7-2)／ 必-13-ウ	〃
5	10／1	歯科英語	歯科医療に關 わる医学／歯 学英語の基礎 知識 Periodontal Disease	A-7-2)／ 必-13-ウ	①
6	11／12	歯科英語	歯科医療に關 わる医学／歯 学英語の基礎 知識	A-7-2)／ 必-13-ウ	〃
7	12／10	歯科英語	歯科医療に關 わる医学／歯 学英語の基礎 知識 Paranasal Sinusitis	A-7-2)／ 必-13-ウ	〃

2024年度 第6学年 授業時間割

日付	朝礼 8:40	1 (8:50-9:50)	2 (10:00-11:00)	3 (11:10-12:10)	4 (13:00-14:00)	5 (14:10-15:10)	6 (15:20-16:20)	7 (16:30-17:00/17:00-17:30)
2024/3/31(日)								
2024/4/1(月)								
2024/4/2(火)								
2024/4/3(水)								
2024/4/4(木)		入学式						
2024/4/5(金)		ガイダンス						
2024/4/6(土)								
2024/4/7(日)								
2024/4/8(月)		実力1-A			実力1-B			
2024/4/9(火)		実力1-C			実力1-D			
2024/4/10(水)	前期1	解剖1	解剖2	イン1	小児1	小児2	小児3	
2024/4/11(木)	前期2	生材1	生材2	総医1	口外1	口外2	口外3	
2024/4/12(金)	前期3	衛生1	衛生2	社歯1	高齢1	高齢2	高齢3	
2024/4/13(土)								
2024/4/14(日)								
2024/4/15(月)	前期4	有床1	有床2	管理1	麻酔1	麻酔2	麻酔3	
2024/4/16(火)	前期5	放射1	放射2	薬理1	修復1	修復2	修復3	
2024/4/17(水)	前期6	免疫1	免疫2	障害1	冠橋1	冠橋2	冠橋3	
2024/4/18(木)	前期7	組織1	組織2	生化1	口外4	口外5	口外6	
2024/4/19(金)	前期8	衛生3	衛生4	生理1	矯正1	矯正2	矯正3	
2024/4/20(土)								
2024/4/21(日)								
2024/4/22(月)	前期9	有床3	有床4	医倫1	歯周1	歯周2	歯周3	
2024/4/23(火)	前期10	病理1	病理2	災歯1	歯内1	歯内2	歯内3	
2024/4/24(水)	前期11	解剖3	解剖4	イン2	小児4	小児5	小児6	
2024/4/25(木)	前期12	生材3	生材4	総医2	口内1	口内2	口内3	
2024/4/26(金)	前期13	衛生5	衛生6	社歯2	高齢4	高齢5	高齢6	
2024/4/27(土)								
2024/4/28(日)								
2024/4/29(月)								
2024/4/30(火)								
2024/5/1(水)								
2024/5/2(木)								
2024/5/3(金)								
2024/5/4(土)								
2024/5/5(日)								
2024/5/6(月)								
2024/5/7(火)	前期14	放射3	放射4	薬理2	修復4	修復5	修復6	
2024/5/8(水)	前期15	免疫3	免疫4	障害2	冠橋4	冠橋5	冠橋6	
2024/5/9(木)	前期16	組織3	組織4	生化2	口外7	口外8	口外9	
2024/5/10(金)		実力2-A	実力2-B	実力2-C	実力2-D	実力2-E	実力2-F	
2024/5/11(土)								
2024/5/12(日)								
2024/5/13(月)	前期17	有床5	有床6	管理2	麻酔4	麻酔5	麻酔6	
2024/5/14(火)	前期18	病理3	病理4	史英1	歯内4	歯内5	歯内6	
2024/5/15(水)	前期19	解剖5	解剖6	イン3	修復7	修復8	修復9	
2024/5/16(木)	前期20	生材5	生材6	総医3	口外10	口外11	口外12	
2024/5/17(金)	前期21	衛生7	衛生8	生理2	矯正4	矯正5	矯正6	
2024/5/18(土)								実力試験2 FB (85点未満:受講必須)
2024/5/19(日)								
2024/5/20(月)	前期22	有床7	有床8	医倫2	歯周4	歯周5	歯周6	FB1(有床/医倫)
2024/5/21(火)	前期23	放射5	放射6	薬理3	小児7	小児8	小児9	FB2(放射/病理)
2024/5/22(水)	前期24	免疫5	免疫6	障害3	冠橋7	冠橋8	冠橋9	FB3(解剖/免疫)
2024/5/23(木)	前期25	組織5	組織6	生化3	口外13	口外14	口外15	FB4(生材/組織)
2024/5/24(金)	前期26	衛生9	衛生10	社歯3	高齢7	高齢8	高齢9	FB5(衛生/社歯)
2024/5/25(土)								
2024/5/26(日)								
2024/5/27(月)	前期27	有床9	有床10	管理3	麻酔7	麻酔8	麻酔9	FB6(管理/麻酔)
2024/5/28(火)	前期28	病理5	病理6	災歯2	歯内7	歯内8	歯内9	FB7(薬理/災歯/史英)
2024/5/29(水)	前期29	解剖7	解剖8	イン4	小児10	小児11	小児12	FB8(イン/障害)
2024/5/30(木)	前期30	生材7	生材8	総医4	口外16	口外17	口外18	FB9(総医/生化)
2024/5/31(金)	前期31	衛生11	衛生12	生理3	矯正7	矯正8	矯正9	FB10(生理/高齢)
2024/6/1(土)								
2024/6/2(日)								
2024/6/3(月)	前期32	有床11	有床12	医倫3	歯周7	歯周8	歯周9	FB11(歯周/-)
2024/6/4(火)	前期33	放射7	放射8	薬理4	修復10	修復11	修復12	FB12(修復/歯内)

日付	朝礼 8:40	1 (8:50-9:50)	2 (10:00-11:00)	3 (11:10-12:10)	4 (13:00-14:00)	5 (14:10-15:10)	6 (15:20-16:20)	7 (16:30-17:00/17:00-17:30)
2024/6/5(水)	前期34	免疫7	免疫8	障害4	冠橋10	冠橋11	冠橋12	FB13(小児/冠橋)
2024/6/6(木)	前期35	組織7	組織8	生化4	口内4	口内5	口内6	FB14(口外/口内)
2024/6/7(金)	前期36	衛生13	衛生14	社歯4	高齢10	高齢11	高齢12	FB15(矯正/-)
2024/6/8(土)								
2024/6/9(日)								
2024/6/10(月)	前期37	有床13	有床14	管理4	麻酔10	麻酔11	麻酔12	
2024/6/11(火)	前期38	病理7	病理8	史英2	歯内10	歯内11	歯内12	
2024/6/12(水)	前期39	解剖9	解剖10	イン5	小児13	小児14	小児15	
2024/6/13(木)	前期40	生材9	生材10	総医5	口外19	口外20	口外21	
2024/6/14(金)		実力3-A	実力3-B	実力3-C	実力3-D	実力3-E	実力3-F	
2024/6/15(土)								
2024/6/16(日)								
2024/6/17(月)	前期41	有床15	有床16	医倫4	歯周10	歯周11	歯周12	
2024/6/18(火)	前期42	放射9	放射10	薬理5	修復13	修復14	修復15	
2024/6/19(水)	前期43	免疫9	免疫10	障害5	冠橋13	冠橋14	冠橋15	
2024/6/20(木)	前期44	組織9	組織10	生化5	口外22	口外23	口外24	
2024/6/21(金)	前期45	衛生15	衛生16	生理4	矯正10	矯正11	矯正12	
2024/6/22(土)								実力試験3 FB (85点未満:受講必須)
2024/6/23(日)								
2024/6/24(月)	前期46	有床17	有床18	管理5	麻酔13	麻酔14	麻酔15	FB16(有床/医倫)
2024/6/25(火)	前期47	病理9	病理10	災歯3	歯内13	歯内14	歯内15	FB17(放射/病理)
2024/6/26(水)	前期48	解剖11	解剖12	イン6	小児16	小児17	小児18	FB18(解剖/免疫)
2024/6/27(木)								FB19(生材/組織)
2024/6/28(金)	前期49	衛生17	衛生18	社歯5	高齢13	高齢14	高齢15	FB20(衛生/社歯)
2024/6/29(土)								
2024/6/30(日)								
2024/7/1(月)	前期50	有床19	有床20	医倫5	歯周13	歯周14	歯周15	FB21(管理/麻酔)
2024/7/2(火)	前期51	放射11	放射12	薬理6	修復16	修復17	修復18	FB22(薬理/災歯/史英)
2024/7/3(水)	前期52	免疫11	免疫12	障害6	冠橋16	冠橋17	冠橋18	FB23(イン/障害)
2024/7/4(木)	前期53	生材11	生材12	総医6	口内7	口内8	口内9	FB24(総医/生化)
2024/7/5(金)	前期54	衛生19	衛生20	生理5	矯正13	矯正14	矯正15	FB25(生理/高齢)
2024/7/6(土)								
2024/7/7(日)								
2024/7/8(月)	前期55	有床21	有床22	管理6	麻酔16	麻酔17	麻酔18	FB26(歯周/-)
2024/7/9(火)	前期56	病理11	病理12	史英3	歯内16	歯内17	歯内18	FB27(修復/歯内)
2024/7/10(水)	前期57	解剖13	解剖14	イン7	小児19	小児20	小児21	FB28(小児/冠橋)
2024/7/11(木)	前期58	組織11	組織12	生化6	口外25	口外26	口外27	FB29(口外/口内)
2024/7/12(金)	前期59	衛生21	衛生22	社歯6	高齢16	高齢17	高齢18	FB30(矯正/-)
2024/7/13(土)								
2024/7/14(日)								
2024/7/15(月)								
2024/7/16(火)	前期60	放射13	放射14	薬理7	修復19	修復20	修復21	
2024/7/17(水)	前期61	免疫13	免疫14	障害7	冠橋19	冠橋20	冠橋21	
2024/7/18(木)		実力4-A	実力4-B	実力4-C	実力4-D	実力4-E	実力4-F	
2024/7/19(金)	前期62	衛生23	衛生24	生理6	矯正16	矯正17	矯正18	
2024/7/20(土)								
2024/7/21(日)								
2024/7/22(月)	前期63	有床23	有床24	医倫6	歯周16	歯周17	歯周18	
2024/7/23(火)	前期64	病理13	病理14	災歯4	歯内19	歯内20	歯内21	
2024/7/24(水)	前期65	解剖15	解剖16	イン8	小児22	小児23	小児24	
2024/7/25(木)	前期66	生材13	生材14	総医7	口外28	口外29	口外30	
2024/7/26(金)	前期67	衛生25	衛生26	社歯7	高齢19	高齢20	高齢21	
2024/7/27(土)								実力試験4 FB (85点未満:受講必須)
2024/7/28(日)								
2024/7/29(月)	前期68	有床25	有床26	管理7	麻酔19	麻酔20	麻酔21	FB31(有床/医倫)
2024/7/30(火)	前期69	放射15	放射16	薬理8	修復22	修復23	修復24	FB32(放射/病理)
2024/7/31(水)	前期70	免疫15	免疫16	障害8	冠橋22	冠橋23	冠橋24	FB33(解剖/免疫)
2024/8/1(木)	前期71	組織13	組織14	生化7	口外31	口外32	口外33	FB34(生材/組織)
2024/8/2(金)	前期72	衛生27	衛生28	生理7	矯正19	矯正20	矯正21	FB35(衛生/社歯)
2024/8/3(土)								
2024/8/4(日)								
2024/8/5(月)	前期73	有床27	有床28	医倫7	歯周19	歯周20	歯周21	
2024/8/6(火)	前期74	病理15	病理16	史英4	歯内22	歯内23	歯内24	
2024/8/7(水)		夏期強化講義1	夏期強化講義2	夏期強化講義3				
2024/8/8(木)		夏期強化講義4	夏期強化講義5	夏期強化講義6				
2024/8/9(金)		夏期強化講義7	夏期強化講義8	夏期強化講義9				
2024/8/10(土)								
2024/8/11(日)								
2024/8/12(月)								

日付	朝礼 8:40	1 (8:50-9:50)	2 (10:00-11:00)	3 (11:10-12:10)	4 (13:00-14:00)	5 (14:10-15:10)	6 (15:20-16:20)	7 (16:30-17:00/17:00-17:30)
2024/8/13(火)								
2024/8/14(水)								
2024/8/15(木)								
2024/8/16(金)								
2024/8/17(土)								
2024/8/18(日)								
2024/8/19(月)								
2024/8/20(火)								
2024/8/21(水)								
2024/8/22(木)								
2024/8/23(金)						ガイダンス(後期朝礼2回分)		
2024/8/24(土)								
2024/8/25(日)								
2024/8/26(月)	後期1	有床29	有床30	管理8	麻酔22	麻酔23	麻酔24	FB36(管理/麻酔)
2024/8/27(火)	後期2	放射17	放射18	薬理9	修復25	修復26	修復27	FB37(薬理/災歎/史英)
2024/8/28(水)	後期3	解剖17	解剖18	イン9	小児25	小児26	小児27	FB38(イン/障害)
2024/8/29(木)	後期4	生材15	生材16	総医8	口内10	口内11	口内12	FB39(総医/生化)
2024/8/30(金)	後期5	衛生29	衛生30	社歯8	高齢22	高齢23	高齢24	FB40(生理/高齢)
2024/8/31(土)								
2024/9/1(日)								
2024/9/2(月)	後期6	有床31	有床32	医倫8	歯周22	歯周23	歯周24	FB41(歯周/-)
2024/9/3(火)	後期7	病理17	病理18	歯内25	歯内26	歯内27	災歎5	FB42(修復/歯内)
2024/9/4(水)		実力5-A	実力5-B	実力5-C	実力5-D	実力5-E	実力5-F	FB43(小児/冠橋)
2024/9/5(木)	後期8	組織15	組織16	生化8	口外34	口外35	口外36	FB44(口外/口内)
2024/9/6(金)	後期9	衛生31	衛生32	生理8	矯正22	矯正23	矯正24	FB45(矯正/-)
2024/9/7(土)								
2024/9/8(日)								
2024/9/9(月)	後期10	有床33	有床34	管理9	麻酔25	麻酔26	麻酔27	FB46(有床/医倫)
2024/9/10(火)				模試1-1				FB47(放射/病理)
2024/9/11(水)				模試1-2				FB48(解剖/免疫)
2024/9/12(木)	後期11	生材17	生材18	総医9	口外37	口外38	口外39	FB49(生材/組織)
2024/9/13(金)	後期12	衛生33	衛生34	社歯9	高齢25	高齢26	高齢27	FB50(衛生/社歯)
2024/9/14(土)								
2024/9/15(日)								
2024/9/16(月)								
2024/9/17(火)				模試2-1				
2024/9/18(水)				模試2-2				
2024/9/19(木)	後期13	組織17	組織18	生化9	口外40	口外41	口外42	
2024/9/20(金)	後期14	衛生35	衛生36	生理9	矯正25	矯正26	矯正27	
2024/9/21(土)								
2024/9/22(日)								
2024/9/23(月)								
2024/9/24(火)	後期15	放射19	放射20	薬理10	修復28	修復29	修復30	
2024/9/25(水)	後期16	免疫17	免疫18	障害9	冠橋25	冠橋26	冠橋27	
2024/9/26(木)	後期17	生材19	生材20	総医10	口内13	口内14	口内15	国試願書作成説明会
2024/9/27(金)	後期18	衛生37	衛生38	社歯10	高齢28	高齢29	高齢30	
2024/9/28(土)								
2024/9/29(日)								
2024/9/30(月)	後期19	有床35	有床36	医倫9	歯周25	歯周26	歯周27	FB51(管理/麻酔)
2024/10/1(火)	後期20	病理19	病理20	史英5	歯内28	歯内29	歯内30	FB52(薬理/災歎/史英)
2024/10/2(水)	後期21	解剖19	解剖20	イン10	小児28	小児29	小児30	FB53(イン/障害)
2024/10/3(木)	後期22	組織19	組織20	生化10	口外43	口外44	口外45	FB54(総医/生化)
2024/10/4(金)	後期23	衛生39	衛生40	生理10	矯正28	矯正29	矯正30	FB55(生理/高齢)
2024/10/5(土)								
2024/10/6(日)								
2024/10/7(月)	後期24	有床37	有床38	管理10	麻酔28	麻酔29	麻酔30	FB56(歯周/-)
2024/10/8(火)	後期25	放射21	放射22	薬理11	修復31	修復32	修復33	FB57(修復/歯内)
2024/10/9(水)	後期26	免疫19	免疫20	障害10	冠橋28	冠橋29	冠橋30	FB58(小児/冠橋)
2024/10/10(木)	後期27	生材21	生材22	総医11	口外46	口外47	口外48	FB59(口外/口内)
2024/10/11(金)	後期28	衛生41	衛生42	社歯11	高齢31	高齢32	高齢33	FB60(矯正/-)
2024/10/12(土)								
2024/10/13(日)								
2024/10/14(月)								
2024/10/15(火)		実力6-A	実力6-B	実力6-C	実力6-D	実力6-E	実力6-F	
2024/10/16(水)	後期29	解剖21	解剖22	イン11	小児31	小児32	小児33	
2024/10/17(木)	後期30	組織21	組織22	生化11	口内16	口内17	口内18	
2024/10/18(金)	後期31	衛生43	衛生44	生理11	矯正31	矯正32	矯正33	
2024/10/19(土)								
2024/10/20(日)								

日付	朝礼 8:40	1 (8:50-9:50)	2 (10:00-11:00)	3 (11:10-12:10)	4 (13:00-14:00)	5 (14:10-15:10)	6 (15:20-16:20)	7 (16:30-17:00/17:00-17:30)
2024/10/21(月)	後期32	有床39	有床40	医倫10	歯周28	歯周29	歯周30	FB61(有床/医倫)
2024/10/22(火)				模試 3-1				FB62(放射/病理)
2024/10/23(水)				模試 3-2				FB63(解剖/免疫)
2024/10/24(木)	後期33	生材23	生材24	総医12	口外49	口外50	口外51	FB64(生材/組織)
2024/10/25(金)	後期34	衛生45	衛生46	社歯12	高齢34	高齢35	高齢36	FB65(衛生/社歯)
2024/10/26(土)								
2024/10/27(日)								
2024/10/28(月)	後期35	有床41	有床42	管理11	麻酔31	麻酔32	麻酔33	FB66(管理/麻酔)
2024/10/29(火)	後期36	病理21	病理22	歯内31	歯内32	歯内33	歯内34	
2024/10/30(水)	後期37	免疫21	免疫22	障害11	冠橋31	冠橋32	冠橋33	国試願書作成会
2024/10/31(木)	後期38	組織23	組織24	生化12	口外52	口外53	口外54	FB67(総医/生化)
2024/11/1(金)	後期39	衛生47	衛生48	生理12	矯正34	矯正35	矯正36	FB68(生理/高齢)
2024/11/2(土)								FB69(イン/障害)
2024/11/3(日)								
2024/11/4(月)								
2024/11/5(火)	後期40	放射23	放射24	薬理12	修復34	修復35	修復36	FB70(薬理/歯周/史英)
2024/11/6(水)	後期41	解剖23	解剖24	イン12	小児34	小児35	小児36	FB71(小児/冠橋)
2024/11/7(木)		模試 4-1						FB72(口外/歯内)
2024/11/8(金)		模試 4-2						FB73(矯正/-)
2024/11/9(土)								
2024/11/10(日)								
2024/11/11(月)	後期42	有床43	有床44	医倫11	歯周31	歯周32	歯周33	FB74(歯周/-)
2024/11/12(火)	後期43	病理23	病理24	史英6	歯内34	歯内35	歯内36	FB75(修復/歯内)
2024/11/13(水)	後期44	免疫23	免疫24	障害12	冠橋34	冠橋35	冠橋36	FB76(イン/障害)
2024/11/14(木)		卒試 1-A		卒試 1-B				
2024/11/15(金)		卒試 1-C		卒試 1-D				
2024/11/16(土)								
2024/11/17(日)								
2024/11/18(月)	後期45	有床45	有床46	管理12	麻酔34	麻酔35	麻酔36	
2024/11/19(火)	後期46	放射25	放射26	薬理13	修復37	修復38	修復39	
2024/11/20(水)	後期47	解剖25	解剖26	イン13	小児37	小児38	小児39	
2024/11/21(木)	後期48	生材25	生材26	総医13	口外55	口外56	口外57	
2024/11/22(金)	後期49	衛生49	衛生50	社歯13	高齢37	高齢38	高齢39	
2024/11/23(土)								
2024/11/24(日)								
2024/11/25(月)	後期50	有床47	有床48	医倫12	歯周34	歯周35	歯周36	
2024/11/26(火)	後期51	病理25	病理26	歯周7	歯内37	歯内38	歯内39	
2024/11/27(水)	後期52	免疫25	免疫26	障害13	冠橋37	冠橋38	冠橋39	
2024/11/28(木)	後期53	組織25	組織26	生化13	口外58	口外59	口外60	
2024/11/29(金)	後期54	衛生51	衛生52	生理13	矯正37	矯正38	矯正39	
2024/11/30(土)								
2024/12/1(日)								
2024/12/2(月)	後期55	有床49	有床50	管理13	麻酔37	麻酔38	麻酔39	
2024/12/3(火)	後期56	放射27	放射28	薬理14	修復40	修復41	修復42	
2024/12/4(水)	後期57	解剖27	解剖28	イン14	小児40	小児41	小児42	
2024/12/5(木)	後期58	生材27	生材28	総医14	口内19	口内20	口内21	
2024/12/6(金)	後期59	衛生53	衛生54	社歯14	高齢40	高齢41	高齢42	
2024/12/7(土)								
2024/12/8(日)								
2024/12/9(月)	後期60	有床51	有床52	医倫13	歯周37	歯周38	歯周39	
2024/12/10(火)	後期61	病理27	病理28	史英7	歯内40	歯内41	歯内42	
2024/12/11(水)	後期62	免疫27	免疫28	障害14	冠橋40	冠橋41	冠橋42	
2024/12/12(木)	後期63	組織27	組織28	生化14	口外61	口外62	口外63	
2024/12/13(金)	後期64	衛生55	衛生56	生理14	矯正40	矯正41	矯正42	
2024/12/14(土)								
2024/12/15(日)								
2024/12/16(月)	後期65	有床53	有床54	管理14	麻酔40	麻酔41	麻酔42	
2024/12/17(火)		卒試 2-A		卒試 2-B				
2024/12/18(水)		卒試 2-C		卒試 2-D				
2024/12/19(木)		模試 5-1						
2024/12/20(金)		模試 5-2						
2024/12/21(土)								
2024/12/22(日)								
2024/12/23(月)	後期66	有床55	有床56	医倫14	歯周40	歯周41	歯周42	
2024/12/24(火)		模試 6-1						
2024/12/25(水)		模試 6-2						
2024/12/26(木)								
2024/12/27(金)								
2024/12/28(土)								

日付	朝礼 8:40	1 (8:50-9:50)	2 (10:00-11:00)	3 (11:10-12:10)	4 (13:00-14:00)	5 (14:10-15:10)	6 (15:20-16:20)	7 (16:30-17:00/17:00-17:30)
2024/12/29(日)								
2024/12/30(月)								
2024/12/31(火)								
2025/1/1(水)								
2025/1/2(木)								
2025/1/3(金)								
2025/1/4(土)								
2025/1/5(日)								
2025/1/6(月)								
2025/1/7(火)								
2025/1/8(水)		卒試3-A		卒試3-B				
2025/1/9(木)		卒試3-C		卒試3-D				
2025/1/10(金)	冬期強化講義1	冬期強化講義2	冬期強化講義3					
2025/1/11(土)	冬期強化講義4	冬期強化講義5	冬期強化講義6					
2025/1/12(日)	冬期強化講義7	冬期強化講義8	冬期強化講義9					
2025/1/13(月)								
2025/1/14(火)	冬期強化講義10	冬期強化講義11	冬期強化講義12					
2025/1/15(水)	冬期強化講義13	冬期強化講義14	冬期強化講義15					
2025/1/16(木)	冬期強化講義16	冬期強化講義17	冬期強化講義18					
2025/1/17(金)	卒業予定者発表							
2025/1/18(土)								
2025/1/19(日)								
2025/1/20(月)	冬期強化講義19	冬期強化講義20	冬期強化講義21					
2025/1/21(火)	冬期強化講義22	冬期強化講義23	冬期強化講義24					
2025/1/22(水)	冬期強化講義25	冬期強化講義26	冬期強化講義27					
2025/1/23(木)	冬期強化講義28	冬期強化講義29	冬期強化講義30					
2025/1/24(金)	冬期強化講義31	冬期強化講義32	冬期強化講義33					
2025/1/25(土)								
2025/1/26(日)								
2025/1/27(月)	冬期強化講義34	冬期強化講義35	冬期強化講義36					
2025/1/28(火)	冬期強化講義37	冬期強化講義38	冬期強化講義39					
2025/1/29(水)	冬期強化講義40	冬期強化講義41	冬期強化講義42					
2025/1/30(木)	冬期強化講義43	冬期強化講義44	冬期強化講義45					
2025/1/31(金)	国家試験出発日(未定)							
2025/2/1(土)	第118回 歯科医師国家試験 1日目(未定)							
2025/2/2(日)	第118回 歯科医師国家試験 2日目(未定)							

歯学教育モデル・コア・カリキュラム

令和4年度改訂版



https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/116/toushin/mext_01280.html

モデル・コア・カリキュラム改定に関する連絡調整委員会

歯科医師国家試験出題基準

令和5年版

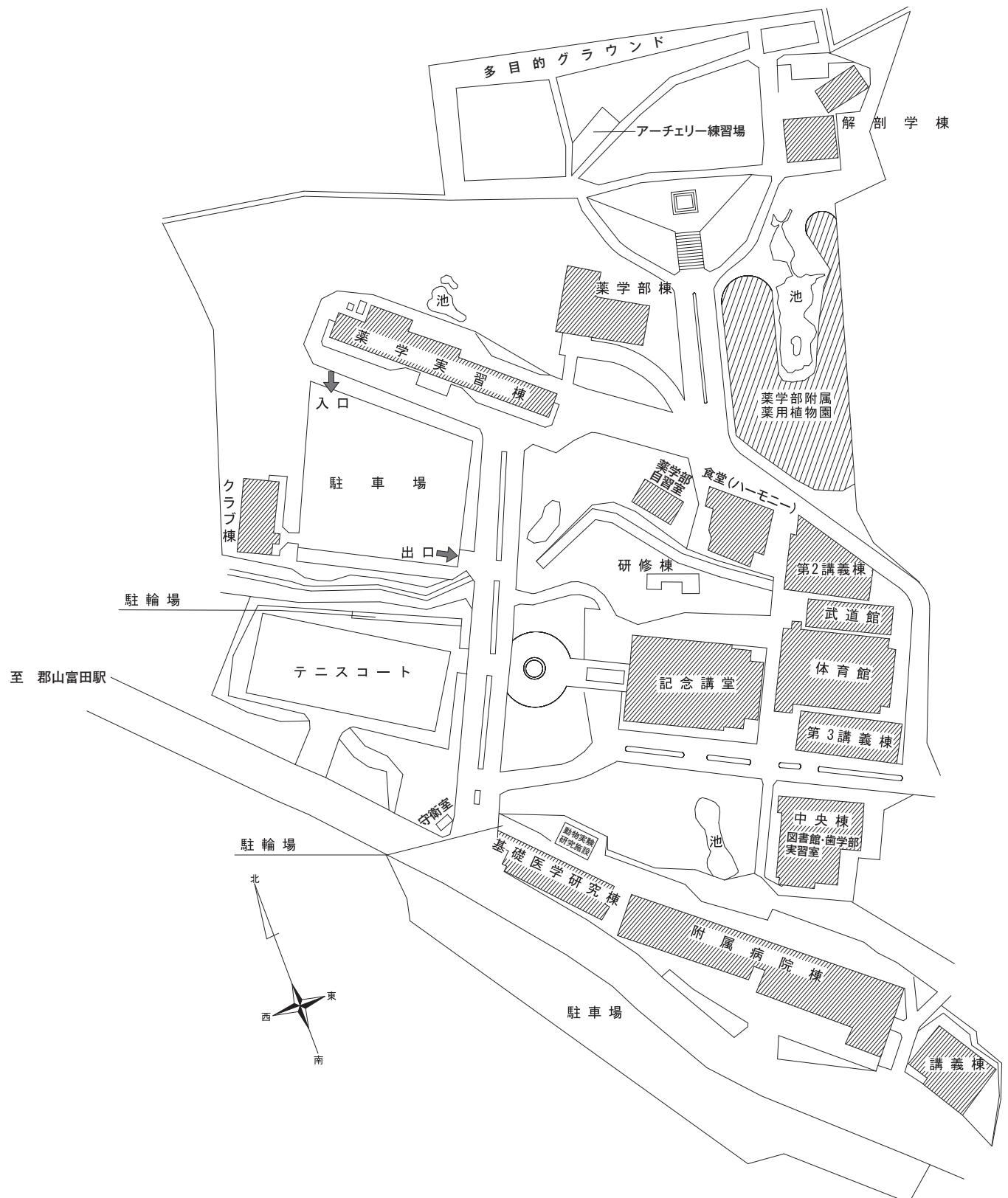


https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000163627_00002.html

厚生労働省医政局歯科保健課

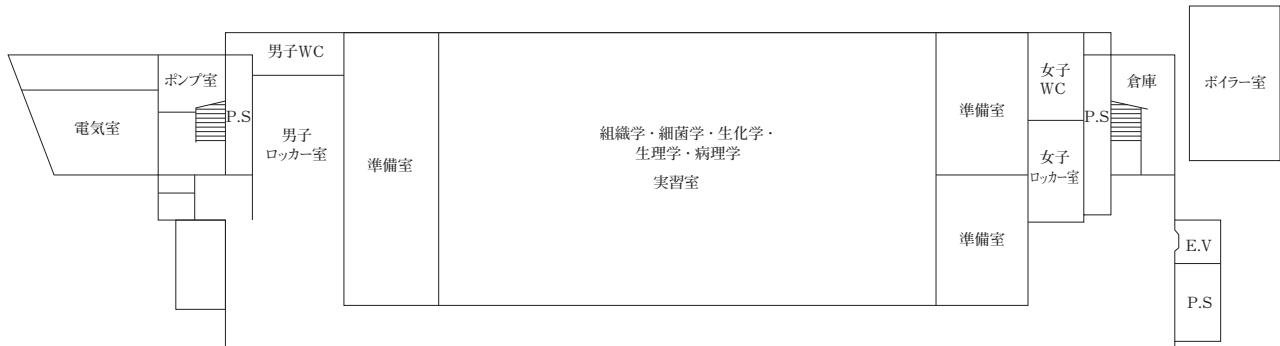
IV. 構内案内図

1. 構内案内図

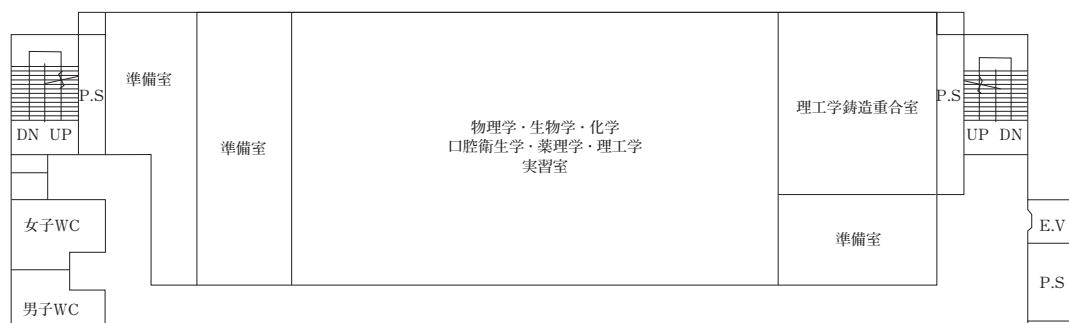


2. 基礎医学研究棟案内図

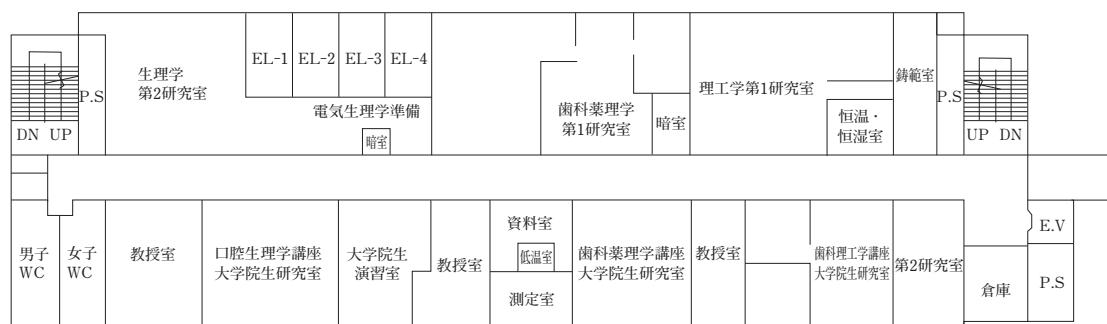
1階



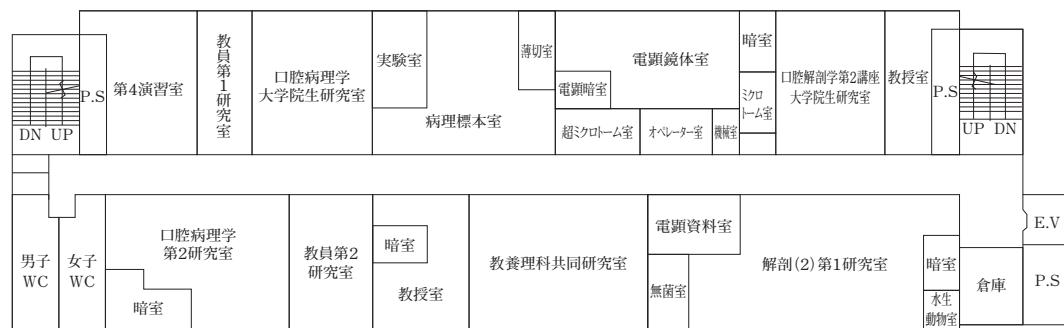
2階



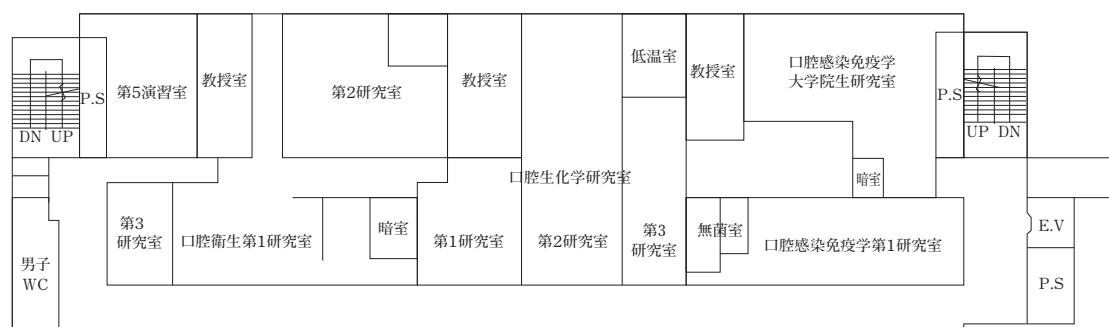
3階



4階

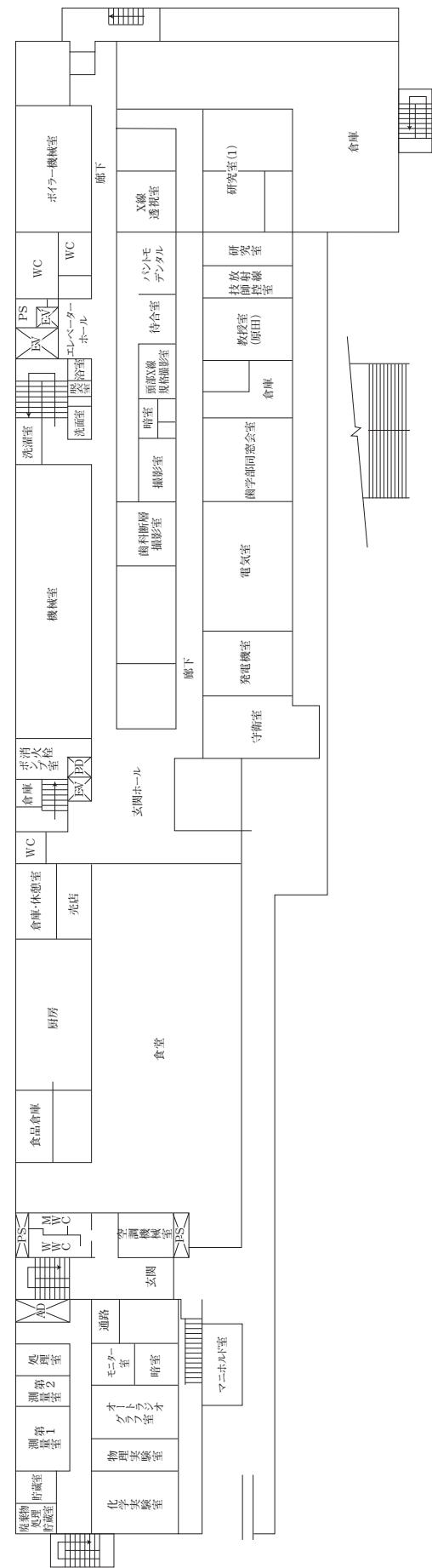


5階

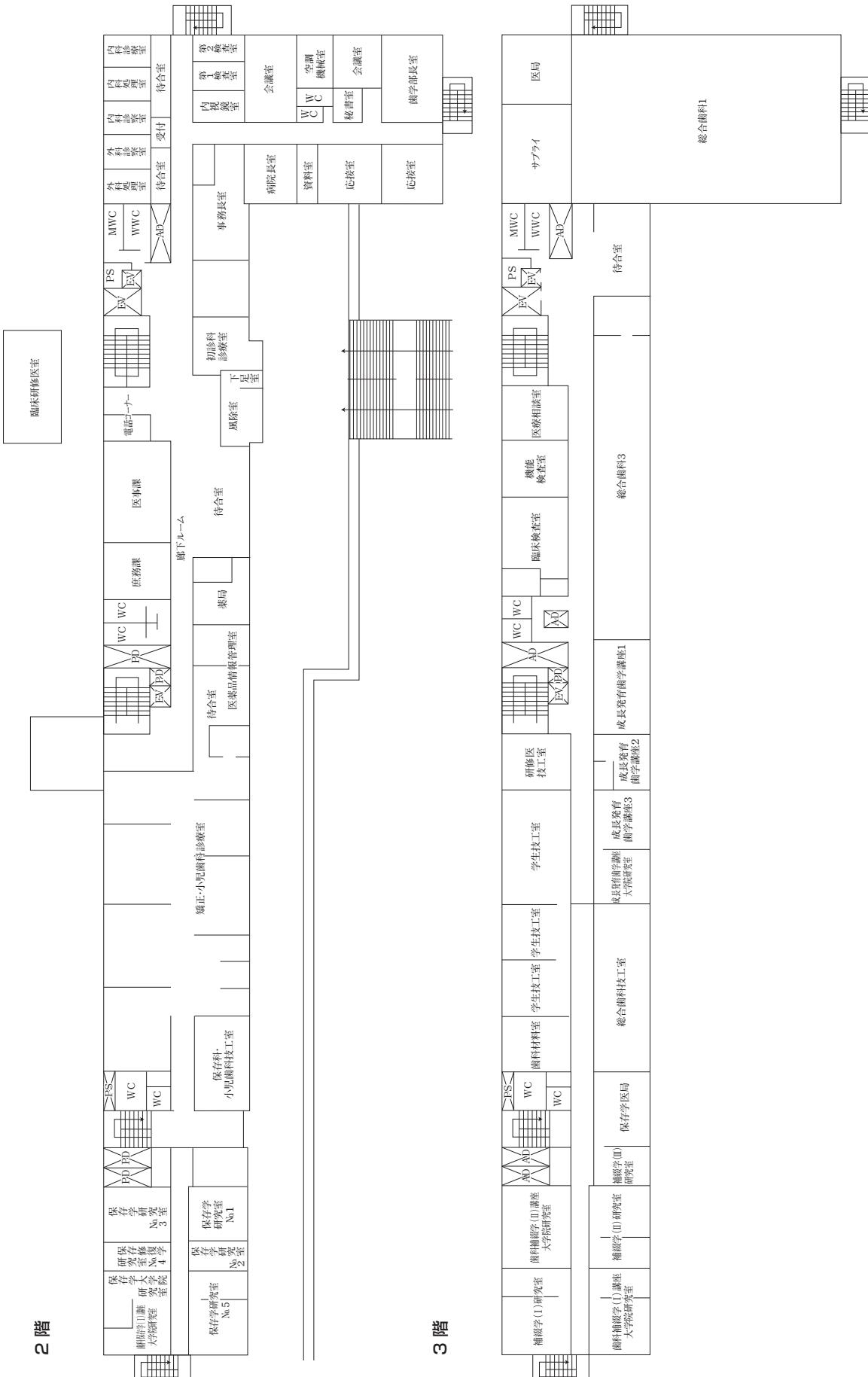


3. 附属病院棟 案内図

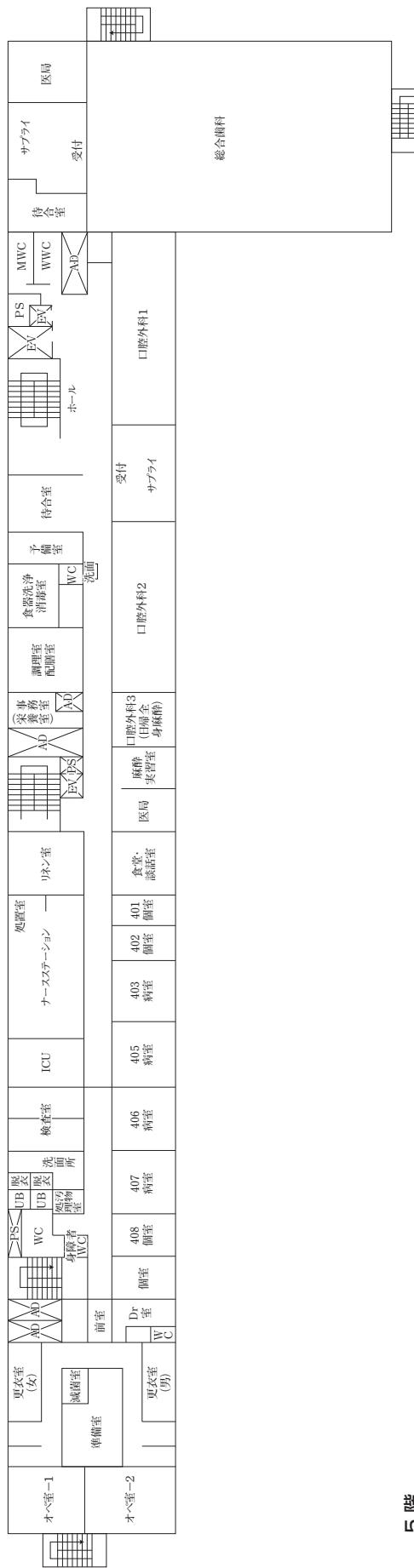
1 階



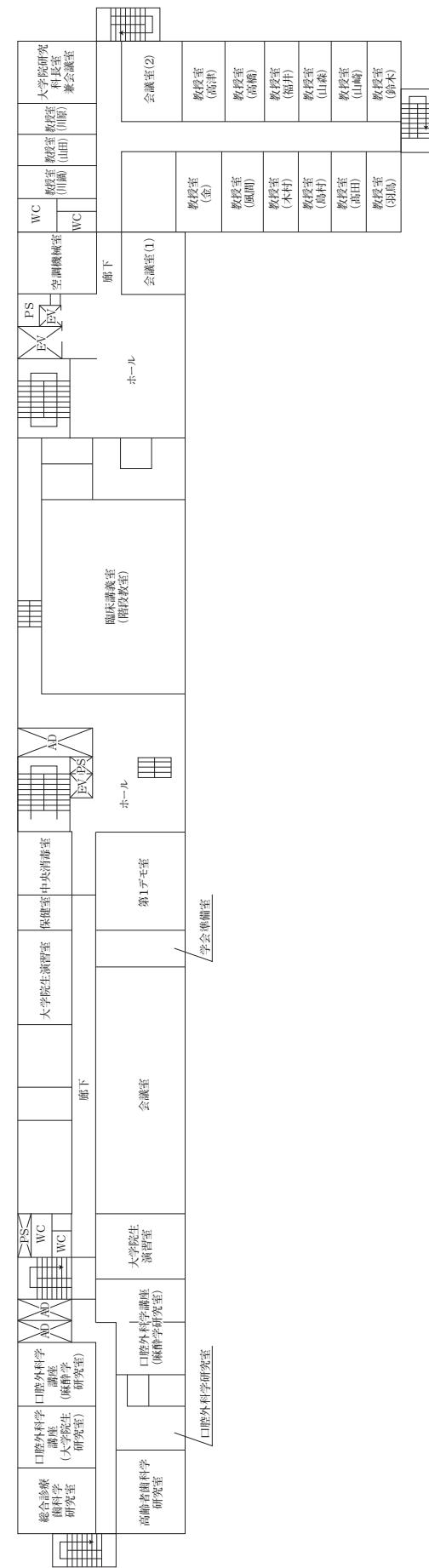
2 階



4 階

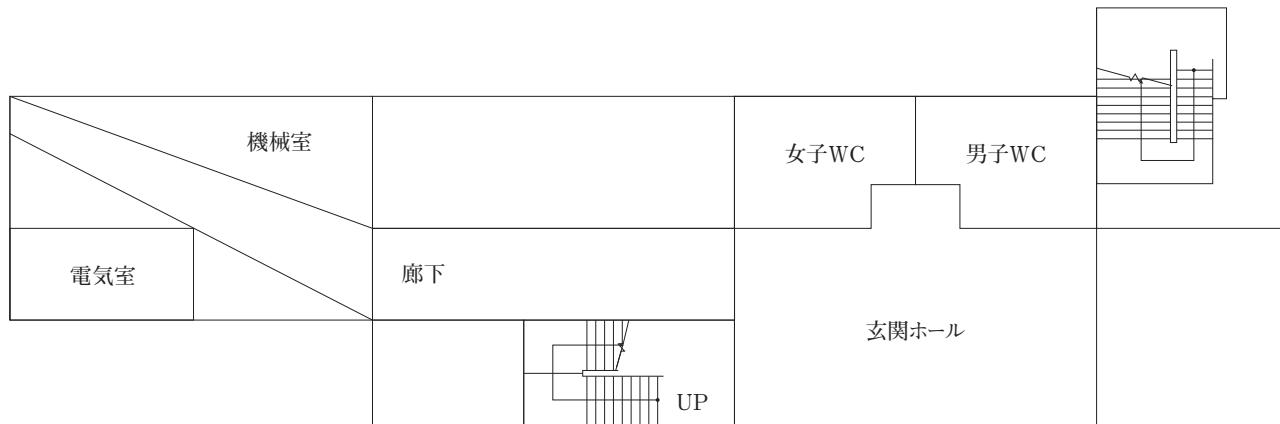


5

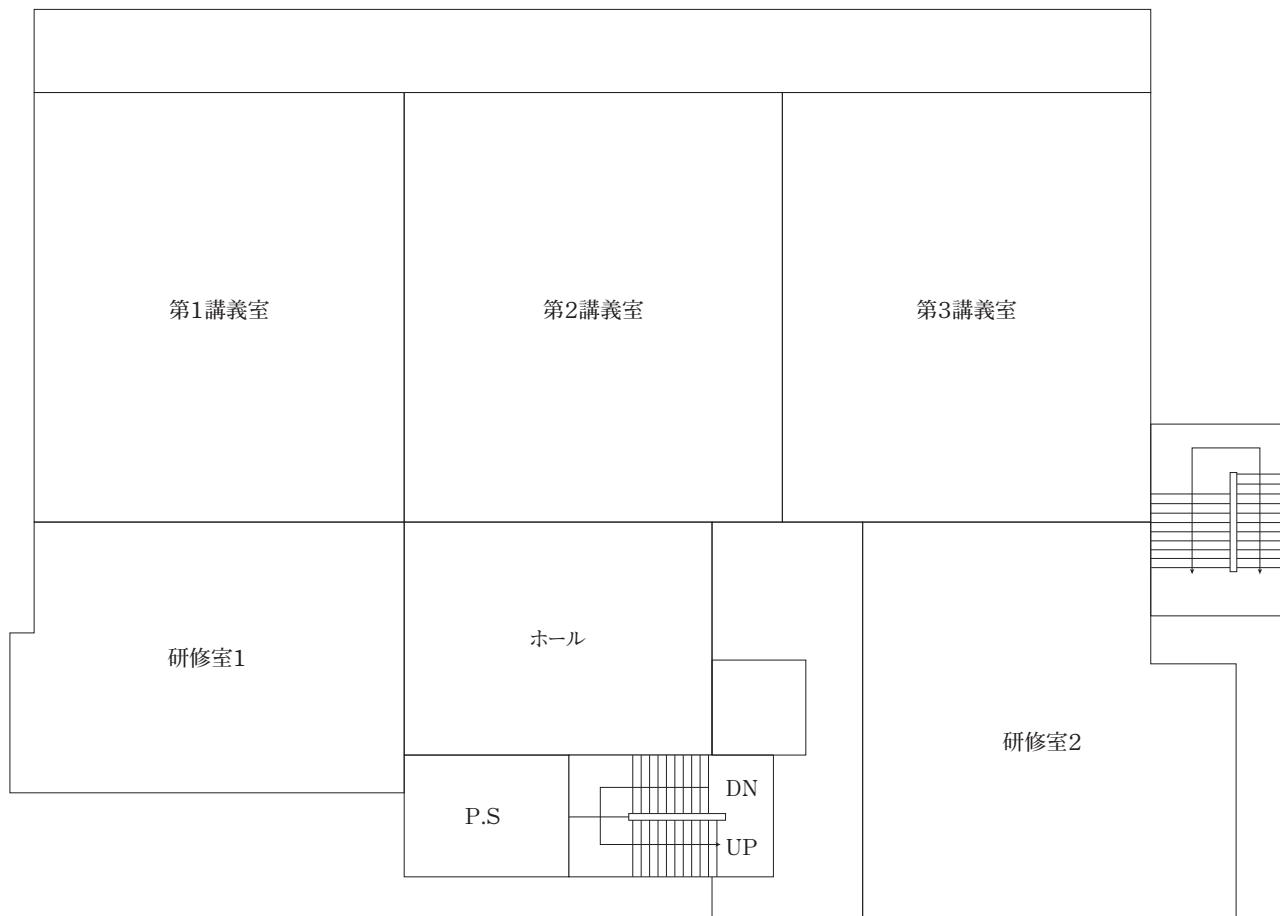


4. 講義棟案内図

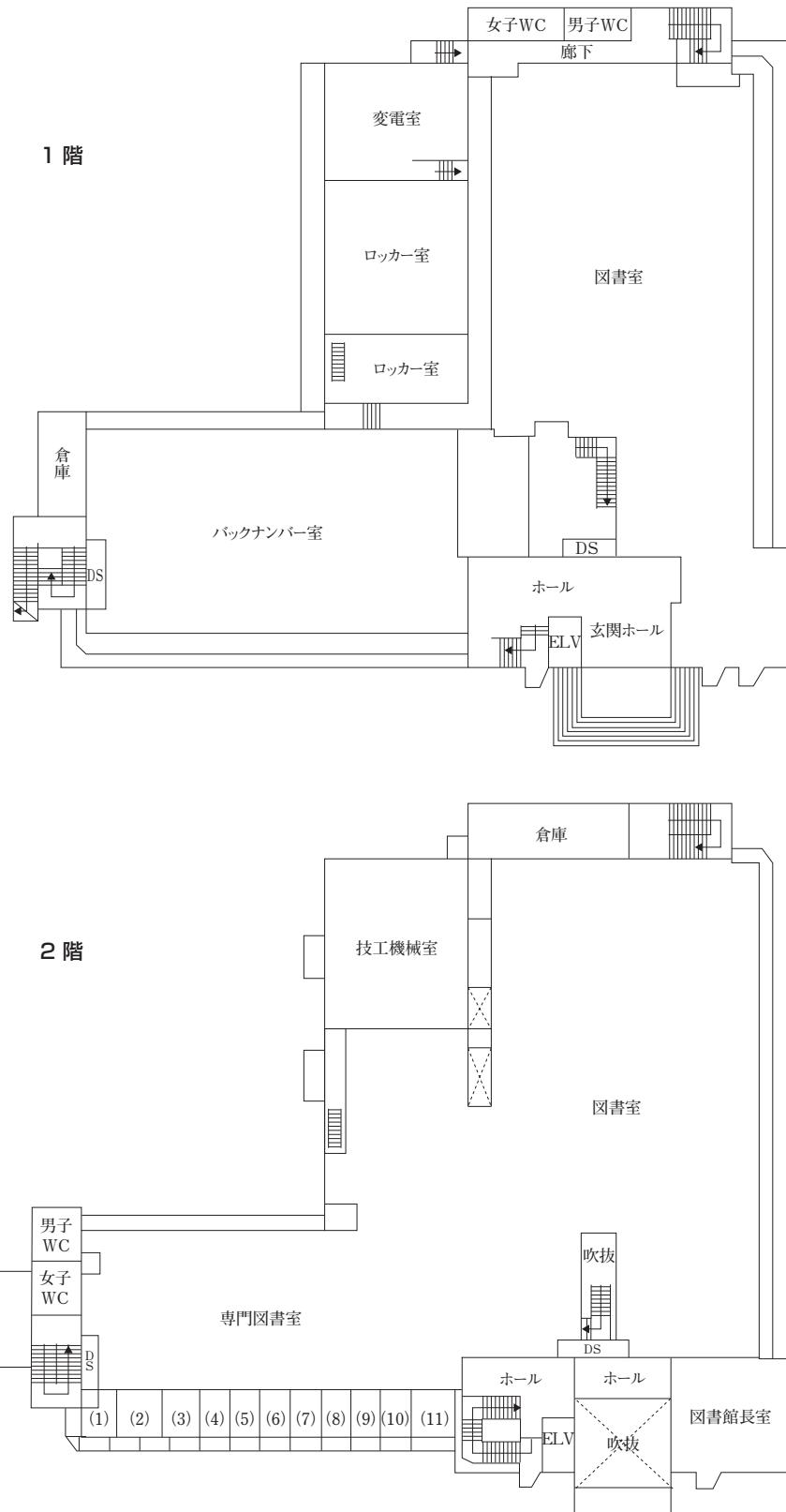
1階

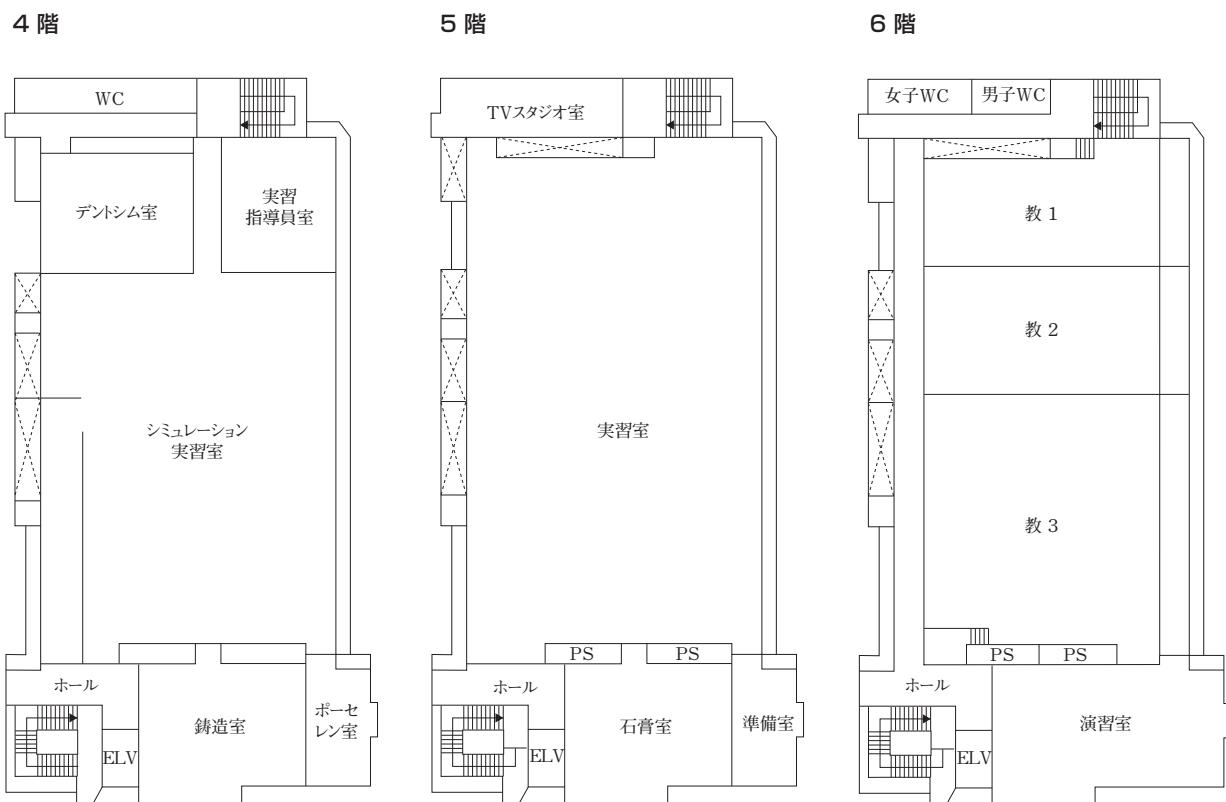
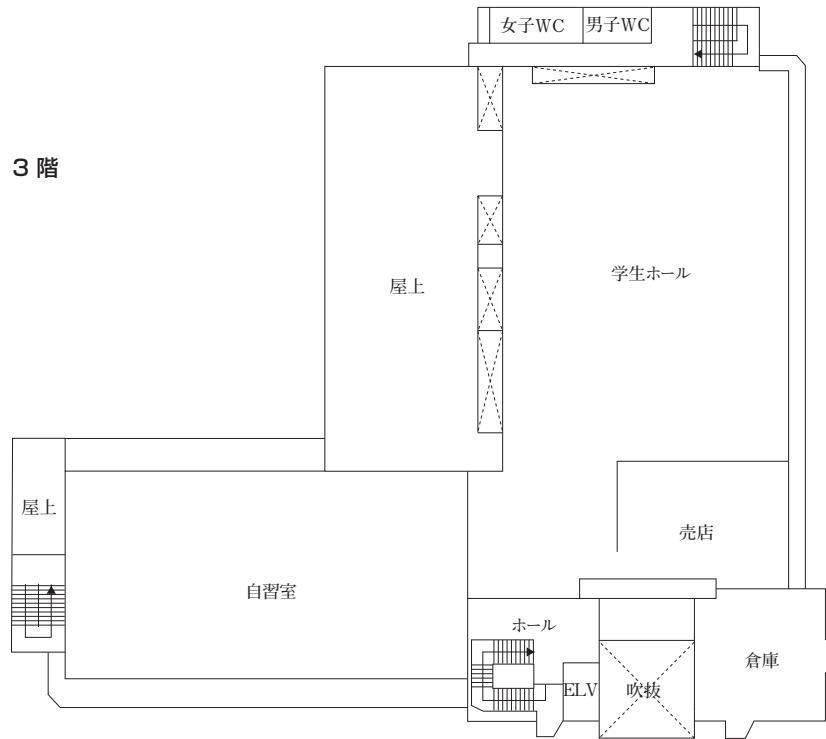


2階



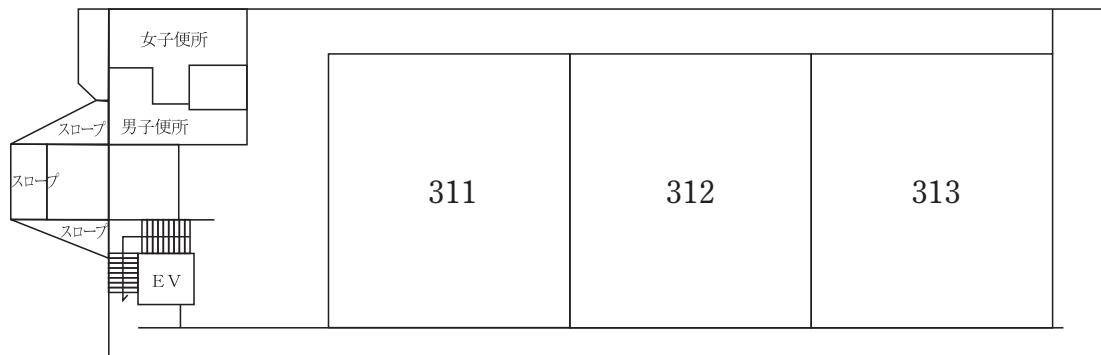
5. 中央棟案内図



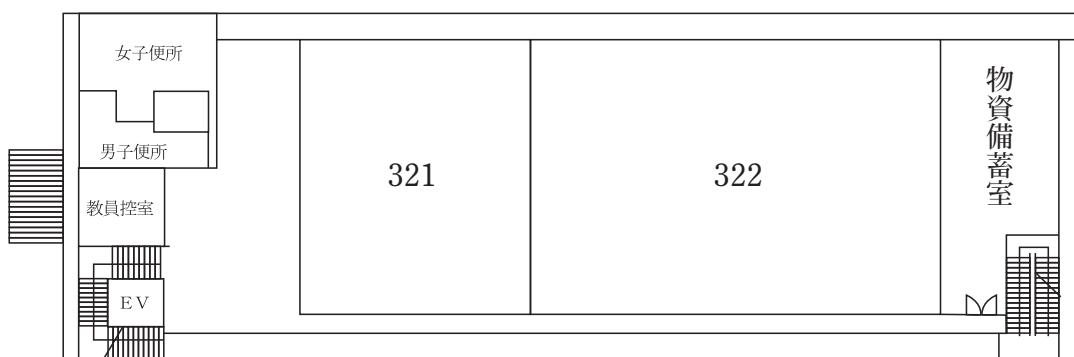


6. 第3講義棟案内図

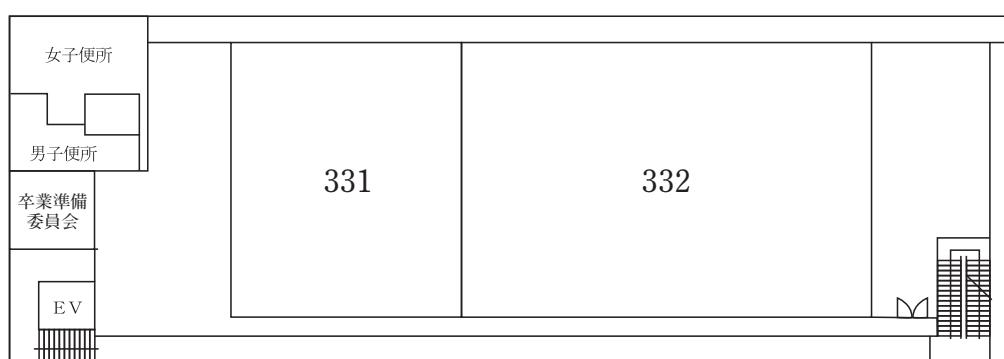
1階



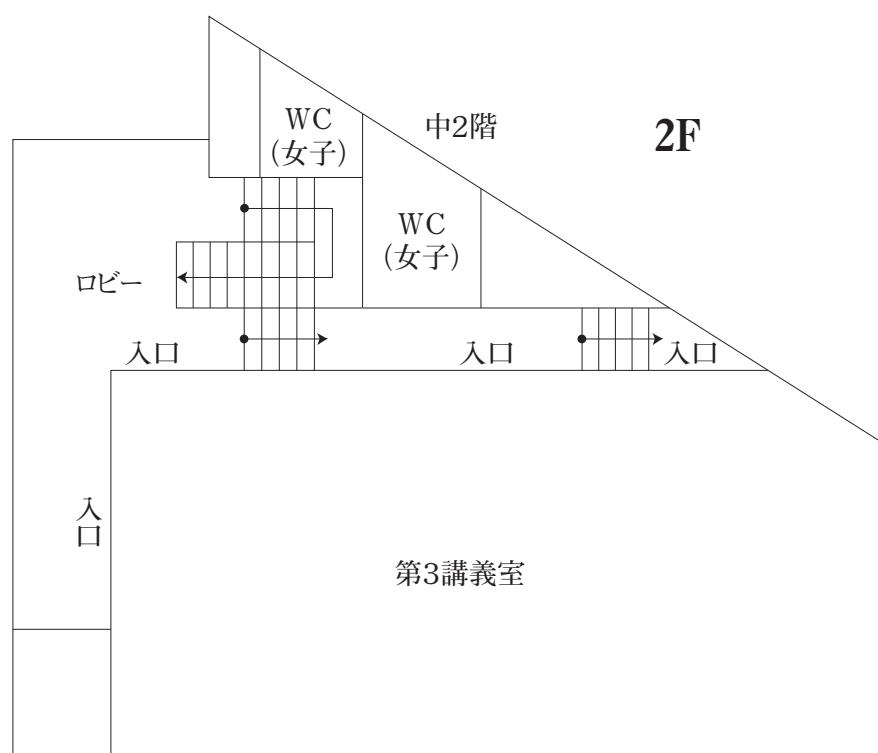
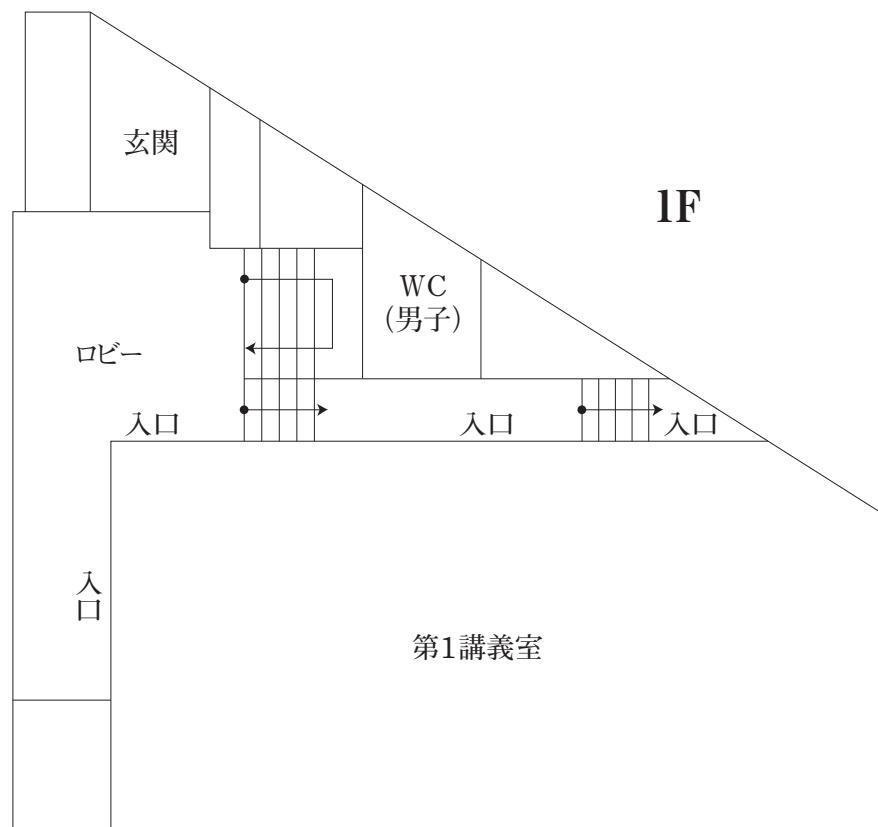
2階



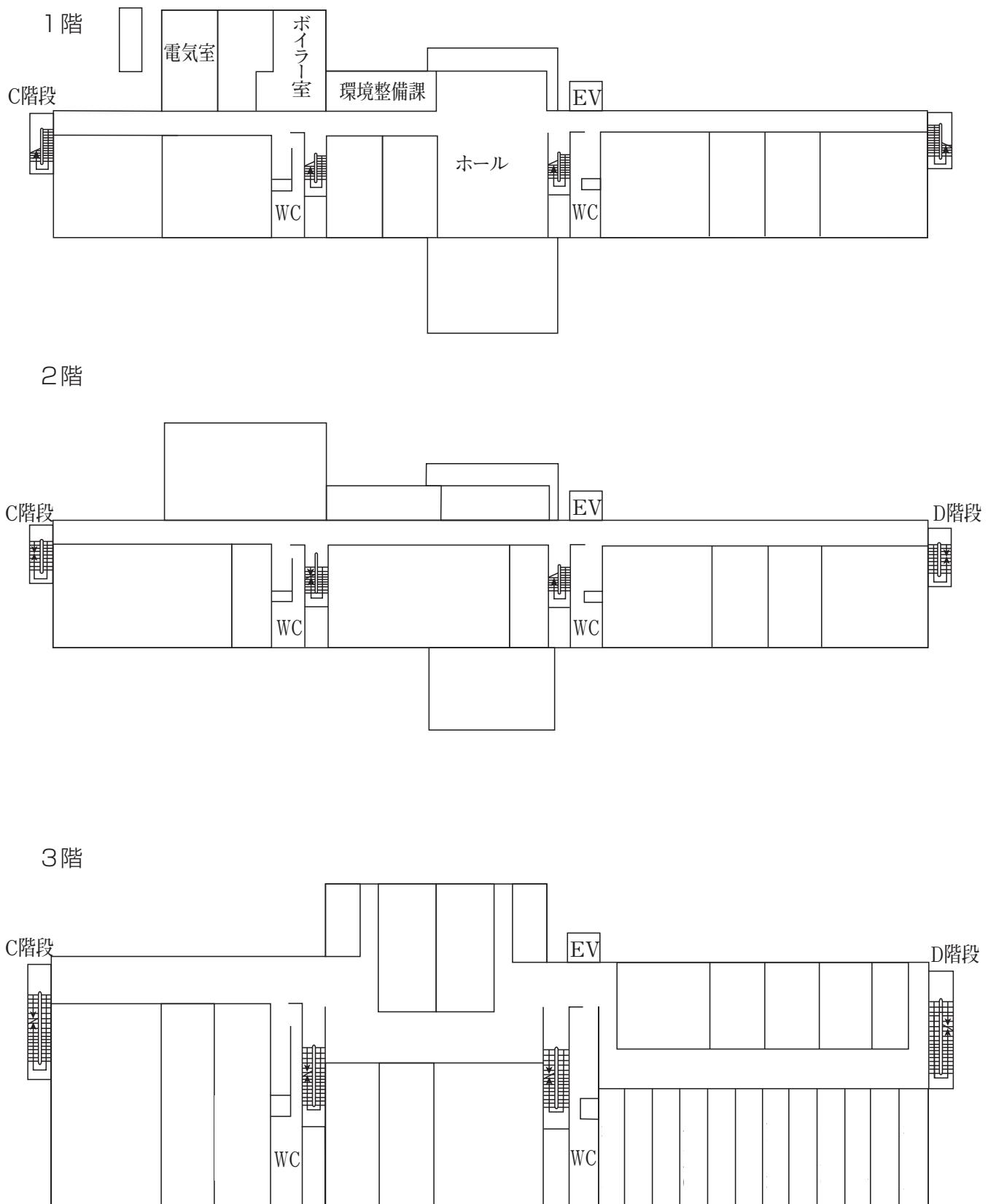
3階



7. 第2講義棟案内図

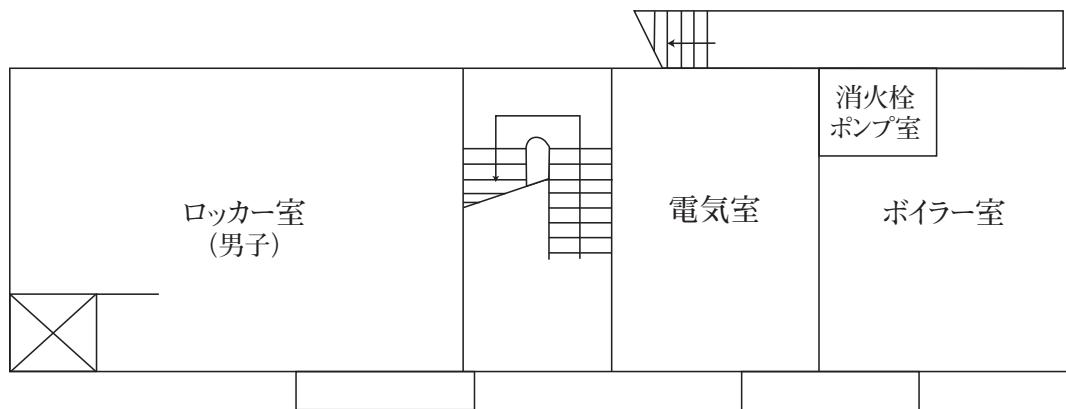


8. 薬学実習棟案内図

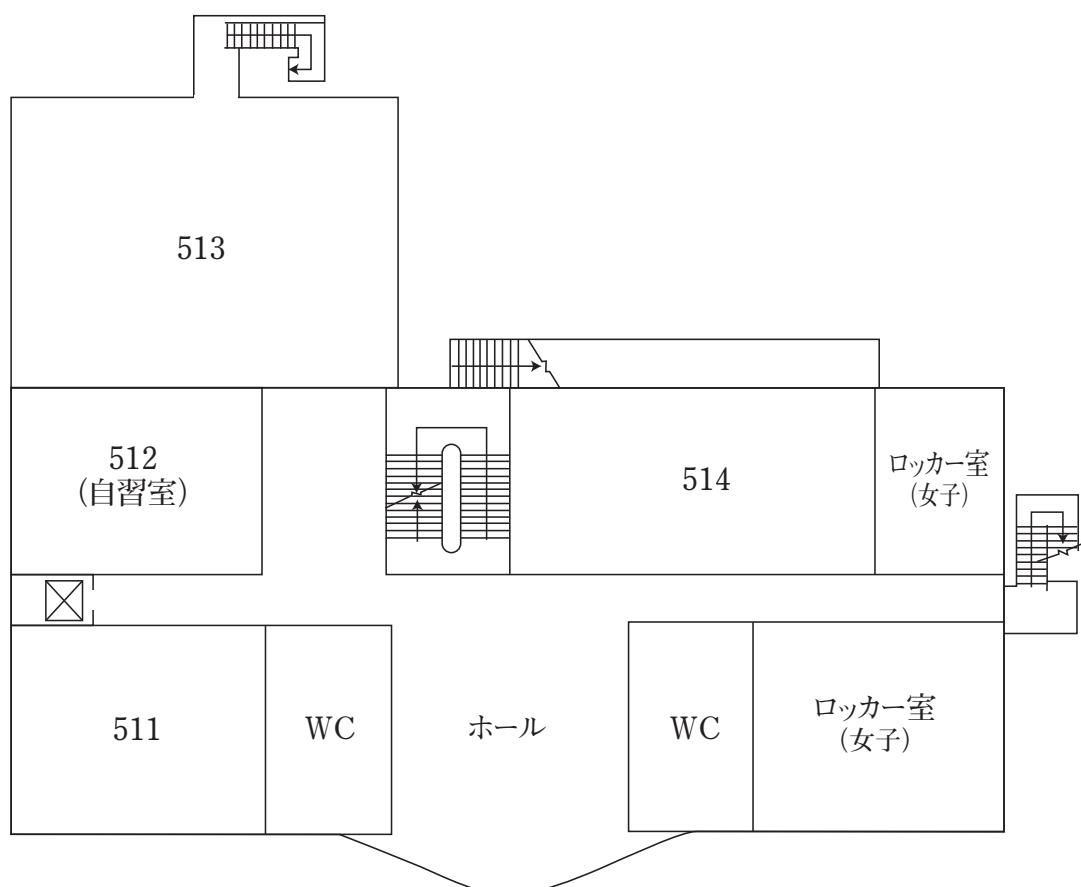


9. 薬学部棟案内図

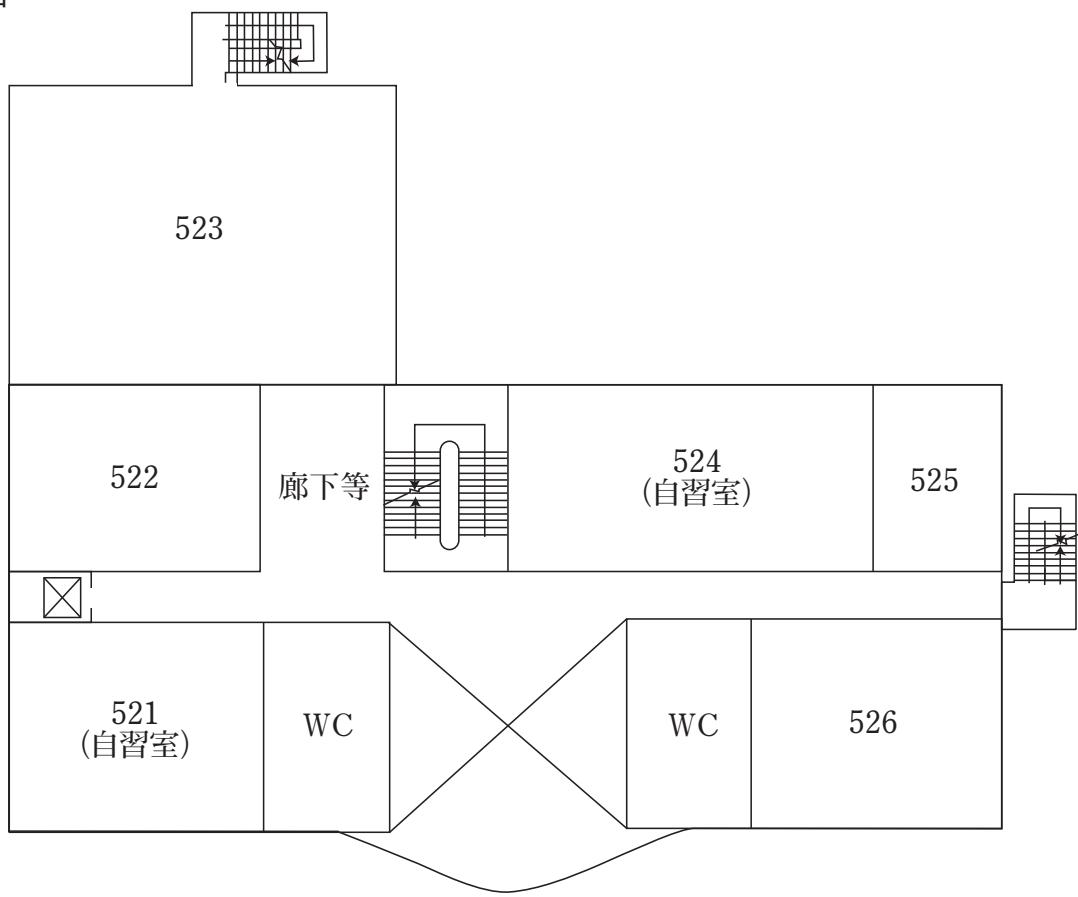
B 1階



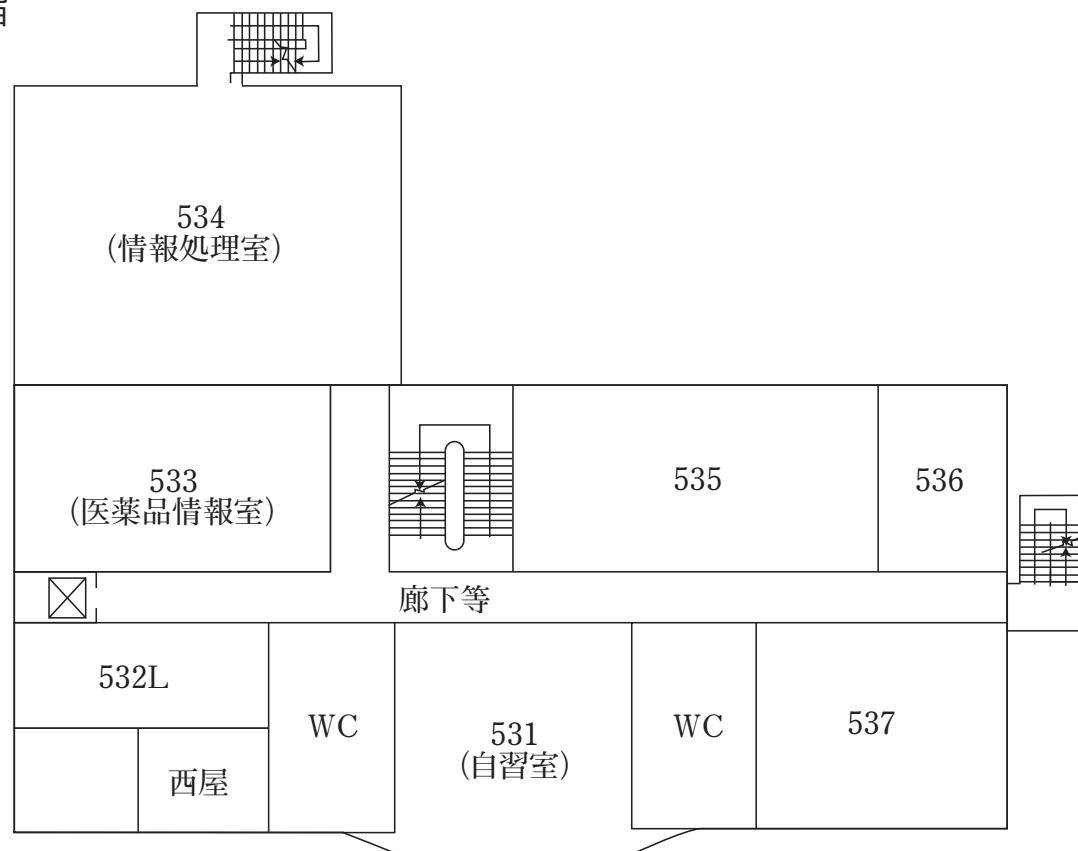
1階



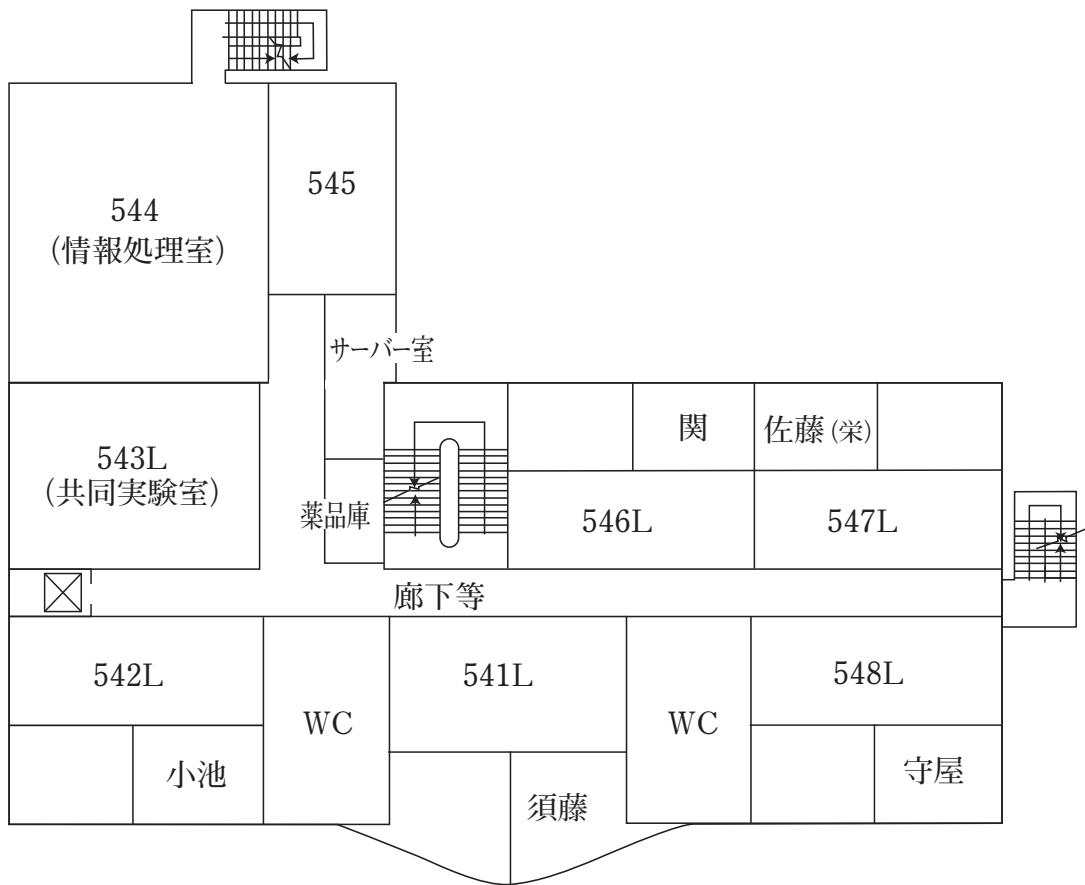
2階



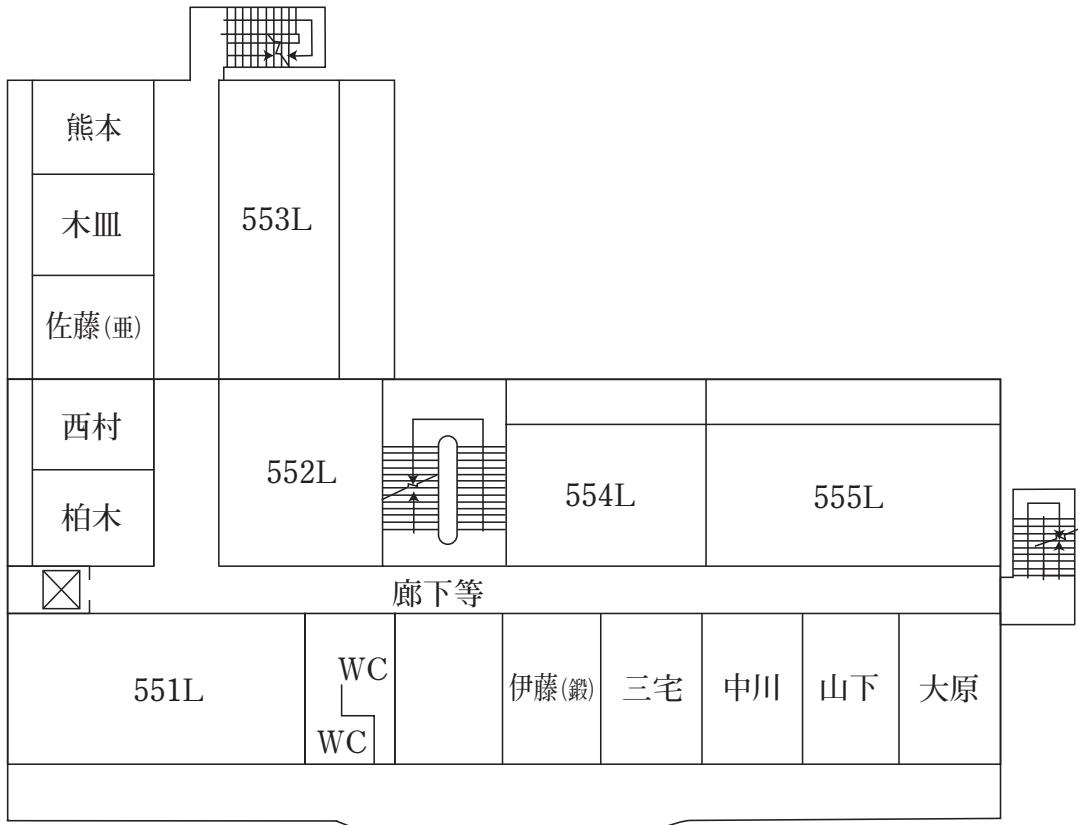
3階



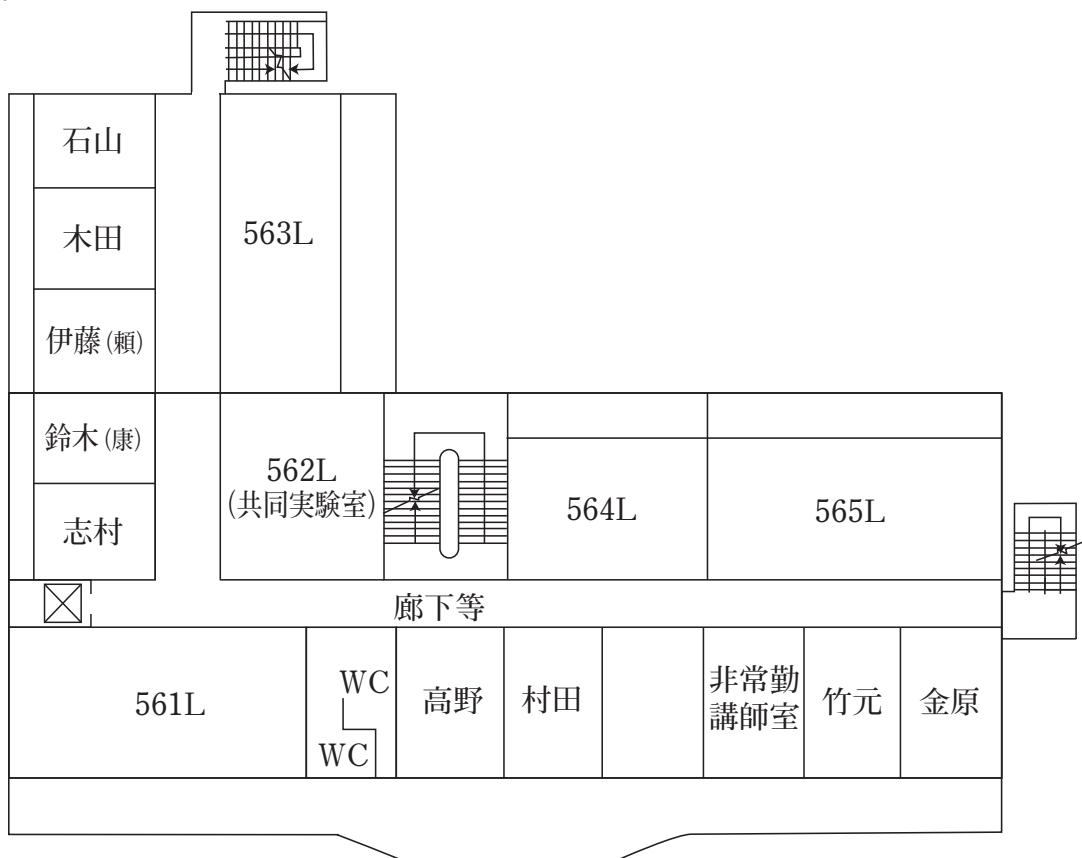
4階



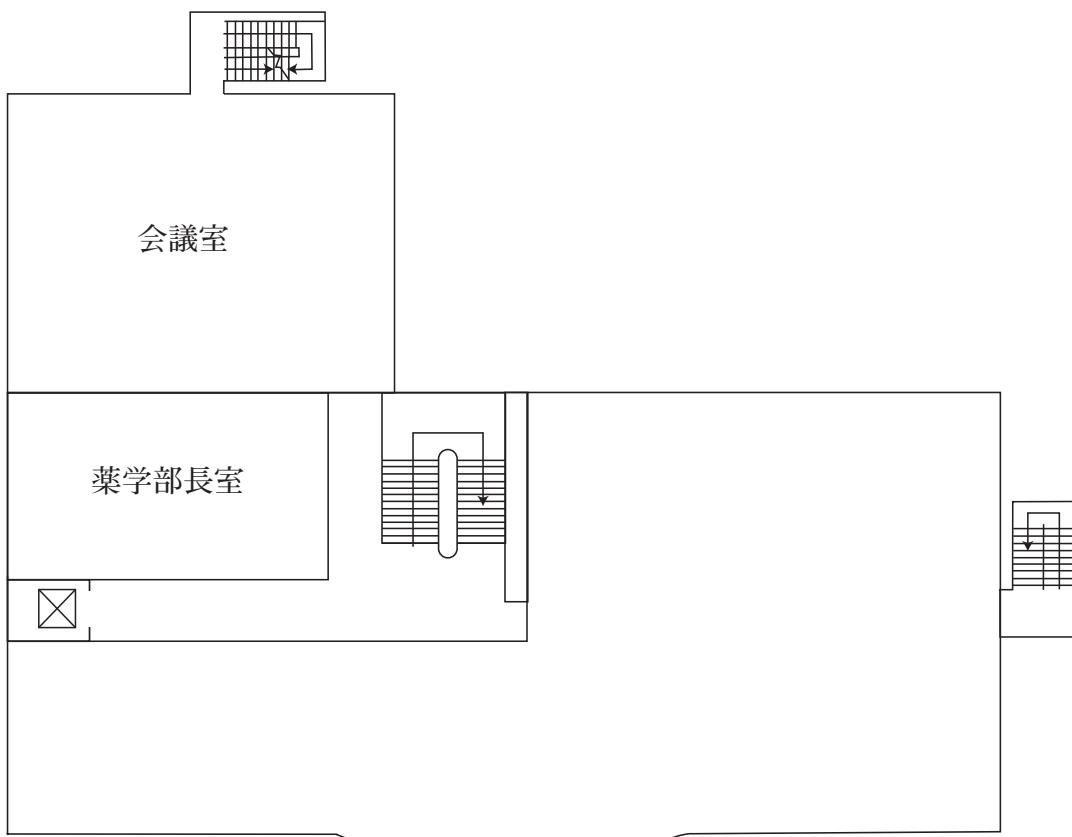
5階



6 階



7 隊





本誌は環境にやさしい植物油インキを使用しています